

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37

令和2年度発掘調査報告

(第1分冊)

若宮大路周辺遺跡群

公方屋敷跡

名越ヶ谷遺跡

材木座町屋遺跡

若宮大路周辺遺跡群

長谷小路周辺遺跡

令和3年3月

鎌倉市教育委員会



若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目 1083 番 1 地点）I 区①面 豎穴 2
北側斜面出土 鉄製縫い針



若宮大路周辺遺跡群（大町一丁目 1083 番 1 地点）I 区①面 豎穴 2
北側斜面出土 銅製錫杖先端部

ご あ い さ つ

本市は、市域の6割以上が周知の埋蔵文化財包蔵地であり、遺跡が眠る土地の上で多くの市民が生活を送っています。そのため、家屋や店舗の新築や建替え等に伴い、遺跡に影響を及ぼす工事が行われることも多くあります。このように、私たちが日々の生活を送っていく上でやむを得ず失われる埋蔵文化財について、記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅の建築等に係る発掘調査を実施しています。本書は平成23・24・26・28～30年度・令和元年度に実施した、個人専用住宅の建築等に伴う発掘調査12か所の調査記録を掲載しています。

本書に収めたひとつひとつの調査成果は様々な内容ですが、いずれも武家政権発祥の地であり、今もその歴史を継承し、文化を発信する鎌倉の貴重な文化遺産です。これらの成果を広く知っていただくとともに、研究資料として活用されることを願って止みません。

最後になりましたが、発掘調査の実施にあたっては、関係者の皆様に深いご理解を賜るとともに、さまざまなご協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

令和3年3月26日
鎌倉市教育委員会

例 言

- 1 本書は令和2年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第1分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

第1分冊 目次

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成23・24・26・28～30年度・令和元年度発掘調査地点一覧	V
令和2年度調査の概観	VI
調査地点位置図	VII

1 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 小町一丁目 331 番 1 地点

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果	5
第二章 調査の方法と経過	7
第三章 基本土層	9
第四章 検出遺構と出土遺物	11
第五章 調査成果のまとめ	74

2 公方屋敷跡 (No. 268) 浄明寺四丁目 292 番 1 地点

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	93
第二章 発見された遺構と遺物	101
第三章 まとめ	132

3 名越ヶ谷遺跡 (No. 231) 大町四丁目 2370 番 2 の一部地点

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	175
第二章 発見された遺構と遺物	182
第三章 考察とまとめ	201

4 材木座町屋遺跡 (No. 261) 材木座六丁目 647 番 3 の一部地点

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	207
第二章 発見された遺構と遺物	233
第三章 考察とまとめ	259
第四章 材木座町屋遺跡の花粉分析とプラントオパール分析	271

5 若宮大路周辺遺跡群 (No. 241) 大町一丁目 1083 番 1 地点

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果	290
第二章 調査の方法と経過	293
第三章 基本土層	295
第四章 発見された遺構と遺物	297

第五章	若宮大路周辺遺跡群出土石材の蛍光X線分析	320
第六章	調査成果のまとめ	322
6	長谷小路周辺遺跡 (No. 236) 長谷二丁目 274 番 1 の一部、274 番 2、275 番 6 地点	
第一章	調査地点の位置と歴史的環境	337
第二章	発見された遺構と遺物	343
第三章	考察とまとめ	370

第1・2分冊掲載の平成23・24・26・28～30年度・令和元年度発掘調査地点一覧

第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町一丁目331番1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市 城館跡	61.50	平成24年3月21日 ～平成24年5月31日
2	公方屋敷跡 (No. 268)	浄明寺四丁目292番1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡	86.00	平成25年3月1日 ～平成25年5月24日
3	名越ヶ谷遺跡 (No. 231)	大町四丁目2370番2の一部	個人専用住宅 (表層改良工事)	城館跡	29.66	平成29年1月11日 ～平成29年3月8日
4	材木座町屋遺跡 (No. 261)	材木座六丁目647番3の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	44.20	平成29年7月3日 ～平成29年9月13日
5	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	大町一丁目1083番1	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市 城館跡	94.56	平成30年7月9日 ～平成30年9月14日
6	長谷小路周辺遺跡 (No. 236)	長谷二丁目274番1の一部、 274番2、275番6	個人専用住宅 (基礎工事)	都市 城館跡	69.00	平成30年12月17日 ～平成31年1月25日

第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
7	若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)	小町一丁目324番4	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市 城館跡	67.00	平成26年6月9日 ～平成26年9月19日
8	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目163番1	個人専用住宅 (杭工事)	都市 城館跡	216.79	平成28年11月1日 ～平成29年3月16日
9	横小路周辺遺跡 (No. 259)	二階堂字荏柄81番1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	68.25	平成29年9月4日 ～平成29年12月1日
10	山ノ内上杉邸跡 (No. 170)	山ノ内字西管領屋敷344番5	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺跡	65.00	平成29年10月30日 ～平成30年2月7日
11	横小路周辺遺跡 (No. 259)	二階堂字荏柄26番イの一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	城館跡	34.77	平成30年10月15日 ～平成30年12月7日
12	多宝寺跡 (No. 187)	扇ガ谷二丁目260番1	個人専用住宅 (基礎工事)	社寺跡 散布地	74.90	令和元年6月12日 ～令和元年7月24日

令和2年度調査の概観

令和2年度の緊急調査実施件数は5件であり、調査面積は400.43㎡であった。これを前年度の3件、278.78㎡と比較してみると件数が2件増加し、調査面積も121.65㎡の増加となる。ただし、このうち、1件は令和元年度から継続してきた調査で、1件は令和3年度に継続する予定の調査である。

調査原因は4件が個人専用住宅、1件が集合住宅の建設である。これらの工種別内訳は、柱状改良工事が4件、鋼管杭工事が1件となっている。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。(調査面積及び調査期間等については「令和2年度発掘調査地点一覧」を参照のこと。)

1 武蔵大路周辺遺跡 (No. 194)

扇ガ谷三丁目に所在し、薬王寺から南へ約100mに位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀後半～14世紀前半を中心とする遺構面が確認され、道路、井戸、木組み遺構等が検出されている。遺物はかわらけ、国産陶器、金属製品、木製品、漆器等が出土している。

2 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

小町一丁目に所在し、鎌倉駅から南東へ約272mに位置している。3と隣接する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀前半から15世紀にかけての生活面を確認し、柱穴、竪穴建物、土坑、溝、井戸を確認した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、金属製品、石製品、木製品、骨角器、馬骨等が出土している。

3 若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

小町一丁目に所在し、鎌倉駅から南東へ約272mに位置している。2と隣接する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀前半から15世紀にかけての生活面を確認し、柱穴、竪穴建物、土坑、溝が検出されている。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、金属製品、木製品、骨角器等が出土している。

4 佐助ヶ谷遺跡 (No. 203)

佐助一丁目に所在し、鎌倉税務署から南東へ約95mに位置している。鋼管杭工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、13世紀後半～14世紀前半を中心とする遺構面が確認され、竪穴建物、溝、土坑、柱穴構等が検出されている。遺物はかわらけ、国産陶器、金属製品、木製品、漆器、獣骨、等が出土している。

5 鎌倉城 (No. 87)

極楽寺一丁目に所在し、極楽寺駅から南へ約333mに位置している。地盤の柱状改良工事を行う集合住宅の建築にともない発掘調査を実施した。次年度に継続する予定である。

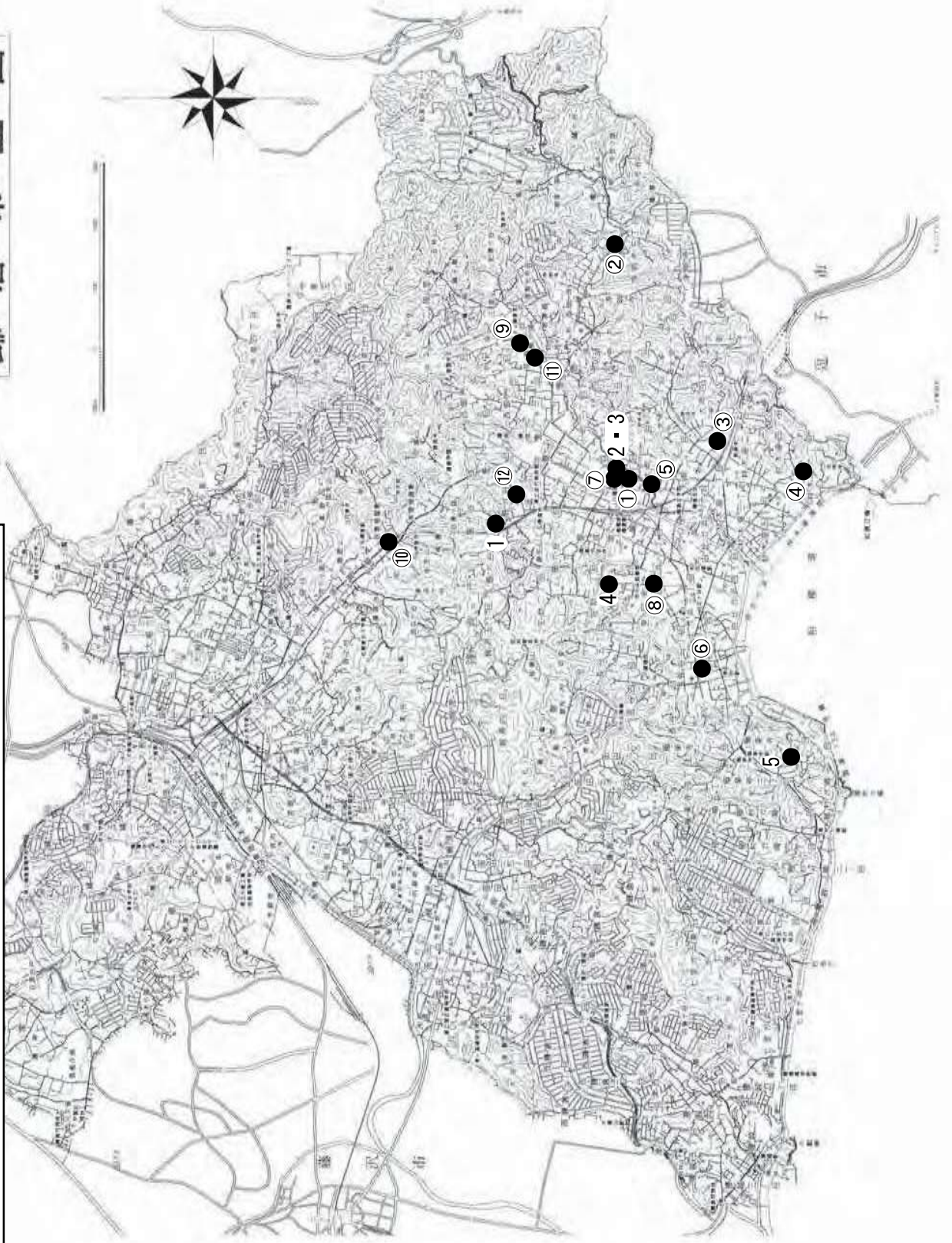
令和2年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	武蔵大路周辺遺跡 No.194	扇ガ谷三丁目451番の一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市 城館跡	96.35	令和2年4月1日 ～ 令和2年5月8日
2	若宮大路周辺遺跡群 No.242	小町一丁目342番2	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市 城館跡	41.27	令和2年5月25日 ～ 令和2年10月14日
3	若宮大路周辺遺跡群 No.242	小町一丁目342番5	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市 城館跡	41.15	令和2年10月14日 ～ 令和3年1月15日
4	佐助ヶ谷遺跡 No.203	佐助一丁目601番6	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	城館跡 社寺跡	113.00	令和2年9月1日 ～ 令和2年12月25日
5	鎌倉城 No.87	極楽寺一丁目136番7、137番3	集合住宅 (柱状改良工事)	城館跡	108.66	令和3年3月15日 ～ 令和3年3月31日

※1は前年度から継続。5は次年度に継続

鎌倉市全図

令和2年度の緊急発掘調査地点 (1~5)
本書掲載の平成23・24・22・26・28~30年度・令和元年度発掘調査地点 (①~⑫)
※遺跡名は一覧表を参照



若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

小町一丁目 331 番 1 地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市小町一丁目 331 番 1 において実施した、若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市 No. 242）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成 24 年 3 月 21 日から同年 5 月 31 日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、約 61.5 m²である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。

調査担当者	山口正紀（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員	岡田慶子、吉田桂子（以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作業員	片山直文、鯉沼 稔、鈴木道明、田島道夫、根市真古人 (以上、公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班)
整理作業参加者	石元道子、伊丹まどか、岩崎卓治、岡田慶子、岡本夏菜、押木弘己、 菅野知子、須佐直子、梅岡ケイト、松吉里永子、山口正紀、吉田桂子 (以上、鎌倉市文化財課 臨時的任用職員)
4. 本報告の作成は、以下の分担で行った。

執筆・編集	押木
遺構挿図作成	押木
遺物挿図作成	菅野
写真図版作成	押木、神田
遺物観察表・カウント表作成	神田、吉田
5. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「WA1107」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第IX系：東日本大震災後の補正後）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより 0° 09' 25" ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年—東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要 第56号 第4部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学
 - ◆瓦質土器：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河 第2集』神奈川県考古学会
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史 別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県 2012

本文目次

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果	5
第二章 調査の方法と経過	
第1節 調査の経緯と経過	7
第2節 調査の方法	7
第三章 基本土層	9
第四章 検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構	11
第2節 出土遺物	23
第五章 調査成果のまとめ	
第1節 遺構の変遷と年代観	74
第2節 IX期道路側溝（「河川」）について	74

挿図目次

図1 調査地点の位置	6	図22 出土遺物(10)	31
図2 調査区・グリッド配置図	8	図23 出土遺物(11)	32
図3 土層断面図	10	図24 出土遺物(12)	33
図4 I期全体図	12	図25 出土遺物(13)	34
図5 II期全体図	13	図26 出土遺物(14)	35
図6 III期全体図	14	図27 出土遺物(15)	36
図7 IV期全体図	16	図28 出土遺物(16)	37
図8 V期全体図	17	図29 出土遺物(17)	38
図9 VI期全体図	18	図30 出土遺物(18)	39
図10 VII期全体図	19	図31 出土遺物(19)	40
図11 VIII期全体図	20	図32 出土遺物(20)	41
図12 IX期全体図	21	図33 出土遺物(21)	42
図13 出土遺物(1)	22	図34 出土遺物(22)	43
図14 出土遺物(2)	23	図35 出土遺物(23)	44
図15 出土遺物(3)	24	図36 出土遺物(24)	45
図16 出土遺物(4)	25	図37 出土遺物(25)	46
図17 出土遺物(5)	26	図38 出土遺物(26)	47
図18 出土遺物(6)	27	図39 箸状木製品等の全長分布(1)	47
図19 出土遺物(7)	28	図40 箸状木製品等の全長分布(2)	48
図20 出土遺物(8)	29	図41 箸状木製品等の全長分布(3)	49
図21 出土遺物(9)	30	図42 初期道路側溝の推定展開図	75

表目次

表 1 周辺の主な調査地点	7	表 3 出土遺物数量表	63
表 2 出土遺物観察表	50		

写真図版目次

図版 1	77	図版 3	79
1. I期全景（北西から）		1. VII期全景（北西から）	
2. I期土坑 2（西から）		2. VII期溝 1（南西から）	
3. I期溝 1（北から）		3. VII期土留め杭（東から）	
4. II期全景（北西から）		4. VII期土坑 1 断面（北から）	
5. III期全景（北西から）		5. VII期土坑 1（北から）	
6. IV期全景（北西から）		6. VIII期全景（北西から）	
7. V期全景（北西から）		7. VIII期道路・溝 1（南から）	
8. V期道路面（北から）		図版 4	80
図版 2	78	1. 調査区南壁断面（東半部・北から）	
1. VI期道路面（北から）		2. 調査区東壁断面（西から）	
2. VI期溝 1（南から）		図版 5	81
3. VI期溝 1 南部東側護岸材（西から）		1. 調査区東壁断面（西から）	
4. VI期溝 1 北部東側護岸材（南から）		2. 調査地点と小町大路（南から）	
5. III～VI期溝 1 断面（南から）		図版 6～12 出土遺物	82～88
6. III～VI期溝 1 西側杭（北西から）			

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果

本調査地は鎌倉市小町一丁目331番1に所在する。若宮大路周辺遺跡群は鎌倉低地の中心部を占め、史跡若宮大路を挟んで東西に展開している。現在の鎌倉でも最も賑わう市街地に占地することから開発行為にともなう発掘調査の件数も多く、現在までに約190件が実施されている。それぞれの調査面積は小さなものだが、その積み重ねによって遺跡範囲における地区ごとの土地利用の傾向も掴めるようになってきている。

本地点が所在する若宮大路の東側でも、「二の鳥居」の以南は13世紀中頃以降に堅穴建物が繰り返し構築された地区で、特に小町大路に近い地点で良好な検出・報告事例が多い。堅穴建物は居住用よりも収蔵施設としての用途が主体であったと考えられ、小町大路+滑川という陸・水運機能も組み合わさることで、本地区が中世都市鎌倉における物資流通・集積の中心的役割を果たしていたと想定されている。

近隣の調査では、図1-地点②・③・④で堅穴建物が特に多く、その構造や変遷を把握し得る良好な資料が検出・蓄積されている。その成果からは、大まかな傾向として以下の知見が得られている。①13世紀中頃～後半を中心に木組み構造の堅穴建物が建てられ、②この次段階になると、凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）を土台や壁体として多用した堅穴建物が展開し、概ね14世紀半ば頃まで存続する。①は、道路や溝など区画性を持つ施設の整備にともなって進められたようである。

①の13世紀中頃～後半は鎌倉時代後期に当たり、これに先行する13世紀前半には本地区北方に將軍御所（幕府）が大倉から移転し（1225年の宇津宮辻子幕府→1236年の若宮大路幕府）、その滅亡まで政治の中心として機能した。堅穴構築以前の遺構は中世基盤層である黒褐色粘質土上で確認され、井戸やピット・土坑が検出されている。①・②段階で堅穴の構築が繰り返されたため遺構の残りは良くないが、地点③では3.3m間隔で若宮大路と平行して連なる大型土坑列が検出されるなど、公権力との関連を想起させる成果も上がっている。画期①・②の年代観については報告書によって多少の違いも見られるが、建物構造の変化は斉一性が高いことから、土地利用形態の転換（再編）は漸移的ではなく一挙に進んだと理解すべきであろう。

小町大路に面した複数の調査地点では、鎌倉時代に遡る同大路の前身道路と側溝が検出され、地点⑥では13世紀前半～15世紀に至る7段階の道路面と西側溝が検出され、後章で述べる本地点の検出遺構と一連の遺構になるものと考えられる。最古段階の道路面は中世基盤層上をそのまま利用し、次段階には泥岩粒や玉石・貝殻を用いた硬化面が構築される。これ以降、当初の側溝を埋め立てた上にも道路面が広がり、最終段階まで泥岩ブロックを敷き詰めた舗装が連続と構築される。側溝は、当初は素掘りであったものが拡張後に木組み護岸、次いで切石積み護岸へと造り替えられる。最古～第2段階の側溝は東肩のみの確認にとどまったが、地点②・⑤では西肩と思われる落ち込みが検出されており、これらを総合すると上幅が7m近くを測る大規模な溝であったことが推測できる。道路面からの深さは2m以上となり、現時点では溝底が確認された調査例はない。「河川遺構」と報告されている例もあるが、道路に沿って直線的に延びている点や旧地形を勘案すると自然流路とは見なし難く、鎌倉初期に開削された人工の流路と理解するのが妥当だろう。前後して開通したであろう若宮大路の側溝とともに、低地開発には不可欠である排水機能の主要な部分を担ったことが推測でき、鎌倉の都市化に大きく寄与した遺構と考えられる。

（本章は押木2020の第一章を一部改変し、再掲載した）

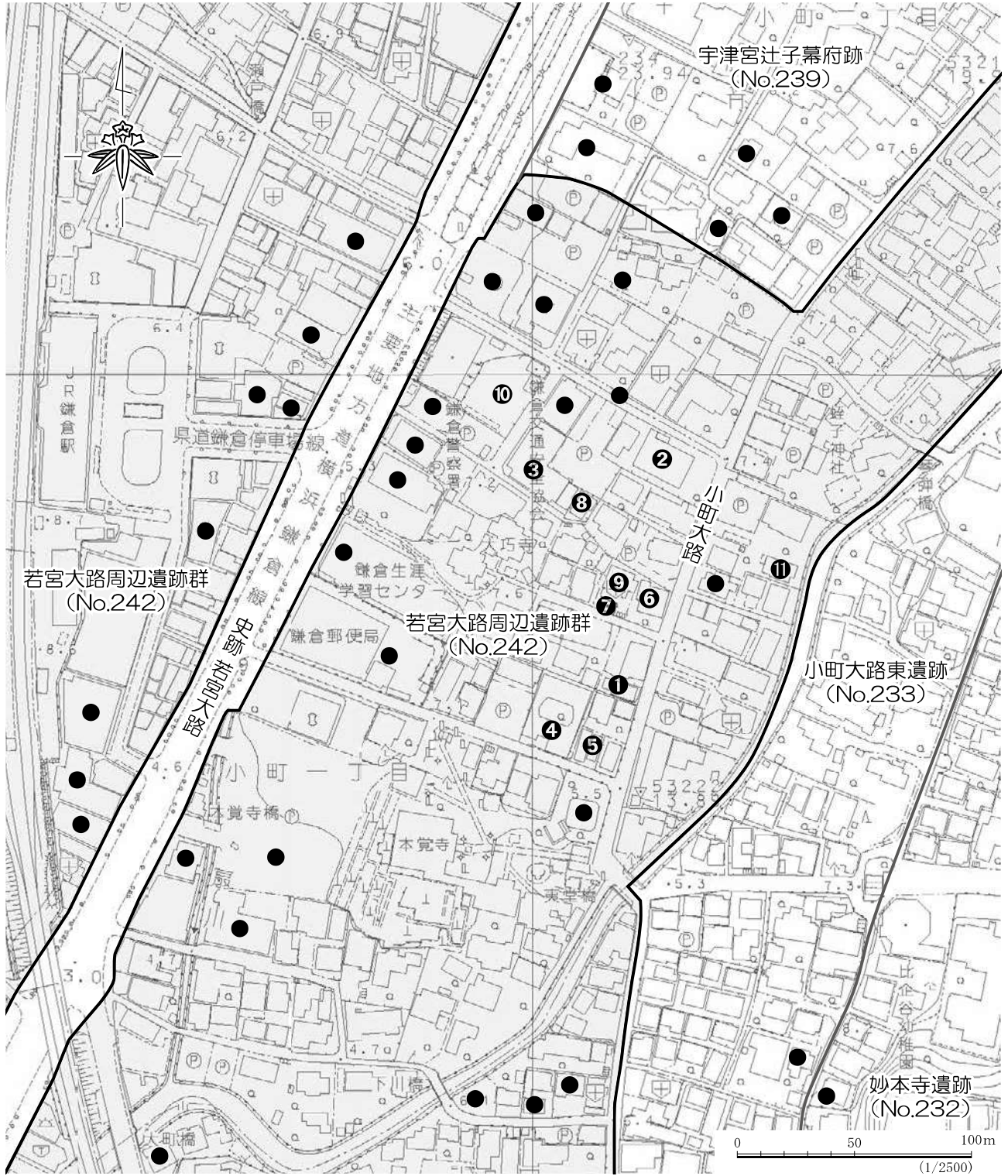
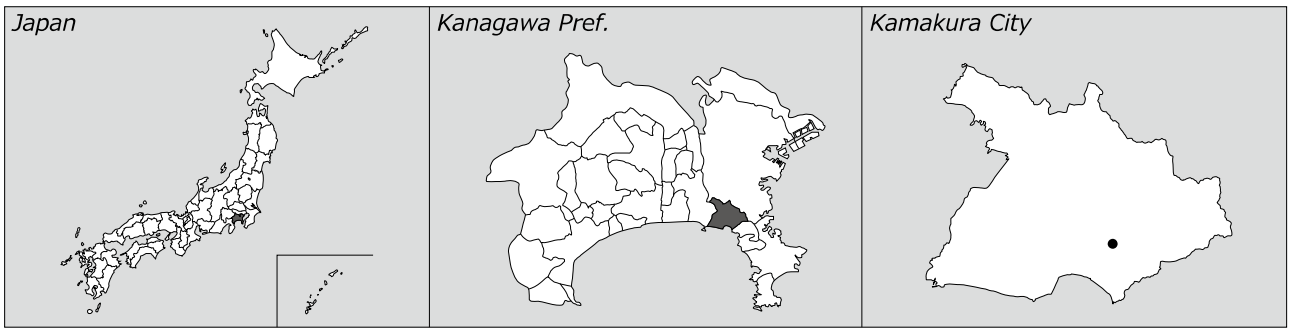


図1 調査地点の位置 (鎌倉市発行 1:2,500 都市計画基本図を使用・改変)

表 1 周辺の主な調査地点（番号は図 1 に対応）

No.	地番	調査年度 (開始年度)	面積 (㎡)	所収文献
①	小町一丁目 333 番 2	2011 年度	62	本報告
②	小町一丁目 325 番イ外	1992 年度	400	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10 (第 3 分冊)』鎌倉市教育委員会 佐藤仁彦・小林重子 1994
③	小町一丁目 322 番	1992 年度	685	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 宮田 真・森 孝子 1997
④	小町一丁目 331 番 1	2006 年度	180	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 36 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2020
⑤	小町一丁目 333 番 15	2010 年度	23	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2015
⑥	小町一丁目 329 番 1・10	2010 年度ほか	213	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 宮田 真・滝澤晶子・安藤龍馬 2014
⑦	小町一丁目 329 番 7	2013 年度	22	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 宮田 真・森 健一郎 2016
⑧	小町一丁目 324 番 4	2014 年度	67	『第 25 回 鎌倉市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』NPO 法人鎌倉考古学研究所 松吉里永子 2015
⑨	小町一丁目 329 番 1・8	2015 年度	120	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 小野田 宏・森 健一郎 2019
⑩	小町一丁目 319 番 1 外	2017 年度	706	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)齊藤建設 三ッ橋 勝・三ッ橋 正夫 2018
⑪	小町一丁目 343 番 2	2016 年度	70	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 瀬田哲夫・安藤龍馬 2020

第二章 調査の方法と経過

第 1 節 調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。建設計画では基礎工事として土壌の柱状改良工事を行う設計であったことから、市教委では建設計画のうち埋蔵文化財に抵触する懸念がある部分については、工事着手前に本格的な発掘調査を行う必要があるという判断に至った。

発掘調査には平成 24 年 3 月 21 日～5 月 31 日の約 2 ヶ月半を要した。

第 2 節 調査の方法

今回の調査では調査区の分割は行わなかった。表土は重機で掘削し、以下の掘削は人力作業で行った。今回は中世に属する 9 時期の遺構面を捉えることができ、それぞれの面で遺構の確認と掘削作業を行い、写真撮影・測量図作成などの記録作業を進めた。測量には調査区の形状に沿った任意座標軸を設定して用い、現地調査終了後の資料整理段階において国家座標系に測量成果を嵌め込む方法を取った。

国家座標系の測量は、市道上にある鎌倉市 4 級基準点の二点間関係を基点として開放トラバース法で行った。

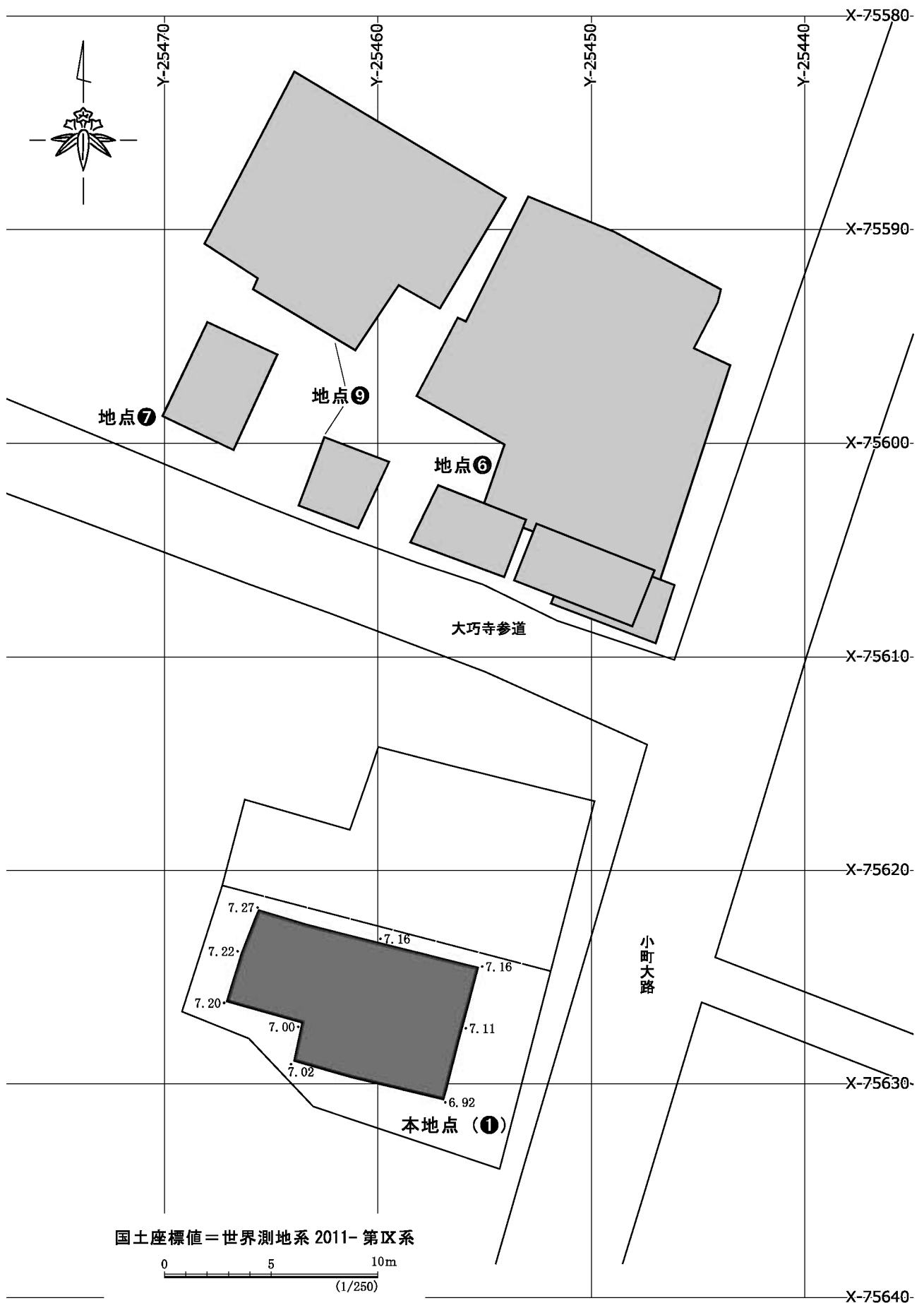


図2 調査区・グリッド配置図

第三章 基本土層

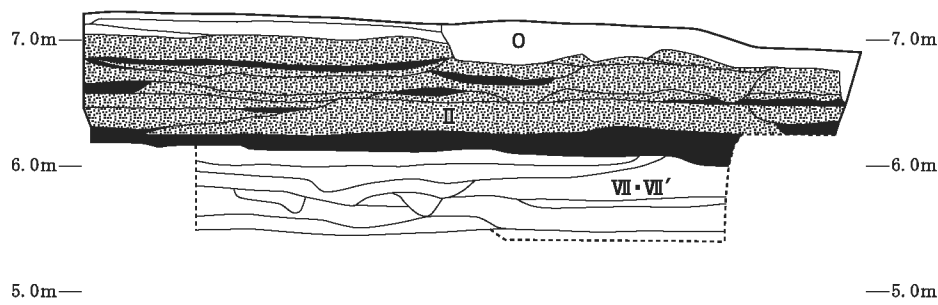
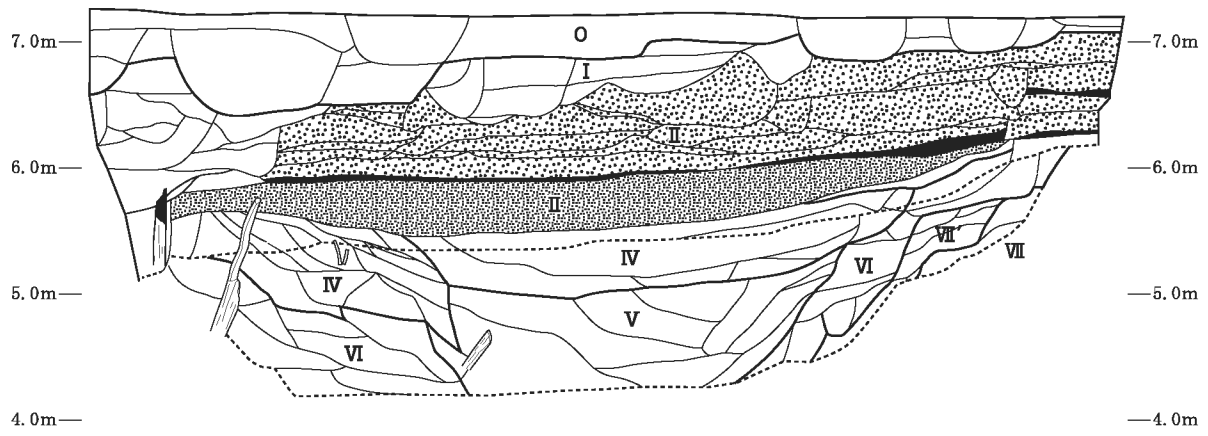
本地点の堆積土層は、上・下で二種類の様相に大別することができた。上層は泥岩の粒・ブロックを主体とする道路整地層で、所々に暗褐色土の間層を挟んでいる。下層は道路構築の前段階に機能していた南北大溝の埋没土で、暗褐色の腐植土をベースとし、多量の木片を含む箇所も見られた。概ね調査区の大部分を遺構の埋土・構築土が占めていたが、東辺付近では中世基盤層である褐色シルト質土を確認することができた。

以下、いま少し詳しく堆積土の状況について説明するが、土層に関する資料が現地図面の収納ファイルから遺失してしまっていたため、図3に示した層序個別の内容については詳述できない。以下に記す内容は、報告者が記録写真を基に推定した結果であることを承知されたい。




- 0層 灰褐色土 表土。
- I層 暗褐色土 泥岩粒を含む。中世遺物包含層だが、所々0層土が混入する。
- II層 黄褐色土 泥岩の粒・ブロックを主体とする道路整地層。泥岩の疎密で細分できる。暗褐色土の間層を所々に挟む。
- III層 黒褐色土 腐植土がベース。
- IV層 黒褐色土 腐植土がベース。締まり弱い。木片を多量に含む。
- V層 黒褐色土 締まりあり。
- VI層 黒褐色土 締まりあり。
- VII層 褐色土 シルト質土。中世基盤層。
- VII'層 暗褐色土 VII層土がベースの崩落土。

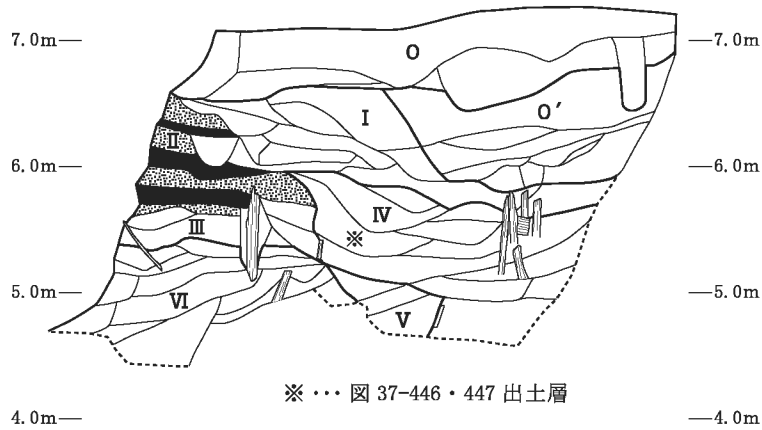
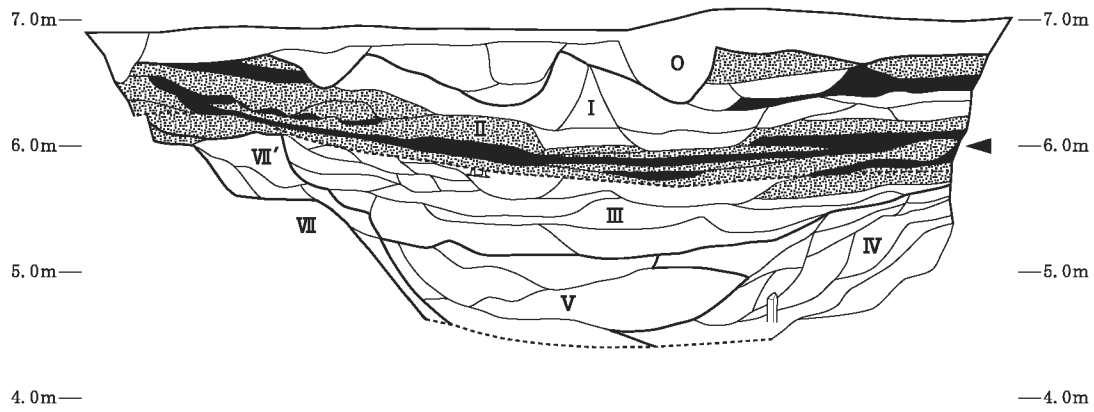
上記のうち、III～V層が大溝の埋没土である。VI層はより古い段階の大溝埋土であり、後には新段階大溝の底面と岸ともなった。調査区内において、初期大溝の掘り方としての中世基盤層（VII層）は東岸でしか確認できなかった。要因として初期大溝が非常に大規模で調査区の西外に続いていたか、または変遷過程で西に移動した可能性などが考えられよう。VII層は標高6m前後で確認された。本来であればこの上位に黒褐色粘質土の無遺物層も中世基盤層として堆積していた筈だが、手元に残る記録類からは明確には把握することができなかった。

中世道路遺構の整地土であるII層は表土（0層）直下で検出される箇所も見られたことから、現行の地表レベルよりも高い位置まで存在していたものが削平されてしまった可能性も考えられる。規模から考えて現行小町大路の前身道路と考えると良く、中世鎌倉においても若宮大路に次ぐ重要度を持っていた道路であったと考えられる。近隣での調査例を見ても本地点付近は中世基盤層の検出レベルが若宮大路沿いのエリアに比して高いことから、中世の「小町大路」は比較的安定した微高地を選んで通されたと理解することができるかもしれない。

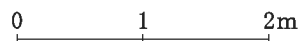


II層内訳

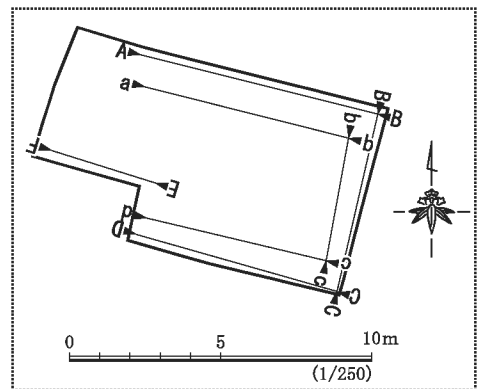
-  道路整地層 (泥岩粒・ブロック主)
-  道路整地層 (泥岩粒・ブロック主、細部の土質不明)
-  道路整地層間層 (弱粘質土)



※・・・図 37-446・447 出土層



(1/60)



(1/250)

図3 土層断面図

第四章 検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

前章でも述べたように、本地点では大きく2段階の中世遺構の変遷が見て取れた。上層の道路遺構はさらに5～7時期程度に細分でき、これより下位の2時期では、調査範囲のほぼ全域が南北大溝の埋土という状況であった。これら遺構群には、上層から順にⅠ～Ⅸ期の時期区分を設定して全測図を示した(図4～12)。

以下、各期の検出遺構について概略を述べて行くが、各期の設定は速報資料(松吉・山口2013)に順じず、概ね現地図面に付された名称に従った。

(1) Ⅰ期

標高6.7～7.0m前後で検出され、調査区東側の方が検出レベルが高い。調査区の全域が泥岩の粒・ブロックを敷いた道路整地面で、調査区東辺部では遺存状況が良好であった。西側2/3程は上部が削平され、土坑・ピットが検出された。現地記録における「1面」の遺構が概ねⅠ期に属する。

土坑7はプラン確認時点の規模をⅠ期全測図(図4)に、掘方規模をⅡ期全測図(図5)に示した。図4上部に掲げた断面図は規模から土坑7のものと推測できるが、セクションポイントの位置が平面図と整合しなかったため、断定は避けておく。

Ⅰ期に關係する出土遺物は、図14-31～40と図17-68～94に示した。これらは上記「1面」に帰属する出土資料として取り上げられたものである。図15-41～図16-67も「1面」の溝1出土として取り上げた資料だが、速報資料ではⅠ期帰属遺構に溝は含まれないという認識であったので、これらは後述する「1面」下～Ⅱ期の溝1に帰属させるものとした。

(2) Ⅱ期

Ⅰ期と同様「1面」で検出された遺構のうち、古い段階に属する。「1面下層」ともいえる遺構群で、確認レベルは標高6.3～6.85mである。調査区の東辺部には泥岩を用いた道路整地面が良好に残り、西辺付近には道路遺構に沿って南北溝(溝1)が走る。溝1の西岸は調査区外にあるため捉えることができず、上幅3.9m以上、深さ40cm以上を確認した。Ⅱ期以降、「1面」形成までの間に上幅2.6m以上、深さ60cm程の南北溝が延びていたことが図化記録として残されているが、本報告では省略した。道路整地面には貼り増し施工が行われており、溝1に近づくほど泥岩による整地が弱くなる状況であった。整地面上では、溝1に近いエリアを中心に土坑、ピットなどの遺構が散見された。

Ⅱ期に属する出土遺物は、図18-95～図19-139に示した。

(3) Ⅲ期

標高6.3～6.7m前後で検出され、調査区の東側ほど検出レベルが高い。東側2/3程は泥岩を用いた道路整地面で、面上では小規模なピット18基が検出された。一部は整地面の西辺に沿って並ぶ状況が見て取れた。西側1/3はⅡ期同様、道路側溝となる南北溝が走るが、Ⅱ期側溝に切られていたため規模などの情報を得ることはできなかった。

Ⅲ期に属する出土遺物として、図19-140に瀬戸の御皿1点を図示した。

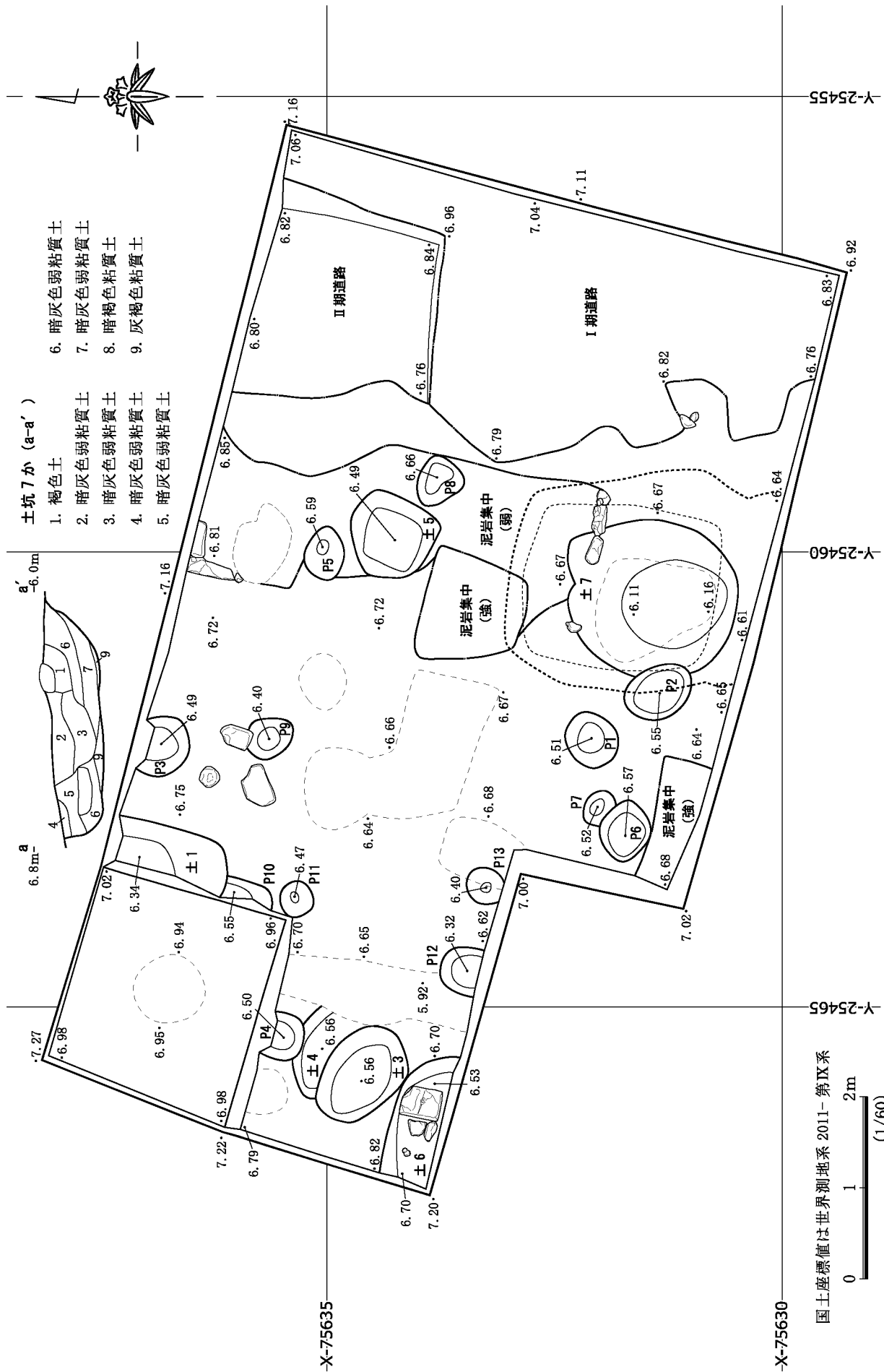


图 4 I 期全体图

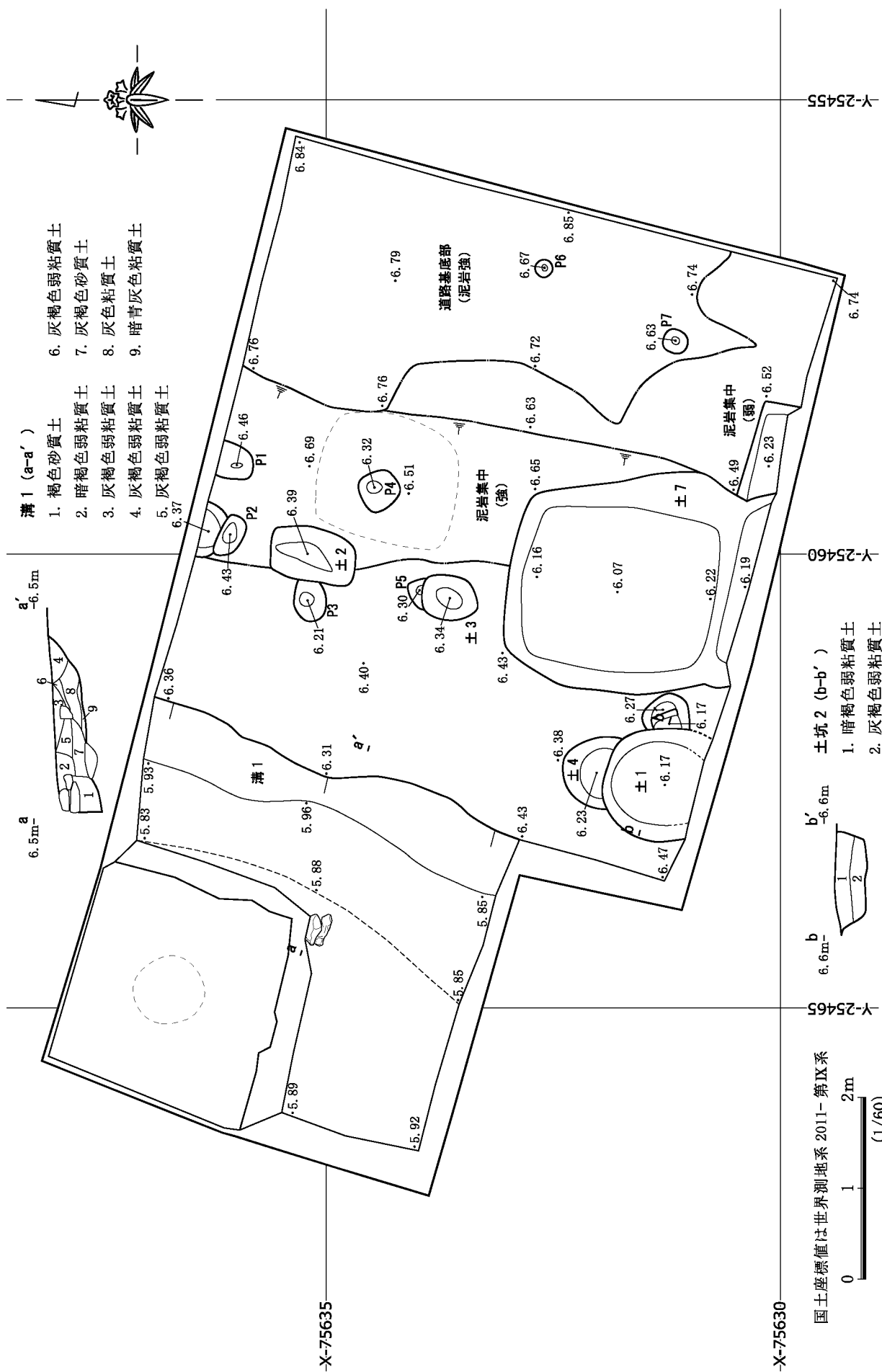


图 5 II 期全体图

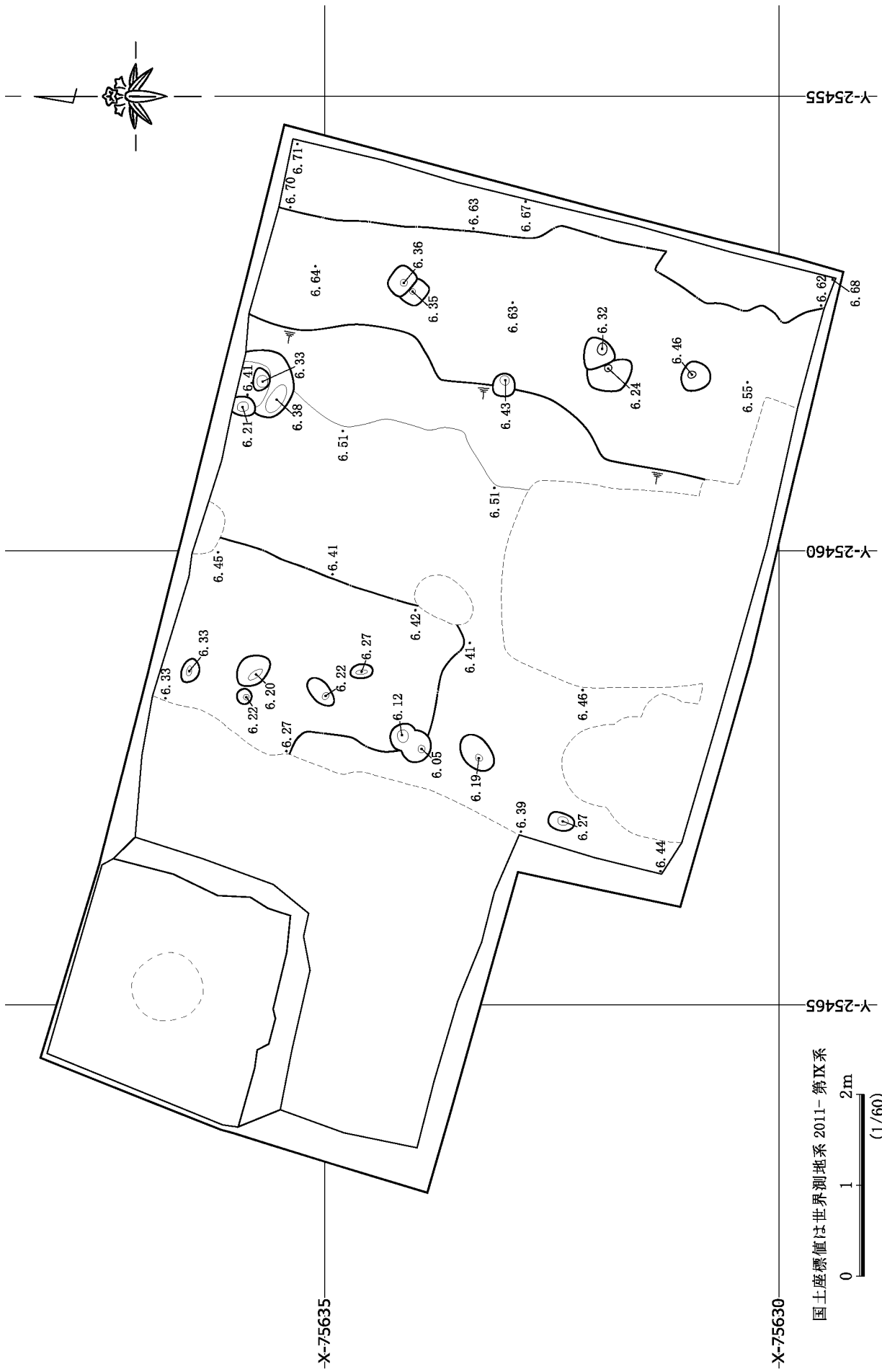


图 6 III期全体图

(4) IV期

標高 6.15 ～ 6.50 m 前後で検出された。Ⅲ期同様、調査区の東側 2/3 は泥岩による道路整地面が占め、整地面上には小規模なピットが点在して西辺沿いに並ぶ状況も見て取れた。調査区の西側 1/3 には道路側溝である南北溝が走る。これもⅡ期道路側溝に切られていたため、規模などは不明である。

IV期に属する出土遺物は、図 19-141・142 に示した。

(5) V期

標高 6.1 ～ 6.4 m 前後で検出され、調査区の東側ほど検出レベルが高い。東側 2/3 程は細かく砕いた泥岩による道路整地面で、調査区中央近くの整地面上では小規模ピットがややまとまって検出された。この段階でも西側 1/3 程は道路側溝となる南北溝が延びるが、やはりⅡ期道路側溝に切られていたため、規模などの情報は得られなかった。

V期に属する出土遺物のうち、図示できるものはなかった。

(6) VI期

標高 5.8 ～ 6.3 m 前後で検出され、調査区の東側ほど検出レベルが高い。東側 2/3 程は細かく砕いた泥岩による丁寧な道路整地面で、西側 1/3 には道路側溝となる南北溝が走り、杭で横板を抑えた木組み護岸が遺存していた。杭・横板の多くは上部が炭化しており、火災に遭った可能性が考えられる。整地面上には最大高低差 15cm 程度の浅い落ち込みや、小規模なピットが点在していた。

VI期の出土遺物として、図 20-143 ～図 22-211 を図示した。殆どが道路側溝のある溝 1 の出土遺物である。

(7) VII期

標高 5.4 ～ 6.2 m 前後で検出され、調査区の東側ほど検出レベルが高い。泥岩による整地面は調査区東辺近くのごく狭い範囲に限られる。西側 2/3 程は道路側溝となる南北溝が走り、杭・横板など木組み護岸の遺存状況から、造り替えによる 3 時期の溝に区分することができた。護岸用材の一部は、焼けて炭化していた。調査区中央部の平坦面では多量の箸状木製品を廃棄した土坑 1 や浅い落ち込み、小規模ピットなどが検出された。

VII期に属する出土遺物を、図 23-212 ～図 28-318 に示した。土坑 1 で出土した大量の箸状木製品については、他の時期・遺構出土の同種資料とともに実測図による提示を省略し、両端が残る完形資料のみを抽出して全長分布を提示する方法を取った (図 39・41)。

(8) VIII期

標高 6.2 m 前後で検出された。調査区東辺沿いの狭い範囲で硬化砂による道路遺構が検出され、この西は道路側溝となる 2 時期の南北大溝が走る。土層断面の観察から、東側の溝 1 が西の溝 2 より新しいことが分かる。溝 1 東岸の斜面では、走方向に沿って 4 基の小規模なピットが並んでいた。溝 1 の底面標高は 4.3 m 前後で、道路面上からの深さは 1.9 m を測る。

VIII期に属する出土遺物は、図 29-319 ～図 37-441・448 に示した。全て溝 1・2 からの出土品であり、その大部分を漆器を含む木製品が占めている。

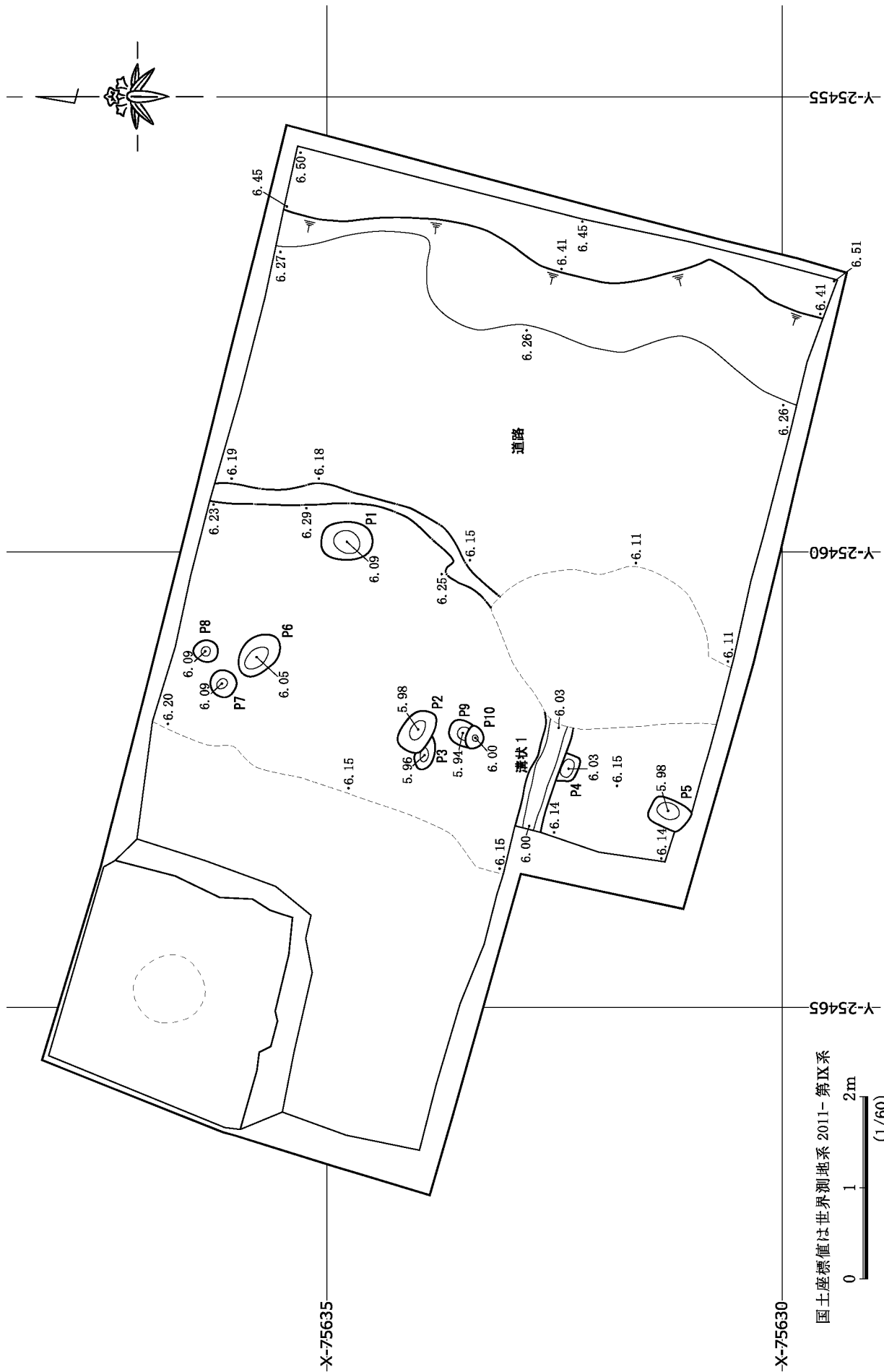


图 7 IV期全体图

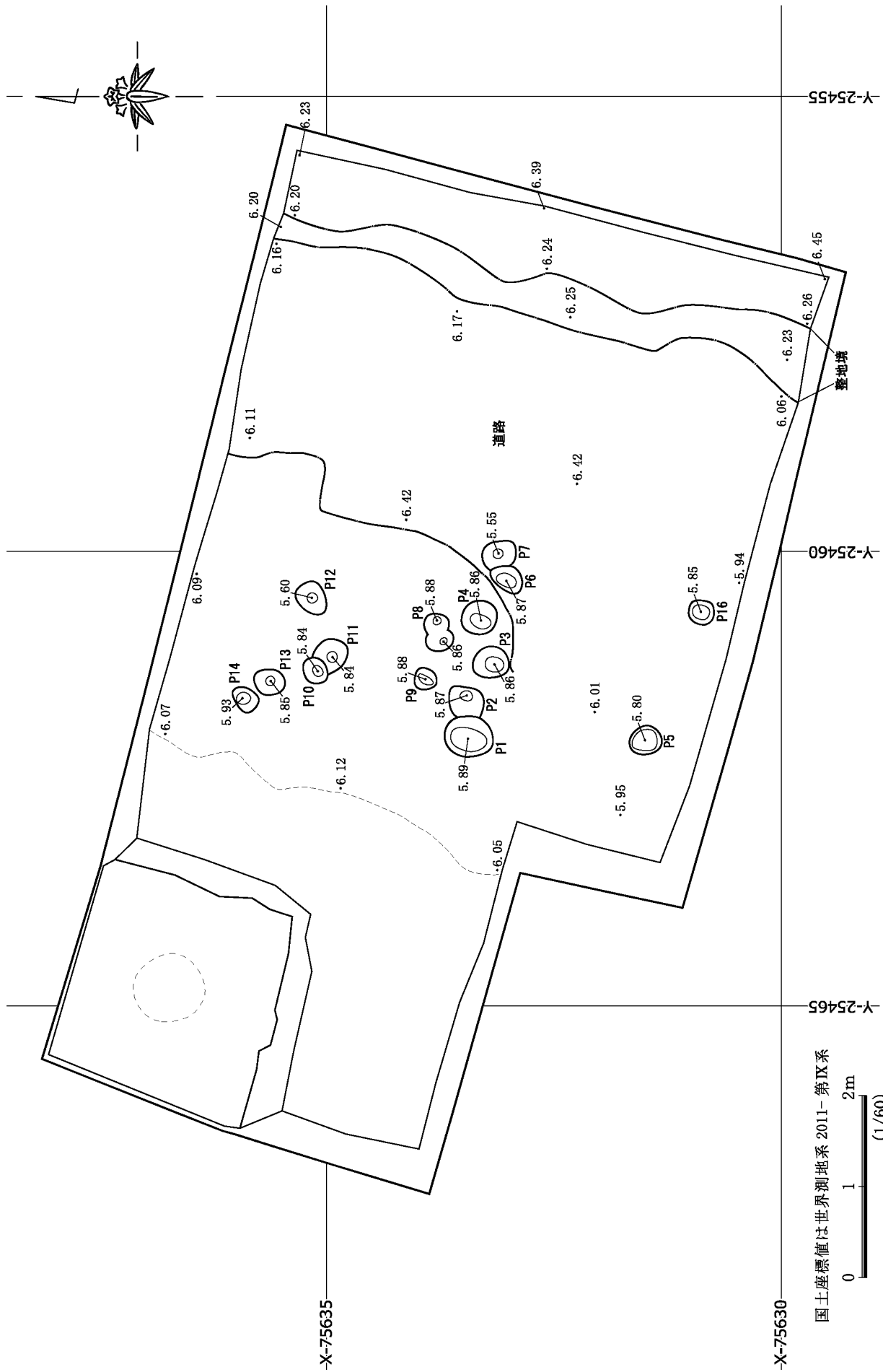


图 8 V期全体图

- 溝 1 (a-a')
1. 灰黑色弱粘質土
 2. 暗青色粘質土
 3. 灰黑色弱粘質土
 4. 暗褐色弱粘質土
 5. 暗青色粘質土
 6. 暗青色粘質土
 7. 灰褐色粘質土
 8. 暗褐色粘質土
 9. 暗褐色粘質土
 10. 暗褐色粘質土
 11. 暗褐色粘質土
 12. 暗褐色粘質土
 13. 褐色粘質土
 14. 褐色粘質土
 15. 暗灰色弱粘質土
- X-75635

16. 暗褐色粘質土
17. 暗褐色粘質土
18. 暗灰色粘質土
19. 暗灰色粘質土
20. 暗褐色粘質土

- 落ち込み 1 (b-b')
1. 灰褐色弱粘質土
 2. 灰褐色弱粘質土
 3. 灰褐色弱粘質土
 4. 灰褐色粘質土
 5. 暗灰色弱粘質土
 6. 暗褐色粘質土

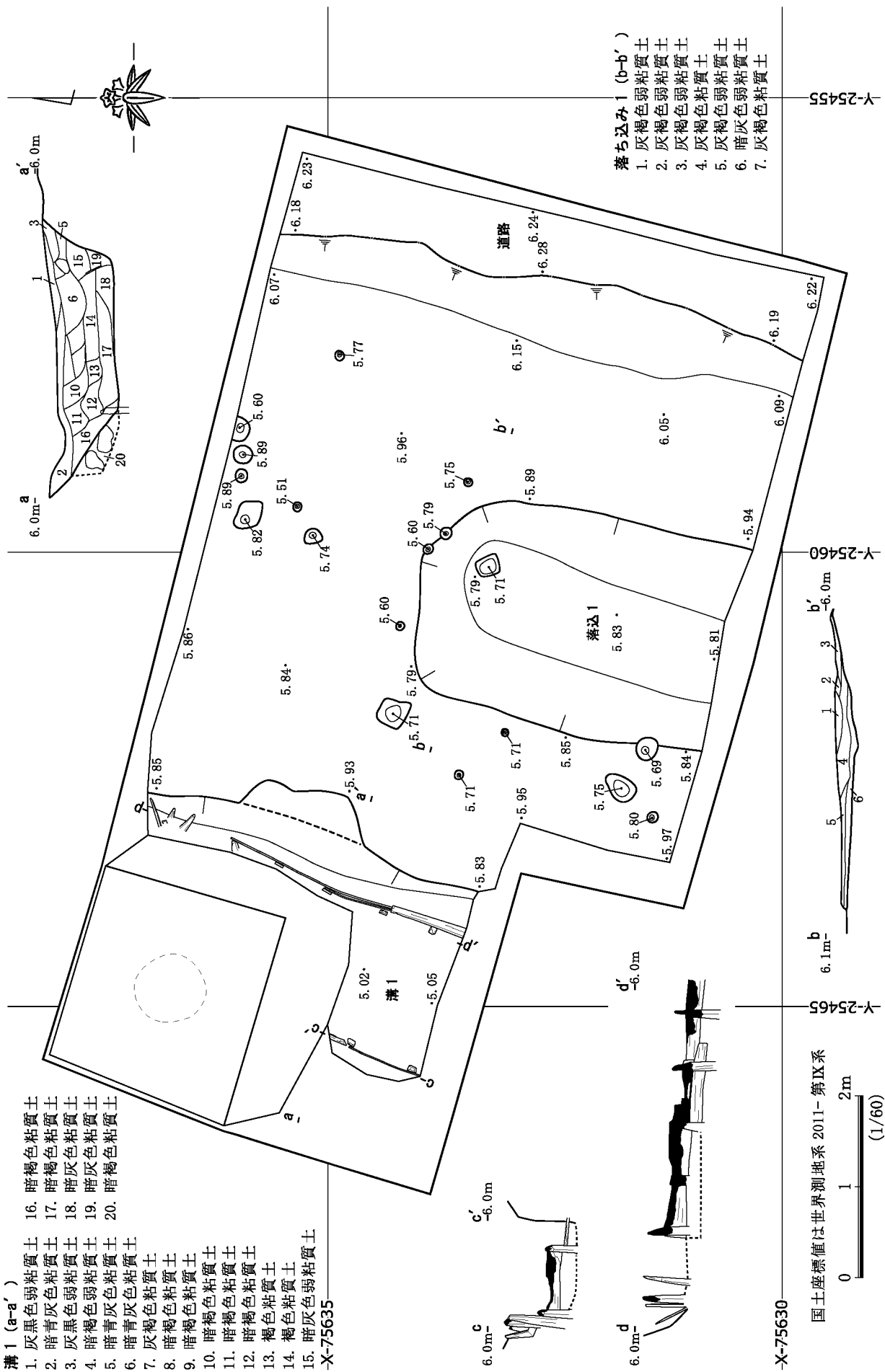


图 9 VI期全体图

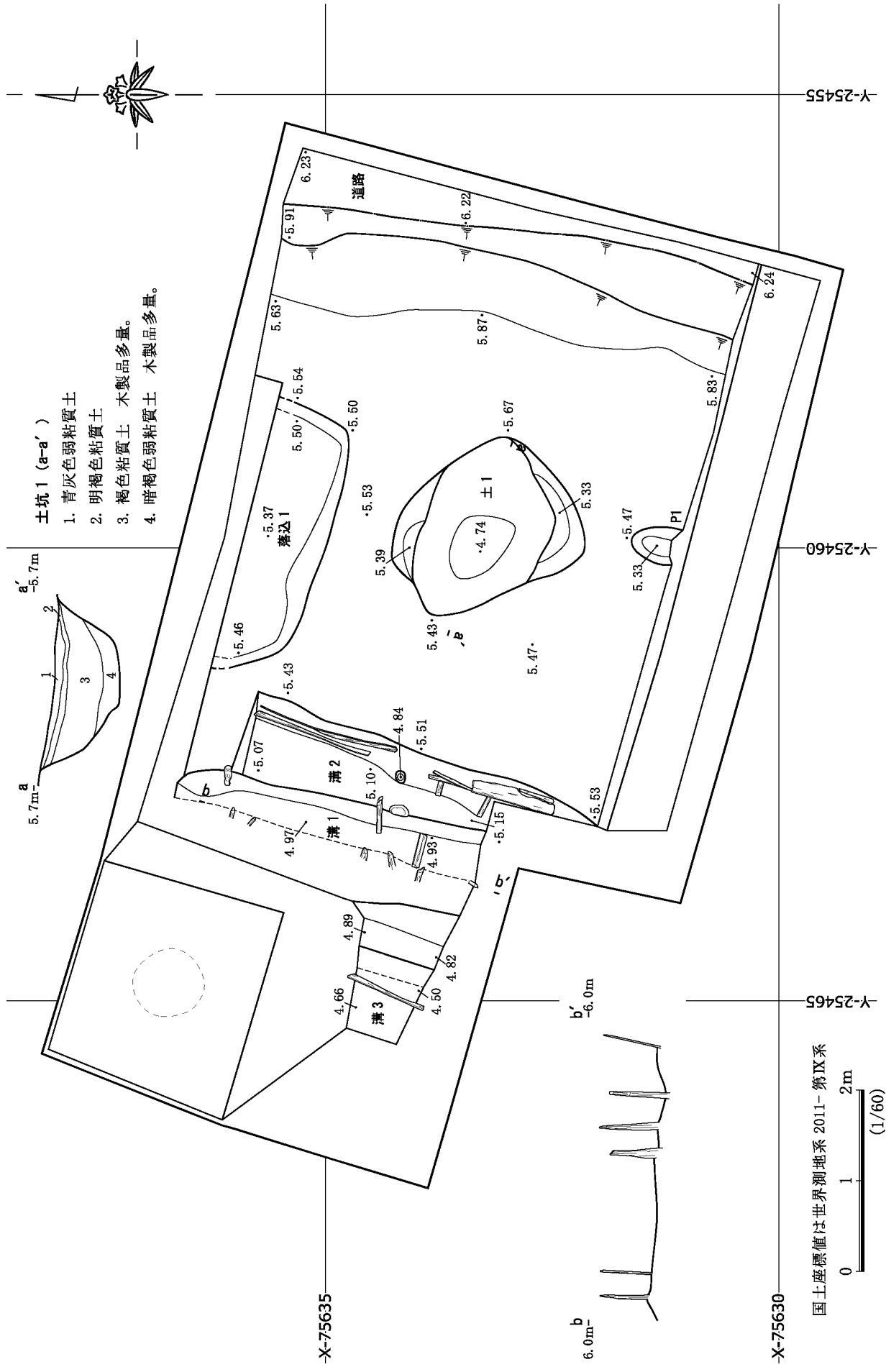


图 10 VII期全体图

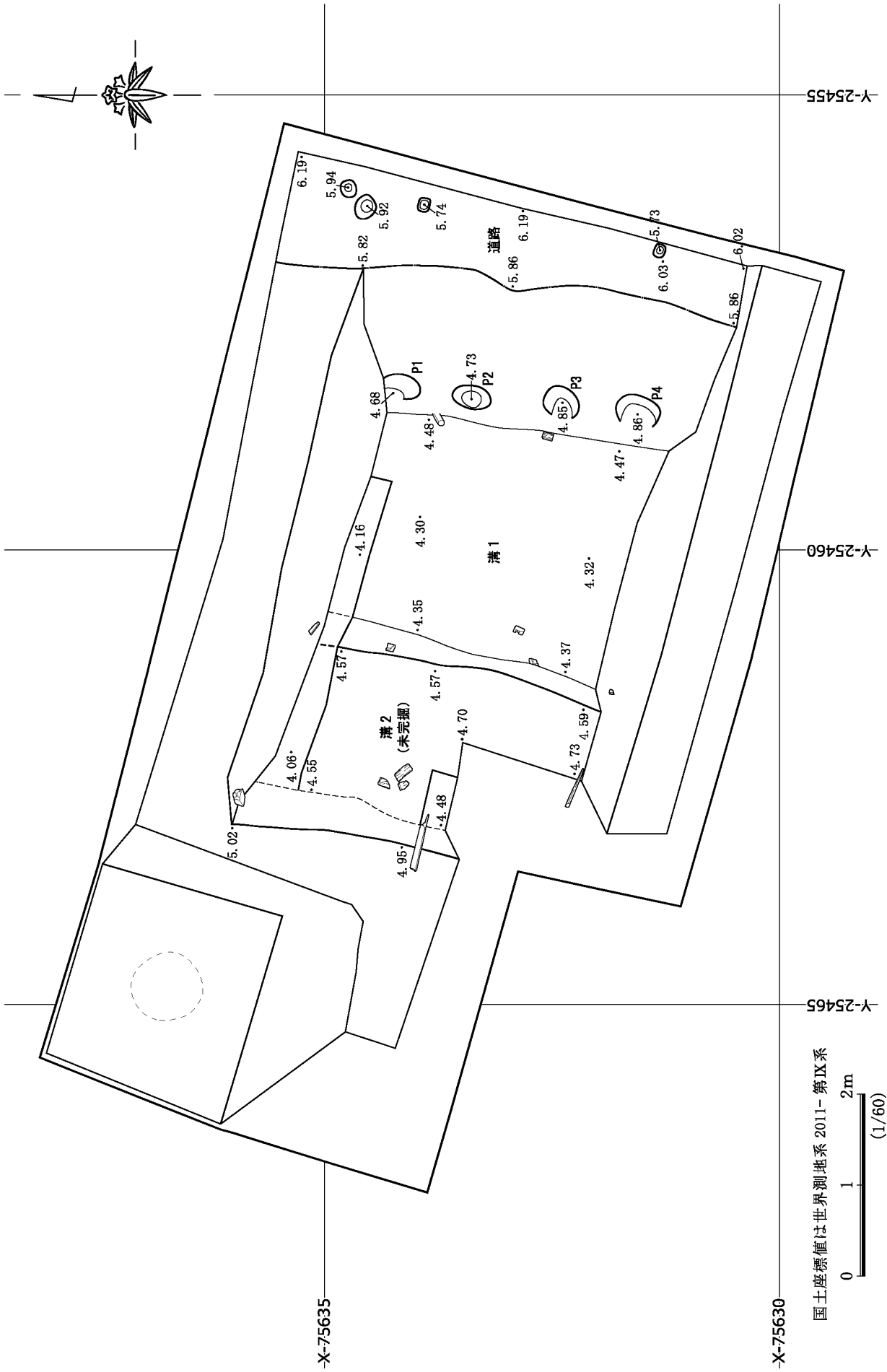


图 11 Ⅷ期全体図

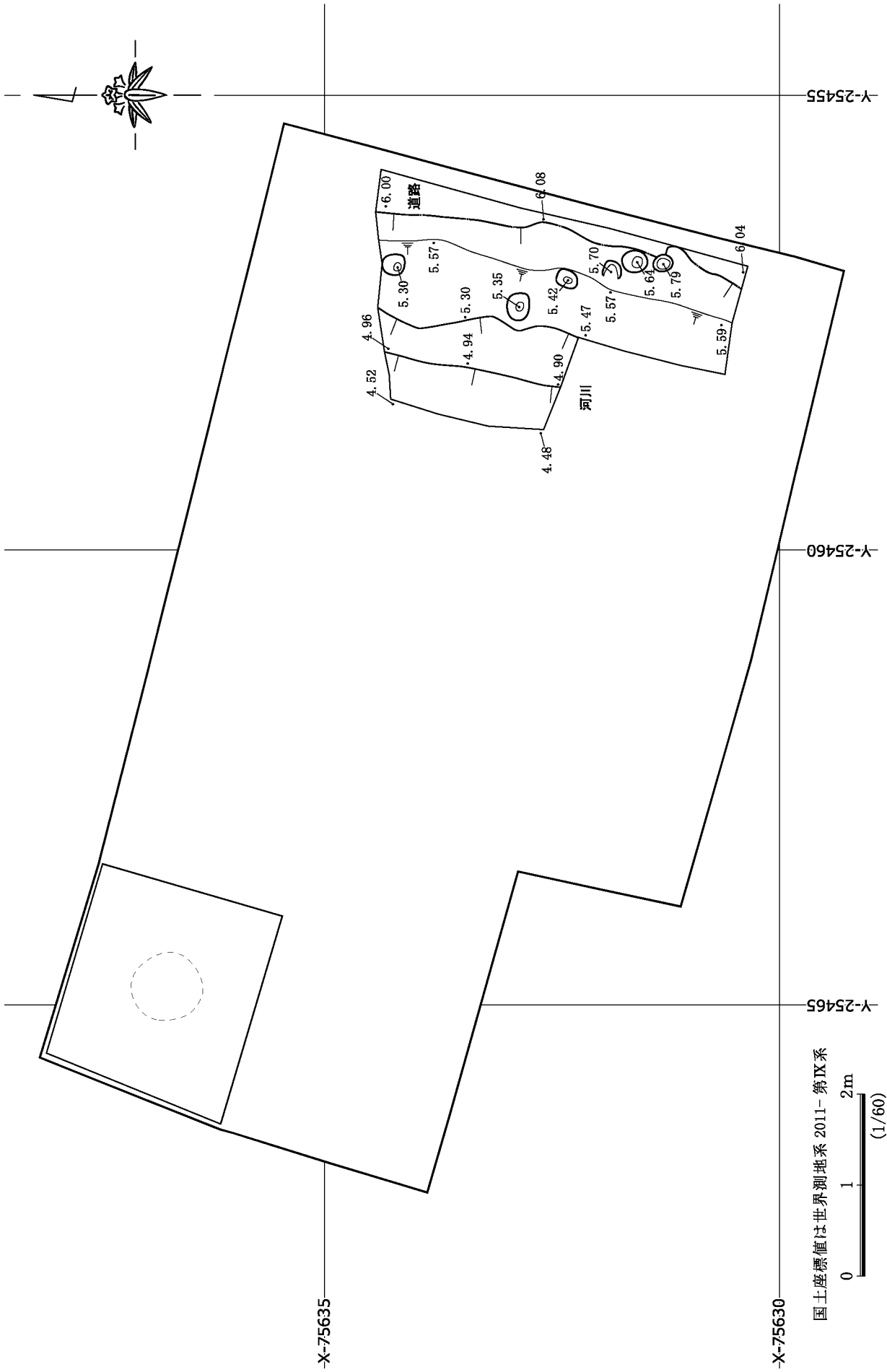


图 12 IX期全体图

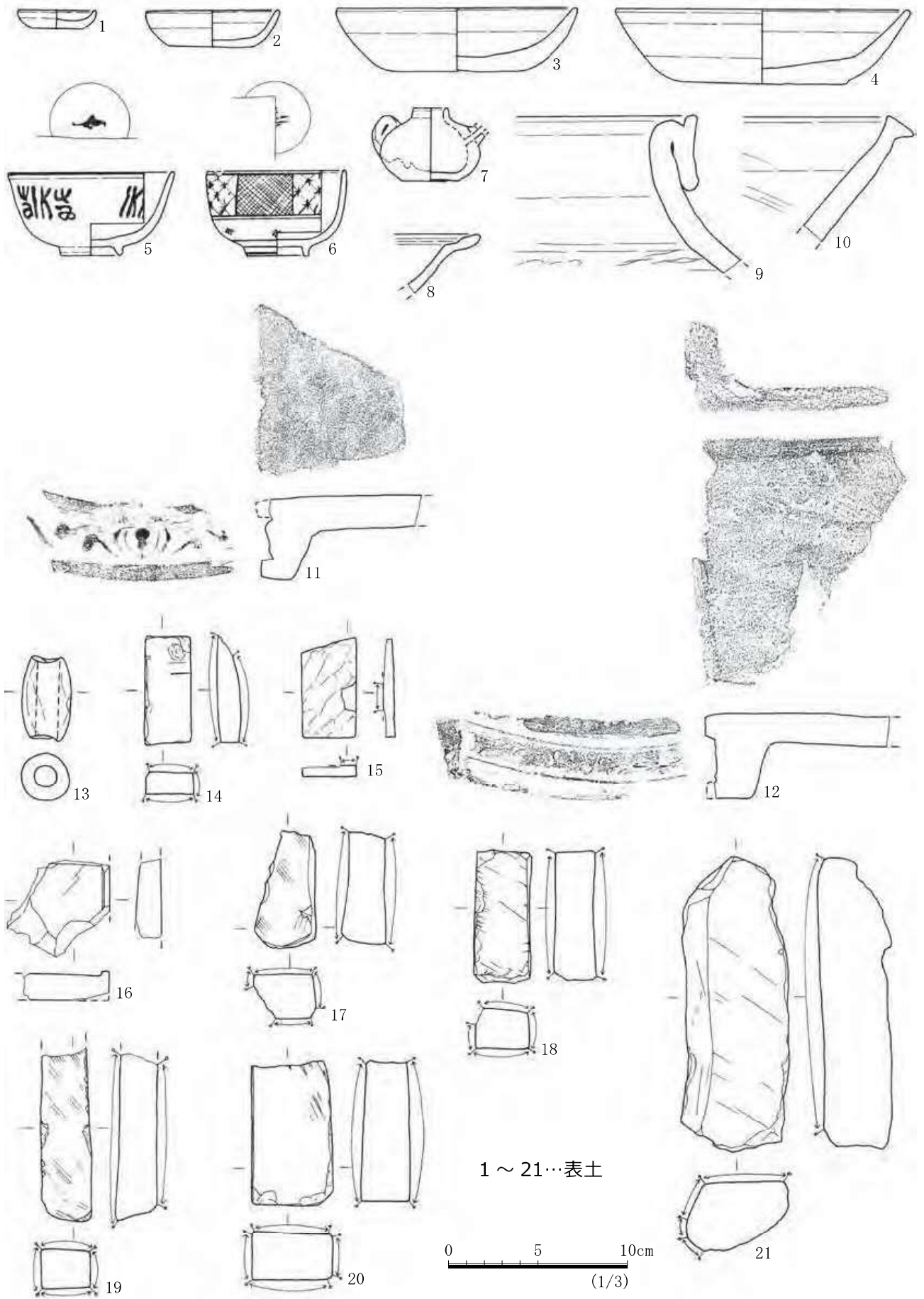


图 13 出土遺物 (1)

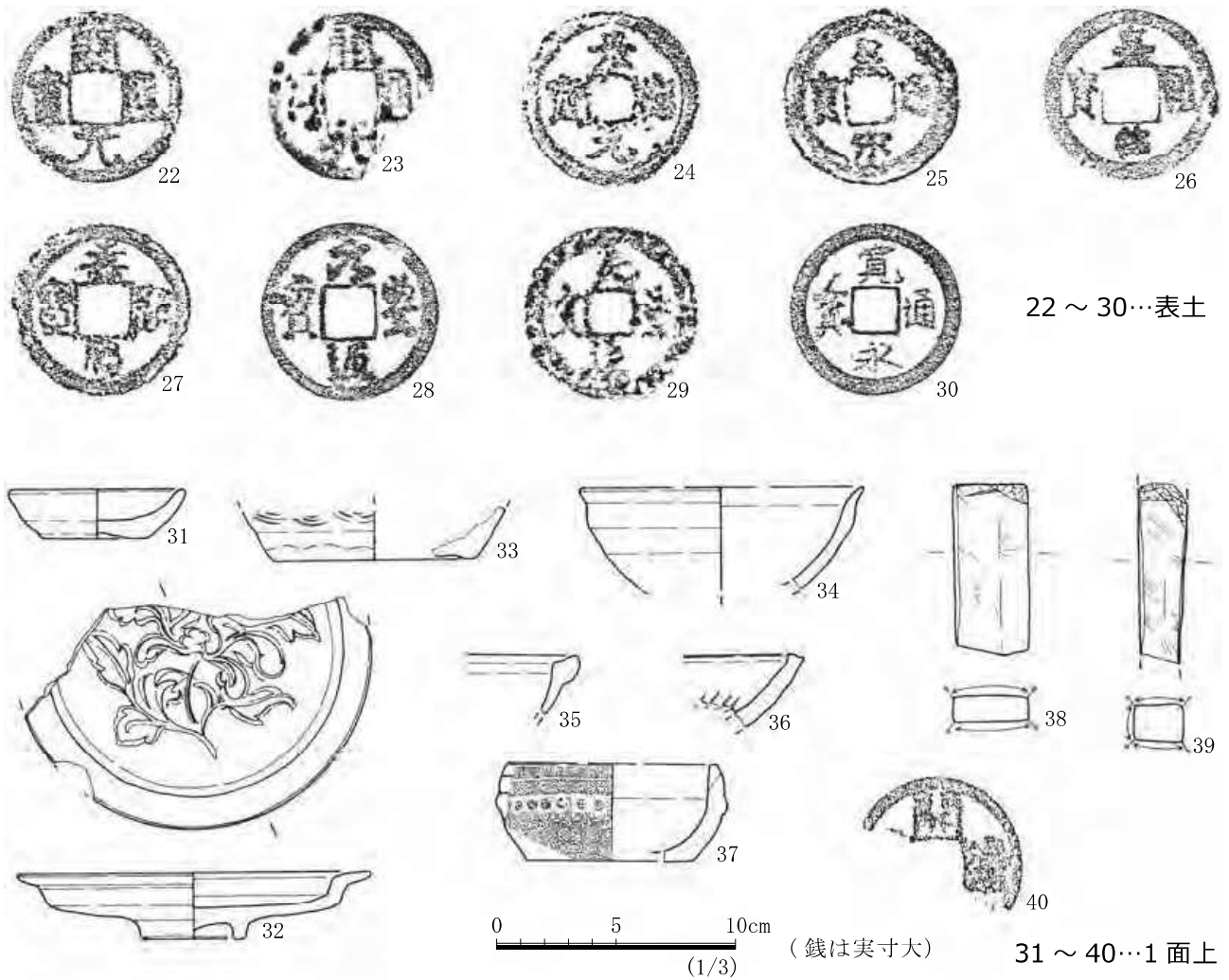


図 14 出土遺物 (2)

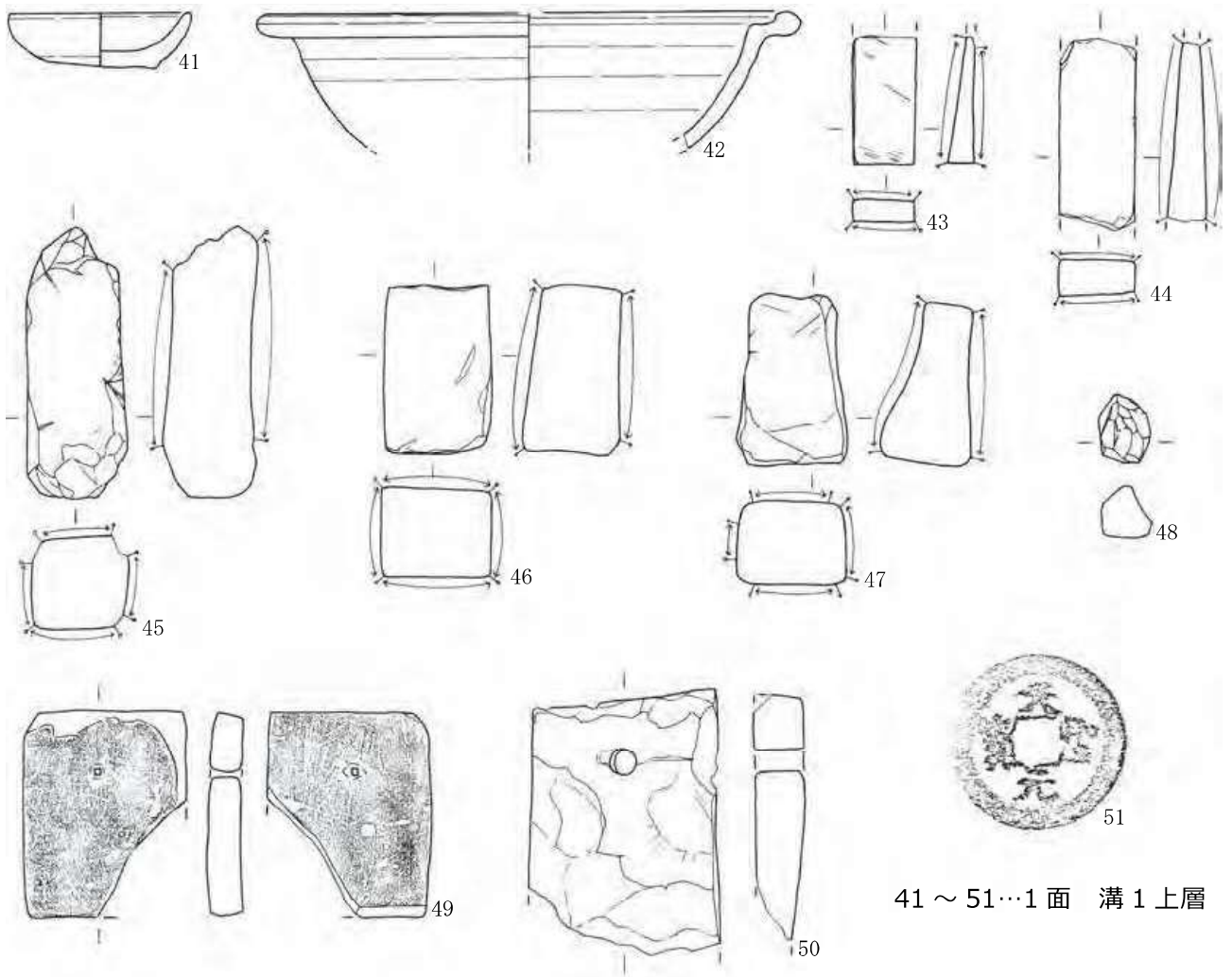
(9) IX期

標高 6.0 ～ 6.1 m 前後で検出された。中世基盤層上の道路硬化面と、その側溝の東岸となる西向きの斜面を確認したのみで、溝底および調査範囲内での西岸斜面の確認には至らなかった。道路面上からの落ち込みの深さは 1.5 m 以上となり、標高 4.5 m までは測ることができた。東岸の斜面には、小規模なピットが散見された。溝は人工的に造られたと見られるが、現地記録に従って「河川」と称しておく。

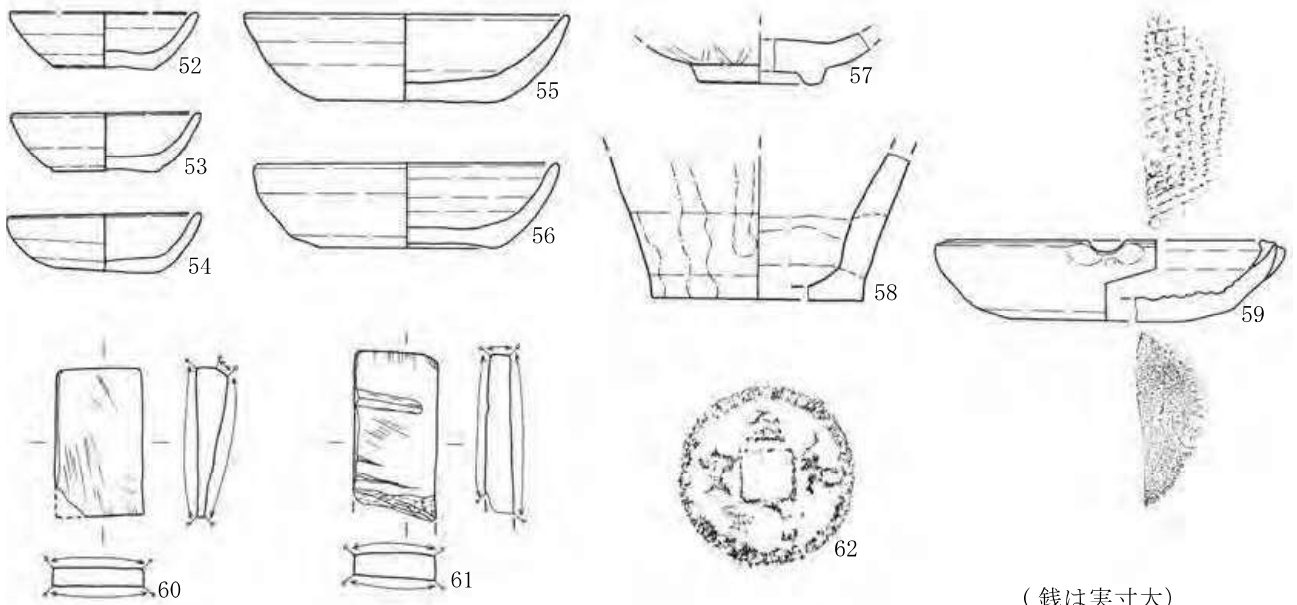
IX期に属する出土遺物は、図 37-442 ～ 445 に示した。現地では「河川下層」として取り上げた資料だが、上述のように遺構の底面を確認していない以上、厳密な意味では埋土「下層」とすることはできない。

第 2 節 出土遺物

上述のように、各時期を通じて本地点の検出遺構は道路整地面およびこの側溝となる南北溝が主体となり、これに土坑や小規模なピットが散見される状況が連綿と続いていた。そのため出土遺物の多くを溝や土坑埋土に混入した土器・陶磁器の破片や木製品が占め、遺存の良好な個体や一括廃棄遺物など、使用状況の復元に資する資料は極めて少なかった。とりわけ溝の出土遺物については新旧の様相を示す個体が混在していたことから、個別の具体例を根拠とした各期年代観の絞り込みは難しく、層位の上下関係に基づいた相対的年代観しか示し得ない。



41 ~ 51...1面 溝1上層



52 ~ 62...1面 溝1下層

(錢は実寸大)
0 5 10cm
(1/3)

図15 出土遺物(3)

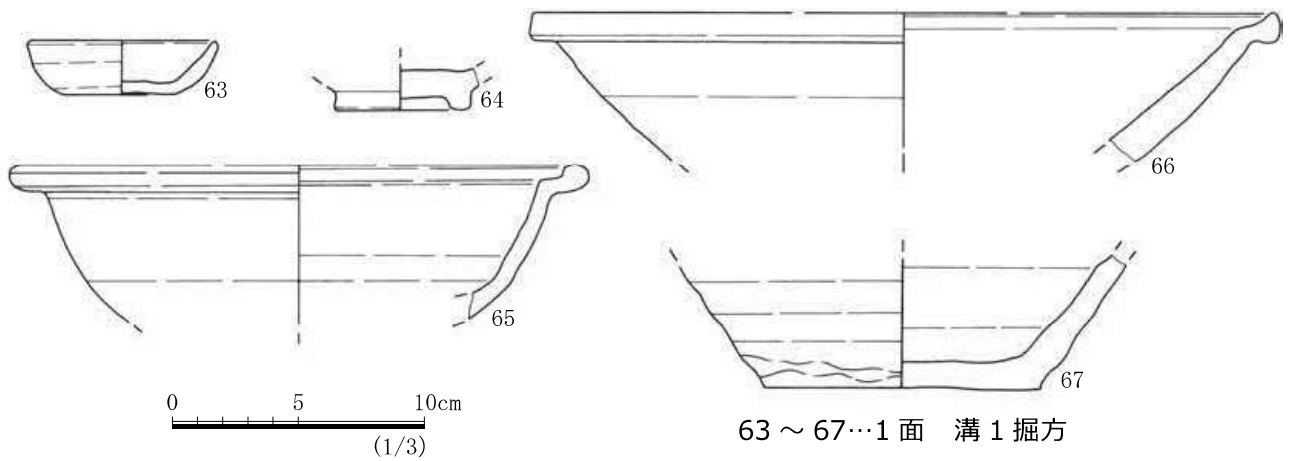


図 16 出土遺物 (4)

以下、各期・各遺構の出土遺物について概要を述べて行く。遺物個々の特徴については表 2 の観察表を参照されたい。

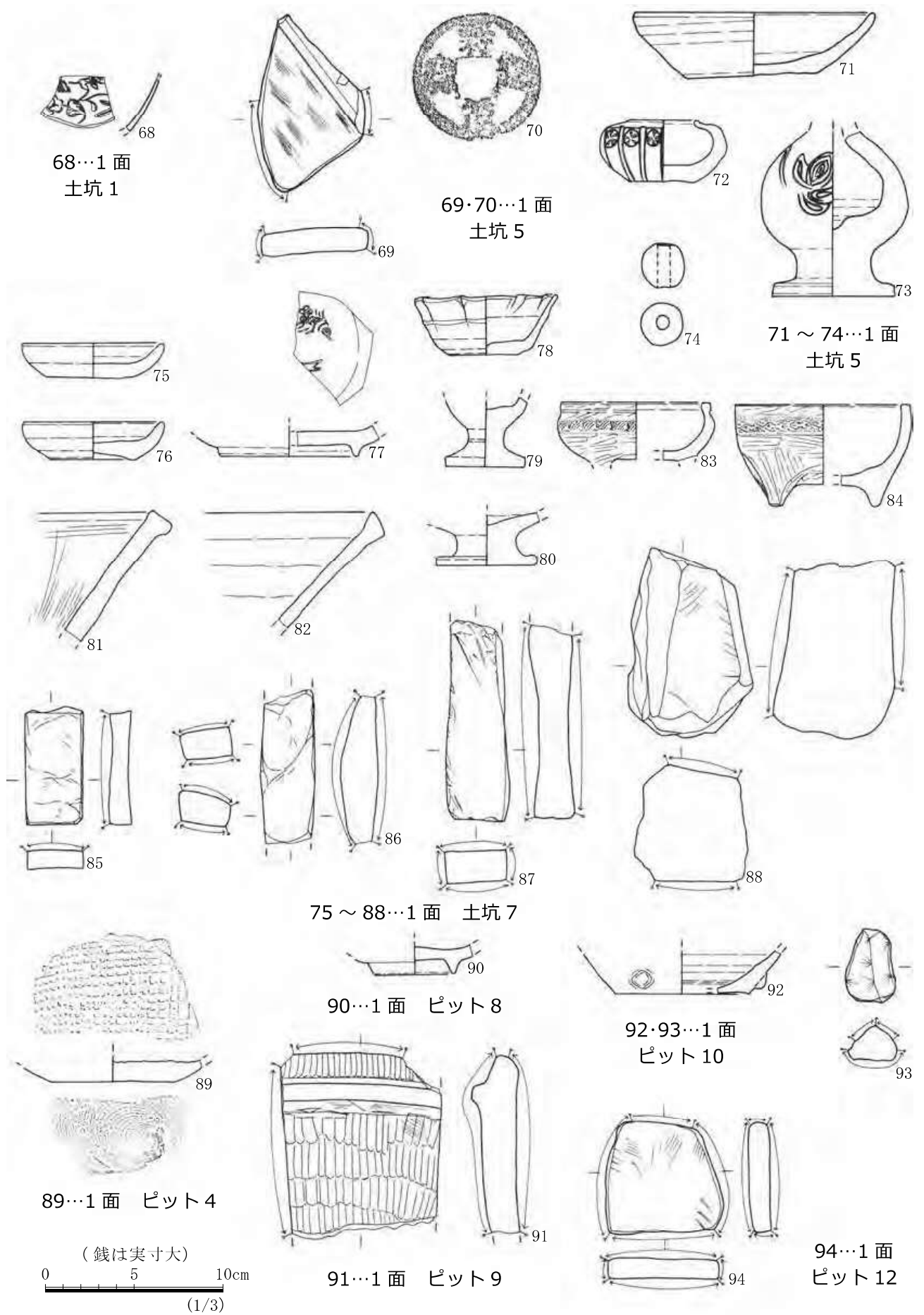
(1) 表土の出土遺物

図 13-1 ～図 14-30 を図示した。近・現代の資料は報告対象から除外した。図示できた資料の大半が中世のものだが、近世資料として 5・6 の肥前系磁器の染付碗や、30 の銅銭「寛永通寶」なども少量ながら提示できた。

(2) I 期の出土遺物

図 14-31 ～ 40 には「1 面」上、図 17-68 ～ 94 には「1 面」土坑・ピットからの出土遺物を掲げた。32 は龍泉窯系青磁の折縁劃花文皿で、鎌倉での類例は少ない。土坑 6 では古瀬戸中期様式前半の資料が出土し (72・73)、土坑 7 の 79・80 などは中期後半以降に下る可能性がある。判断材料は少ないが、14 世紀前葉～中葉が I 期各遺構の上限年代と考えることができる。

図 15-41 ～図 16-67 は、「1 面」～II 期遺構面までに確認された溝 1 からの出土遺物である。掘方では破片ながら古瀬戸中期様式後半の資料が出土しているので (65)、14 世紀中葉頃を一応の年代的上限に置くことができる。



68...1面
土坑1

69・70...1面
土坑5

71～74...1面
土坑5

75～88...1面 土坑7

89...1面 ピット4

90...1面 ピット8

92・93...1面
ピット10

91...1面 ピット9

94...1面
ピット12

(錢は実寸大)
0 5 10cm
(1/3)

図17 出土遺物(5)

(3) II期の出土遺物

図 18-95～図 19-139 には、II期の各遺構から出土した遺物を掲げた。溝 1 ではほぼ完形のかわらけ小皿が 5 点出土している (95～99)。身深で内湾気味の体部を持ち、口縁は直線的ないし若干外向きに開く。道路貼り増し土中から出土した古瀬戸卸皿 (123) は、前期末～中期前半の製品か。125 の常滑小型広口壺 (不識壺) は縁帯～胴部の形状が 10 型式に近く、生産地年代では 15 世紀後半に位置付けられてしまうことになる。119～122 のかわらけは、14 世紀代より大きく下ることはないだろう。

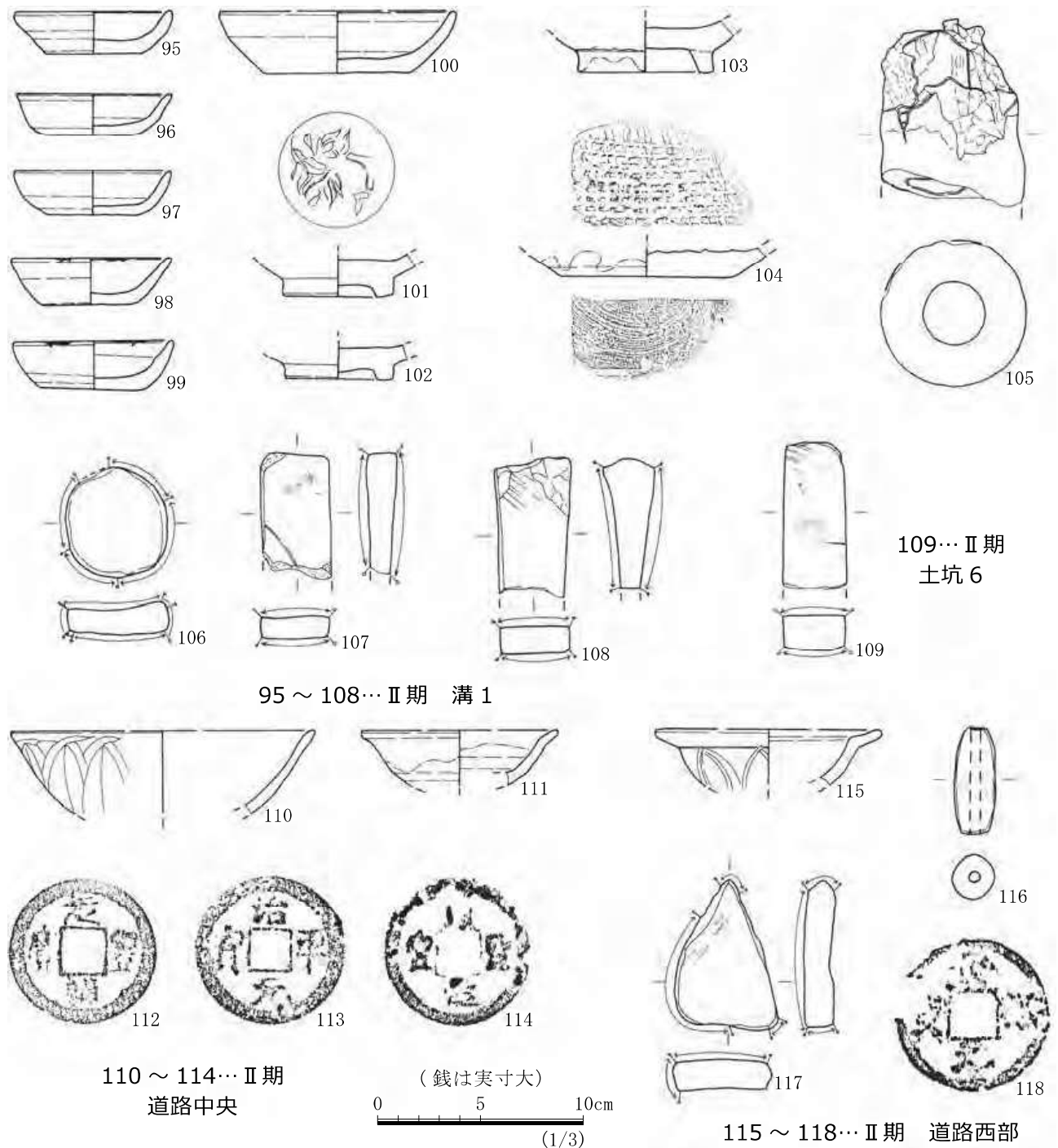
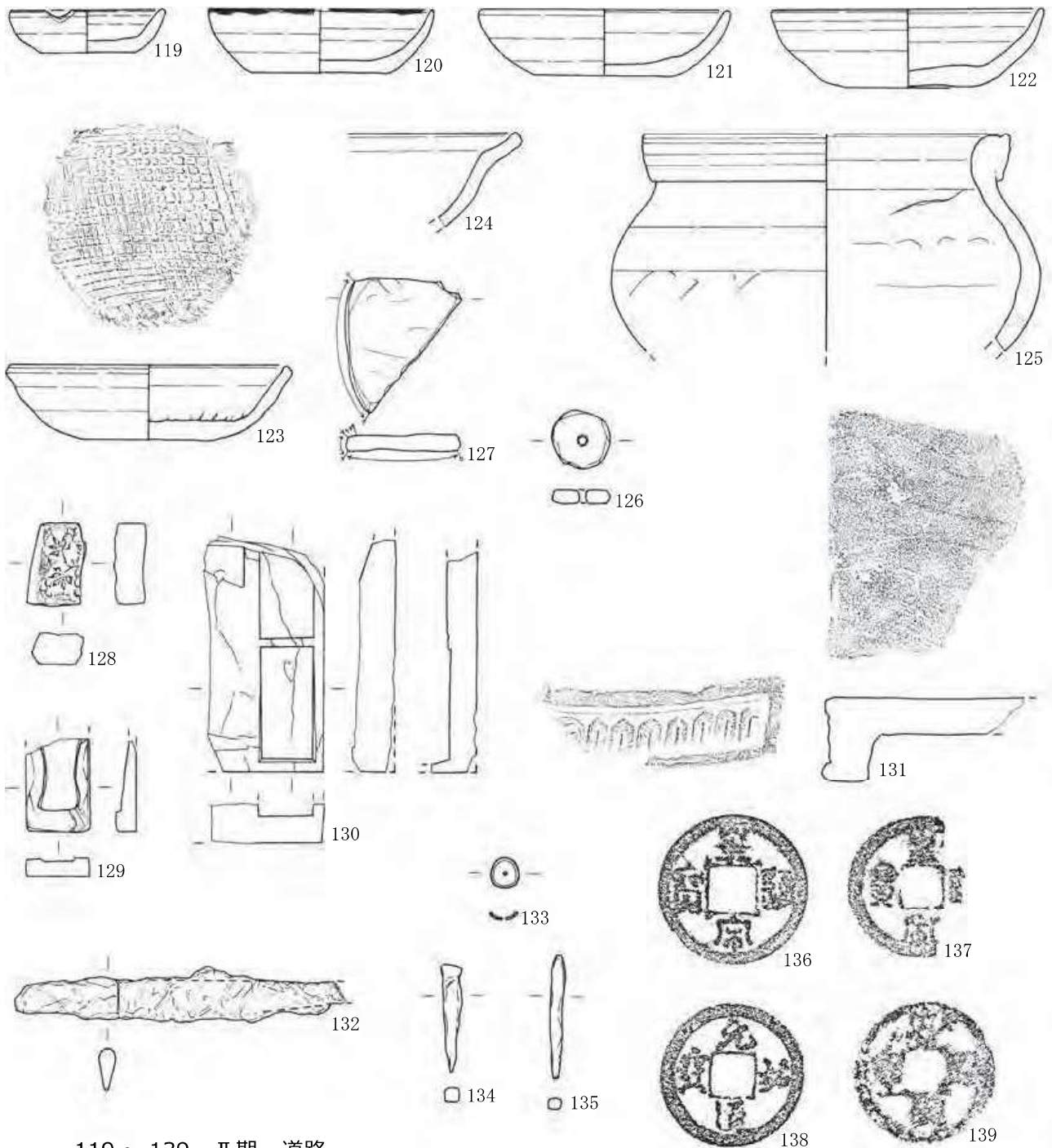


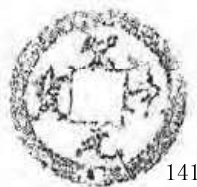
図 18 出土遺物 (6)



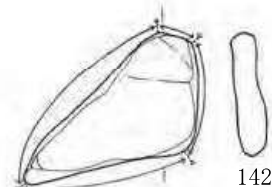
119 ~ 139…Ⅱ期 道路
貼り増し土



140…Ⅲ期 道路
貼り増し土



141…Ⅳ期 道路面上



142…Ⅳ期 道路 貼り増し土

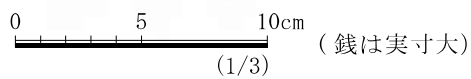
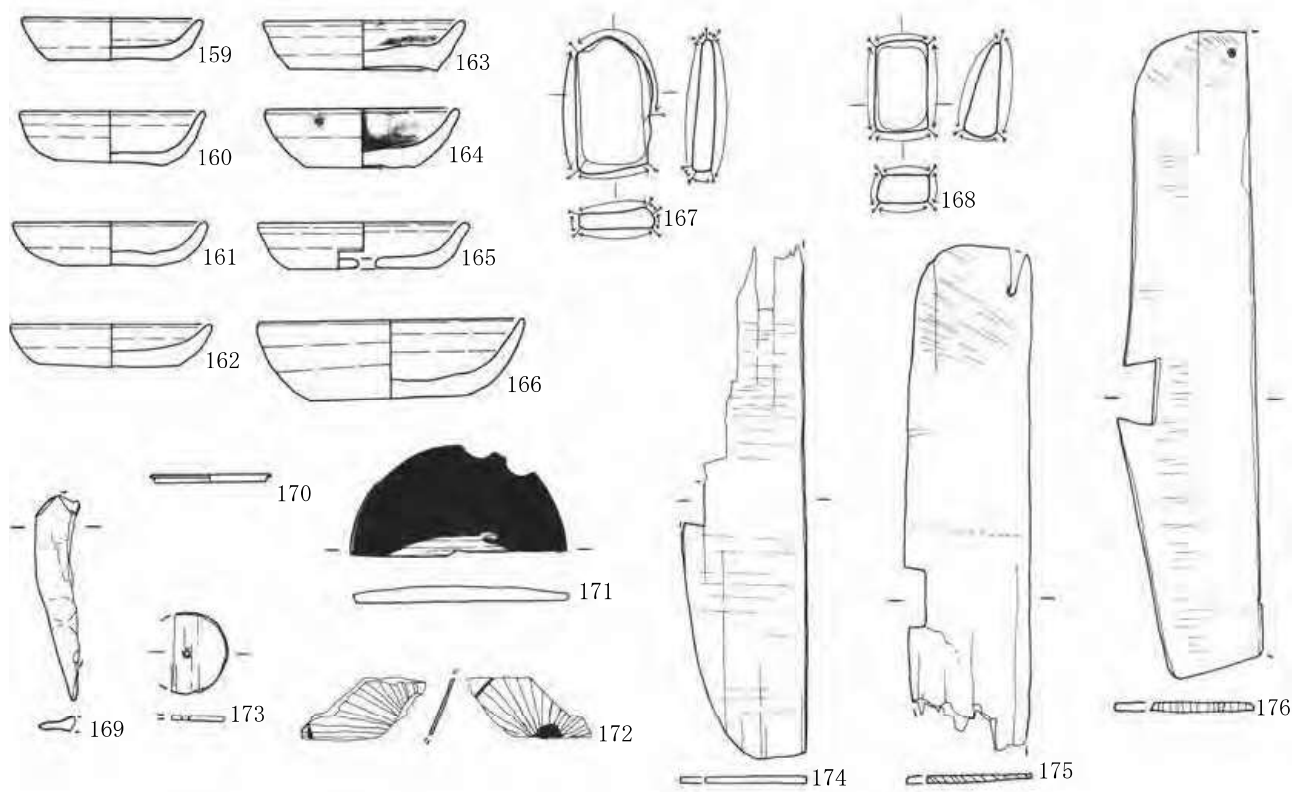
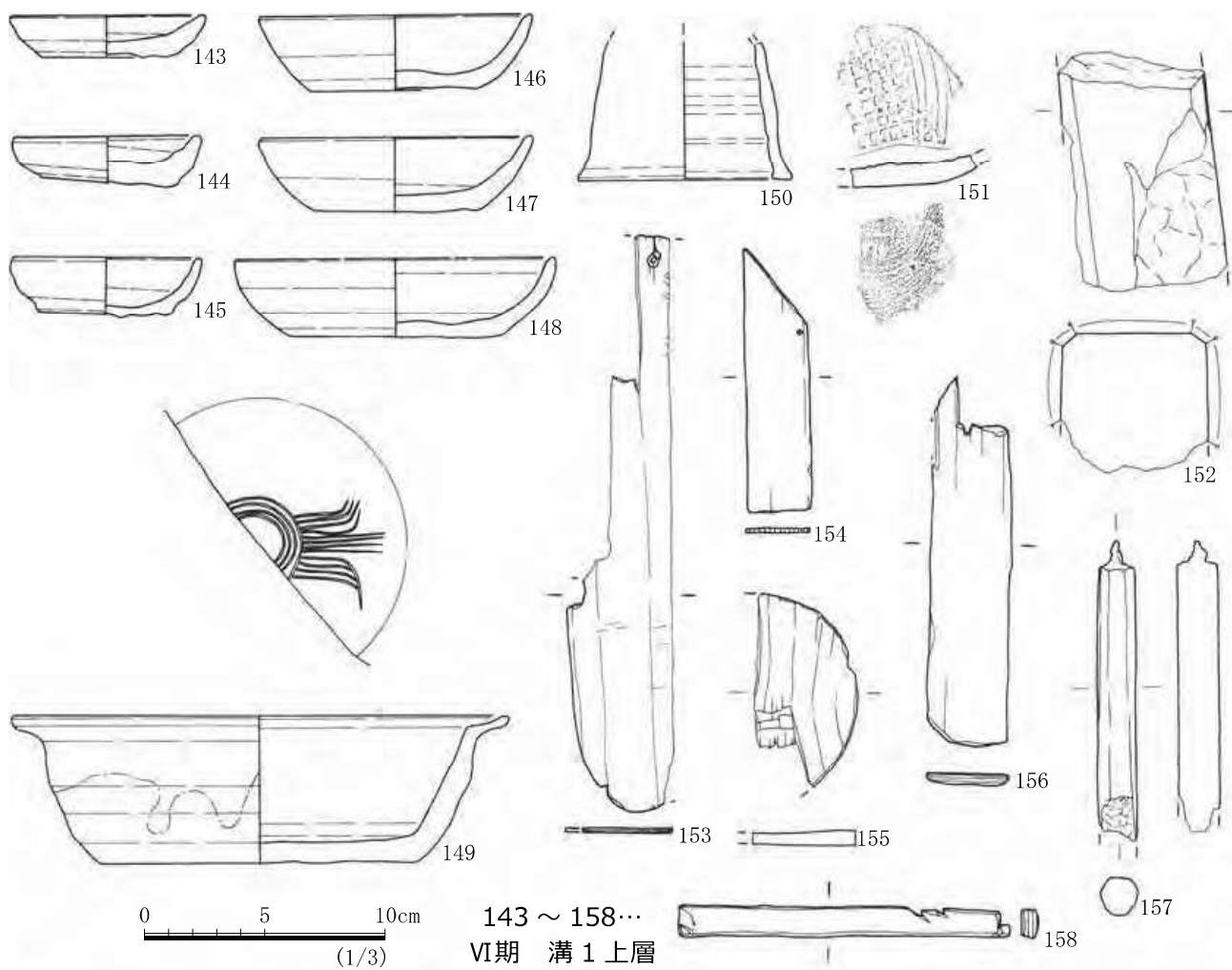
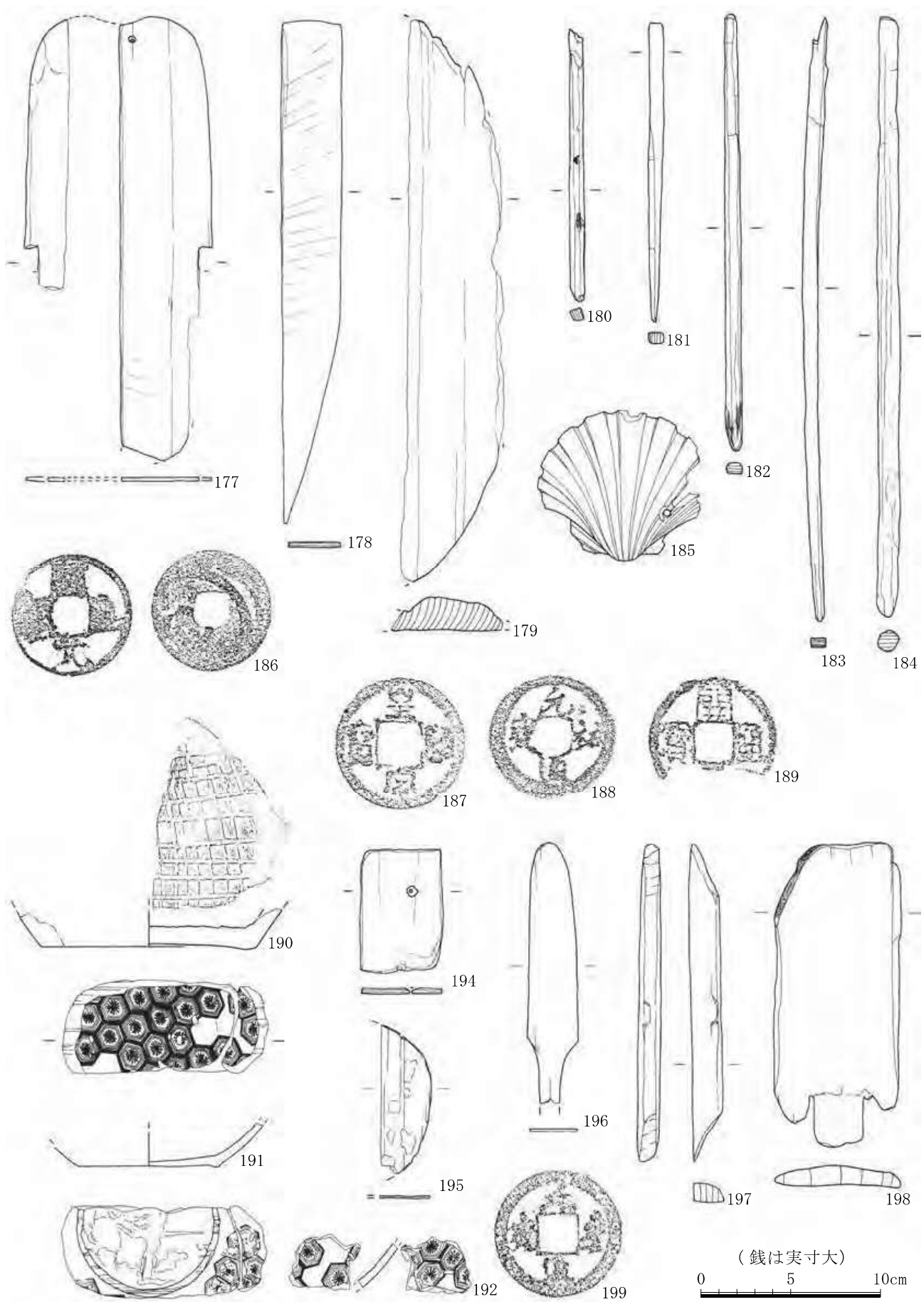


図19 出土遺物(7)



159 ~ 176...VI期 溝1下層
圖 20 出土遺物 (8)



177 ~ 199...VI期 溝1 掘方
 図21 出土遺物 (9)

(4) III期の出土遺物

図示できたのは、図 19-140 の古瀬戸卸皿の小片 1 点のみである。中期後半頃の製品か。

(5) IV・V期の出土遺物

IV期の遺物として、道路面上および貼り増し土からの出土遺物を、図 19-141・142 に示した。

V期に属する出土遺物については、図示できる資料がなかった。

(6) VI期の出土遺物

溝 1 からの出土遺物は、埋土中の層位ごとに図 20-143 ~ 図 22-208 に掲げた。上層出土の古瀬戸折縁皿 (149) は底部内面に櫛描き文が施され、中期前半までの所産か。これを基準にすれば、13 世紀末 ~ 14 世紀前葉という上限年代が想定できる。図 22-209・210 は道路整地層から、211 は落ち込み遺構からの出土である。

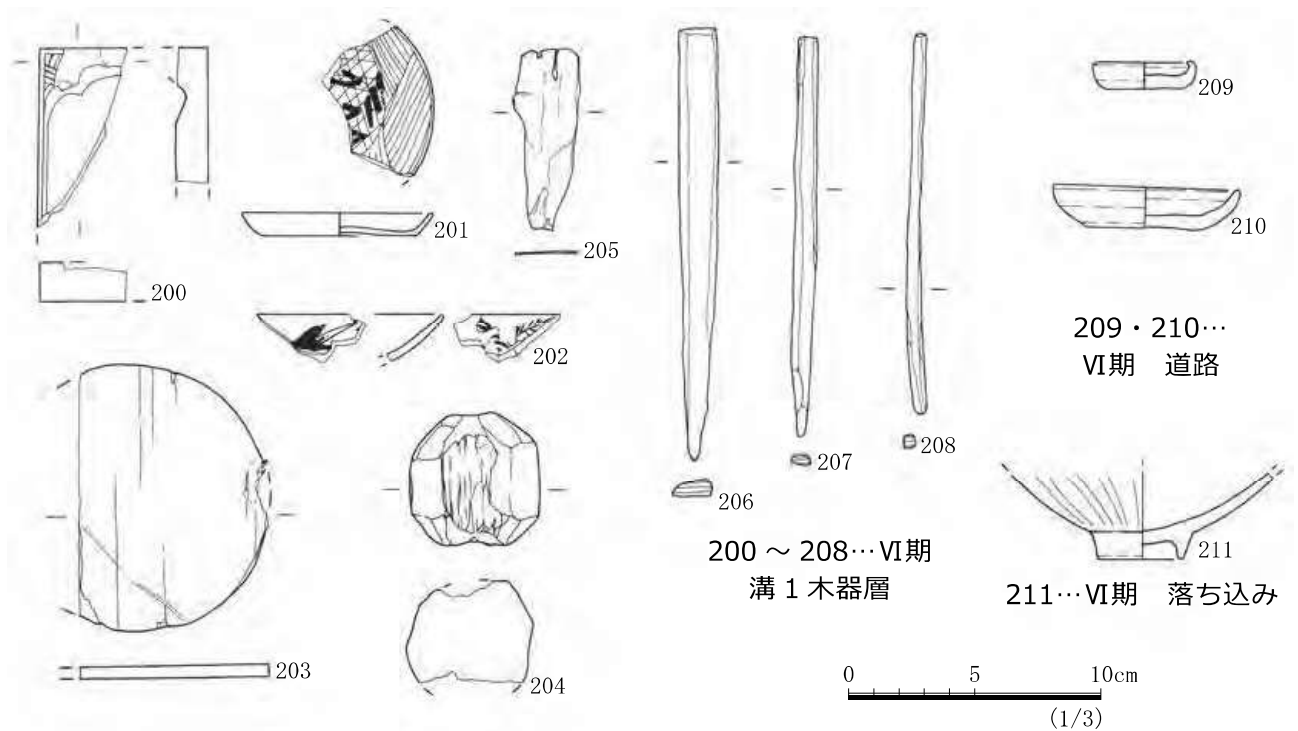
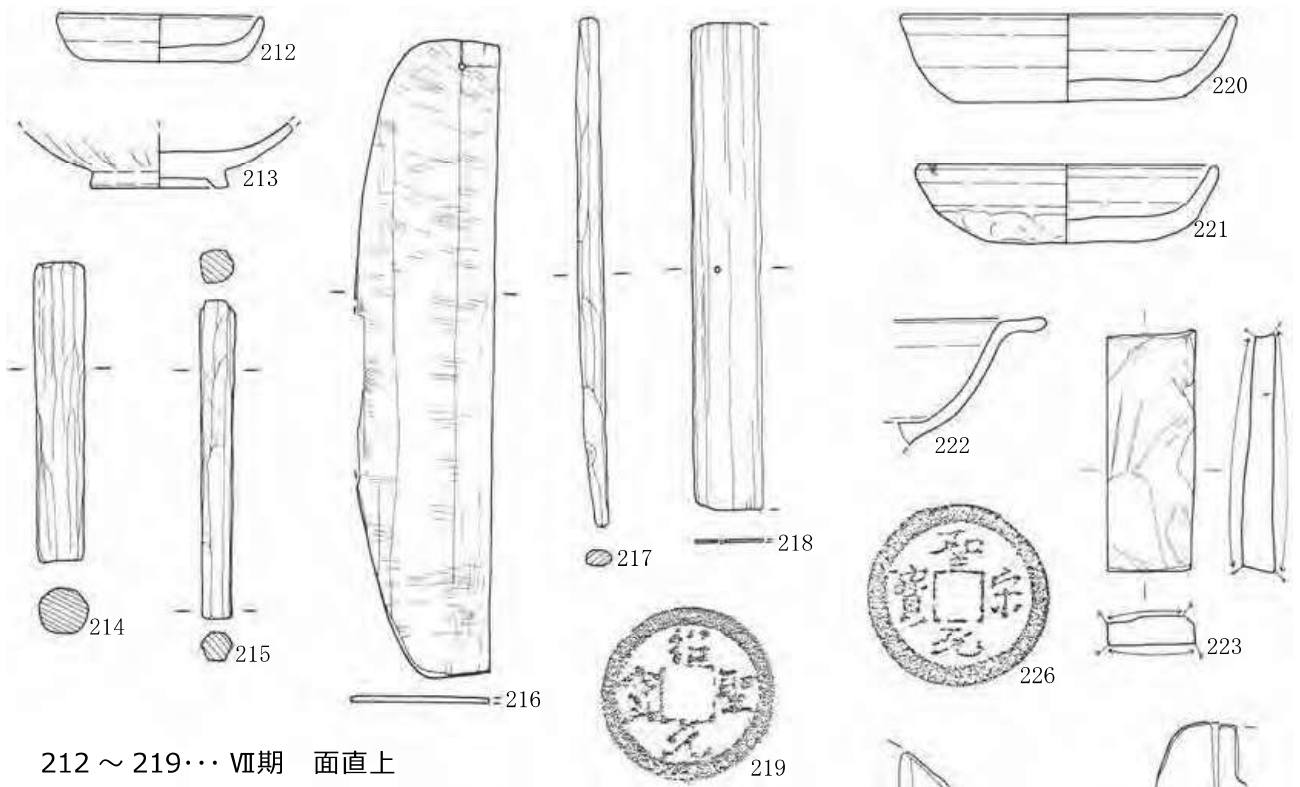
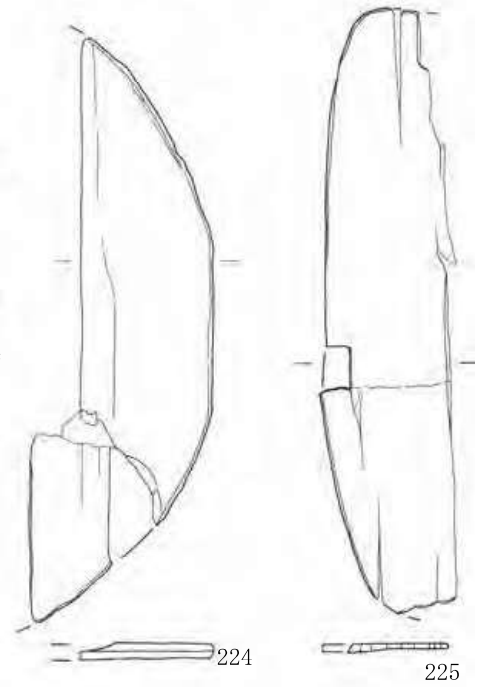
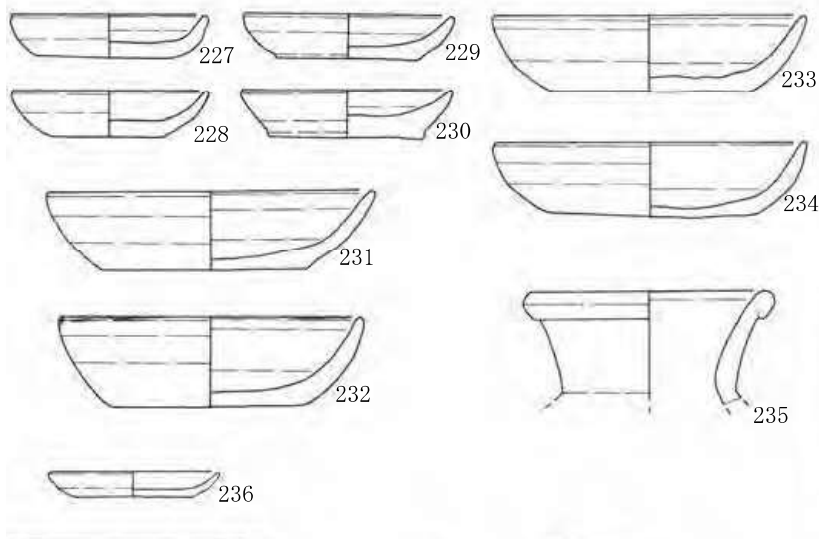


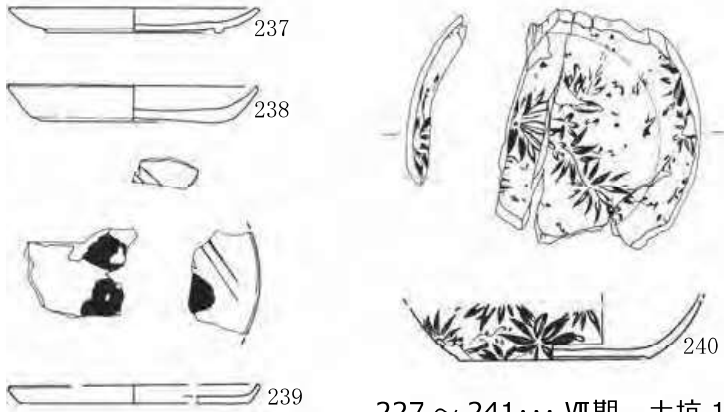
図 22 出土遺物 (10)



212 ~ 219... Ⅶ期 面直上



220 ~ 226... Ⅶ期 溝 1



227 ~ 241... Ⅶ期 土坑 1

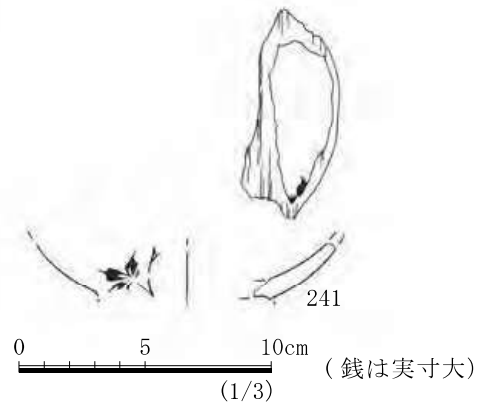
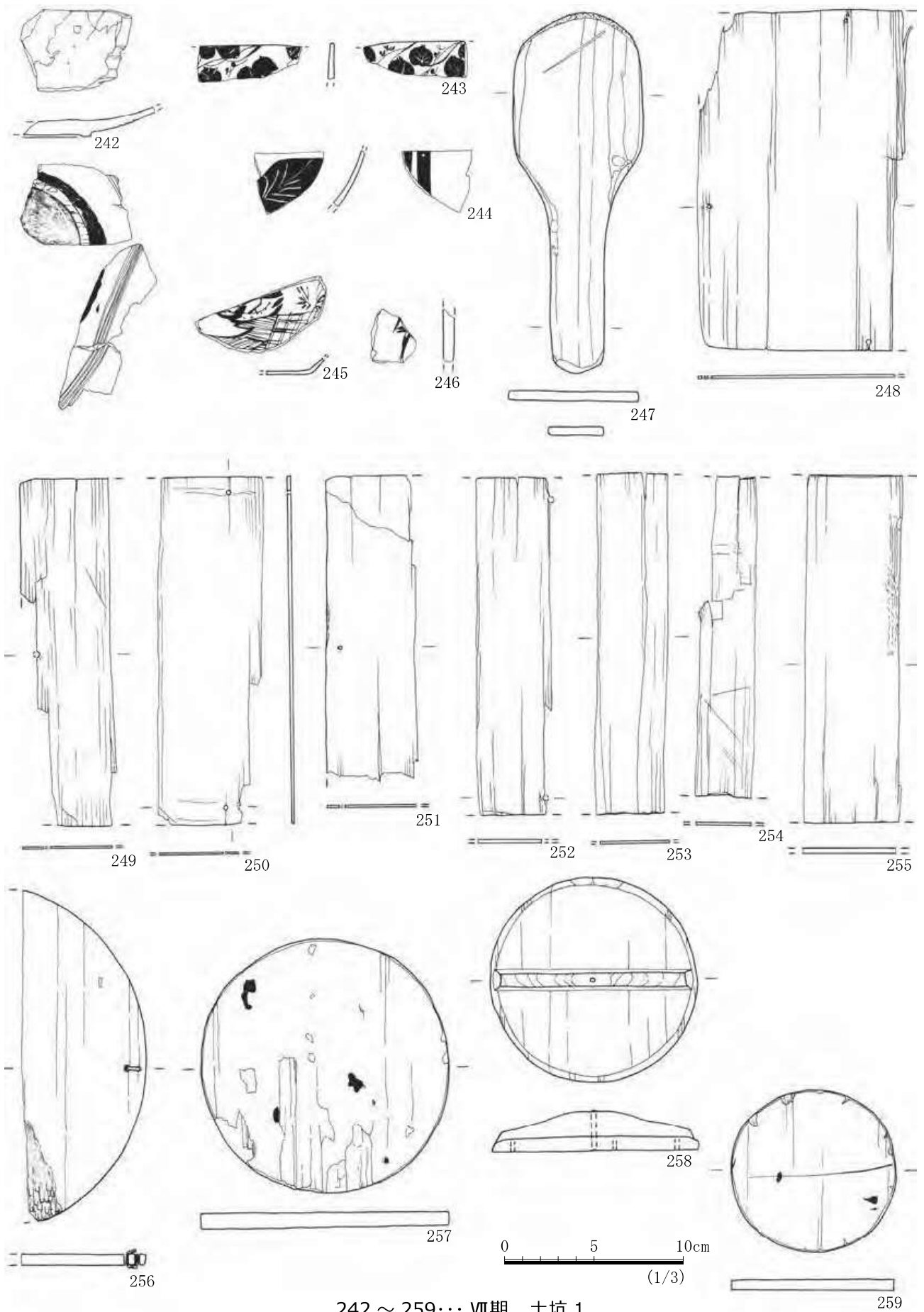
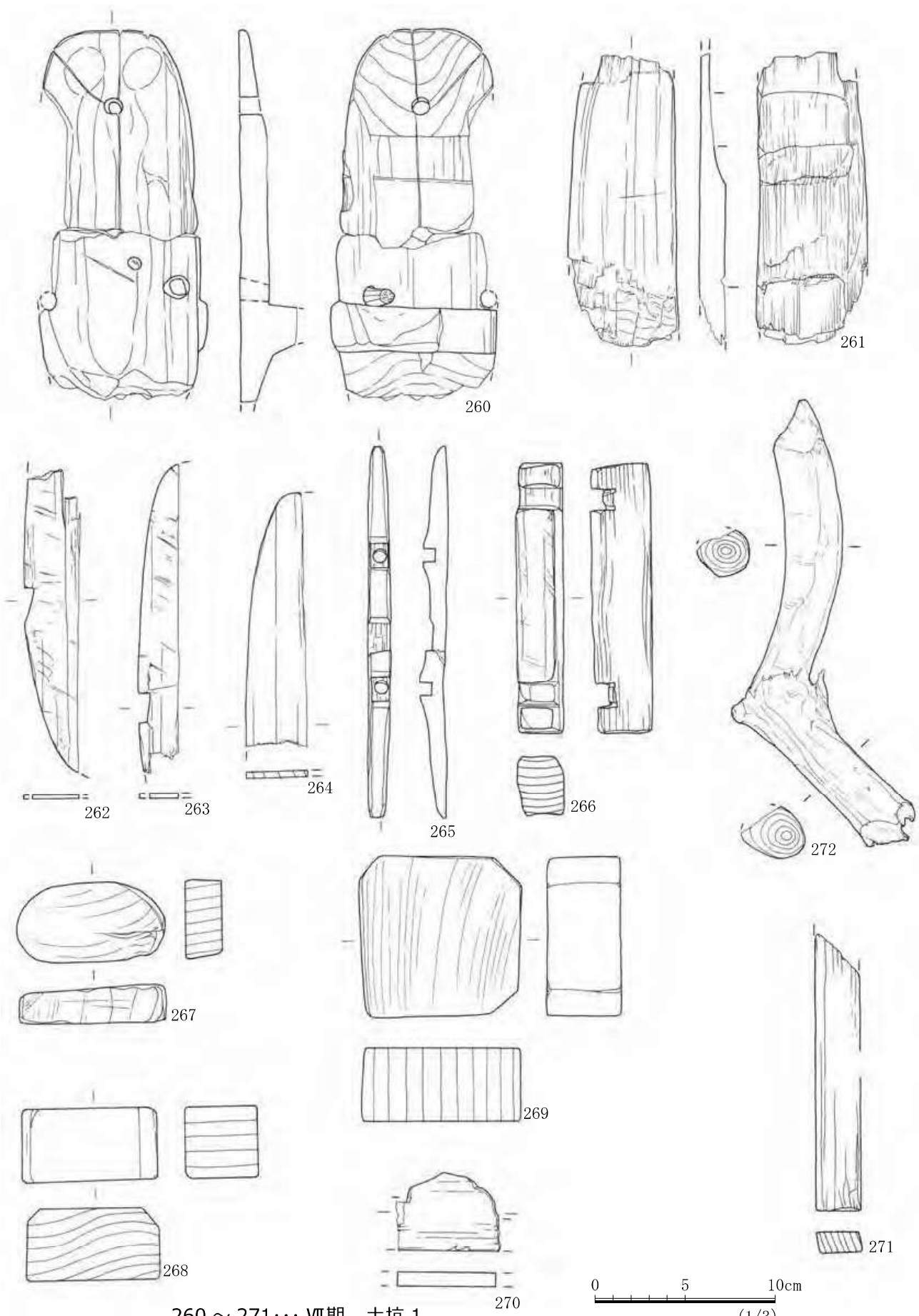


图 23 出土遺物 (11)

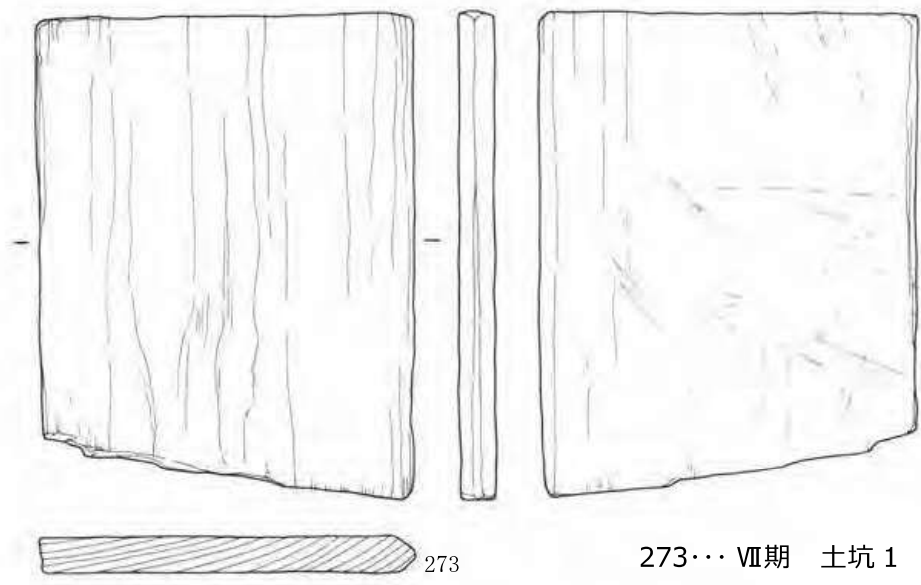


242 ~ 259... VII期 土坑 1
 图 24 出土遺物 (12)

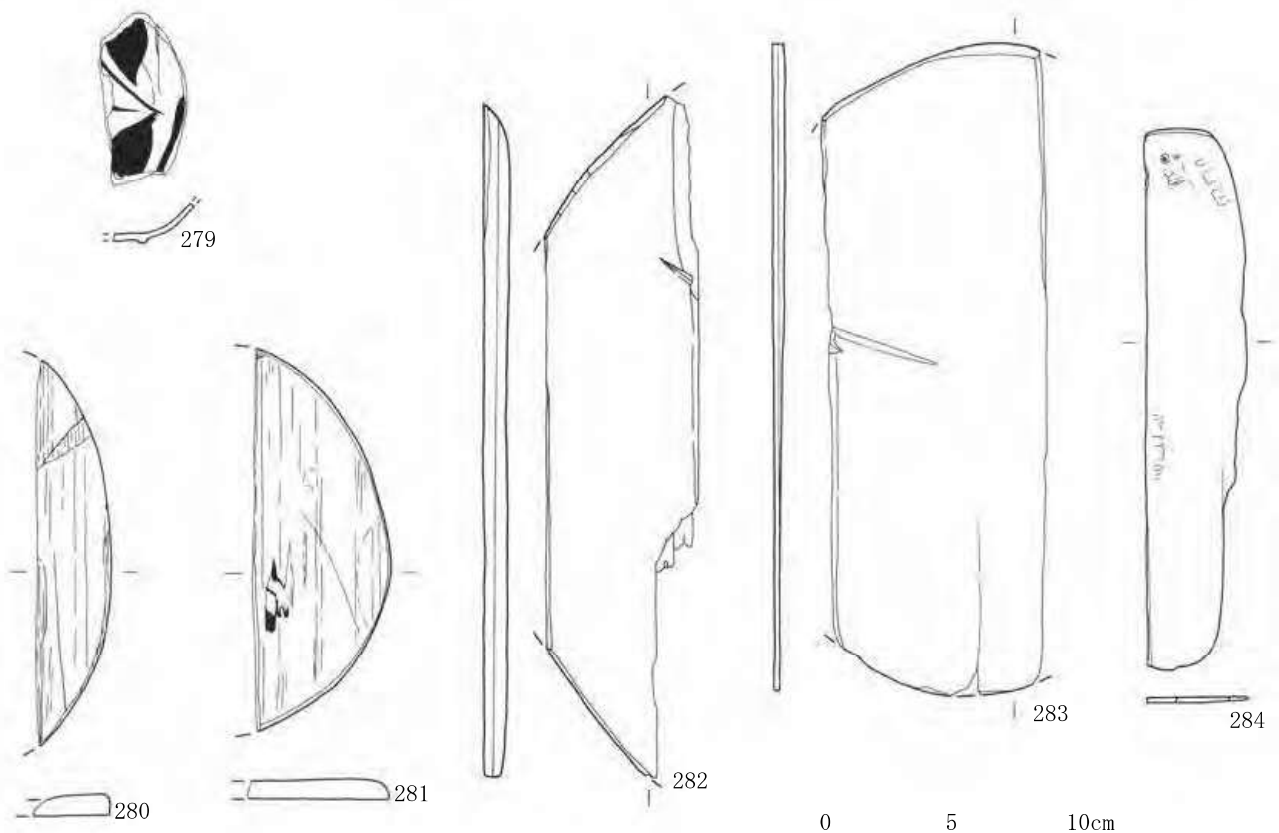
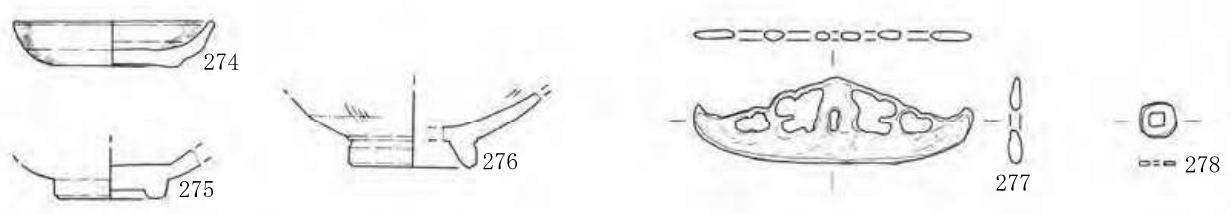


260 ~ 271... VII期 土坑 1

图 25 出土遺物 (13)



273...Ⅵ期 土坑 1



274 ~ 284...Ⅵ期 木器層

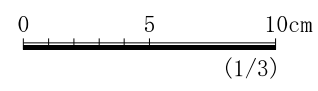
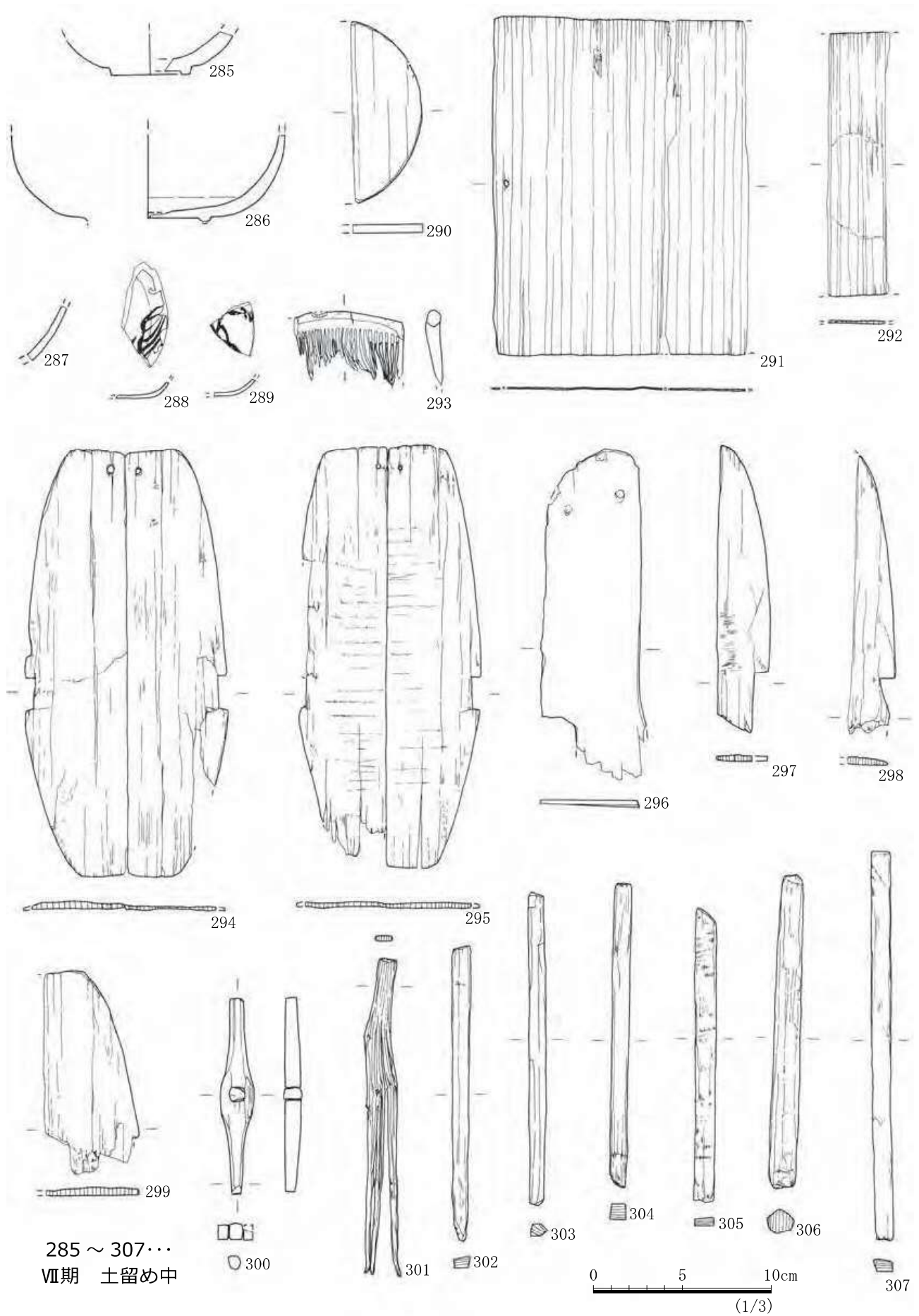
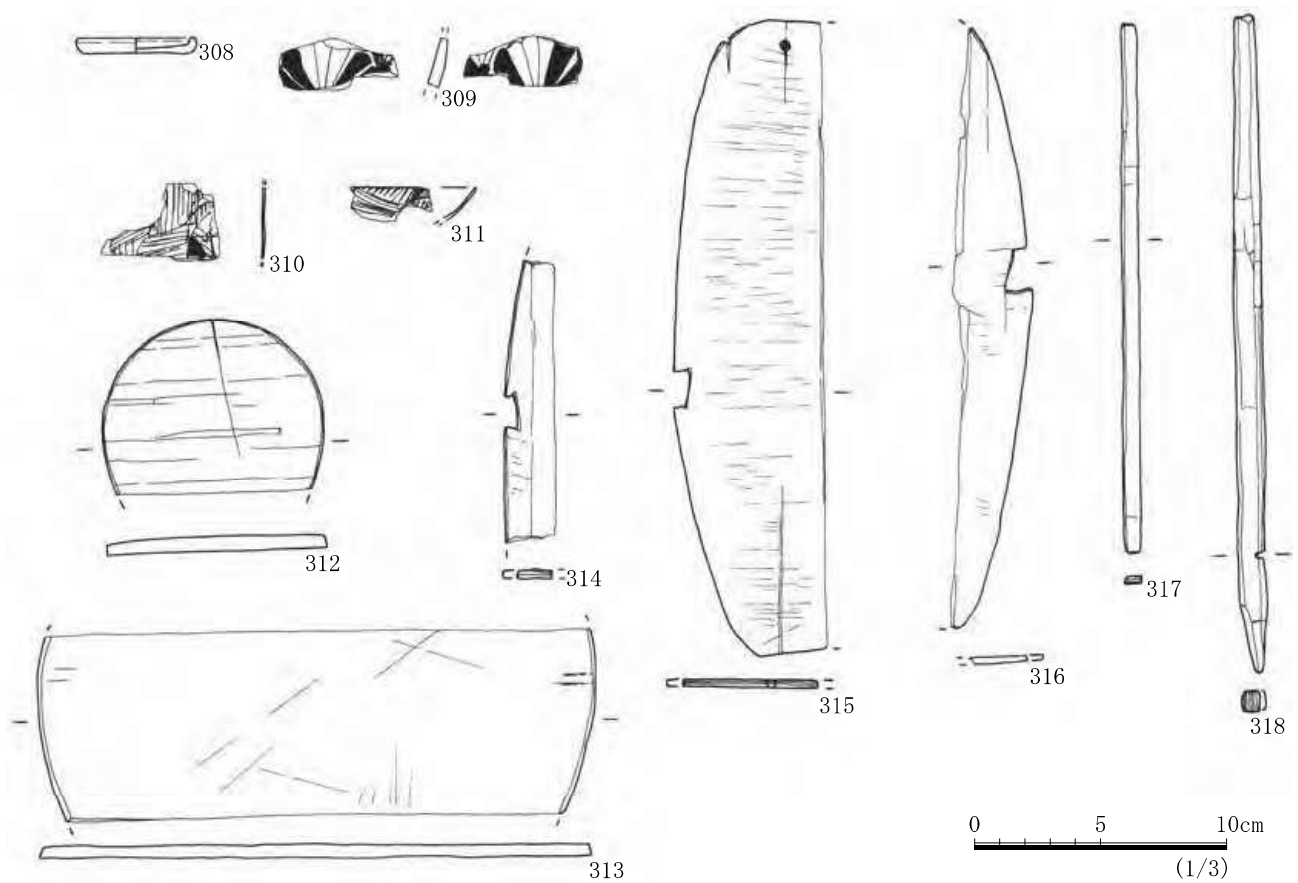


图 26 出土遺物 (14)



285 ~ 307...
Ⅶ期 土留め中

图 27 出土遺物 (15)



308 ~ 318... VII期 落ち込み

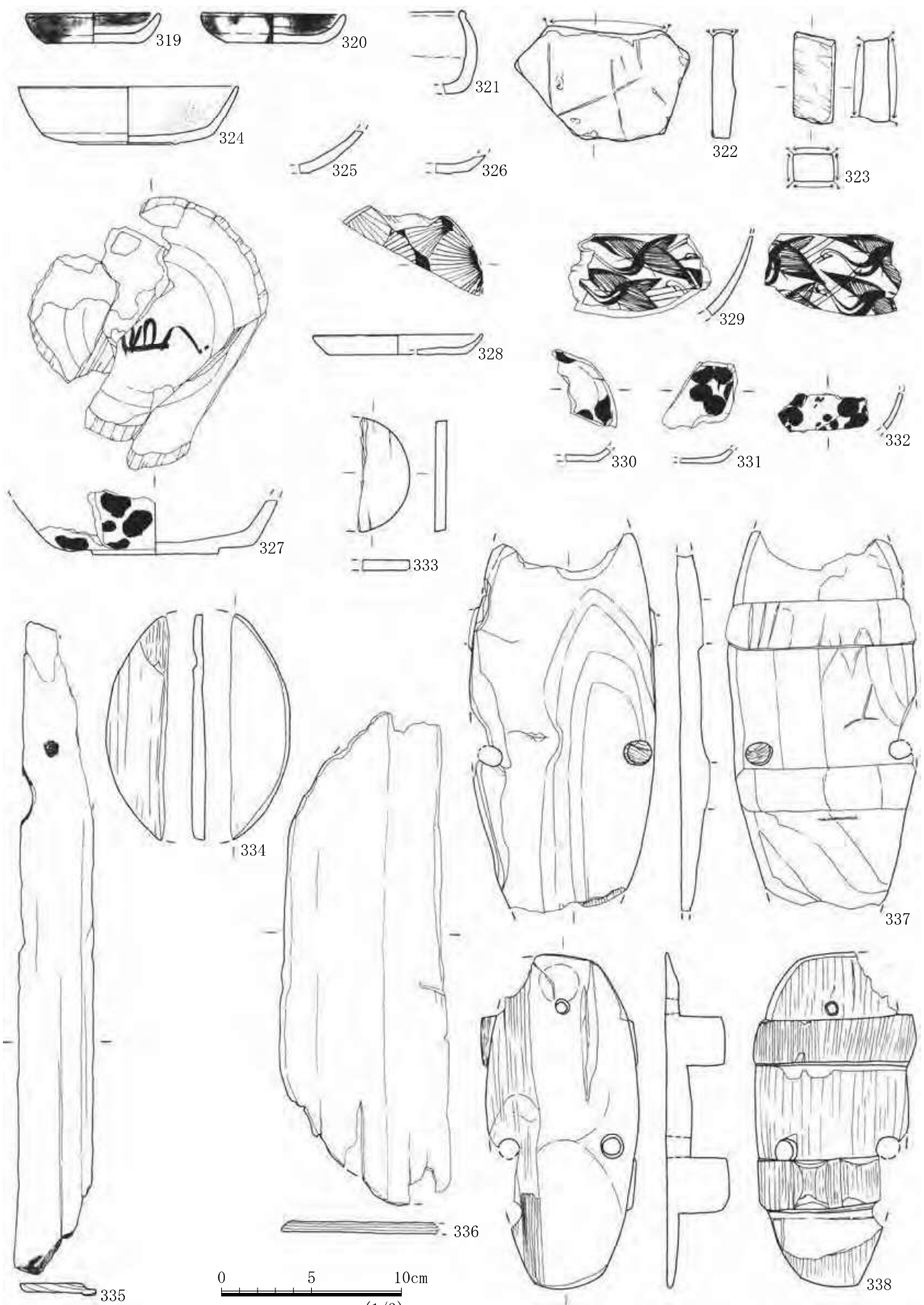
図 28 出土遺物 (16)

(7) VII期の出土遺物

図 23-212 ~ 219 は面上から、220 ~ 226 は溝 1 からの出土遺物である。

図 23-227 ~ 図 26-273 は土坑 1 からの出土で、漆器を含む木製品が主体となる。箸状木製品については一括廃棄の状況を呈し、大量に出土した。このため図示は省略し、完存資料のみを用いた全長分布のグラフを図 39・41 に示した。箸状の他にも多様な木製品が出土したが、完形資料は僅少であった。258 の容器蓋は把手が外れずに残った資料で、小型の曲げ物などとセットになっていたものだろう。

図 26-274 ~ 284 は溝 1 埋土の「木器層」中、図 27-285 ~ 307 は溝 1 の土留め周辺、図 28-308 ~ 318 は落ち込みから出土した。



319 ~ 338... Ⅷ期 溝1 上層

图 29 出土遺物 (17)

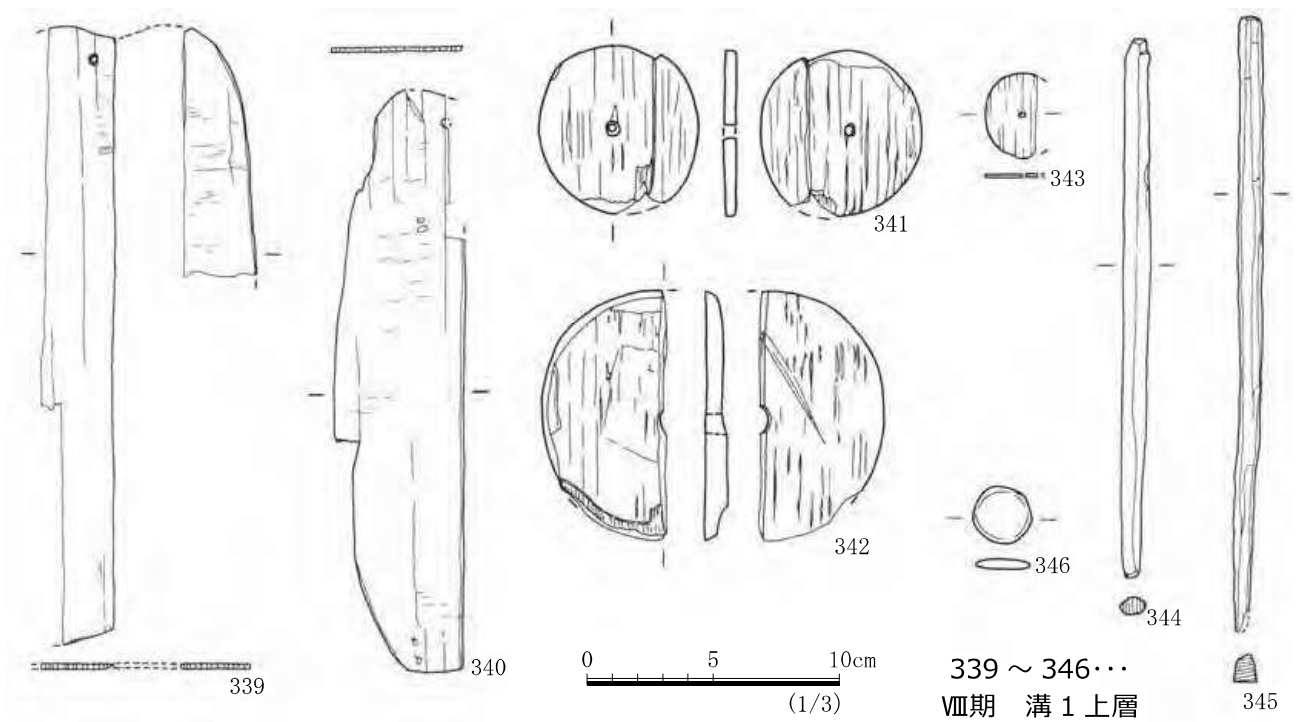


図30 出土遺物(18)

(8) VIII期の出土遺物

図29-319～図36-429と図37-448には、溝1の出土遺物を埋土層位ごとに掲載した。多種・多様な木製品が主体となる。

図37-430～441は、溝2の出土遺物である。

(9) IX期の出土遺物

図37-442～445は、最初期の道路側溝ともいえる「河川」の埋土から出土した。埋土を掘削できた範囲がごく狭いため、出土量は僅少であった。

(10) その他の出土遺物

調査区南壁の土層断面からの出土遺物を図37-446・447に示した。両資料の出土層位は、図3に「※」で表示した。

また、図38には整理作業時に実測対象としての選別から漏れていたため後日追加で実測した資料を掲載した。

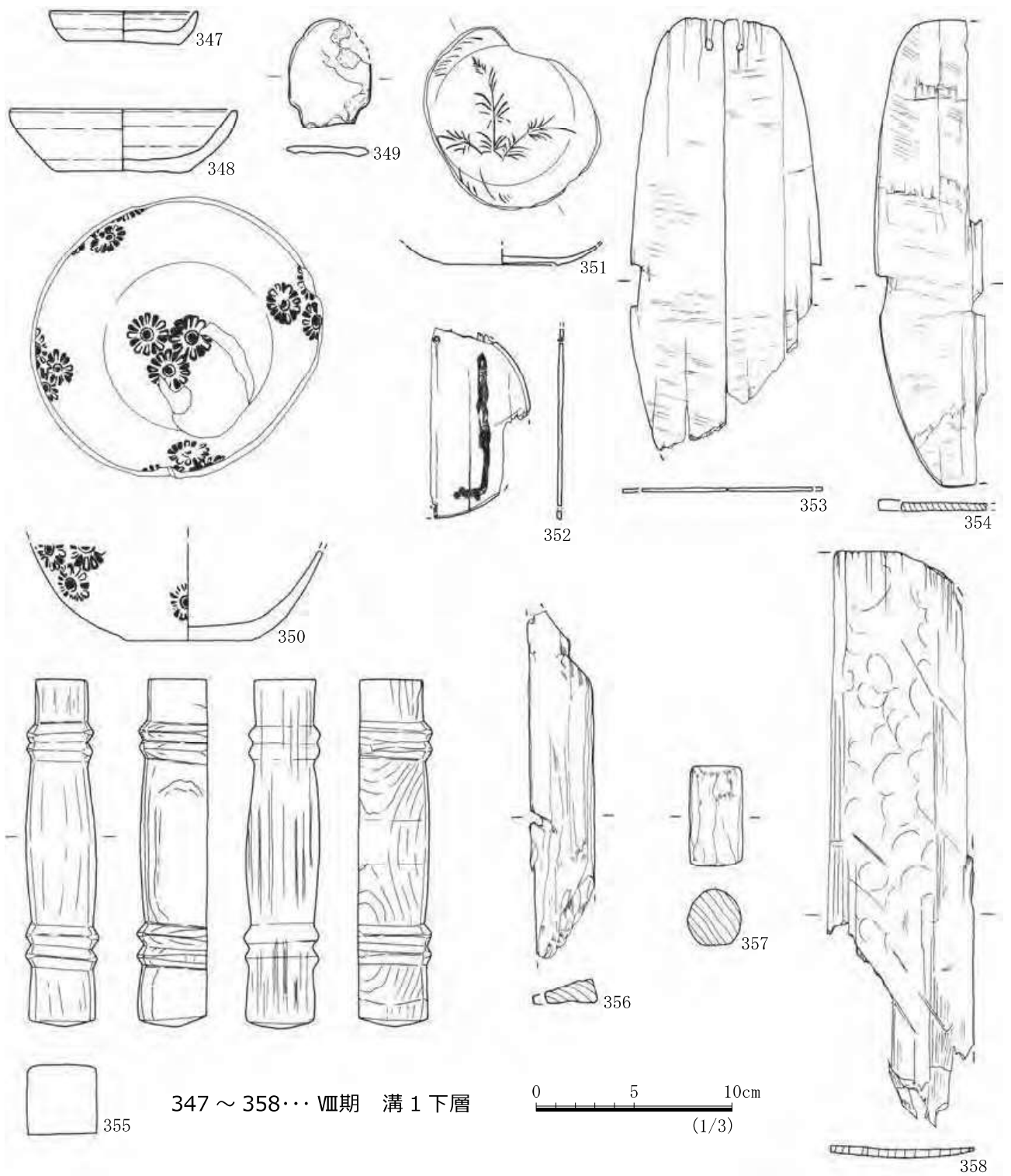
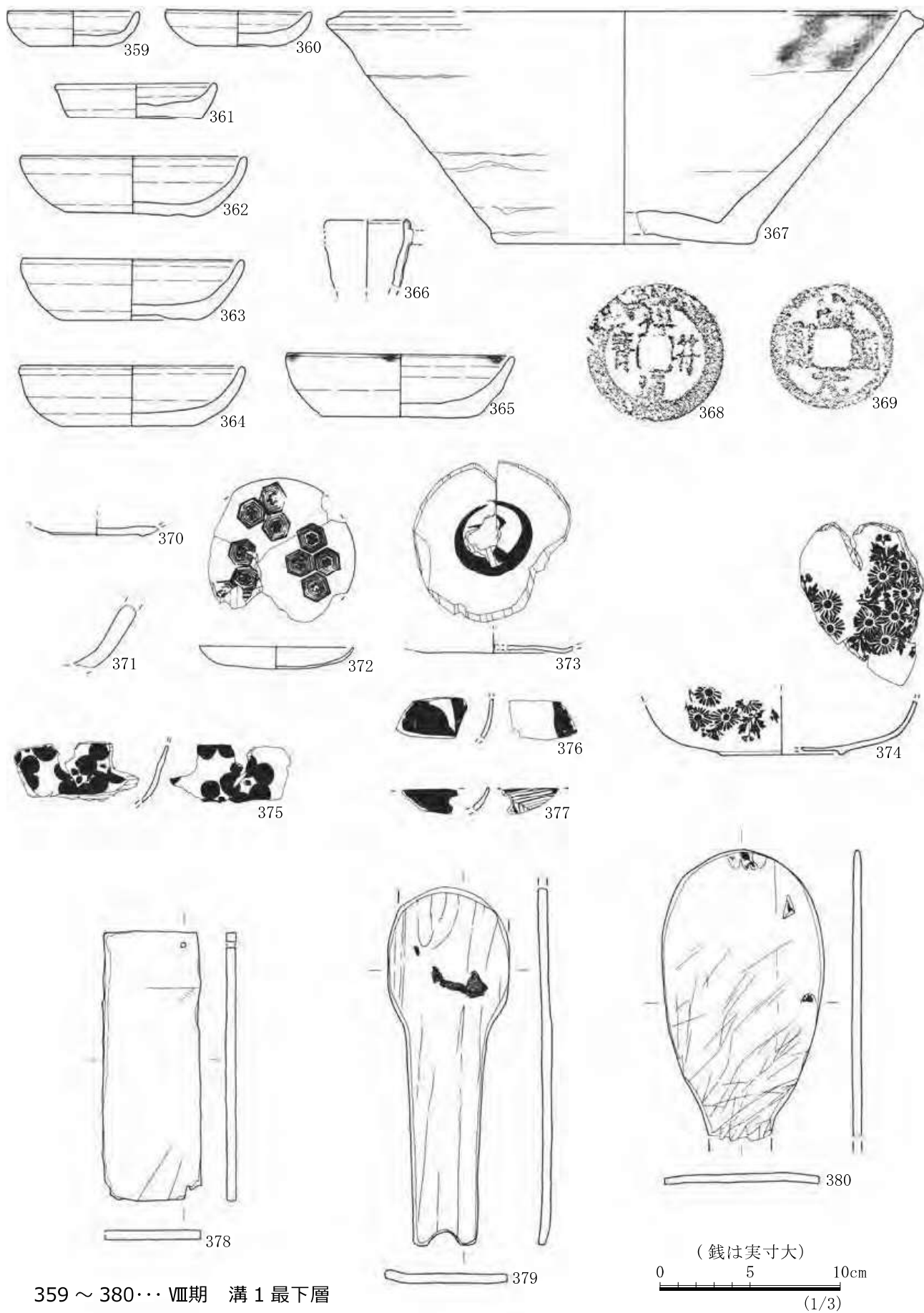
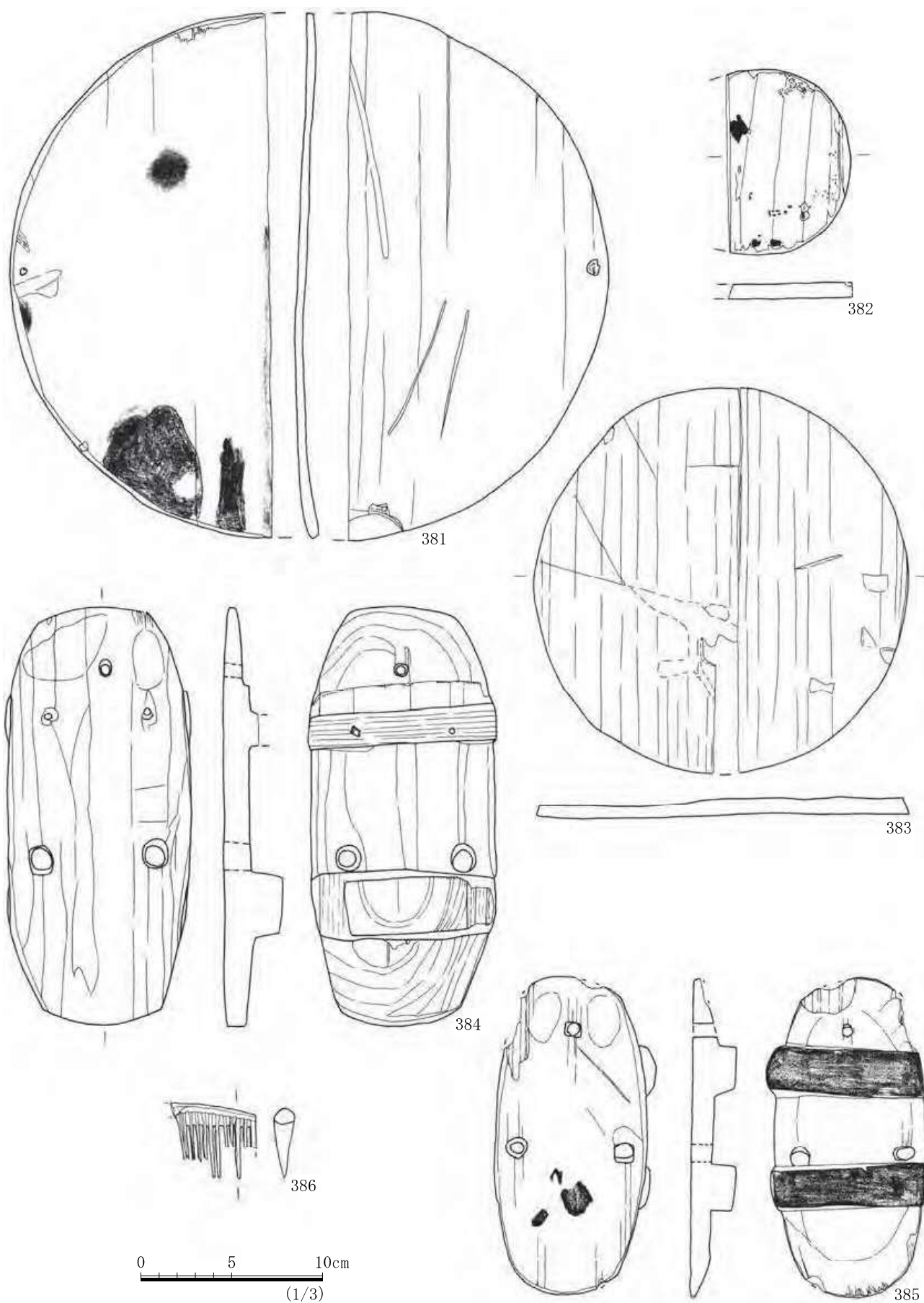


图 31 出土遺物 (19)



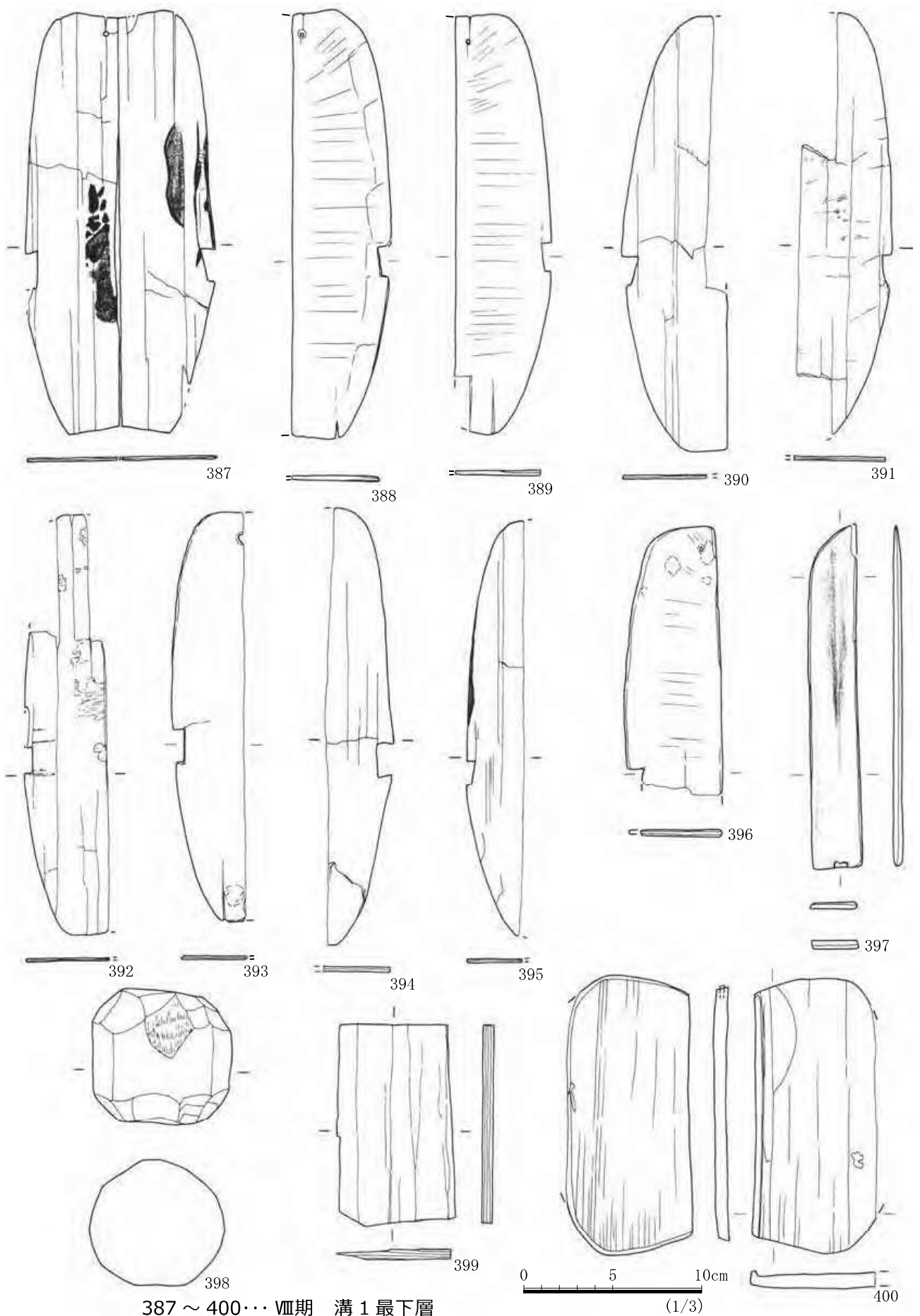
359 ~ 380... Ⅷ期 溝 1 最下層

図 32 出土遺物 (20)

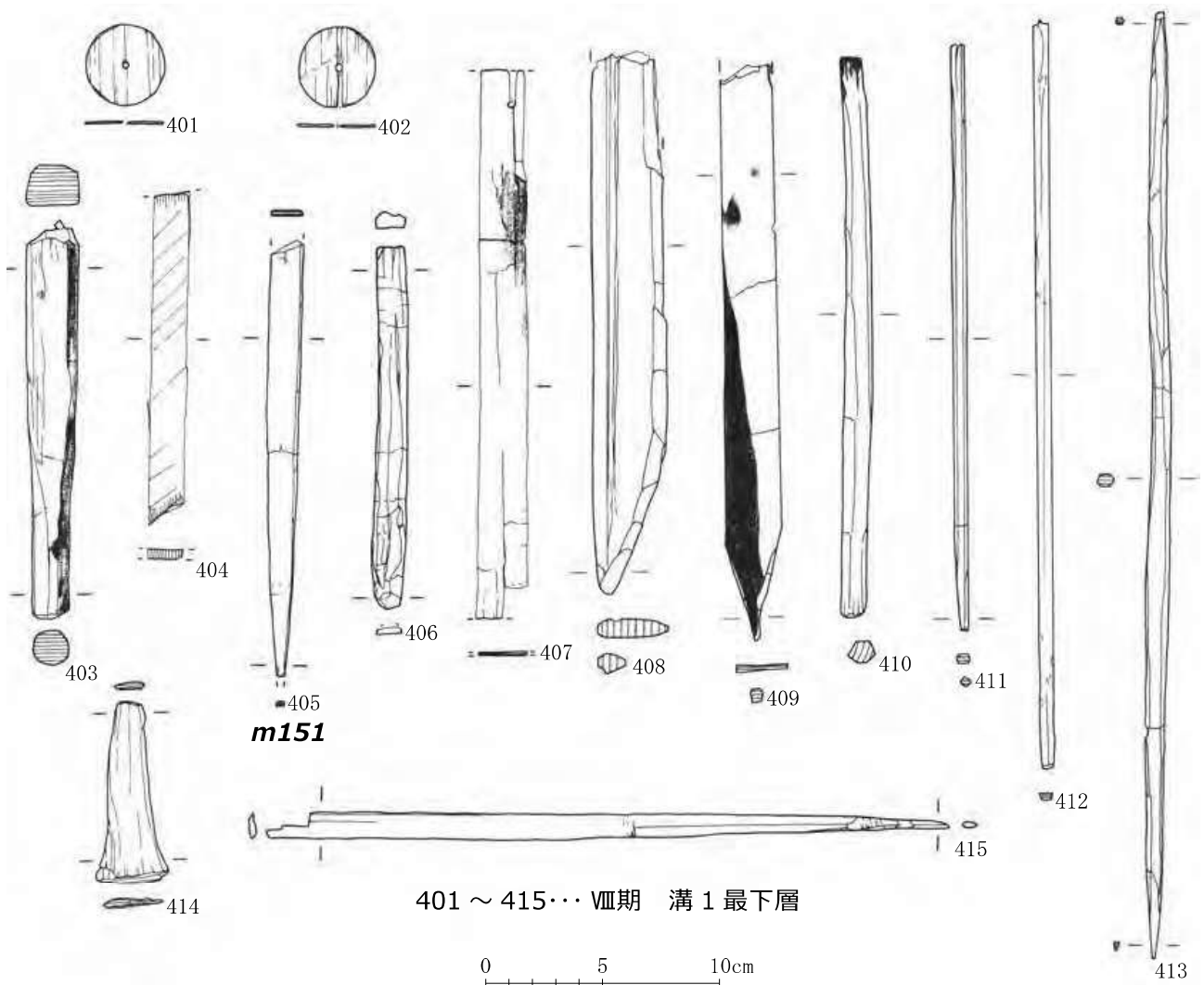


381 ~ 386... VIII期 溝1 最下層

图 33 出土遺物 (21)



387 ~ 400... Ⅷ期 溝 1 最下層
 图 34 出土遺物 (22)

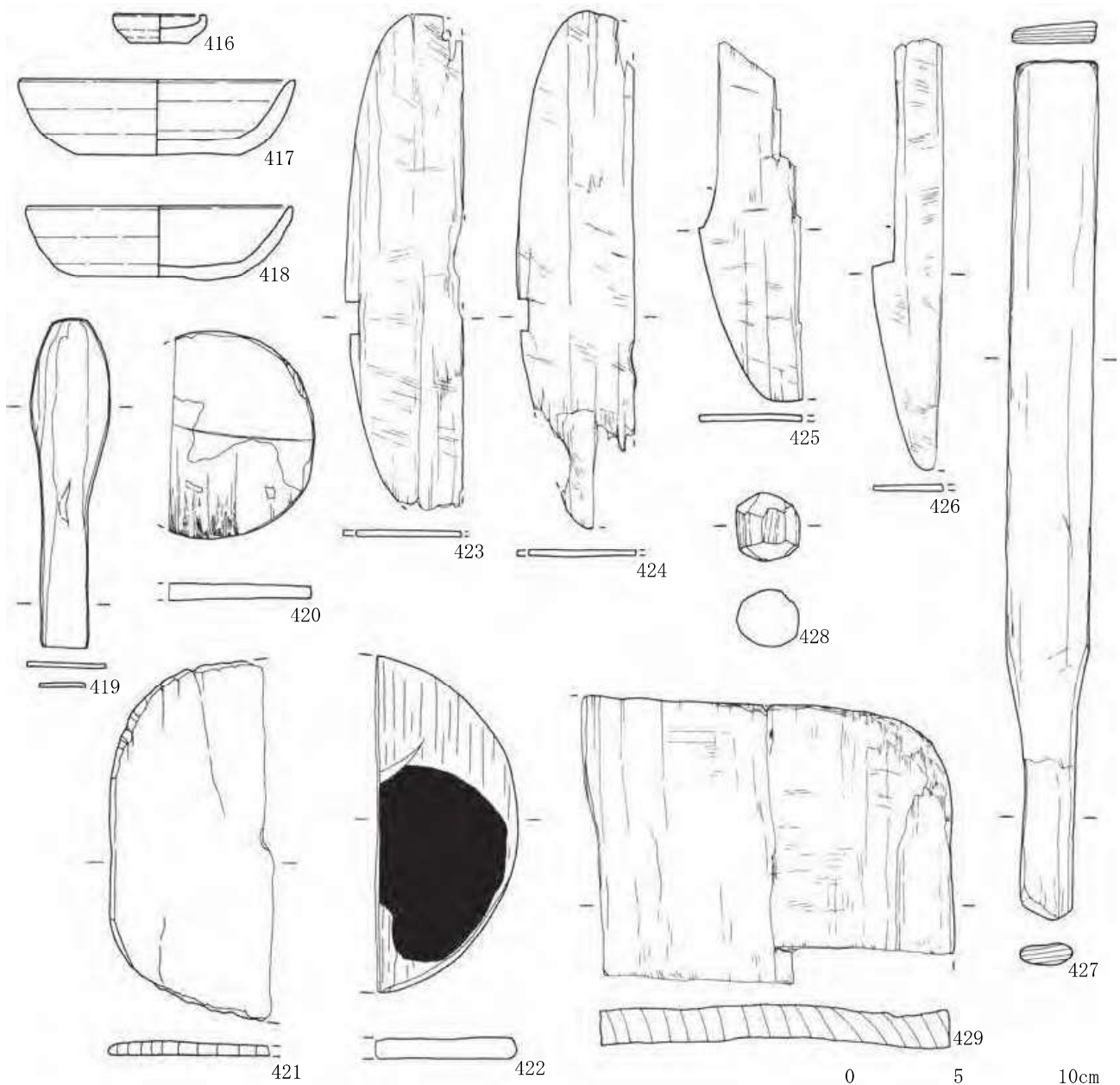


401 ~ 415... Ⅶ期 溝 1 最下層

0 5 10cm

(1/3)

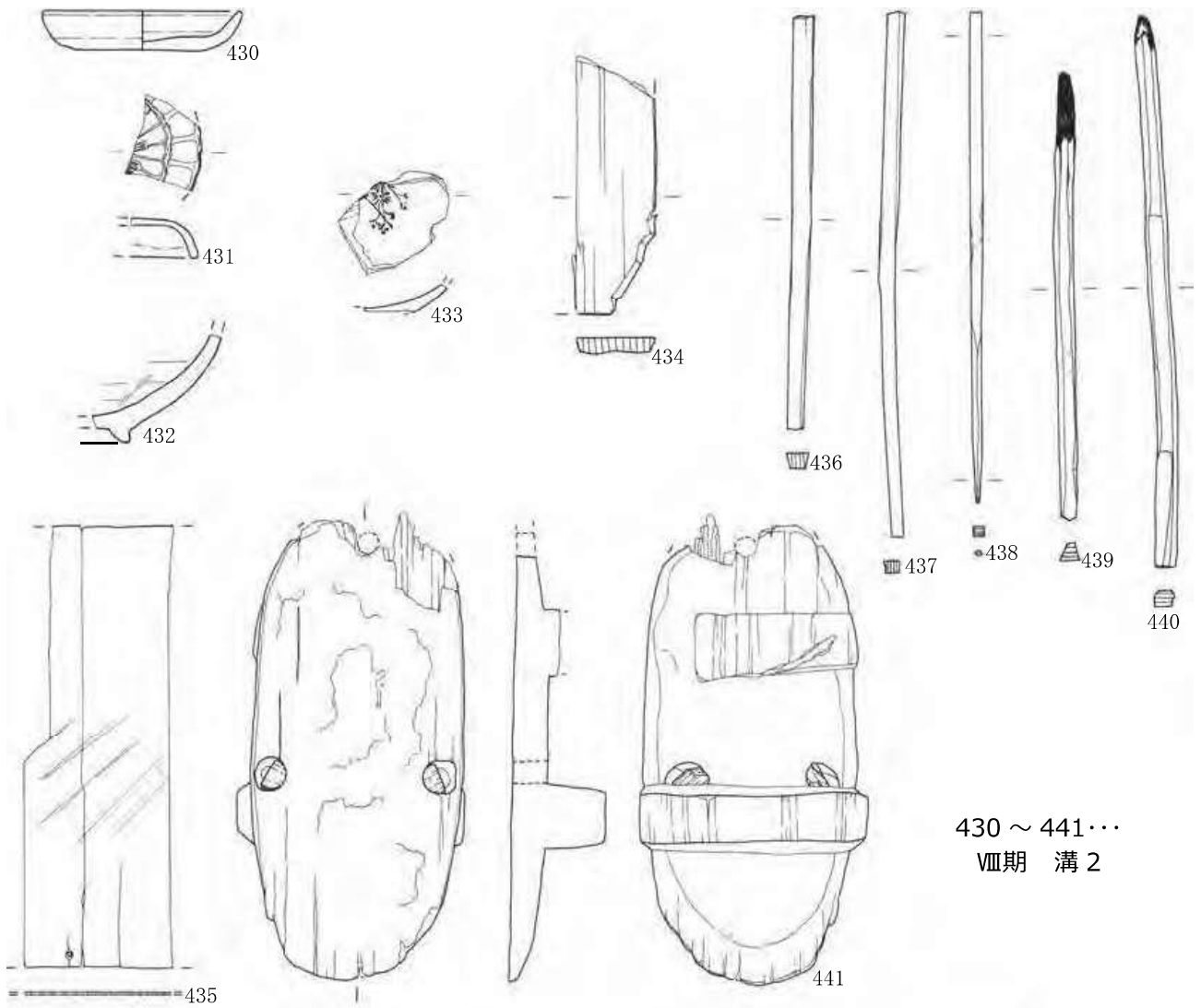
图 35 出土遺物 (23)



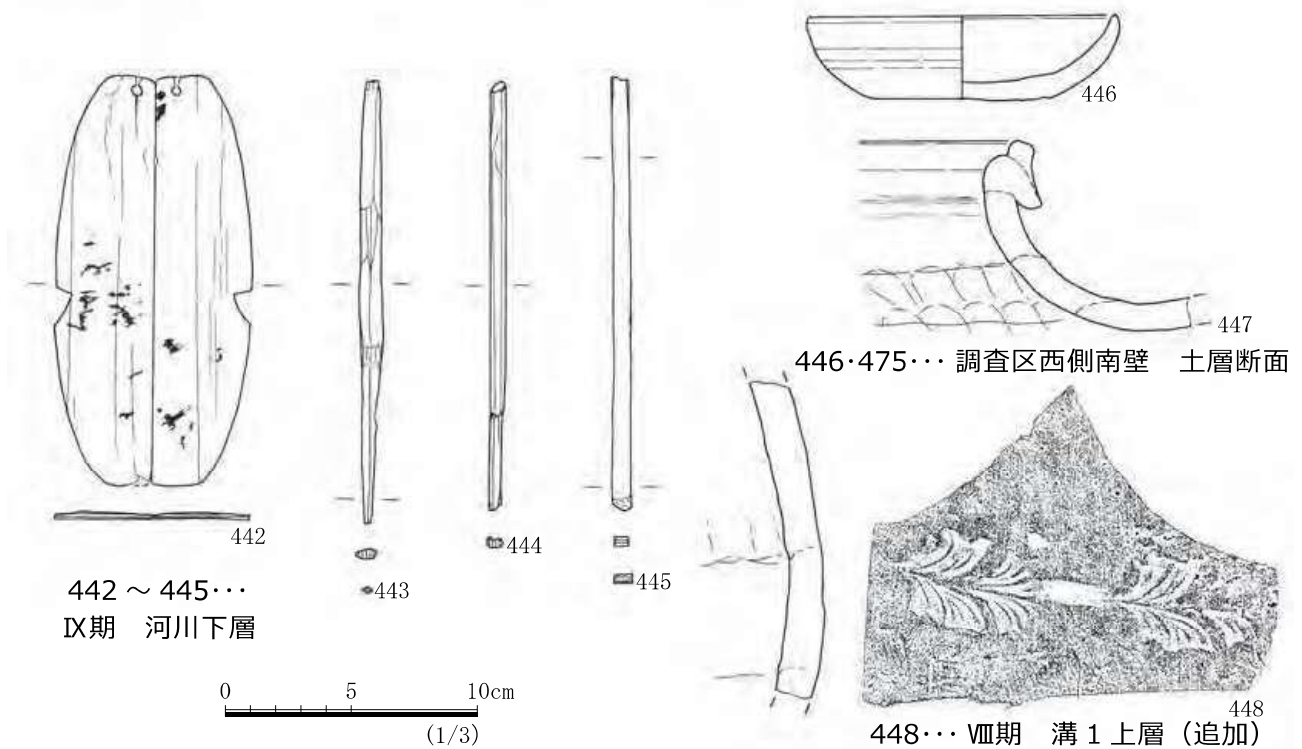
416 ~ 429... VIII期 溝1 掘方

图 36 出土遺物 (24)

0 5 10cm
(1/3)



430 ~ 441...
Ⅷ期 溝 2



442 ~ 445...
Ⅸ期 河川下層

446·475... 調査区西側南壁 土層断面

448... Ⅷ期 溝 1 上層 (追加)

0 5 10cm
(1/3)

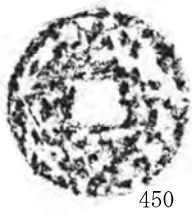
图 37 出土遺物 (25)



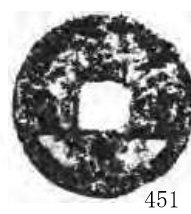
449...Ⅷ期 溝1上層(追加)



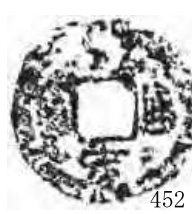
0 5 10cm (銭は実寸大) (1/3)



450...1面上



451...1面
土坑5



452...Ⅲ期
土坑5



453...Ⅴ期
道路西側



454...Ⅵ期
落ち込み



図38 出土遺物(追加)

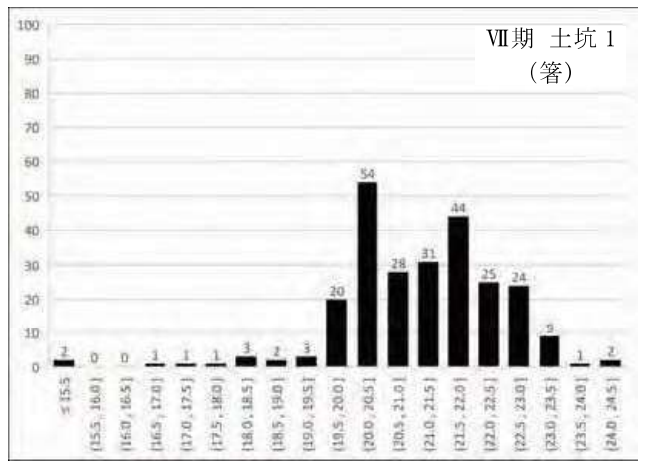
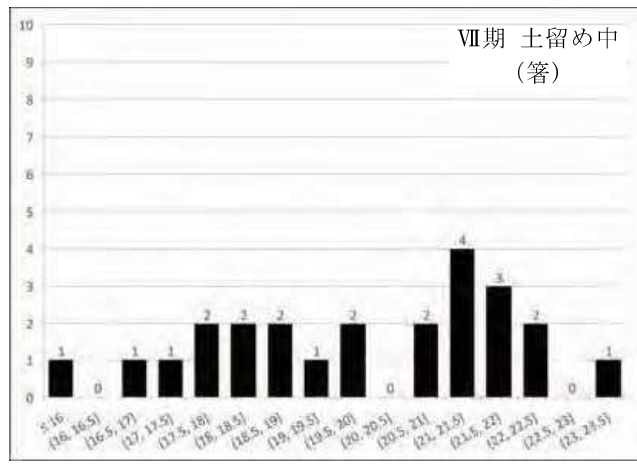
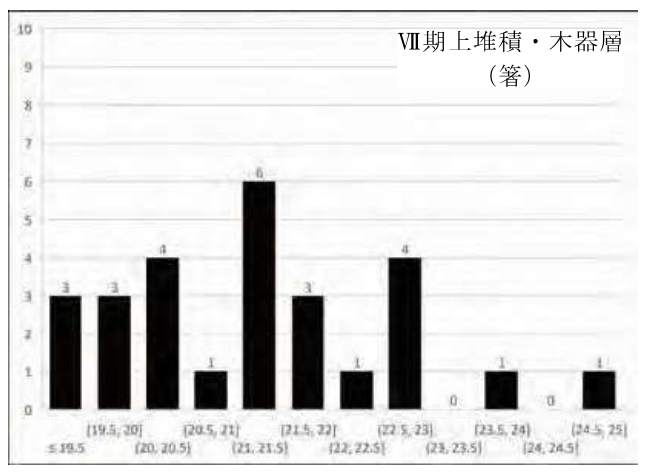
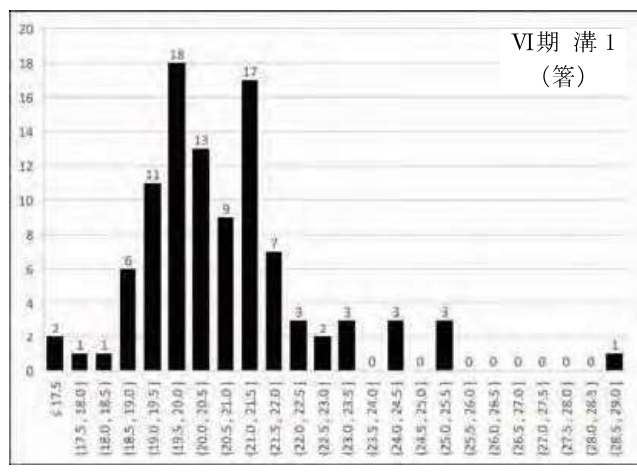
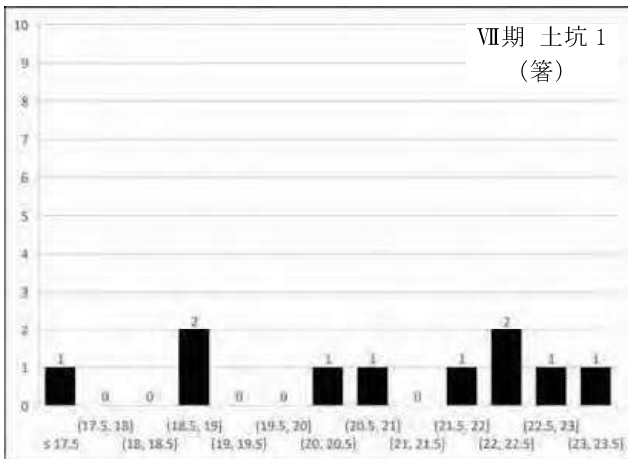


図39 箸状木製品等の全長分布(1)

(11) 箸状木製品等の全長分布

図39～41には、箸状木製品などのうち、両端が遺存する完形資料を用いて全長の分布グラフを提示した。図41は、各期・遺構ごとにおける箸状木製品の全長分布について、箱ひげグラフで集中傾向を示したものである。各グラフ、中央の矩形が第2～第4四分位数(25%以上75%未満)を表示しており、そこから読み取れる事象を上段右に述べた。



・ 図 39 ～ 41 のグラフを通して・・・

Ⅸ～Ⅶ期では箸の全長は 20 ～ 22 cm に集中分布し、時期ごとに大差がない

Ⅵ期では 18 ～ 19 cm に集中分布し、Ⅶ期以前に比べて短い傾向が見て取れる

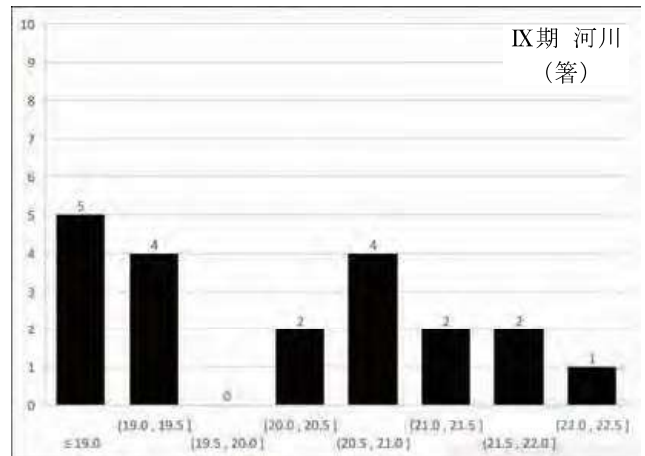
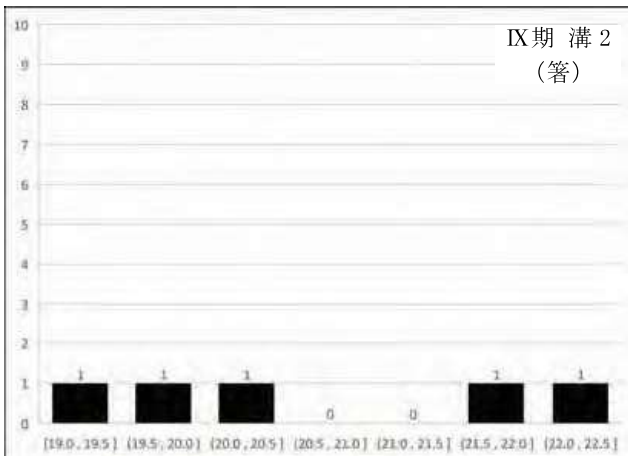
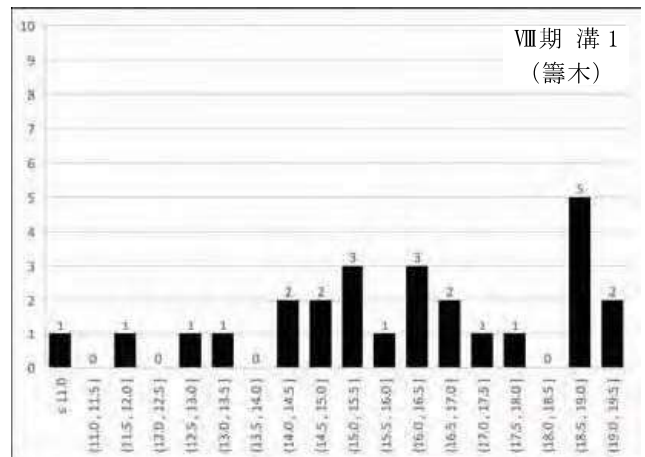
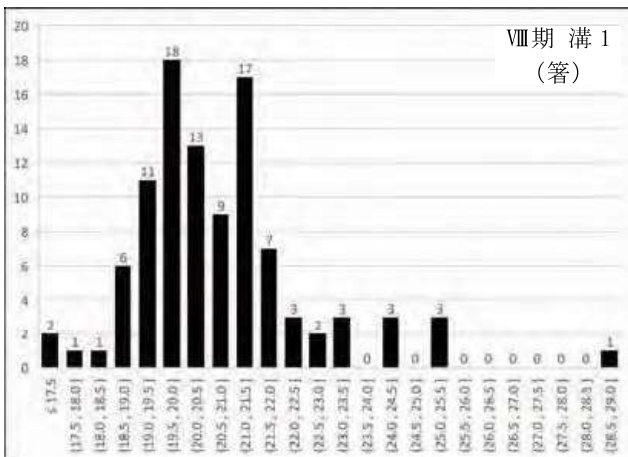
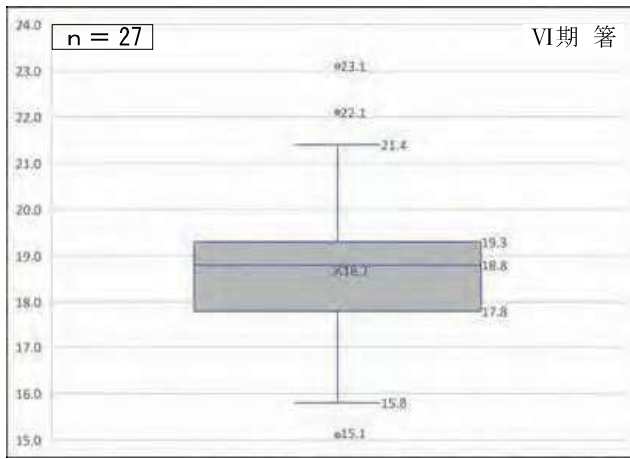


図 40 箸状木製品等の全長分布 (2)



- ・ VI期では全数 (n) の 50% が 17.8 ~ 19.3 cm
平均値は 18.8 cm
- ・ VII期土坑 1 では 50% が 20.3 ~ 22.0 cm
平均値は 21.2cm
- ・ 土坑 1 を除く VII期では 50% が 19.5 ~ 21.9cm
平均値は 21.1 cm
- ・ VIII期では 50% が 19.7 ~ 21.5 cm
平均値は 20.5cm
- ・ IX期では 50% が 19.1 ~ 21.3 cm
平均値は 20.3 cm

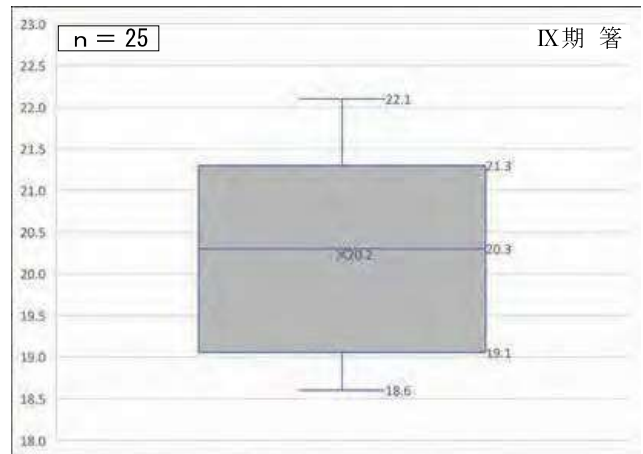
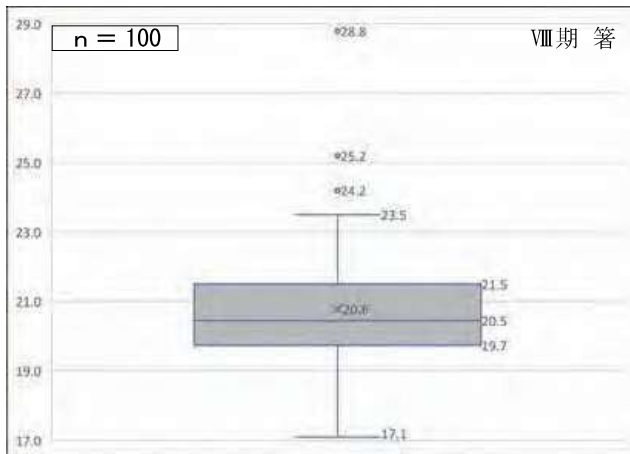
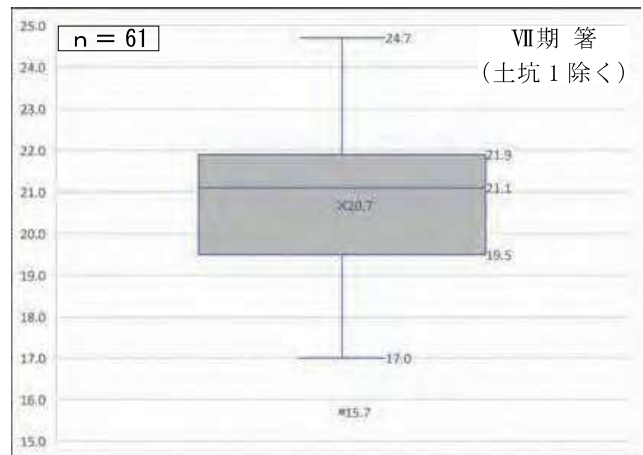
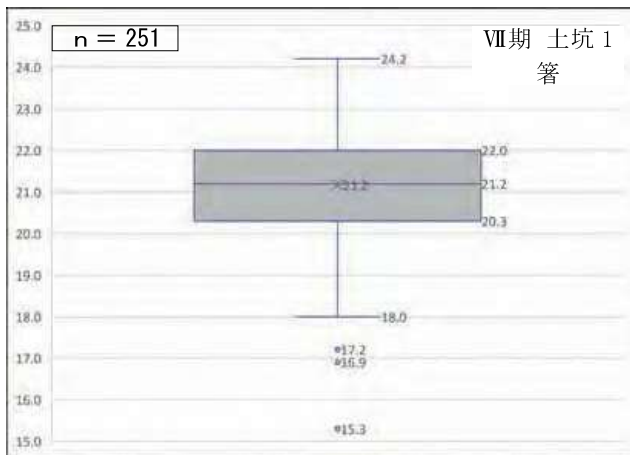


図 41 箸状木製品等の全長分布 (3)

表2 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量(g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図13 1	在地土器	かわらけ ロクロ 極小	4/5	4.2	3.1	1.0		やや粗	橙	ナデ	板状	
図13 2	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.3	5.0	2.0		やや粗	赤橙	ナデ	板状	
図13 3	在地土器	かわらけ ロクロ 極小	4/5	13.3	8.6	4.0		やや粗	黄灰	ナデ		
図13 4	在地土器	かわらけ ロクロ 大	3/4	16.3	9.7	4.1		やや粗	灰黄	ナデ		
図13 5	近世磁器	肥前系 染付碗	1/2	9.2	3.3	4.6		密	白			
図13 6	近世磁器	肥前系 染付碗	3/4	7.7	3.5	4.7		密	白			
図13 7	近世陶器	水滴	ほぼ 完形	1.9	3.2	4.1		密	黄灰			
図13 8	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口小片	—	—	[3.2]		密	灰/灰緑			
図13 9	国産陶器	常滑 壺	口小片	—	—	[8.8]		粗	赤灰/灰褐～褐			9型式か
図13 10	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[6.9]		粗	灰褐/褐			
図13 11	瓦	宇瓦	瓦当片	瓦当幅 (4.1)	内区幅 2.3	—		やや密	黒灰色			
図13 12	瓦	軒平瓦	瓦当片	瓦当幅 (4.4)	内区幅 2.3	—		粗	黒灰色			
図13 13	土製品	土錘	ほぼ 完形	長さ 4.6	幅 2.7	厚さ 2.6	24.3	やや密	暗褐色			孔径1.2cm
図13 14	石製品	砥石	一部欠	長さ [6.0]	幅 2.6	厚さ 1.3						上野 仕上げ砥
図13 15	石製品	砥石	一部欠	長さ [5.5]	幅 3.0	厚さ 0.6			灰			鳴滝 仕上げ砥
図13 16	石製品	硯	小片	長さ [5.2]	幅 [4.8]	厚さ 1.4			紫色			赤間
図13 17	石製品	砥石	両端欠	長さ [6.3]	幅 3.3	厚さ 2.5			灰黒			天草 中砥
図13 18	石製品	砥石	一部欠	長さ [7.3]	幅 3.1	厚さ 2.3			灰			上野 中砥
図13 19	石製品	砥石	一部欠	長さ [9.6]	幅 4.6	厚さ 2.8						
図13 21	石製品	砥石	両端欠	長さ [16.4]	幅 [5.7]	厚さ [3.8]			灰			天草 中砥
図14 22	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.5					開元通宝(唐845年) 楷書
図14 23	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	2.6					開元通寶(唐845年) 楷書
図14 24	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.5					景德元寶(北宋1004年)
図14 25	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.7					皇宋通寶(北宋1038年) 楷書
図14 26	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.6					嘉祐通寶(北宋1056年) 楷書
図14 27	銅製品	銭	完形	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	4.4					嘉祐元寶(北宋1056年) 篆書
図14 28	銅製品	銭	完形	直径 2.5	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.2					元豊通寶(北宋1078年) 行書
図14 29	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.7					天豊通寶(北宋1078年) 行書
図14 30	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.5					寛永通寶(近世) 楷書
図14 31	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.3	4.2	2.1	49.3	やや粗	暗橙	ナデ	板状	
図14 32	舶載磁器	龍泉窯系青磁 劃花文皿	1/2	14.8	4.45	2.8			緑 透明			
図14 33	舶載磁器	青白磁 梅瓶	底1/5	—	(8.6)	[2.1]			灰白			
図14 34	国産陶器	瀬戸 天目茶碗	口1/8	(11.8)	—	[4.2]			黒褐			
図14 35	舶載陶器	泉州窯系 緑釉盤	口小片	—	—	[2.5]			緑			
図14 36	国産陶器	瀬戸 御皿	口小片	—	—	[3.0]			黄灰			

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図14 37	瓦質土器	香炉	1/5	(8.7)	(7.0)	(4.0)			暗桃灰			1面土坑出土資料と接合
図14 38	石製品	砥石	完形	長さ 7.2	幅 3.1	厚さ 1.1			黄灰白			鳴滝 仕上げ砥
図14 39	石製品	砥石	両端欠	長さ [7.4]	幅 2.0	厚さ 1.6			黄白			鳴滝 仕上げ砥
図14 40	銅製品	銭	1/2	直径 (2.4)	孔径 0.6	厚さ 0.1	1.2					開元通宝(唐621年) 楷書、背文なし
図15 41	在地位土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.4	4.5	2.2	53.8	やや粗	赤橙	ナデ	板状	
図15 42	国産陶器	瀬戸 折縁皿	口小片	(22.8)	—	[5.6]			黄緑			
図15 43	石製品	砥石	上端欠	長さ [5.3]	幅 2.6	厚さ 1.1			灰			鳴滝 仕上げ砥
図15 44	石製品	砥石	両端欠	長さ [7.8]	幅 3.2	厚さ 1.6			淡黄			鳴滝 仕上げ砥
図15 45	石製品	砥石	両端欠	長さ [11.3]	幅 4.1	厚さ 3.8			灰白			伊予 中砥
図15 46	石製品	砥石	上端欠	長さ [7.0]	幅 4.5	厚さ 4.0			赤灰			天草 中砥
図15 47	石製品	砥石	上端欠	長さ [7.2]	幅 4.7	厚さ 4.8			黄灰白			上野(上唐川) 中砥 16世紀後半以降
図15 48	石製品	火打石	小片	長さ 2.9	幅 2.0	厚さ 2.2	16.1					石英
図15 49	石製品	温石	一部欠	長さ 8.6	幅 6.8	厚さ 1.3			灰～黒褐			孔径0.3×0.3cm(方孔)
図15 50	石製品	温石	上端欠	長さ [10.7]	幅 7.7	厚さ 2.0			赤灰			孔径1.0cm
図15 51	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.4					天聖元寶(北宋1023年) 楷書
図15 52	在地位土器	かわらけ ロクロ 小	1/2弱	(7.3)	4.2	2.2		密	暗橙灰	ナデ	板状	
図15 53	在地位土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.4	4.3	2.3	41.0	密	橙灰	ナデ	板状	
図15 54	在地位土器	かわらけ ロクロ 小	3/4	7.6	4.4	2.2		密	淡黄橙	ナデ	板状	
図15 55	在地位土器	かわらけ ロクロ 大	1/2	12.6	6.9	3.4		密	黄灰	ナデ	板状	
図15 56	在地位土器	かわらけ ロクロ 大	完形	12.0	7.0	3.3	157.9	やや粗	黄橙	ナデ	板状	
図15 57	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	底1/3	—	(5.0)	[2.1]			灰緑			大宰府Ⅱ類
図15 58	国産陶器	瀬戸 瓶子	底1/2	—	(8.4)	[5.8]		密	灰白～緑			
図15 59	国産陶器	瀬戸 卸皿	1/3	(12.7)	(7.7)	3.2		密	淡灰緑			底部除き薄く刷毛塗り
図15 60	石製品	砥石	一部欠	長さ 5.9	幅 3.5	厚さ 1.2			灰白			鳴滝 仕上げ砥
図15 61	石製品	砥石	一部欠	長さ [6.3]	幅 3.2	厚さ 1.0			黄灰、白			鳴滝 仕上げ砥
図15 62	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.0					至和元(通)寶 (北宋1054年) 楷書
図16 63	在地位土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.3	4.7	2.1	42.4	密	明黄灰	ナデ	板状	
図16 64	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	底部	—	5.2	[1.6]			暗灰緑			大宰府Ⅰ類か
図16 65	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口～体 1/6	(21.8)	—	(6.1)			明灰緑			中期後半
図16 66	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	口～体 1/10	(29.8)	—	(5.8)			灰白緑			中期前半～中頃
図16 67	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底1/2	—	11.0	[5.2]			灰			
図17 68	舶載磁器	白磁 印花文碗	小片	—	—	[2.9]			白			大宰府Ⅹ類か
図17 69	国産陶器	常滑 転用研磨具	不明	長さ [9.8]	幅 [6.1]	厚さ 1.3						
図17 70	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	2.8					瀬寧元寶(北宋1068年) 篆書
図17 71	在地位土器	かわらけ ロクロ 大	完形	13.4	7.3	3.5	166.1		明黄橙	ナデ	板状	

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量(g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図17 72	国産陶器	瀬戸 小壺	口1/2 ～底	3.8	3.8	3.4			黒褐			中期前半 被熱により器面荒れる
図17 73	国産陶器	瀬戸 花瓶	底～ 胴片	—	6.8	[9.2]			黒褐			I B類 中期前半 被熱により器面荒れる
図17 74	土製品	管状土錘	完形	長さ 2.4	最大径 2.4	孔径 0.75	11.1		淡橙			ほぼ球体
図17 75	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/2	7.8	4.8	1.9		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図17 76	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/2	7.7	4.8	2.1		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図17 77	舶載磁器	龍泉窯系青磁 双魚文皿	底1/3	—	(7.7)	[1.7]			灰緑			大宰府Ⅲ類
図17 78	国産陶器	瀬戸 入子	4/5	8.0	3.9	3.3			灰			
図17 79	国産陶器	瀬戸 花瓶	底2/3	—	4.5	[3.9]			灰緑			I B類
図17 80	国産陶器	瀬戸 花瓶	底4/5	—	5.6	[3.0]			灰緑			I B類
図17 81	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口小片	—	—	[7.2]			灰			
図17 82	国産陶器	東播系須恵器 片口鉢	口小片	—	—	[6.5]			灰			
図17 83	瓦質土器	香炉	1/4	(8.4)	—	[3.2]			黒褐			
図17 84	瓦質土器	香炉	1/3	(9.9)	—	5.7			黒			
図17 85	石製品	砥石	上端欠	長さ [6.3]	幅 3.2	厚さ [1.2]			桃色			鳴滝 仕上げ砥
図17 86	石製品	砥石	上端欠	長さ [8.2]	幅 3.1	厚さ 2.1			灰緑			上野 仕上げ砥
図17 87	石製品	砥石	上端欠	長さ [21.1]	幅 3.5	厚さ 2.4			黄白			伊予 中砥
図17 88	石製品	砥石	表裏 一部	長さ [10.5]	幅 [7.0]	厚さ 6.5			黄白			伊予 中砥
図17 89	国産陶器	瀬戸 御皿	底1/2	—	6.8	[1.3]			淡灰緑			
図17 90	国産陶器	龍泉窯系青磁 碗	底1/4	—	(4.4)	1.6			灰緑			大宰府Ⅲ類か
図17 91	石製品	滑石鍋 転用砥石?	口～ 体片	長さ [10.4]	幅 [9.0]	厚さ 2.5			灰			
図17 92	国産陶器	瀬戸 香炉	底～ 体1/3	—	(7.6)	[2.4]			灰緑			
図17 93	石製品	火打石	完形	長さ 4.0	幅 2.7	厚さ 1.9	26.2		白			石英 稜部に打撃による擦痕あり
図17 94	国産陶器	常滑 転用研磨具	不明	長さ [6.2]	幅 [6.2]	厚さ 1.1			褐～ 茶褐			
図18 95	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.5	4.7	2.2	50.9	密	明橙灰	ナデ	板状	
図18 96	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.4	4.3	2.0	35.9	密	淡橙灰	ナデ	板状	
図18 97	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.5	4.2	2.1	44.5	密	明橙灰	ナデ	板状	
図18 98	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.6	4.4	2.3	46.8	密	淡黄灰	ナデ	板状	灯明皿か
図18 99	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.7	5.0	2.3	53.4	密	明黄灰	ナデ	板状	灯明皿か
図18 100	在地土器	かわらけ ロクロ 中	1/2弱	(11.4)	(7.0)	3.0		密	明黄灰	ナデ	板状	
図18 101	舶載磁器	龍泉窯系青磁 劃花文碗	底部 のみ	—	5.4	[2.1]			明灰緑			大宰府 I-2類
図18 102	舶載磁器	龍泉窯系青磁 碗	底部 のみ	—	5.0	[1.6]			暗灰緑			大宰府 I 類
図18 103	国産陶器	瀬戸 四耳壺	底部 のみ	—	6.6	[2.5]			灰緑			
図18 104	国産陶器	瀬戸 御皿	底1/4	—	(8.4)	[1.4]			淡灰緑			
図18 105	土製品	櫛羽口	不明	長さ [9.1]	幅 7.0	厚さ 7.1			黄灰			孔径3.0cm
図18 106	土製品	かわらけ 転用円盤	一部欠	5.4	5.0	1.4			淡黄灰			

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図18 107	石製品	砥石	一部欠	長さ [6.0]	幅 3.3	厚さ 1.5			乳白			産地不明 仕上げ砥か
図18 108	石製品	砥石	一部欠	長さ [6.3]	幅 3.4	厚さ 2.5			暗灰			天草 中砥
図18 109	石製品	砥石	一部欠	長さ [7.1]	幅 3.0	厚さ 1.7			白			上野(沼田)か 16世紀以降か
図18 110	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	口~体 1/8	14.8	—	[4.0]			暗灰緑			大宰府Ⅱ類
図18 111	国産陶器	瀬戸 緑釉小皿	口~体 1/6	(9.5)	—	[2.7]			淡黄灰緑			後期前半か
図18 112	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.2					元宝通宝(北宋1078年) 篆書
図18 113	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.6					治平元宝(北宋1064年) 楷書
図18 114	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.7					判読不可
図18 115	舶載磁器	龍泉窯系青磁 折縁鉢	口~体 1/6	(10.6)	—	[2.7]			緑灰			大宰府坏Ⅲ類
図18 116	土製品	管状土錘	一部欠	長さ 5.2	幅 2.2	孔径 0.5	22.3		橙灰			
図18 117	国産陶器	常滑 転用研磨具	不明	長さ [7.2]	幅 [4.8]	厚さ 1.4			明茶褐			
図18 118	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	3.1					銭銘不明
図19 119	在地土器	かわらけ ロクロ小	4/5	7.3	4.5	2.1		やや粗	黄橙	ナデ	板状	口縁数ヶ所打ち欠きか
図19 120	在地土器	かわらけ ロクロ中	口1/5 ~底	(10.8)	6.6	3.1		やや粗	灰黄	ナデ	板状	灯明皿
図19 121	在地土器	かわらけ ロクロ大	1/2	(12.0)	7.2	3.2		やや粗	黄橙	ナデ	板状	
図19 122	在地土器	かわらけ ロクロ大	1/2	13.0	7.2	3.8		やや粗	橙	ナデ	板状	
図19 123	国産陶器	瀬戸 卸皿	口1/3 ~底	(13.4)	5.6	3.7			淡緑灰			灰釉(ほぼ剥離)
図19 124	国産陶器	瀬戸 折縁皿	口小片	—	—	[4.6]			淡緑灰			
図19 125	国産陶器	常滑 広口壺	口1/5 ~胴片	(17.5)	—	[10.5]			褐			
図19 126	土製品	かわらけ 転用円盤	完形	径 2.9	—	厚さ 0.7			橙			孔径0.4cm
図19 127	国産陶器	常滑 転用研磨具	甕胴片	長さ [6.5]	幅 [5.6]	厚さ [0.8]			褐			
図19 128	石製品	滑石スタンプ	小片	長さ 3.9	幅 [2.6]	厚さ 1.5			銀灰			
図19 129	石製品	硯?	上端欠	長さ [4.5]	幅 3.1	厚さ 0.9			緑灰			
図19 130	石製品	硯	—	長さ [11.5]	幅 [5.8]	厚さ [2.8]						赤間 紫石 懸子硯
図19 131	瓦	軒平瓦	瓦当片	瓦当幅 4.2	内区幅 2.4	—			灰			陽刻の上向き剣頭文
図19 132	鉄製品	刀子?	両端欠	長さ [16.0]	幅 2.0	厚さ 0.7	60.8					
図19 133	銅製品	飾り金具	完形	径 1.3	—	厚さ 0.1	0.6					中央に0.1cmの貫通孔
図19 134	鉄製品	釘	一部欠	長さ [5.2]	幅 0.7	厚さ 0.7	6.3					
図19 135	鉄製品	釘	一部欠	長さ [6.0]	幅 0.6	厚さ 0.6	4.6					
図19 136	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	3.1					皇宋通寶(北宋1038年) 篆書
図19 137	銅製品	銭	2/3	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	2.0					皇宋通寶(北宋1038年) 篆書
図19 138	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.7					元祐通寶(北宋1086年) 行書
図19 139	銅製品	銭	完形	直径 2.2	孔径 0.7	厚さ 0.1	2.8					銭銘不明
図19 140	国産陶器	瀬戸 卸皿	口~体 小片	—	—	[3.1]			淡灰緑			中期前半
図19 141	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.6					聖宋元宝(北宋1101年) 篆書

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図19 142	国産陶器	常滑 転用研磨具	甕胴片	長さ 5.0	幅 6.5	厚さ 1.2						
図20 143	在地土器	かわらけ ロクロ 小	口3/4 ~底	8.0	5.3	1.7		やや粗	橙灰	ナデ	板状	
図20 144	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.6	5.6	1.9	66.8	やや粗	明黄灰	ナデ	板状	
図20 145	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	7.7	5.6	2.3	51.8	密	橙	ナデ	板状	
図20 146	在地土器	かわらけ ロクロ 中	口1/2 ~底	11.2	6.9	3.0		やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図20 147	在地土器	かわらけ ロクロ 中	ほぼ 完形	11.0	6.7	3.1	122.2	やや粗	淡橙灰	ナデ	板状	
図20 148	在地土器	かわらけ ロクロ 大	1/3	(13.2)	(8.8)	3.3		やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図20 149	国産陶器	瀬戸 折縁深皿	1/3	(20.6)	(13.0)	6.1			淡灰緑			中期前半
図20 150	国産陶器	瀬戸 用途不明	底1/2	—	(8.8)	[5.7]			灰緑			天地逆の可能性あり 燭台か花瓶か
図20 151	国産陶器	瀬戸 卸皿	底小片	—	—	[1.3]		やや粗	黄白	ナデ	板状	中期前半
図20 152	石製品	砥石	両端欠	長さ [9.2]	幅 6.0	厚さ [5.7]			暗灰			天草 荒砥
図20 153	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 23.8	幅 [4.3]	厚さ 0.2						
図20 154	木製品	用途不明	完形	長さ 10.9	幅 2.6	厚さ 0.2						
図20 155	木製品	円盤状	1/2	径 (8.6)	—	厚さ 0.6						
図20 156	木製品	用途不明	完形	長さ 15.1	幅 3.3	厚さ 0.5						
図20 157	木製品	錐柄?	一部欠	長さ [12.3]	幅 1.7	厚さ 1.6						先端部に鉄棒が残存
図20 158	木製品	用途不明	完形	長さ 13.8	幅 0.8	厚さ 0.7						側辺に切り込み
図20 159	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.0	4.8	1.6		やや粗	橙	ナデ	板状	
図20 160	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.1	4.4	2.0		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図20 161	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.5	3.9	1.7		やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図20 162	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.7	5.8	1.7		やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図20 163	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.7	4.9	1.9		やや粗	黄灰	ナデ	板状	灯明皿
図20 164	在地土器	かわらけ ロクロ 小	4/5	7.5	4.6	2.2		やや粗	黄橙	ナデ		灯明皿 内面に炭化物付着
図20 165	在地土器	かわらけ ロクロ 小	1/3	(8.2)	(5.8)	1.8		やや粗	黄灰	ナデ	板状	底部中央に貫通孔
図20 166	在地土器	かわらけ ロクロ 中	4/5	10.4	6.4	3.1		やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図20 167	石製品	砥石	一部欠	長さ 5.4	幅 3.0	厚さ 0.8			黄灰			笹口か 荒砥 端材、再加工
図20 168	石製品	砥石	完形	長さ 3.6	幅 2.1	厚さ 1.3			黒			対馬 仕上げ砥
図20 169	骨製品	用途不明	—	長さ 8.0	幅 1.5	厚さ 0.5						加工途中か
図20 170	木製品	蓋?	完形	径 4.8	—	高さ 0.3						
図20 171	木製品	漆塗り 用途不明	1/2か	長さ 8.5	幅 4.3	厚さ 0.6						
図20 172	木製品	漆器 椀	体小片	—	—	[2.3]						
図20 173	木製品	草履芯	2/3	径 3.2	—	厚さ 0.2						
図20 174	木製品	草履芯	1/2弱	長さ [20.2]	幅 [4.9]	厚さ 0.3						
図20 175	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 19.8	幅 [5.0]	厚さ 0.3						
図20 176	木製品	草履芯	1/2	長さ 25.5	幅 [5.5]	厚さ 0.4						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図21 177	木製品	草履芯	3/4弱	長さ 24.6	幅 [10.4]	厚さ 0.2						
図21 178	木製品	用途不明	完形	長さ 27.9	幅 3.3	厚さ 0.3						
図21 179	木製品	曲物 底板	端部 小片	径 [31.2]	—	厚さ 1.8						
図21 180	木製品	棒状	完形	長さ 15.1	幅 0.8	厚さ 0.7						
図21 181	木製品	棒状	完形	長さ 16.4	幅 0.8	厚さ 0.6						
図21 182	木製品	棒状	完形	長さ 24.2	幅 0.9	厚さ 0.7						火付木か
図21 183	木製品	棒状	完形	長さ 33.4	幅 0.8	厚さ 0.5						
図21 184	木製品	棒状	完形	長さ 33.3	幅 1.2	厚さ 1.1						
図21 185	貝	イタヤガイ 加工品	一部欠	長さ 8.3	幅 9.0	厚さ 0.3	35.8					径0.4cmの貫通孔
図21 186	銅製品	銭	完形	直径 2.2	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.1					開元通寶(唐845年) 真書
図21 187	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.8	厚さ 0.1	3.6					皇宋通寶(北宋1038年) 篆書
図21 188	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	2.3					元祐通寶(北宋1086年) 行書
図21 189	銅製品	銭	3/4	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	2.1					開?通寶 真書
図21 190	国産陶器	瀬戸 御皿	底1/3	—	(12.0)	[2.1]			淡灰緑			
図21 191	木製品	漆器 皿	底1/2	—	(7.8)	[2.3]						192と同一個体か
図21 192	木製品	漆器 皿	小片	—	—	[2.6]						190と同一個体か
図21 193												欠番
図21 194	木製品	用途不明	完形	長さ 6.8	幅 4.6	厚さ 0.3						中央付近に穿孔
図21 195	木製品	用途不明	1/2弱?	長さ [7.8]	幅 2.9	厚さ 0.1						
図21 196	木製品	用途不明	下端欠	長さ [14.5]	幅 2.7	厚さ 0.13						
図21 197	木製品	手押木か	完形	高さ 1.7	幅 17.5	厚さ 1.0						中央に窪み
図21 198	木製品	用途不明	完形	長さ 16.8	幅 7.0	厚さ 1.0						
図21 199	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 3.2	0.1					元豊通寶(北宋1076年) 篆書
図13 20	石製品	砥石	一部欠	長さ [8.0]	幅 4.5	厚さ 2.7			灰白			伊予 中砥
図22 200	石製品	硯	小片	長さ [7.0]	幅 [3.5]	厚さ 1.5						鳴滝
図22 201	木製品	漆器 皿	1/3	(7.4)	(6.0)	0.9						
図22 202	木製品	漆器 皿	口小片	—	—	[2.0]						
図22 203	木製品	円盤状	2/3	径 10.6	—	厚さ 0.5						
図22 204	木製品	毬杖球	2/3	長さ 5.3	幅 5.1	厚さ [4.0]						
図22 205	木製品	襷紐 (桜樹皮)	一部欠	長さ [8.3]	幅 2.4	厚さ 0.1						
図22 206	木製品	杭状	完形	長さ 17.0	幅 1.6	厚さ 0.7						
図22 207	木製品	串状	完形	長さ 15.8	幅 0.8	厚さ 0.4						
図22 208	木製品	棒状	完形	長さ 15.0	幅 0.6	厚さ 0.5						
図22 209	在地土器	内折かわらけ ロクロ 極小	一部欠	3.6	3.0	1.0	11.0	密	明黄灰	ナデ		
図22 210	在地土器	かわらけ ロクロ 小	2/3	7.3	4.6	1.6		密	橙灰	ナデ	板状	

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図22 211	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	底部 完存	—	3.4	[3.4]			明緑灰			大宰府Ⅲ類
図23 212	在地土器	かわらけ ロクロ小	ほぼ 完形	8.0	6.5	1.8	63.8	やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 213	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	体～ 底1/2	—	(5.4)	[2.3]			暗緑灰			大宰府Ⅱ類
図23 214	木製品	栓?	完形	長さ 11.7	幅 2.0	厚さ 1.8						
図23 215	木製品	栓?	完形	長さ 12.7	幅 1.4	厚さ 1.3						
図23 216	木製品	草履芯	1/2	長さ 25.3	幅 [5.5]	厚さ 0.2						
図23 217	木製品	串状	完形	長さ 20.1	幅 1.1	厚さ 0.6						
図23 218	木製品	折敷	小片	長さ 19.2	幅 [2.6]	厚さ 0.1						
図23 219	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.6	厚さ 0.1	2.6					紹聖元寶(北宋1094年) 行書
図23 220	在地土器	かわらけ ロクロ大	3/4	13.0	9.0	3.4		やや粗	淡橙	ナデ	板状	
図23 221	在地土器	かわらけ 手づくね大	4/5	11.7	—	3.1		粗	黄灰			
図23 222	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文鉢	口1/10 ～体片	—	—	[4.9]			緑灰			大宰府坏Ⅲ類
図23 223	石製品	砥石	上端欠	長さ [9.5]	幅 3.3	厚さ 1.3			灰			鳴滝 仕上げ砥
図23 224	木製品	曲物 底板?	1/4	径 [27.6]	—	厚さ 0.6						
図23 225	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 23.7	幅 [5.1]	厚さ 0.3						
図23 226	銅製品	銭	完形	直径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.0					聖宋元寶(北宋1101年) 行書
図23 227	在地土器	かわらけ ロクロ小	3/4	7.6	5.3	1.7		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 228	在地土器	かわらけ ロクロ小	4/5	7.7	4.4	1.8		やや密	淡橙	ナデ	板状	
図23 229	在地土器	かわらけ ロクロ小	3/4	8.2	5.5	1.7		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 230	在地土器	かわらけ ロクロ小	3/4	8.2	6.1	1.9		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 231	在地土器	かわらけ ロクロ大	3/4	12.8	8.2	3.1		やや粗	橙	ナデ	板状	
図23 232	在地土器	かわらけ ロクロ大	9/10	11.8	7.6	3.5		やや密	橙	ナデ	板状	灯明皿
図23 233	在地土器	かわらけ ロクロ大	3/4	12.1	8.0	3.0		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 234	在地土器	かわらけ ロクロ大	ほぼ 完形	12.1	8.3	2.9	143.9	やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図23 235	国産陶器	瀬戸 四耳壺?	口～ 頸1/4	(10.0)	—	[4.2]			灰緑			
図23 236	木製品	漆器 皿	1/4	(6.8)	(4.6)	[1.0]						
図23 237	木製品	漆器 皿	1/3	(10.0)	(7.0)	1.0						
図23 238	木製品	漆器 皿	1/2弱	(9.8)	(7.0)	1.4						
図23 239	木製品	漆器 皿	小片	(10.0)	(7.2)	0.7						
図23 240	木製品	漆器 皿	1/2弱	—	(7.6)	[2.3]						
図23 241	木製品	漆器 皿	小片	—	—	[2.2]						
図24 242	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[1.0]						
図24 243	木製品	漆器 椀	口小片	—	—	[2.0]						
図24 244	木製品	漆器 椀	小片	—	—	[3.5]						
図24 245	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[0.8]						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図24 246	木製品	漆器 皿	小片	—	—	[3.0]						
図24 247	木製品	板杓子	完形	長さ 20.0	幅 7.2	厚さ 0.5						
図24 248	木製品	折敷	1/2強	長さ 19.0	幅 [11.4]	厚さ 0.15						
図24 249	木製品	折敷	1/4	長さ 19.3	幅 [5.0]	厚さ 0.1						
図24 250	木製品	折敷	1/3	長さ 19.4	幅 [5.9]	厚さ 0.2						
図24 251	木製品	折敷	1/3弱	長さ 16.8	幅 [5.0]	厚さ 0.1						
図24 252	木製品	折敷	1/5	長さ 18.9	幅 [4.1]	厚さ 0.2						
図24 253	木製品	折敷	1/5	長さ 19.0	幅 [3.9]	厚さ 0.15						
図24 254	木製品	折敷	1/6	長さ 18.0	幅 [3.1]	厚さ 0.1						
図24 255	木製品	折敷	1/4	長さ 19.2	幅 [5.2]	厚さ 0.3						
図24 256	木製品	円盤状	1/3	径 (20.0)	—	厚さ 0.6						樫紐残る
図24 257	木製品	円盤状	ほぼ 完形	径 13.9	—	厚さ 0.9						
図24 258	木製品	蓋	ほぼ 完形	径 11.5	—	厚さ 2.2						鉄釘2ヶ所、木釘2ヶ所
図24 259	木製品	円盤状	ほぼ 完形	径 9.0	—	厚さ 0.5						
図25 260	木製品	連歯下駄	一部欠	長さ [20.4]	幅 8.3	高さ [3.1]						鼻緒孔に楔残る 中心付近に鉄釘残る
図25 261	木製品	連歯下駄?	1/3	長さ [16.2]	幅 [6.0]	高さ 1.4						前歯、後歯ともに欠く
図25 262	木製品	草履芯	1/4	長さ [16.5]	幅 [3.0]	厚さ 0.2						
図25 263	木製品	草履芯	1/6	長さ [16.2]	幅 [2.2]	厚さ 0.3						
図25 264	木製品	草履芯	1/4強	長さ 14.0	幅 [3.4]	厚さ 0.4						
図25 265	木製品	糸梓 梓木	完形	長さ 20.6	幅 1.0	厚さ 1.4						
図25 266	木製品	建具?	完形	長さ 15.0	幅 2.5	厚さ 3.2						
図25 267	木製品	用途不明 板	完形	長さ 4.4	幅 8.1	厚さ 2.0						
図25 268	木製品	用途不明 板	完形	長さ 4.0	幅 7.5	厚さ 4.1						
図25 269	木製品	用途不明 板	完形	長さ 8.8	幅 8.8	厚さ 4.1						
図25 270	木製品	用途不明	両端欠	長さ 4.2	幅 [5.5]	厚さ 0.7						
図25 271	木製品	用途不明 板	完形	長さ 15.6	幅 2.5	厚さ 1.2						
図25 272	木製品	毬杖?	両端欠	長さ 19.1	—	直径 3.0						両端部刃物による切断痕
図26 273	木製品	用途不明 板	完形	長さ 19.0	幅 15.0	厚さ 1.4						
図26 274	在土土器	かわらけ ロクロ小	3/4	7.8	4.8	1.7		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図26 275	舶載磁器	龍泉窯系青磁 蓮弁文碗	底1/2	—	(4.4)	[1.8]			明緑			大宰府Ⅱ類
図26 276	舶載磁器	同安窯系青磁 櫛搔文碗	体～ 底1/3	—	(5.0)	[2.8]			明緑灰			
図26 277	鉄製品	火打金	ほぼ 完形	長さ 11.0	幅 3.4	厚さ 0.5	28.8					
図26 278	銅製品	銭加工品 擦り銭	完形	径 1.4	—	厚さ 0.1	0.9					孔径0.6cm
図26 279	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[1.4]						
図26 280	木製品	曲物 底板か蓋	1/5	径 (23.8)	—	厚さ 0.7						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図26 281	木製品	曲物 底板	1/2弱	径 (16.0)	—	厚さ 0.8						
図26 282	木製品	曲物 底板?	1/5	径 [34.8]	—	厚さ 1.0						
図26 283	木製品	曲物 底板?	1/3	径 [26.0]	—	厚さ 0.4						
図26 284	木製品	草履芯	1/2	長さ 21.3	幅 [4.0]	厚さ 0.2						
図27 285	木製品	漆器 椀	1/6	—	(4.4)	(2.3)						
図27 286	木製品	漆器 椀	1/6	—	(6.8)	(4.8)						
図27 287	木製品	漆器 皿	小片	—	—	(3.0)						
図27 288	木製品	漆器 皿	底部片	—	—	[1.0]						
図27 289	木製品	漆器 皿	底部片	—	—	[1.0]						
図27 290	木製品	円盤状	1/3	径 10.6	—	厚さ 0.5						
図27 291	木製品	折敷	一部欠	長さ [19.0]	幅 [14.3]	厚さ 0.05						
図27 292	木製品	折敷	小片	長さ [14.8]	幅 [3.2]	厚さ 0.1						
図27 293	木製品	横櫛	1/2強	[5.7]	[3.8]	0.8						
図27 294	木製品	草履芯	一部欠	長さ 23.6	幅 11.3	厚さ 0.4						
図27 295	木製品	草履芯	一部欠	長さ 23.7	幅 10.2	厚さ 0.3						
図27 296	木製品	草履芯?	1/2弱	長さ [18.3]	幅 [5.6]	厚さ 0.4						
図27 297	木製品	草履芯 加工途中?	小片	長さ 15.9	幅 2.9	厚さ 0.3						
図27 298	木製品	草履芯	小片	長さ [15.6]	幅 [2.5]	厚さ 0.4						
図27 299	木製品	草履芯	小片	長さ [11.5]	幅 [5.4]	厚さ 0.5						
図27 300	木製品	糸杵	一部欠	長さ 10.8	幅 1.9	厚さ 0.9						
図27 301	木製品?	ササラ状	完形	長さ 17.8	幅 1.0	厚さ 0.3						
図27 302	木製品	棒状	完形	長さ 16.6	幅 0.9	厚さ 0.6						
図27 303	木製品	棒状	完形	長さ 17.5	幅 1.0	厚さ 0.7						
図27 304	木製品	用途不明	完形	長さ 17.1	幅 0.9	厚さ 0.9						
図27 305	木製品	棒状	完形	長さ 16.5	幅 1.1	厚さ 0.5						曲物底板を転用か
図27 306	木製品	用途不明	完形	長さ 17.7	幅 1.5	厚さ 1.4						
図27 307	木製品	棒状	完形	長さ 21.8	幅 1.1	厚さ 0.7						
図28 308	在地土器	内折かわらけ ロクロ小	1/2	4.6	4.0	0.6		密	橙	ナデ	板状	
図28 309	木製品	漆器 皿?	小片	—	—	[2.0]						
図28 310	木製品	漆器 皿?	小片	—	—	—						311と同一個体
図28 311	木製品	漆器 皿?	口小片	—	—	[1.3]						310と同一個体
図28 312	木製品	曲物 底板	2/3	径 8.7	—	厚さ 0.6						
図28 313	木製品	曲物 底板	両端欠	径 22.1	—	厚さ 0.5						
図28 314	木製品	草履芯	小片	長さ [12.2]	幅 [2.5]	厚さ 0.4						
図28 315	木製品	草履芯	1/2	長さ 25.0	幅 [5.9]	厚さ 0.3						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図28 316	木製品	草履芯	小片	長さ [23.7]	幅 [3.2]	厚さ 0.2~0.3						
図28 317	木製品	棒状	完形	長さ 21.0	幅 0.7	厚さ 0.3						
図28 318	木製品	用途不明	完形	長さ 26.1	幅 1.1	厚さ 0.9						
図29 319	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.2	5.1	1.6	54.2	やや粗	黄灰	ナデ		灯明皿
図29 320	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.8	5.3	1.6	52.2	やや粗	黄橙	ナデ	板状	灯明皿
図29 321	国産陶器	常滑 洗?	小片	—	—	[4.5]			黄褐			
図29 322	国産陶器	常滑 転用研磨具	胴小片	長さ 4.9	幅 9.5	厚さ 1.3			褐色			
図29 323	石製品	砥石	両端欠	長さ [5.8]	幅 2.2	厚さ 1.6			灰緑			上野 中砥
図29 324	木製品	漆器 椀	完形	2.4	5.5	3.2						
図29 325	木製品	漆器 椀	底小片	—	—	[2.3]						
図29 326	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[1.1]						
図29 327	木製品	漆器 皿	底2/3	—	7.0	[3.1]						
図29 328	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[1.2]						
図29 329	木製品	漆器 椀?	小片	—	—	[4.5]						
図29 330	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[0.7]						331と同一個体
図29 331	木製品	漆器 皿	底小片	—	—	[0.7]						330と同一個体
図29 332	木製品	漆器 皿	小片	—	—	[1.9]						
図29 333	木製品	漆塗り 円盤状	1/2弱	径 (6.2)	—	厚さ 0.6						
図29 334	木製品	曲物 底板	1/5	径 (16.0)	—	厚さ 0.7						
図29 335	木製品	用途不明	完形	長さ 36.2	幅 4.1	厚さ 0.5						
図29 336	木製品	曲物 底板?	1/4	径 [33.2]	—	厚さ 0.6						
図29 337	木製品	連歯下駄	一部欠	長さ [19.7]	幅 10.3	高さ [1.6]						鼻緒孔に木釘遺存
図29 338	木製品	連歯下駄	一部欠	長さ 18.5	幅 8.4	高さ 3.4						
図30 339	木製品	草履芯	1/4	長さ 24.3	幅 [8.2]	厚さ 0.2						
図30 340	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 23.0	幅 [5.0]	厚さ 0.2						
図30 341	木製品	円盤状	一部欠	径 6.5	—	厚さ 0.5						中央に0.2cmの貫通孔
図30 342	木製品	紡輪?	1/2	径 9.9	—	厚さ 0.9						中央に1.0cmの貫通孔
図30 343	木製品	円盤状	2/3	径 3.3	—	厚さ 0.1						中央に0.1cmの貫通孔
図30 344	木製品	棒状	完形	長さ 21.1	幅 1.1	厚さ 0.7						
図30 345	木製品	棒状	完形	長さ 24.3	幅 1.0	厚さ 1.2						
図30 346	貝製品	基石	小片	長さ 2.2	幅 2.2	厚さ 0.4	3.4					
図31 347	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.5	5.7	1.5	47.7	やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図31 348	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	11.4	6.7	3.1	125.7	やや粗	橙	ナデ	板状	
図31 349	鉄製品	用途不明	不明	長さ 5.3	幅 4.1	厚さ 0.4						
図31 350	木製品	漆器 椀	口縁欠	—	6.4	[5.0]						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図31 351	木製品	漆器 皿	一部欠	9.4	5.8	0.9						
図31 352	木製品	円盤状	1/2	径 10.0	—	厚さ 0.2						
図31 353	木製品	草履芯	一部欠	長さ [21.8]	幅 9.7	厚さ 0.2						
図31 354	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 23.8	幅 [5.5]	厚さ 0.6						
図31 355	木製品	用途不明	完形	長さ 17.8	幅 3.8	厚さ 3.7						調度具の部材か
図31 356	木製品	用途不明 板	不明	長さ [17.5]	幅 3.3	厚さ 1.3						
図31 357	木製品	栓	完形	長さ 4.0	幅 2.7	厚さ 2.8						
図31 358	木製品	用途不明 板	不明	長さ [29.0]	幅 [7.4]	厚さ 0.4						
図32 359	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ完形	7.1	4.7	1.9	45.2	やや粗	淡橙	ナデ	板状	
図32 360	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	7.8	5.0	1.9	69.2	やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図32 361	在地土器	かわらけ ロクロ 小	完形	8.7	7.5	1.9	73.4	やや粗	赤橙	ナデ	板状	
図32 362	在地土器	かわらけ ロクロ 大	4/5	12.2	7.7	3.2		やや粗	灰黄	ナデ	板状	
図32 363	在地土器	かわらけ ロクロ 大	4/5	12.1	8.0	3.3		やや粗	橙	ナデ	板状	
図32 364	在地土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ 完形	12.1	7.8	3.3	183.5	やや粗	橙	ナデ	板状	
図32 365	在地土器	かわらけ ロクロ 小	ほぼ 完形	12.3	8.7	3.4	210.8	やや粗	橙	ナデ	板状	灯明皿
図32 366	舶載陶器	緑釉陶器 水注?	口小片	(4.8)	—	[3.8]			緑			
図32 367	国産陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口1/6 ~底1/2	(31.0)	(14.8)	(12.8)			暗赤褐			
図32 368	銅製品	銭	完形	直径 2.5	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.3					祥符通貨(北宋1008年) 真書
図32 369	銅製品	銭	完形	直径 2.3	孔径 0.7	厚さ 0.1	3.6					銭銘不明
図32 370	木製品	漆器 皿	底小片	—	[5.2]	[0.5]						
図32 371	木製品	漆器 椀?	小片	—	—	[3.5]						
図32 372	木製品	漆器 皿	2/3	(8.6)	—	1.2						
図32 373	木製品	漆器 皿	底完存	—	9.0	[0.4]						
図32 374	木製品	漆器 碗	底小片	—	[6.8]	[2.9]						
図32 375	木製品	漆器 椀	体小片	—	—	[3.2]						
図32 376	木製品	漆器 椀?	体小片	—	—	[2.2]						
図32 377	木製品	漆器 椀か皿	口小片	—	—	[1.1]						
図32 378	木製品	用途不明 板	一部欠	14.8	6.0	0.5						黒色系漆髹漆
図32 379	木製品	板杓子?	一部欠	長さ [19.6]	幅 6.7	厚さ 0.8						
図32 380	木製品	板杓子	柄欠	長さ [16.1]	幅 8.8	厚さ 0.4						細かな刃物痕多い
図33 381	木製品	蓋?	1/2	径 28.8	—	厚さ 0.7						
図33 382	木製品	曲物 底板?	2/3	径 10.2	—	厚さ 0.8						
図33 383	木製品	曲物 底板	1/2	径 21.0	—	厚さ 0.9						
図33 384	木製品	連歯下駄	一部欠	長さ 22.8	幅 10.1	高さ 3.3						
図33 385	木製品	連歯下駄	一部欠	長さ 17.5	幅 8.5	高さ 2.4						前歯、後歯とも焼け焦げ

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図33 386	木製品	横櫛	1/2弱	[4.7]	[4.0]	1.1						
図34 387	木製品	草履芯	完形	長さ 23.5	幅 10.6	厚さ 0.2						
図34 388	木製品	草履芯	1/2	長さ 23.9	幅 [5.5]	厚さ 0.2						
図34 389	木製品	草履芯	1/2	長さ 23.5	幅 [5.3]	厚さ 0.3						
図34 390	木製品	草履芯	1/2	長さ 24.4	幅 [4.8]	厚さ 0.2						
図34 391	木製品	草履芯	1/2弱	長さ [23.5]	幅 5.3	厚さ 0.2						
図34 392	木製品	草履芯	1/2	長さ 23.5	幅 [4.7]	厚さ 0.2						
図34 393	木製品	草履芯	1/2	長さ 22.9	幅 [4.0]	厚さ 0.2						
図34 394	木製品	草履芯	1/2	長さ 24.5	幅 [3.7]	厚さ 0.3						
図34 395	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 23.2	幅 [3.2]	厚さ 0.2						
図34 396	木製品	草履芯	1/4強	長さ [15.0]	幅 [5.2]	厚さ 0.4						
図34 397	木製品	刀形?	一部欠	長さ [19.0]	幅 2.7	厚さ 0.5						黒色系漆髹漆
図34 398	木製品	毬 球	一部欠	長さ 7.6	幅 7.7	厚さ 7.0						
図34 399	木製品	用途不明	完形	長さ 11.1	幅 6.4	厚さ 0.6						
図34 400	木製品	用途不明	完形	長さ 15.4	幅 6.8	厚さ 0.7						
図35 401	木製品	円盤状	完形	径 3.4	—	厚さ 0.2						中心に0.2cmの貫通孔 402と重なって出土
図35 402	木製品	円盤状	一部欠	径 3.4	—	厚さ0.2						中心に0.2cmの貫通孔 401とは重なって出土
図35 403	木製品	栓?	完形	長さ 21.6	幅 0.6	厚さ 0.4						
図35 404	木製品	用途不明 板	小片	長さ [14.3]	幅 1.5	厚さ 0.4						刃物痕
図35 405	木製品	串状	完形	長さ 21.7	幅 0.5	厚さ 0.5						
図35 406	木製品	筥状?	一部欠	長さ 15.4	幅 1.2	厚さ 0.7						
図35 407	木製品	草履芯	1/4	長さ 23.5	幅 [2.0]	厚さ 0.1						
図35 408	木製品	刀形?	一部欠	長さ [23.4]	幅 3.0	厚さ 0.8						先端両面削り
図35 409	木製品	用途不明	一部欠	長さ [24.7]	幅 2.2	厚さ 0.6						先端を尖らせる
図35 410	木製品	棒状	完形	長さ24.0	幅1.1	厚さ0.9						
図35 411	木製品	棒状	完形	長さ26.1	幅 0.5	厚さ 0.4						
図35 412	木製品	棒状	完形	長さ32.2	幅0.6	厚さ0.3						
図35 413	木製品	両端串状	完形	長さ40.5	幅 0.7	厚さ 0.5						
図35 414	木製品	用途不明	完形	長さ7.8	幅 2.6	厚さ 0.4						
図35 415	骨製品	用途不明 加工品	完形	長さ 29.3	幅 1.1	厚さ 0.7						
図36 416	在地土器	内折かわらけ ロクロ 極小	完形	4.2	2.3	1.3	15.6	密	明橙灰	ナデ	板状	
図36 417	在地土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ 完形	12.6	7.4	3.5	178.7	粗	暗橙灰	ナデ	板状	
図36 418	在地土器	かわらけ ロクロ 大	一部欠	12.2	7.4	3.2	118.2	やや粗	橙灰	ナデ	板状	
図36 419	木製品	板杓子	完形	長さ 15.0	幅 3.6	厚さ 0.2						形代か
図36 420	木製品	円形木製品	2/3	径 10.0	—	厚さ 0.7						

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ 胎土ほかの特徴
				口径	底径	器高						
図36 421	木製品	曲物 底板?	1/2	径 [16.3]	—	厚さ 0.6						
図36 422	木製品	曲物 底板	1/2弱	径 (15.6)	—	厚さ 1.0						
図36 423	木製品	草履芯	1/2弱	長さ [23.7]	幅 [5.2]	厚さ 0.3						
図36 424	木製品	草履芯	1/2弱	長さ [23.7]	幅 [5.2]	厚さ 0.3						
図36 425	木製品	草履芯	1/4弱	長さ [15.0]	幅 [4.7]	厚さ 0.3						
図36 426	木製品	草履芯	1/2弱	長さ 19.8	幅 [3.2]	厚さ 0.25						
図36 427	木製品	用途不明	完形	長さ 39.5	幅 3.8	厚さ 1.0						
図36 428	木製品	毬杖球	一部欠	長さ 3.0	幅 2.8	厚さ 2.2						
図36 429	木製品	用途不明 板	不明	長さ [12.7]	幅 [16.2]	厚さ 1.7						
図37 430	在出土器	かわらけ ロクロ 小	完形	8.3	5.5	1.7	58.9	やや粗	黄灰	ナデ	板状	
図37 431	舶載磁器	青白磁 合子蓋	1/5	—	—	[1.6]			淡水			
図37 432	国産陶器	東濃型 山茶碗	底小片	—	—	[4.5]			黄橙			高台端部に靱殻痕
図37 433	木製品	漆器 皿?	底小片	—	—	[1.1]						
図37 434	木製品	用途不明	一部欠	長さ [11.0]	幅 [3.4]	厚さ 0.6						
図37 435	木製品	折敷	1/3	長さ 18.9	幅 [6.2]	厚さ 0.1						
図37 436	木製品	棒状	完形	長さ 17.8	幅 0.14	厚さ 0.12						
図37 437	木製品	棒状	完形	長さ 22.6	幅 0.7	厚さ 0.5						
図37 438	木製品	棒状	完形	長さ 21.0	幅 0.5	厚さ 0.4						
図37 439	木製品	火付木?	完形	長さ 19.2	幅 0.6	厚さ 0.6						
図37 440	木製品	火付木?	完形	長さ 23.6	幅 0.8	厚さ 0.7						
図37 441	木製品	連齒下駄	一部欠	長さ [20.0]	幅 9.4	高さ 4.0						鼻緒孔に木釘遺存
図37 442	木製品	草履芯	完形	長さ 16.2	幅 7.8	厚さ 0.3						
図37 443	木製品	串状	完形	長さ 17.5	幅 0.6	厚さ 0.4						
図37 444	木製品	箸状	完形	長さ 17.0	幅 0.6	厚さ 0.4						
図37 445	木製品	棒状	完形	長さ 17.2	幅 0.7	厚さ 0.4						
図37 446	在出土器	かわらけ ロクロ 大	ほぼ 完形	12.2	7.0	3.2	164.9	粗	暗橙灰	ナデ	板状	
図37 447	国産陶器	常滑 甕	口小片	—	—	[7.6]			暗赤褐			
図37 448	国産陶器	常滑 甕	胴小片	—	—	[12.5]			灰白/褐			
図38 449	鉄製品	刀子?	完形	長さ [17.9]	幅 2.6	厚さ 0.6	[71.9]					刃部長17.0cm
図38 450	銅製品	銭	完形	外径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.8					
図38 451	銅製品	銭	完形	外径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	3.8					
図38 452	銅製品	銭	完形	外径 2.4	孔径 0.6	厚さ 0.1	4.0					□宋通寶
図38 453	銅製品	銭	ほぼ 完形	12.2	7.0	3.2	3.5					
図38 454	銅製品	一銭硬貨	ほぼ 完形	12.2	7.0	3.2	6.9					「明治二十一年」

表3 出土遺物数量表

種別 産地等	器種	分類	破片数	重量 (g)
表土				
ロクロかわらけ	小		25	291
	大		136	2736
	特大		1	280
	小片		31	192
白磁	皿	IX	2	3
	合子身		1	16
青白磁	壺		2	14
	梅瓶		5	32
龍泉窯系青磁	器台		1	18
	折縁皿		5	41
	碗	I	2	27
		II or III	2	7
		III	1	6
		3	17	
舶載陶器	褐釉壺		2	22
瀬戸	天目茶碗		1	9
	平碗		1	24
	入子		1	3
	柄付片口		2	217
	縁釉小皿		1	11
	折縁小皿		3	58
	折縁皿		12	237
	卸皿		3	107
	碗・皿		15	293
	瓶子		1	91
	小壺・水滴		2	94
	袋物		9	331
	備前	すり鉢		4
片口鉢		I	7	255
	II	19	1215	
常滑	壺		85	5899
	転用研磨具		4	245
瓦質土器	火鉢	III	1	27
		IV	3	193
			5	238
瓦	風炉		1	197
	軒平		2	700
	平瓦		4	503
鉄製品	釘		3	20
	板状		1	23
銅製品	銭		9	33
鋳滓	スラグ		3	69
石製品	滑石鍋転用		1	511
	西彼杵 滑石片		3	107
	赤間紫石 硯		1	55
	雄勝石 硯石		1	5
	天草 中砥		4	846
	伊予 中砥		2	228
	上野 砥沢砥		1	36
	上野 中砥		2	217
	産地不明 中砥		1	71
	産地不明 中砥		3	44
	鳴滝 仕上砥		5	77
石英 火打石		1	10	
土製品	土錘		1	24
自然遺物	獣骨		11	
			2	
土器	焙烙		1	27
	埴塼		1	145
肥前系磁器	染付碗		7	233
不明磁器	不明		2	70
瀬戸・美濃	大皿		1	59
	染付碗・壺		6	35

瀬戸・美濃	袋物		2	123
	不明		1	11
志野	鉢		1	79
堺・明石	すり鉢		1	22
不明陶器	不明		2	31
I期 1面上				
ロクロかわらけ	小		17	270
	大		49	775
	小片		8	31
白磁	皿	IX	3	18
青白磁	梅瓶		1	29
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	4
舶載陶器	緑釉盤		1	18
	天目茶碗		1	13
	碗・皿		5	85
	柄付片口		1	32
	折縁皿		1	13
	卸皿		2	25
	花瓶		1	17
常滑	袋物		3	187
	壺		1	65
	壺		36	2860
瀬戸	片口鉢	II	1	77
	壺		2	62
渥美	香炉		1	18
	火鉢		2	175
瓦質土器	平瓦		1	117
銅製品	銭		2	7
石製品	鳴滝 仕上砥		2	84
	鳴滝 仕上砥	17c~	1	27
自然遺物	アワビ		1	
	ツメタガイ		1	
	獣骨		3	
I期 1面 攪乱1				
瀬戸	入子		1	13
不明磁器	皿		1	48
I期 I面 攪乱2				
ロクロかわらけ	大		6	138
龍泉窯系青磁	坏	III	1	11
瀬戸	花瓶		1	41
常滑	壺		2	122
I期 I面 攪乱3				
ロクロかわらけ	小		1	3
	大		11	128
瀬戸	卸皿		1	23
	碗		1	22
常滑	片口鉢	I	2	14
	壺		4	209
瓦質土器	火鉢		1	37
石製品	上野 中砥		1	39
	笹口 荒砥		1	345
肥前系磁器	染付碗		1	21
I期 道路上				
ロクロかわらけ	小		2	26
	大		23	293
	小片		3	3
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	8
	坏	III	1	6
	袋物		1	3
常滑	片口鉢	II	2	159
	壺		9	256
瓦器	坏		1	1
瓦質土器	火鉢		2	84
石製品	西彼杵 滑石鍋		1	82
自然遺物	パイ		1	

土器	焙烙		1	43
I 期 土坑1				
ロクロかわらけ	大		5	82
白磁	皿	X	1	5
白磁	四耳壺		1	19
青白磁	梅瓶		1	2
常滑	甕		8	109
石製品	滑石鍋		1	84
I 期 土坑3				
ロクロかわらけ	小		4	45
瀬戸	入子		2	34
	卸皿		2	29
瀬戸	天目		1	10
常滑	甕		3	240
瓦質土器	香炉		1	5
	火鉢		2	57
自然遺物	獣骨		3	
I 期 土坑4				
ロクロかわらけ	大		3	28
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	5
瓦質土器	香炉		1	17
	火鉢		3	50
瀬戸	卸皿		1	22
	花瓶		1	31
常滑	甕		2	31
石製品	西彼杵 滑石鍋		1	49
	天草 中砥		1	80
自然遺物	獣骨		1	
I 期 土坑5				
ロクロかわらけ	小		3	17
	大		28	760
	小片		2	3
ロクロ白かわらけ	大		1	6
常滑	片口鉢	II	2	620
備前	すり鉢		1	79
瓦質土器	火鉢		1	60
鉄製品	刀子		1	45
銅製品	銭		2	7
石製品	砥石		1	46
堺・明石	すり鉢		1	32
I 期 土坑6				
ロクロかわらけ	小		5	45
	大		5	264
龍泉窯系青磁	坏	III	1	6
瀬戸	花瓶		2	461
	袋物		2	90
常滑	甕		4	505
鉄製品	釘		1	15
土製品	管状土錘		1	11
I 期 土坑7				
ロクロかわらけ	小		17	267
	大		103	1775
	小片		24	87
白磁	皿	IX	1	8
青白磁	梅瓶		1	9
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	4
	坏	III	1	47
	碗・皿		3	10
瀬戸	入子		1	60
	洗		1	9
	折縁皿		2	29
	折縁小皿		1	5
	卸皿		1	5
	碗・皿		2	5
	花瓶		2	141

瀬戸	袋物		1	5
常滑	片口鉢	I	6	121
		II	21	1340
	甕		26	1310
渥美	甕		3	106
東濃型	山茶碗		1	8
東播	片口鉢		5	192
瓦質土器	香炉		4	103
		火鉢	III	1
	その他	IV	1	23
			11	488
瓦	平瓦		1	9
銅製品	銭		3	7
石製品	伊予 中砥		4	76
	上野 上唐川 砥石	16c後半~	1	79
	鳴滝 仕上砥		2	66
自然遺物	獣骨		1	
土器	焙烙		4	171
肥前系磁器	染付碗		4	28
瀬戸・美濃	すり鉢		1	34
	袋物		1	78
不明陶器	壺		3	119
I 期 ピット1				
ロクロかわらけ	小		2	27
	大		11	105
	小片		4	15
I 期 ピット2				
ロクロかわらけ	小		3	16
	大		4	51
青白磁	水注		1	1
瀬戸	皿		1	34
常滑	片口鉢	II	1	39
	甕		1	21
瓦質土器	風炉		1	63
鉄製品	釘		2	41
I 期 ピット3				
ロクロかわらけ	小		6	21
	大		2	17
瀬戸	折縁皿		2	25
常滑	甕		3	124
鉄製品	釘		1	9
石	緑泥片岩		1	15
I 期 ピット4				
ロクロかわらけ	大		2	16
瀬戸	卸皿		1	78
常滑	甕		4	186
瓦質土器	火鉢		2	148
石製品	鳴滝 硯石		1	17
I 期 ピット5				
ロクロかわらけ	小		4	22
	大		6	154
常滑	片口鉢	I	1	25
	甕		1	46
自然遺物	獣骨		1	
I 期 ピット6				
ロクロかわらけ	小		3	9
	大		4	38
常滑	片口鉢	II	1	26
	甕		1	63
備前	すり鉢		1	42
I 期 ピット7				
ロクロかわらけ	小		2	6
	大		6	33
鉄製品	釘		1	4

自然遺物	獣骨		1	
I 期 ピット8				
ロクロかわらけ	大		23	448
龍泉窯系青磁	碗	III	1	15
	坏	III	1	3
常滑	片口鉢	II	1	133
	甕		2	94
石製品	仕上砥		1	22
漆喰			1	13
I 期 ピット9				
ロクロかわらけ	大		10	38
青白磁	碗・皿		1	1
常滑	甕		3	130
瓦	平瓦		1	46
鉄製品	釘		1	4
石製品	滑石鍋		1	329
I 期 ピット10				
ロクロかわらけ	大		3	25
瀬戸	碗・皿		1	2
	香炉		1	34
常滑	甕		2	209
瓦	平瓦		1	23
石製品	中砥?		1	44
	鳴滝 仕上砥		1	44
	石英 火打石		1	26
骨製品	筭		1	2
I 期 ピット11				
常滑	甕		2	225
I 期 ピット12				
ロクロかわらけ	小		7	67
ロクロかわらけ	大		11	223
龍泉窯系青磁	皿	I	1	4
瀬戸	折縁皿		1	52
	花瓶		1	9
	瓶子		1	6
	小片		1	2
常滑	甕		6	400
	転用研磨具		1	73
I 期 ピット13				
瀬戸	水注		1	36
II 期 道路中央				
ロクロかわらけ	小		14	224
	大		166	2545
	小片		21	95
手づくねかわらけ	大		1	11
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	16
瀬戸	柄付片口		1	51
	緑釉小皿		1	13
常滑	碗		1	29
	片口鉢	II	11	885
	甕		25	1571
渥美	甕		2	92
瓦器	碗		1	4
瓦質土器	火鉢	IV	1	78
			1	25
石製品	鳴滝高雄 工芸品		1	14
	鳴滝巢板 工芸品?		1	25
鉄製品	釘		3	18
銅製品	銭		3	11
自然遺物	獣骨		3	
不明	不明		2	56
不明磁器	染付碗		1	2
II 期 道路西部				
ロクロかわらけ	小		10	98

ロクロかわらけ	大		54	870
	小片		10	20
白磁	皿	IX	1	13
龍泉窯系青磁	碗	I	1	17
		II or III	2	21
	碗・皿		1	1
	坏	III	2	32
瀬戸	酒会壺		1	70
	折縁皿		8	289
	小壺		1	3
鉄製品	袋物		5	135
	釘		1	7
常滑	片口鉢	I	1	12
		II	8	720
	壺		1	47
	甕		30	2176
	転用研磨具		1	54
備前	すり鉢		2	178
瓦質土器	火鉢	IV	1	27
			5	227
銅製品	銭		1	4
鉄滓	スラグ		1	22
石製品	滑石鍋	西彼杵	1	126
	中砥	中砥	2	38
	鳴滝 仕上砥	16c後半~	2	120
	鳴滝 仕上砥	16c後半~	1	43
石材	石英		1	36
土製品	管状土鉢		1	22
自然遺物	獣骨		1	
II 期 道路直上				
ロクロかわらけ	小		2	15
ロクロかわらけ	大		12	109
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	13
常滑	甕		7	345
瓦質土器	火鉢		1	29
瓦	平瓦		1	101
鉄製品	釘		1	4
II 期 道路貼り増し土				
ロクロかわらけ	小		72	800
	大		366	7005
	小片		131	835
手づくねかわらけ	大		1	36
かわらけ	転用円盤		1	6
ロクロ白かわらけ	大		1	4
白磁	皿	IX	5	18
青白磁	合子?		2	5
龍泉窯系青磁	碗	II	1	8
		II or III	5	42
	碗・皿		2	5
	坏	III	3	11
	酒会壺		1	8
瀬戸	入子		1	11
	折縁皿		9	211
	卸皿		9	233
	香炉?		1	15
	袋物		7	276
	常滑	片口鉢	I	16
II			24	1345
壺			2	223
甕			105	5243
	転用研磨具		1	36
尾張型	山茶碗		1	5
渥美	甕		1	60
備前	すり鉢		3	173
瓦質土器	火鉢	IV	1	74
			9	475

瓦	軒平	上剣頭文	1	337
	丸瓦		1	112
石製品	滑石スタンプ		1	28
	滑石鍋	西彼杵	2	153
	赤間紫石 懸子硯		1	211
	鳴滝 仕上砥		11	228
	鳴滝 仕上砥	17c~	2	18
鉄製品	釘		4	47
	刀子		1	77
銅製品	釘隠し		1	1
	銭		6	17
鋳滓	鉄滓		1	9
自然遺物	獣骨		12	
瀬戸・美濃	花瓶		1	13
II期 溝1上層				
ロクロかわらけ	小		10	194
	大		42	750
	小片		6	23
白磁	皿	IX	1	5
	壺		1	12
	水注?		1	1
龍泉窯系青磁	碗	II or III	3	42
	碗・皿		3	15
	坏	III	2	11
	袋物		2	50
瀬戸	柄付片口		2	145
	折縁皿		9	269
	御皿		3	62
	袋物		1	12
常滑	片口鉢	I	2	39
		II	6	440
	甕		46	5820
渥美	甕		1	29
渥美?	鉢?		1	13
瓦質土器	火鉢		3	135
石製品	西彼杵 滑石鍋		1	128
	西彼杵 滑石温石		2	471
	西彼杵 滑石片		2	65
	天草 中砥		1	225
	伊予 中砥		1	252
	上野 上唐川 砥石	16c後半~	1	166
	鳴滝 仕上砥		4	139
	石英 火打石		1	16
鉄製品	釘		6	77
銅製品	銭		1	3
鋳滓	鉄滓		1	216
自然遺物	獣骨		3	
II期 溝1下層				
ロクロかわらけ	小		19	369
ロクロかわらけ	大		108	4391
	小片		3	8
ロクロ白かわらけ			1	2
青白磁	梅瓶		1	12
	水注		1	4
龍泉窯系青磁	碗	II	1	34
		II or III	5	24
舶載陶器	褐釉壺		1	30
瀬戸	折縁		2	42
	御皿		2	124
	瓶子		1	243
常滑	片口鉢	I	6	209
		II	6	474
常滑	甕		35	2800
	すり常滑		2	80
瓦質土器	火鉢	III	1	53
瓦	丸瓦	I	1	102

石製品	天草 中砥		1	98
	伊予 中砥		1	24
	仕上砥 鳴滝		6	155
石材	石英		1	3
鉄製品	釘		15	134
銅製品	銭		3	13
自然遺物	獣骨		11	
II期 溝1掘方				
ロクロかわらけ	小		7	130
	大		30	615
	小片		8	30
白磁	合子?		1	3
青白磁	梅瓶		1	30
龍泉窯系青磁	碗	I or II	1	79
		II or III	1	10
瀬戸	折縁皿		2	182
常滑	片口鉢	I	3	426
		II	1	45
	甕		9	780
瓦	丸瓦		1	48
鉄製品	釘		3	19
自然遺物	獣骨	クジラ他	2	
II期 溝1				
ロクロかわらけ	小		56	1046
	大		327	7276
	大		1	22
白磁	皿	IX	4	21
	壺		1	7
青白磁	梅瓶		2	84
龍泉窯系青磁	碗	I or II	1	63
		II	1	99
		II or III	4	34
		III	1	24
瀬戸	折縁		3	43
	御皿		2	87
	花瓶		1	13
	袋物		4	178
常滑	片口鉢	I	4	152
		II	18	140
	甕		65	4358
渥美	甕		2	118
備前	すり鉢		1	27
瓦質土器	火鉢	I	2	215
		II	1	54
			10	835
瓦	平瓦		1	333
土製品	円盤状		1	30
	輪羽口		1	275
石製品	天草 中砥		1	75
	合掌寺 中砥		4	194
	仕上砥 鳴滝		2	26
	仕上砥 鳴滝		3	57
	瀬戸内~九州北部 中砥		1	66
	産地不明		1	41
自然遺物	獣骨		16	
II期 土坑1				
ロクロかわらけ	小		7	58
	大		19	479
	小片		3	18
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	16
常滑	片口鉢	I	1	72
		II	15	1800
	甕		11	865
龜山	甕		1	28
瓦質土器	火鉢		2	184

石製品	鳴滝 砥石原材	16c~	1	187
Ⅱ期 土坑2				
ロクロかわらけ	大		21	315
	小片		5	34
ロクロ 白かわらけ	大		1	5
	常滑	片口鉢	Ⅱ	106
瓦質土器	火鉢		1	77
鉄製品	釘		1	3
Ⅱ期 土坑3				
ロクロかわらけ	大		2	24
常滑	甕		3	58
Ⅱ期 土坑4				
ロクロかわらけ	小		1	13
	大		10	247
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	35
	甕		4	492
瓦質土器	火鉢		1	285
Ⅱ期 土坑5				
ロクロかわらけ	大		1	5
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	4
東播系	片口鉢		1	52
Ⅱ期 土坑6				
石製品	鳴滝 硯	鳴滝	1	35
石製品	上野沼田 砥石	16c~	1	59
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	75
ロクロかわらけ	大		4	44
Ⅱ期 ピット1				
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	176
Ⅱ期 ピット3				
ロクロかわらけ	大		6	76
銅製品	銭		2	5
自然遺物	獣骨		1	
Ⅱ期 ピット5				
ロクロかわらけ	大		2	24
常滑	甕		1	29
Ⅲ期 道路直上				
ロクロかわらけ	小		1	10
	大		21	266
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ	1	33
瀬戸	折縁皿?		1	13
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	27
		Ⅱ	3	156
	甕		5	235
銅製品	銭		4	16
石製品	鳴滝 硯		1	22
	鳴滝 仕上砥		1	8
自然遺物	アワビ		1	
	キサゴ		7	
	ハマグリ		4	
	獣骨		1	
須恵器	甕		1	14
Ⅲ期 道路貼り増し土				
ロクロかわらけ	大		6	58
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ or Ⅲ	2	14
瀬戸	卸皿		1	14
	花瓶		1	11
常滑	片口鉢	Ⅰ	1	19
		Ⅱ	1	125
	壺		1	43
	甕		4	145
瓦質土器	火鉢	Ⅱ	1	11
石製品	鳴滝 仕上砥		1	51
自然遺物	獣骨		3	

Ⅲ期 土坑1				
ロクロかわらけ	大		1	10
銅製品	銭		2	10
Ⅳ期 道路面上				
ロクロかわらけ	小		2	29
	大		12	187
手づくねかわらけ	小		1	25
	常滑	甕	6	269
銅製品	銭		1	5
自然遺物	ハマグリ		1	
	獣骨		6	
Ⅳ期 道路貼り増し土				
ロクロかわらけ	大		29	415
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ or Ⅲ	1	13
舶載陶器	緑釉盤		1	5
瀬戸	入子		1	10
	卸皿		1	17
	底卸目付		1	46
	袋物		5	320
常滑	片口鉢	Ⅰ	7	357
		Ⅱ	12	780
	甕		26	2035
	転用研磨具		1	52
東播系	片口鉢		2	90
瓦質土器	火鉢	Ⅲ	1	54
			7	551
銅製品	銭		1	4
石材	石英		1	7
自然遺物	アカニシ		1	
	獣骨		11	
Ⅳ期 溝状遺構1				
龍泉窯系青磁	碗	Ⅰ	1	20
常滑	甕		1	10
自然遺物	獣骨		1	
Ⅳ期 ピット1				
自然遺物	獣骨		3	
Ⅳ期 ピット2				
ロクロかわらけ	大		3	27
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ or Ⅲ	1	6
瀬戸	卸皿		1	6
	袋物		1	15
Ⅳ期 ピット4				
ロクロかわらけ	大		1	7
常滑	片口鉢	Ⅱ	2	93
	甕		2	144
Ⅳ期 ピット				
ロクロかわらけ	大		1	11
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	22
	甕		1	76
不明陶器	不明		1	17
Ⅴ期 道路東側				
ロクロかわらけ	大		30	487
	小片		10	36
青白磁	梅瓶		1	7
瀬戸	袋物		1	22
常滑	片口鉢	Ⅰ	2	67
	甕		20	1420
鉄製品	釘		1	8
銅製品	銭		2	8
石製品	上野 中砥		1	49
自然遺物	アカニシ		2	
	キサゴ		3	
	獣骨		11	

須恵器	甕		1	5
V期 道路西側				
ロクロかわらけ	大		24	312
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	10
常滑	片口鉢	II	3	125
	甕		7	650
渥美	甕		1	24
瓦質土器	火鉢	I	1	200
銅製品	銭		1	4
自然遺物	獣骨		15	
V期 ピット1				
常滑	壺		1	45
	甕		1	19
自然遺物	獣骨		2	
V期 ピット2				
ロクロかわらけ	大		1	7
常滑	甕		1	86
V期 ピット3				
ロクロかわらけ	大		4	39
V期 ピット7				
ロクロかわらけ	大		1	32
	小片		3	17
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	3
常滑	甕		2	163
瓦質土器	火鉢		1	22
V期 ピット10				
ロクロかわらけ	大		3	19
V期 ピット12				
ロクロかわらけ	小		1	2
	大		1	14
VI期 道路直上				
ロクロかわらけ	内折極小		1	11
	小		4	29
	大		20	234
	小片		3	6
龍泉窯系青磁	碗皿		2	4
	坏	III	1	7
瀬戸	入子		1	2
	袋物		1	5
常滑	甕		8	268
渥美	片口鉢		1	13
	甕		1	24
石製品		石英	1	3
自然遺物	獣骨		4	
VI期 道路西部				
ロクロかわらけ	小		3	54
	大		15	355
	小片		3	18
青白磁	合子		1	1
龍泉窯系青磁	碗	II or III	2	13
	坏	III	1	13
常滑	片口鉢	I	1	212
	壺		1	166
	甕		22	1090
渥美	片口鉢		1	33
	甕		1	27
東濃型	山茶碗		1	7
瓦質土器	火鉢		1	175
鉄製品	鉄滓		1	9
石製品	西彼杵 滑石温石		1	146
	鳴滝 仕上砥		1	5
	石英		1	10
自然遺物	獣骨		7	

VI期 落ち込み1				
ロクロかわらけ	小		1	8
	大		2	26
手づくねかわらけ	大		2	23
龍泉窯系青磁	碗	III	1	46
常滑	片口鉢	I	2	55
		II	2	111
	甕		1	68
銅製品	銭	一銭	1	7
VI期 溝1上層				
ロクロかわらけ	小		16	404
	大		69	1785
	小片		7	46
手づくねかわらけ	大		2	20
瀬戸	入子		1	30
	折縁深皿		1	320
	卸皿		1	28
	香炉		1	42
	碗		1	6
	片口鉢	II	2	115
常滑	壺		1	77
	甕		10	855
備前	すり鉢		1	47
瓦	棧瓦		1	134
石製品	西彼杵 滑石片	西彼杵	1	11
	天草 荒砥		1	475
	合掌寺 中砥		1	60
木製品	工具		1	
	自在鍵		1	
	草履芯		3	
	容器		1	
自然遺物	アカニシ		2	
	サルボウガイ		1	
	チョウセンハマグリ		1	
	ハマグリ		1	
	パイ		1	
	サザエ蓋		1	
	キサゴ		1	
	ツメタガイ		4	
	シオフキガイ		1	
獣骨		5		
VI期 溝1下層				
ロクロかわらけ	小		60	1105
	大		169	3655
	特大		1	94
龍泉窯系青磁	碗	I	1	10
	碗	II or III	4	38
瀬戸	折縁・皿		2	27
	瓶子		1	9
常滑	片口鉢	I	2	101
		II	11	1000
	甕		37	2125
	転用研磨具		1	118
瓦質土器	壺		2	118
	火鉢		5	414
土器	鏝釜		1	26
	平瓦		1	71
瓦	丸瓦		1	89
	銭		4	12
銅製品	滑石片		1	15
	対馬 漆砥?		1	15
	鳴滝 仕上砥		1	15
	笹口? 砥石端材		1	20
土製品	轆羽口		2	301
木製品	漆器皿		2	
	草履芯		4	

木製品	箸状		30	
	容器(底)		1	
	円盤状		3	
	形代		1	
	不明		1	
自然遺物	アカニシ		11	
	チョウセンハマグリ		1	
	ツメタガイ		15	
	バイ		6	
	ハマグリ		7	
	獣骨		16	
	桃核		1	
VI期 溝1木器層				
ロクロかわらけ	大		7	333
龍泉窯系青磁	碗	II or III	1	9
常滑	片口鉢	I	1	24
	甕		3	305
石製品	硯	鳴滝	1	45
木製品	漆器皿		2	
	毬杖球		1	
	箸状		2	
	へら状		1	
	容器		1	
自然遺物	桜皮		1	
	獣骨		5	
VI期 溝1掘方東側				
ロクロかわらけ	小		2	24
	大		11	173
瀬戸	卸皿		1	142
	不明		1	3
常滑	片口鉢	I	2	177
		II	1	93
	甕		10	710
渥美	甕		1	67
亀山	甕		1	35
石製品	産地不明 砥石?		1	19
自然遺物	アカニシ		1	
	チョウセンハマグリ		1	
	ツメタガイ		2	
	獣骨		4	
VI期 溝1掘方西側				
ロクロかわらけ	小		5	62
	大		14	337
	小片		5	41
手づくねかわらけ	小		1	9
白磁	四耳壺		1	26
常滑	片口鉢	II	1	75
	甕		5	226
瓦質土器	火鉢		1	32
土製品	轡羽口		1	78
木製品	漆器椀		1	
	箸状		4	
	容器(底)		1	
	円盤状		1	
	板状		2	
	建具		1	
自然遺物	アカニシ		1	
	アワビ		1	
	キサゴ		1	
	サザエ蓋		1	
	チョウセンハマグリ		1	
	ハマグリ		1	
	獣骨		8	
須恵器	蓋		1	16
VI期下				
ロクロかわらけ	小		4	65

ロクロかわらけ	大		33	650
	小片		4	12
手づくねかわらけ	小		1	14
	大		3	32
龍泉窯系青磁	碗	III	1	4
常滑	片口鉢	I	3	47
		II	1	47
			6	238
瓦質土器	火鉢		1	43
土器	鍔釜		1	21
瓦	平瓦	A	1	317
自然遺物	ハマグリ		2	
	キサゴ		3	
	バイ		1	
	獣骨		11	
VII期上 木器集中				
ロクロかわらけ	小		6	130
	大		16	580
	小片		7	33
手づくねかわらけ	小		2	41
	大		4	132
白磁	皿	IX	2	9
青白磁	皿		1	4
	小壺?		1	3
同安窯系青磁	碗	I	1	28
龍泉窯系青磁	碗	I or II	1	50
		II or III	3	15
			1	5
常滑	片口鉢	I	4	263
		II	3	173
			43	2735
渥美	片口鉢		2	80
	壺		1	25
	甕		4	317
亀山	甕		1	232
鉄製品	釘		2	11
	火打金		1	29
銅製品	すり銭		1	1
土製品	轡羽口		1	188
木製品	漆器皿		1	
	漆器椀		1	
	下駄		1	
	草履芯		4	
	箸状		15	
	棒状		1	
	容器(底)		2	
	円盤状		2	
自然遺物	キサゴ		3	
	獣骨		10	
VII期 直上				
ロクロかわらけ	小		7	147
	大		44	800
ロクロかわらけ	小片		10	52
手づくねかわらけ	小		2	19
	大		13	246
手づくね白かわらけ	大		1	5
白磁	皿	IX	2	19
	袋物		1	5
青白磁	皿		1	3
龍泉窯系青磁	碗	I	1	20
		II	1	60
		II or III	1	8
		III	1	9
	碗?		1	13
瀬戸	袋物		1	15
常滑	片口鉢	I	2	107

常滑	片口鉢	II	1	51
	甕		36	1495
渥美	甕	III	2	110
瓦質土器	火鉢		2	62
銅製品	銭		1	3
石製品	産地不明 中砥		1	16
木製品	折敷		1	
	草履芯		1	
	箸状		16	
	簀木状		1	
	棒状		2	
自然遺物	キサゴ		1	
	ツメタガイ		1	
	ハマグリ		4	
近世磁器?	不明		1	2
Ⅶ期 道路面上				
ロクロかわらけ	大		1	18
龍泉窯系青磁	碗	II	2	8
常滑	片口鉢	I	1	9
		II	1	137
	甕		4	181
尾張型	山茶碗		1	17
渥美	片口碗		1	22
	甕		1	43
瓦質土器	火鉢	I	1	74
瓦	平瓦	A	1	308
自然遺物	獣骨		1	
Ⅶ期 土留め中				
ロクロかわらけ	小		4	56
	大		18	429
木製品	漆器皿		2	
	漆器椀		1	
	櫛		1	
	折敷		2	
	紡織具		1	
	草履芯		10	
	形代		1	
	箸状		29	
	棒状		8	
	円盤状		1	
Ⅶ期 落ち込み1				
ロクロかわらけ	内折極小		1	5
	小		1	6
	大		7	121
白磁	袋物		1	6
青白磁	合子蓋		1	3
常滑	片口鉢	I	2	184
	甕		1	31
木製品	漆器皿		1	
	草履芯		3	
	曲物 底板		1	
	箸状		12	
	円盤状		1	
自然遺物	サザエ蓋		1	
	ツメタガイ		3	
	バイ		1	
	ハマグリ		23	
	獣骨		2	
Ⅶ期 溝1				
ロクロかわらけ	小		7	89
	大		55	1095
	小片		9	34
白磁	袋物		1	24
青白磁	碗・皿		1	2
龍泉窯系青磁	碗	II or III	6	43

龍泉窯系青磁	坏	III	1	58
常滑	片口鉢	I	5	501
	片口鉢	II	2	329
	甕		14	1095
	すり常滑		1	38
瓦質土器	火鉢		1	426
銅製品	銭		1	3
石製品	鳴滝 仕上砥		1	74
木製品	草履芯		2	
	箸状		1	
自然遺物	アカニシ		1	
	アワビ		1	
	ウミニナ		1	
	キサゴ		46	
	ツメタガイ		1	
	ハマグリ		28	
	獣骨		7	
	桃核		1	
Ⅶ期 (orⅧ期) 溝1掘方				
ロクロかわらけ	小		3	31
	大		8	441
	小片		3	11
手づくねかわらけ	大		5	128
舶載陶器	黄釉盤		1	14
常滑	片口鉢	I	3	293
	甕		11	477
渥美	片口鉢		2	71
	甕		1	76
瓦質土器	火鉢		1	120
鉄製品	釘		1	9
木製品	曲物		1	
	円盤状		1	
自然遺物	アカニシ		1	
	アワビ		1	
	キサゴ		12	
	チョウセンハマグリ		2	
	ハマグリ		4	
	獣骨		2	
Ⅶ期 土坑1				
ロクロかわらけ	小		33	675
	大		81	4079
	小片		10	38
手づくねかわらけ	大		2	26
白磁	皿	IX	3	12
舶載陶器	黄釉盤 (鉄絵)		1	17
	褐釉壺		1	23
瀬戸	瓶子		1	43
	袋物		1	48
常滑	片口鉢	I	1	22
		II	1	150
	甕		26	1745
	洗		1	29
渥美	甕		1	56
木製品	漆器皿		10	
	漆器椀		1	
	糸枠		1	
	折敷		8	
	毬杖		1	
	下駄		2	
	板杓子		1	
	草履芯		3	
	容器 (底)		3	
	容器 (蓋)		1	
木製品	箸状		358	
	棒状		1	
	部材 (建物)		5	

木製品	板		1	
	用途不明		1	
自然遺物	アワビ		1	
	キサゴ		2	
	ツメタガイ		2	
	パイ		1	
	ハマグリ		3	
	獣骨		3	
Ⅶ期 ピット1				
ロクロかわらけ	大		1	8
手づくねかわらけ	大		1	6
瓦質土器	火鉢		1	36
Ⅶ期 道路面上				
ロクロかわらけ	小		1	13
	大		31	558
手づくねかわらけ	小片		5	42
	小		1	28
常滑	大		10	180
	片口鉢	I	3	140
渥美	片口鉢	II	2	153
	甕		7	312
石製品?	産地不明 砥石?		1	61
自然遺物	獣骨		1	
Ⅶ期 溝1上層				
ロクロかわらけ	小		22	393
	大		151	2869
	小片		18	77
手づくねかわらけ	小		3	54
	大		9	197
白磁	碗	V?	1	12
	皿	IX	4	51
龍泉窯系青磁	碗	I	1	16
	碗	II or III	7	51
	坏	III	2	15
舶載陶磁器	褐釉壺		1	20
瀬戸	袋物		1	10
	瓶子		2	109
常滑	片口鉢	I	17	855
		II	6	388
	壺		1	28
	甕		137	8750
	洗		1	19
渥美	転用研磨具		1	108
	甕		9	548
瓦質土器	火鉢	I	1	289
	風炉		1	18
瓦	丸瓦		2	355
鉄製品	スラグ		2	90
石製品	上野砥沢 中砥		1	37
貝製品	ハマグリ 碁石?		1	3
木製品	漆器皿		5	
	漆器椀		3	
	下駄		2	
	草履芯		3	
	箸状		53	
	曲物蓋		1	
	円盤状		5	
	板状		1	
	桜の皮		1	
	不明品		1	
	自然遺物	アカニシ		5
アワビ			9	
キサゴ			7	
サザエ蓋			1	

自然遺物	カガミガイ?		1		
	サルボウガイ		1		
	ツメタガイ		5		
	パイ		1		
	パテイラ		1		
	チョウセンハマグリ		36		
	獣骨		35		
Ⅶ期 溝1下層					
ロクロかわらけ	小		21	383	
	大		124	3015	
	小片		10	45	
手づくねかわらけ	小		7	134	
	大		8	145	
ロクロ白かわらけ			1	13	
同安窯系青磁	皿	IX	2	14	
龍泉窯系青磁	碗		1	26	
		II or III	1	12	
瀬戸	坏	III	1	19	
常滑	卸皿		1	28	
			1	31	
			1	31	
常滑	片口鉢	I	19	1140	
		II	1	253	
			1	14	
尾張型	壺		61	3990	
渥美	山茶碗		2	30	
瓦質土器	片口鉢		1	39	
瓦	甕		6	306	
鉄製品	火鉢	I	1	51	
漆喰	平瓦		2	175	
木製品	板状		1	14	
			1	21	
		漆器碗		1	
		漆器片		1	
		草履芯		2	
		建具		2	
		調度品		1	
		曲物		1	
		箸状		9	
自然遺物	円盤状		1		
		桜皮		1	
		アカニシ		6	
		アワビ		4	
		キサゴ		1	
		サザエ		1	
灰釉陶器	碗	チョウセンハマグリ		9	
		パイ		5	
		ハマグリ		14	
		獣骨?		37	
Ⅶ期 溝1最下層					
ロクロかわらけ	小		30	620	
	大		344	8373	
	小片		45	132	
手づくねかわらけ	小		2	53	
	大		11	196	
白磁	皿	IX	3	30	
青白磁	水注		1	16	
同安窯系青磁	皿		1	8	
龍泉窯系青磁	碗	I	1	12	
龍泉窯系青磁	碗	II or III	3	31	
舶載陶器	緑釉壺?		1	8	
常滑	片口鉢	I	17	610	
		II	5	1330	
常滑	壺		3	234	
常滑	甕		90	5943	
渥美	甕		5	348	

瓦質土器	火鉢	I	4	605	
			3	147	
	風炉		1	168	
瓦	平瓦	A	2	113	
鉄製品	釘		1	4	
	刀子		1	77	
銅製品	銭		2	8	
石製品	滑石鍋		1	55	
土製品	轆羽口		1	142	
木製品	漆器皿		3		
	漆器椀		5		
	漆器盆		1		
	毬杖球		1		
	櫛		1		
	下駄		2		
	膳?		1		
	草履芯		17		
	板杓子		2		
	菜箸?		1		
	曲物		1		
	箸状		102		
	籌木状		26		
	へら状		2		
	円盤状		4		
	板状		2		
	部材		3		
	桜皮		2		
	自然遺物	アカニシ		3	
		アワビ		8	
カラス			2		
キサゴ			9		
サザエ蓋			1		
チョウセンハマグリ			17		
ツメタガイ			1		
バイ			4		
ハマグリ			40		
獣骨		40			
漆喰		2	157		
Ⅷ期 溝1掘方					
ロクロかわらけ	内折極小		1	16	
	小		3	68	
	大		17	305	
常滑	片口鉢	I	1	18	
	甕		14	910	
瓦	丸瓦		1	358	
木製品	草履芯		4		
	板杓子		1		
	曲物		2		
	箸状		21		
	球状		1		
	板状		2		
漆喰	部材(建物)		1		
自然遺物	アワビ		1		
	キサゴ		4		
	チョウセンハマグリ		2		
	ツメタガイ		2		
自然遺物	ハマグリ		4		
(Ⅶ期or)Ⅷ期 溝1					
ロクロかわらけ	小		30	394	
	大		126	3105	
	小片		7	16	
手づくねかわらけ	小		1	31	
	大		6	126	
土器	南伊勢型鍋		1	12	
白磁	皿	IX	1	5	

龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ orⅢ	4	24
常滑	片口鉢	I	7	508
	甕		34	920
渥美	甕		3	253
瓦質土器	火鉢		1	23
瓦	丸瓦		1	600
石製品	鳴滝 仕上砥		1	14
自然遺物	アカニシ		3	
	アワビ		3	
	キサゴ		4	
	チョウセンハマグリ		22	
	ツメタガイ		7	
	バイ		6	
	ハマグリ		32	
獣骨		25		
木製品	板		1	2
漆喰			1	77
Ⅷ期 溝2				
ロクロかわらけ	小		1	59
	大		36	730
ロクロかわらけ	小片		4	9
手づくねかわらけ	大		1	19
青白磁	合子蓋		1	7
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ orⅢ	2	15
常滑	片口鉢	Ⅱ	1	52
	甕		10	700
渥美	甕		1	19
東濃型	山茶碗		1	32
鉄製品?	不明		1	5
木製品	漆器皿		1	
	下駄		1	
	折敷		1	
	箸状		9	
	籌木状		1	
	円盤状		3	
	板状		1	
	アワビ		2	
自然遺物	ウミニナ		1	
	キサゴ		51	
	サザエ		2	
	サザエ蓋		1	
	サルボウ		1	
	チョウセンハマグリ		10	
自然遺物	ツメタガイ		3	
	バイ		1	
	ハマグリ		9	
	獣骨		19	
Ⅸ期 河川上層				
ロクロかわらけ	小		1	9
	大		23	297
手づくねかわらけ	大		1	18
龍泉窯系青磁	碗	Ⅱ orⅢ	1	5
常滑	片口鉢	I	1	49
	甕	Ⅱ	1	54
渥美	壺		6	264
自然遺物	獣骨		1	33
Ⅸ期 河川下層				
ロクロかわらけ	小		1	56
	大		9	145
手づくねかわらけ	大		2	32
常滑	甕		5	253
土製品	轆羽口		1	55
木製品	草履芯		1	
	箸状		28	
自然遺物	アワビ		1	

自然遺物	ハマグリ		2	
調査区西側 南壁				
ロクロかわらけ	大		1	165
常滑	甕		1	241
Ⅱ期 出土地不詳				
ロクロかわらけ	小		14	113
	大		44	890
	小片		13	67
白磁	皿	IX	1	4
龍泉窯系青磁	碗・皿		1	2
瀬戸	入子		1	2
	折縁皿		1	28
	花瓶		2	33
常滑	片口鉢	I	3	113
		II	4	281
	甕		9	468
自然遺物	獣骨		1	
時期・出土地不詳				
ロクロかわらけ	小		1	7
	大		38	564
	小片		14	33
手づくねかわらけ	大		3	56
白磁	皿	IX	2	13
同安窯系青磁	碗	I	1	22
龍泉窯系青磁	碗	I	1	11
		II or III	3	14
	劃花文皿		1	133
瀬戸	洗		1	26
	瓶子		1	5
常滑	片口鉢	I	1	11
		II	1	27
	甕		16	825
渥美	甕		2	45
瓦質土器	火鉢	I	1	107
石製品	鳴滝 仕上砥		1	29
自然遺物	アワビ		1	
	ツメタガイ		3	
	獣骨		6	
須恵器	甕		1	16

第五章 調査成果のまとめ

第1節 遺構の変遷と年代観

前章までに述べてきたように、本地点では中世最古段階のⅨ期において南北道路とその西側溝が構築されて以降、改修されながら連続と同じ機能を持つ遺構が展開し続けた状況を確認することができた。現行、調査地の東辺には「小町大路」が鎌倉市街地を南北に縦貫する主要道路として機能しているが、今回検出された中世段階の道路は、その前身遺構と考えると大過ないだろう。最初期（Ⅸ期）の道路面は調査区東辺部での僅かな検出範囲に留まったが、中世基盤層上を平坦に削っただけで新たな盛土整地を伴っていなかった。この段階の西側溝は中世基盤層を素掘りで開削しただけで、明確な護岸施設の痕跡は見取れなかった。この後、時期が下るにつれて泥岩による盛土を行って路盤を整え、側溝には杭と横板による護岸施設を設けるようになる。Ⅸ期と続くⅧ期には道路面は僅かな範囲に限られるが、Ⅶ期になると調査区の東側2/3程が泥岩を用いた盛土整地面となり、残り1/3程が西側溝となる。こうした状況が路盤の嵩上げと側溝の浚渫・掘り直しを繰り返しながらⅡ期まで続く。最も新しいⅠ期になると、調査区のほぼ全域が泥岩整地層で覆われるようになる。

各期の年代観であるが、第4章でも述べたように出土遺物に遺存良好な個体や一括廃棄の好例などが少ないこと、また、遺物の出土量が比較的多い各期の道路側溝については、新旧の特徴を有する遺物が混在してしまっていたケースがまま見られたことから、的確な年代観を絞り込むことができなかった。比較的古い様相を示す筈のⅧ期の溝1掘方では、かわらけの主体がロクロ成形品で（図36-416～418）、手づくね成形品に図示できる資料がなかった。資料の絶対数が少ない中ではあるが、Ⅷ期には手づくねが消失する13世紀中葉～後半の年代観を与えることができようか。

速報では13世紀中葉以降、14世紀後半および近世に至るまで、各期の年代観が段階的に下ることを述べているが（松吉・山口2012）、ここまで報告してきた出土遺物だけでは、それぞれに明確な年代を付与するのは難しいというのが正直な感想である。よって本報告では速報の所見を概ね踏襲しつつも、そこからはやや後退した、曖昧な年代提示に留めておきたい。この点については本地点単独ではなく、近隣での調査事例も参照しながら広く検討する必要があるだろう。

第2節 Ⅸ期道路側溝（「河川」）について

本地点で最も古い段階のⅨ期のうち、道路側溝については現地記録や速報での表現を踏襲して「河川」と表示した。時期的・形態的に近い特徴を持つ遺構は小町大路沿いの複数の発掘地点で確認されており、概ね「河川」という表現が取られている。かつて筆者は図1-地点⑤の報告書において、これら類例は以下の理由から自然流路ではなく人工溝と考えるべきと述べた（押木2015）。その理由として、①現行の小町大路に沿って直線的であること、②各地点、断面形態に斉一性があり、若宮大路をはじめとする中世鎌倉における主要道の初期形態が軒並み断面V字ないし逆台形の素掘り構造である点とも共通すること、の2点を挙げた。自然地形を見ても、中世基盤層が高い比較的安定した微高地を直線的に貫いている点是不自然であることから、ここで改めて人工溝という認識を示しておきたい。その開削時期は、小町大路前身道路の開通と重なっていると考えるのが妥当であろう。年代観については、溝底まで完掘

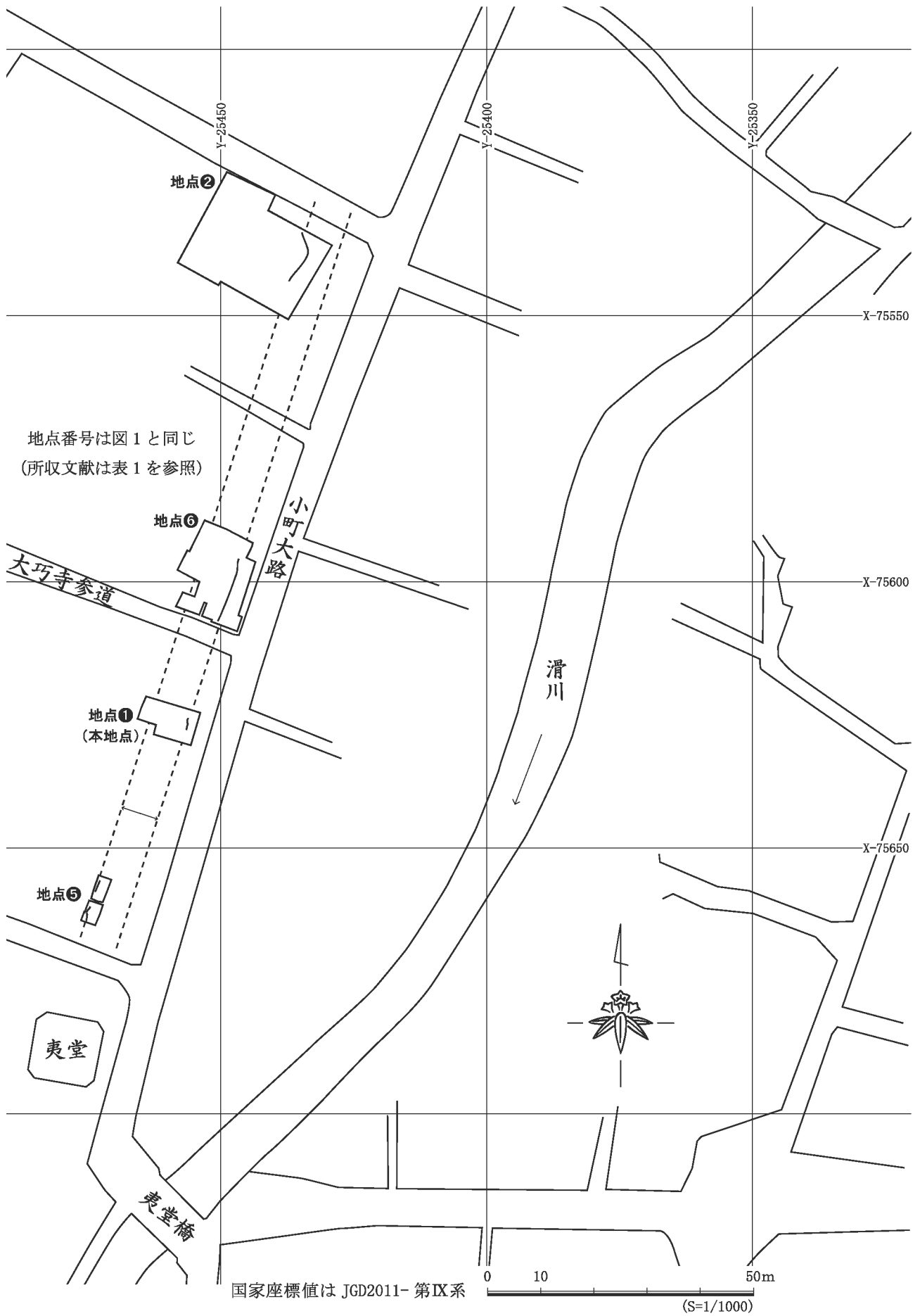


図 42 初期道路側溝の推定展開図

できた調査例がないため、現時点では特定に資する材料はないが、地点⑤では埋土出土遺物に一定量の手づくねかわらけを含んでいる点や、埋没後の西岸を切って竪穴建物が構築され始めるなどの諸状況を踏まえ、13世紀中頃までには完全に埋没したと考えている。いずれにせよ、この延長部で調査を行う際には、可能な限り溝底まで掘削できる準備をしておく必要があるだろう。

初期溝の幅についても、現状では一地点で東西両岸を確認できた調査例がなく、今の段階では相互に離れた複数地点の成果を結び付けて上幅7mという推定値を提示している。以下にその根拠とした合成復元図を再録しておく（押木前掲 - 図20を一部改変）。（引用文献は、表1を参照）



1. I期全景（北西から）



5. III期全景（北西から）



2. I期土坑2（西から）



6. IV期全景（北西から）



3. I期溝1（北から）



7. V期全景（北西から）



4. II期全景（北西から）



8. V期道路面（北から）

図版 2



1. VI期道路面（北から）



2. VI期溝 1（南から）



3. VI期溝 1 南部東側護岸材（西から）



4. VI期溝 1 北部東側護岸材（南から）



5. III～VI期溝 1 断面（南から）



6. III～VI期溝 1 西側杭（北西から）



1. VII期全景 (北西から)



5. VII期土坑 1 (北から)



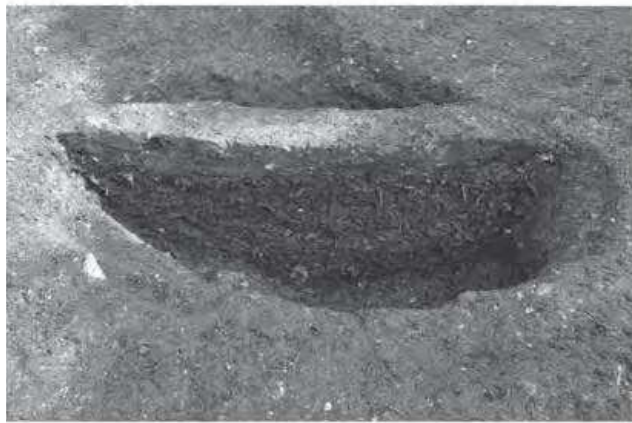
2. VII期溝 1 (南西から)



6. VIII期全景 (北西から)



3. VII期土留め杭 (東から)



4. VII期土坑 1 断面 (北から)



7. VIII期道路・溝 1 (南から)

図版 4



1. 調査区南壁断面（東半部・北から）
Ⅷ期溝1の埋没以降、泥岩ブロックによる道路舗装が施された様子が見て取れる



2. 調査区東壁断面（西から）
Ⅶ期以降の道路側溝の変遷が確認できる



1. 調査区東壁断面（西から）

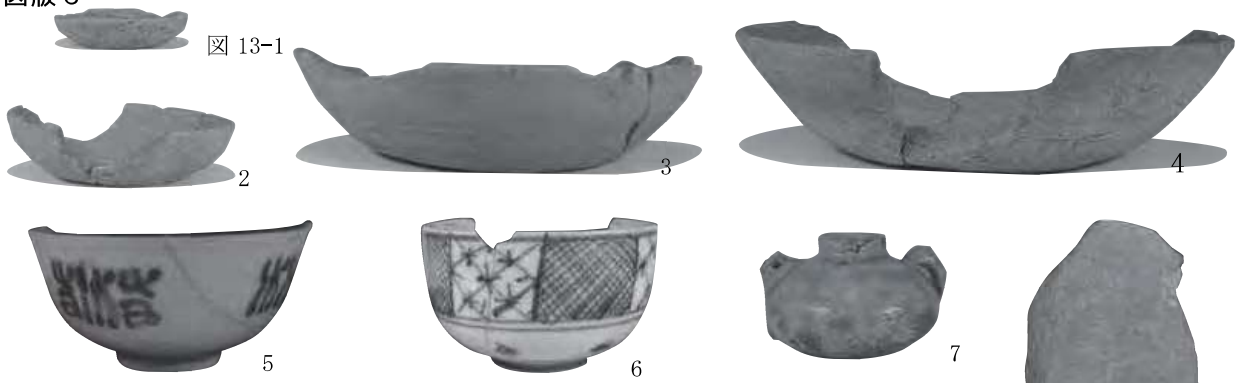
泥岩ブロックによる道路舗装の変遷が良好に見て取れる



2. 調査地点と小町大路（南から）

検出された中世の南北道路は、現・小町大路の前身として評価できる

图版 6



表土出土遺物



1 面上出土遺物



1 面 溝 1 上層

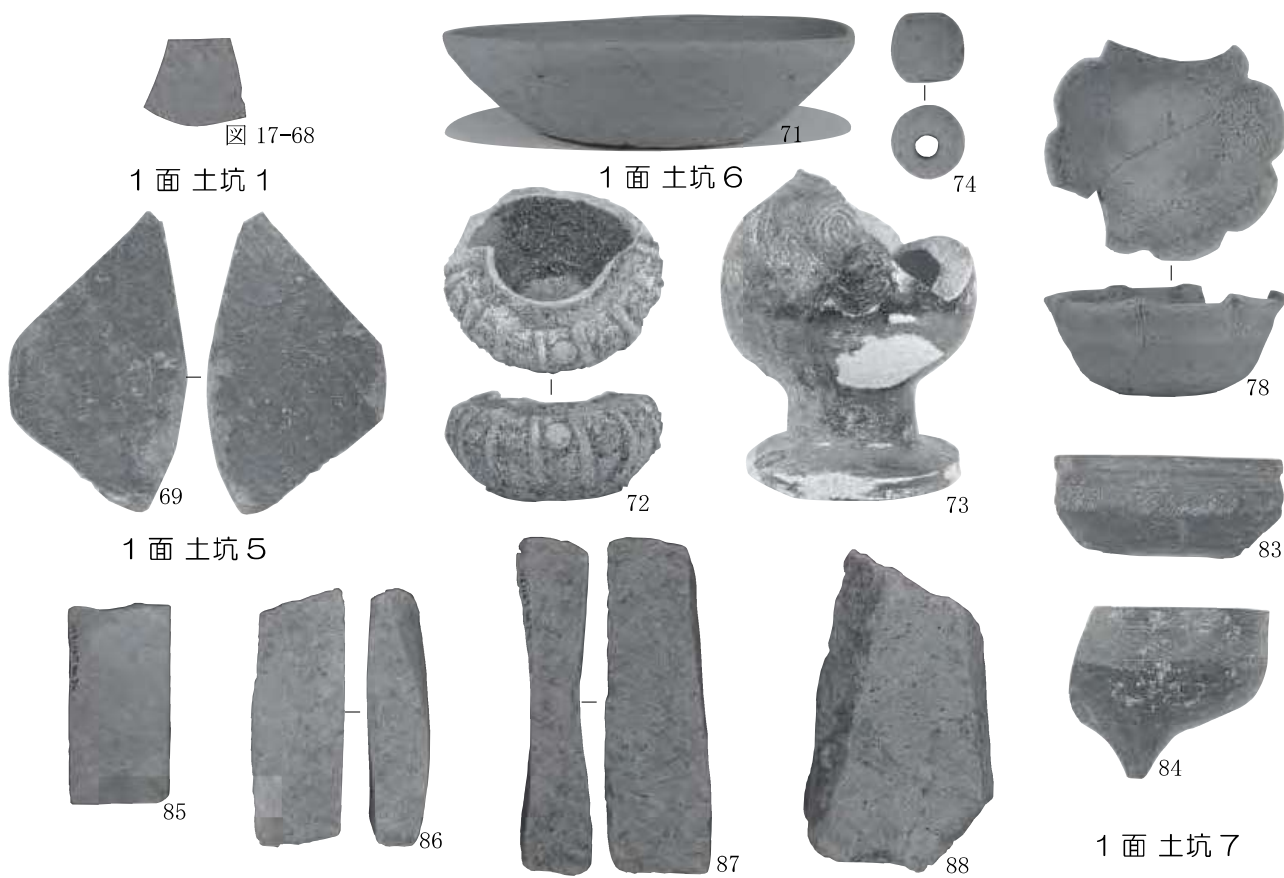
縮尺=約 2/5



1 面 溝 1 下層



1 面 溝 1 掘方



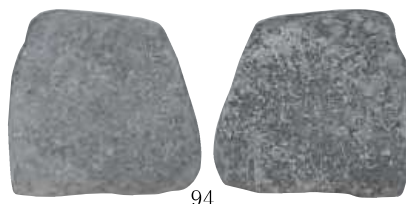
1 面 ピット 9



1 面 ピット 10

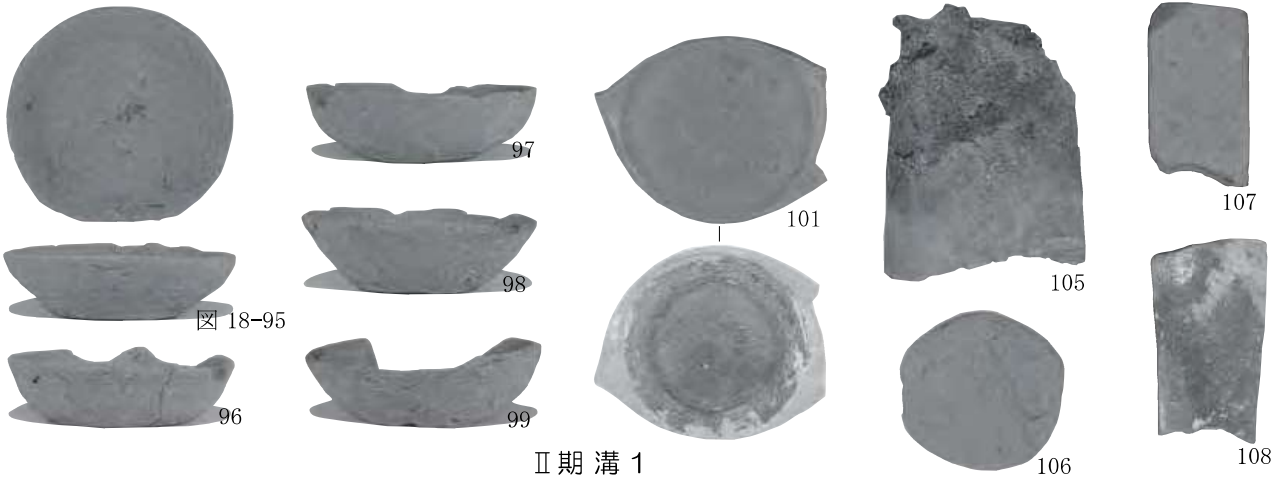


1 面 ピット 12

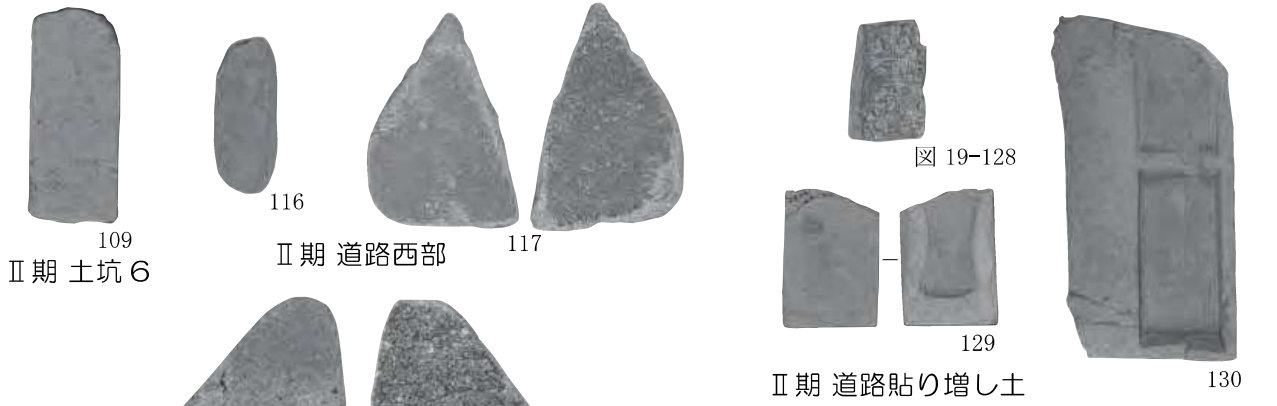


縮尺=約 2/5

図版 8



II期 溝 1

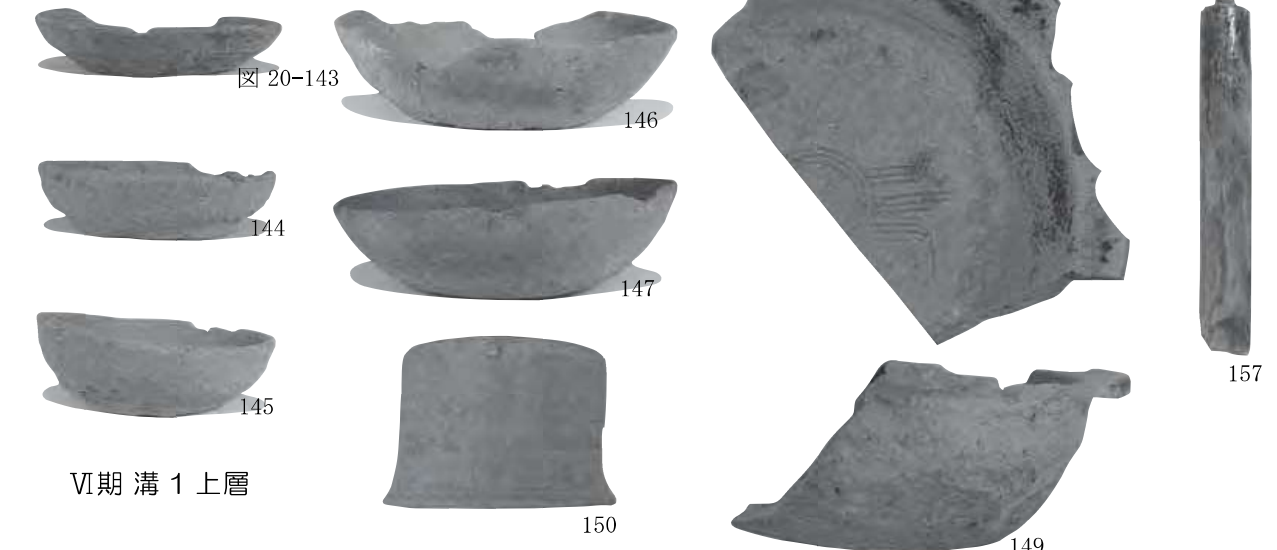


II期 土坑 6

II期 道路西部

II期 道路貼り増し土

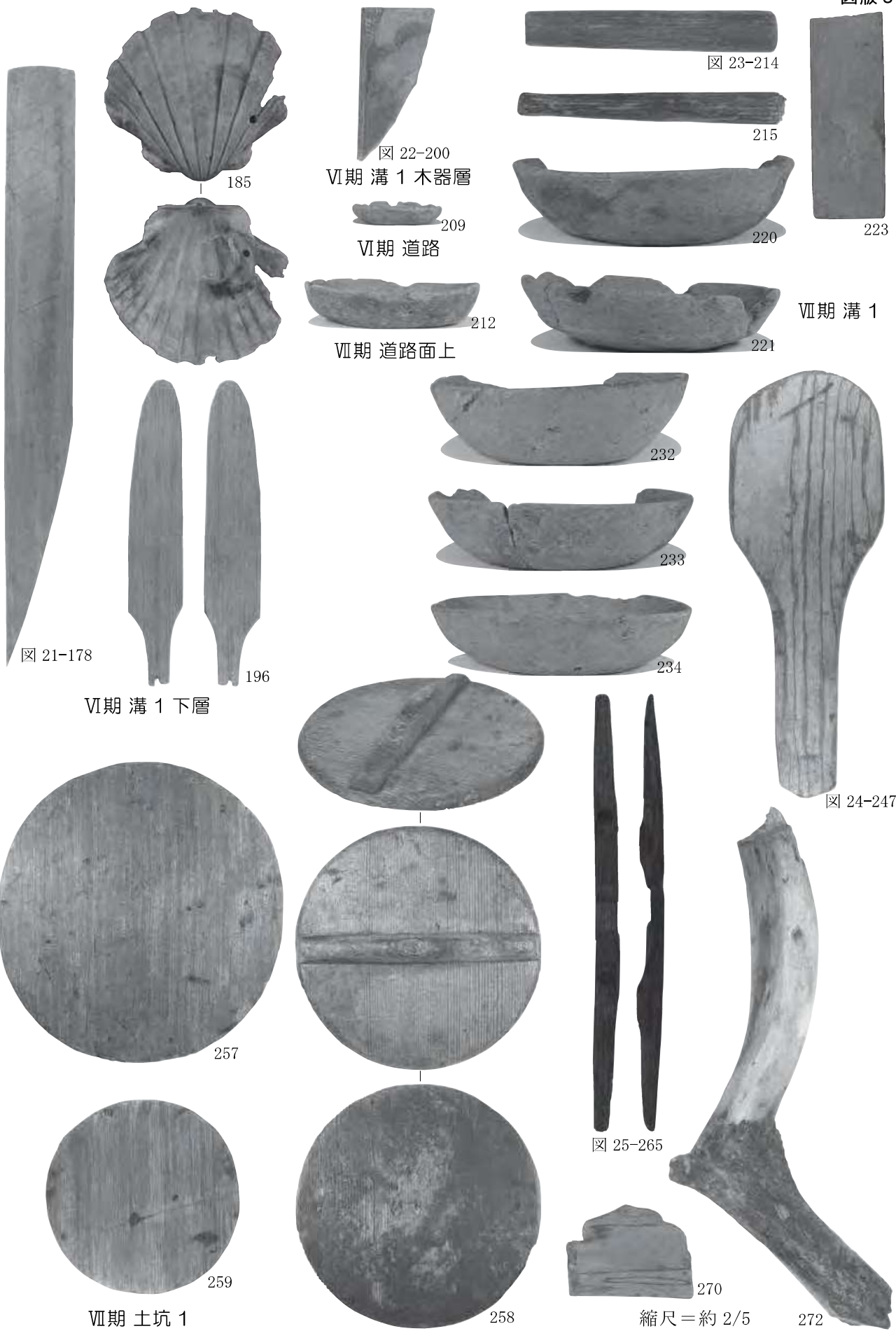
IV期 道路貼り増し土



VI期 溝 1 上層

VI期 溝 1 下層

縮尺=約 2/5



図版 10



VIII期 溝 1 下層

縮尺=約 2/5

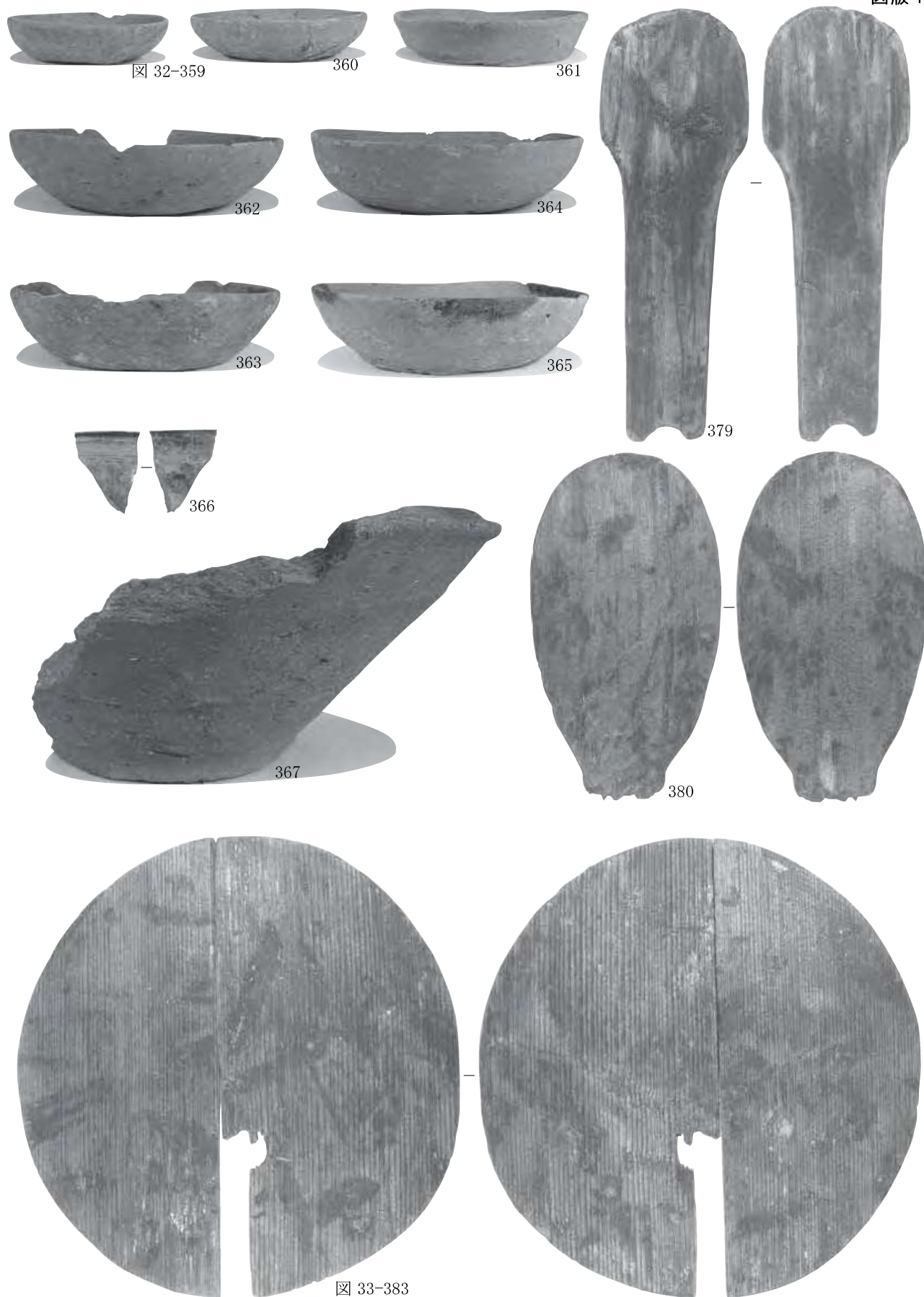
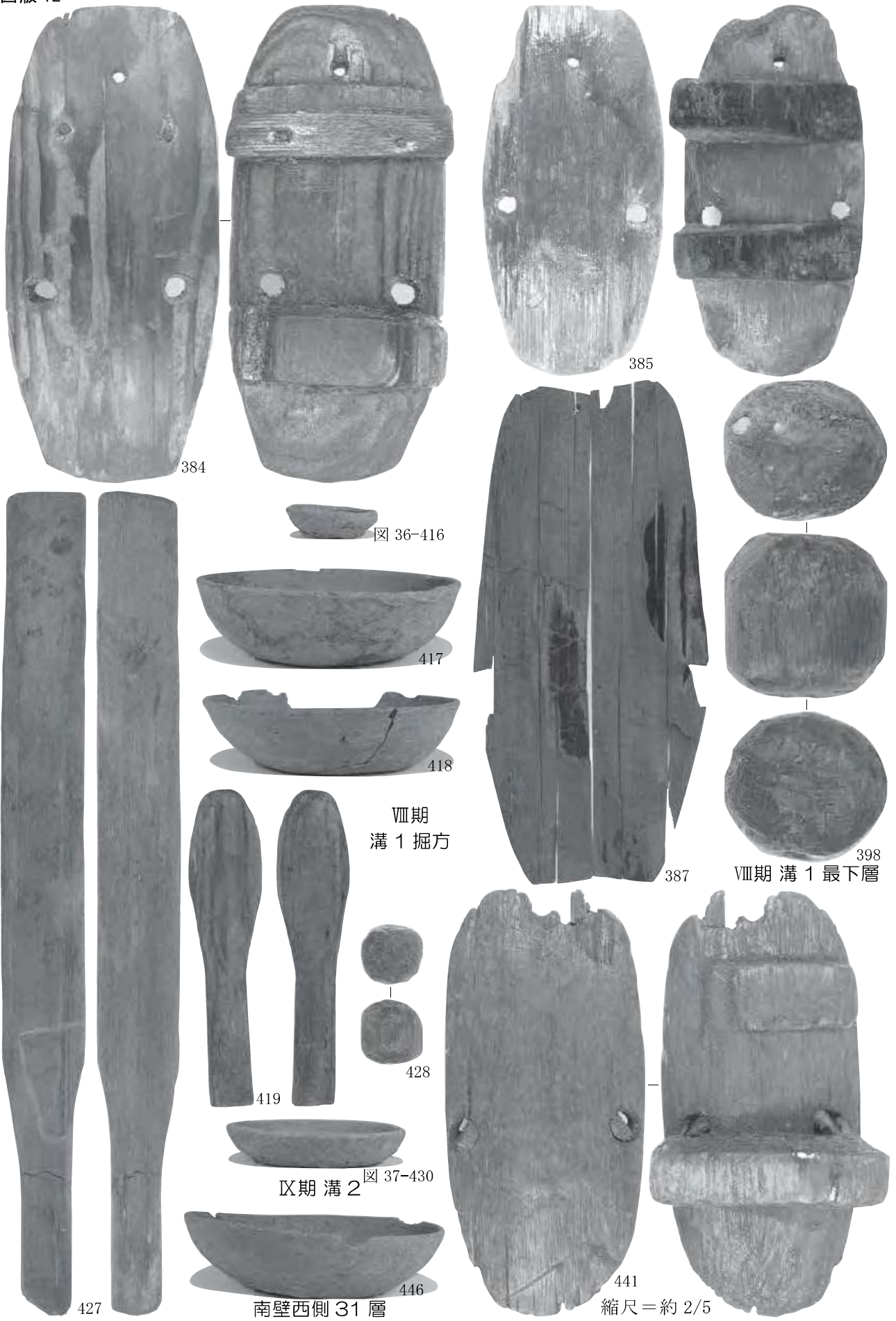


圖 33-383

Ⅷ期溝1最下層

縮尺=約 2/5



公方屋敷跡 (No. 268)

浄明寺四丁目 292 番 1 地点

例 言

1. 本書は鎌倉市浄明寺四丁目 292 番 1 地点における個人住宅建設に伴う発掘調査報告書である。調査面積は 86.0 m²である。
2. 調査は平成 25 年 3 月 1 日から同年 5 月 24 日にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。

主任調査員	伊丹まどか
調査員	梅岡ケイト・渡邊美佐子
	測量：梅岡ケイト・渡邊美佐子
調査作業員	安達澄代・岩田濃・小口照男・高柳雅一・田島道夫・寺尾征夫・根市真古人
4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測	菅野知子・梅岡ケイト・吉田桂子
遺構図版作成	菅野知子・梅岡ケイト
遺物図版作成	菅野知子・梅岡ケイト
グリッド図作成	清水由香里
遺物観察表	伊丹まどか
遺構計測表	伊丹まどか
破片遺物集計表	伊丹まどか
遺構写真	伊丹まどか
遺物写真	須佐仁和・田畑衣里
写真図版作成	梅岡ケイト
執筆・編集	伊丹まどか
5. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。
遺構全測図：1/80 個別遺構図：1/40 遺物実測図：1/3（* 銭は原寸）
なお各挿図にはスケールを表示してある。
6. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。
復元した遺物の計測値には（ ）を付して表してある。
本文中「かわらけ」と記載したものはロクロ成形のかわらけを示し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
ロクロ成形のかわらけの底径は回転糸切りの外径部分で計測した。
遺構はプラン確認の便宜上Naを付したため、遺構が確認できなかったプランのNoは欠番となった。
9. 出土遺物に関しては生産地での編年を参考に観察表に年代を示したが、破片の為に不安の残るものに関しては割愛した。常滑製品は中野晴久氏。瀬戸製品は藤澤良祐氏。火鉢は河野真知郎氏の編年に基づいて分類した。
10. 発掘調査に係る出土品の注記については、遺跡名の略号を「KB1205」とした。
11. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。
12. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。
齋木秀雄・玉林美男・原廣志・福田誠・松尾宜方・宮田眞・山口正紀（五十音順・敬称略）

本文目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	
第1節 歴史的環境	93
第2節 遺跡位置とグリッド配置	95
第3節 堆積土層	95
第二章 発見された遺構と遺物	
第1節 第1面の遺構と遺物	101
第2節 第2面の遺構と遺物	120
第3節 第3面の遺構と遺物	129
第三章 まとめ	
第1節 検出した遺構と遺物	132
第2節 まとめ	134

表目次

表遺構計測表	136	遺物破片数表	159
遺物観察表	139		

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	94	図18 第1 b 面・遺構 166-②	116
図2 遺跡位置とグリッド配置図	96	図19 第1 b 面・個別遺構図 (遺構 2・21・	
図3 第1 a 面・第1 b 面全測図	97	22・23・24・27・28・29・30・32・34・	
図4 第2面・第3面全測図	98	159・164・220)	117
図5 最終確認トレンチ位置図		図20 第1 b 面・遺構出土遺物	118
・調査区壁堆積土層図	99	図21 第1面・面上・構成土出土遺物	119
図6 第1 a 面・遺構 15	102	図22 第2面・遺構 170・171-①	122
図7 第1 a 面・遺構 15 出土遺物—①	103	図23 第2面・遺構 170・171-②	123
図8 第1 a 面・遺構 15 出土遺物—②	104	図24 第2面・遺構 170・171-③	124
図9 第1 a 面・遺構 15 出土遺物—③	105	図25 第2面・遺構 170・171-④	215
図10 第1 a 面・遺構 15 出土遺物—④	106	図26 第2面・個別遺構図・出土遺物	
図11 第1 a 面・個別遺構 (遺構 25・139・141・		(遺構 46・47・49・50・51・52・55・56・60・	
142・148・149・150)	107	61・62・63・67・68・132・172)	126
図12 第1 b 面・遺構 155・156	110	図27 第2面構成土出土遺物—①	127
図13 第1 b 面・遺構 157	111	図28 第2面構成土出土遺物—②	128
図14 第1 b 面・遺構 158・162・163	112	図29 第3面個別遺構図	129
図15 第1 b 面・遺構 160・遺構 161-①	113	図30 表土・攪乱出土遺物	131
図16 第1 b 面・遺構 161-②	114	図31 法量と器形の傾向	133
図17 第1 b 面・遺構 165・遺構 166-①	115		

写真図版目次

図版 1 160	図版 7 166
I 区・II 区 第 1 面全景・	遺構 15 一括・遺構 141・遺構 142・
II 区・第 1 b 面・遺構 157(かわらけ出土状況)	遺構 149・遺構 156・遺構 157 出土遺物
図版 2 161	図版 8 167
I 区・第 1 a 面・遺構 15(検出前・検出途中・	遺構 158・遺構 160・遺構 161・
完掘)	遺構 165 出土遺物
図版 3 162	図版 9 168
I 区・II 区 第 2 面全景	第 1 面面上・第 1 面構成土・
図版 4 163	遺構 170(第 1 層) 出土遺物
II 区・第 2 面・遺構 170・遺構 171(検出状況・	図版 10 169
かわらけ出土状況・完掘)	遺構 171(第 2 層・第 3 層・第 4 層・第 5 層)
図版 5 164	・遺構 56・遺構 60 出土遺物
I 区・II 区 第 3 面全景	図版 11 170
図版 6 165	第 2 面構成土・表土攪乱出土遺物
遺構 15(上層・下層) 出土遺物	

第一章 遺跡の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境 (図1)

本調査地点の南を東西に走る現県道 204 号(鎌倉金沢線)は中世において六浦道と呼ばれ、六浦港から朝比奈切通し(峠坂)を経て鎌倉に入り、十二所、浄明寺、大倉辻を抜け、筋違橋辺りまでを指す。この経路は北条氏の一族、金沢氏の所領である六浦と鎌倉を結ぶ幹線道路と、鎌倉の外港である武蔵国六浦港と鎌倉を結ぶ経済道路としての機能を持ち、房総半島方面への交通路の役目も合わせ持っていた。朝比奈切通の谷と二階堂の谷奥を水源とする滑川は六浦道と並行するように走り、鎌倉市街地の南に広がる相模湾に注いでいる。公方屋敷は「足利氏屋敷」「御所之内」とも呼ばれ、室町幕府を確立した足利尊氏が貞和五年(1349)に、鎌倉幕府の頃から代々足利氏の屋敷地であった当地に四男基氏を鎌倉に下向させ、東国地方 10 カ国を管轄する鎌倉府を置き、基氏から氏満・満兼・持氏・成氏の五代に亘り「関東公方」または、「鎌倉御所」「鎌倉公方」と呼ばれ、成氏が幕府に追われ古河に逃れるまでの約 100 年間続いた。

調査地周辺には廃寺を含む多くの仏閣が存在する。調査地点から北東 300m 辺りに位置する明王院は真言宗御室派。本尊五大明王像。通称は五大堂。『鎌倉志』は俗称大行寺と伝える。嘉禎元年(1235)六月二十九日藤原頼経の創建。初代の別当はもと鶴岡八幡宮別当定豪。当院の別当職は鶴岡八幡宮・永福寺・勝長寿院の別当職と並ぶ地位にあり、大きな力を有していた。その明王院の東側一帯にあったとされるのが江戸末期まで存続していた大倉御堂とも呼ばれた大慈寺である。宗旨未詳。源実朝が君恩父徳に報いるために開創した寺である。『吾妻鏡』によると、建暦二年(1212)四月十八日に立柱・上棟し、七月に総門を建立、建保二年(1214)七月二十七日に開堂供養を行っている。境内域は河あり山あり、水木と共にその便を得、地形の勝絶、おそらくは仙室と言うべき勝地であり、加えて境内を川が流れていたらしいなど、美しく整備された広い寺域の様子が、『吾妻鏡』に記されている。滑川を挟んだ、大慈寺の南側に広がる谷戸は明石谷と呼ばれ、谷上の山は明石山と言う。現兵庫県播磨海岸の地名を模して名付けられたとみられ、当谷一帯が景勝の地であったと思われる。また、北西 200m 辺には胡桃ヶ谷という大きな谷戸が開口し、谷戸奥には大楽寺という廃寺があった。大楽寺は律宗、胡桃山千秋大楽寺と号し、開山は公珍。創建年次は未詳である。永享元年(1429)二月十一日に二階堂紅葉谷にあった永安寺が焼亡した際に山を越えて類焼し、二階堂の覚園寺参道沿いに移転している。さらに北西に約 300m 行くと浄妙寺がある。浄妙寺は臨済宗建長寺派。稻荷山と号し、本尊釈迦如来。開基足利義兼、開山退耕行勇、中興開基足利貞氏。本堂裏に足利貞氏墓と伝えられる宝篋印塔があるが、銘文によると明徳三年(1392)に建立された逆修塔である。鎌倉五山の一つである。その他に廃寺であるが、浄妙寺の西北隣にあった延福寺。山号雲谷。開山を足庵祖麟、開基を足利尊氏の庶兄高義とも、その母契忍禅尼とも言われている。浄妙寺の傍、延福寺旧蹟の西にあった大休寺。山号熊野。この辺はもと足利直義の旧宅の地であったとされる。直義の創建、開山は覚智禅師月山希一。直義の法名は古山慧源。大休寺殿と号する。廃年は未詳である。

公方屋敷の位置は、浄妙寺と明王院の間、小字芝野を指すといわれるが確証はない。字名の「芝野」は里人が、鎌倉を追われ下総古河に移って古河公方となった足利氏が「いつかここに帰ってくる」と、芝野のままにしていたからだと伝えられている。また、胡桃ヶ谷の谷戸奥に源をもつ胡桃川が北方から滑川に向かって注いでいるが、その胡桃川を西の境、調査地前の県道を南の境とした一帯に「御所之内」「お屋敷」という地名が残っており、昭和の初めごろまで調査地を含む一帯は「公方屋敷」という名で親しまれていた。

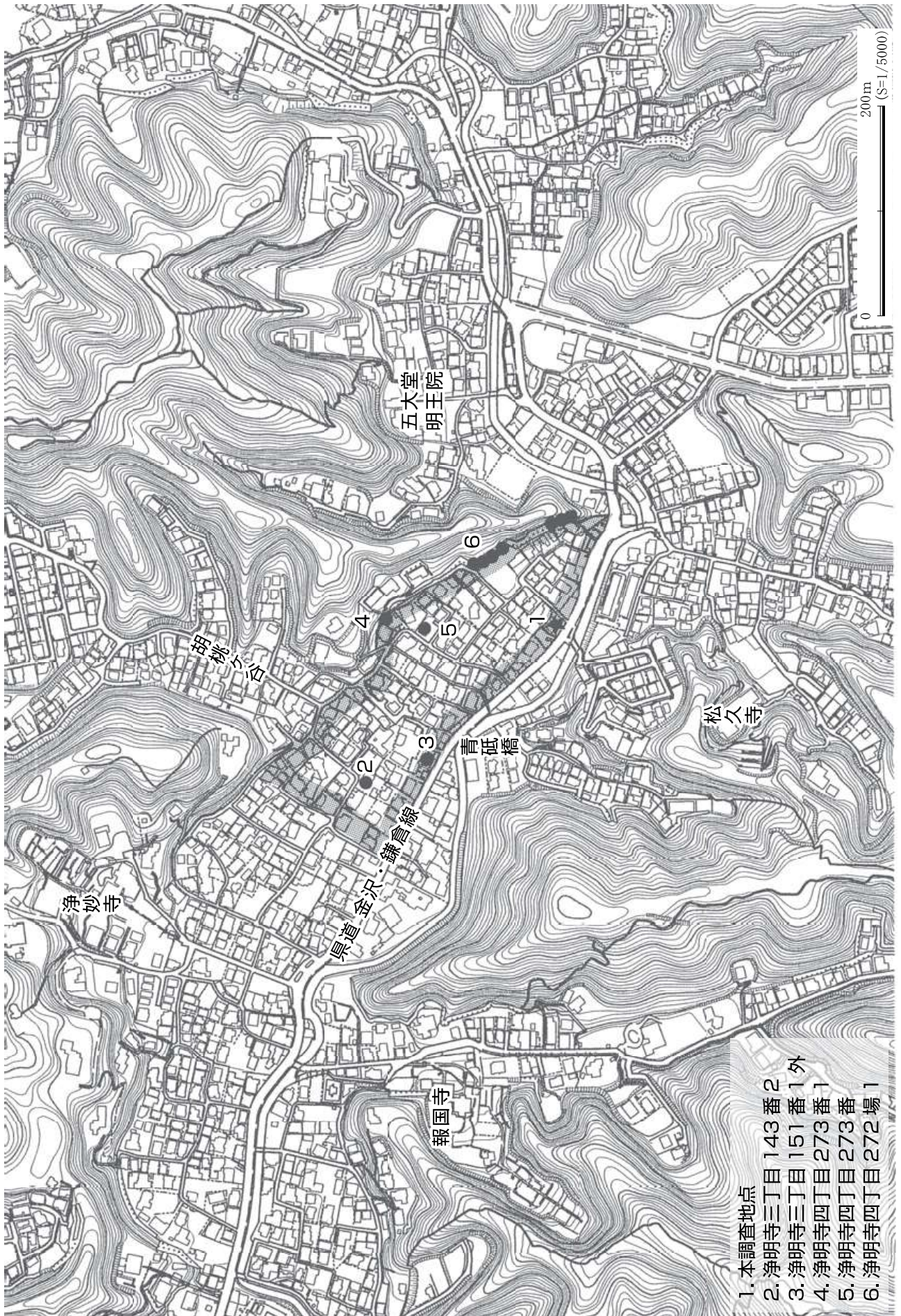


図1 調査地点と周辺の遺跡

- 1. 本調査地点
- 2. 浄明寺三丁目 143番 2
- 3. 浄明寺三丁目 151番 1 外
- 4. 浄明寺四丁目 273番 1
- 5. 浄明寺四丁目 273番
- 6. 浄明寺四丁目 272場 1

第2節 遺跡位置とグリッド配置 (図2)

調査開始にあたり調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと、見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系(座標 AREA 9)の国土座標値を使用しているため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版 TKY2JGD」で世界測地系IX形に変換し、図2に表記した。

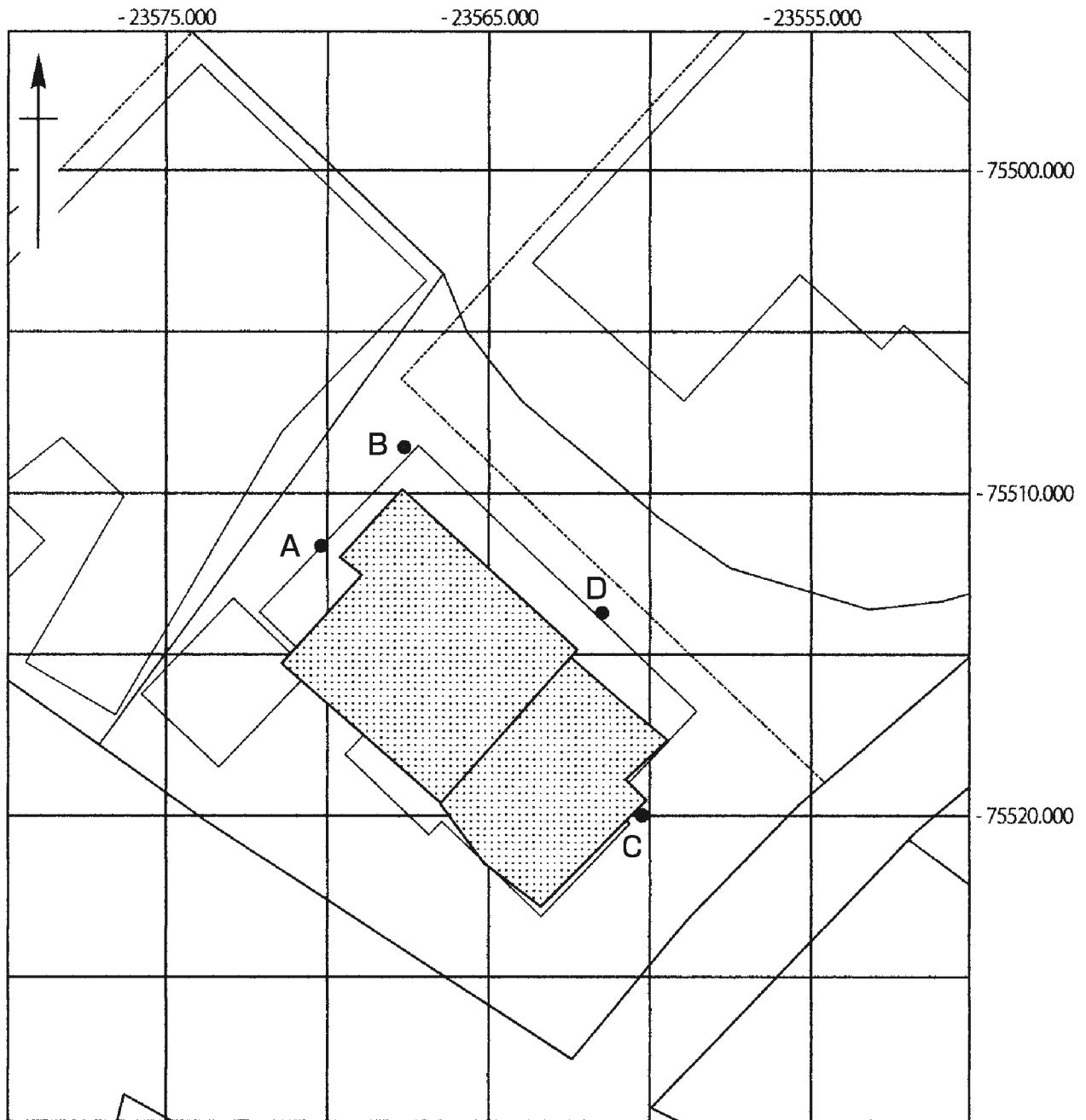
第3節 堆積土層 (図5)

廃土処理の都合から調査区をI区・II区と二分割して調査を実施し、両区共に約40～50cmの厚さで堆積する現代埋土(表土)を重機によって除去し3枚の生活面を検出した。

以下、I区・II区調査区南壁、I区・II区調査区東壁の土層堆積図を用いて、確認した生活面の海拔高と構成土について述べる。

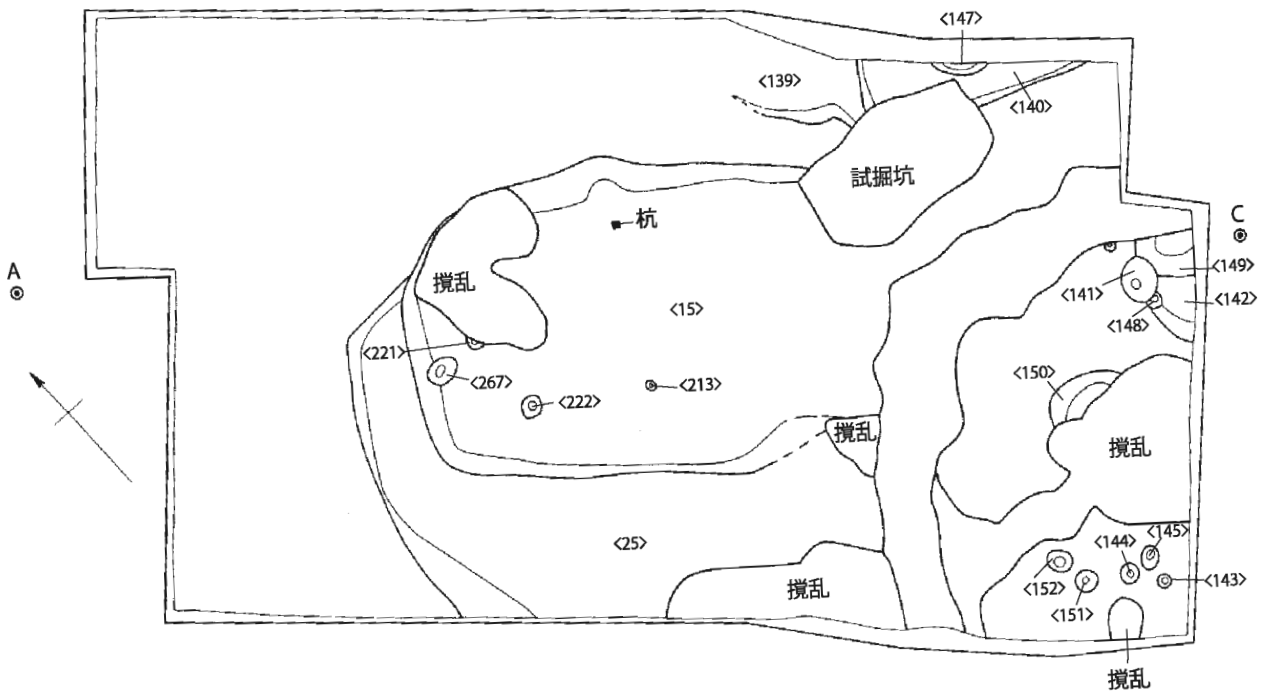
調査前、現地表海拔高は約19.50mを測った。本調査地の南を走る県道鎌倉金沢線道路面の海拔高は18.60mで、道路面と現地表に約1.0mの高低差があるが、盛土によって嵩上げして調査地を造成したためではなく、路盤を現地表よりも下げて道路を建設したと思われる。重機によって表土を取り除いた後、茶色粘土・泥岩粒・褐鉄を含む明茶褐色土上で第1面を検出した。第1面上層は現代の攪乱坑によって整地層・遺構共に大きく削平を受けており、混乱を避けるために第1a面と第1b面に分けて検出遺構を報告している。遺構確認レベルは19.20mから19.00mである。遺構検出層は褐鉄を多く含み硬化した堆積層であったが、人為的な整地層であるとはいえない。第2面は泥岩粒(多)褐鉄・(多)灰褐色砂(多)を含む明茶褐色土の地業層上で遺構を検出した。遺構確認レベルは18.90mである。第1面の遺構によって削平を受けており、発見した遺構は少ない。第1面・第2面ともに上層の攪乱坑による削平を受け、特にII区は失った遺構が多い。第3面は褐鉄(多)・褐色砂(多)・砂礫・黒色有機質土を含む明茶褐色土の地業層上で遺構を検出した。遺構確認レベルは18.60～18.40mである。第3面では多くの遺構を検出している。

第3面検出後、I区・II区共に調査区南壁・東壁に沿ってトレンチを設け下層の堆積土を確認した。I区の東壁トレンチは分割した調査区の東に設けたため、I区・II区を合わせた調査区のほぼ中央に位置する。I区東壁で確認した38層以下は褐鉄・褐色砂・砂礫を含む自然堆積層である。いずれも無遺物層であった。調査区中央付近海拔約18.00mで確認した中世地山と考える黒色粘質土(42層)が海拔17.40mまで下がっている様子を調査区南端で観察している。この状況はII区で設けたトレンチの堆積土も同様の様相を呈しており、II区南壁トレンチで確認した自然堆積層と考える38層は、I区で確認した海拔高と、ほぼ同じレベルで確認している。II区南壁で中世地山層と考える黒色粘土層の確認はしていないが、II区東壁の南端の海拔高17.40mで中世地山層を一部確認している。

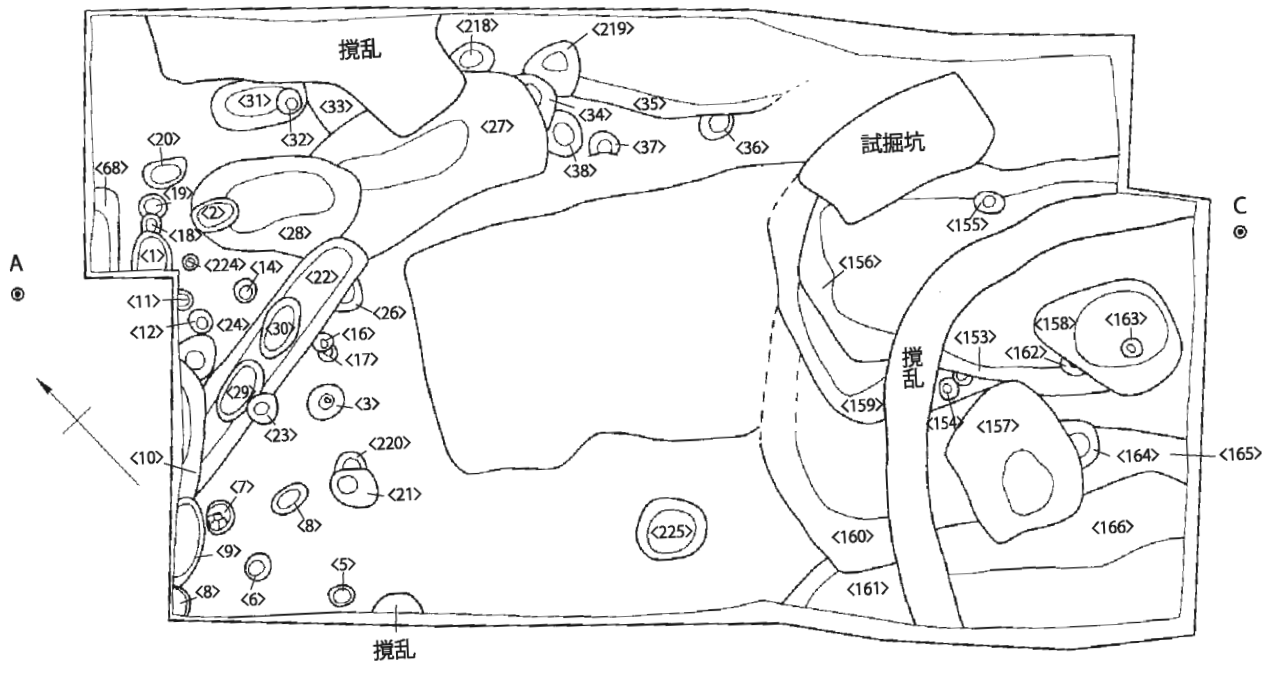


世界測地系		
地点	X	Y
A	-75511.632	-23570.198
B	-75508.567	-23567.632
C	-75519.988	-23560.239
D	-75513.704	-23561.499

図2 遺跡位置とグリッド配置図



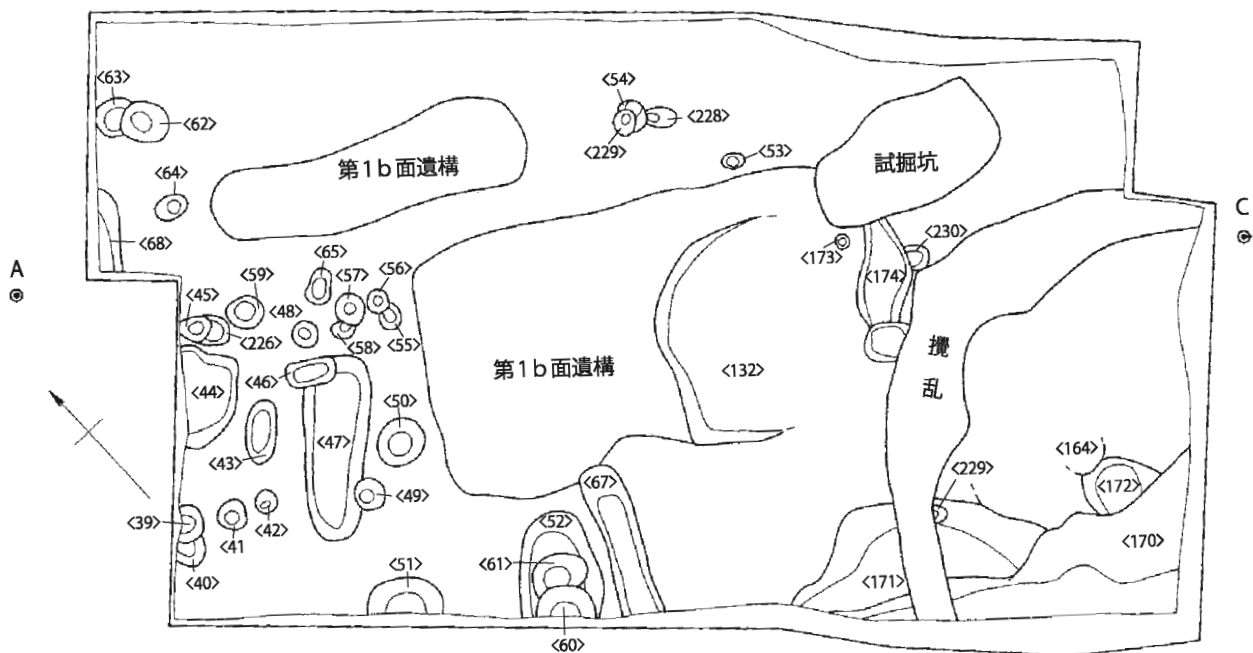
<第1a面全測図>



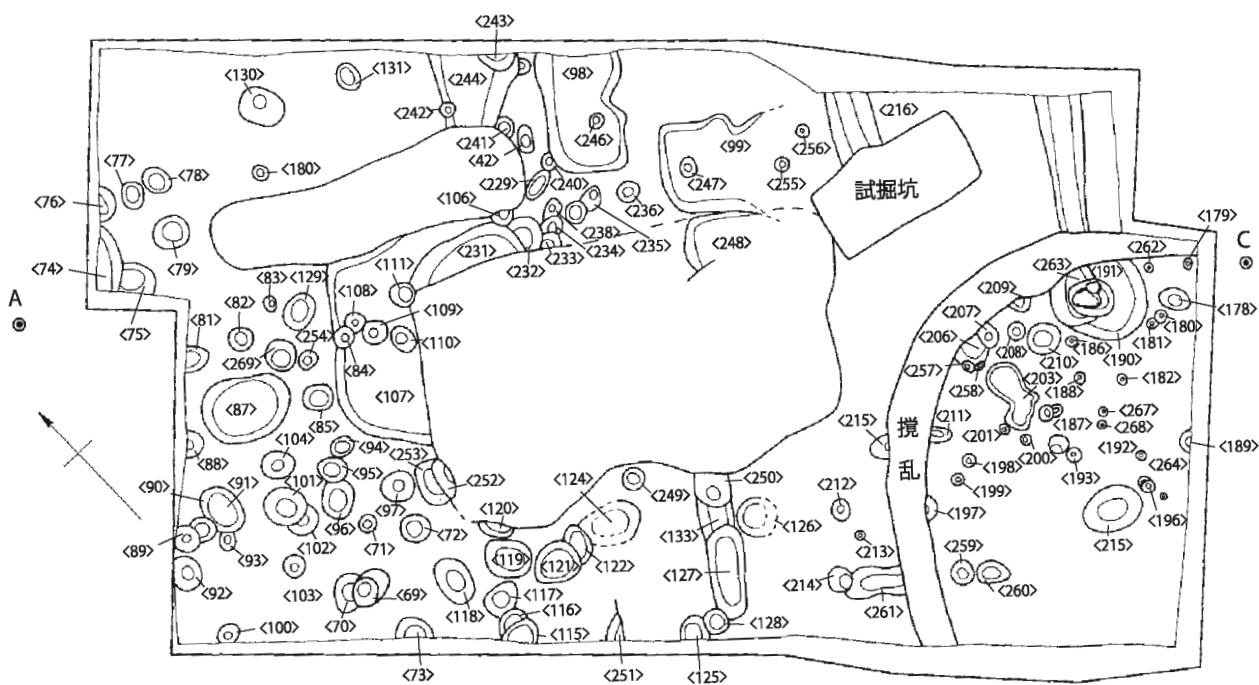
<第1b面全測図>



図3 第1a面・第1b面全測図

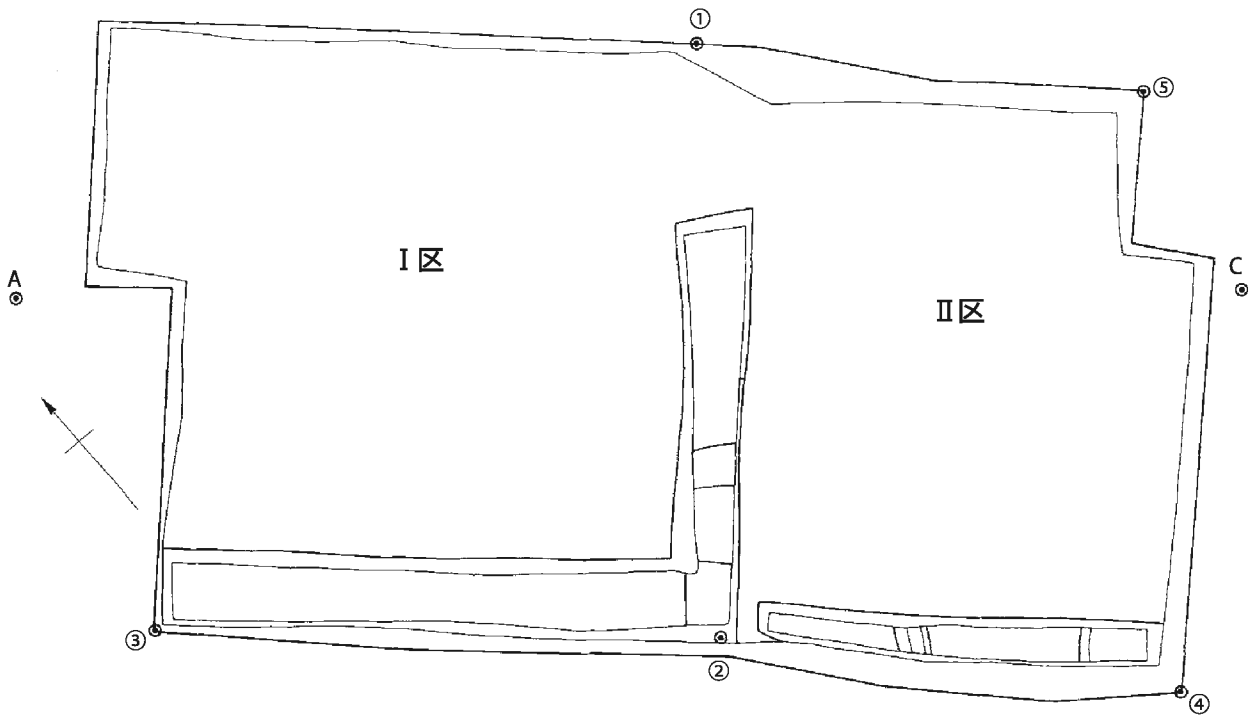


<第2面全測図>

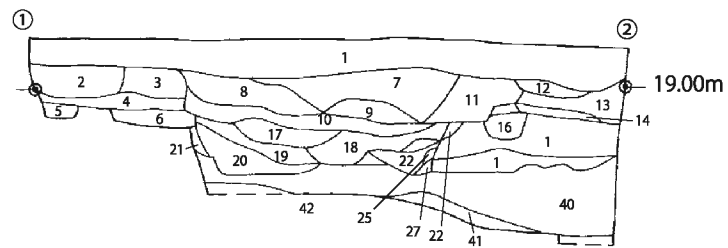


<第3面全測図>

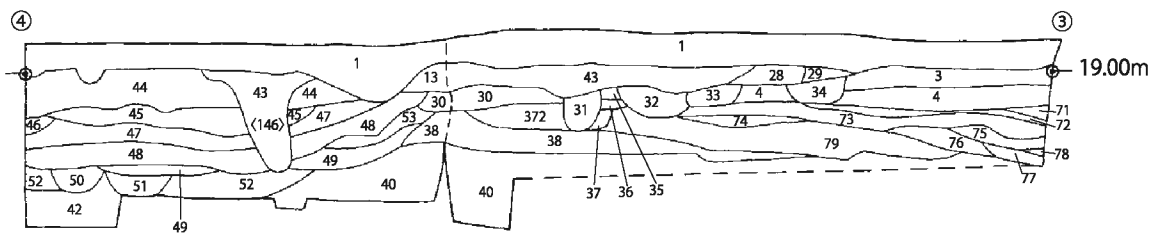
図4 第2面・第3面全測図



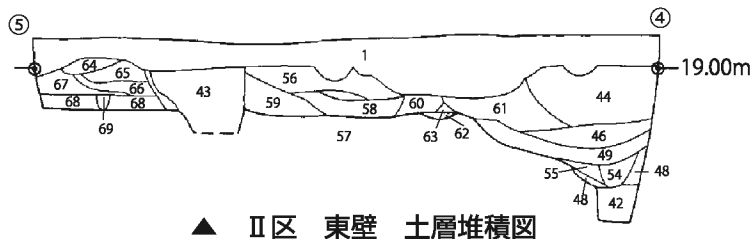
▲ 最終 Tr 位置図



▲ I区 東壁土層堆積図



▲ I区・II区 南壁 土層堆積図



▲ II区 東壁 土層堆積図

図5 最終確認トレンチ位置図・調査区壁堆積土層図

調査区壁土層堆積(図5)

1	暗褐色弱粘質土	表土
2	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)
3	明茶褐色土	茶色粘土・泥岩粒・褐鉄(1面構成土)
4	明茶褐色土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・灰褐色砂(多)(2面構成土)
5	明茶褐色土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・砂礫(多)
6	明茶褐色土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・砂礫(多)
7	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)
8	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩(多)・泥岩粒(多)
9	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩(多)・泥岩粒(多)
10	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)・褐鉄
11	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)・褐鉄
12	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)・褐鉄
13	暗褐色土	炭化物・泥岩粒・玉石
14	明茶褐色土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・砂礫
15	明茶褐色土	炭化物・泥岩粒・褐鉄
16	明茶褐色土	泥岩粒・褐鉄
17	暗褐色土	炭化物・泥岩・泥岩粒(多)・砂礫
18	暗茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・褐鉄(多)・砂礫(多)
19	明茶褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)・褐鉄・砂礫・灰褐色砂
20	明茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・褐鉄(多)・灰褐色砂・黑色粘土
21	明茶褐色弱粘質土	炭化物・泥岩粒・褐鉄(多)
22	明茶褐色弱粘質土	炭化物・泥岩粒・褐鉄(多)
23	明茶褐色弱粘質土	炭化物・泥岩・泥岩粒(多)・褐鉄・砂礫
24	明茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・褐鉄(多)・黑色粘土
25	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・黑色粘土
26	明茶褐色弱粘質土	褐色砂
27	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒(多)・砂礫
28	明茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・褐鉄
29	褐色土	炭化物(多)・泥岩粒
30	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒・玉石
31	暗褐色土	炭化物・泥岩・泥岩粒(多)・褐鉄・黄褐色粘土
32	暗褐色土	炭化物・泥岩・泥岩粒(多)・褐鉄
33	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒(多)・褐鉄
34	暗褐色土	炭化物(多)・泥岩粒・砂礫・灰褐色砂
35	暗褐色土	泥岩粒(多)・灰褐色砂
36	暗褐色土	炭化物・泥岩粒・褐鉄
37	暗褐色土	泥岩粒・褐鉄(多)・砂礫・灰褐色砂
38	明茶褐色砂質土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・砂礫・褐色砂
39	明茶褐色弱粘質土	泥岩粒・褐鉄・黑色有機質土・褐色砂
40	明茶褐色粘質土	泥岩粒・褐鉄(多)・黑色有機質土・砂礫が筋状に堆積する
41	明茶褐色粘質土	明茶褐色粘土
42	黒色粘質土	黒色粘土・砂礫
43	黒褐色土	灰・炭・ガラス(攪乱)
44	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)
45	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)・玉石
46	茶褐色土	泥岩粒・褐色砂・炭化物が筋状に堆積する
47	茶褐色土	炭化物・泥岩粒
48	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩粒(多)
49	明茶褐色土	炭化物(多)・褐鉄・褐色砂
50	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)
51	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)
52	茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・褐色砂
53	明茶褐色土	泥岩粒(多)・褐鉄・褐色砂
54	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩粒
55	明茶褐色土	炭化物・褐色砂・砂礫
56	茶褐色土	炭化物・泥岩粒(多)・玉石
57	茶褐色土	泥岩・褐鉄・褐色砂
58	茶褐色土	炭化物・泥岩粒・褐色砂
59	茶褐色土	炭化物・泥岩・泥岩粒
60	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩粒・褐色砂
61	茶褐色土	炭化物(多)・泥岩・泥岩粒(多)
62	茶褐色土	炭化物・泥岩粒・茶色粘土
63	明茶褐色土	褐鉄・砂礫
64	明茶褐色土	泥岩粒・砂礫
65	明茶褐色土	泥岩粒・砂礫(多)・褐色砂
66	明茶褐色土	茶褐色粘土・砂礫(多)
67	明茶褐色土	茶褐色粘土
68	明茶褐色土	暗茶褐色粘土・褐色砂・砂礫
69	明茶褐色土	灰色粘土・褐色砂
70	暗褐色土	褐色砂・褐鉄
71	明茶褐色土	褐鉄(多)・褐色砂(多)・砂礫
72	明茶褐色土	褐鉄・褐色砂(多)・砂礫(多)
73	明茶褐色土	褐鉄・褐色砂・黑色有機質土
74	明茶褐色土	褐鉄(多)・褐色砂
75	明茶褐色土	褐鉄(多)・褐色砂(多)・黑色砂
76	明茶褐色土	褐鉄(多)
77	灰褐色砂質土	褐鉄・砂礫
78	灰褐色砂質土	褐鉄・黑色有機質土
79	明茶褐色砂質土	泥岩粒(多)・褐鉄(多)・褐色砂・砂礫

第二章 発見された遺構と遺物

約 40～50 cm の厚さで堆積していた暗褐色弱粘質土の表土を重機によって除去し 3 枚の生活面を発見した。調査に伴い排出した廃土の置き場を調査地内で確保するために、調査範囲をⅠ区とⅡ区に分割して実施したが、本報告では分割して記録した図面を、検出土層・遺構覆土の観察・切り合いなどを参考に合成して報告している。3 枚の生活面は、それぞれ遺構の切り合いが同一面上で複数認められ、短期間に遺構の造り替えが行われた様子である。本報告で個別に図示した遺構は現地調査で実測・観察した遺構及び、出土遺物を報告した遺構を掲載している。個別に図面を掲載していない遺構の位置・形状・規模は、全測図と遺構計測表を参照していただきたい。また、出土遺物は遺物観察表に詳細を報告している。

以下、発見した遺構と出土遺物について上層より順に報告する。

第 1 節 第 1 面の遺構と遺物 (図 3・図 6～21)

第 1 面・Ⅰ区(西)は褐鉄を多く含み硬く締まった茶褐色弱粘質土上で遺構を検出した。Ⅱ区(東)は現代理土によって大きく攪乱されていたため、Ⅰ区の第 1 面を検出した海拔高に合わせて遺構検出を行ったが、Ⅰ区検出層とは異なり、泥岩粒を含む明茶褐色土上で遺構を検出している。第 1 面は両区共に人為的に整地した層ではない。また、遺構の様相もⅠ区とⅡ区では異なり、Ⅰ区では土坑・ピットを検出しているが、Ⅱ区のは大半は攪乱坑によって調査区のは大半が削平を受け、上層では若干のピット・土坑を検出し、下層は切り合う複数の土坑を検出している。

1・第 1a 面の遺構と遺物 (図 6～図 11)

現代の攪乱坑によって整地層・遺構共にⅡ区は大きく削平を受け、遺構の切り合いなどの混乱があり、Ⅰ区で検出した遺構と検出レベル・切り合い等に若干の齟齬が見受けられたため、本報告では第 1a 面と第 1b 面に分けて検出遺構を報告している。第 1a 面で発見した遺構は土坑 7 基、ピット 9 穴である。

遺構 15 (図 6～図 10)

調査区ほぼ中央に泥岩塊を多く含んだ不正形なプランを確認し、プラン中央に十字状のベルトを残し土層堆積状況の確認をしながら掘り進めた。北・東・西側の堆積土を観察すると、堆積土上層はランダムに大型の泥岩を投げ入れており、遺構を廃棄した際に、脆弱な地盤を泥岩によって地固めした痕跡と考え調査を進めていたが、遺構底面が平坦で方形を呈すること、ほぼ垂直に遺構の壁が立ち上がる等から、竪穴建物の可能性も考えている。遺物は多く出土しているが、大半はかわらけであった。遺構覆土は泥岩塊・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 7～図 10)

1～23 は遺構上層(堆積土層図 1～6 層)出土遺物である。1～22 はかわらけ。23 は瀬戸縁釉小皿。

24～151 は下層(堆積土層図 7～15 層)出土遺物である。24～119 はかわらけ。74 は内底を強く回転ナデしている。120 は青磁皿。121 は青磁碗。122 は青磁坏。123 は瀬戸折縁皿。124 は常滑片口鉢Ⅰ類。125～127 は常滑片口鉢Ⅱ類。127 は内側面に円形の押印が残る。128～129 は常滑甕。130 は黒縁皿。131 は産地

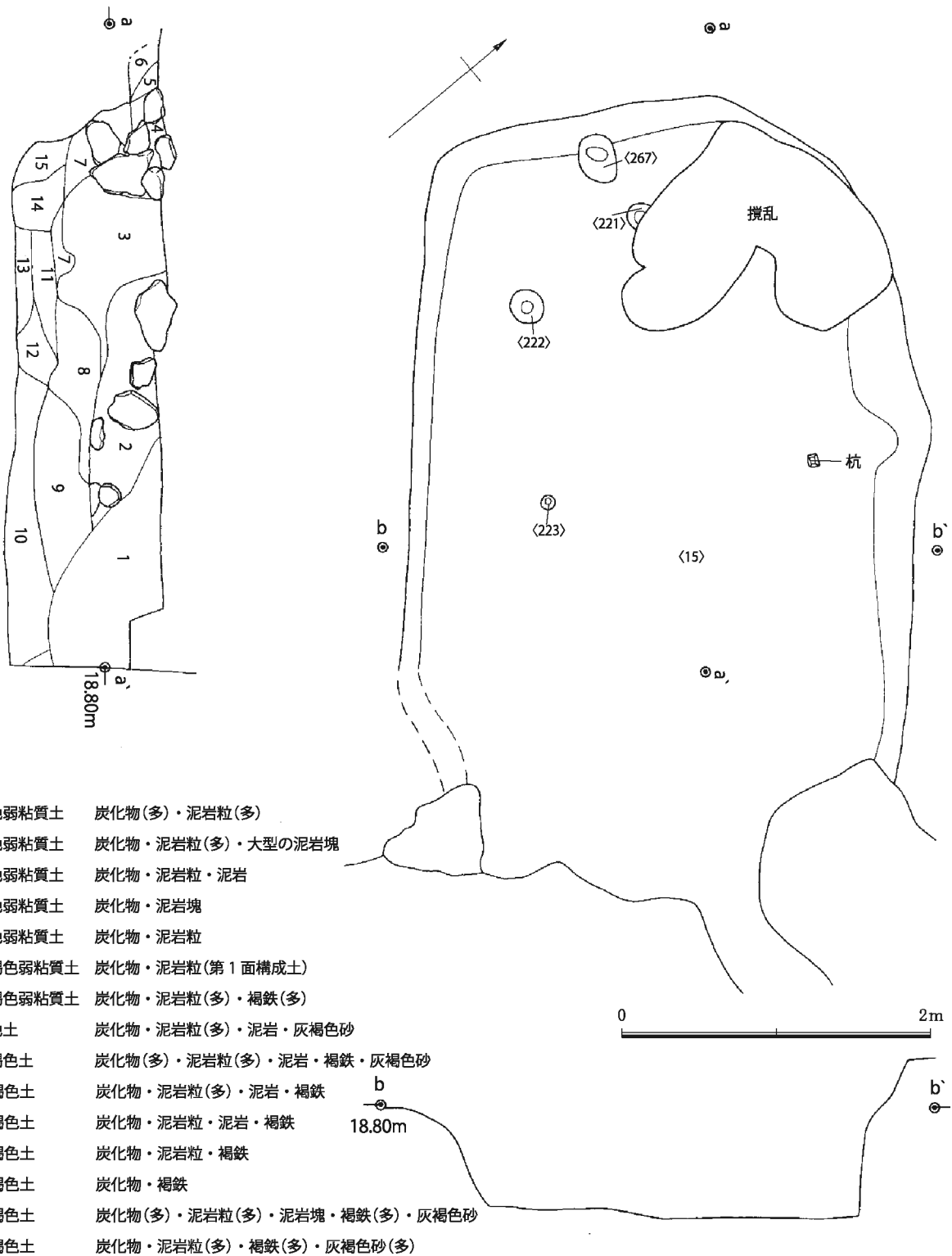


図6 第1a面 遺構15

不明花瓶か、外面搔き落としにも見える灰色と白色の縞模様あり。132~134 瓦器質火鉢。135 は平瓦。136 ~142 は銭貨。143~147 は鉄製品釘。148 は金属(鉄)製部分と木製部分にわかれ、木製部分が金属製部分に入り込む。木製部分両端部は丁寧な円錐形に整形されている。錫杖か。149 は石製品硯。150~151 は石製品砥石。150 は端部に小孔を穿ち小型である。手持ちの砥石と考えている。かわらけは破片で(大)2590・(小)320・白かわらけ(3)が出土し、掲載していないかわらけも大半は遺存状態が良好なかわらけであった。その他に青磁器種不明・青白磁香炉・白磁碗・白磁壺・瀬戸入子・瀬戸卸皿・瀬戸柄付片口・瀬戸器種不明・渥美甕・瓦

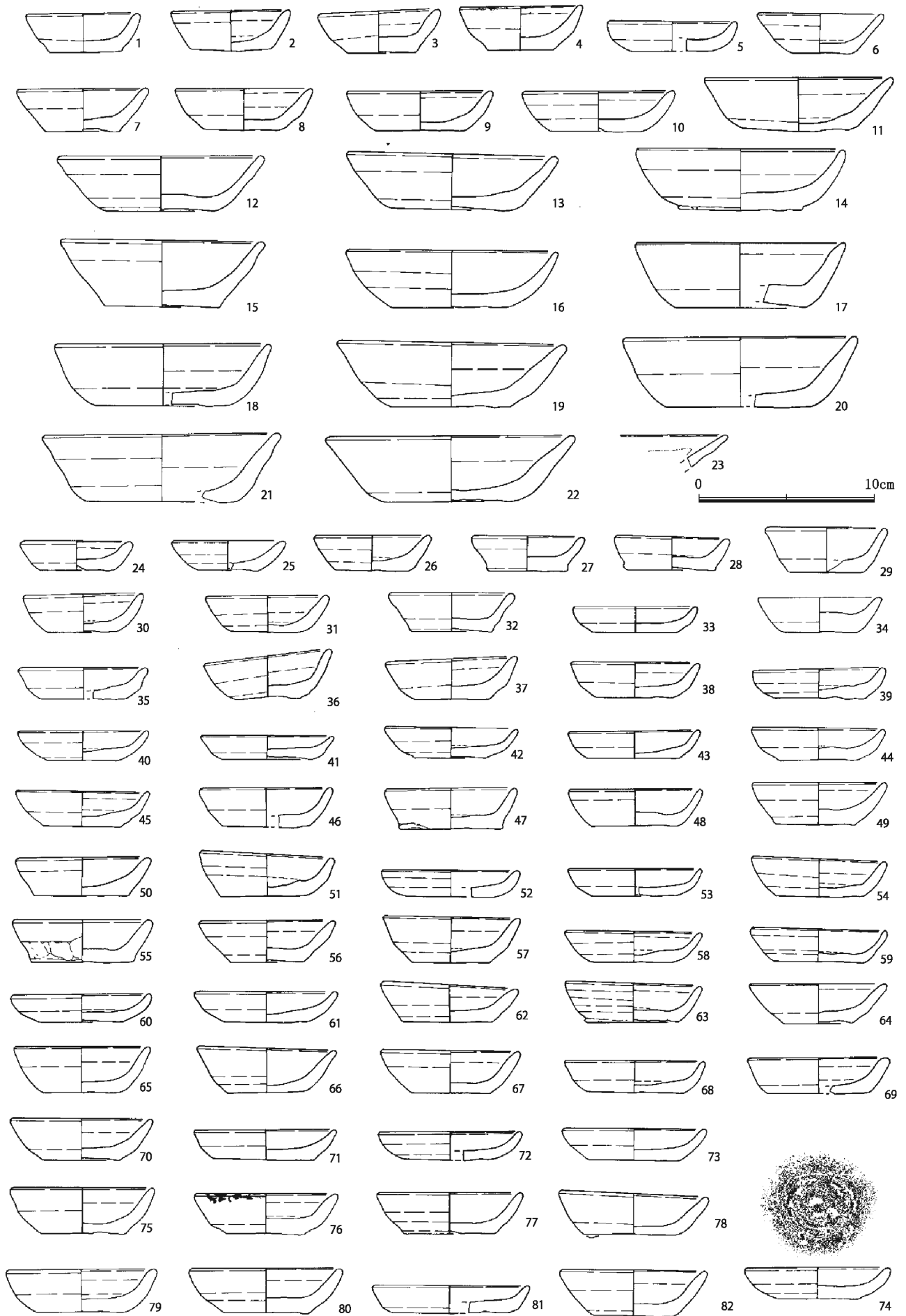


图7 第1a面 遺構15出土遺物-①

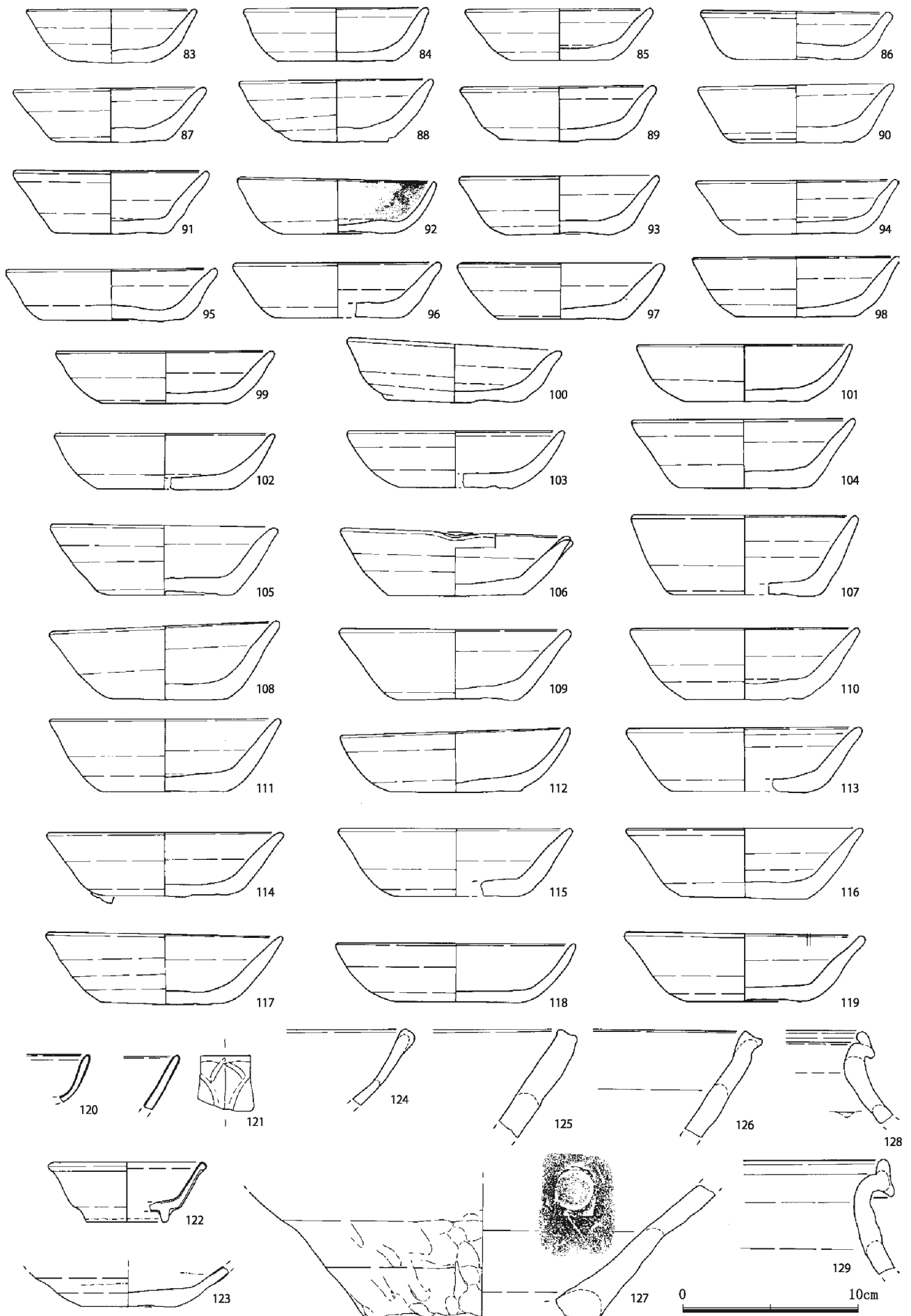


图8 第1a面 遺構15出土遺物-②

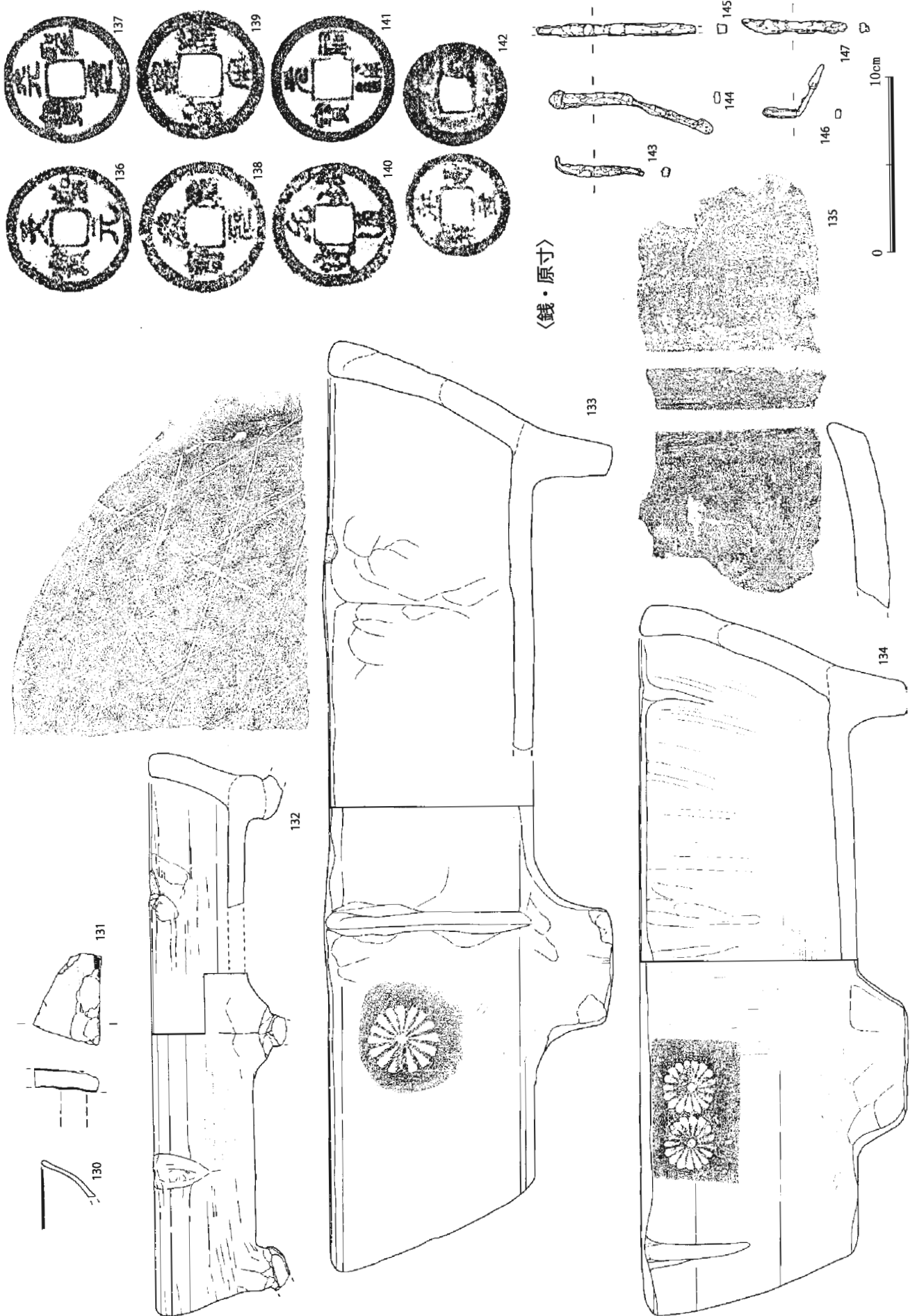


图9 第1a面 遺構15出土遺物-③

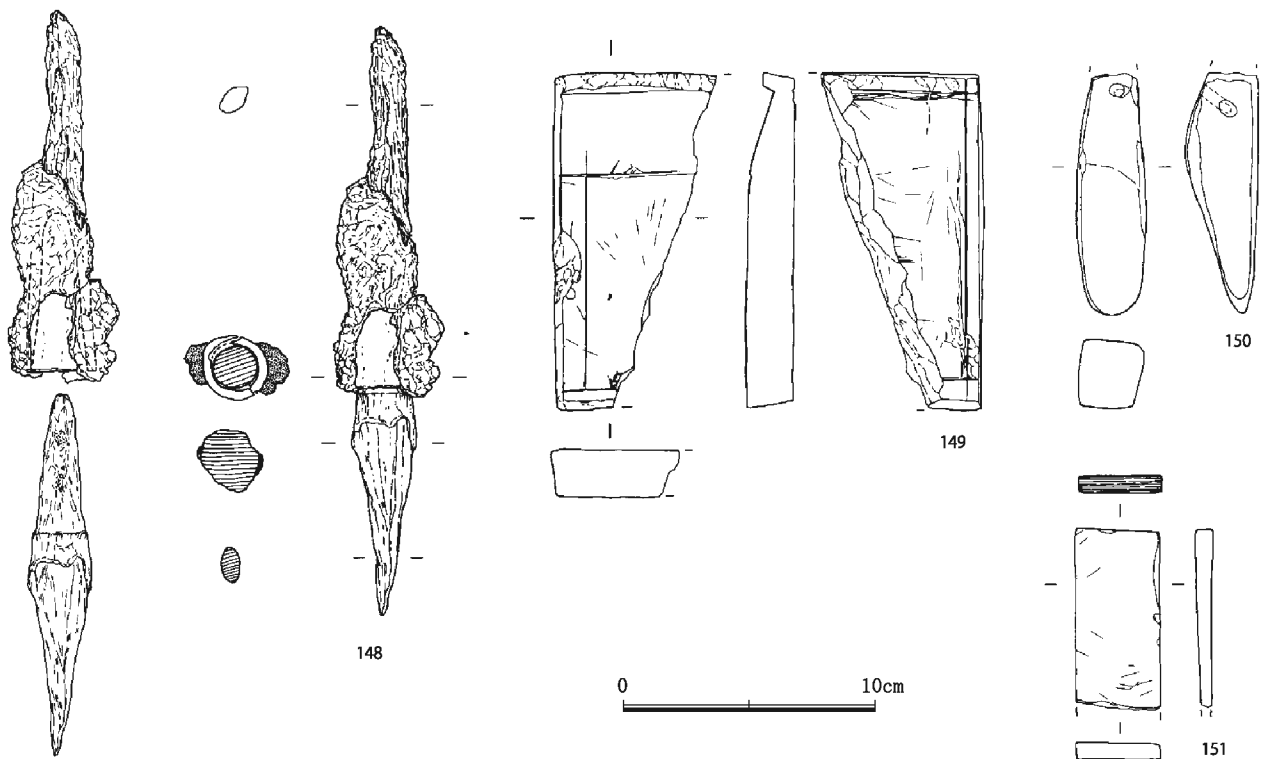


図10 第1a面 遺構15出土遺物一④

器質香炉・火鉢転用品・石製品滑石鍋・石英が出土している。

遺構25 (図11)

方形を呈する土坑である遺構15に切られる。遺構15同様に上層に泥岩塊を多く含む。地固めした痕跡かもしれない。遺構覆土は泥岩塊・褐鉄を含んだ黄褐色土。遺物は出土していない。

遺構139 (図11)

浅い土坑である。分割した調査区I区とII区の境で発見し、攪乱と遺構140に切られるため規模・形状は不明となった。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構141 (図11)

楕円形を呈するピットである。遺構142を切る。遺構覆土は炭化物・暗褐色砂を含む黒色土。遺構覆土からやや時代が下る遺構であった可能性もある。

・出土遺物 (図11)

1~4はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構142 (図11)

土坑である。遺構141・遺構148・遺構149に切られ、調査区外に遺構が延びているため規模・形状は不明となった。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図11)

5~8はかわらけ。その他に破片で常滑甕が出土している。

遺構148 (図11)

円形を呈するピットである。遺構141に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む黒褐色土。

・出土遺物 (図11)

9はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

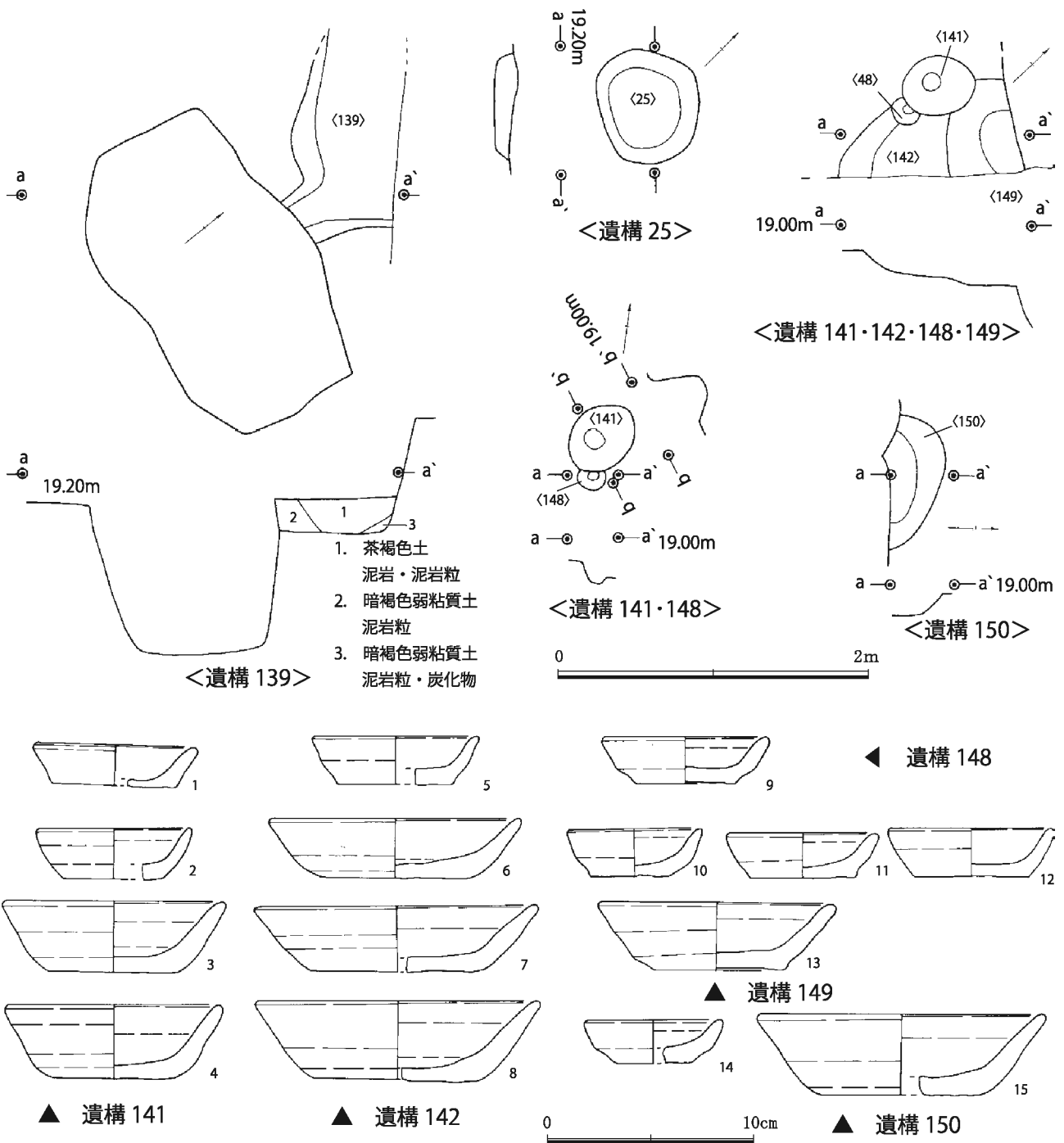


図 11 第 1a 面 個別遺構

遺構 149 (図 11)

土坑である。遺構 141 に切れ、調査区外に遺構が延びているため規模・形状は不明となった。遺構覆土は泥岩・炭化物・褐色砂を含む暗褐色土。

・出土遺物 (図 11)

10～13 はかわらけ。その他に破片で白磁皿が出土している。

遺構 150 (図 11)

土坑である。攪乱に切れ規模は不明となった。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む明茶褐色土。

・出土遺物 (図 11)

14～15 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 221 (図 6)

円形を呈するピットである。遺構 15 底面で検出した。遺構覆土は炭化物・茶色有機質土を含む暗褐色弱粘質土。覆土内に杭状の木が遺存していた。遺物は出土していない。

遺構 222 (図 6)

円形を呈するピットである。遺構 15 底面で検出した。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 223 (図 6)

円形を呈するピットである。遺構 15 底面で検出した。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

2・第 1b 面の遺構と遺物 (図 3・図 12～図 20)

I 区(西)では、ピット・土坑を検出したが、II 区(東)はやや方形を呈する大型の土坑が調査地の大半を占め、検出遺構の様相が大きく異なる。また、I 区で発見した遺構からは遺物の出土が少なく、出土した遺物も破片のため報告した遺物が少ないが、II 区で検出した遺構からは多くの出土遺物を発見している。発見した遺物の殆どは完形品、もしくは 1/3 以上遺存するかわらけであった。

発見した遺構は土坑 14 基・ピット 44 穴である。

遺構 2 (図 3)

楕円形を呈するピットである。遺構 28 を切る。個別に遺構図は掲載していない。遺構覆土は炭化物を含む暗茶褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 20)

1～2 はかわらけ。3 は瀬戸皿。その他に破片で常滑甕・砥石が出土している。

遺構 21 (図 19)

不整形円形を呈するピットである。遺構 220 を切る。遺構覆土は泥岩塊・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 22 (図 19)

長円形を呈する土坑である。遺構 10・遺構 23・遺構 29・遺構 30 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 20)

4～5 はかわらけ。その他に破片で白磁合子・瓦器質火鉢が出土している。

遺構 23 (図 19)

円形を呈するピットである。遺構 22 を切る。遺構覆土は炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺物はかわらけが破片で出土している。

遺構 24 (図 19)

楕円形を呈するピットである。遺構 10 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺物は出土していない。

遺構 27 (図 19)

長円形を呈する土坑である。攪乱・遺構 28 に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 20)

8～13 はかわらけ。14 は青磁皿。15 は銭貨。その他に破片でかわらけ(大)922・(小)14・青磁蓮弁文碗・常滑甕・常滑壺・瓦器質火鉢・滑石鍋・鉄製品釘が出土している。

遺構 28 (図 19)

長円形を呈する土坑である。遺構 2 に切られ、遺構 27 を切る。遺構覆土は泥岩塊・泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 20)

6 はかわらけ。7 は瀬戸碗。その他に破片でかわらけ(大)83・(小)6・青磁劃花文碗・青磁器種不明・瀬戸入子・瀬戸縁釉小皿・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・瓦器質火鉢が出土している。

遺構 29 (図 19)

長円形を呈する土坑である。遺構 22 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 30 (図 19)

長円形を呈する土坑である。遺構 22 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 31 (図 19)

長円形を呈する土坑である。遺構 32 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 32 (図 19)

円形を呈するピットである。遺構 31 を切る。遺構覆土は泥岩塊を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 33 (図 3)

攪乱に大きく切られ規模形状は不明となった。個別に遺構図は掲載していない。遺構覆土は泥岩塊・褐色砂質土を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 20)

16 はかわらけ。その他に破片で常滑甕が出土している。

遺構 34 (図 19)

円形を呈する土坑である。遺構 27 に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色弱粘質土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 155 (図 12)

楕円形を呈するピットである。遺構 156 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 156 (図 12)

方形を呈する土坑である。遺構 158 に切られ、遺構 159 を切る。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 12)

1～43 はかわらけ。44 は瀬戸直縁大皿。45 は金属製品釘。報告したかわらけの点数は 43 点であるが、破片でかわらけ(大)2660・(小)181 が出土している。その他に破片で、青磁碗・青磁香炉・白磁口元皿・白磁口

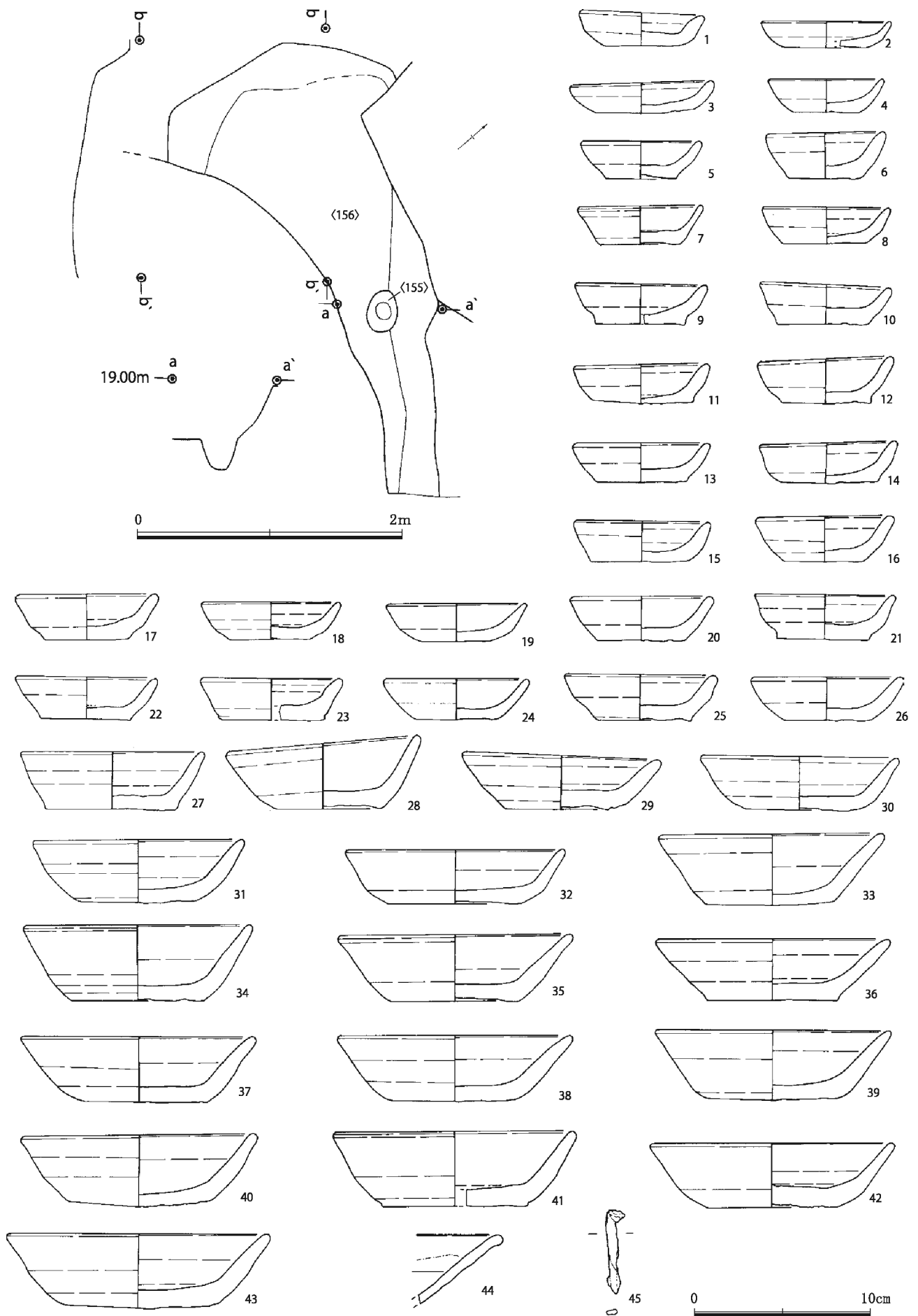


图 12 第 1b 面 遺構 155・156

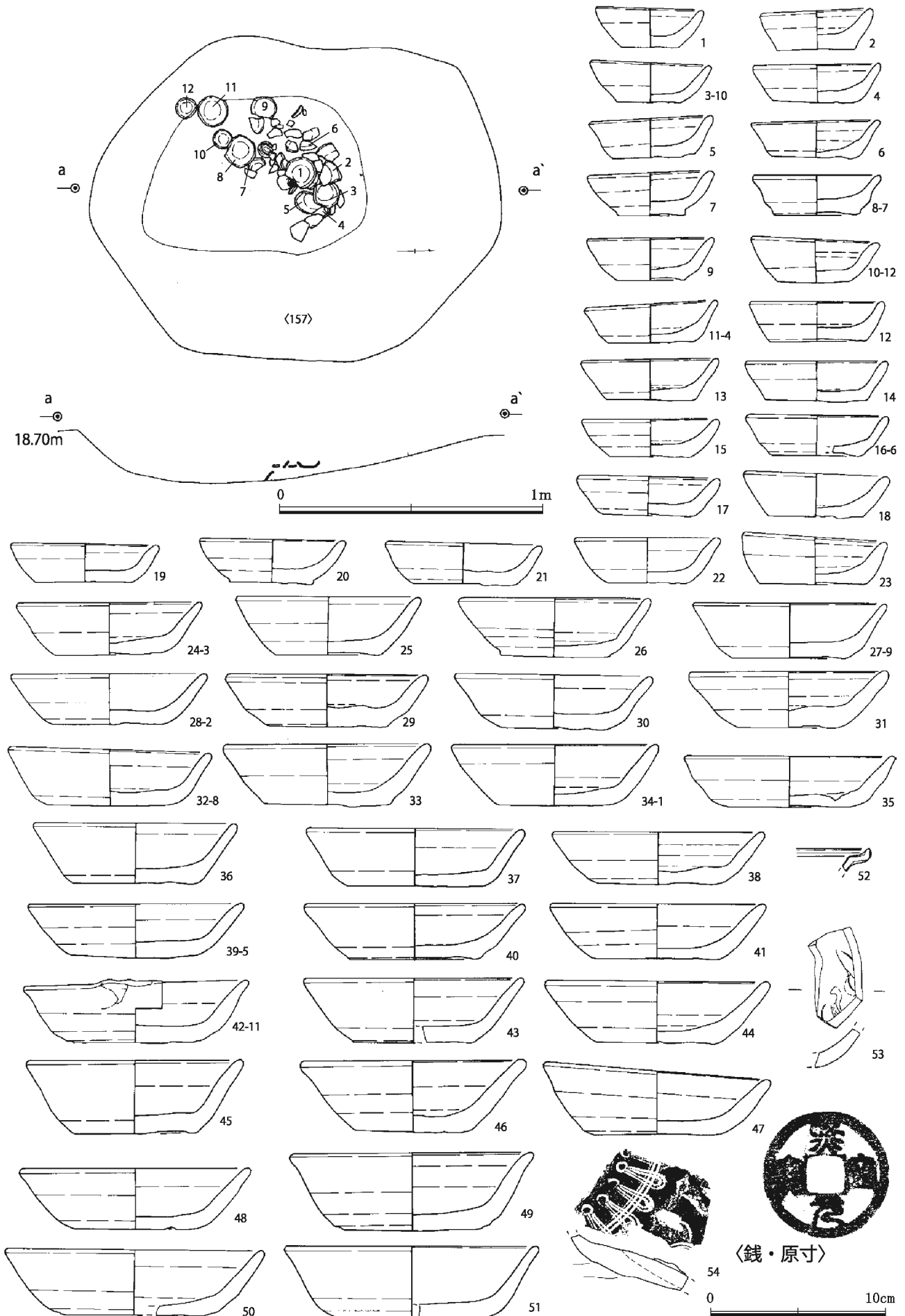


图 13 第 1b 面 遺構 157

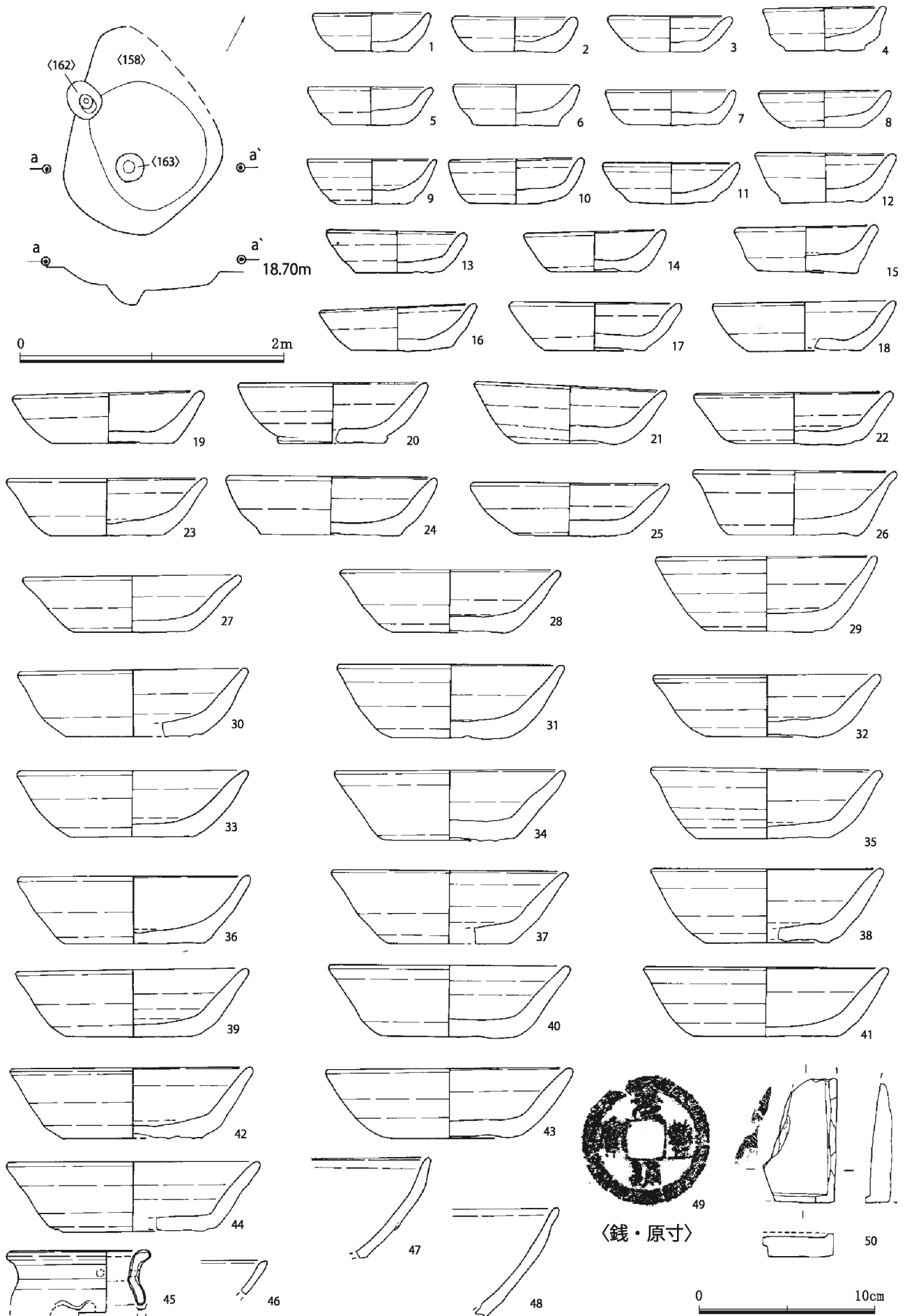


图 14 第 1b 面 遺構 158・162・163

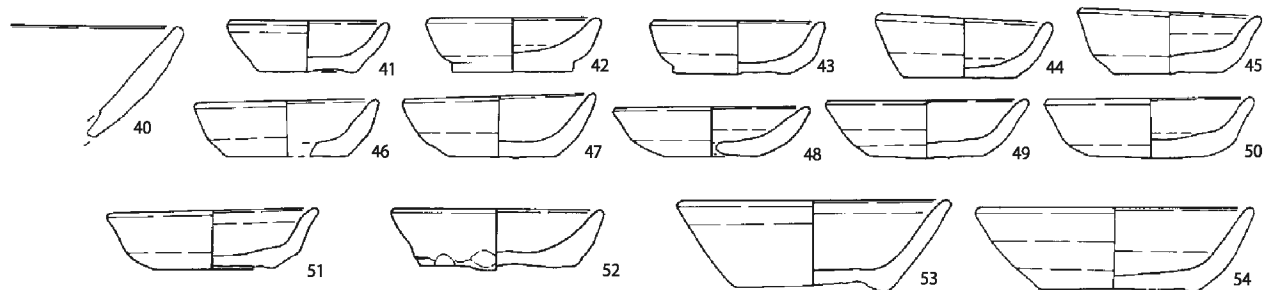
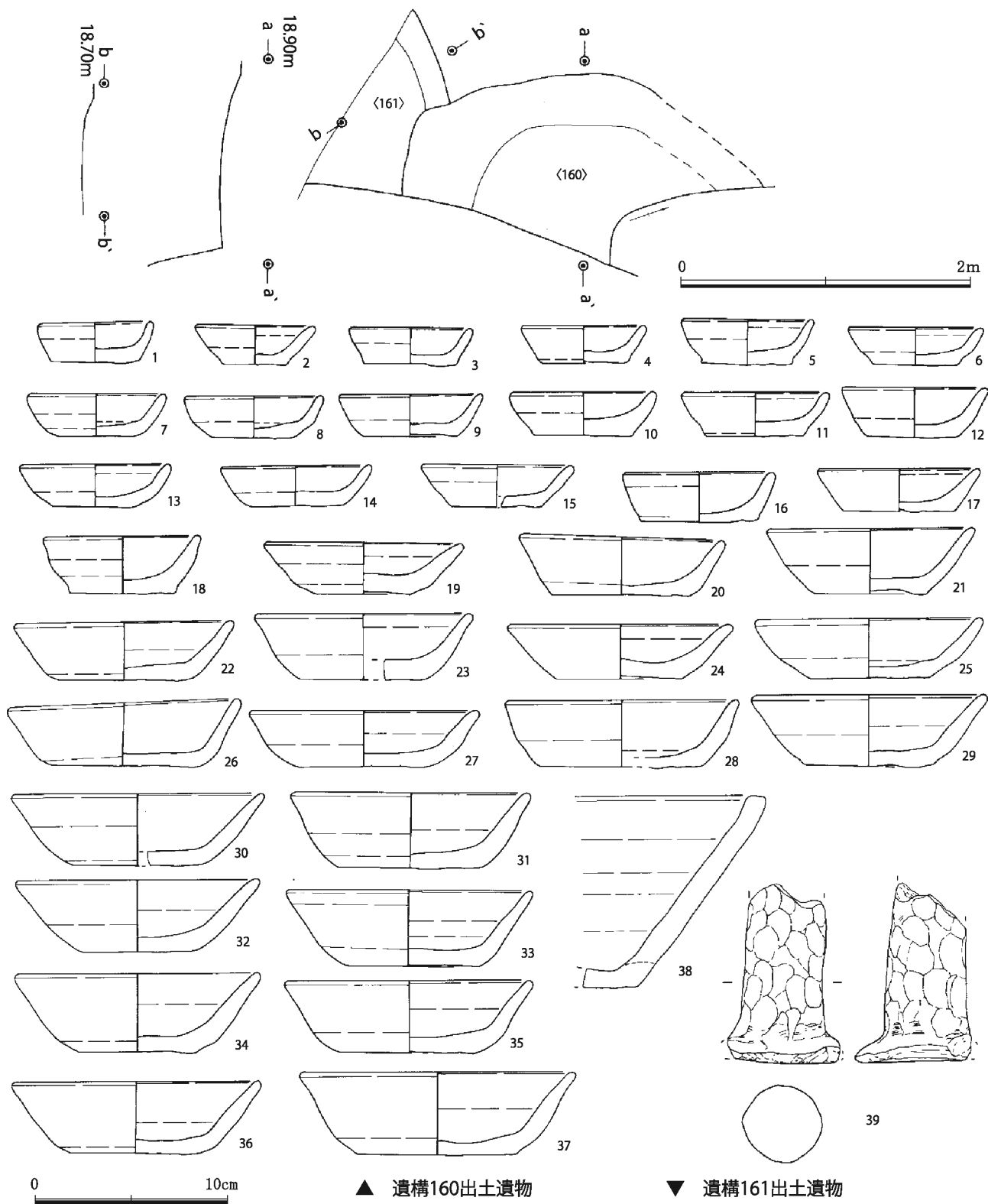


图 15 第 1b 面 遺構 160・遺構 161 - ①

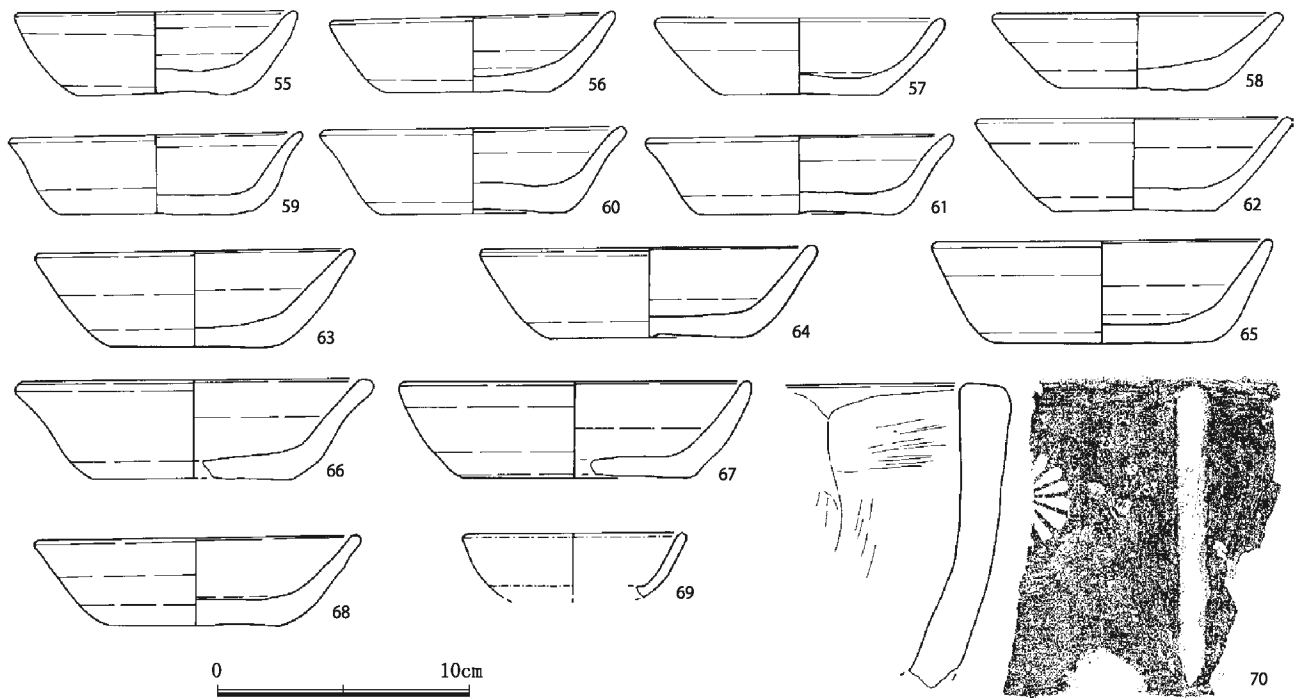


図 16 第 1b 面 遺構 161 出土遺物 - ②

元碗・瀬戸仏華瓶・瀬戸香炉・山皿・常滑甕・常滑片口鉢(I類・II類)・渥美甕・瓦器火鉢・鉄製品釘・獣骨が出土している。また、近世の白磁碗が破片で混入していたが、上層の攪乱によって遺物の混乱があった可能性を考えている。

遺構 157 (図 13)

長円形を呈する土坑である。遺構 164 を切る。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・茶褐色腐植土を含む茶褐色土。多くの中世遺物が出土した土坑であるが、遺構覆土に茶褐色腐食土を多く含み、木根の抜き取り痕の可能性もうかがえた。出土した遺物のうち、遺構底面辺でまとまって発見した遺物を平面図にNo.を付して図示し、観察表に図示したNo.を枝番で示している。

・出土遺物 (図 13)

1~51 はかわらけ。52 は青磁坏。53 は青磁碗。54 は瀬戸四耳壺。55 は銭貨。報告したかわらけは 51 点であるが、破片でかわらけ(大)1421・(小)133 が出土している。その他に破片で常滑甕・常滑片口鉢 I 類・常滑片口鉢 II 類・渥美甕・土製品器種不明が出土している。

遺構 158 (図 14)

不整円形を呈する土坑である。遺構 162 を切る。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 14)

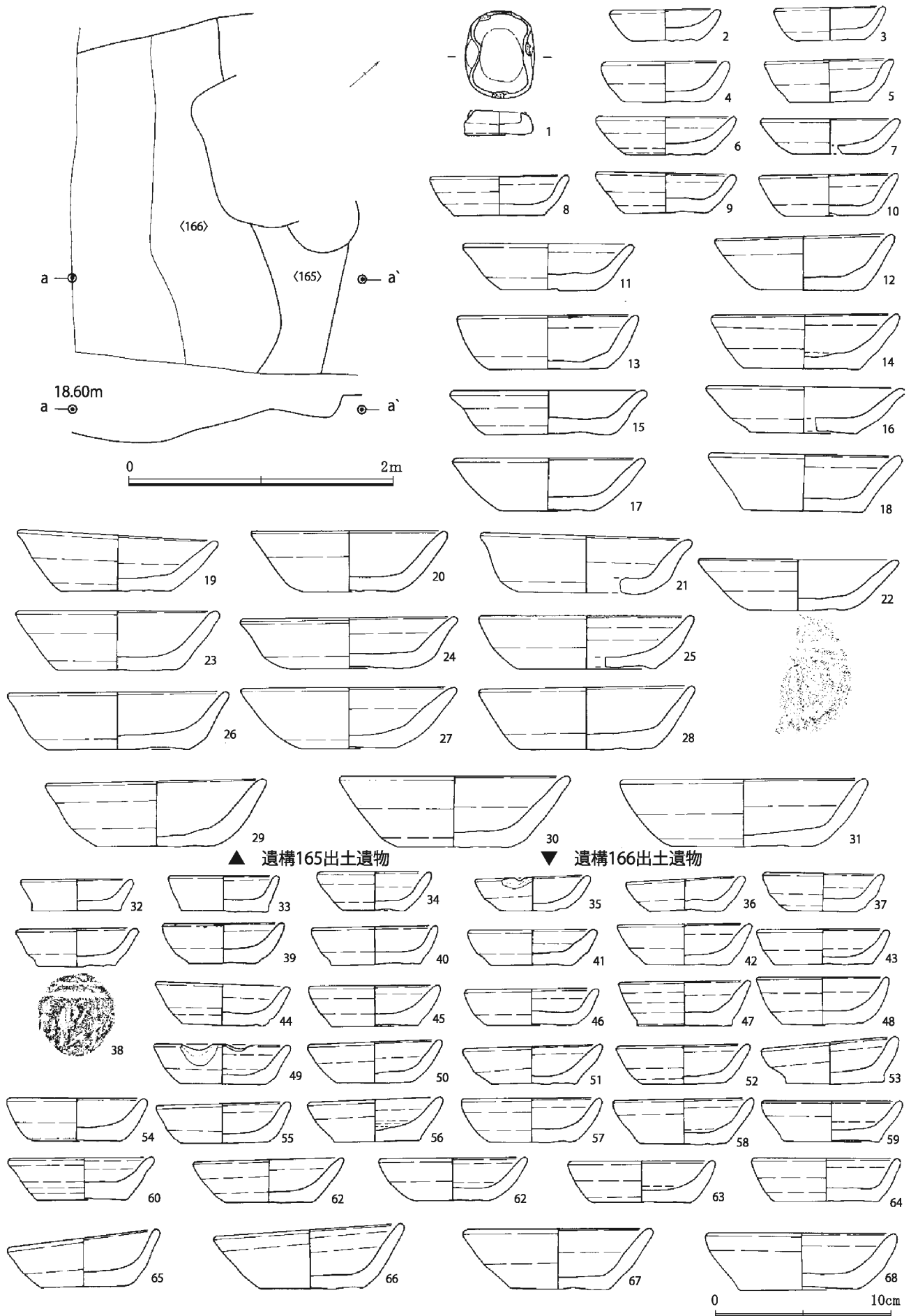
1~44 はかわらけ。45 は青磁香炉。46 は青磁皿。47 は瀬戸平碗。48 は瀬戸天目茶碗。49 は銭貨。50 は石製品硯。その他に、かわらけ(大)1240・(小)85・青白磁梅瓶・白磁皿・瀬戸皿・瀬戸水注・瀬戸四耳壺・瀬戸褐釉壺・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・常滑片口鉢 II 類・渥美甕・平瓦・鉄製品釘が破片で出土している。

遺構 159 (図 19)

方形を呈する土坑である。遺構 156 に切られ規模は不明となった。遺構覆土は泥岩粒を多く含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 20)

17~35 はかわらけ。36 は瓦器質黒縁皿。37 は瓦器質火鉢。その他に破片でかわらけ(大)303・(小)74・瀬戸器種不明・常滑甕が出土している。



▲ 遺構165出土遺物

▼ 遺構166出土遺物

図17 第1b面 遺構165・遺構166-①

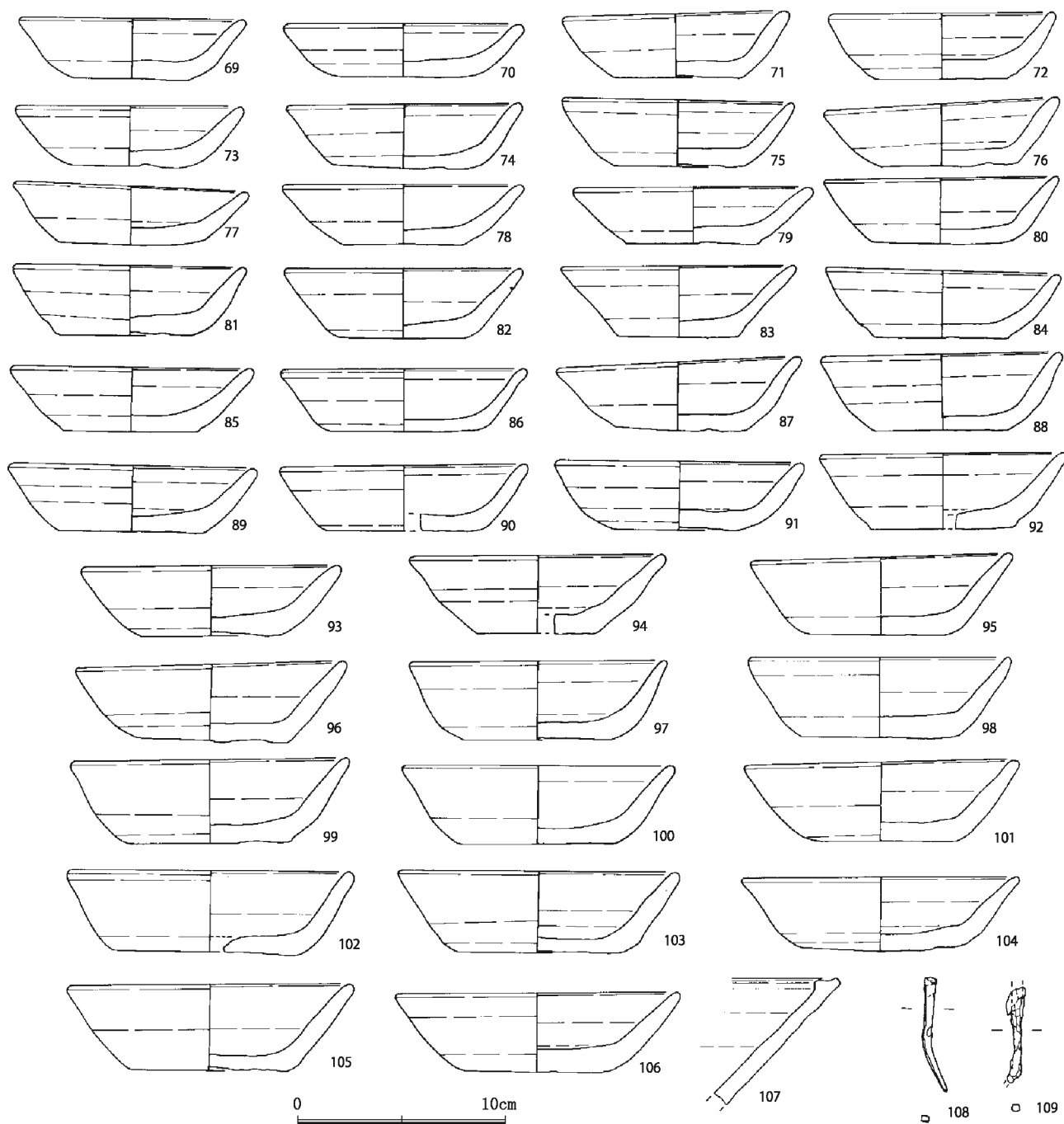


図 18 第 1b 面 遺構 166 - ②

遺構 160 (図 15)

遺構 159 に切られ、遺構 161 を切る。土坑である。遺構覆土は泥岩塊・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 15)

1~37 はかわらけ。38 は瓦器質火鉢。39 はかわらけ質器種不明。火鉢の脚部か。その他に破片でかわらけ(大)929・(小)74・青磁器種不明・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・渥美甕・土製品灯明台が出土している。

遺構 161 (図 15)

遺構 160 に切られ規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む明茶褐色土。

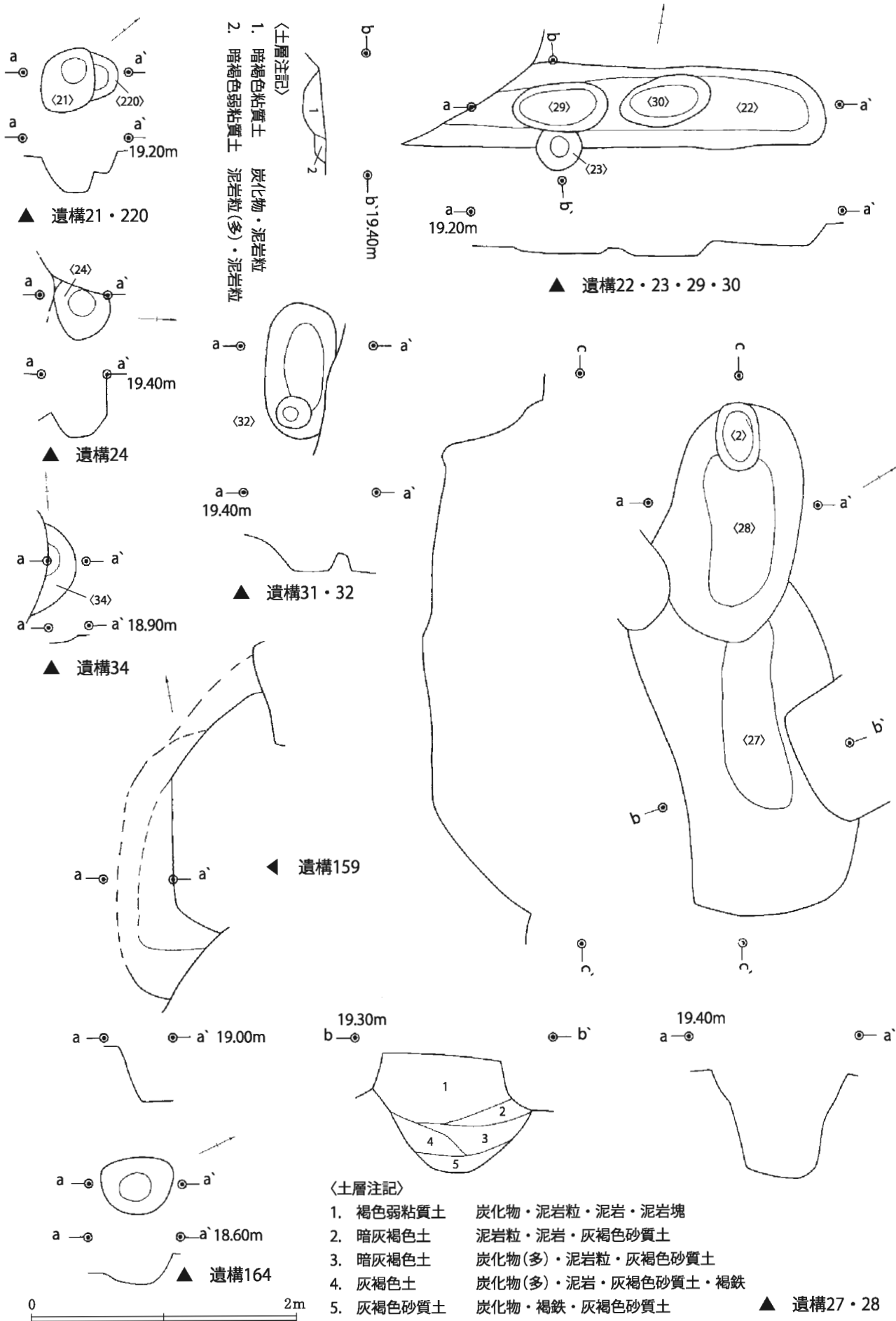


図19 第1b面個別遺構図(遺構2・21・22・23・24・27・28・29・30・32・34・159・133・164・220)

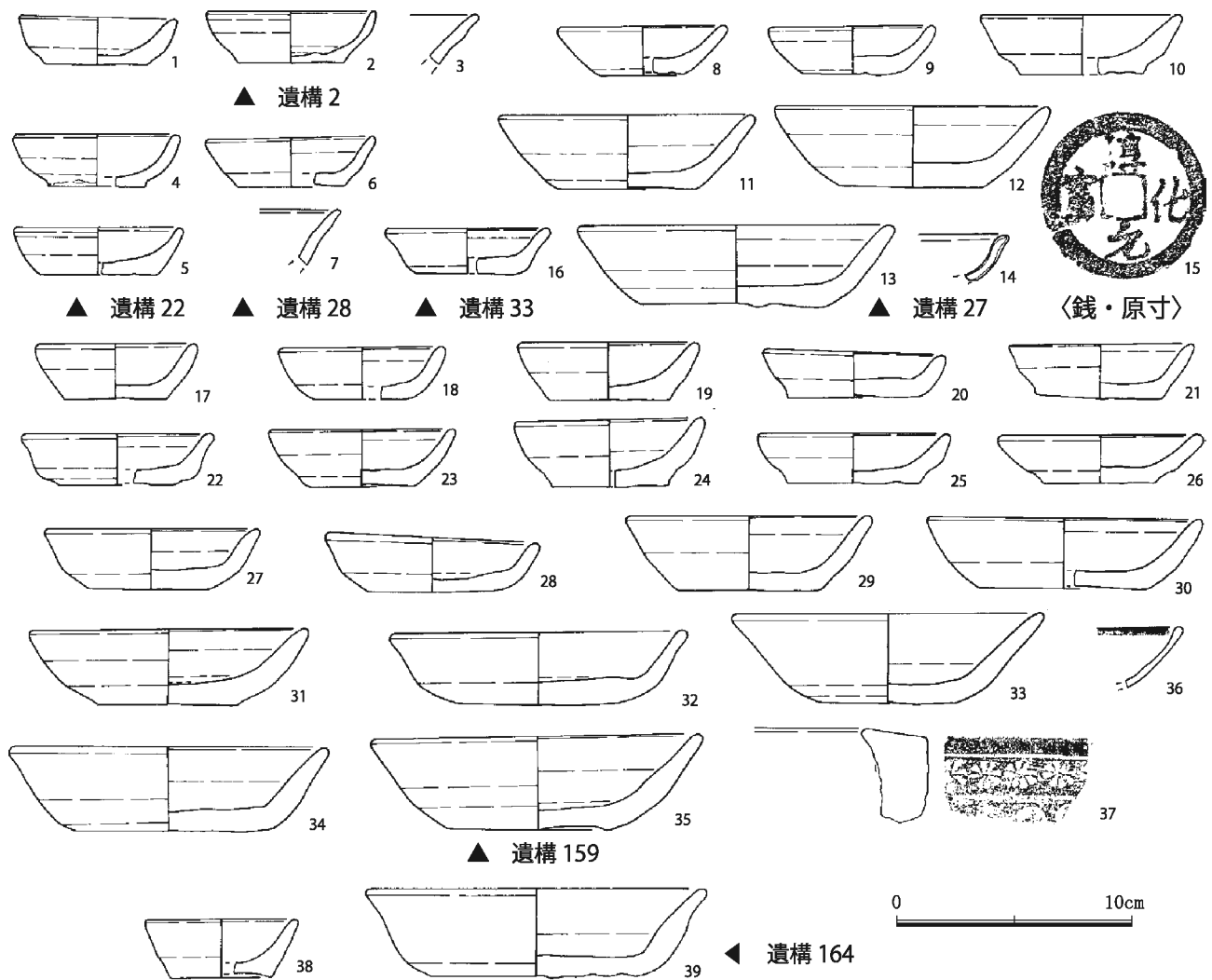


図 20 第 1b 面・遺構出土遺物

・出土遺物 (図 15・図 16)

40~68 はかわらけ。40 は手づくねである。胎土は白色を呈しているが、所謂京都産の白かわらけとは異なる。68 は遺構底面出土のかわらけである。69 は白磁口元皿。70 は瓦器質火鉢。その他に破片で、かわらけ(大)380・(小)69・青磁碗・白磁壺・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・平瓦が出土している。

遺構 162 (図 14)

円形を呈するピットである。遺構底面に杭痕が残る。遺構 158 に切られる。遺構覆土は炭化物・褐鉄・褐色砂を含む暗褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 163 (図 14)

円形を呈するピットである。炭化物・褐鉄・褐色砂を含む暗褐色土。遺構 162 覆土に近似する。遺物は出土していない。

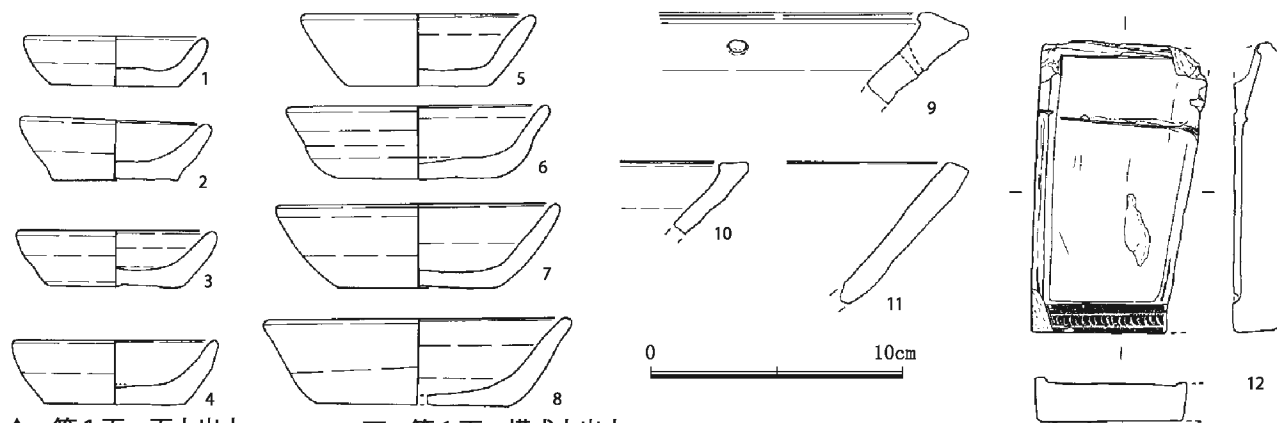
遺構 164 (図 19)

円形を呈するピットである。遺構 157 に切られる。遺構覆土は炭化物・褐鉄・褐色砂を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 20)

38~39 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 165 (図 17)



▲ 第1面・面上出土

▼ 第1面・構成土出土

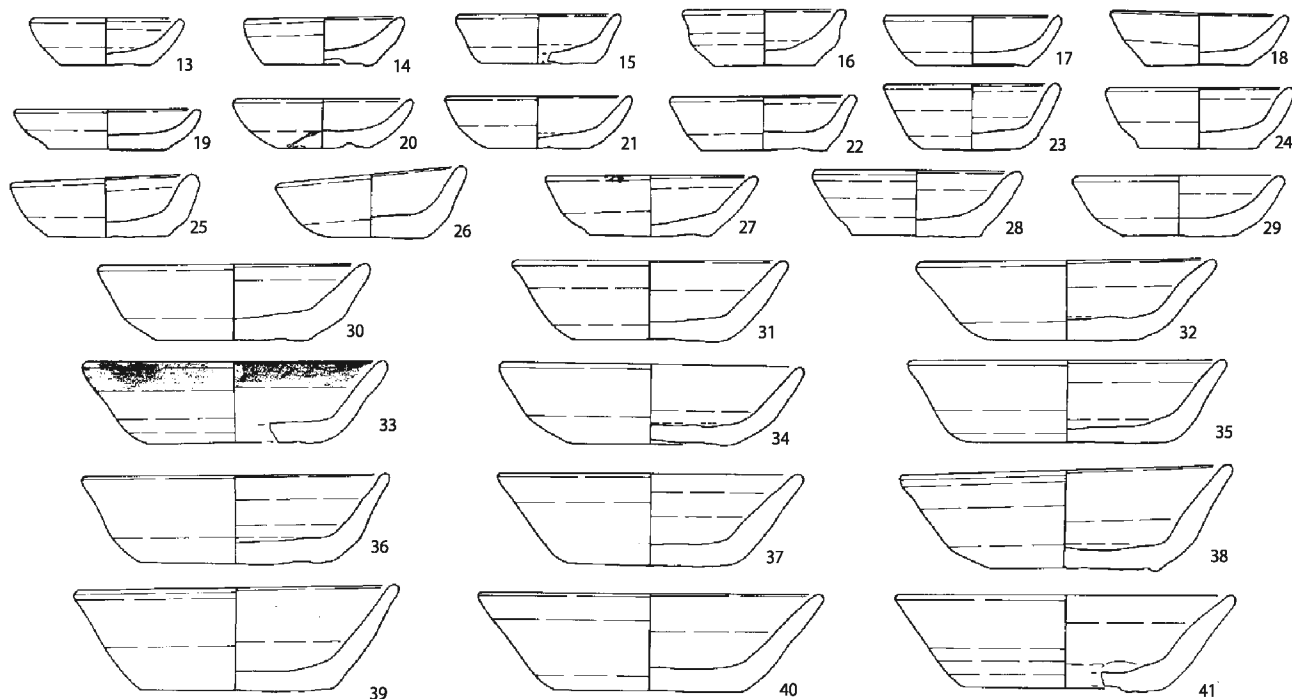


図 21 第1面面上・構成土出土遺物

遺構の大半は調査区外に延び規模・形状は不明となった。浅い土坑である。遺構 166 に切られるが、遺構 166 と同一遺構であった可能性もある。

・出土遺物 (図 17)

1~31 はかわらけである。1 は耳皿。焼成前に対面する側面を指頭によって押厚して整形している。22 は底部に深く板状圧痕が残る。その他に遺物はかわらけ(大)469・(小)32・褐釉壺・常滑甕が破片で出土している。

遺構 166 (図 17)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。土坑である。遺構 165 を切る形で検出したが、前述したように遺構 165 と 166 は同一遺構であった可能性もある。

・出土遺物 (図 17~図 18)

32~106 はかわらけ。107 は瀬戸卸目付大皿。108~109 は金属製品釘。その他に破片でかわらけ(大)2010・(小)163・青磁碗・白磁皿・瀬戸皿・瀬戸鉢・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・渥美壺・瓦器質火鉢が出土している。

遺構 220 (図 19)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。遺構 21 に切られる。遺物

は出土していない。

・第1面面上・構成土出土遺物（図21）

1～12は第1面・遺構精査時に発見した遺物である。1～8はかわらけ。9は瓦器質火鉢。10は瀬戸卸皿。11は常滑片口鉢Ⅱ類。12は石製品硯。その他に破片で金属製品釘が出土している。

13～41は第1面遺構検出後、第2面までの堆積層（第1面構成土）で発見した遺物である。13～41はかわらけ。33は内外面黒色に変色。その他に破片で青磁折腰鉢が出土している。第1面は多くの遺物が出土しているが、その多くは遺構覆土からの出土であり、面上・構成土からの出土遺物は少なく、報告した遺物以外のかわらけ破片数は僅かに(大)38・(小)7点であった。

第2節 第2面の遺構と遺物（図4・図22～図28）

褐鉄・泥岩粒を含む茶褐色土の地業層上で第2面を検出した。発見した遺構は土坑12基・ピット31穴であるが、上層の遺構によって削平を受け、Ⅰ区・Ⅱ区共に発見した遺構は少ない。また、第2面地業層精査時に発見した遺物はいずれも小片のため図示できず、Ⅱ区で発見した遺構170・171を除いて、遺構出土の遺物も図示できない小片であった。遺物の出土量は第1面に比べて大きく減少する。

遺構46（図26）

長円形を呈する土坑である。遺構47を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む締りのない暗褐色土。遺物は出土していない。

遺構47（図26）

長円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む締りのない暗褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構49（図26）

円形を呈するピットである。遺構47を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。遺物は出土していない。

遺構50（図26）

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構51(図26)

調査区外に遺構が延び、規模は不明となった。円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色土泥岩粒・炭化物を多く含む。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構52（図26）

長円形を呈する土坑である。遺構60・遺構61に切られる。遺構覆土は泥岩塊・泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。

・出土遺物（図26）

2はかわらけである。その他に遺物は出土していない。

遺構55（図26）

楕円形を呈するピットである。遺構56に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 56 (図 26)

円形を呈するピットである。遺構 55 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。遺構底面に礎石だろうか、安山岩が縦位に遺存していた。

・出土遺物(図 26)

1 は遺構底面で検出した安山岩である。石の平らになる両面に、人為的に削った痕跡が残っていた。礎石として使用する際に柱を安定させるために加工したのかもしれない。その他に破片で鉄製品器種不明・土師器甕が出土している。

遺構 60 (図 26)

調査区外に遺構が延びる。土坑である。遺構 52・遺構 60 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。

・出土遺物 (図 26)

4 は土製品人形。巫女の袴姿か。その他に破片でかわらけが出土している。

遺構 61 (図 26)

円形を呈する土坑である。遺構 52 を切り、遺構 60 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 26)

3 はかわらけである。その他に遺物は出土していない。

遺構 62 (図 26)

円形を呈するピットである。遺構 63 を切る。遺構覆土は泥岩塊・泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 63 (図 26)

円形を呈するピットである。遺構 62 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構 67 (図 26)

長円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩塊・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色土。遺物は破片でかわらけ・青磁蓮弁文碗・常滑片口鉢Ⅱ類が出土している。

・出土遺物(図 26)

5～8 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

遺構 68 (図 26)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構覆土は泥岩・炭化物を含む暗褐色土。

・出土遺物(図 26)

11 はかわらけ。その他に破片で常滑甕が出土している。

遺構 132 (図 26)

I 区と II 区の際で検出した浅い不整形な土坑である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図 26)

9～10 はかわらけ。9 は口唇部を打ち搔いていた。その他に破片で常滑片口鉢Ⅰ類・吉備系土器・瓦器質火鉢が出土している。

遺構 170 (図 22)

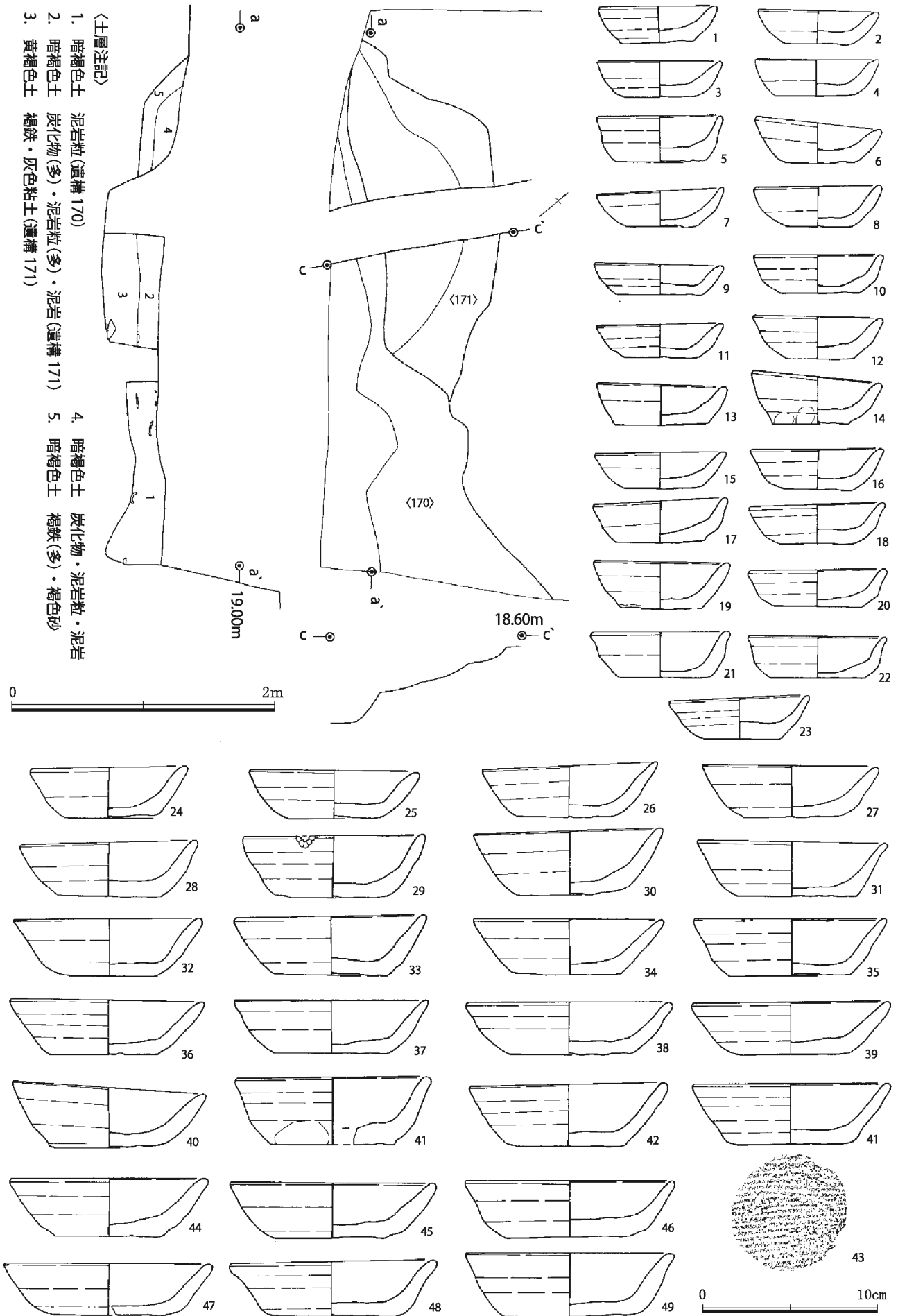


图 22 第 2 面・遺構 170・171-①

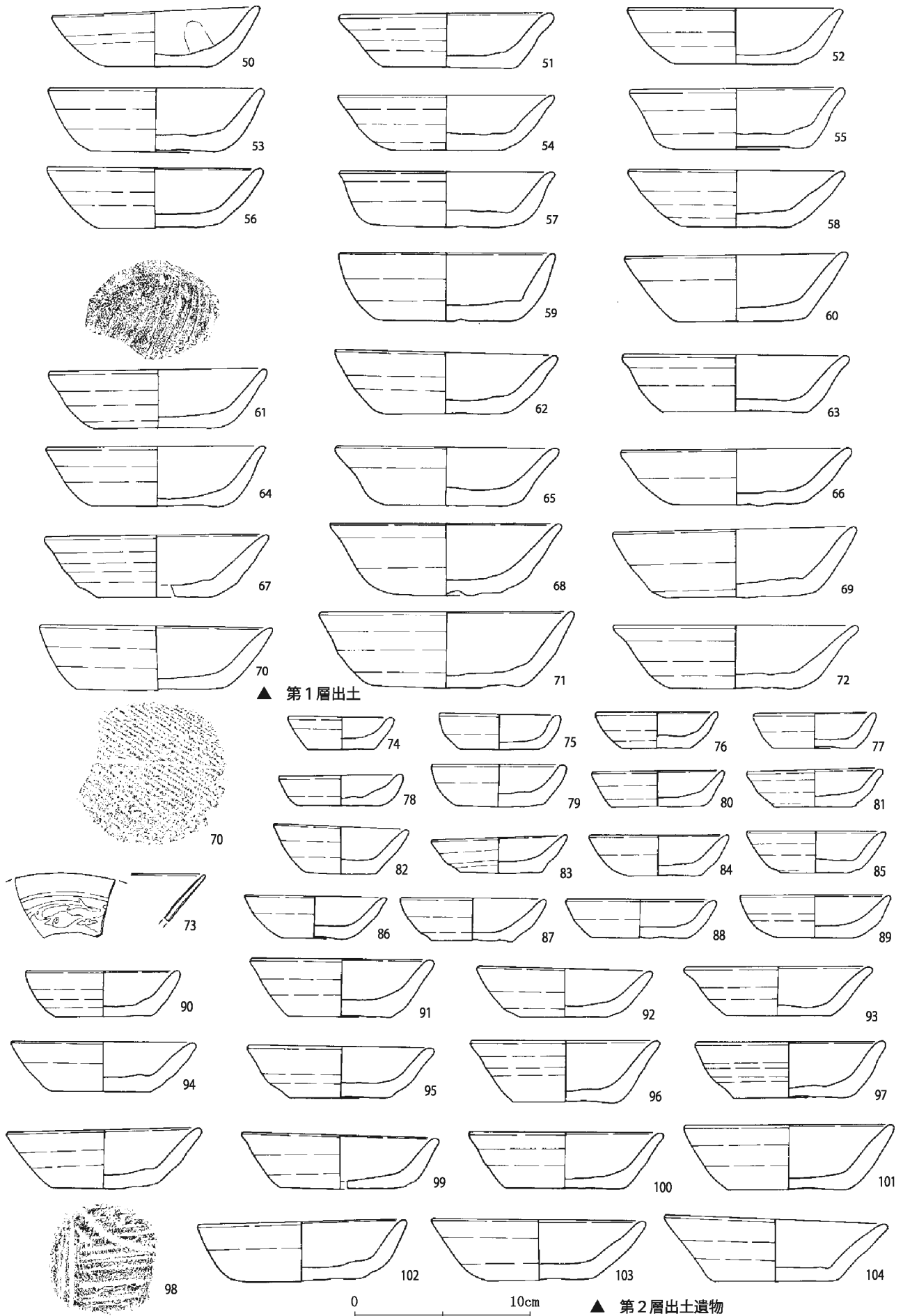


图 23 第 2 面 · 遺構 170 · 171-②

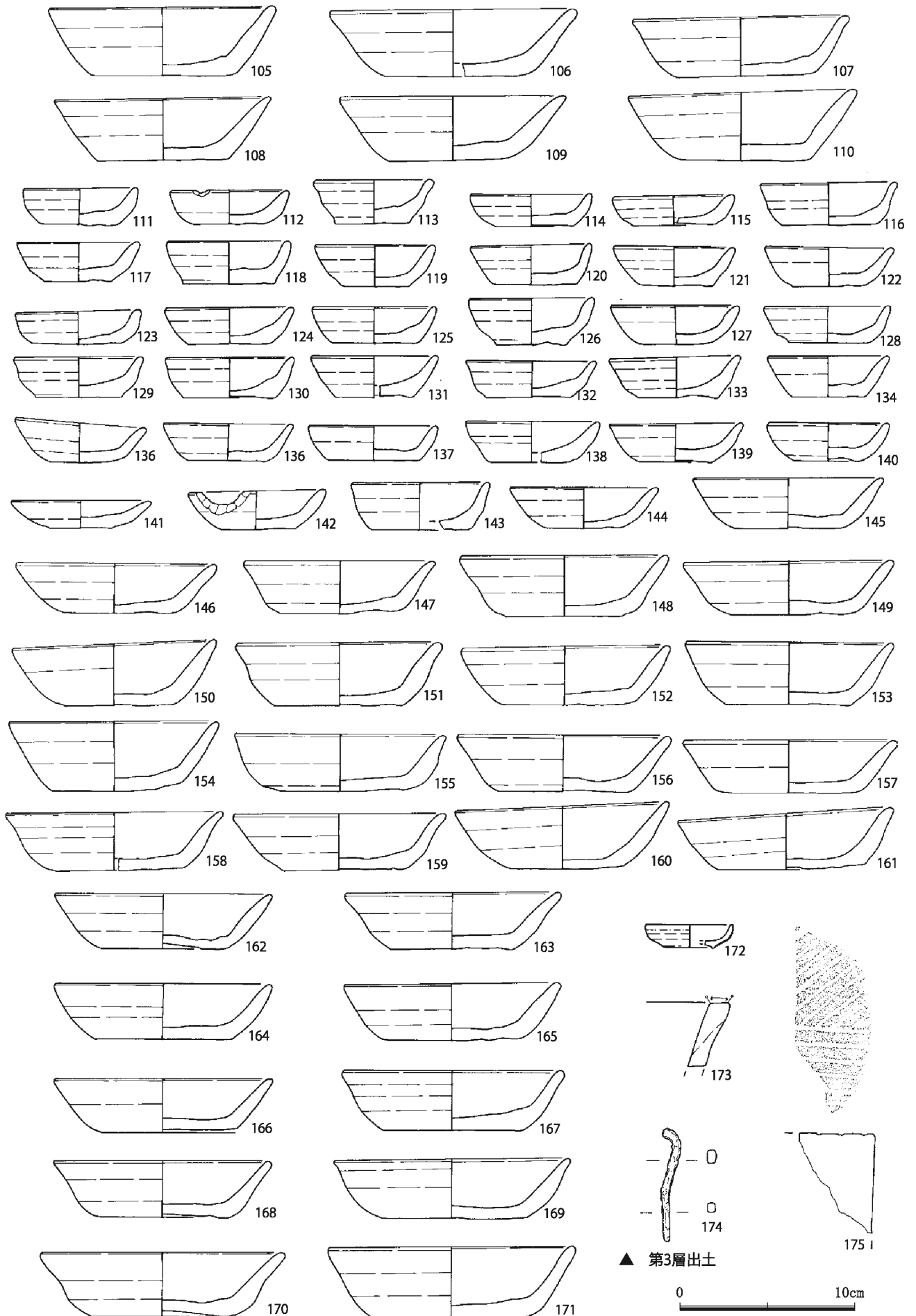


图 24 第 2 面 · 遺構 170 · 171-③

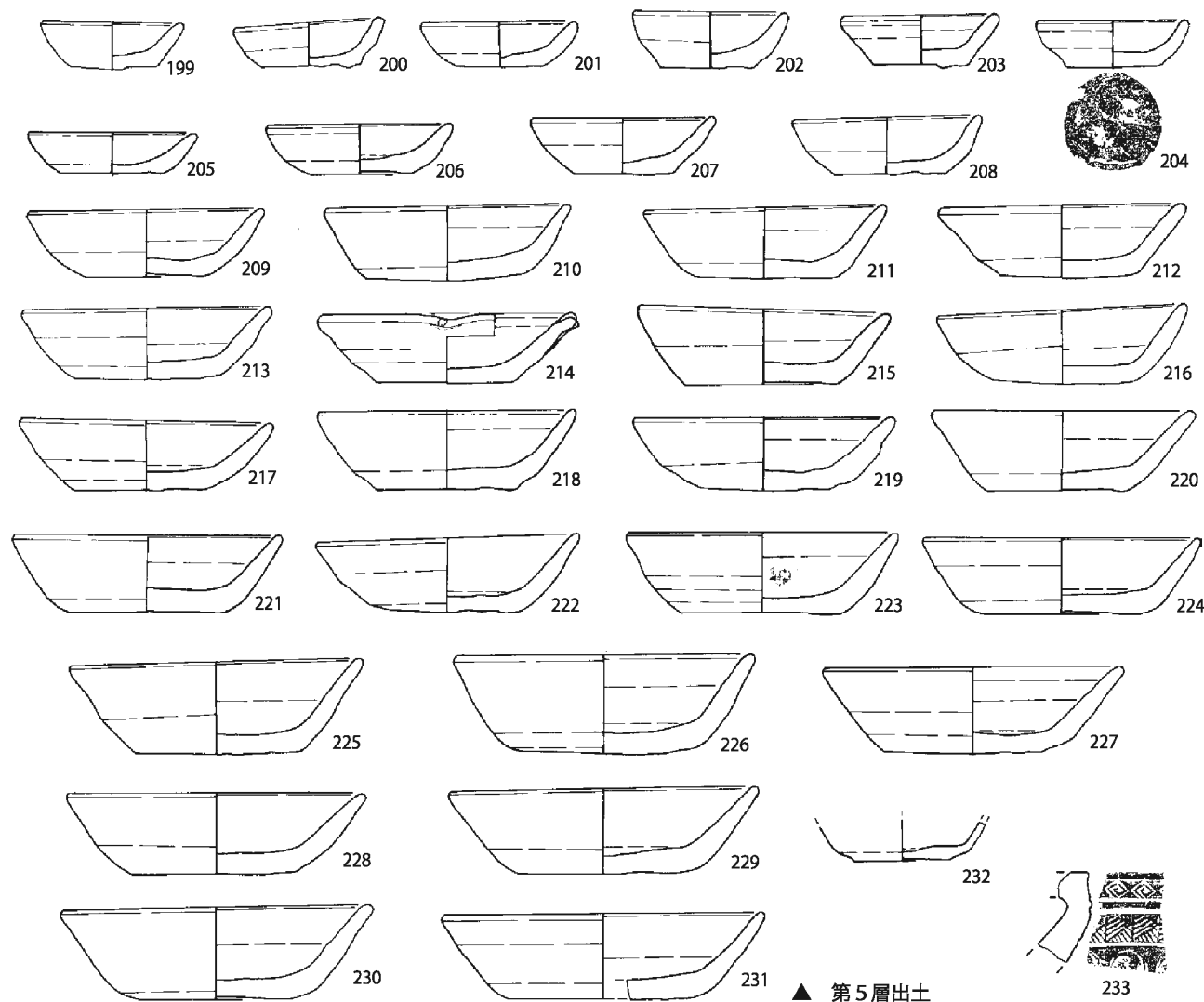
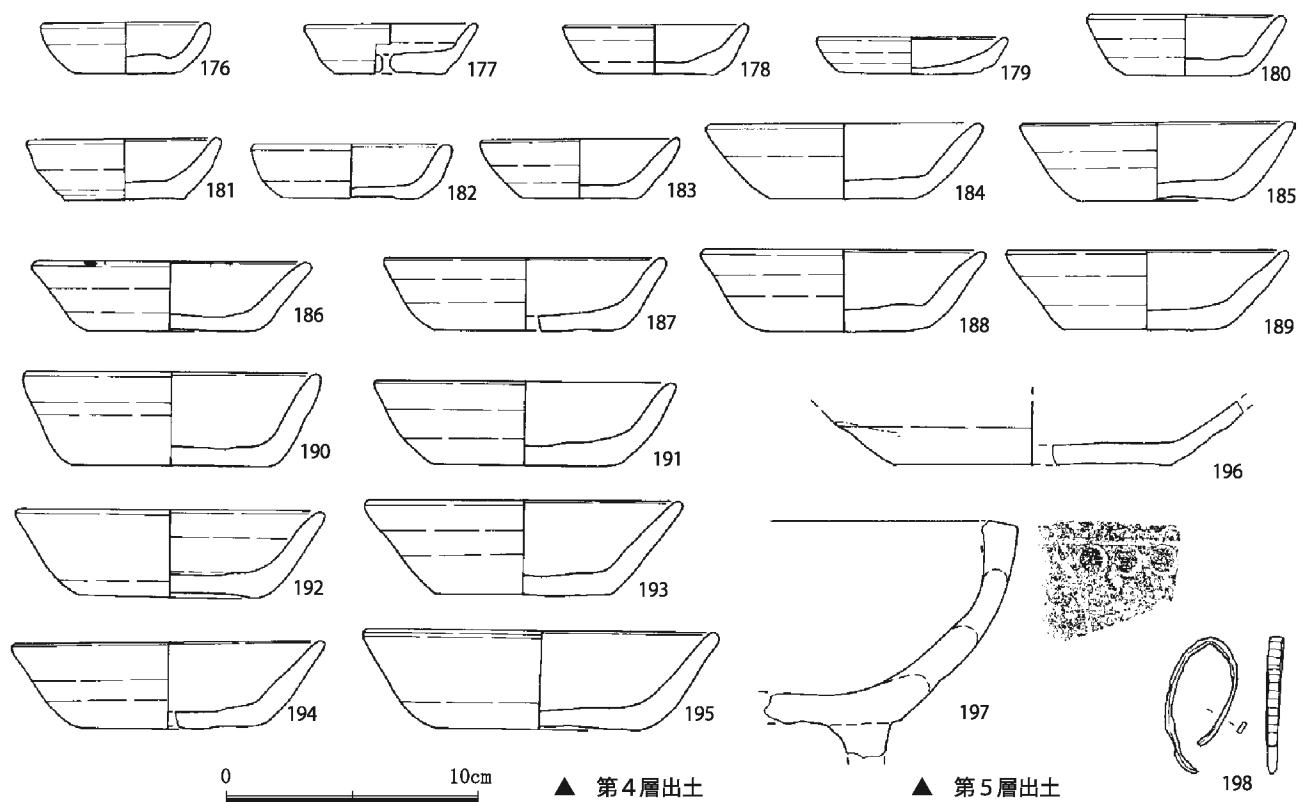


图 25 第 2 面 · 遺構 170 · 171-④

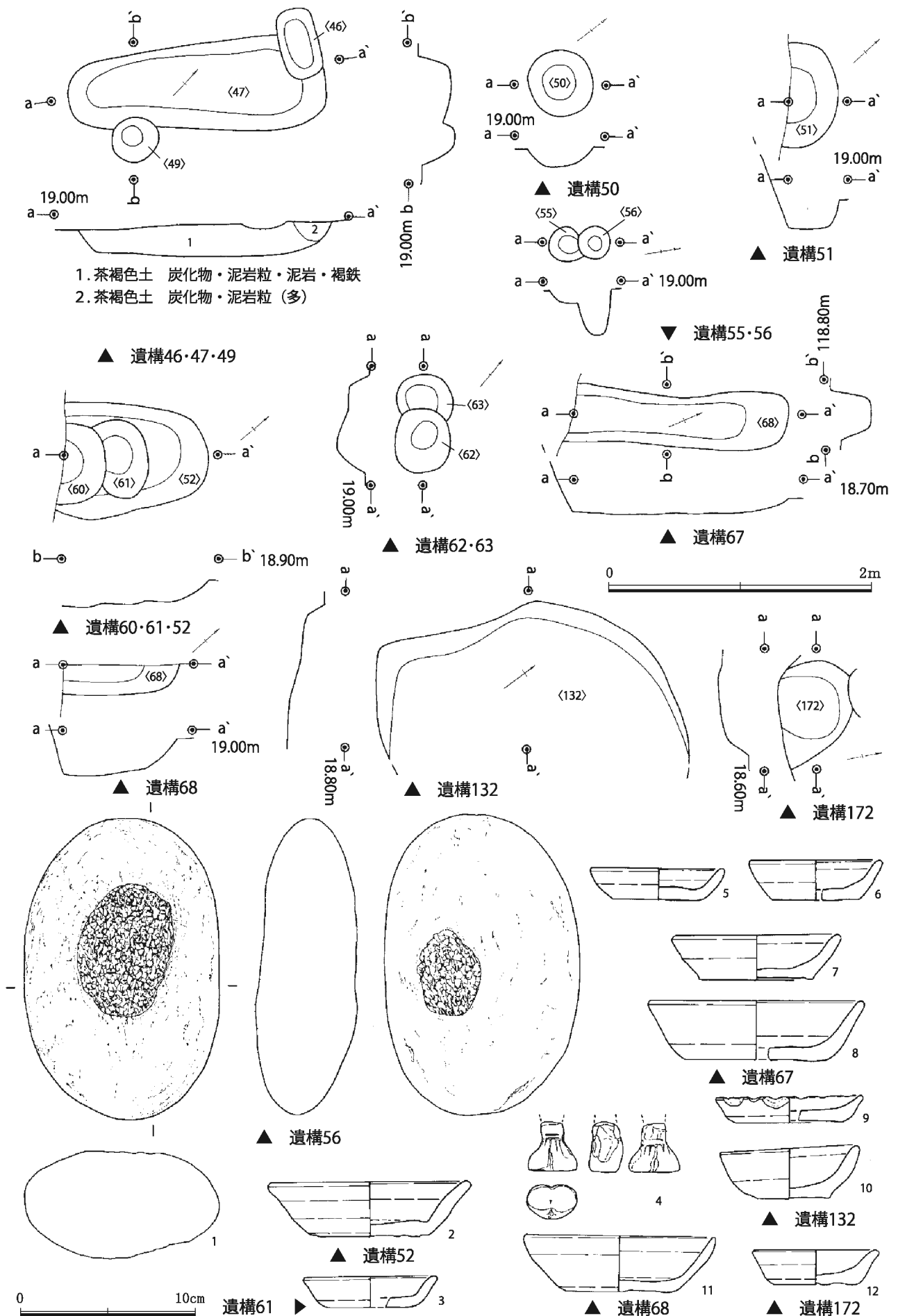


図26 第2面・構成土出土遺物一①

(遺構 46・47・49・50・51・52・55・56・57・60・61・62・63・67・68・132・172)

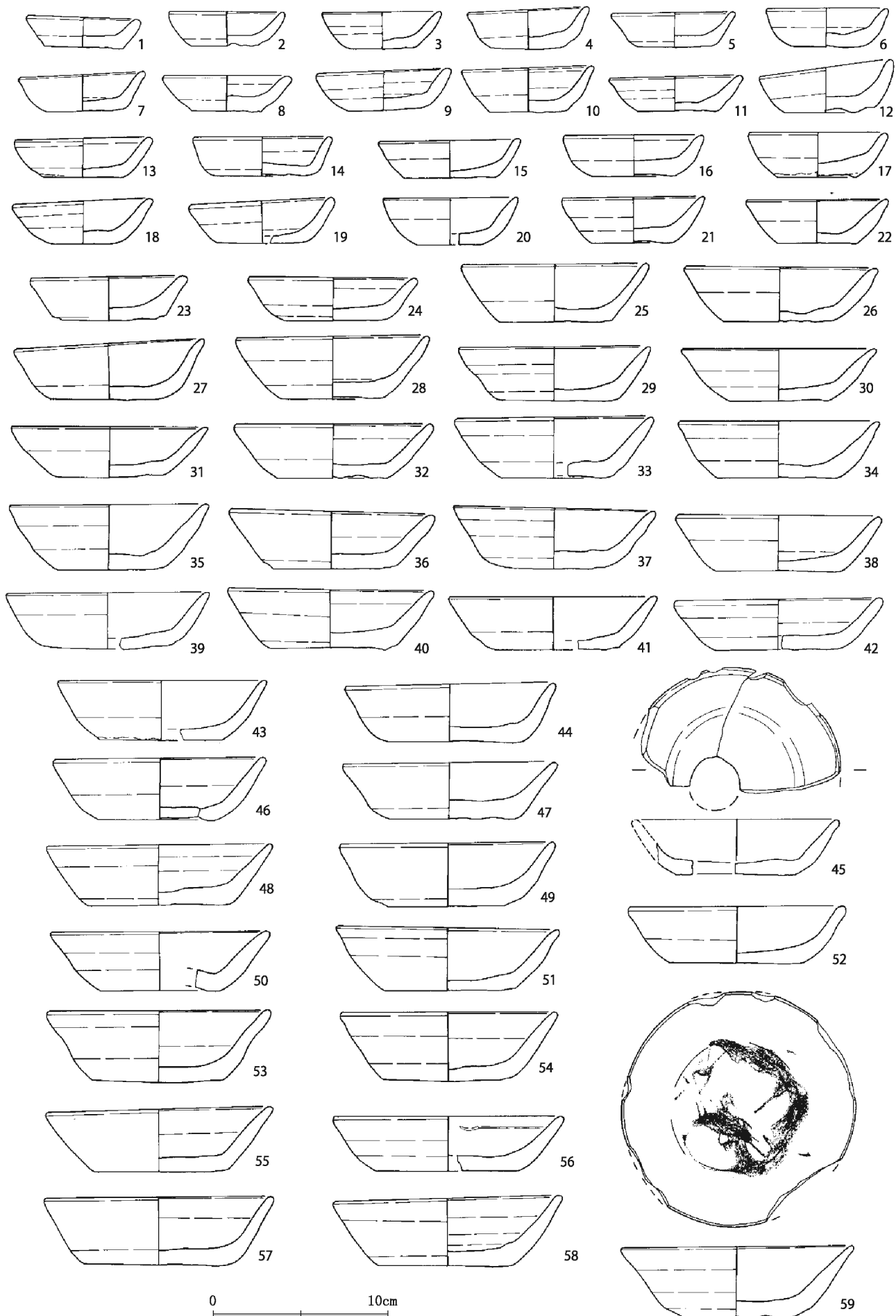


图 27 第 2 面・構成土出土遺物一①

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構 171 を切る。遺構覆土は泥岩粒・褐鉄・褐色砂・砂礫を含む明茶褐色砂質土。

・出土遺物 (図 22～図 23)

出土遺物は図 22 で示した堆積層順に報告している。1～72 は第 1 層出土である。

1～72 はかわらけ。43 は外底部に間隔の狭いすだれ状の圧痕が残る。61 は内底横ナデが強く残る。70 は外底部に間隔の狭いすだれ状の圧痕が残る。かわらけは(大)2674・(小)311 片が出土しているが、その多くは 1/3 以上遺存する形状を残していた。その他に破片で青磁碗・青白磁合子・瀬戸碗・瀬戸卸皿・瀬戸器種不明・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・渥美甕・瓦器質火鉢・鉄製品釘が出土している。

遺構 171 (図 22)

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。土坑である。遺構 170 に切られる。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐色砂を含む茶褐色土。

・出土遺物 (図 23～図 25)

出土遺物は図 22 で示した堆積層順に報告している。

73～110 は第 2 層出土。73 は白磁碗。74～110 はかわらけ。

111～175 は第 3 層出土。111～171 はかわらけ。172 は青白磁合子。173 は瓦器質盤。174 は鉄製品釘。175 は石製品石臼。

176～198 は第 4 層出土。176～195 はかわらけ。196 は瀬戸折縁深皿。197 は瓦器質火鉢。198 は金属製品用途不明。表面に約 3mm 単位に横位の刻みが入る。

199～233 は第 5 層出土。199～231 はかわらけ。232 は瀬戸入子。233 は瓦器質香炉。

その他に遺物は破片でかわらけ(大)6773(小)89・山茶碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・石製品砥石・石製品硯が破片で出土している。

遺構 172 (図 26)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物を含む褐色土。

・出土遺物 (図 26)

12 はかわらけ。その他に遺物は出土していない。

・第 2 面構成土出土遺物(図 27～図 28)

第 2 面遺構検出後、第 3 面精査時までの堆積層から出土した遺物である。1～64 はかわらけ。65 は瀬戸鉢。66 は金属製品刀子。構成土出土の遺物は少量であったが、出土したかわらけは完形、あるいは復元可能な大きさが目立つ。その他に遺物は出土していない。

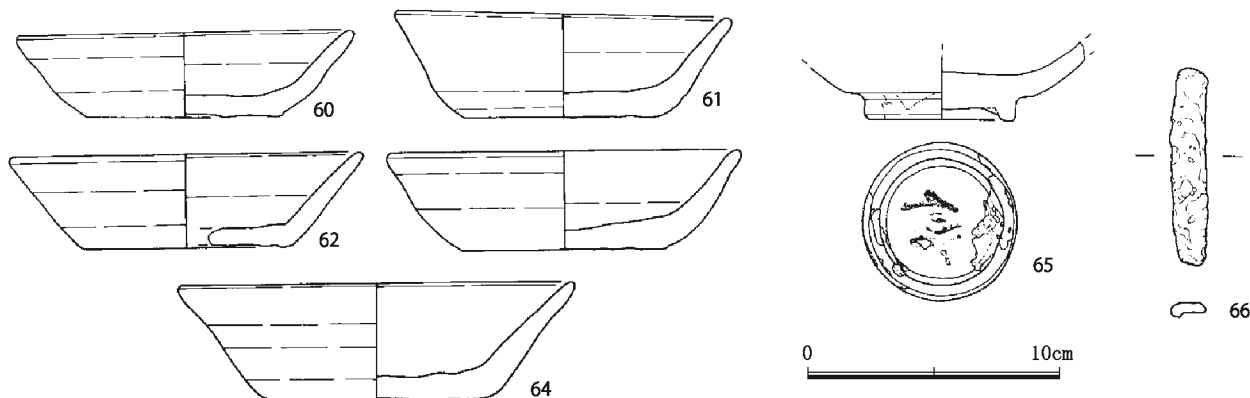


図 28 第 2 面・構成土出土遺物一②

第3節 第3面の遺構と遺物 (図4・図29)

第3面は褐鉄(多)・褐色砂(多)・砂礫・黒色有機質土を含む明茶褐色土の地業層上でI区・II区共に多くの遺構を検出したが、遺構覆土から発見した遺物はいずれも小片であったため図化して報告していない。また、遺構プラン確認時、あるいは第3面の構成土から出土した遺物もかわらけの小片であった。

第3面で発見した遺構は土坑18基、ピット112穴である。

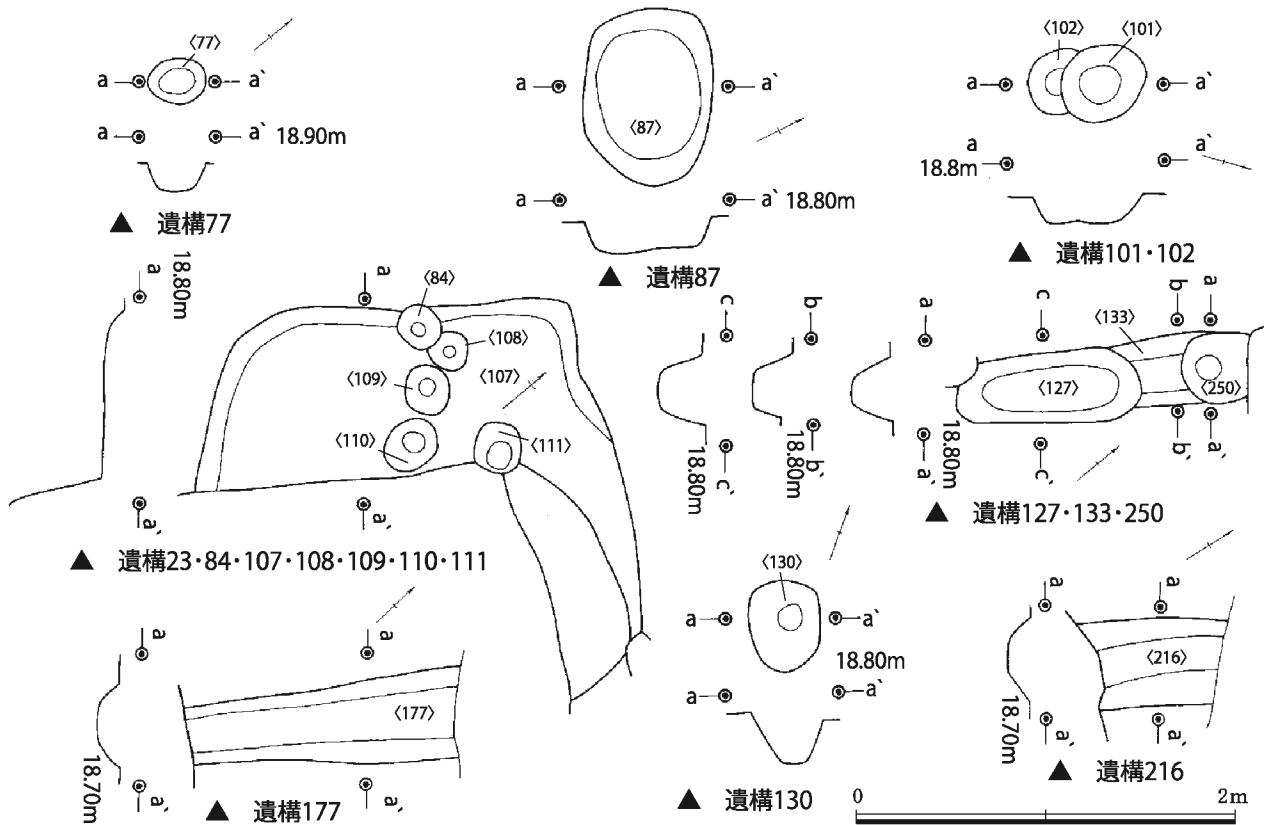


図29 第3面個別遺構図 (遺構77・84・87・101・102・107・108・109・110・111・127・130・133・177・216・250)

遺構77 (図29)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む暗茶褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構84 (図29)

円形を呈するピットである。遺構107を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄・灰褐色砂を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構87 (図29)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構101 (図29)

円形を呈するピットである。遺構102を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構102 (図29)

円形を呈するピットである。遺構101に切られる。遺構覆土は炭化物・褐鉄・褐色砂を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構 107 (図 29)

方形を呈する浅い土坑である。遺構 84 に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄・褐色砂を含む茶褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 108 (図 29)

円形を呈するピットである。遺構 84 に切られる。遺構覆土は泥岩・灰褐色砂・砂礫を含む暗褐色土。遺物は出土していない。

遺構 109 (図 29)

円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 110 (図 29)

楕円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・灰褐色砂を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 111 (図 29)

円形を呈するピットである。遺構 231 を切る。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄・砂礫を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 127 (図 29)

長円形を呈する土坑である。遺構 128 に切られ、遺構 133 を切る。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構 130 (図 29)

不整円形を呈するピットである。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構 133 (図 29)

長円形を呈する土坑である。遺構 127・遺構 250 に切られる。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

遺構 177 (図 29)

溝状の土坑である。調査区外に遺構が延び規模は不明。遺構覆土は褐色砂・砂礫・褐鉄を含む灰褐色土。遺物は破片でかわらけが出土している。

遺構 216 (図 29)

溝状の土坑である。調査区外に遺構が延び規模は不明となった。遺構覆土は泥岩粒・炭化物・褐鉄を含む褐色土。遺物は出土していない。

遺構 250 (図 29)

長円形を呈するピットである。遺構 133 を切る。遺構覆土は泥岩粒・褐鉄を含む茶褐色土。遺物は出土していない。

・表土・攪乱出土遺物(図 30)

1～60 はかわらけ。61 は青磁坏。62～63 は常滑甕。

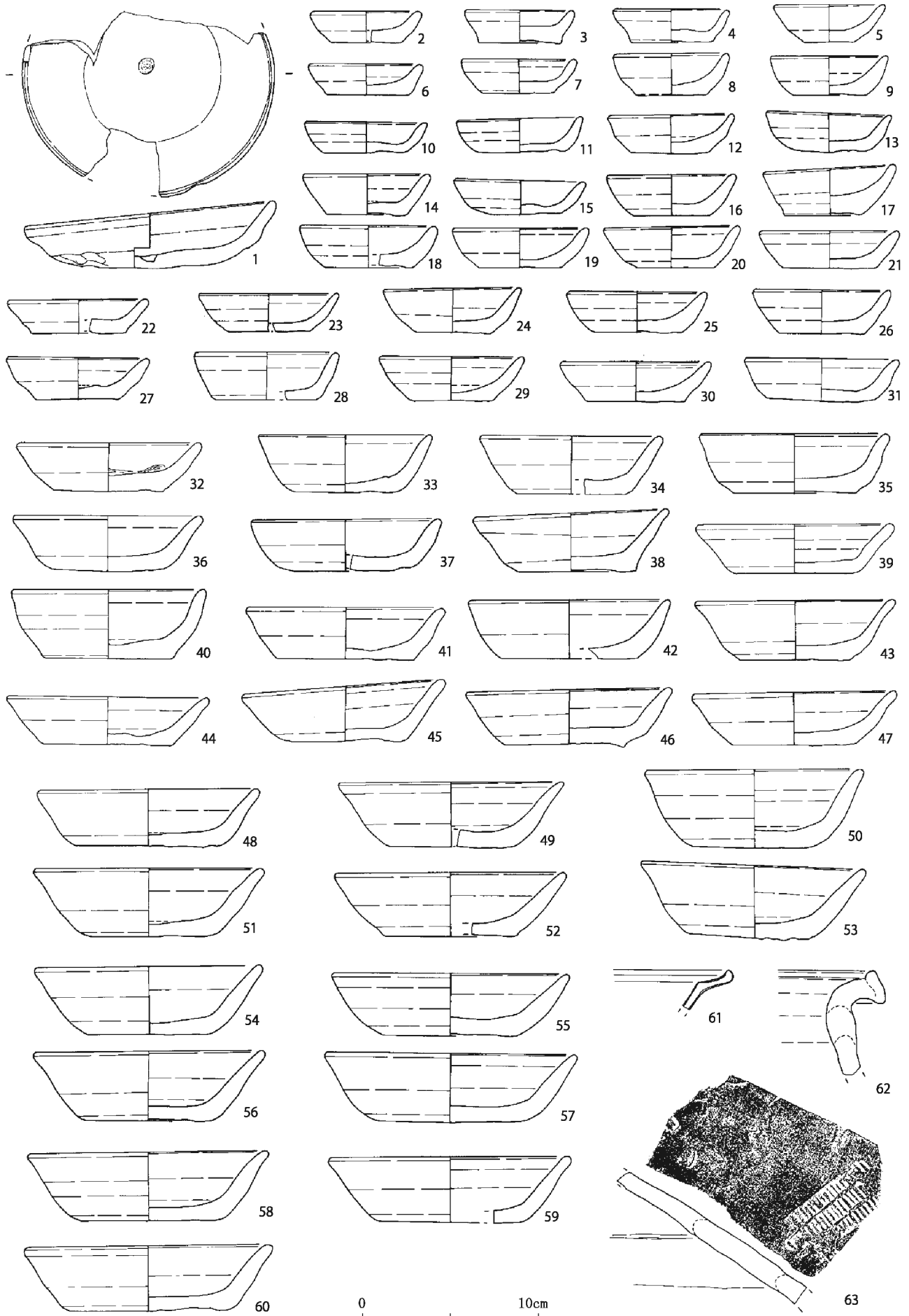


图 30 表土·搅乱出土遺物

第三章 まとめ

本調査地は神奈川県遺跡台帳に「公方屋敷 (No.268)」として包括される地域の東端に位置する。一帯は貞和五年 (1349) ~ 康正元年 (1455) の約 100 年間足利公方の屋敷跡と伝承されるが、屋敷地の正確な位置はこれまでの調査成果等からは裏付けられていない。調査地南側を東西に走る道路は六浦道と呼ばれ、武蔵国に通じる要路であった。調査地北東にある明王院は大きな力を有していたことが知られ、明王院の東側にあったとされる大慈寺は源実朝が君恩父徳に報いるために開創した寺で、広い寺域をもち美しく整備されていた様子が『吾妻鏡』に記されている。他にも、調査地一帯には廃寺を含む多くの仏閣と共に、有力御家人の屋敷があったことも知られ、調査地一帯は鎌倉幕府にとって重要な地域であった。以下、発見した遺構・遺物について簡単なまとめを行う。

第 1 節 検出した遺構と遺物

第 1 面は上層に堆積していた現代埋土を除去し、中世遺物包含層を確認した海拔高で遺構を発見しており、地業層からの遺構検出ではない。また、攪乱によって多くの遺構は壊されていた。a・b 両面で多くの遺構を検出したが、建物などを推定できるのピットは確認できず、検出した土坑からは 1/3 以上の残存率を有するかわらけを多く出土し、かわらけ廃棄土坑の様相を呈していた。

第 1a 面で発見した遺構 15 は、遺構プラン確認当初には上層に泥岩塊を多く含んだ大型の土坑の様相を呈していたため、地形の一環である可能性も考えて掘り進めたが、遺構壁がほぼ垂直に立ち上がり、底面が平坦であること等から堅穴建物の可能性もみえる。出土したかわらけは本文で報告した以外に破片を含め数量 (大 3142 点・小 344 点) を計数した (注 1)。前述したように報告外のかわらけには 1/3 以上の残存率を有する個体が多く含まれていたため、法量と器形の差異から大まかに分けてその傾向を示した。(図 31)。

発見したかわらけは大・中・小の他に、出土量は少ないが極小を加え 4 種の法量に分かれた。器形は、①底部厚く・器高が低く・器壁がやや内彎する形と、②底部厚く・器高が低く・器壁が外反する形、③底部厚く・器高が高く・器壁が内彎しながら立ち上がり口縁部は外反する形、④底部厚く・器高高く・器壁が外反する形があり、さらに⑤底部厚く・器高低く・器壁が外反する特徴は②と同様だがより大きな法量を呈する形があった(注 2)。極小の器形は②と④の器形に見られ、どちらも外反する器壁をもつ。遺構 15 の堆積土層 (図 6) を見ると、遺物の廃棄は一度に行われたわけではなく、複数回の廃棄であったと思われるが、時間軸による法量・器形の変化は不明である。

第 1b 面で検出した、遺構 27(大 922 点・小 14 点)・遺構 135(大 607 点・小 80 点)・遺構 156(大 2660 点・小 181 点)・遺構 157(大 1433 点・小 138 点)・遺構 158(大 1240 点・小 85 点)・遺構 159(大 303 点・小 74 点)・遺構 160(大 938 点・小 76 点)・遺構 161(大 380 点・小 69 点)・遺構 165(大 469 点・小 32 点)・遺構 166(大 2193 点・小 193 点)等の土坑もまとめてかわらけが出土し、かわらけ廃棄遺構の様相を呈していた。法量・器形の変化は遺構 15 と同様の傾向を示している。

第 2 面は I 区・II 区共に地業層上からの遺構発見であったが、I 区は上層の遺構に削平を受け発見した遺構は少なく、遺構出土遺物も僅かである。II 区は上層の大型土坑によって大きく削平を受けており、発見した遺構は僅かであったが、調査区南で発見した遺構 170・171 からはかわらけが多く出土し、かわらけ廃棄遺構の様相を呈していた。遺構 170 は第 1b 面で発見した遺構 166 下層になるが、遺構の立ち上がりは明確に異な

<極小>

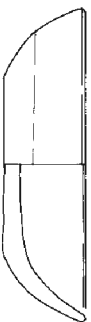
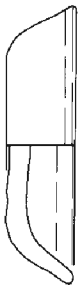
<小>

<中>

<大>

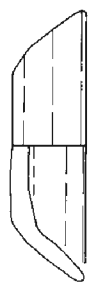
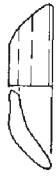
<第1面・遺構15>

①

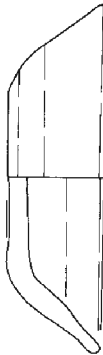


⑤

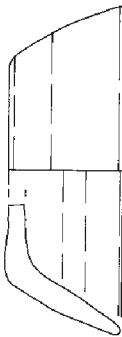
②



③



④



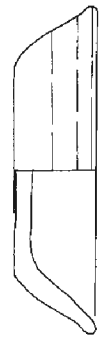
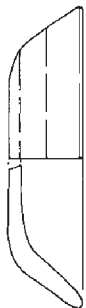
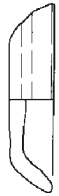
<第2面・遺構170・171>

①



⑤

②



③



④

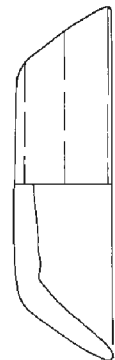


図 31 法量と器形の傾向

り別遺構と捉えた。遺構 170 から出土したかわらけは同一堆積層出土であるが、遺構が調査区外に延びているため一括廃棄遺物と捉えることはできない。遺構 171 は複数回の廃棄である。遺構 170・171 とともに極小と言われる法量の出土は破片を含め減少し、基本的に大・中・小の法量に分かれる傾向が見える。器形は遺構 15 同様に①～⑤までの器形に分かれたが、④に分けた器形は、第 1 面に比べて器高がやや低くなる傾向が見えた(図 31)。本文で報告したかわらけ以外に、破片を含めた総数は遺構 170 が(大 2546 点・小 287 点)。遺構 171 からは(大 773 点・小 89 点)を数えた。

第 3 面は I 区・II 区合わせて土坑 18 基、ピット 112 穴と、多くの遺構を地業層上で検出したが、第 1 面・第 2 面同様に建物址を推定することはできなかつた。また、遺構覆土から発見した遺物はいずれも小片であったため図化して報告できず、遺構プラン確認時、あるいは第 3 面の構成土から出土した遺物もかわらけの小片であった。

第 2 節 まとめ

本調査では 3 枚の生活面を検出したが、建物などを推察できる遺構の発見はなかつた。調査地は公方屋敷と伝承される地域の東端に位置し、仮に公方屋敷に関連する場であったとしても、屋敷地の外れに位置していたと思われる。調査地を特徴づける遺構として、遺構覆土内に完形に近いかわらけを多量に含む土坑を多く検出している。覆土内にはかわらけ以外の遺物も混入しているが、それぞれ小片の破片で、かつ 1 点・2 点といった少数であった。土坑は覆土の観察から、短期間ではあるが何度かに分けて廃絶(埋没)したことがわかる。

鎌倉市街地遺跡では平面、または土坑から、完形品、あるいはそれに近い形状を保ったかわらけが集中して出土する(廃棄される)「かわらけ溜まり」を検出する。このかわらけ溜まりは遺跡の性格(場所)を問わず発見され、供宴や儀式などで使用した際に、その 1 回限りで廃棄したと考えられている。本遺跡で発見した土坑も、他の遺物をほとんど含まず、多量にかわらけが出土している様子から、日常供膳具として使用した後廃棄したのではなく、大量に使用する儀式などで使用した後、一括して廃棄した「かわらけ廃棄土坑」と考えている。出土したかわらけの器形・法量にやや多様性があり、長期間開放された土坑であった可能性も考えたが、土坑内で出土層位が異なっても同様の器形・法量の展開をみるため、さほど長期間開放されていたとは思えない。本遺跡で発見した遺物の内、破片を含めたかわらけの出土総数が(大)22628 点で、総遺物出土量の 89.89%、(小)1929 点で総遺物出土量の 7.66%になり、大・小合わせて全体の 97.55%を占める。本調査で出土したかわらけの大半はこの「かわらけ廃棄土坑」からであり、それが総てであったともいえる。また、かわらけ出土総数の内、第 1 面ではかわらけ(大)が 69%・(小)70.8%、第 2 面ではかわらけ(大)が 16.9%・(小)22.3%、第 3 面ではかわらけ大が 0.2%・小が 0.05%を占め、発見したかわらけの半数以上が第 1 面から出土した。

鎌倉で出土するかわらけの編年作業は確実に立証されたとは言えない現状ではあるが、発見したかわらけの器形は、概ね 15 世紀代前葉から中葉に比定され、やや幅広い年代観が与えられる。かわらけと共に出土した遺物では、生産年代が明らかになっている瀬戸窯・常滑窯等の製品がある。出土量が少なく年代の指標とするにはやや不安が残るが、第 1 面の遺構からは 14 世紀代の常滑製品を含む、15 世紀前半から中葉の瀬戸製品が出土しており、第 1 面は 15 世紀中葉の年代を与えた。第 2 面からは、年代の指標となる他の遺物が無く、遺構 171 から瀬戸窯の折縁深皿・入れ子が出土しているが、底部片のため年代が不明であるため、第 1 面を遡るとして、15 世紀前半から中葉の年代を与えたい。第 3 面ではかわらけを含め、ほとんど出土遺物が無く遺物から年代を比定することが難しいため、暫定的に 14 世紀後半から 15 世紀前葉の年代を与えた。また、出

土したかわらけには口唇部を打ち搔いていると思われる製品を多く認めたが、確実に人為的(故意に)に打ち搔いていると思うものだけを報告している。打ち搔くという行為に、何らかの儀礼的な意味があったのかもしれない。

最後に、法量・器形を分けたかわらけは、調査段階において層位を分けて採集を試みたつもりではあるが、狭小な範囲の調査区では遺構全体の様相を解明することができず、遺構内からの一括出土遺物としては捉えることができなかつたためと、出土したかわらけを細分して分類することができず、「傾向」として提示するに留まったことをお詫びしたい。また、破片のために不確かではあるが、第2面構成土から瀬戸窯大窯I期(15世紀後半)の可能性がある鉢の破片が出土しており、全体に年代が下る可能性もあることを懸念材料として記しておきたい。

<注>

(注1)

・出土したかわらけの破片数を数える際、法量の違いを判別することができない小片も混入しているため、大・中・小あるいは、大・中・小・極小と細かく法量を分けることが難しく、小・極小と考える大きさはまとめて小に。中・大と考える大きさはまとめて大として数えている。

(注2)

・かわらけを器形ごとに並べると、法量がまばらになり図版上で統一がとれないので、原則として口径数値の小さいものから順に並べて報告している。

<参考資料>

- ・『日本歴史大系 14 巻』 「神奈川県地名」 平凡社 1984 年
- ・『鎌倉市史 総説編』 高柳光寿 吉川弘文館 1959 年
- ・『鎌倉市史 考古編』 赤星直忠 吉川弘文館 1967 年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成 4 年 白井永二
- ・『中世瀬戸窯の研究』 高志書院 藤澤良祐 2008 年
- ・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』 愛知県 常滑・中野晴久 2012 年
- ・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』 愛知県 渥美・安井俊則 2012 年
- ・『大宰府条坊跡 XV－陶磁器分類編一』 太宰府市教育委員会 2000 年
- ・「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢 神奈川第 2 集』 神奈川考古学会 1993 年

遺構計測表

面	遺構名	長軸	短軸	深度	面	遺構名	長軸	短軸	深度
1b	遺構1	(40.0)	43.0	13.0	2	遺構59	40.0	34.0	12.0
1b	遺構2	51.0	33.0	11.0	2	遺構60	61.0	(31.0)	31.0
1b	遺構3	41.0	36.0	20.0	2	遺構61	62.0	(44.0)	30.0
1b	遺構4	43.0	24.0	11.0	2	遺構62	48.0	42.0	23.0
1b	遺構5	26.0	22.0	7.0	2	遺構63	43.0	(25.0)	14.0
1b	遺構6	27.0	26.0	10.0	2	遺構64	33.0	27.0	20.0
1b	遺構7	35.0	32.0	10.0	2	遺構65	37.0	25.0	16.0
1b	遺構8	(33.0)	(17.0)	3.0	欠番	遺構66			
1b	遺構9	(95.0)	(30.0)	7.0	1b	遺構67	(164.0)	36.0	34.0
1b	遺構10	(150.0)	(22.0)	27.0	3	遺構68	(87.0)	(23.0)	27.0
1b	遺構11	20.0	(15.0)	8.0	3	遺構69	43.0	33.0	21.0
1b	遺構12	25.0	24.0	17.0	3	遺構70	41.0	(20.0)	8.0
欠番	遺構13				3	遺構71	18.0	17.0	5.0
1b	遺構14	24.0	23.0	14.0	3	遺構72	33.0	28.0	12.0
1a	遺構15	(394.0)	(334.0)	104.0	3	遺構73	40.0	(19.0)	8.0
1b	遺構16	21.0	20.0	6.0	欠番	遺構74			
1b	遺構17	22.0	(13.0)	5.0	3	遺構75	(36.0)	(31.0)	24.0
1b	遺構18	(17.0)	23.0	9.0	3	遺構76	35.0	(16.0)	19.0
1b	遺構19	(21.0)	29.0	9.0	3	遺構77	29.0	24.0	15.0
1b	遺構20	47.0	30.0	7.0	3	遺構78	31.0	25.0	14.0
1b	遺構21	43.0	42.0	28.0	3	遺構79	40.0	35.0	20.0
1b	遺構22	(319.0)	64.0	19.0	3	遺構80	17.0	15.0	11.0
1b	遺構23	34.0	33.0	16.0	3	遺構81	27.0	(23.0)	12.0
1b	遺構24	(40.0)	43.0	20.0	3	遺構82	26.0	26.0	14.0
1a	遺構25	(443.0)	(402.0)	36.0	3	遺構83	18.0	14.0	10.0
1b	遺構26	40.0	(22.0)	10.0	3	遺構84	25.0	23.0	10.0
1b	遺構27	(206.0)	(135.0)	86.0	3	遺構85	18.0	14.0	10.0
1b	遺構28	180.0	102.0	77.0	3	遺構86	34.0	33.0	9.0
1b	遺構29	72.0	(35.0)	28.0	3	遺構87	96.0	68.0	15.0
1b	遺構30	70.0	38.0	24.0	3	遺構88	26.0	(16.0)	13.0
1b	遺構31	103.0	(50.0)	24.0	3	遺構89	29.0	26.0	14.0
1b	遺構32	27.0	24.0	37.0	3	遺構90	29.0	(20.0)	9.0
1b	遺構33	(59.0)	(42.0)	—	3	遺構91	54.0	(37.0)	9.0
1b	遺構34	(62.0)	(21.0)	32.0	3	遺構92	36.0	30.0	18.0
1b	遺構35	(337.0)	(104.0)	30.0	3	遺構93	(19.0)	18.0	—
1b	遺構36	36.0	(26.0)	18.0	3	遺構94	26.0	18.0	8.0
1b	遺構37	33.0	(24.0)	12.0	3	遺構95	33.0	26.0	11.0
2	遺構38	49.0	(37.0)	17.0	3	遺構96	(37.0)	33.0	8.0
2	遺構39	39.0	(24.0)	32.0		遺構97	36.0	32.0	20.0
2	遺構40	(32.0)	34.0	18.0	3	遺構98	(125.0)	(85.0)	11.0
2	遺構41	33.0	30.0	14.0	3	遺構99	(90.0)	104.0	17.0
2	遺構42	26.0	24.0	15.0	3	遺構100	24.0	20.0	9.0
2	遺構43	69.0	34.0	11.0	3	遺構101	44.0	39.0	17.0
2	遺構44	110.0	(56.0)	20.0	3	遺構102	37.0	(18.0)	16.0
2	遺構45	32.0	26.0	17.0	3	遺構103	24.0	24.0	11.0
2	遺構46	54.0	23.0	17.0	3	遺構104	35.0	28.0	14.0
2	遺構47	196.0	69.0	27.0	欠番	遺構105			
2	遺構48	27.0	27.0	21.0	3	遺構106	25.0	(18.0)	11.0
2	遺構49	37.0	34.0	24.0	3	遺構107	(216.0)	(89.0)	13.0
2	遺構50	50.0	49.0	13.0	3	遺構108	20.0	(18.0)	6.0
2	遺構51	79.0	(37.0)	20.0	3	遺構109	26.0	23.0	—
2	遺構52	(110.0)	88.0	27.0	3	遺構110	30.0	25.0	16.0
2	遺構53	23.0	(14.0)	32.0	3	遺構111	26.0	25.0	9.0
2	遺構54	(33.0)	33.0	12.0	3	遺構112	28.0	14.0	15.0
2	遺構55	(22.0)	25.0	10.0	欠番	遺構113			
2	遺構56	24.0	23.0	35.0	欠番	遺構114			
2	遺構57	36.0	31.0	21.0	3	遺構115	(24.0)	36.0	12.0

単位 (Cm)

遺構計測表

面	遺構名	長軸	短軸	深度	面	遺構名	長軸	短軸	深度
2	遺構58	24.0	(16.0)	18.0	3	遺構116	(32.0)	(14.0)	6.0
3	遺構117	39.0	29.0	14.0	2	遺構175	45.0	(39.0)	5.0
3	遺構118	50.0	34.0	17.0	欠番	遺構176			
3	遺構119	51.0	38.0	—	3	遺構177	(150.0)	44.0	24.0
3	遺構120	(36.0)	(14.0)	11.0	3	遺構178	34.0	23.0	4.0
3	遺構121	50.0	44.0	—	3	遺構179	10.0	9.0	—
3	遺構122	43.0	(23.0)	—	3	遺構180	12.0	12.0	5.0
欠番	遺構123				3	遺構181	9.0	8.0	2.0
3	遺構124	(60.0)	(46.0)	24.0	3	遺構182	11.0	10.0	3.0
3	遺構125	29.0	(24.0)	20.0	3	遺構183	10.0	10.0	9.0
3	遺構126	28.0	23.0	18.0	3	遺構184	9.0	8.0	5.0
3	遺構127	100.0	39.0	24.0	3	遺構185	10.0	10.0	5.0
3	遺構128	42.0	(25.0)	18.0	3	遺構186	11.0	9.0	2.0
3	遺構129	37.0	29.0	10.0	3	遺構187	16.0	16.0	6.0
3	遺構130	48.0	37.0	28.0	3	遺構188	(10.0)	10.0	2.0
3	遺構131	28.0	24.0	7.0	3	遺構189	(23.0)	(9.0)	2.0
2	遺構132	(234.0)	(108.0)	30.0	3	遺構190	50.0	38.0	7.0
3	遺構133	(50.0)	(38.0)	21.0	3	遺構191	(98.0)	(86.0)	13.0
欠番	遺構134				3	遺構192	(20.0)	21.0	11.0
欠番	遺構135				3	遺構193	15.0	14.0	11.0
欠番	遺構136				3	遺構194	9.0	9.0	5.0
欠番	遺構137				3	遺構195	14.0	13.0	13.0
欠番	遺構138				3	遺構196	6.0	6.0	3.0
1a	遺構139	(105.0)	(68.0)	19.0	3	遺構197	(24.0)	(15.0)	9.0
1a	遺構140	(250.0)	(56.0)	14.0	3	遺構198	14.0	13.0	6.0
1a	遺構141	48.0	39.0	29.0	3	遺構199	10.0	9.0	6.0
1a	遺構142	(69.0)	(50.0)	16.0	3	遺構200	13.0	11.0	5.0
1a	遺構143	15.0	14.0	11.0	3	遺構201	11.0	8.0	3.0
1a	遺構144	21.0	21.0	7.0	欠番	遺構202			
1a	遺構145	24.0	18.0	10.0	3	遺構203	(75.0)	(29.0)	11.0
欠番	遺構146				欠番	遺構204			
1a	遺構147	(56.0)	(12.0)	8.0	欠番	遺構205	23.0	(21.0)	12.0
1a	遺構148	19.0	(13.0)	15.0	3	遺構206	(35.0)	(34.0)	5.0
1a	遺構149	(62.0)	(46.0)	25.0	3	遺構207	27.0	18.0	11.0
1a	遺構150	(84.0)	(36.0)	18.0	3	遺構208	19.0	19.0	9.0
1a	遺構151	22.0	22.0	18.0	3	遺構209	22.0	(15.0)	7.0
1a	遺構152	27.0	25.0	13.0	3	遺構210	35.0	33.0	8.0
1b	遺構153	21.0	15.0	7.0	3	遺構211	(24.0)	14.0	7.0
1b	遺構154	23.0	19.0	6.0	3	遺構212	20.0	19.0	17.0
1b	遺構155	32.0	22.0	25.0	3	遺構213	11.0	10.0	11.0
1b	遺構156	(232.0)	(206.0)	41.0	3	遺構214	25.0	24.0	14.0
1b	遺構157	158.0	124.0	46.0	3	遺構215	62.0	49.0	20.0
1b	遺構158	157.0	116.0	37.0	3	遺構216	(74.0)	47.0	16.0
1b	遺構159	(164.0)	(76.0)	30.0	欠番	遺構217			
1b	遺構160	(247.0)	(123.0)	13.0	1b	遺構218	(38.0)	36.0	15.0
1b	遺構161	(115.0)	(65.0)	28.0	1b	遺構219	60.0	58.0	10.0
1b	遺構162	31.0	25.0	17.0	1b	遺構220	34.0	(18.0)	17.0
1b	遺構163	21.0	20.0	11.0	1a	遺構221	19.0	18.0	7.0
1b	遺構164	54.0	42.0	22.0	1a	遺構222	22.0	21.0	15.0
1b	遺構165	(114.0)	(45.0)	—	1a	遺構223	10.0	8.0	8.0
1b	遺構166	(270.0)	(157.0)	25.0	1b	遺構224	15.0	15.0	13.0
欠番	遺構167					遺構225	74.0	65.0	11.0
2	遺構168	(262.0)	(200.0)	31.0	2	遺構226	33.0	(23.0)	11.0
2	遺構169	(172.0)	(43.0)	32.0	2	遺構227	27.0	23.0	24.0
2	遺構170	(215.0)	(112.0)	79.0	2	遺構228	(32.0)	19.0	14.0
欠番	遺構171				2	遺構229	(15.0)	17.0	15.0
2	遺構172	65.0	(56.0)	22.0	2	遺構230	28.0	(23.0)	5.0

単位 (Cm)

遺構計測表

2	遺構173	17.0	15.0	11.0	3	遺構231	(127.0)	(35.0)	30.0
2	遺構174	(106.0)	55.0	13.0	3	遺構232	(40.0)	(27.0)	18.0
面	遺構名	長軸	短軸	深度	面	遺構名	長軸	短軸	深度
3	遺構233	(21.0)	(15.0)	12.0	3	遺構252	(42.0)	(15.0)	46.0
3	遺構234	24.0	(17.0)	9.0	3	遺構253	48.0	(19.0)	29.0
3	遺構235	35.0	(22.0)	4.0	3	遺構254	22.0	20.0	8.0
3	遺構236	(22.0)	21.0	6.0	3	遺構255	15.0	14.0	6.0
3	遺構237	23.0	22.0	6.0	3	遺構256	13.0	13.0	11.0
3	遺構238	(24.0)	(17.0)	9.0	3	遺構257	16.0	9.0	4.0
3	遺構239	38.0	18.0	7.0	3	遺構258	11.0	6.0	4.0
3	遺構240	18.0	(14.0)	3.0	3	遺構259	25.0	24.0	10.0
3	遺構241	(22.0)	(17.0)	7.0	3	遺構260	36.0	22.0	10.0
3	遺構242	17.0	16.0	11.0	3	遺構261	(55.0)	34.0	16.0
3	遺構243	(40.0)	(16.0)	28.0	3	遺構262	9.0	9.0	5.0
3	遺構244	(77.0)	(70.0)	6.0	3	遺構263	(61.0)	(48.0)	15.0
3	遺構245	15.0	(13.0)	4.0	3	遺構264	14.0	(6.0)	7.0
3	遺構246	17.0	16.0	4.0	欠番	遺構265			
3	遺構247	19.0	18.0	7.0	欠番	遺構266			
3	遺構248	(61.0)	(51.0)	15.0	1a	遺構267	33.0	25.0	15.0
3	遺構249	23.0	23.0	6.0					
3	遺構250	37.0	(35.0)	29.0					
3	遺構251	(26.0)	(18.0)	15.0					

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ () = 復元値 [] = 残存値	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
7	1	1a	遺構15 上層	かわらけ	6.1	4.1	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	2	1a	遺構15 上層	かわらけ	(6.4)	(4.5)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f4/5
7	3	1a	遺構15 上層	かわらけ	6.5	4.0	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
7	4	1a	遺構15 上層	かわらけ	6.8	3.7	2.5	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:完形 g:内面黒色に変色・外面口唇部辺黒色に変色
7	5	1a	遺構15 上層	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
7	6	1a	遺構15 上層	かわらけ	7.0	3.5	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	7	1a	遺構15 上層	かわらけ	(7.2)	(4.2)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
7	8	1a	遺構15 上層	かわらけ	(7.6)	(4.4)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
7	9	1a	遺構15 上層	かわらけ	(8.1)	(5.0)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
7	10	1a	遺構15 上層	かわらけ	(8.4)	(5.4)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/4
7	11	1a	遺構15 上層	かわらけ	10.5	6.0	3.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部一部平らに擦ったような痕跡あり
7	12	1a	遺構15 上層	かわらけ	(11.4)	(6.0)	3.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f2/3 g:内面摩耗
7	13	1a	遺構15 上層	かわらけ	(11.5)	6.8	3.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f2/3
7	14	1a	遺構15 上層	かわらけ	(11.5)	(7.0)	3.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f4/5 g:内底見込み黒色に変色
7	15	1a	遺構15 上層	かわらけ	(11.1)	(6.5)	3.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
7	16	1a	遺構15	かわらけ	11.7	6.3	3.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f4/5
7	17	1a	遺構15 上層	かわらけ	(11.7)	(7.4)	3.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
7	18	1a	遺構15 上層	かわらけ	(12.0)	(7.7)	3.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/2
7	19	1a	遺構15 上層	かわらけ	12.7	6.8	3.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	20	1a	遺構15 上層	かわらけ	(13.0)	(8.4)	3.9	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/3
7	21	1a	遺構15 上層	かわらけ	(13.2)	(8.9)	3.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/3
7	22	1a	遺構15 上層	かわらけ	(13.7)	(7.5)	3.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/3
7	23	1a	遺構15 上層	瀬戸 線粒小皿	—	—	—	a:口ロ b:微砂・白色粒 良土 c:灰白色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:後期IV期
7	24	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.0)	(4.2)	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/2
7	25	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.3)	(3.3)	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/3
7	26	1a	遺構15 下層	かわらけ	6.3	4.1	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
7	27	1a	遺構15 下層	かわらけ	6.1	4.5	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・底部粘土板貼付け成形・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f3/4
7	28	1a	遺構15 下層	かわらけ	6.3	5.2	1.9	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
7	29	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.6)	(4.4)	2.5	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒・小石粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f1/2
7	30	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.6)	(4.1)	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/3 g:器形の歪み大
7	31	1a	遺構15 下層	かわらけ	6.7	4.2	2.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f3/4
7	32	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.7)	(4.6)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/3
7	33	1a	遺構15 下層	かわらけ	6.8	4.9	1.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
7	34	1a	遺構15 下層	かわらけ	(6.8)	(4.2)	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3 g:全体的に器肌摩耗
7	35	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.0)	(4.8)	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f1/2
7	36	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.0	4.0	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
7	37	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.1	4.1	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
7	38	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.1	4.4	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:完形
7	39	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.2	5.2	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
7	40	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.2)	(4.2)	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f1/4 g:全体的に器肌摩耗
7	41	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.3)	(5.0)	1.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/4
7	42	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.3	4.1	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄橙色 e:良好 f4/5
7	43	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.3	5.1	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f4/5
7	44	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.3	4.3	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
7	45	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.3)	(4.4)	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f3/4
7	46	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.2)	(4.9)	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・底部摩耗して回転糸切不明瞭・内底ナデ不明 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f1/2 g:全体的に器肌摩耗
7	47	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.2)	(5.8)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f3/4
7	48	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f2/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:粘葉 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
7	49	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.4	4.7	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f3/4
7	50	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.4	5.4	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
7	51	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.4	5.0	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや良土 c:褐色 e:良好 fほぼ完形 g:器形の歪み大
7	52	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.5)	(4.9)	1.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	53	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.5)	(4.9)	1.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
7	54	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.5	5.0	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
7	55	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.5)	(5.8)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・外側面下部指頭による整形痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4
7	56	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.5)	(4.2)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	57	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.5)	(4.6)	2.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	58	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.6	4.7	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f2/3 g:口唇部歪み大
7	59	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.6	5.1	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f2/3 g:口唇部一部に油煤痕 内底被熱を受け器肌が爆れている
7	60	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.7)	(4.5)	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
7	61	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.7)	(4.8)	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
7	62	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.6	5.1	2.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
7	63	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.6	5.4	2.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:黄褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
7	64	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.6)	(3.9)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f1/4
7	65	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.6)	(4.2)	2.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f1/4
7	66	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.7	4.6	2.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
7	67	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.7)	(4.4)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	68	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.8	5.4	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 fほぼ完形
7	69	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.8	5.8	2.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f2/3
7	70	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.8)	(4.4)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f1/3
7	71	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.9	5.7	1.7	a:口ロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4
7	72	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.9)	(5.0)	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	73	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.9)	(5.1)	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
7	74	1a	遺構15 下層	かわらけ	7.9	4.5	1.8	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ(拓本あり) b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f完形
7	75	1a	遺構15 下層	かわらけ	(7.9)	(5.0)	2.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f2/3
7	76	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.0)	(4.6)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2 g:口唇部油煤痕
7	77	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.1)	(5.4)	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
7	78	1a	遺構15 下層	かわらけ	8.2	5.4	2.3	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
7	79	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.2)	(5.6)	2.4	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4
7	80	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.3)	(4.7)	2.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
7	81	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.7)	(6.4)	1.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
7	82	1a	遺構15 下層	かわらけ	(8.1)	(4.4)	2.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
8	83	1a	遺構15 下層	かわらけ	9.4	4.5	3.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5
8	84	1a	遺構15 下層	かわらけ	(10.1)	(6.5)	3.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
8	85	1a	遺構15 下層	かわらけ	(10.4)	(5.6)	2.9	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4
8	86	1a	遺構15 下層	かわらけ	10.5	6.8	2.7	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
8	87	1a	遺構15 下層	かわらけ	(10.6)	(6.4)	3.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f3/4
8	88	1a	遺構15 下層	かわらけ	10.7	5.5	3.6	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 fほぼ完形
8	89	1a	遺構15 下層	かわらけ	(10.8)	(6.7)	3.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
8	90	1a	遺構15 下層	かわらけ	10.9	6.4	3.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 fほぼ完形
8	91	1a	遺構15 下層	かわらけ	(10.9)	(6.3)	3.5	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
8	92	1a	遺構15 下層	かわらけ	11.1	6.4	3.1	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f完形 g:内面黒色に変色
8	93	1a	遺構15 下層	かわらけ	(11.1)	(6.1)	3.2	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
8	94	1a	遺構15 下層	かわらけ	11.3	6.6	3.0	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f4/5
8	95	1a	遺構15 下層	かわらけ	(11.5)	(8.0)	2.9	a:口ロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや良土 c:褐色 e:良好 f4/5
8	96	1a	遺構15 下層	かわらけ	(11.5)	(7.2)	3.1	a:口ロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4 g:内面薄く黒色に変色

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
					()=復元値 []=残存値			
8	97	1a	遺構15 下層	かわらけ	(11.5)	(7.0)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
8	98	1a	遺構15 下層	かわらけ	(11.6)	(6.8)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
8	99	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.0)	(7.2)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
8	100	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.0	7.1	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
8	101	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.1	7.0	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:内面全体と口唇部外面一部が薄く黒色に変色
8	102	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.2)	(7.7)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 良土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
8	103	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.2)	(6.5)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
8	104	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.5)	(7.4)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
8	105	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.6	6.9	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
8	106	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.6	7.7	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大 口唇部注口状に整形か
8	107	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.7)	(8.1)	4.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
8	108	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.7	6.8	4.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
8	109	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.7)	(6.5)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
8	110	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.8)	(6.6)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4
8	111	1a	遺構15 下層	かわらけ	(12.8)	(7.0)	4.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
8	112	1a	遺構15 下層	かわらけ	12.9	7.5	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
8	113	1a	遺構15 下層	かわらけ	(13.1)	(8.3)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
8	114	1a	遺構15 下層	かわらけ	(13.1)	(8.7)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
8	115	1a	遺構15 下層	かわらけ	(13.1)	(7.0)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
8	116	1a	遺構15 下層	かわらけ	(13.2)	(7.1)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
8	117	1a	遺構15 下層	かわらけ	13.2	7.0	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
8	118	1a	遺構15 下層	かわらけ	(13.3)	(6.9)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
8	119	1a	遺構15 下層	かわらけ	13.3	6.8	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
8	120	1a	遺構15 下層	青磁皿	—	—	—	a:口クロ b:黒色粒・精良堅緻 c:灰色 d:淡青色 e:良好 f:口縁部片 g:内外面無文・外面段状に整形痕有り・口唇部一部に鉄片付着 龍泉窯
8	121	1a	遺構15 下層	青磁碗	—	—	—	a:口クロ b:精良堅緻 c:灰色 d:灰緑色・気泡 e:良好 f:口縁部片 g:内面無文・外面鎮蓮弁文・大宰府碗Ⅲ類 龍泉窯
8	122	1a	遺構15 下層	青磁坏	(8.5)	(4.6)	3.4	a:口クロ b:灰白色 精良堅緻 d:淡青色 e:良好 f:1/5 g:内外面無文 高台底部無釉
8	123	1a	遺構15 下層	瀬戸折縁皿	—	5.5	—	a:口クロ・外底回転糸切 b:微砂・白色粒・黒色粒 c:灰黄色 d:灰緑色・漬け掛け e:良好 f:底部片 g:中期Ⅳ期
8	124	1a	遺構15 下層	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a:輪積み・内面摩耗 b:微砂・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰白色 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:5型式
8	125	1a	遺構15 下層	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み・外面下部指頭による整形痕・内面摩耗 b:微砂・白色粒・黒色粒 c:暗灰褐色 d:赤褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
8	126	1a	遺構15 下層	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a:輪積み・内面摩耗 b:微砂・雲母・白色粒・黒色粒・小石粒 c:暗灰褐色 d:暗褐色 e:良好 f:口縁部片 g:8型式・外面器壁剝離
8	127	1a	遺構15 下層	常滑片口鉢Ⅱ類	—	13.4	—	a:輪積み・外底部離れ砂付着・外面指頭による整形痕・内面摩耗 b:微砂・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰褐色 d:灰褐色 e:良好 f:底部片 g:内面円形の押印有り・窯印か
8	128	1a	遺構15 下層	常滑壺	—	—	[5.2]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:赤褐色 d:赤褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
8	129	1a	遺構15 下層	常滑壺	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:灰褐色 d:暗灰色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式
9	130	1a	遺構15 下層	瓦器質黒縁皿	—	—	[3.0]	a:口クロ・口縁部のみ黒色処理 b:微砂・硬質 c:灰白色 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:産地不明・備前産か・13世紀代
9	131	1a	遺構15 下層	産地不明花瓶	—	—	—	a:口クロ b:微砂・陶器質軟土 c:灰色 d:灰白色 e:良好 f:胴部片 g:内面不透明な乳白色の釉・外面掻き落しにも見える灰色と白の縞模様
9	132	1a	遺構15 下層	瓦器質火鉢	(30.8)	(29.2)	[7.6]	a:輪積み・口縁部輪花型・外底離れ砂付着・内外面横位の磨き・口唇部横位の磨き・脚部貼付け b:微砂・雲母・白色粒・黒色粒 c:灰白色 d:器表は黒色処理 e:良好 f:1/5 g:浅型
9	133	1a	遺構15	瓦器質火鉢	(49.4)	(42.0)	16.3	a:輪積み・口縁部輪花型・15弁の菊花スタンプを胴上部に押印・外底部離れ砂付着・内面上部横位の整形痕・口唇部横位の磨き・器表縦位の磨きあり・脚部貼付け b:微砂・雲母・白色粒・小石粒 c:赤褐色 d:器表は黒色処理・縦位の磨きあり e:良好 f:1/3 g:烏帽子破片が付着していたⅢ類
9	134	1a	遺構15	瓦器質火鉢	(40.2)	(33.4)	15.2	a:輪積み・口縁部輪花型・17弁の菊花スタンプを2個1単位で胴上部に押印・外底離れ砂付着・内外面縦位の磨き・口唇部横位の磨き・脚部貼付け b:微砂・雲母・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰褐色 d:器表は黒色処理 e:良好 f:3/5 g:Ⅲ類
9	135	1a	遺構15 下層	瓦平瓦	[10.2]	[10.6]	1.9	a:凹面—糸切痕・離れ砂付着・縦横にナデ整形痕 凸面—叩き目不明・丁寧な整形 側縁—ヘラケズリで面取りの後、側縁端を丸く仕上げる b:砂粒・黒色粒 c:灰白色 d:灰白色 e:良好
9	136	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.43	内径2.04	孔径0.57	g:厚さ0.12cm・重さ3.3g・天聖元寶・行書・初鑄年—北宋1023年
9	137	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.43	内径2.04	孔径0.62	g:厚さ0.11・重さ3.1g・天聖元寶・篆書・初鑄年—北宋1023年
9	138	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.47	内径2.03	孔径0.65	g:厚さ0.11cm・重さ2.7g・天聖元寶・篆書・初鑄年—北宋1023年
9	139	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.46	内径1.96	孔径0.72	g:厚さ0.09cm・重さ2.5g・皇祐通寶・篆書・初鑄年—北宋1038年
9	140	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.40	内径1.91	孔径0.64	g:厚さ0.12cm・重さ3.3g・元祐通寶・行書・初鑄年—北宋1086年
9	141	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.43	内径1.94	孔径0.68	g:厚さ0.13・重さ3.3g・元祐通寶・篆書・初鑄年—北宋1086年
9	142	1a	遺構15 下層	金属製品銭貨	外径2.04	内径1.57	孔径0.51	g:厚さ0.22・重さ3.3g・洪武通寶・真書・初鑄年—明1365年・銭周圍を擦って小さくしている(磨り銭)
9	143	1a	遺構15 下層	金属製品釘	5.5	0.6	0.4	g:断面方形

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
9	144	1a	遺構15下層	金属製品 釘	8.6	0.7	0.3	g:断面方形
9	145	1a	遺構15下層	金属製品 釘	[9.05]	0.6	0.6	g:断面方形
9	146	1a	遺構15下層	金属製品 釘	5.1	0.5	0.3	g:断面方形
9	147	1a	遺構15下層	金属製品 釘	[8.0]	0.5	0.4	g:断面方形
10	148	1a	遺構15	金属製品 用途不明	[23.3]	[1.6~2.4]	[1.0~2.2]	g:金属(鉄)製部分と木製部分にわかれ、木製部分が金属製部分に入り込む。木製部分両端部は丁寧な円錐形に整形されている。金属製部分は錆が付着し原型は不明であるが、円形に整形されている。木製部分—長さ[14.3]・幅[2.4]・厚さ[2.2]cm 金属製部分—長さ[14.3]・幅[1.6]・厚さ[1.0]cm 錫杖か
10	149	1a	遺構15下層	石製品 硯	[13.2]	[6.1]	[1.8]	g:真岩・表裏面ともに、破損後に再利用を試みた痕跡あり・加工途中か
10	150	1a	遺構15下層	石製品 砥石	[9.5]	0.9~2.5	2.7	c:灰褐色 g:側面に孔を穿つ・紐を通して携帯したか・手持ちの砥石・上野産・中砥
10	151	1a	遺構15下層	石製品 砥石	[7.1]	3.3	0.7	c:淡緑色 g:鳴滝産・仕上げ・側面切り出し痕・砥面-1面
11	1	1a	遺構141	かわらけ	(7.4)	(6.0)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
11	2	1a	遺構141	かわらけ	(7.3)	(5.0)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
11	3	1a	遺構141	かわらけ	(10.5)	(6.3)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
11	4	1a	遺構141	かわらけ	(10.2)	(6.0)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
11	5	1a	遺構142	かわらけ	(7.9)	(5.6)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
11	6	1a	遺構142	かわらけ	(11.7)	(6.8)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
11	7	1a	遺構142	かわらけ	(13.2)	(8.4)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
11	8	1a	遺構142	かわらけ	(13.4)	(8.1)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
11	9	1a	遺構148	かわらけ	(7.8)	(4.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
11	10	1a	遺構149	かわらけ	(6.3)	(3.9)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
11	11	1a	遺構149	かわらけ	7.0	5.1	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
11	12	1a	遺構149	かわらけ	(7.7)	(5.5)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
11	13	1a	遺構149	かわらけ	11.0	6.2	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
11	14	1a	遺構150	かわらけ	(13.8)	(7.6)	4.0	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
11	15	1a	遺構150	かわらけ	(6.4)	(3.6)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	1	1b	遺構156	かわらけ	6.8	3.8	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
12	2	1b	遺構156	かわらけ	(7.1)	(4.8)	1.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	3	1b	遺構156	かわらけ	8.0	5.6	1.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
12	4	1b	遺構156	かわらけ	(6.4)	(3.8)	1.9	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	5	1b	遺構156	かわらけ	(6.5)	(4.0)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
12	6	1b	遺構156	かわらけ	(6.5)	(4.2)	2.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	7	1b	遺構156	かわらけ	(6.8)	(4.6)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
12	8	1b	遺構156	かわらけ	7.0	4.8	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
12	9	1b	遺構156	かわらけ	(7.1)	(5.1)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
12	10	1b	遺構156	かわらけ	7.2	5.3	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
12	11	1b	遺構156	かわらけ	7.4	5.7	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
12	12	1b	遺構156	かわらけ	7.4	5.0	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
12	13	1b	遺構156	かわらけ	(7.5)	(5.2)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
12	14	1b	遺構156	かわらけ	7.5	5.5	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
12	15	1b	遺構156	かわらけ	7.5	5.6	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
12	16	1b	遺構156	かわらけ	7.5	4.5	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	17	1b	遺構156	かわらけ	(7.6)	(4.7)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
12	18	1b	遺構156	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
12	19	1b	遺構156	かわらけ	(7.7)	(4.0)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
12	20	1b	遺構156	かわらけ	(7.7)	(5.0)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
12	21	1b	遺構156	かわらけ	7.8	5.3	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
12	22	1b	遺構156	かわらけ	7.8	5.1	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
12	23	1b	遺構156	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
12	24	1b	遺構156	かわらけ	(8.0)	(4.6)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
12	25	1b	遺構156	かわらけ	8.2	5.2	2.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2 g:器形の歪み大
12	26	1b	遺構156	かわらけ	(8.3)	(4.9)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
12	27	1b	遺構156	かわらけ	10.2	7.5	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
12	28	1b	遺構156	かわらけ	10.6	6.0	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
12	29	1b	遺構156	かわらけ	11.0	6.4	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
12	30	1b	遺構156	かわらけ	11.0	6.6	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
12	31	1b	遺構156	かわらけ	11.7	7.6	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
12	32	1b	遺構156	かわらけ	12.3	7.6	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
12	33	1b	遺構156	かわらけ	12.5	7.3	4.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
12	34	1b	遺構156	かわらけ	(12.6)	(7.6)	4.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
12	35	1b	遺構156	かわらけ	(12.9)	(7.2)	3.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
12	36	1b	遺構156	かわらけ	(13.0)	(7.4)	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
12	37	1b	遺構156	かわらけ	13.0	7.0	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
12	38	1b	遺構156	かわらけ	13.0	7.2	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
12	39	1b	遺構156	かわらけ	(13.1)	(7.3)	(4.0)	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
12	40	1b	遺構156	かわらけ	13.1	7.9	4.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
12	41	1b	遺構156	かわらけ	(13.3)	(8.2)	4.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
12	42	1b	遺構156	かわらけ	(13.5)	(7.3)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
12	43	1b	遺構156	かわらけ	(14.5)	(8.9)	4.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
12	44	1b	遺構156	瀬戸直線大皿 金属製品釘	—	—	—	a:ロクロ b:微砂・黒色粒 c:灰黄色 d:灰黄緑色 e:良好 f:口縁部片 g:胴部下部露胎 後期I期
12	45	1b	遺構156	遺構156	[5.6]	[0.6]	[0.3]	g:錆付着・断面方形
13	1	1b	遺構157	かわらけ	6.0	3.2	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	2	1b	遺構157	かわらけ	6.1	4.5	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕不明瞭・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:底部變形痕をナデ消している
13	3-10	1b	遺構157	かわらけ	6.7	3.7	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	4	1b	遺構157	かわらけ	(7.0)	(5.0)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
13	5	1b	遺構157	かわらけ	6.8	4.6	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	6	1b	遺構157	かわらけ	7.0	4.6	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	7	1b	遺構157	かわらけ	7.0	3.7	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	8-7	1b	遺構157	かわらけ	(7.2)	(4.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
13	9	1b	遺構157	かわらけ	7.1	3.8	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
13	10-12	1b	遺構157	かわらけ	7.0	4.2	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	11-4	1b	遺構157	かわらけ	7.3	5.0	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
13	12	1b	遺構157	かわらけ	7.4	5.5	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
13	13	1b	遺構157	かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
13	14	1b	遺構157	かわらけ	(7.9)	(5.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
13	15	1b	遺構157	かわらけ	7.7	4.7	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
13	16-6	1b	遺構157	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
13	17	1b	遺構157	かわらけ	(7.8)	(5.1)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
13	18	1b	遺構157	かわらけ	8.0	5.9	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
13	19	1b	遺構157	かわらけ	8.2	5.5	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
13	20	1b	遺構157	かわらけ	8.1	4.7	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
13	21	1b	遺構157	かわらけ	8.6	5.6	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
13	22	1b	遺構157	かわらけ	(8.1)	(4.6)	2.6	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
13	23	1b	遺構157	かわらけ	8.0	6.2	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
13	24-3	1b	遺構157	かわらけ	10.4	5.9	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5
13	25	1b	遺構157	かわらけ	(10.4)	(6.0)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
13	26	1b	遺構157	かわらけ	10.5	6.3	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
13	27-9	1b	遺構157	かわらけ	(10.9)	6.6	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
13	28-2	1b	遺構157	かわらけ	(11.1)	(6.4)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
13	29	1b	遺構157	かわらけ	(11.1)	(6.7)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
13	30	1b	遺構157	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
13	31	1b	遺構157	かわらけ	(11.2)	(5.9)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
13	32-8	1b	遺構157	かわらけ	11.3	6.9	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
13	33	1b	遺構157	かわらけ	(11.4)	(7.3)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
13	34-1	1b	遺構157	かわらけ	11.5	6.6	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5
13	35	1b	遺構157	かわらけ	(11.8)	(7.1)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
13	36	1b	遺構157	かわらけ	(11.5)	(7.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
13	37	1b	遺構157	かわらけ	(12.0)	(7.7)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4
13	38	1b	遺構157	かわらけ	(12.0)	(7.0)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
13	39-5	1b	遺構157	かわらけ	(12.1)	(7.5)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
13	40	1b	遺構157	かわらけ	(12.2)	(7.2)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
13	41	1b	遺構157	かわらけ	12.1	7.2	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f完形
13	42-11	1b	遺構157	かわらけ	12.5	7.1	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ・底部粘土板貼付けか b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:成形時に口唇部指頭による雑な整形の痕あり・内底見込み部分も雑な指頭によるナデ痕有り
13	43	1b	遺構157	かわらけ	(12.5)	(6.8)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
13	44	1b	遺構157	かわらけ	(12.5)	(7.0)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
13	45	1b	遺構157	かわらけ	(11.9)	(6.9)	4.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
13	46	1b	遺構157	かわらけ	(12.5)	(6.6)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4
13	47	1b	遺構157	かわらけ	12.6	7.4	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
13	48	1b	遺構157	かわらけ	(13.0)	(7.0)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4
13	49	1b	遺構157	かわらけ	(13.4)	(7.9)	4.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4
13	50	1b	遺構157	かわらけ	(14.6)	(8.0)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2
13	51	1b	遺構157	かわらけ	(14.3)	(8.0)	4.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2
13	52	1b	遺構157	青磁 坏	—	—	—	a:口クロ b:黒色粒・精良堅緻 c:灰色 d:暗緑色 e:良好 f:胴部片 g:内面蓮華文・外面無文 大宰府青磁坏Ⅲ類 龍泉窯
13	53	1b	遺構157	青磁 碗	—	—	—	a:口クロ b:黒色粒・精良堅緻 c:灰色 d:淡青色 e:良好 f:胴部片 g:内面片彫文・外面無文 大宰府青磁碗Ⅰ類 龍泉窯
13	54	1b	遺構157	瀬戸 四耳壺	—	—	—	b:微砂・白色粒 良土 c:灰白色 d:淡灰緑色 e:良好 f:肩部片 g:中期前半 耳部欠損
13	55	1b	遺構157	金属製品 銭貨	外径2.46	内径2.02	孔径0.67	g:厚さ0.08cm・重さ5g・深率元寶・篆書・初鑄年—北宋1068年
14	1	1b	遺構158	かわらけ	6.5	4.2	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
14	2	1b	遺構158	かわらけ	(6.7)	(4.7)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
14	3	1b	遺構158	かわらけ	(6.6)	(3.4)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
14	4	1b	遺構158	かわらけ	(6.8)	(4.4)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3 g:器形の歪み大
14	5	1b	遺構158	かわらけ	6.9	4.1	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
14	6	1b	遺構158	かわらけ	(7.0)	(4.9)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/4
14	7	1b	遺構158	かわらけ	7.1	5.1	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
14	8	1b	遺構158	かわらけ	(7.1)	(4.0)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
14	9	1b	遺構158	かわらけ	(7.2)	(3.9)	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
14	10	1b	遺構158	かわらけ	7.3	5.0	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f完形
14	11	1b	遺構158	かわらけ	(7.5)	(4.5)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
14	12	1b	遺構158	かわらけ	7.6	4.9	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
14	13	1b	遺構158	かわらけ	7.7	4.6	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
14	14	1b	遺構158	かわらけ	7.8	4.9	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
14	15	1b	遺構158	かわらけ	7.9	5.7	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
14	16	1b	遺構158	かわらけ	8.7	5.6	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
14	17	1b	遺構158	かわらけ	9.4	5.7	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・粗土 粗土 c:黄褐色 e:良好 f完形
14	18	1b	遺構158	かわらけ	(10.2)	(6.4)	2.7	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
14	19	1b	遺構158	かわらけ	10.4	6.9	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f完形 g:器形の歪み大
14	20	1b	遺構158	かわらけ	(10.5)	(6.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
					()	()	()	
14	21	1b	遺構158	かわらけ	10.6	5.6	3.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
14	22	1b	遺構158	かわらけ	(10.9)	(6.6)	2.9	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/5
14	23	1b	遺構158	かわらけ	11.0	6.4	3.0	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
14	24	1b	遺構158	かわらけ	(11.2)	(6.5)	3.2	a:口ロ・外底回転系切・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
14	25	1b	遺構158	かわらけ	(11.7)	(7.9)	3.3	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
14	26	1b	遺構158	かわらけ	(11.3)	(7.3)	3.6	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
14	27	1b	遺構158	かわらけ	(12.1)	(64.0)	3.2	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
14	28	1b	遺構158	かわらけ	(12.1)	(6.6)	3.5	a:口ロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
14	29	1b	遺構158	かわらけ	(12.4)	(6.8)	4.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
14	30	1b	遺構158	かわらけ	(12.6)	(7.7)	3.8	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
14	31	1b	遺構158	かわらけ	(12.6)	(6.6)	4.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
14	32	1b	遺構158	かわらけ	(12.7)	(7.0)	3.5	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
14	33	1b	遺構158	かわらけ	(12.8)	(7.0)	3.7	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
14	34	1b	遺構158	かわらけ	12.9	7.5	3.9	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
14	35	1b	遺構158	かわらけ	12.9	7.6	4.0	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
14	36	1b	遺構158	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.8	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
14	37	1b	遺構158	かわらけ	(13.0)	(6.7)	4.1	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
14	38	1b	遺構158	かわらけ	(13.0)	(7.0)	4.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
14	39	1b	遺構158	かわらけ	(13.2)	(7.6)	3.8	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
14	40	1b	遺構158	かわらけ	(13.5)	(7.6)	4.0	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
14	41	1b	遺構158	かわらけ	(13.6)	(8.3)	3.9	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
14	42	1b	遺構158	かわらけ	(13.5)	(8.0)	4.0	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
14	43	1b	遺構158	かわらけ	(13.8)	(6.5)	3.9	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
14	44	1b	遺構158	かわらけ	(14.1)	(8.0)	4.0	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
14	45	1b	遺構158	青磁 香炉	(7.0)	—	—	a:口ロ b:精良堅緻 c:赤褐色 d:緑灰色 e:良好 f:口縁部片 g:胴部上部に円形の孔あり・胴部半ばに窓が開く・猪の目の形か・産地不明
14	46	1b	遺構158	青磁 皿	—	—	—	a:口ロ b:粘性あり・硬質・気泡有り c:灰色 d:暗緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内外面無文(見込みに櫛掻文か) 同安窯系 皿I類
14	47	1b	遺構158	瀬戸 平碗	—	—	—	a:口ロ b:微砂・黒色粒 c:灰黄色 d:淡緑色 e:良好 f:胴部片 g:胴部下部露胎 後期II期
14	48	1b	遺構158	瀬戸 天目茶碗	—	—	—	a:口ロ b:微砂・黒色粒 c:灰黄色 d:黒茶色 e:良好 f:胴部片 g:胴部下部露胎 後期II期
14	49	1b	遺構158	金属製品 銭貨	外径2.5	内径1.87	孔径0.68	g:厚さ0.09cm・重さ2.1g・元豐通寶・篆書・初鑄年—北宋1078年
14	50	1b	遺構158	石製品 硯	[6.9]	[3.9]	[1.2]	g:産地不明・淡緑色・二次加工途中の製品(加工途中部分は拓本貼り付け)
15	1	1b	遺構160	かわらけ	(5.6)	(4.6)	2.1	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
15	2	1b	遺構160	かわらけ	(6.1)	(3.3)	2.1	a:口ロ・外底回転系切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
15	3	1b	遺構160	かわらけ	(6.1)	(4.8)	1.9	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
15	4	1b	遺構160	かわらけ	(6.2)	(4.3)	2.0	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	5	1b	遺構160	かわらけ	(6.7)	(4.8)	2.4	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	6	1b	遺構160	かわらけ	(6.8)	(4.4)	2.0	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
15	7	1b	遺構160	かわらけ	(6.9)	(3.9)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
15	8	1b	遺構160	かわらけ	(7.1)	(4.4)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	9	1b	遺構160	かわらけ	(7.3)	(4.8)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
15	10	1b	遺構160	かわらけ	(7.3)	(5.2)	2.2	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	11	1b	遺構160	かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.3	a:口ロ・外底回転系切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
15	12	1b	遺構160	かわらけ	7.5	4.7	2.6	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f完形
15	13	1b	遺構160	かわらけ	(7.5)	(4.5)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
15	14	1b	遺構160	かわらけ	7.6	4.8	2.1	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
15	15	1b	遺構160	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	16	1b	遺構160	かわらけ	(7.6)	(3.0)	2.6	a:口ロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3 g:外底部系切痕をナデ消し
15	17	1b	遺構160	かわらけ	(8.2)	(5.7)	2.2	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
15	18	1b	遺構160	かわらけ	(8.0)	(5.5)	3.0	a:口ロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
15	19	1b	遺構160	かわらけ	(10.1)	(4.8)	2.7	a:口ロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ ()=復元値 []=残存値	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考						
15	20	1b	遺構160	かわらけ	10.4	7.0	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大						
15	21	1b	遺構160	かわらけ	(10.5)	(5.8)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形						
15	22	1b	遺構160	かわらけ	(11.0)	(6.8)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
15	23	1b	遺構160	かわらけ	(11.1)	(6.5)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	24	1b	遺構160	かわらけ	(11.2)	(6.5)	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/5						
15	25	1b	遺構160	かわらけ	(11.4)	(6.1)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
15	26	1b	遺構160	かわらけ	11.7	7.7	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大						
15	27	1b	遺構160	かわらけ	(11.7)	(6.7)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	28	1b	遺構160	かわらけ	(11.9)	(8.5)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
15	29	1b	遺構160	かわらけ	(12.0)	(6.4)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
15	30	1b	遺構160	かわらけ	(12.2)	(6.6)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
15	31	1b	遺構160	かわらけ	(12.2)	(7.3)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	32	1b	遺構160	かわらけ	(12.4)	(5.3)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	33	1b	遺構160	かわらけ	12.5	7.0	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5						
15	34	1b	遺構160	かわらけ	(12.4)	(6.1)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	35	1b	遺構160	かわらけ	(12.6)	(7.2)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3						
15	36	1b	遺構160	かわらけ	(12.6)	(6.8)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
15	37	1b	遺構160	かわらけ	(14.0)	(8.3)	4.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底強横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
15	38	1b	遺構160	瓦器質 火鉢	—	—	—	a:輪襷み・口縁部輪花型 b:微砂・白色粒 c:灰褐色 d:器表は黒色処理 e:良好 f:口縁部片 g:皿類 器表と内面上部は被熱により器肌剥離						
15	39	1b	遺構160	かわらけ質 器種不明	[9.3]	径4.0	—	a:指頭による調整痕が器表に残る b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:脚部片						
15	40	1b	遺構161	かわらけ	—	—	—	a:手づくね b:微砂・雲母 良土 c:灰黒色 d:白黄色 e:良好 f:口縁部片 g:白かわらけ						
15	41	1b	遺構161	かわらけ	(6.1)	(3.7)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2						
15	42	1b	遺構161	かわらけ	(6.6)	(4.7)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
15	43	1b	遺構161	かわらけ	6.7	4.7	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形						
15	44	1b	遺構161	かわらけ	6.7	4.5	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:5/6						
15	45	1b	遺構161	かわらけ	(7.1)	(4.2)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形						
15	46	1b	遺構161	かわらけ	7.1	4.7	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形						
15	47	1b	遺構161	かわらけ	7.5	4.1	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大						
15	48	1b	遺構161	かわらけ	(7.7)	(3.8)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
15	49	1b	遺構161	かわらけ	(7.9)	(4.6)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや良土 c:橙色 e:良好 f:2/3						
15	50	1b	遺構161	かわらけ	(8.0)	(4.8)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大						
15	51	1b	遺構161	かわらけ	8.2	4.8	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大						
15	52	1b	遺構161	かわらけ	8.2	6.1	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:底部粘土貼付けか・胴部下部に指頭による粘土ナデツケ痕						
15	53	1b	遺構161	かわらけ	(10.6)	(6.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
15	54	1b	遺構161	かわらけ	10.8	6.3	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/5						
16	55	1b	遺構161	かわらけ	11.0	6.0	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:内面摩耗・使用痕か						
16	56	1b	遺構161	かわらけ	11.0	6.5	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大						
16	57	1b	遺構161	かわらけ	(11.1)	(6.3)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3						
16	58	1b	遺構161	かわらけ	(11.1)	(6.1)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
16	59	1b	遺構161	かわらけ	(11.5)	(7.7)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
16	60	1b	遺構161	かわらけ	(11.6)	(7.2)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2						
16	61	1b	遺構161	かわらけ	(11.8)	(7.8)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3						
16	62	1b	遺構161	かわらけ	(12.2)	(6.5)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5						
16	63	1b	遺構161	かわらけ	(12.5)	(6.9)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
16	64	1b	遺構161	かわらけ	(12.9)	(7.7)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:5/6						
16	65	1b	遺構161	かわらけ	(13.2)	(8.7)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
16	66	1b	遺構161	かわらけ	(13.5)	(8.0)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
16	67	1b	遺構161	かわらけ	(13.6)	8.8	3.8	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3						
16	68	1b	遺構161 床面	かわらけ	(12.5)	6.6	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6						

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ ()=復元値 []=残存値	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考						
16	69	1b	遺構161	白磁 口瓦皿	(8.6)	—	—	a:口クロ 口縁端部口瓦 b:灰白色 精良堅緻 d:灰白色 e:堅緻 f:口縁部片 g:皿区類						
16	70	1b	遺構161	瓦器質 火鉢	—	—	—	a:輪積み・口縁部輪花型・菊花スタンプ(弁数不明)を胴上部に押印・内面上位は横位・下部は縦位の磨き痕・外面縦位の磨き・口唇部横位の磨き b:微砂・雲母・白色粒・赤色粒・小石粒 c:灰褐色 d:器表は黒色処理 e:良好 f:3口縁部片 g:皿類						
17	1	1b	遺構165	かわらけ	5.0	4.0	1.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:焼成前に対面する側面を指頭によって押しつけて整形・耳皿						
17	2	1b	遺構165	かわらけ	(5.9)	(3.6)	1.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	3	1b	遺構165	かわらけ	(6.1)	(3.9)	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
17	4	1b	遺構165	かわらけ	(6.9)	(4.6)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:回転糸切の痕跡を蓋図的に消したかのように外底部磨滅						
17	5	1b	遺構165	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	6	1b	遺構165	かわらけ	(7.7)	(4.4)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
17	7	1b	遺構165	かわらけ	(7.8)	(4.3)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2						
17	8	1b	遺構165	かわらけ	(7.7)	(5.2)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3						
17	9	1b	遺構165	かわらけ	(7.7)	(4.7)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4						
17	10	1b	遺構165	かわらけ	(7.7)	(4.7)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	11	1b	遺構165	かわらけ	(9.5)	(5.4)	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4						
17	12	1b	遺構165	かわらけ	9.9	6.4	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:回転糸切不明瞭 g:器形の歪み大						
17	13	1b	遺構165	かわらけ	(10.1)	(6.6)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4 g:口唇部油煤痕						
17	14	1b	遺構165	かわらけ	10.4	6.6	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形						
17	15	1b	遺構165	かわらけ	11.0	7.2	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形						
17	16	1b	遺構165	かわらけ	(11.0)	(6.0)	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	17	1b	遺構165	かわらけ	(10.5)	(5.4)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	18	1b	遺構165	かわらけ	(10.8)	(6.8)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3						
17	19	1b	遺構165	かわらけ	11.1	6.1	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大						
17	20	1b	遺構165	かわらけ	11.0	5.7	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形						
17	21	1b	遺構165	かわらけ	11.8	7.4	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:器形の歪み大						
17	22	1b	遺構165	かわらけ	11.2	6.4	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・痕跡不明瞭(拓本あり)・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
17	23	1b	遺構165	かわらけ	(11.3)	(6.8)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3 g:外底部指頭によるナデの痕跡あり						
17	24	1b	遺構165	かわらけ	(11.9)	(6.8)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2						
17	25	1b	遺構165	かわらけ	(11.9)	(7.9)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	26	1b	遺構165	かわらけ	(12.2)	(8.0)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	27	1b	遺構165	かわらけ	(12.1)	(5.4)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4						
17	28	1b	遺構165	かわらけ	(11.9)	(7.6)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3						
17	29	1b	遺構165	かわらけ	12.3	6.6	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形						
17	30	1b	遺構165	かわらけ	(12.9)	(6.2)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5						
17	31	1b	遺構165	かわらけ	(13.7)	(8.2)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2						
17	32	1b	遺構166	かわらけ	6.1	5.1	1.8	a:口クロ・外底回転糸切・底部粘土板貼付けか・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形						
17	33	1b	遺構166	かわらけ	6.0	5.0	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・底部粘土板貼付けか・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:完形						
17	34	1b	遺構166	かわらけ	(6.2)	(3.5)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3						
17	35	1b	遺構166	かわらけ	6.3	3.8	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・底部粘土板貼付けか・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大・口唇部1ヶ所打ち掻き痕						
17	36	1b	遺構166	かわらけ	6.5	4.1	1.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大						
17	37	1b	遺構166	かわらけ	(6.6)	(4.0)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3						
17	38	1b	遺構166	かわらけ	6.6	4.4	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形						
17	39	1b	遺構166	かわらけ	(6.6)	(4.0)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部油煤痕・内面被熱によって器壁剥離						
17	40	1b	遺構166	かわらけ	7.0	5.1	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形						
17	41	1b	遺構166	かわらけ	(7.0)	(4.7)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2						
17	42	1b	遺構166	かわらけ	7.4	4.7	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2						
17	43	1b	遺構166	かわらけ	7.2	5.6	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形						
17	44	1b	遺構166	かわらけ	(7.3)	(4.6)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大						
17	45	1b	遺構166	かわらけ	(7.2)	(5.0)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3						
17	46	1b	遺構166	かわらけ	(7.3)	(5.1)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3						

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
17	47	1b	遺構166	かわらけ	(7.2)	(5.4)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
17	48	1b	遺構166	かわらけ	7.3	4.6	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
17	49	1b	遺構166	かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部2ヶ所打ち掻き痕
17	50	1b	遺構166	かわらけ	7.4	4.7	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
17	51	1b	遺構166	かわらけ	7.6	4.9	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
17	52	1b	遺構166	かわらけ	7.5	4.9	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2 g:器形の歪み大
17	53	1b	遺構166	かわらけ	7.5	5.5	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・底部粘土板貼付けか・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
17	54	1b	遺構166	かわらけ	(7.6)	(4.9)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
17	55	1b	遺構166	かわらけ	7.3	5.1	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
17	56	1b	遺構166	かわらけ	(7.5)	(4.9)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
17	57	1b	遺構166	かわらけ	(7.7)	(4.9)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
17	58	1b	遺構166	かわらけ	(7.7)	(4.9)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
17	59	1b	遺構166	かわらけ	(7.7)	(5.4)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
17	60	1b	遺構166	かわらけ	(8.0)	(5.1)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
17	61	1b	遺構166	かわらけ	8.3	4.8	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
17	62	1b	遺構166	かわらけ	(8.2)	(4.3)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
17	63	1b	遺構166	かわらけ	(8.0)	(5.1)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
17	64	1b	遺構166	かわらけ	(8.0)	(5.9)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
17	65	1b	遺構166	かわらけ	8.4	5.3	2.8	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
17	66	1b	遺構166	かわらけ	10.4	5.9	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
17	67	1b	遺構166	かわらけ	10.4	5.5	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
17	68	1b	遺構166	かわらけ	10.5	6.7	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
18	69	1b	遺構166	かわらけ	(10.5)	(5.6)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
18	70	1b	遺構166	かわらけ	(10.9)	(6.0)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
18	71	1b	遺構166	かわらけ	10.5	6.0	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
18	72	1b	遺構166	かわらけ	10.6	6.5	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
18	73	1b	遺構166	かわらけ	(10.7)	(5.3)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	74	1b	遺構166	かわらけ	10.9	7.1	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
18	75	1b	遺構166	かわらけ	10.9	6.3	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5
18	76	1b	遺構166	かわらけ	10.9	6.6	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
18	77	1b	遺構166	かわらけ	11.1	6.5	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
18	78	1b	遺構166	かわらけ	(11.1)	(5.8)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	79	1b	遺構166	かわらけ	(11.2)	(6.4)	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
18	80	1b	遺構166	かわらけ	11.1	6.7	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5
18	81	1b	遺構166	かわらけ	10.9	6.3	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
18	82	1b	遺構166	かわらけ	(11.1)	(6.2)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
18	83	1b	遺構166	かわらけ	(11.0)	(5.8)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
18	84	1b	遺構166	かわらけ	11.0	6.4	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
18	85	1b	遺構166	かわらけ	(11.3)	(6.5)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
18	86	1b	遺構166	かわらけ	(11.5)	(7.0)	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
18	87	1b	遺構166	かわらけ	11.4	6.6	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:5/6 g:器形の歪み大
18	88	1b	遺構166	かわらけ	(11.1)	(6.5)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
18	89	1b	遺構166	かわらけ	(11.4)	(6.8)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	90	1b	遺構166	かわらけ	(11.5)	(7.4)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
18	91	1b	遺構166	かわらけ	(11.6)	(6.1)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
18	92	1b	遺構166	かわらけ	(11.6)	(6.9)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
18	93	1b	遺構166	かわらけ	(12.2)	(6.7)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
18	94	1b	遺構166	かわらけ	(11.9)	(5.8)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
18	95	1b	遺構166	かわらけ	12.4	6.9	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
18	96	1b	遺構166	かわらけ	12.7	7.2	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
18	97	1b	遺構166	かわらけ	(12.1)	(7.2)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
18	98	1b	遺構166	かわらけ	(12.4)	(7.5)	3.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
18	99	1b	遺構166	かわらけ	13.1	7.8	4.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6
18	100	1b	遺構166	かわらけ	(12.7)	(7.4)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
18	101	1b	遺構166	かわらけ	12.9	6.7	3.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2 g:器形の歪み大
18	102	1b	遺構166	かわらけ	(13.3)	(8.6)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2 g:見込み中央に穿孔か
18	103	1b	遺構166	かわらけ	13.2	7.9	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6
18	104	1b	遺構166	かわらけ	(13.2)	(7.5)	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
18	105	1b	遺構166	かわらけ	13.4	7.5	4.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f完形
18	106	1b	遺構166	かわらけ	(13.5)	(7.0)	3.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
18	107	1b	遺構166	瀬戸 卸目付大皿	—	—	—	a:ロクロ b:微砂・黒色粒 c:灰褐色 d:灰黄緑色 e:良好 f:口縁部片 g:後期Ⅲ期
18	108	1b	遺構166	金属製品 釘	5.6	0.4	0.3	g:断面方形
18	109	1b	遺構166	金属製品 釘	[4.5]	0.4	0.3	g:断面方形
20	1	1b	遺構2	かわらけ	6.6	4.3	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 fほぼ完形 g:器形の歪み大
20	2	1b	遺構2	かわらけ	7.0	4.4	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3 g:硬質な胎土 薄手の器壁
20	3	1b	遺構2	瀬戸 皿	—	—	[2.1]	a:ロクロ 口縁部刃に自然釉 b:微砂 c:灰白色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:後期Ⅳ期か
20	4	1b	遺構22	かわらけ	6.7	4.2	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	5	1b	遺構22	かわらけ	6.9	5.0	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	6	1b	遺構28	かわらけ	(6.9)	(4.5)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3 g:器形の歪み大
20	7	1b	遺構28	瀬戸 碗	—	—	[2.3]	a:ロクロ 口縁部端反り b:微砂 c:灰黄色 d:灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:後期Ⅳ期か
20	8	1b	遺構27	かわらけ	(6.9)	(3.4)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	9	1b	遺構27	かわらけ	(6.8)	(4.0)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	10	1b	遺構27	かわらけ	(8.3)	(5.1)	2.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
20	11	1b	遺構27	かわらけ	(10.6)	(6.0)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
20	12	1b	遺構27	かわらけ	(11.4)	(6.1)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
20	13	1b	遺構27	かわらけ	(13.1)	(8.0)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
20	14	1b	遺構27	青磁 皿	—	—	[2.0]	a:ロクロ b:灰白色 精良堅緻 d:淡青色 e:堅緻 f:口縁部片 g:貫入あり
20	15	1b	遺構27	金属製品 銭貨	外径2.38	内径1.82	孔径0.53	g:厚さ0.10cm・重さ2.4g・浄化元寶・行書・初鑄年—北宋990年
20	16	1b	遺構33	かわらけ	(67.0)	(4.4)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
20	17	1b	遺構159	かわらけ	(6.6)	(4.3)	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
20	18	1b	遺構159	かわらけ	(6.8)	(4.0)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
20	19	1b	遺構159	かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/4
20	20	1b	遺構159	かわらけ	(7.5)	(5.7)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
20	21	1b	遺構159	かわらけ	7.7	5.4	2.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
20	22	1b	遺構159	かわらけ	(7.8)	(5.0)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
20	23	1b	遺構159	かわらけ	(7.8)	(4.5)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
20	24	1b	遺構159	かわらけ	(7.9)	(5.0)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/6 g:器形の歪み大
20	25	1b	遺構159	かわらけ	(8.0)	(5.6)	2.1	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭 b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	26	1b	遺構159	かわらけ	(8.3)	(4.8)	2.0	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	27	1b	遺構159	かわらけ	(8.9)	(5.3)	2.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
20	28	1b	遺構159	かわらけ	8.9	5.5	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
20	29	1b	遺構159	かわらけ	(10.0)	(6.0)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	30	1b	遺構159	かわらけ	11.3	7.1	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
20	31	1b	遺構159	かわらけ	(11.6)	(6.0)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
20	32	1b	遺構159	かわらけ	(12.4)	(6.8)	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデの後見込み周囲をナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
20	33	1b	遺構159	かわらけ	(13.0)	(5.9)	3.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
20	34	1b	遺構159	かわらけ	(13.2)	(8.3)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
20	35	1b	遺構159	かわらけ	(13.8)	(7.3)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ ()=復元値 []=残存値	底径/幅	器高/厚さ	a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考							
20	36	1b	遺構159	瓦器質 黒縁皿	—	—	—	a:口クロ・口縁部のみ黒色処理 b:微砂・硬質 c:灰白色 d:灰白色 e:良好 f:口縁部片 g:産地不明・備前産か・13世紀代							
20	37	1b	遺構159	瓦器質 火鉢	—	—	—	a:輪積み・胴部上位から横位沈線間に7弁の花文スタンプ押印、その下に連続文を張り付けている・器壁は黒色処理・内面被熱のため器壁剥離 b:微砂・小石粒 c:灰黄色 d:器表は黒色処理 e:良好 f:3/5 g:IV類							
20	38	1b	遺構164	かわらけ	6.2	4.3	2.5	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3							
20	39	1b	遺構164	かわらけ	(14.3)	8.8	3.7	a:口クロ・外底回転系切・強く板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4							
21	1	1	第1面 面上	かわらけ	(6.9)	(5.0)	2.0	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2							
21	2	1	第1面 面上	かわらけ	7.3	5.0	2.4	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大							
21	3	1	第1面 面上	かわらけ	(7.7)	(5.3)	2.2	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3							
21	4	1	第1面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.6)	2.5	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4							
21	5	1	第1面 面上	かわらけ	(9.0)	(5.5)	2.8	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3							
21	6	1	第1面 面上	かわらけ	(10.1)	(6.4)	2.9	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3							
21	7	1	第1面 面上	かわらけ	(10.8)	(6.3)	3.2	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3							
21	8	1	第1面 面上	かわらけ	11.9	7.6	3.4	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形							
21	9	1	第1面 面上	瓦器質 火鉢	—	—	[3.5]	a:輪積み・内面横位の整形痕・口唇部内側に凸帯上に張り出す・口縁下に穿孔あり b:灰色・小石粒・微砂・硬質 c:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:外面器壁剥離 1c類							
21	10	1	第1面 面上	瀬戸 御血	—	—	—	a:口クロ b:微砂・雲母・白色粒 c:灰黄色 d:淡緑色 e:良好 f:口縁部片 g:後期Ⅱ期							
21	11	1	第1面 面上	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.5]	a:輪積み b:微砂・白色粒・小石粒 c:赤褐色 d:赤褐色 e:良好 f:口縁部片 g:6a型式 外面指頭によるナデ整形							
21	12	1	第1面 面上	石製品 硯	[11.4]	[6.6]	1.6	g:真岩・陸部の縁に波文の装飾(線刻)有り・破損後再利用のために加工を試みた痕跡							
21	13	1	第1面 構成土	かわらけ	(5.8)	(3.6)	1.8	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3							
21	14	1	第1面 構成土	かわらけ	6.2	4.3	1.9	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:回転系切不明瞭							
21	15	1	第1面 構成土	かわらけ	(6.4)	(4.7)	1.9	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4							
21	16	1	第1面 構成土	かわらけ	6.2	4.0	2.2	a:口クロ・外底回転系切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3							
21	17	1	第1面 構成土	かわらけ	6.9	4.4	2.0	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4							
21	18	1	第1面 構成土	かわらけ	6.9	4.2	2.1	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大							
21	19	1	第1面 構成土	かわらけ	7.1	4.7	1.6	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4							
21	20	1	第1面 構成土	かわらけ	6.9	3.6	1.9	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:外底系切の糸痕が胴下部まで引き上げられる							
21	21	1	第1面 構成土	かわらけ	(7.3)	(4.0)	2.1	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3							
21	22	1	第1面 構成土	かわらけ	(7.2)	(5.0)	2.1	a:口クロ・外底回転系切不明瞭・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2							
21	23	1	第1面 構成土	かわらけ	6.9	4.0	2.6	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4							
21	24	1	第1面 構成土	かわらけ	(7.1)	(4.8)	2.4	a:口クロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4							
21	25	1	第1面 構成土	かわらけ	7.1	4.8	2.3	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大							
21	26	1	第1面 構成土	かわらけ	7.2	3.8	2.5	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大							
21	27	1	第1面 構成土	かわらけ	8.2	4.8	2.4	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大・口唇部一部油痕							
21	28	1	第1面 構成土	かわらけ	(8.1)	(5.2)	2.6	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3							
21	29	1	第1面 構成土	かわらけ	(8.2)	(4.6)	2.3	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3							
21	30	1	第1面 構成土	かわらけ	(10.5)	(6.0)	3.0	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3							
21	31	1	第1面 構成土	かわらけ	10.5	6.1	3.1	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大							
21	32	1	第1面 構成土	かわらけ	(11.6)	(6.3)	3.1	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2							
21	33	1	第1面 構成土	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.2	a:口クロ・外底回転系切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4 g:内外面黒色に変色							
21	34	1	第1面 構成土	かわらけ	(11.8)	(6.2)	3.2	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3							
21	35	1	第1面 構成土	かわらけ	(12.3)	(7.9)	3.2	a:口クロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3							
21	36	1	第1面 構成土	かわらけ	(11.8)	(7.6)	3.5	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3							
21	37	1	第1面 構成土	かわらけ	11.9	6.6	3.6	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3							
21	38	1	第1面 構成土	かわらけ	13.0	6.8	3.8	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:5/6 g:器形の歪み大							
21	39	1	第1面 構成土	かわらけ	12.5	7.5	4.0	a:口クロ・外底回転系切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5							
21	40	1	第1面 構成土	かわらけ	(13.3)	(7.6)	3.8	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2							
21	41	1	第1面 構成土	かわらけ	(13.4)	(8.0)	3.6	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4							
22	1	2	遺構170 第1層	かわらけ	6.6	4.3	2.1	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形							
22	2	2	遺構170 第1層	かわらけ	(6.8)	(3.8)	1.9	a:口クロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3							

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
22	3	2	遺構170第1層	かわらけ	7.0	4.4	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:口唇部数ヶ所打ち掻いているが意図的か不明
22	4	2	遺構170第1層	かわらけ	7.0	4.6	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	5	2	遺構170第1層	かわらけ	(7.0)	(5.2)	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
22	6	2	遺構170第1層	かわらけ	7.2	4.4	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
22	7	2	遺構170第1層	かわらけ	7.2	4.1	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
22	8	2	遺構170第1層	かわらけ	7.2	3.8	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	9	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	5.0	1.7	a:口クロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	10	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	4.6	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強クナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
22	11	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	4.4	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
22	12	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	3.8	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	13	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	5.4	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
22	14	2	遺構170第1層	かわらけ	7.3	4.3	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:胴部下部指頭による調整痕・器形の歪み大
22	15	2	遺構170第1層	かわらけ	7.4	4.5	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	16	2	遺構170第1層	かわらけ	7.5	3.9	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	17	2	遺構170第1層	かわらけ	7.6	5.1	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底強ク横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
22	18	2	遺構170第1層	かわらけ	7.6	4.4	2.2	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
22	19	2	遺構170第1層	かわらけ	7.6	4.6	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
22	20	2	遺構170第1層	かわらけ	7.7	5.2	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強ク横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
22	21	2	遺構170第1層	かわらけ	7.7	5.4	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
22	22	2	遺構170第1層	かわらけ	(7.8)	(5.4)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底強クナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
22	23	2	遺構170第1層	かわらけ	7.8	4.7	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
22	24	2	遺構170第1層	かわらけ	8.8	5.5	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:3/4
22	25	2	遺構170第1層	かわらけ	9.6	5.1	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
22	26	2	遺構170第1層	かわらけ	9.9	5.2	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
22	27	2	遺構170第1層	かわらけ	10.0	5.5	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	28	2	遺構170第1層	かわらけ	10.0	6.0	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
22	29	2	遺構170第1層	かわらけ	10.4	6.4	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:口唇部1ヶ所打ち掻け
22	30	2	遺構170第1層	かわらけ	10.6	6.4	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強ク横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
22	31	2	遺構170第1層	かわらけ	10.7	7.0	3.2	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
22	32	2	遺構170第1層	かわらけ	10.7	5.6	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
22	33	2	遺構170第1層	かわらけ	10.8	6.4	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
22	34	2	遺構170第1層	かわらけ	10.8	6.2	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強ク横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
22	35	2	遺構170第1層	かわらけ	10.9	6.9	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6 g:器形の歪み大・口唇部一部油煤痕
22	36	2	遺構170第1層	かわらけ	10.9	6.1	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6
22	37	2	遺構170第1層	かわらけ	11.0	(6.4)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:3/4
22	38	2	遺構170第1層	かわらけ	(11.6)	(7.2)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
22	39	2	遺構170第1層	かわらけ	11.2	6.3	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
22	40	2	遺構170第1層	かわらけ	11.0	6.5	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
22	41	2	遺構170第1層	かわらけ	(11.0)	(7.0)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/3 g:胴部下部に鏝状工具による整形痕
22	42	2	遺構170第1層	かわらけ	11.1	6.5	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
22	43	2	遺構170第1層	かわらけ	(11.0)	6.8	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・スグ列状圧痕(拓本あり)・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
22	44	2	遺構170第1層	かわらけ	(11.2)	(6.0)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
22	45	2	遺構170第1層	かわらけ	11.6	6.6	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
22	46	2	遺構170第1層	かわらけ	11.7	7.1	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:4/5
22	47	2	遺構170第1層	かわらけ	11.7	6.7	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6
22	48	2	遺構170第1層	かわらけ	11.7	7.0	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
22	49	2	遺構170第1層	かわらけ	11.7	8.0	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
23	50	2	遺構170第1層	かわらけ	11.8	6.5	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデの後見込み周囲を回転ナデ・内底横ナデが内面上部まで引き上げられる b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
23	51	2	遺構170第1層	かわらけ	12.1	7.5	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	52	2	遺構170第1層	かわらけ	12.1	7.4	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	53	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.0)	(7.2)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:2/3
23	54	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.2)	(6.8)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/2
23	55	2	遺構170第1層	かわらけ	12.1	7.8	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	56	2	遺構170第1層	かわらけ	12.2	6.7	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:4/5
23	57	2	遺構170第1層	かわらけ	12.2	8.8	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
23	58	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.2)	(6.2)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	59	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.2)	(8.2)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	60	2	遺構170第1層	かわらけ	12.6	7.5	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6
23	61	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.2)	(7.0)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ(拓本あり) b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
23	62	2	遺構170第1層	かわらけ	12.6	7.8	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
23	63	2	遺構170第1層	かわらけ	12.7	8.2	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	64	2	遺構170第1層	かわらけ	12.5	7.2	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6
23	65	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.4)	(8.6)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:2/3 g:底部周囲に限り器壁剥落
23	66	2	遺構170第1層	かわらけ	(13.0)	(7.0)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
23	67	2	遺構170第1層	かわらけ	(12.6)	(7.0)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
23	68	2	遺構170第1層	かわらけ	13.1	6.2	4.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:4/5
23	69	2	遺構170第1層	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
23	70	2	遺構170第1層	かわらけ	13.1	8.5	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・スグレ状圧痕(拓本あり)・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
23	71	2	遺構170第1層	かわらけ	(14.4)	(9.0)	4.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
23	72	2	遺構170第1層	かわらけ	(14.0)	(7.2)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
23	73	2	遺構170第1層	白磁碗	—	—	—	a:口縁部外反・体部上位は薄く仕上がる b:白色・硬質・堅緻 d:淡青色 e:良好 f:口縁部片 g:内面上位に界線と凸文有り・釉厚の為不鮮明・14世紀代
23	74	2	遺構171第2層	かわらけ	5.9	3.8	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6
23	75	2	遺構171第2層	かわらけ	6.7	4.7	2.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	76	2	遺構171第2層	かわらけ	(6.8)	(3.8)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	77	2	遺構171第2層	かわらけ	(6.8)	(4.6)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:2/3
23	78	2	遺構171第2層	かわらけ	7.0	4.9	1.7	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/2
23	79	2	遺構171第2層	かわらけ	7.4	5.1	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
23	80	2	遺構171第2層	かわらけ	(7.4)	(5.2)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/3
23	81	2	遺構171第2層	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	82	2	遺構171第2層	かわらけ	7.6	4.0	2.7	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/2 g:器形の歪み大
23	83	2	遺構171第2層	かわらけ	7.7	4.7	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
23	84	2	遺構171第2層	かわらけ	7.8	4.5	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:4/5 g:器形の歪み大
23	85	2	遺構171第2層	かわらけ	(7.8)	(4.0)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
23	86	2	遺構171第2層	かわらけ	(8.0)	(4.2)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:2/3
23	87	2	遺構171第2層	かわらけ	8.2	4.6	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:完形
23	88	2	遺構171第2層	かわらけ	8.4	5.6	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	89	2	遺構171第2層	かわらけ	(8.4)	(4.6)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
23	90	2	遺構171第2層	かわらけ	(8.6)	(5.4)	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:1/3
23	91	2	遺構171第2層	かわらけ	10.3	5.8	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
23	92	2	遺構171第2層	かわらけ	9.8	5.3	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:5/6 g:器形の歪み大
23	93	2	遺構171第2層	かわらけ	(10.4)	6.2	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/2
23	94	2	遺構171第2層	かわらけ	10.4	5.6	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形
23	95	2	遺構171第2層	かわらけ	10.5	5.9	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
23	96	2	遺構171第2層	かわらけ	10.5	6.0	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:橙黄色 e:良好 f:3/4
23	97	2	遺構171第2層	かわらけ	10.6	6.8	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙黄色 e:良好 f:5/6

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
23	98	2	遺構171第2層	かわらけ	11.0	6.1	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:底部平行の板状圧痕に直行するような線刻と斜めに線刻が入る・意図的かは不明(拓本あり)・器形の歪み大
23	99	2	遺構171第2層	かわらけ	11.0	7.0	3.1	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
23	100	2	遺構171第2層	かわらけ	(11.0)	(6.6)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
23	101	2	遺構171第2層	かわらけ	(11.8)	(6.8)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
23	102	2	遺構171第2層	かわらけ	11.7	7.5	3.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
23	103	2	遺構171第2層	かわらけ	12.0	6.3	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
23	104	2	遺構171第2層	かわらけ	12.6	7.0	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
24	105	2	遺構171第2層	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
24	106	2	遺構171第2層	かわらけ	(13.8)	(8.2)	3.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f3/4
24	107	2	遺構171第2層	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
24	108	2	遺構171第2層	かわらけ	(12.2)	(7.4)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	109	2	遺構171第2層	かわらけ	12.8	7.3	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
24	110	2	遺構171第2層	かわらけ	12.8	7.6	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
24	111	2	遺構171第3層	かわらけ	6.4	4.5	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
24	112	2	遺構171第3層	かわらけ	(6.5)	(4.0)	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1:ほぼ完形 g:内面に成形時の篋状工具による雑な整形痕・口唇部1ヶ所打ち掻き痕
24	113	2	遺構171第3層	かわらけ	6.7	4.2	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f3/4
24	114	2	遺構171第3層	かわらけ	6.8	4.4	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデの後見込み周囲を回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
24	115	2	遺構171第3層	かわらけ	(6.8)	(4.6)	1.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2
24	116	2	遺構171第3層	かわらけ	(6.8)	(4.0)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
24	117	2	遺構171第3層	かわらけ	(6.8)	(3.8)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	118	2	遺構171第3層	かわらけ	(6.8)	(5.2)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	119	2	遺構171第3層	かわらけ	6.8	3.9	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
24	120	2	遺構171第3層	かわらけ	6.8	4.9	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
24	121	2	遺構171第3層	かわらけ	6.8	4.3	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
24	122	2	遺構171第3層	かわらけ	6.8	4.1	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形
24	123	2	遺構171第3層	かわらけ	7.0	5.3	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形
24	124	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.0)	(4.8)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	125	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.0)	(4.8)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f5/6
24	126	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.0)	(4.0)	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3
24	127	2	遺構171第3層	かわらけ	7.1	4.4	2.2	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:完形
24	128	2	遺構171第3層	かわらけ	7.1	4.6	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/5
24	129	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.2)	(4.8)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	130	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.2)	(5.2)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	131	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.2)	(4.4)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f1/3
24	132	2	遺構171第3層	かわらけ	7.3	4.8	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/5 g:器形の歪み大
24	133	2	遺構171第3層	かわらけ	7.3	4.6	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
24	134	2	遺構171第3層	かわらけ	7.2	4.2	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
24	135	2	遺構171第3層	かわらけ	7.3	3.5	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
24	136	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.3)	4.4	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/3
24	137	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.4)	(5.0)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデの後見込み周囲を回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
24	138	2	遺構171第3層	かわらけ	7.5	5.0	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f2/3
24	139	2	遺構171第3層	かわらけ	7.5	4.2	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2 g:器形の歪み大
24	140	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.6)	(5.6)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2
24	141	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.8)	(3.6)	1.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
24	142	2	遺構171第3層	かわらけ	7.7	4.4	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3 g:口唇部2ヶ所打ち掻き痕
24	143	2	遺構171第3層	かわらけ	(7.8)	(5.8)	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f1/2
24	144	2	遺構171第3層	かわらけ	(8.4)	(4.4)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
24	145	2	遺構171第3層	かわらけ	(10.6)	(5.8)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f2/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:粘薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
24	146	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.8)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:灰黄色 e:良好 f:1/3
24	147	2	遺構171 第3層	かわらけ	10.7	6.8	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	148	2	遺構171 第3層	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
24	149	2	遺構171 第3層	かわらけ	11.7	7.3	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
24	150	2	遺構171 第3層	かわらけ	11.6	6.3	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
24	151	2	遺構171 第3層	かわらけ	(11.4)	(7.4)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
24	152	2	遺構171 第3層	かわらけ	11.7	7.4	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
24	153	2	遺構171 第3層	かわらけ	(11.8)	(7.2)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
24	154	2	遺構171 第3層	かわらけ	11.8	7.2	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
24	155	2	遺構171 第3層	かわらけ	11.9	7.4	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	156	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.0	7.6	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	157	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.1	7.9	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	158	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
24	159	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.1	7.3	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:6/5
24	160	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.0	6.7	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
24	161	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.1	8.2	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
24	162	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.4)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
24	163	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.0)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
24	164	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
24	165	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.2)	(7.4)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
24	166	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.3	7.8	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	167	2	遺構171 第3層	かわらけ	(12.4)	(8.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
24	168	2	遺構171 第3層	かわらけ	12.3	7.5	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/5
24	169	2	遺構171 第3層	かわらけ	13.3	8.5	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
24	170	2	遺構171 第3層	かわらけ	(13.6)	(8.4)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
24	171	2	遺構171 第3層	かわらけ	(14.0)	(9.0)	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/5
24	172	2	遺構171 第3層	青白磁 合子	(5.0)	(2.8)	1.3	a:型作り・口唇部露胎・内面無釉 b:微砂・堅緻 c:灰白色 d:淡青色 e:良好 f:身部分1/3
24	173	2	遺構171 第3層	青白磁 合子	—	—	—	a:輪積み・内外面横位の磨き痕・口縁部横位の磨き痕 b:微砂・白色粒 c:灰黄色 d:灰色 e:良好 f:口縁部片
24	174	2	遺構171 第3層	金属製品 釘	6.6	4.0	0.5~0.7	g:断面方形
24	175	2	遺構171 第3層	石製品 石臼	—	—	—	g:径は推定で19.4cm・条線単位不明
25	176	2	遺構171 第4層	かわらけ	(6.4)	(4.4)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
25	177	2	遺構171 第4層	かわらけ	6.6	4.3	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5 g:底部中央穿孔
25	178	2	遺構171 第4層	かわらけ	7.1	4.8	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:回転糸切痕不明瞭
25	179	2	遺構171 第4層	かわらけ	7.4	5.7	1.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
25	180	2	遺構171 第4層	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
25	181	2	遺構171 第4層	かわらけ	(7.6)	(4.8)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
25	182	2	遺構171 第4層	かわらけ	(7.6)	(5.4)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
25	183	2	遺構171 第4層	かわらけ	7.8	4.7	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
25	184	2	遺構171 第4層	かわらけ	(10.6)	(5.8)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
25	185	2	遺構171 第4層	かわらけ	(10.8)	(5.8)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
25	186	2	遺構171 第4層	かわらけ	(10.8)	(6.4)	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:内面被熱のための器壁剥離・口唇部油煤痕
25	187	2	遺構171 第4層	かわらけ	(11.0)	(7.2)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
25	188	2	遺構171 第4層	かわらけ	11.0	6.9	3.3	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:5/6
25	189	2	遺構171 第4層	かわらけ	11.1	6.0	3.2	a:口クロ・外底回転糸切不明瞭・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:4/5
25	190	2	遺構171 第4層	かわらけ	(11.6)	(7.6)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
25	191	2	遺構171 第4層	かわらけ	(11.8)	(7.3)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
25	192	2	遺構171 第4層	かわらけ	(11.9)	(7.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4
25	193	2	遺構171 第4層	かわらけ	(12.2)	(6.8)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
25	194	2	遺構171 第4層	かわらけ	(12.0)	(6.4)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:器形の歪み大

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
25	195	2	遺構171 第4層	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
25	196	2	遺構171 第4層	瀬戸 折縁深皿	—	(11.0)	[2.6]	a:口クロ・外底回転糸切 b:微砂・良土 c:黄灰色 e:良好 f:底部片 g:釉・内面ハケヌリ 外面下部露胎・外底部露胎
25	197	2	遺構171 第4層	瓦器質 火鉢	—	—	[9.3]	a:輪積み・内外面黒色処理・内面横位の磨き b:灰色・小石粒・微砂・軟質 c:灰色 e:良好 f:口縁部・脚部片 g:内外面器壁剥離・僅かに外面上位に沈線間に珠文の貼付け痕が遺存
25	198	2	遺構171 第4層	金属製品 用途不明	(12.5)	0.4	0.2	g:表面に約3mm単位で横位の刻みが入る・断面方形・銅製品
25	199	2	遺構171 第5層	かわらけ	5.9	3.5	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:内面一部が黒色に変色
25	200	2	遺構171 第5層	かわらけ	6.0	4.2	1.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
25	201	2	遺構171 第5層	かわらけ	6.4	3.8	1.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
25	202	2	遺構171 第5層	かわらけ	6.3	4.1	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形
25	203	2	遺構171 第5層	かわらけ	(6.4)	(4.0)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
25	204	2	遺構171 第5層	かわらけ	6.3	4.1	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:完形 g:外底部へう状工具によって糸切の整形痕を消している(拓本あり)
25	205	2	遺構171 第5層	かわらけ	(6.9)	(4.3)	1.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
25	206	2	遺構171 第5層	かわらけ	(7.7)	(4.2)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
25	207	2	遺構171 第5層	かわらけ	(7.5)	(4.2)	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3 g:外底部摩耗
25	208	2	遺構171 第5層	かわらけ	7.8	4.6	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
25	209	2	遺構171 第5層	かわらけ	(9.8)	(5.1)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針 良土 c:橙色 e:良好 f1/2
25	210	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.2	6.6	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
25	211	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.2	5.9	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
25	212	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.2	5.7	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
25	213	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.3	6.1	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
25	214	2	遺構171 第5層	かわらけ	(10.4)	(5.9)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2 g:焼成前に口唇部を指頭によって片口状に整形
25	215	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.5	6.3	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
25	216	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.5	6.0	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
25	217	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.6	5.7	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
25	218	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.7	5.9	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
25	219	2	遺構171 第5層	かわらけ	10.9	5.5	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
25	220	2	遺構171 第5層	かわらけ	11.0	6.0	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
25	221	2	遺構171 第5層	かわらけ	11.1	6.4	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
25	222	2	遺構171 第5層	かわらけ	11.1	3.2	5.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
25	223	2	遺構171 第5層	かわらけ	(11.4)	(6.9)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3 g:内底部黒色に変色
25	224	2	遺構171 第5層	かわらけ	(11.6)	(6.6)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
25	225	2	遺構171 第5層	かわらけ	12.1	7.0	4.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
25	226	2	遺構171 第5層	かわらけ	(12.5)	(7.1)	4.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
25	227	2	遺構171 第5層	かわらけ	12.5	6.7	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6
25	228	2	遺構171 第5層	かわらけ	12.5	6.8	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
25	229	2	遺構171 第5層	かわらけ	12.9	6.7	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
25	230	2	遺構171 第5層	かわらけ	(12.9)	(6.5)	4.4	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
25	231	2	遺構171 第5層	かわらけ	(13.5)	(7.9)	3.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
25	232	2	遺構171 第5層	瀬戸 入子	—	(4.0)	[1.6]	a:口クロ b:微砂・良土 c:灰色 e:良好 f:底部片1/3
25	233	2	遺構171 第5層	瓦器質 香炉	—	—	—	a:輪積み・内面横位の整形痕 b:灰色・小石粒・微砂・軟質 c:灰色 e:良好 f:口縁部片 g:黒色処理の痕跡はないが、外面ミガキの処理は見受けられる・外面上位から沈線-雷文-沈線-凸帯-沈線-方形内に斜線の文-沈線-龍文のスタンプ
26	1	2	遺構56	加工石	17.1	11.1	6.0	g:楕円形を呈する安山岩・平面やや中央部を人為的に削っている・用途不明・礎石か
26	2	2	遺構52	かわらけ	(11.0)	(5.6)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
26	3	2	遺構61	かわらけ	(7.3)	(4.5)	1.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
26	4	2	遺構60	土製 人形	[2.8]	[2.9]	[1.8]	a:手捻り b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒 やや粗土(かわらけ質) c:橙色 e:良好 f1/2 g:巫女の袴姿か・腰部分に上指糸の装飾・上半身欠損
26	5	2	遺構67	かわらけ	(7.3)	(4.7)	1.8	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
26	6	2	遺構67	かわらけ	(7.2)	(4.9)	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ不明 b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3
26	7	2	遺構67	かわらけ	9.1	6.5	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
26	8	2	遺構67	かわらけ	12.1	7.9	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/2
26	9	2	遺構132	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.5	a:口クロ・外底回転糸切・内底ナデ・口唇部打ち掻け痕 b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f1/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					()=復元値 []=残存値			
26	10	2	遺構132	かわらけ	7.7	4.0	2.8	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
26	11	2	遺構68	かわらけ	(10.7)	(5.8)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
26	12	2	遺構172	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2 g:器形の歪み大
27	1	2	第2面構成土	かわらけ	6.1	4.5	1.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
27	2	2	第2面構成土	かわらけ	6.4	3.9	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底回転ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:外底部焼成前の雑な整形痕が残る
27	3	2	第2面構成土	かわらけ	6.7	3.9	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
27	4	2	第2面構成土	かわらけ	6.7	4.0	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2
27	5	2	第2面構成土	かわらけ	6.8	4.2	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
27	6	2	第2面構成土	かわらけ	(6.8)	(4.5)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
27	7	2	第2面構成土	かわらけ	7.0	4.3	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
27	8	2	第2面構成土	かわらけ	(7.1)	(4.0)	2.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
27	9	2	第2面構成土	かわらけ	7.3	4.0	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
27	10	2	第2面構成土	かわらけ	7.3	4.3	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:ほぼ完形
27	11	2	第2面構成土	かわらけ	7.4	4.6	2.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
27	12	2	第2面構成土	かわらけ	7.4	5.1	2.1~3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
27	13	2	第2面構成土	かわらけ	7.6	4.6	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
27	14	2	第2面構成土	かわらけ	(7.6)	(5.4)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
27	15	2	第2面構成土	かわらけ	8.0	5.4	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
27	16	2	第2面構成土	かわらけ	7.7	4.7	2.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
27	17	2	第2面構成土	かわらけ	(7.8)	(5.1)	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
27	18	2	第2面構成土	かわらけ	7.9	4.3	2.3~2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2 g:器形の歪み大
27	19	2	第2面構成土	かわらけ	7.9	5.3	2.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:器形の歪み大
27	20	2	第2面構成土	かわらけ	7.6	3.6	2.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
27	21	2	第2面構成土	かわらけ	8.0	4.6	2.6	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
27	22	2	第2面構成土	かわらけ	8.0	4.4	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
27	23	2	第2面構成土	かわらけ	(8.8)	(6.2)	2.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3 g:糸切痕不明瞭
27	24	2	第2面構成土	かわらけ	9.3	5.8	2.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:2/3
27	25	2	第2面構成土	かわらけ	(10.4)	(6.2)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
27	26	2	第2面構成土	かわらけ	10.7	6.3	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4
27	27	2	第2面構成土	かわらけ	10.7	6.3	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4 g:器形の歪み大
27	28	2	第2面構成土	かわらけ	(10.7)	(5.8)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3 g:器形の歪み大
27	29	2	第2面構成土	かわらけ	10.8	6.9	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
27	30	2	第2面構成土	かわらけ	(11.0)	(6.0)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:3/4
27	31	2	第2面構成土	かわらけ	(11.0)	(6.2)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3 g:糸切痕不明瞭
27	32	2	第2面構成土	かわらけ	(11.0)	(6.3)	3.1	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:2/3
27	33	2	第2面構成土	かわらけ	11.0	6.1	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:3/4 g:内外面口唇部近く薄く黒色に変色
27	34	2	第2面構成土	かわらけ	(11.2)	(7.2)	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
27	35	2	第2面構成土	かわらけ	(11.2)	(6.2)	3.7	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
27	36	2	第2面構成土	かわらけ	11.3	6.5	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
27	37	2	第2面構成土	かわらけ	11.4	5.7	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
27	38	2	第2面構成土	かわらけ	11.4	7.5	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:完形
27	39	2	第2面構成土	かわらけ	(11.4)	(7.2)	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3
27	40	2	第2面構成土	かわらけ	11.4	6.5	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:4/5
27	41	2	第2面構成土	かわらけ	(11.7)	(7.4)	3.0	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
27	42	2	第2面構成土	かわらけ	(11.5)	(7.1)	2.9	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
27	43	2	第2面構成土	かわらけ	(11.7)	(7.0)	3.4	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
27	44	2	第2面構成土	かわらけ	11.8	7.5	3.3	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:ほぼ完形
27	45	2	第2面構成土	かわらけ	(11.4)	6.8	3.2	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/2 g:見込みにより円形の孔が開く。孔径は約2.8cm
27	46	2	第2面構成土	かわらけ	(11.8)	(7.0)	3.5	a:口クロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:粘葉 e:焼成 f:遺存値 g:備考
					() = 復元値 [] = 残存値			
27	47	2	第2面 構成土	かわらけ	12.0	7.2	3.2	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
27	48	2	第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(6.7)	3.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
27	49	2	第2面 構成土	かわらけ	(12.0)	(6.7)	3.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
27	50	2	第2面 構成土	かわらけ	12.4	6.8	3.4	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
27	51	2	第2面 構成土	かわらけ	12.5	7.4	3.5~3.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5 g:器形の歪み大
27	52	2	第2面 構成土	かわらけ	12.2	7.5	3.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 fほぼ完形 g:器形の歪み大
27	53	2	第2面 構成土	かわらけ	(12.5)	(7.5)	4.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
27	54	2	第2面 構成土	かわらけ	12.6	7.7	3.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
27	55	2	第2面 構成土	かわらけ	12.6	7.7	3.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
27	56	2	第2面 構成土	かわらけ	(12.9)	(8.0)	3.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
27	57	2	第2面 構成土	かわらけ	12.9	8.4	3.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
27	58	2	第2面 構成土	かわらけ	13.0	7.7	4.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 fほぼ完形 g:器形の歪み大
27	59	2	第2面 構成土	かわらけ	13.1	6.3	4.0	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 fほぼ完形 g:見込みに黒色の付着物・漆か
28	60	2	第2面 構成土	かわらけ	13.0	7.7	3.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
28	61	2	第2面 構成土	かわらけ	13.0	7.7	4.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒粗土 c:黄褐色 e:良好 f3/4 g:器形の歪み大
28	62	2	第2面 構成土	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
28	63	2	第2面 構成土	かわらけ	(13.6)	(8.0)	3.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
28	64	2	第2面 構成土	かわらけ	(15.4)	(8.6)	4.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f2/3
28	65	2	第2面 構成土	瀬戸 鉢	—	5.8	[3.2]	a:ロクロ 底部削りだし・輪高台・内底部目跡痕 b:微砂 c:灰黄色 d:白濁した灰緑色 e:良好 f:口縁部片 g:大窯1期か 外底部薄く墨書痕・判読不明(三?川?)
28	66	2	第2面 構成土	金属製品 刀子	[7.8]	[1.3]	[0.5]	鑄付着のため原型不明
30	1		表土 攪乱	かわらけ	13.8	—	3.1	a:てづくね・外面上部横ナデ整形・外面下部指頭による整形痕・見込み中央に凹痕・穿孔途中か b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3 g:器形の歪み大
30	2		表土 攪乱	かわらけ	(5.9)	(3.9)	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
30	3		表土 攪乱	かわらけ	(6.0)	(4.7)	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
30	4		表土 攪乱	かわらけ	6.3	4.7	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6
30	5		表土 攪乱	かわらけ	(6.0)	(2.9)	2.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2
30	6		表土 攪乱	かわらけ	6.1	4.7	1.8	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・白色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f2/3
30	7		表土 攪乱	かわらけ	6.1	4.1	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f3/4
30	8		表土 攪乱	かわらけ	(6.3)	(3.8)	2.4	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
30	9		表土 攪乱	かわらけ	(6.4)	(4.0)	2.2	a:ロクロ・外底回転系切不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/2 g:内外面摩耗
30	10		表土 攪乱	かわらけ	6.7	4.5	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f完形
30	11		表土 攪乱	かわらけ	7.0	5.1	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 fほぼ完形
30	12		表土 攪乱	かわらけ	6.8	4.4	2.2	a:ロクロ・外底回転系切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・白色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f4/5
30	13		表土 攪乱	かわらけ	7.0	4.7	2.2	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 fほぼ完形
30	14		表土 攪乱	かわらけ	(7.1)	(4.6)	2.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
30	15		表土 攪乱	かわらけ	7.2	4.3	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 fほぼ完形
30	16		表土 攪乱	かわらけ	(7.2)	(4.2)	2.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	17		表土 攪乱	かわらけ	7.3	4.3	2.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6 g:器形の歪み大
30	18		表土 攪乱	かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.4	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3 g:器形の歪み大
30	19		表土 攪乱	かわらけ	(7.5)	(4.7)	2.2	a:ロクロ・外底回転系切・内底強くナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	20		表土 攪乱	かわらけ	7.5	4.5	2.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 fほぼ完形 g:器形の歪み大
30	21		表土 攪乱	かわらけ	(7.6)	(5.2)	2.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	22		表土 攪乱	かわらけ	(7.7)	(5.4)	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	23		表土 攪乱	かわらけ	(7.7)	(4.6)	2.2	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	24		表土 攪乱	かわらけ	7.6	4.1	2.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f5/6
30	25		表土 攪乱	かわらけ	(7.6)	(4.9)	2.3	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/4
30	26		表土 攪乱	かわらけ	(7.5)	(4.8)	2.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	27		表土 攪乱	かわらけ	(7.8)	(4.7)	2.4	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f完形
30	28		表土 攪乱	かわらけ	(7.9)	(5.8)	2.7	a:ロクロ・外底回転系切・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3
30	29		表土 攪乱	かわらけ	(8.0)	(4.2)	2.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好 f1/3

単位 (Cm)

出土遺物観察表

図版番号	枝番	面	出土位置	種別	口径/長さ 底径/幅 器高/厚さ			a:成形 b:胎土・素地 c:色調 d:釉薬 e:焼成 f:遺存値 g:備考 ()=復元値 []=残存値
					()	[]	[]	
30	30		表土攪乱	かわらけ	(8.4)	(5.6)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/4 g:底部粘土板貼付けか
30	31		表土攪乱	かわらけ	(8.6)	(6.2)	2.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
30	32		表土攪乱	かわらけ	10.0	6.2	2.8	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデシナデ痕が内面下部まで引き上げられる b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5
30	33		表土攪乱	かわらけ	(9.7)	(5.7)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	34		表土攪乱	かわらけ	(10.2)	(6.2)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	35		表土攪乱	かわらけ	(10.4)	(6.8)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/2
30	36		表土攪乱	かわらけ	(10.6)	(6.3)	2.2	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	37		表土攪乱	かわらけ	(10.6)	(7.6)	2.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
30	38		表土攪乱	かわらけ	10.7	6.7	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:完形 g:器形の歪み大
30	39		表土攪乱	かわらけ	(10.8)	(6.6)	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
30	40		表土攪乱	かわらけ	(10.8)	(7.2)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:4/5
30	41		表土攪乱	かわらけ	(11.0)	(7.6)	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
30	42		表土攪乱	かわらけ	(11.2)	(7.7)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4 g:内面鉄分付着
30	43		表土攪乱	かわらけ	(11.1)	(6.3)	3.4	a:ロクロ・外底回転糸切・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:黄褐色 e:良好 f:5/6
30	44		表土攪乱	かわらけ	(11.2)	(7.3)	2.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
30	45		表土攪乱	かわらけ	11.1	6.5	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
30	46		表土攪乱	かわらけ	11.3	6.6	3.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:内面全体に黒色に変色・外面一部が黒色に変色
30	47		表土攪乱	かわらけ	(11.3)	(7.0)	3.0	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	48		表土攪乱	かわらけ	(12.1)	(7.9)	3.2	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
30	49		表土攪乱	かわらけ	(12.5)	(7.0)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	50		表土攪乱	かわらけ	(12.1)	(7.0)	4.4	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/4
30	51		表土攪乱	かわらけ	(12.6)	(6.4)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
30	52		表土攪乱	かわらけ	(12.8)	(7.3)	3.6	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
30	53		表土攪乱	かわらけ	(12.5)	(7.0)	4.1	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:ほぼ完形 g:器形の歪み大
30	54		表土攪乱	かわらけ	(12.7)	(7.0)	3.3	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:黄褐色 e:良好 f:1/3
30	55		表土攪乱	かわらけ	(13.3)	(7.5)	3.5	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/2
30	56		表土攪乱	かわらけ	12.8	7.2	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 粗土 c:褐色 e:良好 f:5/6
30	57		表土攪乱	かわらけ	(14.0)	(8.0)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:2/3
30	58		表土攪乱	かわらけ	(13.2)	(7.3)	3.9	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒・小石粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
30	59		表土攪乱	かわらけ	(13.3)	(8.1)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切不明瞭・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
30	60		表土攪乱	かわらけ	(13.5)	(8.9)	3.7	a:ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b:微砂・雲母・海綿骨針・赤色粒・黒色粒・泥岩粒 やや粗土 c:褐色 e:良好 f:1/3
30	61		表土攪乱	青磁 坏	—	—	—	a:ロクロ b:黒色粒・精良堅緻 c:灰色 d:深緑色 e:良好 f:口縁部片 g:内外面無文 大宰府青磁坏Ⅲ類 龍泉窯
30	62		表土攪乱	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:灰褐色 d:暗灰色 e:良好 f:口縁部片 g:5型式
30	63		表土攪乱	常滑 甕	—	—	—	a:輪積み b:微砂・白色粒 c:茶褐色 d:茶褐色 e:良好 f:胴部片 g:格子文の叩き痕

単位 (Cm)

出土遺物破片数表

		第1面				第2面		第3面		表土・攪乱	合計	%	
		1a面遺構	1b面遺構	面上	構成土	遺構	構成土	遺構	面上				
かわらけ	糸・大(中含)	3347	10872	235	1155	3640	173	58		3148	22,628	89.89	
	糸・小	374	888	20	84	417	14	1		131	1,929	7.66	
	手・大					1	1			7	9	0.04	
	耳皿		1								1	0.00	
	白かわらけ	5	3					1			9	0.04	
舶載陶磁器	青磁	連弁文碗	7	1		1	1				2	12	0.05
		劃花文碗		1								1	0.00
		碗		17	1		2				3	23	0.09
		折縁鉢		1							1	2	0.01
		折縁鉢	1	1		1						3	0.01
		香炉		2								2	0.01
		水注										1	0.00
		壺			1						2	3	0.01
		器種不明	3	3		1					1	8	0.03
		青白磁	皿		1							2	3
	梅瓶			3								3	0.01
	水注				1							1	0.00
	合子						2					2	0.01
	白磁	口兀	皿		1							1	0.00
			碗		2							2	0.01
		皿		1								1	0.00
		碗	1				1					2	0.01
		壺	2	1								3	0.01
		合子		1								1	0.00
	国産陶器	瀬戸	皿	1	1						2	4	0.02
碗							1				1	0.00	
折縁皿			1	1	1							3	0.01
入子			3	1			1			1	6	0.02	
平碗				1								1	0.00
御皿			1				1					2	0.01
直縁大皿				1			1	1				3	0.01
柄付き片口			1									1	0.00
洗				1							1	2	0.01
水注				1								1	0.00
壺											1	1	0.00
四耳壺				2							1	3	0.01
仏華瓶				1								1	0.00
香炉				1								1	0.00
緑釉小皿		2	2								4	0.02	
天目茶碗			2								2	0.01	
褐釉壺			3	1							4	0.02	
器種不明		3	4			1				3	11	0.04	
常滑		片口鉢	I類	8	10	1		6			2	27	0.11
			II類	12	9			3				24	0.10
		壺	37	71	4	5	13				27	157	0.82
		壺		1								1	0.00
山皿			1								1	0.00	
山茶碗						1					1	0.01	
瀬美		壺	2	6			1				3	12	0.05
		壺		2								2	0.01
土器・土製品		瓦器質	黒縁皿	1	2					7		10	0.04
	瓦器碗		3								3	0.01	
	香炉		1				1				2	0.01	
	火鉢		32	49	1	3	15			12	112	0.44	
	火鉢転用品		1								1	0.00	
	瓦	1	2								3	0.01	
	吉備系					1					1	0.00	
	人形					1					1	0.00	
	灯明台		1								1	0.00	
	不明		1					1			2	0.01	
金属製品	鉄	釘	29	8	1		3		1	2	44	0.17	
		銭	7	3		3					13	0.05	
	銅製品					1					1	0.00	
	スラグ					1					1	0.00	
石製品	不明	1				2					3	0.01	
	砥石	1	1			1				1	4	0.02	
	硯	2	1	1		1				1	6	0.02	
	チャート	2									2	0.01	
	滑石鍋	1	1								2	0.01	
	石臼					1					1	0.00	
自然遺物	不明		1			1					2	0.01	
	雲母		1								1	0.00	
	炭化物	6	8								14	0.08	
	人骨		2								2	0.01	
古代	土師器	壺	2	3			1			1	7	0.03	
		壺					1				1	0.00	
近世	染付	碗		1						2	3	0.01	
		碗		1							1	0.00	
	白磁	碗		1							1	0.00	
		丸瓦		1							1	0.00	
	火鉢								1	1	0.00		
合計		3,902	12,009	268	1,253	4,124	189	62	7	3,360	25,174	100.00	
%		15.50	47.70	1.06	4.98	16.38	0.75	0.25	0.03	13.35	100.00		



◀ I区 第1面全景（西から）



II区 第1面全景（北から） ▶



◀ II区 第16面・遺構157
かわらけ出土状況



◀ I区 第1a面遺構15
検出前の状況

II区 第1a面・遺構15 ▶
検出途中



◀ I区 第1a面・遺構15
完掘状況



▲ I区 第2面全景（東から）



▲ II区 第2面全景（北から）

Ⅱ区 第2面・遺構 170・171 ▶
検出状況



◀ Ⅱ区 第2面・遺構 170・171
かわらけ出土状況

Ⅱ区 第2面・遺構 170・遺構 171 完掘状況 ▶





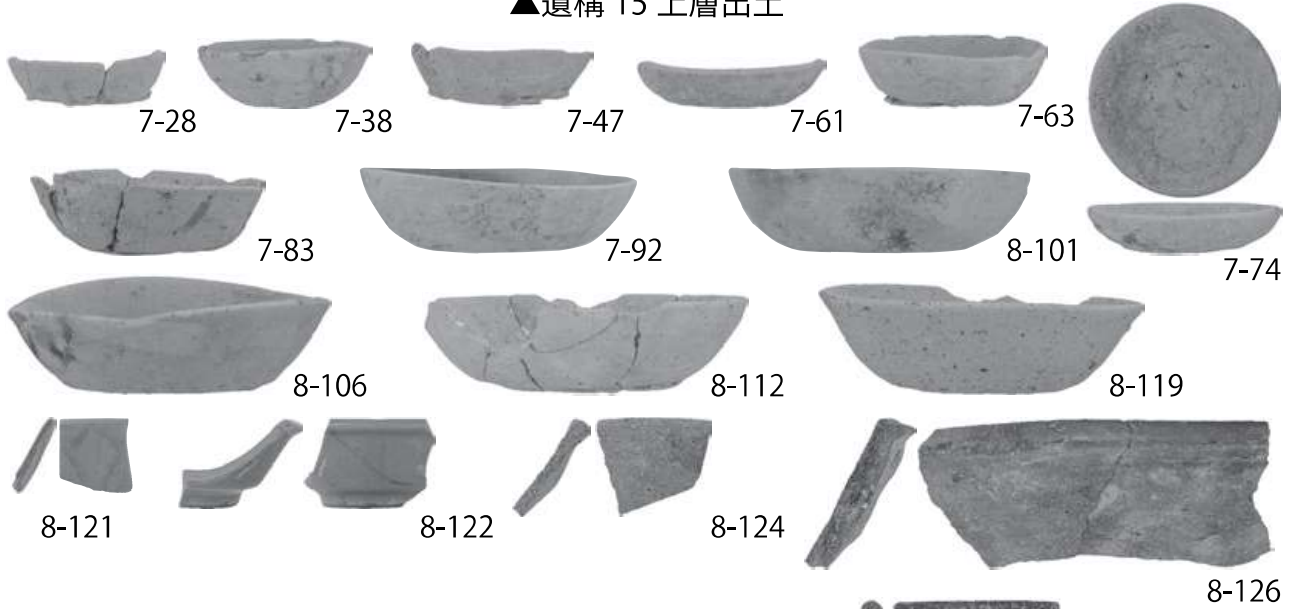
▲ I区 第3面全景（西から）



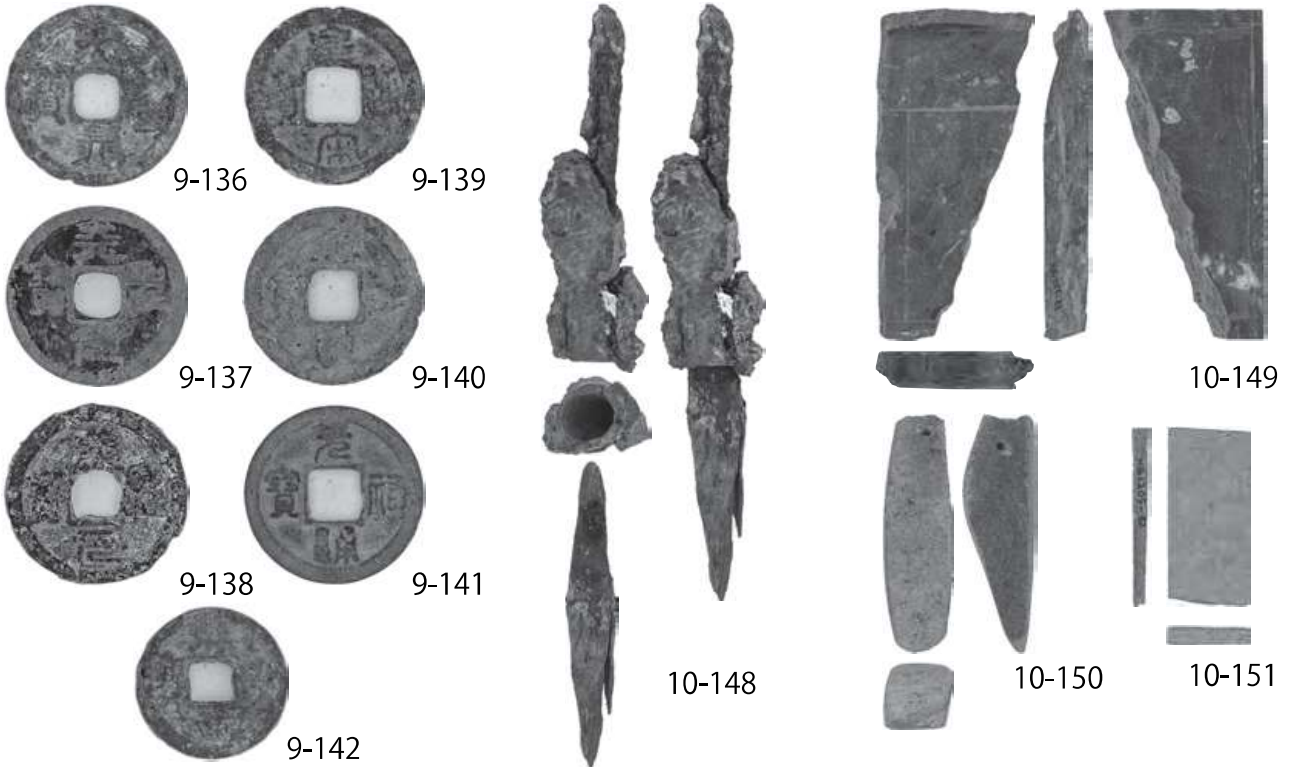
▲ II区 第3面全景（北から）



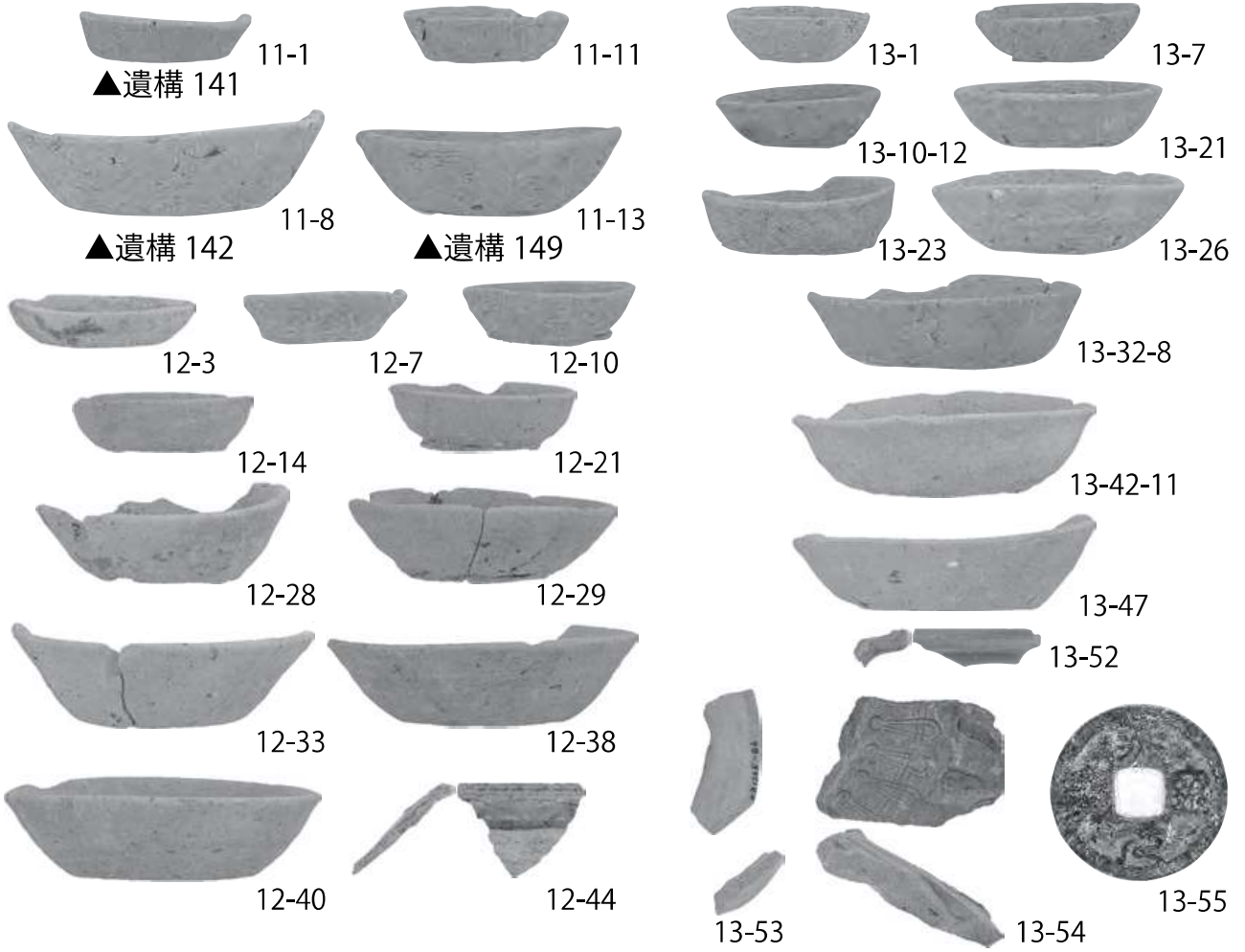
▲遺構 15 上層出土



▲遺構 15 下層出土



▲遺構 15



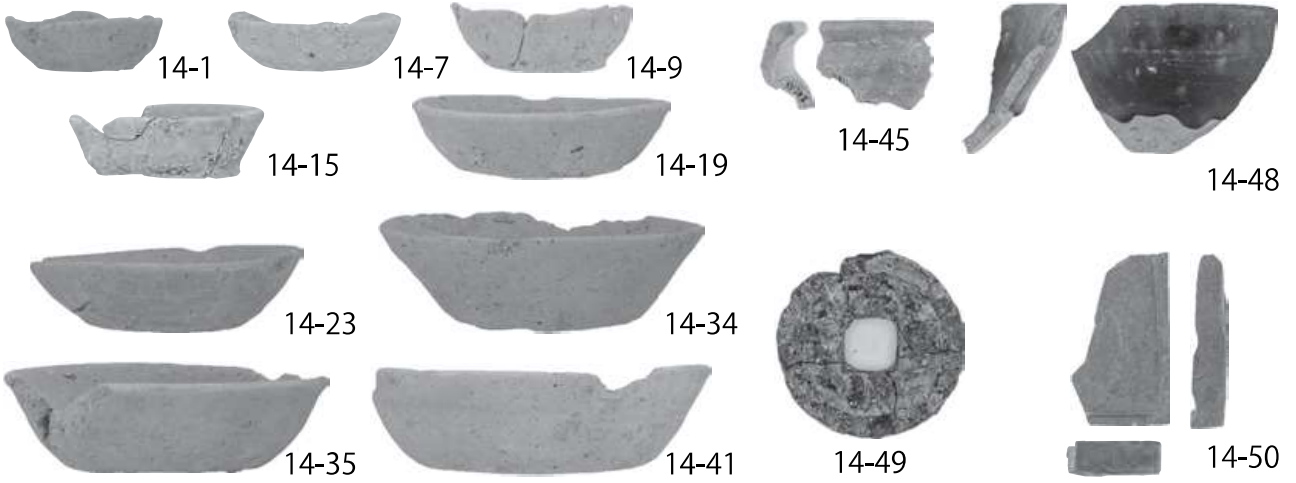
▲遺構 141

▲遺構 142

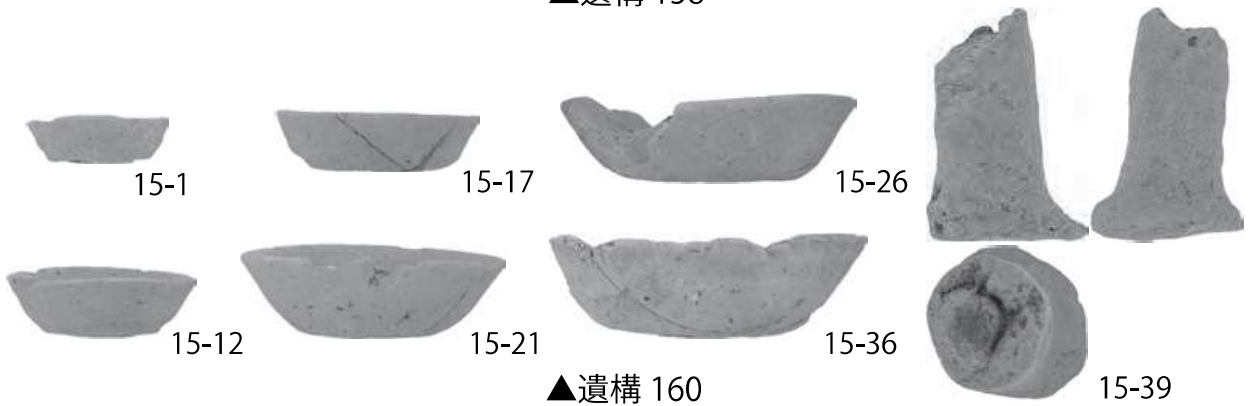
▲遺構 149

▲遺構 156

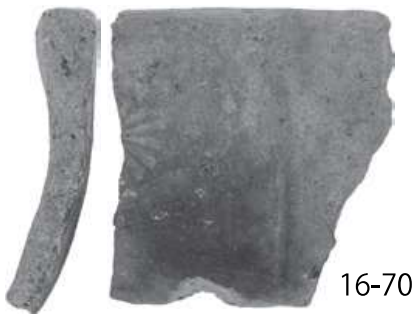
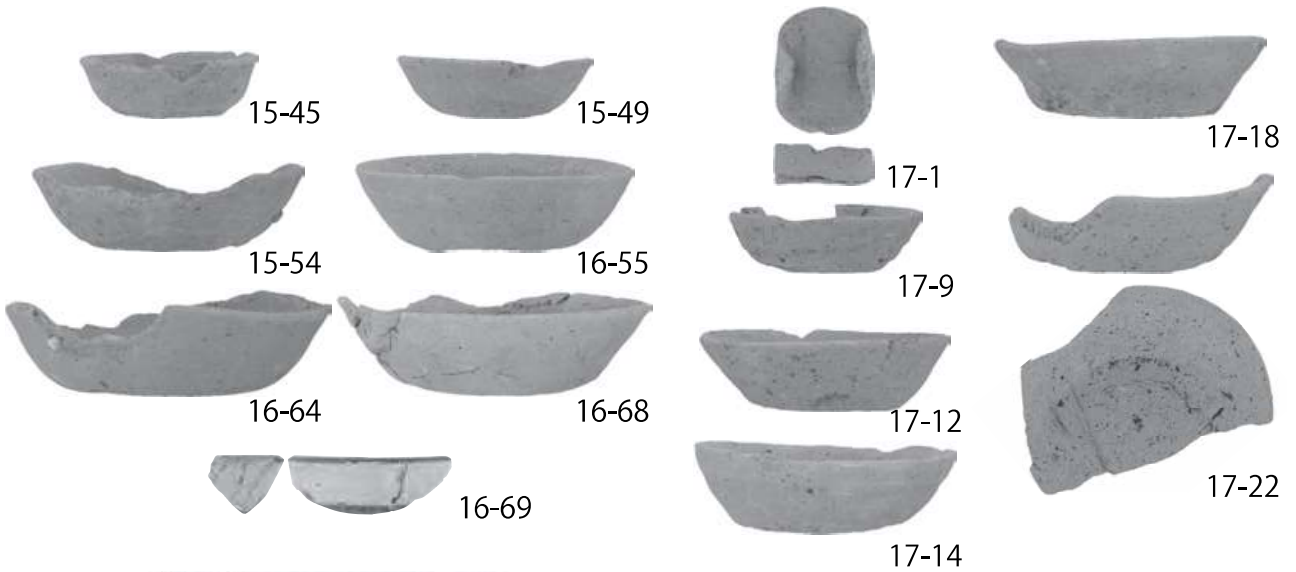
▲遺構 157



▲遺構 158



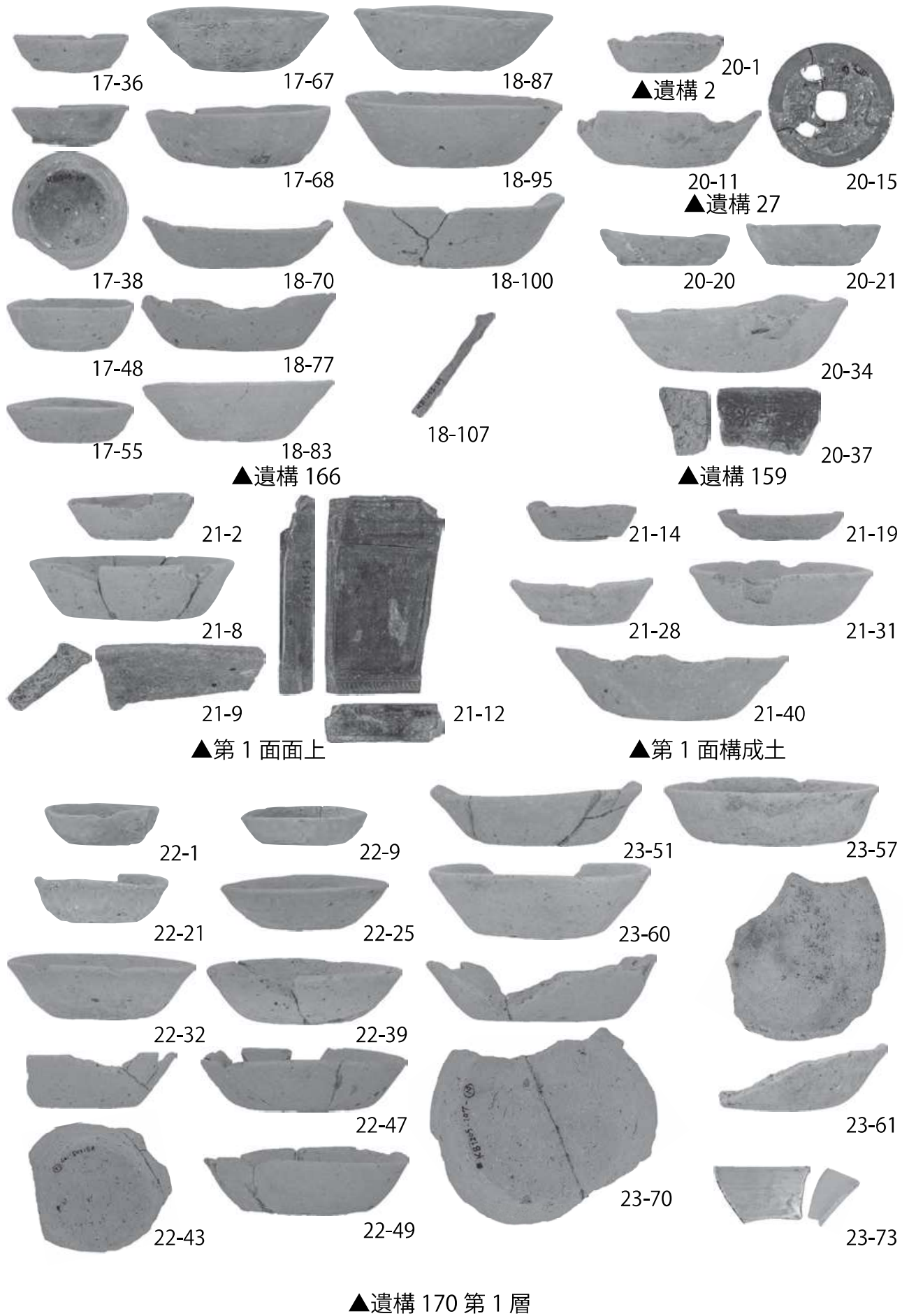
▲遺構 160



▲遺構 161



▲遺構 165





▲遺構 171 第 2 層

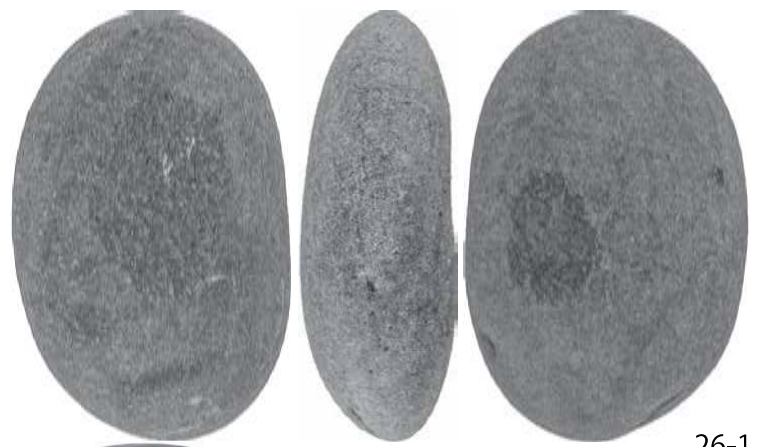


▲遺構 171 第 3 層

▲遺構 171 第 4 層



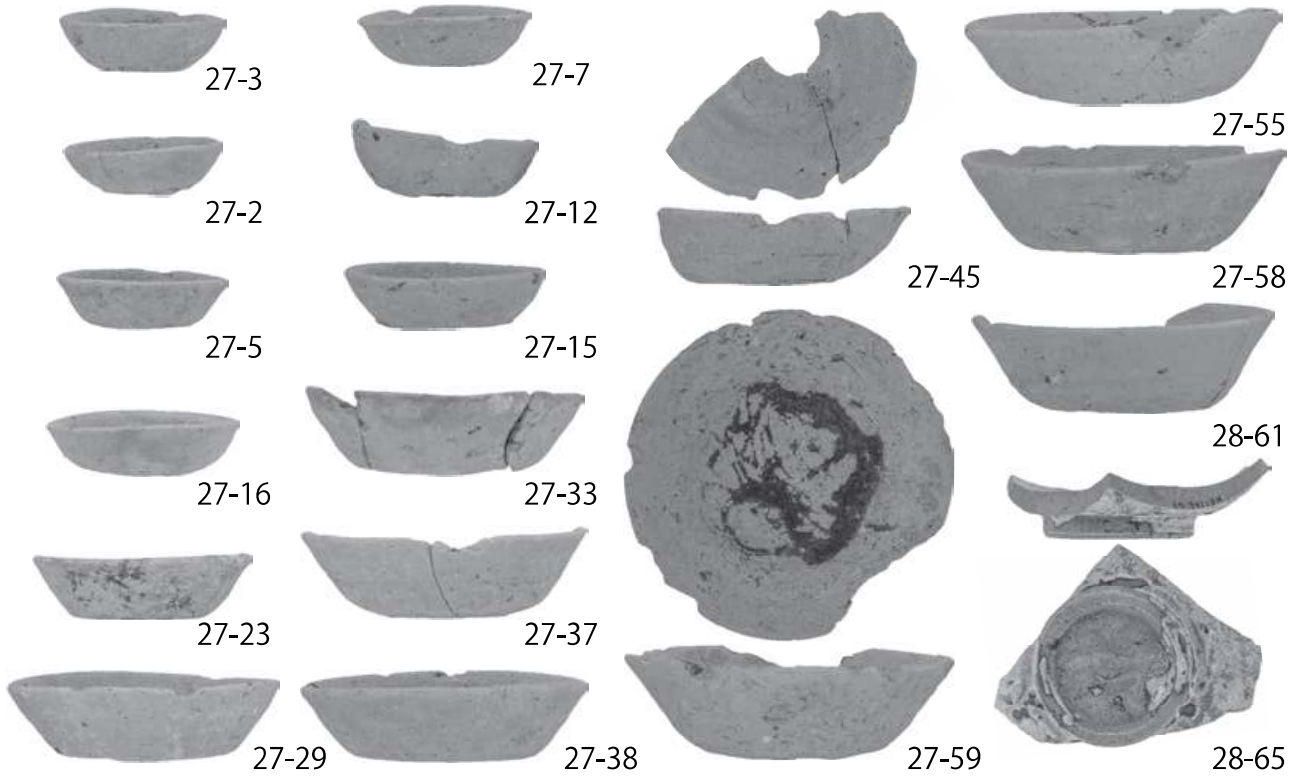
▲遺構 171 第 5 層



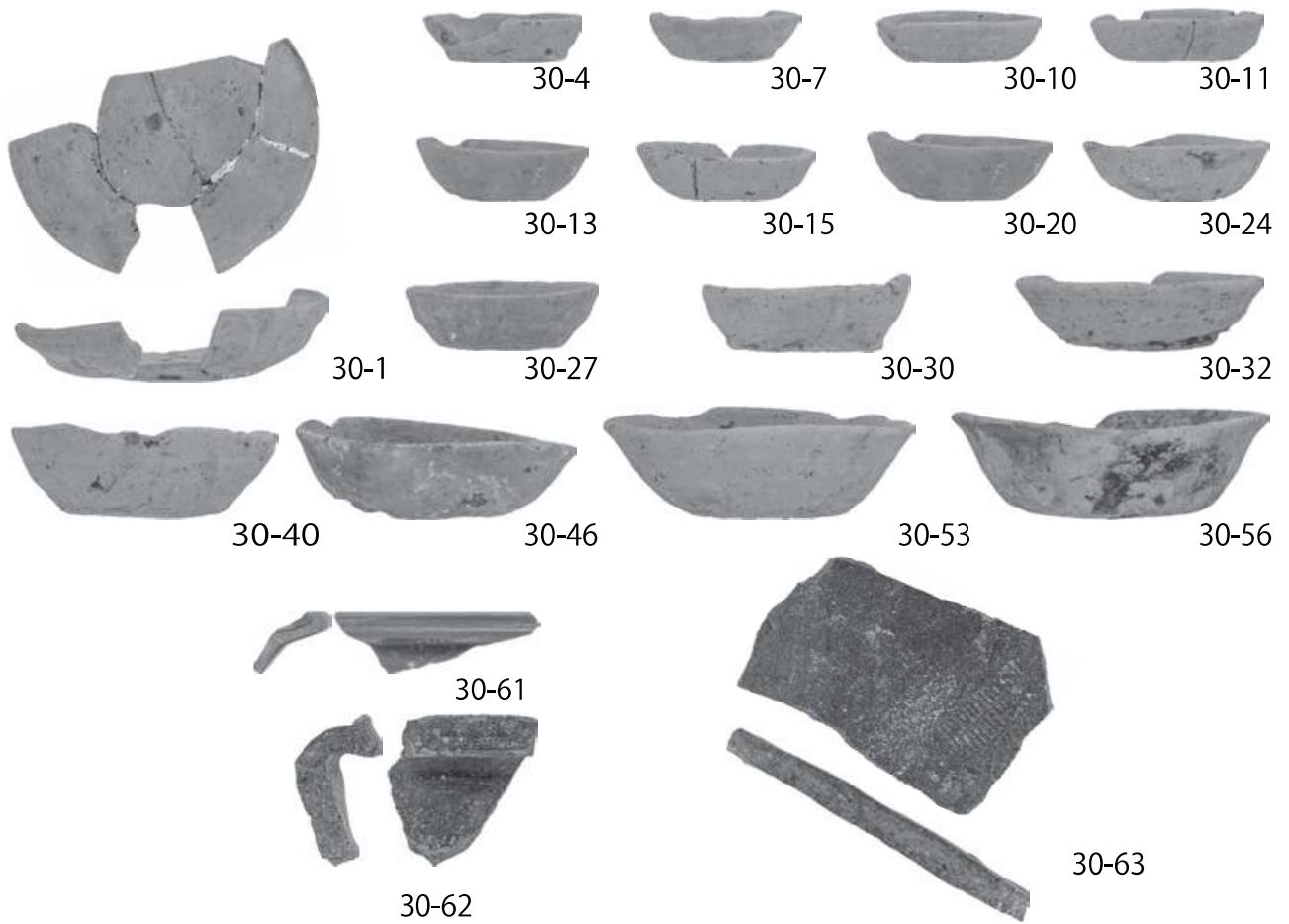
▲遺構 56



▲遺構 60



▲第2面構成土



▲表土攪乱

名越ヶ谷遺跡 (No. 293)

鎌倉市大町四丁目 2370 番 2 の一部

例 言

1. 本報は鎌倉市大町四丁目 2370 番 2 の一部地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人住宅建築にかかる建築範囲約 29.66 m²を対象とし、平成 29 年 1 月 11 日から 3 月 8 日にかけて実施した。
3. 現地における調査体制は以下の通りである。
調査担当者：後藤健
調査員：岡田慶子・松吉里永子
作業員：大塚尚城・南齋敬資・新倉恒勝・根市真古人
4. 本報告作成は以下の分担により行った。
遺物実測：岩崎卓治・須佐直子
遺物図版作成：後藤健・岡本夏菜・清水由加里・菅野智子・神田倫子
遺構図版作成：後藤健
観察表：岡本夏菜
遺構写真：後藤健
遺物写真：後藤健
写真図版作成：後藤健
執筆：後藤健
5. 発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。
6. 本報告の遺物図版の縮尺は以下の通りである。
遺物実測図 1/3、銭 1/1 挿図にはスケールを表示してある。
7. 遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。
 - ・復元実測の遺物に関しては、計測値に () を付して表記している。
 - ・木製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。
 - ・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
 - ・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所で計測している。
 - ・陶磁器に関しては、常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。
8. 発掘調査及び報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)
伊丹まどか、汐見一夫、坪田弘子、松島義章

目次

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境	175
第2節 調査の方法と経緯	178
第3節 堆積土層	179

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物	182
第2節 第2面の遺構・遺物	183
第3節 第3面の遺構・遺物	186
第4節 第3面以下の堆積	190
第5節 第6面	190
第6節 その他出土遺物	192
第7節 近代の遺構と出土遺物	192

第三章 考察とまとめ

201

第四章 名越ヶ谷遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析

204

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	176
図2 調査位置とグリッド配置図	178
図3 調査区中央堆積土層図	179
図4 調査区壁面堆積土層図	180
図5 第1面全体図 (S=1/50)	182
図6 第2面全体図 (S=1/50)	184
図7 第2面出土遺物	185
図8 第3面全体図 (S=1/50)	187
図9 第3面遺構 134 (S=1/40)	188
図10 第3面遺構土出土遺物	189
図11 第6層全測図および出土遺物	191
図12 遺構外の出土遺物	192
図13 桶平面・断面および出土遺物	192
図14 桶1部材(1)	193
図15 桶1部材(2)	194
図16 桶1部材(3)	195
図17 桶2部材(1)	196
図18 桶2部材(2)	197

図 19	近代遺物 1	198
図 20	近代遺物 2	199
図 21	近代遺物 3	200
図 22	名越ヶ谷遺跡における花粉分布図	206
図 23	名越ヶ谷遺跡における植物珪酸体分布図	206
図 24	名越ヶ谷遺跡から産出した花粉化石	208
図 25	名越ヶ谷遺跡から産出した植物珪酸体	209

表目次

表 1	分析試料一覧表	204
表 2	産出花粉胞子一覧表	205
表 3	試料1g当りのプラント・オパール個数	205
表 4	中世出土遺物観察表	210
表 5	出土遺物集計表	213
表 6	出土自然遺物集計表	214

図版目次

写真図版 1	215
写真図版 2	216
写真図版 3	217
写真図版 4	218
写真図版 5	219
写真図版 6	220
写真図版 7	221

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境（図1）

本調査地点は JR 横須賀線鎌倉駅の南東約 1km、鎌倉市大町四丁目 2370 番 2 に所在する。

名越ヶ谷は鎌倉市街地の東部に位置する大規模な谷戸であり、さらに松葉ヶ谷・花ヶ谷・山王ヶ谷などの支谷を包括している。

調査地点の南方には現在 JR 横須賀線が走り、北西から南東へ「県道鎌倉・葉山線」が通る。さらに東方には鎌倉七口の一つである「名越切通」があり、都市鎌倉の東の周縁にあたる。不確定ではあるものの、調査地点南方の道は、古代東海道と推定されており、古代から鎌倉時代を通じて鎌倉東南の交通の要衝にあたる地であったと考えられる。

調査地点は松葉ヶ谷の開口部にあたり、丘陵の崖線からは西へ 100 m ほどの平坦地である。西北へ約 90 m の地点には周囲の複数の谷戸や衣張山を水源とする逆川が流れ、南行して途中で西へと流れを変え滑川に合流する。

東側の谷戸には妙法寺・安国論寺・長勝寺、逆川を越えた西側の丘陵沿いには大宝寺・安養院などの寺院がある。

安国論寺は妙法山安国論寺と号する。開山日蓮。寺伝によれば建長 5 年（1253）、日蓮が安房国から鎌倉に来て初めて小庵を営んだ箇所であり、文応元年の松葉ヶ谷法難の跡と伝えられている。

横須賀線の線路を越えた南側には長勝寺がある。石井山長勝寺と号し、かつて妙法寺と称したともいわれる。開山日蓮。貞和元年（1345）に日静が京都に移した本圀寺の跡を石井長勝が復興して建立したとされる。長勝寺境内ではかつて発掘調査が行われており、中世末期と考えられる土壌墓群や、南北朝～室町時代に属すると推定される石垣などが確認されている。中世の長勝寺に関わる可能性のある遺構群として注目される。

調査地から北西の小谷戸には妙法寺がある。楞巖山妙法寺と号する。開山日蓮、中興開山を五世日叡とする。妙法寺も松葉ヶ谷小庵と称する。

大宝寺は調査地の西北の谷戸に位置し、多福山一乗院大宝寺と号す。開山は日出。源義光が後三年の役の後にこの地に館を構え、以来佐竹義秀など佐竹一族の居地であったと伝承されている。

安養院は祇園山長楽寺と号する。開山は願行房憲静。嘉禄元年（1225）源頼朝の菩提を弔うため北条政子が建立したとされる。当初は律宗で佐々目ヶ谷にあり、鎌倉時代末に現在地に移り浄土宗に改めたとされる。

その他に北側の山王堂ヶ谷には山王堂、花ヶ谷には慈恩寺・木東寺などがあったようであるが、現在は廃寺となっており正確な場所は不明である。

名越ヶ谷の開口部では、図 1 にしめしたような箇所が発掘調査が行なわれている。

安国論寺の北側の第 28 地点では 13 世紀前半～15 世紀にかけて岩盤を削平し造成したあとが確認され、また埋納遺構が確認されている、

安国論寺から道路を挟んだ北側の第 2 地点ではかなり大面積の発掘が行われ、13 世紀前半から 14 世紀後半にかけて 3 面の遺構面が確認されている。2 面では側溝を伴う道路が検出され、武家屋敷あるいは寺院の境内と考えられている。3 面の井戸からは縄文土器が出土。

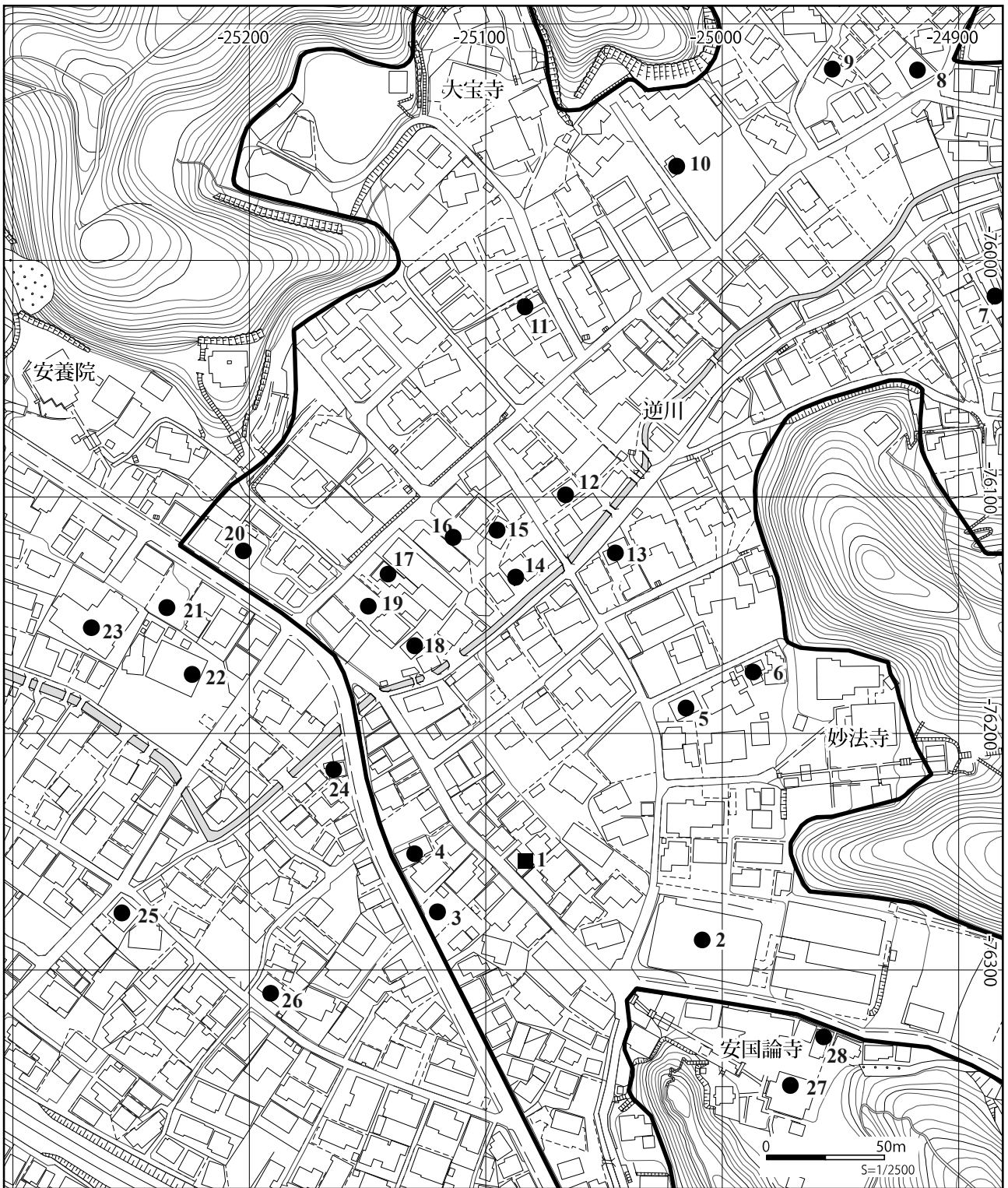


図1 調査地点と周辺の遺跡

第3地点では2面の遺構面が検出されている。13世紀後半～13世紀末にかけて、掘立柱建物の頻繁な建て替えが確認されている

第5地点では5時期以上の遺構面から2時期の掘立柱建物、中世以前の落ち込みが一部確認され、13世紀初頭～15世紀代と推定される。隣接する第6地点では13世紀後半から14世紀中頃の遺構面が4面確認され、境界を示す柵列などが検出される。

第12地点では逆川の旧河道の痕跡と思われる木組みや石組による河川護岸施設が検出されている。

No.	名称	住所	調査者	調査	刊行	文献
1	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 2370 番 2 の一部	後藤	2016	2019	本報告
2	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 1901-16 筆	宮田	2001	2003	『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』 鎌倉市遺跡調査会
3	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 2395-2 の一部外	滝沢	2003	2006	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』22-1-4
4	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 2406 番 1		2005		未報告
5	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 1888	汐見	1998	2000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16-2-12
6	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 1888 の一部	山口	2007	2011	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』28-2
7	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 1858 番 4	伊丹	2006	2014	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』30-1-3
8	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1286 番 1	宮田	2016		未報告
9	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1279 番 3	宮田	2017		未報告
10	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1255 番の一部	滝沢	2014	2017	『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』博通
11	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1230 番 4、7、 10	森・福田	2006	2018	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』35-1-1
12	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1826 番 9	手塚	2000	2002	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』18-2-8
13	名越ヶ谷遺跡	大町四丁目 1880 番 6	田代	1993	1995	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』11-1-1
14	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2356 番 10	福田	2001	2003	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』19-9
15	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2356 番 11	滝沢	2001	2003	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』19-5
16	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2356 番 3	宮田	2000	2001	『名越ヶ谷遺跡発掘調査報告書』名越ヶ谷遺跡 調査団
17	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2354 番 1、6	福田	2011	2018	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』35-2-1
18	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2353 番 2 外	宇都	2016	2020	『鎌倉市名越ヶ谷遺跡 (No. 231) 発掘調査報告 書』博通
19	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 2353 番 1、5	宮田・滝沢	2007	2017	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』34-4-4
20	名越ヶ谷遺跡	大町三丁目 1217 番 1	菊川	1993	1995	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』11-1-4
21	米町遺跡	大町二丁目 2340 番 1	押木	2011	2016	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』33-2-7
22	米町遺跡	大町二丁目	原	2018		未報告
23	米町遺跡	大町二丁目 2338 番 1	宮田	1997	1999	『米町遺跡発掘調査報告書』米町遺跡調査団
24	米町遺跡	大町二丁目 2411 番 2	福田	1988	1989	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』5-1
25	米町遺跡	大町二丁目 2235 番 3	馬淵	2003	2008	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』24-8
26	米町遺跡	大町二丁目 2404 の一部	原・福田	1999	2000	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』16-2-13
27	安国論寺	大町四丁目 1947		1973	1983	『鎌倉市埋蔵文化財調査年報』1
28	安国論寺遺跡・ 鎌倉城	大町四丁目 1947 番の一部外 1 筆	宮田	2012	2016	『安国論寺遺跡・鎌倉城発掘調査報告書』

下層からは古代以前の遺物が出土している。第 14 地点でも中世の河川あるいは氾濫原が確認されている。

第 16 地点では 13 世紀中頃～14 世紀後半と推定される 3 面の遺構面が確認。第 2 面は寺院地に属する可能性が指摘されている。また噴砂も検出。

第 18 地点では 13 世紀前半～14 世紀代と推定される河川跡が検出され、河川の護岸には木組みと石組の 2 種類が確認されている。

第 19 地点では 13 世紀中頃～14 世紀前半と推定される遺構面が 3 面検出された。方形竪穴建物、掘立柱建物、方形土坑、井戸、溝などが検出されている。遺構の変化から屋敷地的な要素から町屋の要素への変遷が確認されている。

逆川の西側には中世の流路と護岸が連続して検出されており、現在の河川とはそう大きく変わらない位置を流れていたことが想定される。西岸では屋敷地、寺院、町屋などの土地利用がある程度想定されるが、東岸では調査例も少なく、不明な点が多い。

参考文献

貫達人・川副武胤 1980 『鎌倉廃寺事典』有隣堂

鎌倉市史編纂委員会 1972 『鎌倉市史 総説編』吉川弘文館

鎌倉市史編纂委員会 1972 『鎌倉市史 社寺編』吉川弘文館

第2節 調査の方法と経緯

本発掘調査は個人住宅の建築築に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事として表層改良工事を施すため、平成28年10月5日～10月6日に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財の確認調査を実施した。1.5mまで掘削した結果、地表下40cmで遺物包含層が検出され、地表下80cm、110cm、140cmで中世遺構面と推定される堆積層の確認がなされた。湧水のためそれ以下は確認困難であったが、中世遺構の存在が予測される結果を得た。遺構が比較的地表下の浅い地点に存在することが推測され、遺構に影響を及ぼすことが確実に予測されたため、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要ありとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成29年1月11日～3月8日の約2ヶ月をかけて現地での調査を実施した。

重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から、29.66㎡の調査調査範囲を二分して調査を進めた(図2)。今回の調査では大きく3面の中世遺構面を確認することができた。3面以下は自然堆積となり、地表下約1.5mにて青緑色海成砂層を検出し、縄文時代のものと確認された。以下の砂層は湧水により壁面が崩落するため、そこまでの掘削で留めた。

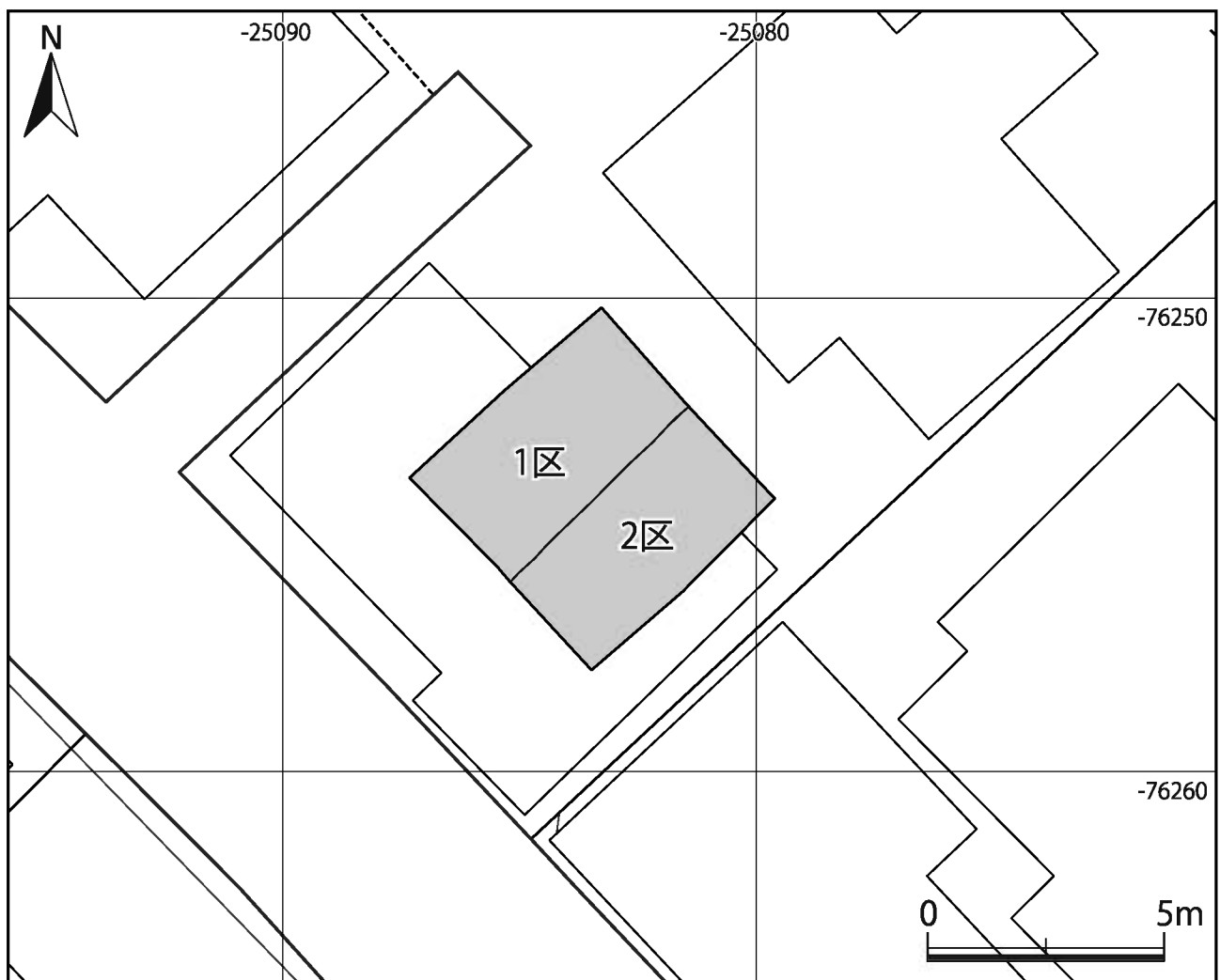


図2 調査位置とグリッド配置図

第3節 堆積土層 (図3)

本地点では上述の通り3面におよぶ中世の遺構面を確認した基本となる土層の堆積状況を述べておく。現地表面はおよそ海拔7.96～8.04mを測る。表土は35～60cmほど堆積しており、近現代の攪乱土である。その下部には炭が薄く堆積しており、灰や焼土なども見られる。これは1923年の関東大震災によるものと推定される。

その下は小粒の泥岩破碎を含む暗褐色粘質土の整地層であり、海拔は7.55m前後である。土の状況や遺構が確認されたため第1面としたが、上方からの削平により調査区内でもごく一部しか残存しておらず、本来の高さも削平されて残っていないと思われる。堆積は最大で10cmとなる。

第1面の構成土を取り除いた状態で、泥岩粒をわずかに含む暗茶褐色粘質土の整地層となり、第2面とした。海拔は7.45～7.50mである。堆積は10cm程度である。第2面も上方からの削平がおよんでおり、残存状況はさほど良くない。

第3面はしまりのある黒褐色粘質土で白色粒を含む整地層である。海拔は7.27～7.3mとなり、堆積は15cm程度である。

第3面以下は色調や夾雑物の差で層を分けて掘り下げたが、いずれも遺構や遺物などは明瞭ではない。第3面の下は第3面の構成土に近いがより暗い色調の黒褐色粘質土が堆積し、これを3b面とした。明確な遺構や遺物が確認できず、中世基盤層に相当すると判断した。堆積は5～20cmと箇所によって差が大きく、下面も平坦とはかけ離れた堆積となっている。

3b面を取り払うと砂が主体となる。4面は黄褐色砂質土となるが、箇所によっては見られない。黒色粘着土が筋状に混入し、また褐鉄も含まれている。4面の検出レベルは7.00～7.10m程度であり、堆積は15～25cmで、砂の色調の砂によって4a面、4b面に分けられる。4a面は灰色がかった青色砂層で、検出レベルは6.95～7.00m、4b面は検出レベル6.90m前後である。いずれも線状に黒色粘着土が混入しており、色調以外はあまり差がない。

第5面は青灰色砂層で、わずかに筋状に黒色粘着土が混入している。検出レベルはおよそ海拔6.90mとなる。さらに20cm程下は貝層が検出され第6面とした。貝層は調査区全域に見られるわけではな

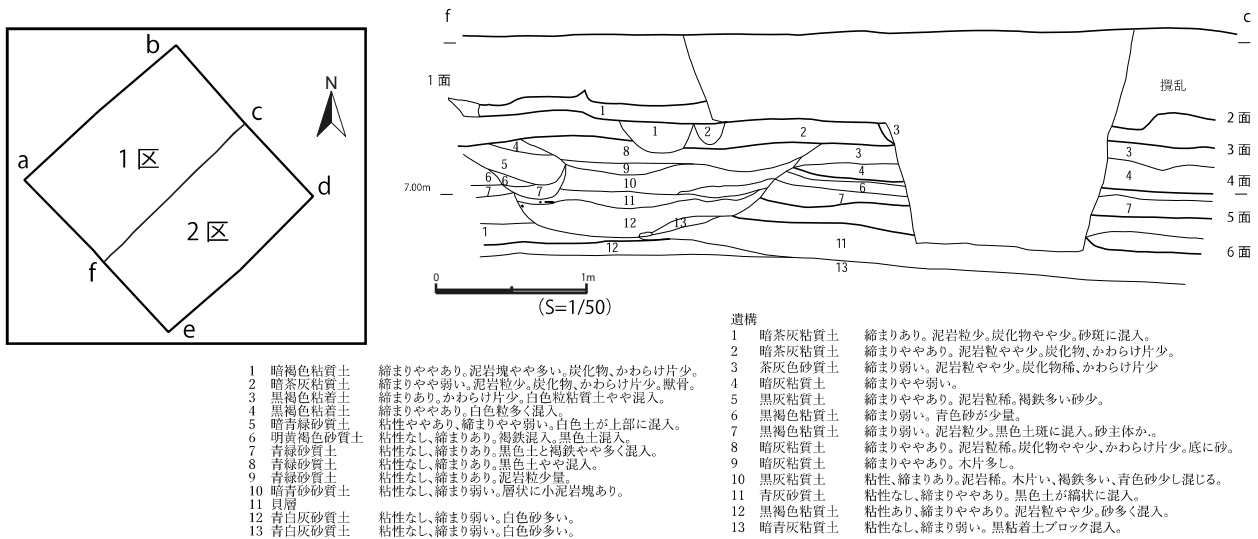


図3 調査区中央堆積土層図

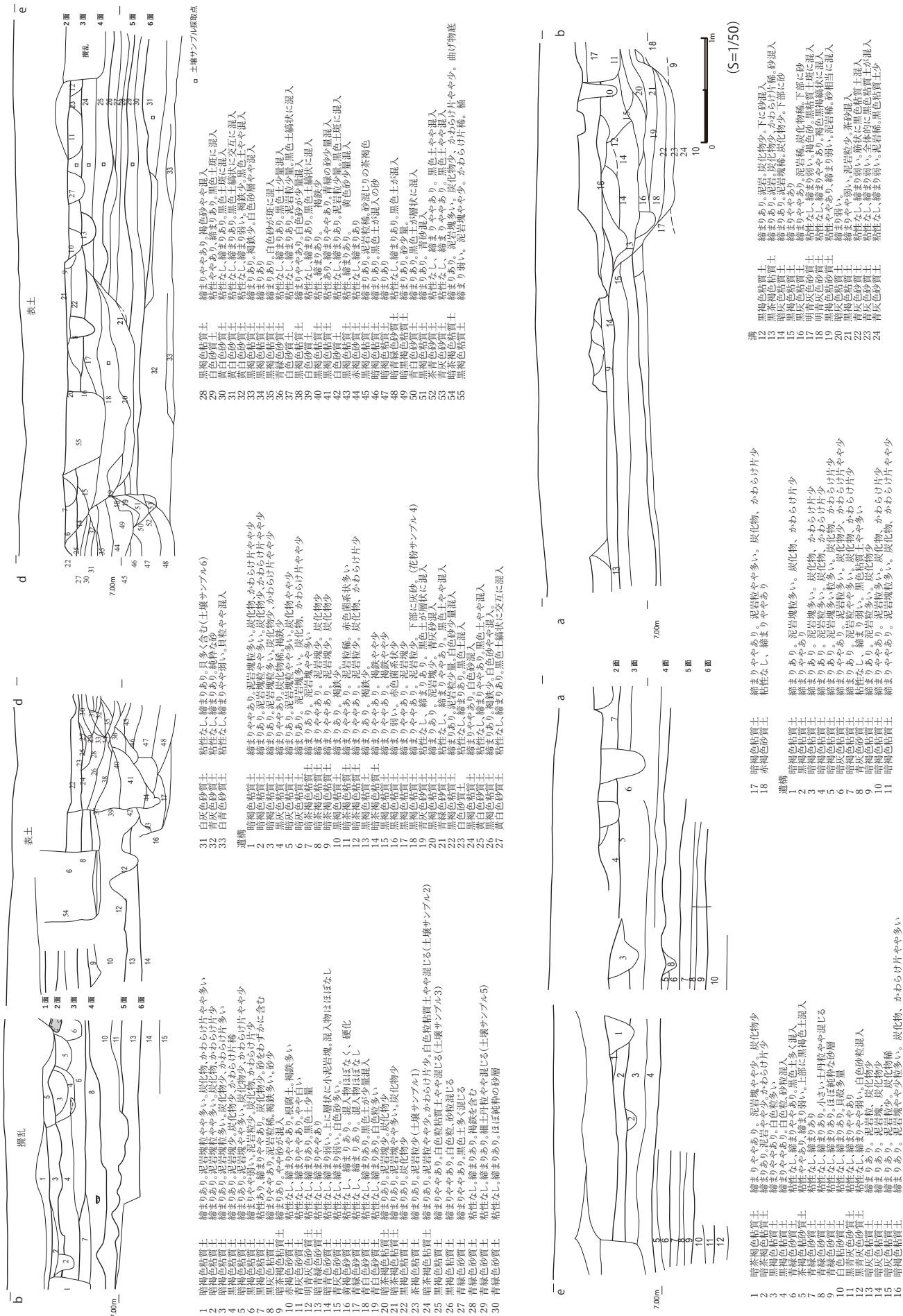


図4 調査区壁面堆積土層図

いが、かなり広く広がっており、わずかに縄文土器が見られた。土器はいずれも大きく摩耗しており、遺構に伴うようなものではなく、近隣からの混入と考えられる。この貝層は縄文海進に関わるものと考えられ、当時この地点が海面下にあったことを示唆している。貝層と同レベルの砂層は上層と異なり粘着土の混入が見られないが、摩耗した泥岩がかなり混入している。

これより以下は砂層が続くが、湧水が激しく壁の崩落を止められなくなるため、それ以上の掘り下げは断念した。岩盤などは本調査の範囲では確認できていない。

調査区それぞれの壁面の土層堆積については図3～4を参照されたい。また東壁からはいくつかの土壌サンプルを採取し、花粉分析を実施した。その分析成果には第四章に述べる。

- サンプル1 調査区東壁 23 層 (2 面構成土)
- サンプル2 調査区東壁 24 層 (3 面構成土)
- サンプル3 調査区東壁 25 層 (3a 面構成土)
- サンプル4 調査区東壁 18 層 (遺構 134 (溝) 中層)
- サンプル5 調査区東壁 19 層 (5 面構成土)
- サンプル5 調査区東壁 31 層 (6 面構成土)

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物

第1面（図5）は近現代の削平により調査区の大部分で残存状態が不良であり、調査区西北部でわずかに確認できたのみである。また、この残存部も上方は削平されている可能性がある。検出した高さはおよそ海拔7.55～7.61mである。遺構はピット9穴を検出したが、掘立柱建物址などの明確なプランは復元しえない。遺構の切りあいより第1面で発見した遺構は、少なくとも2時期の時間差があると考えられる。また調査区の東北部では近代に属する桶と曲げ物を検出した。これらについては第7節で詳述する。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・白磁・常滑・瀬戸・銅銭が出土している。

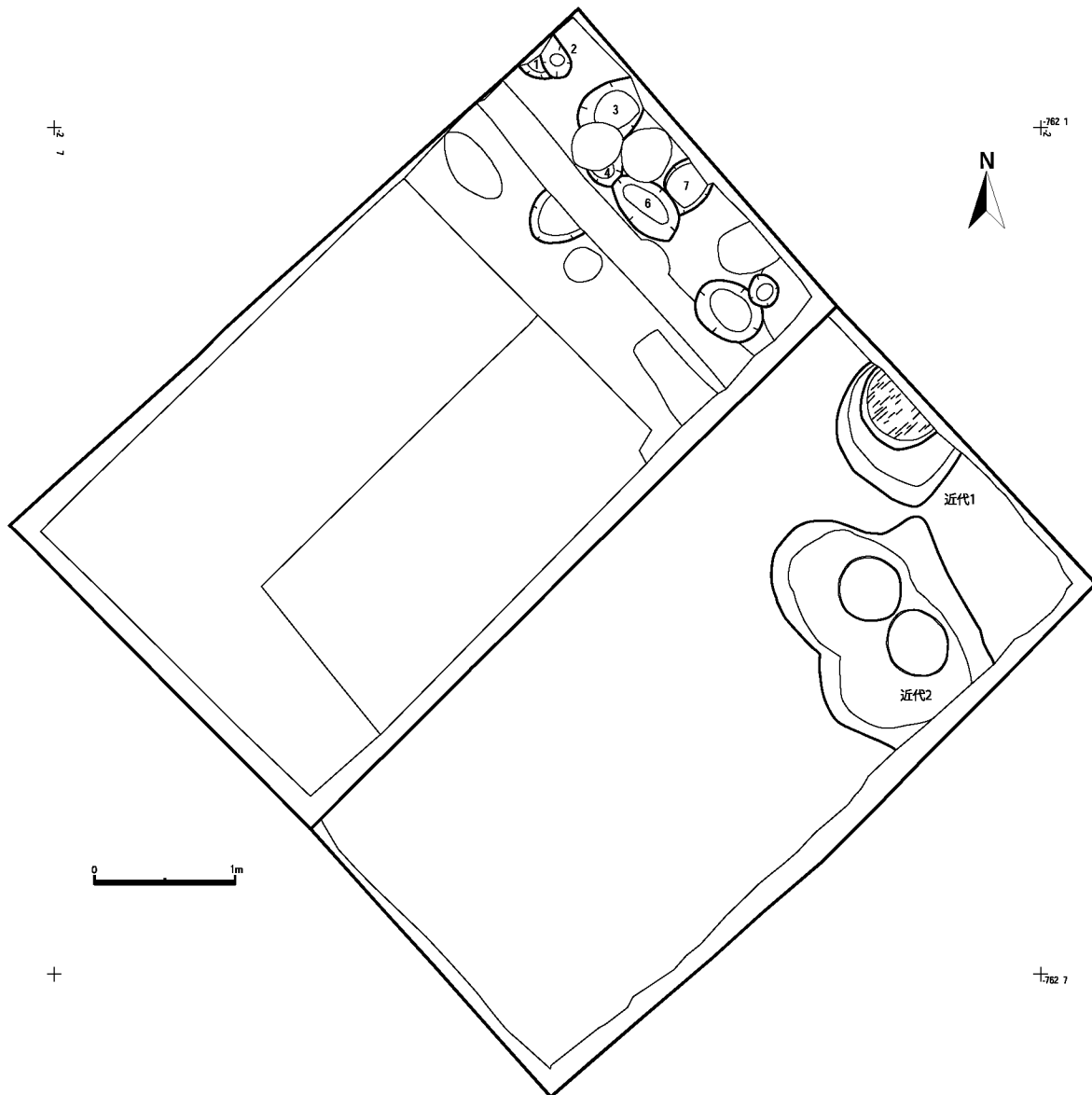


図5 第1面全体図 (S=1/50)

ピット

平面形はおよそ楕円形を呈する。覆土は遺構 1、6、7 は黒褐色粘質土でやや類似。締まりはやや弱い。泥岩をやや多く含み、炭化物やかかわらけ片は少量のみ。

それ以外のピットは暗褐色粘質土で、締まりはあり。泥岩はやや多く、炭化物やかかわらけ片は少量のみである。いずれの遺構からも図示できるような遺物は出土していない。

遺構	色調土	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径
1	明黒褐色	7.59	0.25	7.49	4	暗褐色	7.56	0.23	7.41
2	暗褐色	7.55	0.26	7.26	5	暗褐色	7.6	0.41	7.51
3	暗褐色	7.55	0.47	7.46	6	明黒褐色	7.57	0.57	7.47
					7	明黒褐色	7.58	0.28	7.44
					8	暗褐色	7.6	0.49	7.49
					9	暗褐色	7.6	0.22	7.47

第2節 第2面の遺構・遺物

泥岩による地業面を第2面とした。第1面同様近現代の掘り込みがほぼ全面的におよんでおり、かなり削平を受けているが、多数の遺構が検出されたため中世遺構面とした。したがって高さにはばらつきがあるが、海拔はおよそ 7.39～7.51 m となる。遺構はピット 67 穴・土坑 9 基である。掘立柱建物址の存在が推定できるが明確なプランは復元できなかった。遺構の切りあいから第2面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・青磁・白磁・常滑・渥美・瓦器・銅銭・石製品・自然遺物が出土している。

ピット

楕円、隅丸方形を呈する。礎板などは確認できていない。覆土について、暗褐色粘質土を覆土とするピットは締まりは基本的にあり。泥岩粒はやや少、炭化物を少量含む。かわらけ片は僅かに含む。(遺構 13、17、19、20、27、33、38、46、48、50、52、53、58、59、67)。

黒褐色粘質土を覆土するピットは少数で中央北側に集中。締まりはややあり、泥岩粒、炭化物、かわ

遺構	色調土	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径	レ上 ベル	最大 上端 径
10	暗灰色	7.51	0.4	7.34	29		7.48	0.23	7.34
11	黒褐色	7.52	0.31		30	暗灰色	7.46	0.23	-
12	暗灰色	7.53	0.41	7.35	31	暗茶褐色	7.48	0.36	7.37
13	暗褐色	7.52	0.41	7.36	32	暗茶褐色	7.49	0.25	-
14	暗褐色	7.5	0.3	7.38	33	暗褐色	7.38	0.34	7.27
15	暗褐色	7.5	0.32	7.4	34	暗茶褐色	7.39	0.28	7.33
16	暗褐色	7.51	0.37	7.43	35	暗灰色	7.36	0.31	-
17	暗褐色	7.49	0.33	7.29	36	暗茶褐色	7.48	0.26	7.38
18	黒褐色	7.51	0.2	7.36	37	暗茶褐色	7.36	0.13	7.29
19	暗褐色	7.49	0.49	7.32	38	暗褐色	7.44	0.39	7.32
20	暗褐色	7.5	0.29	7.40	39	暗褐色	7.44	0.19	7.31
21	黒褐色	7.49	0.24	7.36	40	暗灰色	7.47	0.27	7.2
22	暗灰色	7.48	0.4	7.26	41	暗褐色	7.47	0.26	7.32
23	暗灰色	7.44	0.12	7.41	42	暗褐色	7.53	0.37	7.28
24	黒褐色	7.45	0.41	7.35	43	黒褐色	7.44	0.3	7.36
25	暗灰色	7.47	0.18	7.42	44	暗灰色	7.45	0.37	7.32
26	暗褐色	7.48	0.36	7.4	45	暗灰色	7.43	0.22	7.33
27	暗褐色	7.49	0.29	7.4	46	暗褐色	7.41	0.26	7.3
28	暗褐色	7.47	0.2	-	47	暗褐色	7.48	0.26	7.37
					48	暗褐色	7.48	0.17	7.4
					49	暗灰色	7.47	0.28	7.25
					50	暗褐色	7.48	0.35	7.37
					51	黒褐色	7.51	0.32	7.39
					52	暗褐色	7.47	0.4	7.37
					53	暗褐色	7.48	0.3	7.38
					54	暗灰色	7.48	0.31	7.38
					55	暗灰色	7.49	0.32	7.38
					56	暗灰色	7.49	0.27	7.08
					57	暗灰色	7.4	0.36	7.31
					58	暗褐色	7.45	0.28	7.42
					59	暗褐色	7.43	0.32	7.29
					60	暗灰色	7.46	0.43	7.24
					61	暗灰色	7.45	0.31	7.3
					62	暗灰色	7.47	0.47	7.36
					63	黒褐色	7.42	0.41	7.24
					64	黒灰色	7.4	0.51	7.29
					65	暗灰色	7.43	0.31	-
					66	暗茶褐色	7.45	0.36	7.26
					67	暗褐色	7.42	0.17	7.33
					68	暗茶褐色	7.37	0.45	7.27
					69	暗茶褐色	7.35	0.36	7.27
					70	暗灰色	7.41	0.23	7.33
					71	暗灰色	7.37	0.23	7.27
					72	暗褐色	7.47	0.33	7.23
					73	暗茶褐色	7.41	0.18	7.46
					74	暗茶褐色	7.46	0.27	7.35
					75	暗茶褐色	7.46	0.23	7.35
					76	暗茶褐色	7.46	0.21	7.29
					77	暗褐色	7.5	0.48	7.46
					78	暗褐色	7.51	0.56	7.38
					79	暗褐色	7.47	0.5	7.43
					80	暗茶褐	7.49	0.32	7.34
					81	暗褐色	7.45	0.62	7.34
					82	暗褐色	7.36	0.5	7.16
					83	暗褐色	7.48	0.77	7.35
					84	暗褐色	7.48	0.56	7.38
					85	暗灰色	7.47	0.68	7.41

らけ片いずれも少量。(遺構 18、遺構 21、24、43、51、63)。

暗灰色粘質土を覆土とするピットは調査区西北部に多い。締まりはやや弱い。泥岩はやや多く含む。炭化物、かわらけ片はわずか。(遺構 10、12、22、23、25、30、35、36、37、40、44、45、54、55、56、57、60、61、62、64、65、70、71 など)。

暗茶褐色粘質土。調査区東側に偏る。締まりはあり。泥岩は少量で、炭化物、かわらけ片も僅か。

遺構 11 (図 6)

隅丸方形を呈するピット。上面に板状の泥岩が蓋のような状態で入れられていた。遺構覆土：黒褐色粘質土。締りやや弱い。泥岩粒少、菌糸状赤黄土混じる。炭化物、かわらけ片少。出土遺物 (図 8) : 1 はかわらけ。2 は青磁劃花文碗。

遺構 14 (図 6)

円形を呈するピット。北側は調査区外にあたり、全体の規模は不明。遺構覆土：暗褐色粘質土。締りあり。泥岩塊多く、炭化物少。かわらけ片やや多い。出土遺物 (図 7) : 3 はかわらけ。

遺構 26 (図 6)

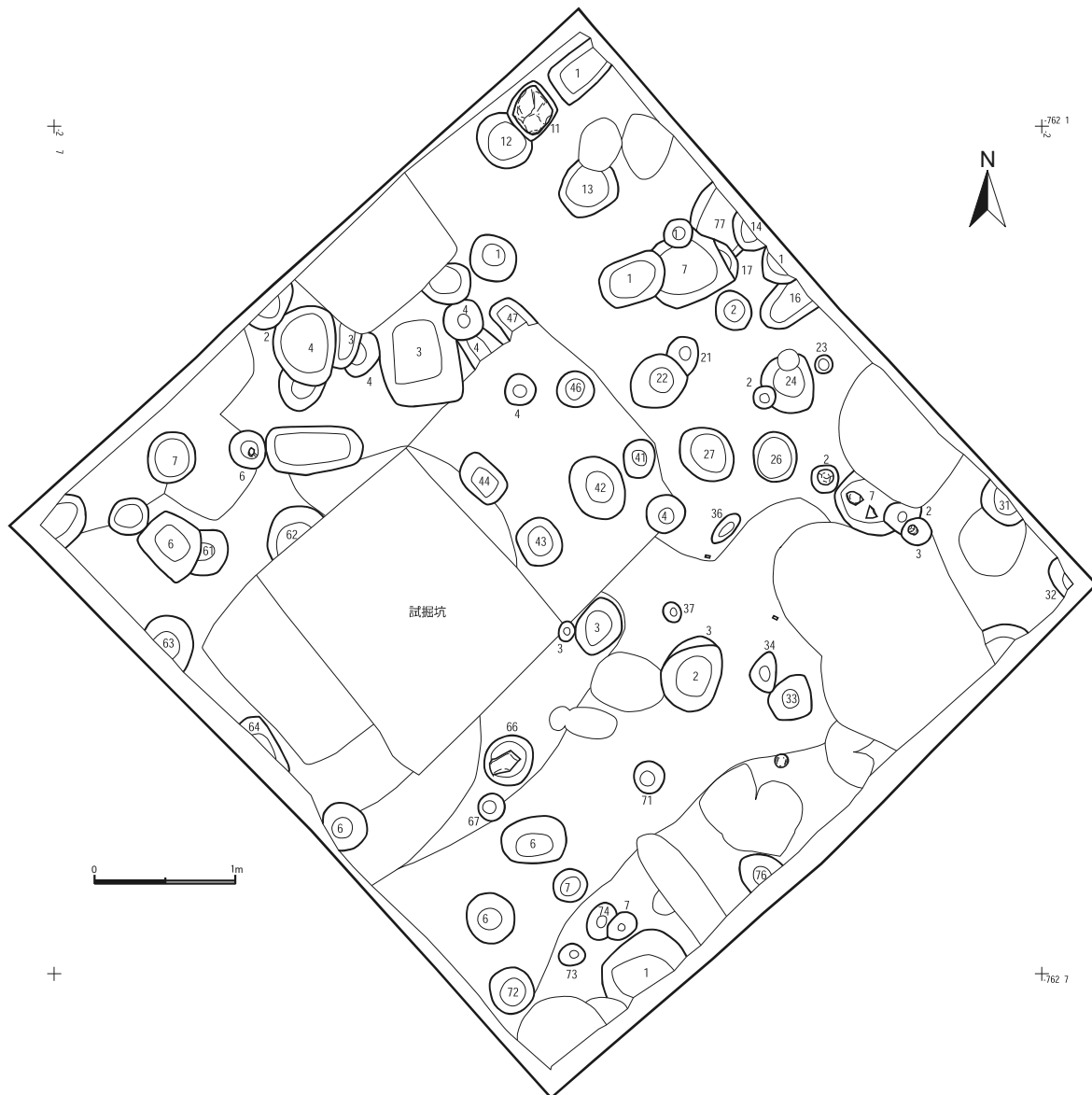


図 6 第 2 面全体図 (S=1/50)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土 締りあり。泥岩粒やや少。炭化物少。出土遺物（図7）：4はかわらけ。5は石臼。

遺構 41（図6）

楕円形を呈するピット。出土遺物（図7）：6は銅銭。

遺構 49（図6）

隅丸方形を呈するか。遺構 49 に切られるため詳細不明。遺構覆土：暗灰色粘質土。締りやや弱い。泥岩塊やや少。炭化物少。出土遺物（図8）：7は青磁蓮弁文碗。

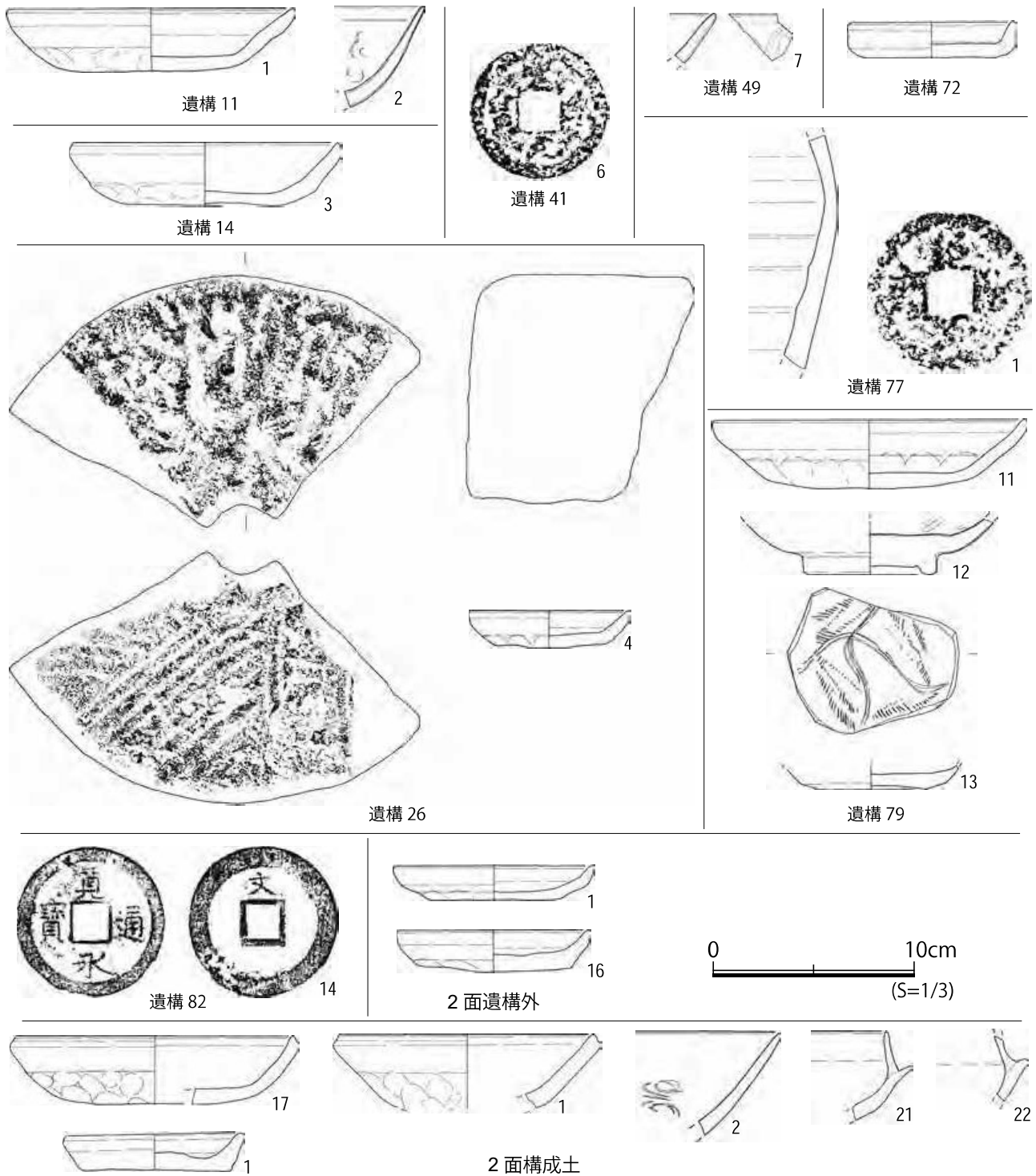


図7 第2面出土遺物

遺構 72 (図 6)

円形を呈するピット。遺構覆土：暗褐色粘質土。締りあり。泥岩粒多い。炭化物やや少。かわらけ片少。出土遺物 (図 7)：8 はかわらけ。

土坑

検出数は少なく、規模もさほど大型ではない。暗褐色粘質土の覆土が主体で、泥岩粒は多く含むが、炭化物はやや多く、かわらけ片は少。

遺構 77 (図 6)

楕円形を呈する土坑。遺構 14、17、78 に切られる。遺構覆土：暗褐色粘質土。締りややあり。泥岩、泥岩塊多く含む。炭化物、かわらけ片少量。出土遺物 (図 7)：9 は白磁壺の胴部片。10 は銅銭。

遺構 79 (図 6)

楕円形を呈する土坑。近代の遺構に切られている。出土遺物 (図 7)：11 はかわらけ。12 は青磁劃花文碗。13 は青磁櫛搔文皿。

遺構 82 (図 6)

楕円形を呈する土坑。遺構覆土：暗褐色粘質土。締りややあり。泥岩、泥岩塊やや多く、炭化物少量含む。出土遺物 (図 7)：14 は寛永通宝で底部付近から出土。混入したと思われる。

2 面遺構外出土遺物 (図 7)

遺構面精査時に面上で検出した遺物。15、16 はかわらけ。

2 面構成土出土遺物 (図 7)

2 面より 3 面検出までの間の堆積より出土した遺物。17～18 は手づくねかわらけ。19 はロクロかわらけ。20 は青磁劃花文碗。21～22 は須恵器坏の坏身。

第 3 節 第 3 面の遺構・遺物

第 3 面はおおよそ海拔 7.24～7.31 m である。遺構はピット 45 穴・土坑 3 基、溝 1 条を検出した。掘立柱建物址のプランなどは不明瞭である。遺構の切りあいより第 3 面で発見した遺構は、少なくとも 3 時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・白かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・渥美・土製品・木製品・自然遺物が出土している。

ピット

円形、楕円形を呈する。礎板などは確認できていない。覆土について、黒褐色粘質土を覆土するピットは西南側に多い。締まりはやや弱い。混入物もごくわずかである。砂が混入するピットが見られる。(遺構 86、89、90、94、96、97、101、108、109、110、111、112、116、117、118、121、122、124)。

暗茶褐色粘質土。調査区東南側に偏る。締まりはあり。締まりはあり。泥岩粒は稀で、炭化物、かわらけ片などは含まない (遺構 113、115、119、120、123、126、127、128、129)。

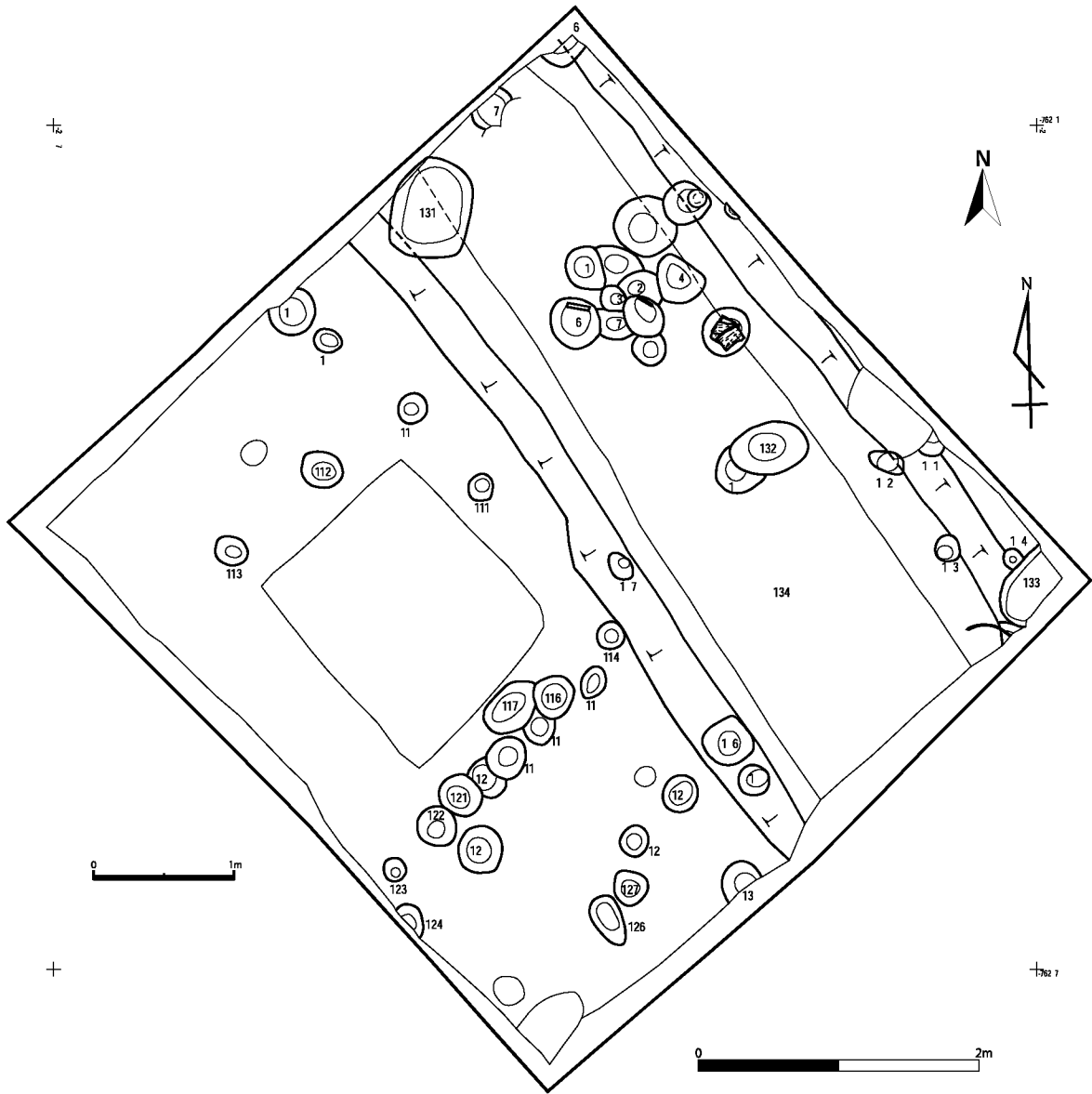


図8 第3面全体図 (S=1/50)

遺構 88 (図8)

遺構	色調土	レベル	上端	最大径	底面	遺構	色調土	レベル	上端	最大径	底面	遺構	色調土	レベル	上端	最大径	底面
86	黒褐色	7.38	0.27	7.2		99	黒褐色	7.35	0.36	-		112	黒褐色	7.27	0.3	7.2	
87	黒褐色	7.39	0.32	7.34		100	暗褐色	7.36	0.32	7.28		113	茶褐色	7.27	0.24	7.18	
88	黒褐色	7.37	0.3	7.22		101	黒褐色	7.35	0.17	7.18		114	暗褐色	7.32	0.2	7.24	
89	黒褐色	7.35	0.42	7.1		102	暗褐色	7.07	0.26	6.94		115	暗茶褐色	7.31	0.22	7.2	
90	黒褐色	7.34	0.29	7.11		103	暗褐色	7.08	0.18	7.00		116	暗灰色	7.31	0.3	7.2	
91	暗灰色	7.34	0.29	7.16		104	暗灰色	7.34	0.14	7.27		117	黒褐色	7.29	0.44	7.17	
92	暗褐色	7.33	0.25	7.07		105	暗褐色	7.11	0.23	7.02		118	黒褐色	7.28	0.26	7.22	
93	暗灰色	7.32	0.21	7.19		106	青灰色	7.28	0.34	7.14		119	暗茶褐色	7.31	0.3	7.15	
94	黒褐色	7.35	0.32	7.2		107	暗褐色	7.12	0.21	7.02		120	暗茶褐色	7.29	0.29	7.22	
95	暗灰色	7.31	0.28	7.06		108	黒褐色	7.26	0.33	7.17		121	黒褐色	7.29	0.3	7.22	
96	黒褐色	7.27	0.37	7.16		109	黒褐色	7.25	0.2	7.21		122	黒褐色	7.3	0.29	7.23	
97	黒褐色	7.31	0.18	7.15		110	黒褐色	7.3	0.22	7.17		123	暗灰色	7.28	0.15	7.26	
98	暗灰色	7.31	0.23	7.17		111	黒褐色	7.31	0.19	7.25		124	黒褐色	7.31	0.26	7.22	
												125	暗褐色	7.28	0.32	7.11	
												126	暗茶褐色	7.32	0.37	7.23	
												127	暗茶褐色	7.32	0.24	7.24	
												128	暗茶褐色	7.34	0.23	7.24	
												129	暗茶褐色	7.32	0.26	7.2	
												130	暗茶褐色	7.33	0.29	7.17	
												131	黒褐色	7.21	0.7	7.07	
												132	暗褐色	7.37	0.55	7.24	
												133	暗褐色	7.37	0.49	7.16	
												134	黒褐色	7.38	2.62	6.75	

円形を呈するピット。遺構覆土：黒褐色粘質土。締りややあり。混入物ほぼ無いが、砂が混じる。遺構 89 を切る。出土遺物 (図 10) : 1 はかわらけ。

遺構 99 (図 8)

円形を呈するピット。遺構覆土：黒褐色粘質土。縮り弱い。炭化物少。木片多く混入。出土遺物 (図 10) : 2 はかわらけ。

土坑

遺構 131 (図 8)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：黒褐色粘質土。縮り弱い。泥岩稀。炭化物少。底部は砂 (青灰)。出土遺物 (図 10) : 内折れの白かわらけ片。

遺構 132 (図 8)

隅丸方形を呈する土坑。遺構覆土：暗褐色粘質土。縮りややあり。泥岩塊少。少量の砂混じる

溝

遺構 134 (図 8、9)

東西方向に走る溝。開口部幅約 2.3 m、底部幅 1.4 m、深さ 0.6 m。遺構覆土：図 9 参照。出土遺物 (図 10) : 4～6 はかわらけ。7 は縄文土器で器種は不明。8～12 は溝の中層から出土した遺物。8～9 はかわらけ、10～12 は用途不明の木製品。13～16 は中層から下層にかけて出土した遺物。13 はかわらけ、

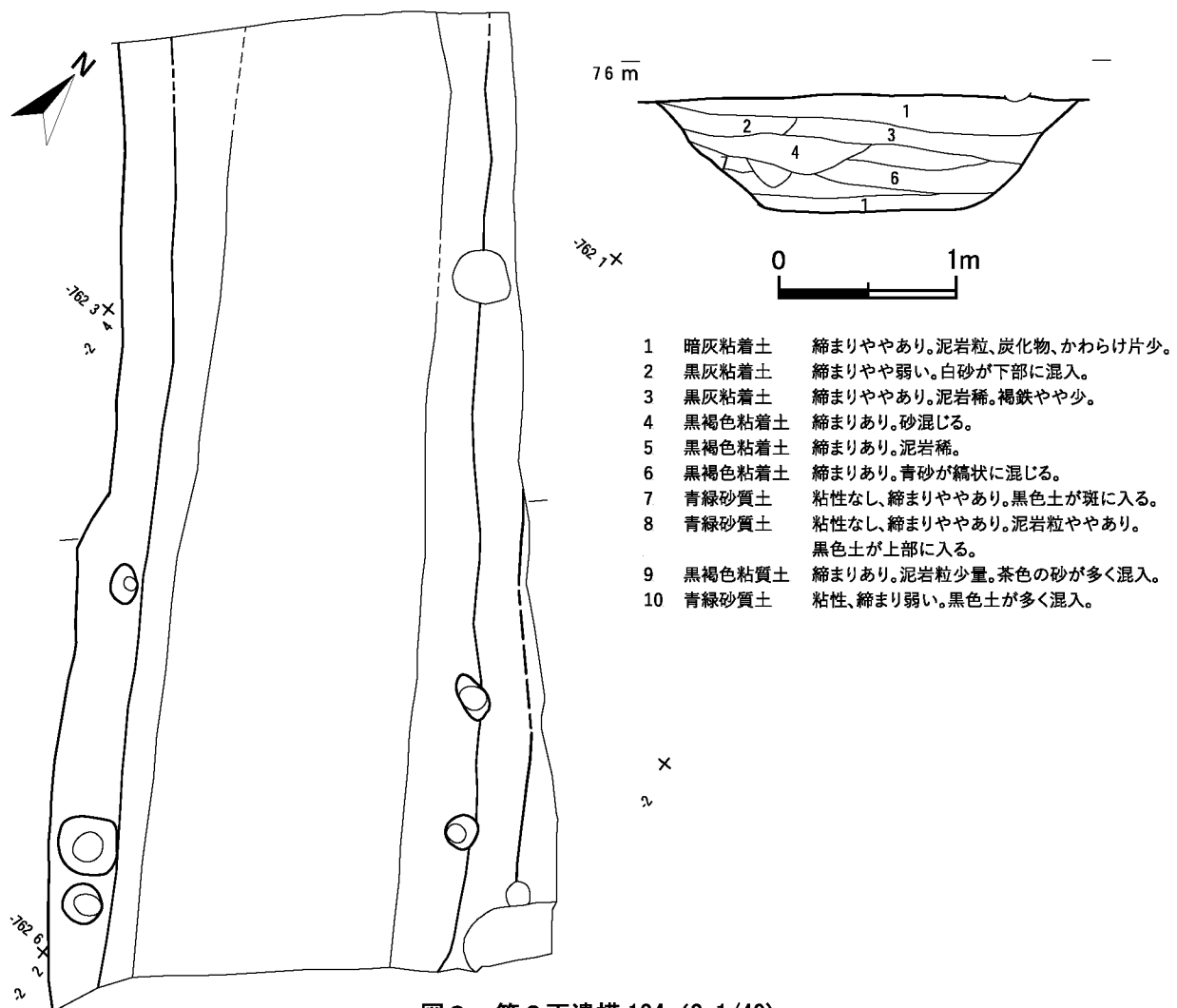


図 9 第 3 面遺構 134 (S=1/40)

14 は山茶碗か。15 ~ 16 は常滑焼甕類の胴部片でスタンプあり。17 は須恵器坏の坏身。18 ~ 21 は下層で出土した遺物。18 ~ 20 は用途不明の木製品。21 は漆器碗。また覆土中からは犬の頭骨が出土している。

3面遺構外出土遺物 (図 10)

22 はかわらけ。23 は木製の円形加工品で紡錘か。墨により放射状の線が描かれる。

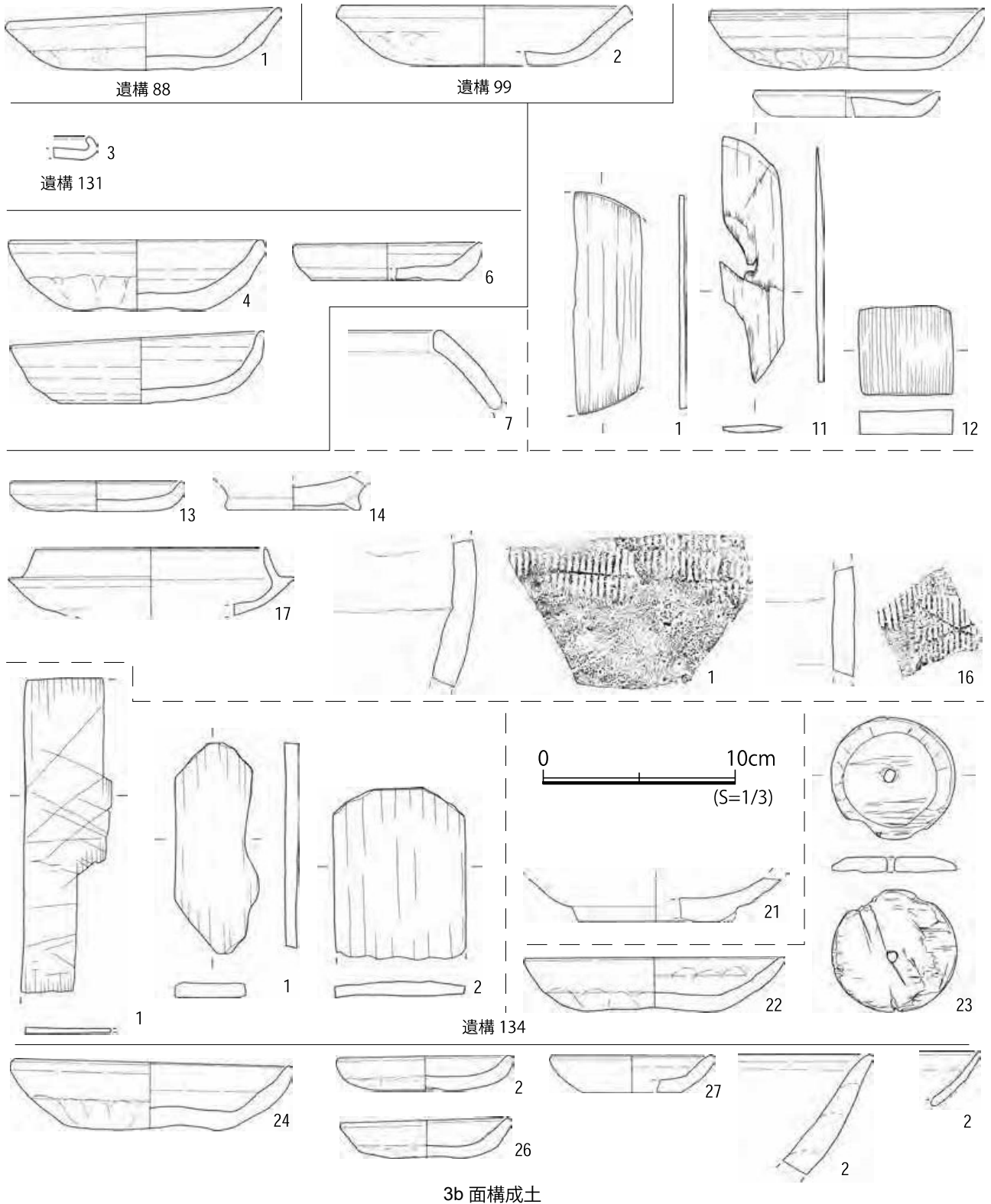


図 10 第 3 面遺構土出土遺物

第4節 第3面以下の堆積

第3面以下は土質、色調などによって土層に差がありそれぞれを面として検出したが、遺構や遺物がほぼ確認できず、中世遺構面とは判断できない。以下それぞれの特徴について記述しておく。

第3b面 海拔7.25 mほどで黒色粘着土の面が検出された（第3b面）。白色の砂がまだら状に微量に混じり、締まりのない土である。この土にはわずかに中世に属する時期の遺物が含まれているが、中世以前の遺物も混入している。第3b面以下は砂が基本の層となる。

第3b面構成土出土遺物（図10）

3bから4面間の堆積より出土した遺物。24～27はかわらけ。28は常滑片口鉢Ⅰ類。29は須恵器坏。

第4面 およそ海拔7.01～7.12 mである。茶褐色の砂を主体として、筋状に多数黒色粘質土が混入する。遺物の混入も見られなくなるため、中世時点での地山と推定される。

第4a面 海拔6.9～7.09 mである。やや赤みの強い茶褐色の砂が主体で、4面と同様黒色粘質土が筋状に混入している。

第4b面 海拔6.8～7.06 mである。青みがかった褐色砂が主体で、以前として多数の筋状の黒色粘質土の混入が見られる。

第5面 海拔6.8～6.95 mである。緑灰色の砂が主体となり、かなり均質で黒色粘質土などの混入もほぼ見られない。北側の調査区壁付近では砂が橙色に変化し、不均質な堆積をしているようであるが、何に起因しているのかは不明である。

これらの面は、堆積の状況から見ても自然に形成されたものと推定される。傾向としては南に向かって下がる緩やかな傾斜が見られるが、東西方向については大きな差は認められない。

第5節 第6面

第6面は本調査における最下層の検出面である。海拔は約6.60～6.80 mで、現地表より1.3～1.4 m以下に当たる。基本は緑灰色の砂を主体とするが、拳大の泥岩塊が散見される。泥岩は摩耗が激しく、角の鋭利さは消失している。西北から東南方向にかけて、調査区のほぼ半分を占めて貝殻が面的に広がって検出された（図11）。貝は5～10cmほどの厚さで堆積しており、東西と南には調査区を超えて広がっているのが確実である。貝についての分類は別章を参照されたい。

東側（2区）では貝や砂の間から数点の縄文土器を検出した。いずれも小破片で、激しい摩耗が見られる。貝層自体も人為的なものとはみなし難く、その他の遺構の痕跡なども見られないため、これらの土器はおそらく周囲から流れ込んできたものと考えられる。土器は縄文時代中期のものが主体となっているようである。貝層はおそらく縄文海進期に形成されたもので、当時この地点は海中に沈んでいたことが想定できる。

貝層以下については一部確認をしたが海成砂層であり、湧水によって崩落するため、調査を終了した。

貝層面出土遺物（図11）

1～8はいずれも縄文土器の破片。1は加曾利E4式（図11-4地点）、2は詳細不明だが縄文時代中期

に属すると思われる（図 11-11 地点）。3 は加曾利 E3 式（図 11-12 地点）、4 は曾利 3 式（図 11-1 地点）、5 は加曾利 E2 式（図 11-7 地点）、6 は堀之内式か（図 11-13 地点）。7 は不明（図 11-16 地点）。8 も不明だが縄文後期か（図 11-10 地点）。

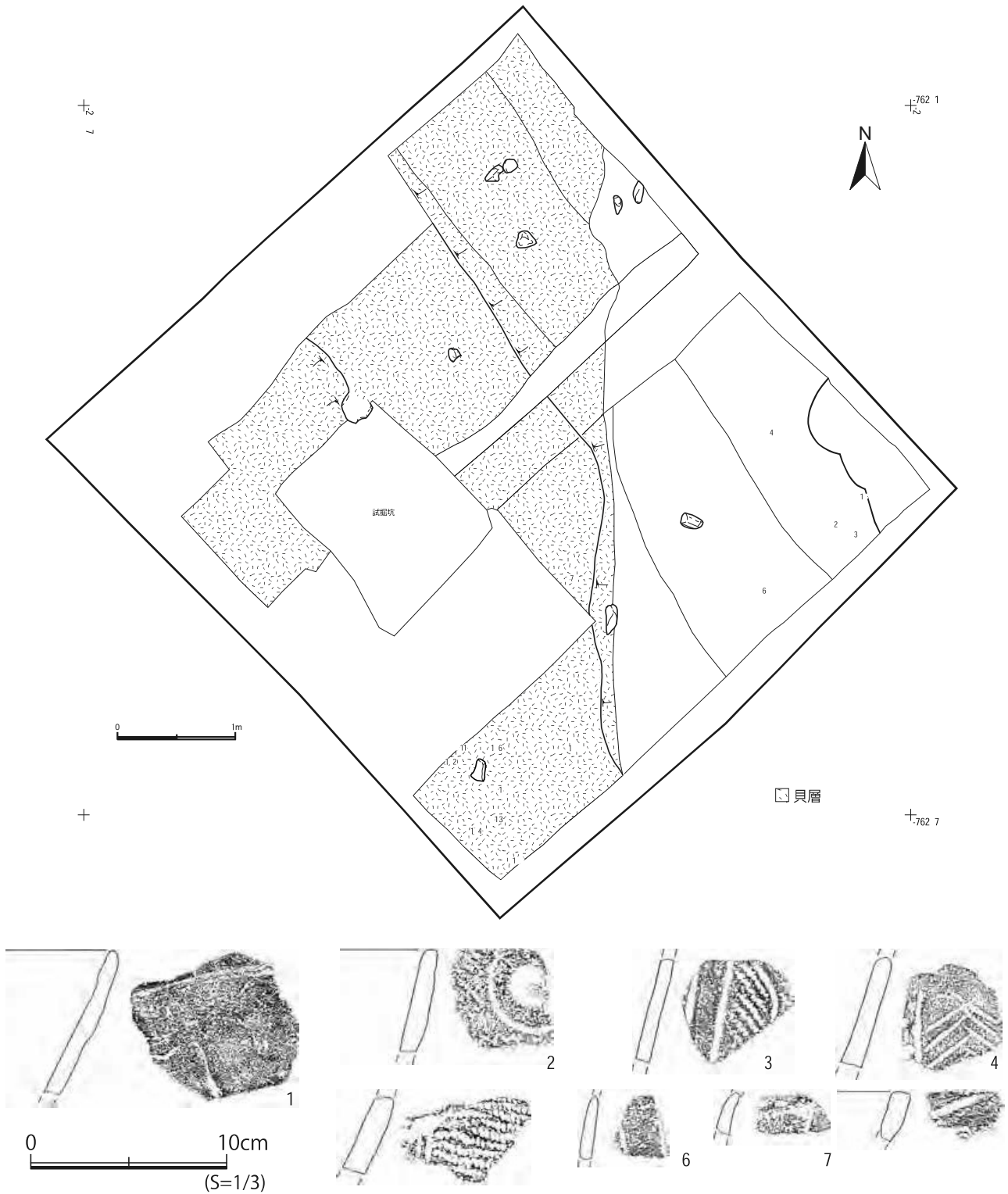


図 11 第 6 層全測図および出土遺物

第6節 その他出土遺物 (図12)

遺構以外の出土品で残存状態の良好な遺物を掲示しておく。1～2はかわらけで、1面までの包含層より出土。3は常滑?で試掘時に出土。4は滑石加工品で1面の攪乱より出土。

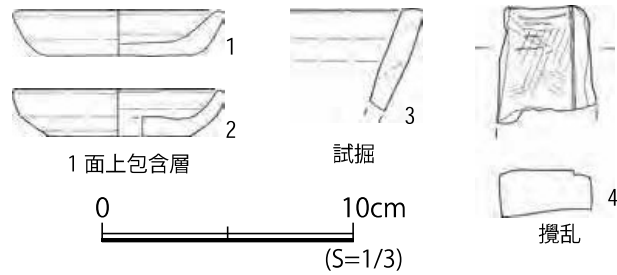


図12 遺構外の出土遺物

第7節 近代の遺構と出土遺物

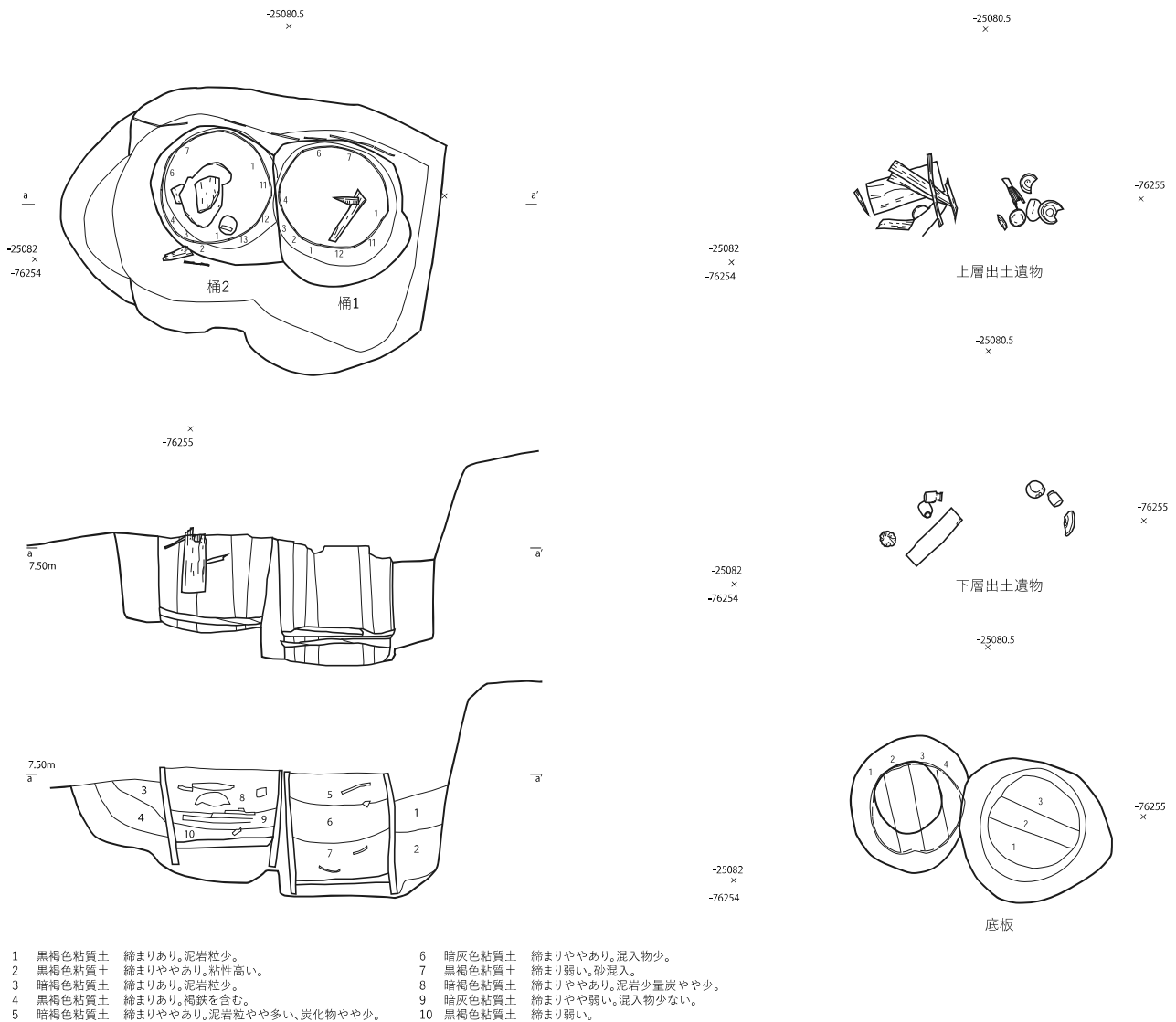


図13 桶平面・断面および出土遺物

1面のほとんどは近現代の掘り込みによって破壊されていた。また近現代の遺物が複数出土している。さらに東北部では調査区北壁際で曲げ物を埋め込んだと思われる土坑（近代1：図5）、その南に木製の結桶が2基埋め込まれた状態で検出した（近代2：図5）。桶は大型の土坑を掘り、その中に埋設してい

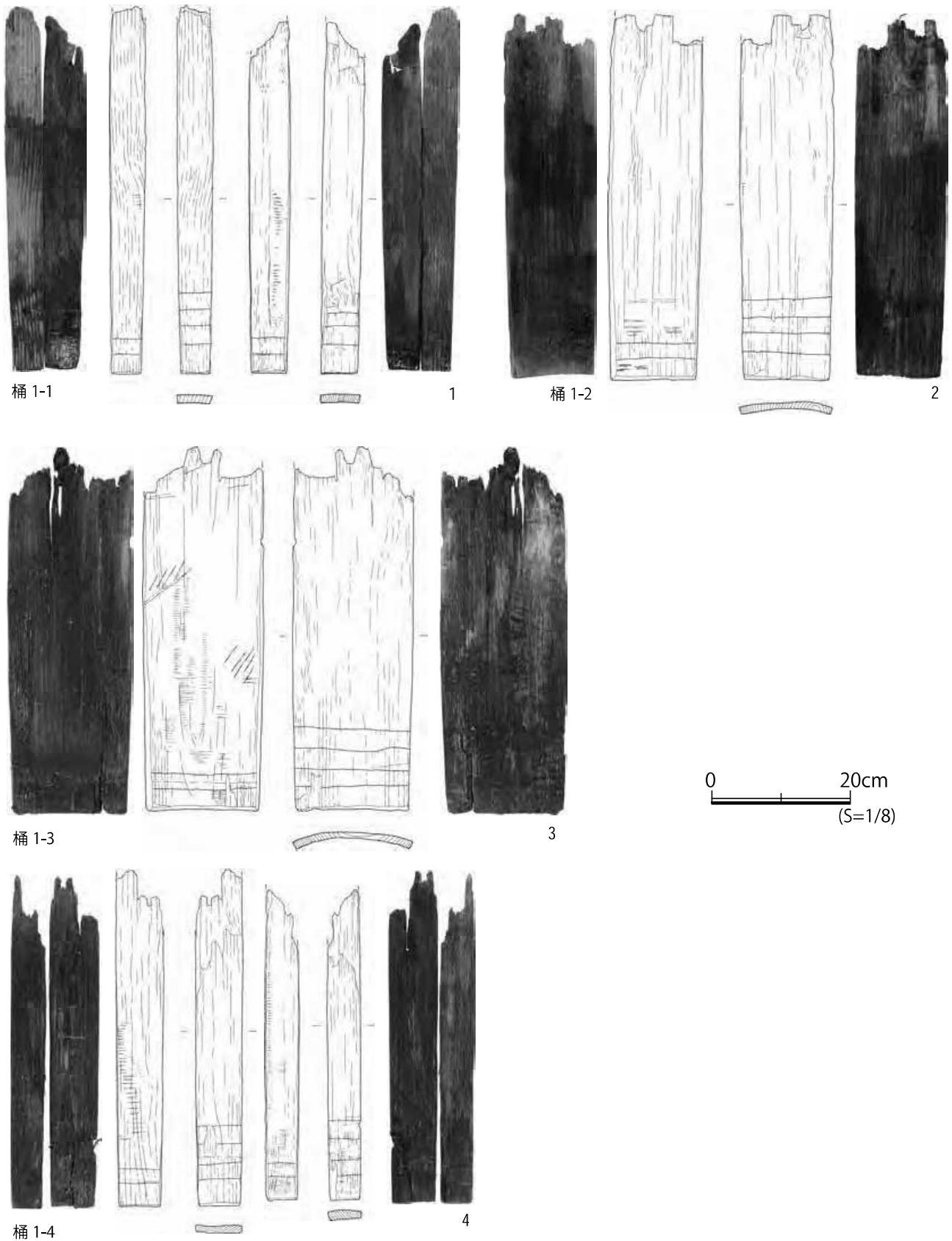


図 14 桶 1 部材 (1)

る(図13)。上部は一部削平されているようである。桶内出土遺物より近代の遺構であると判断できる。桶および近代の掘り込みの出土遺物をまとめて提示しておく。

桶1(図13)

12枚の板を組み合わせて作られていた(図14~16)。そのうち桶1-5と桶1-6には焼き印が入っていて、1-5は屋号とその下に「源永」と思われる文字が見られるが、やや判然としない。1-6は「改詰」と読める。

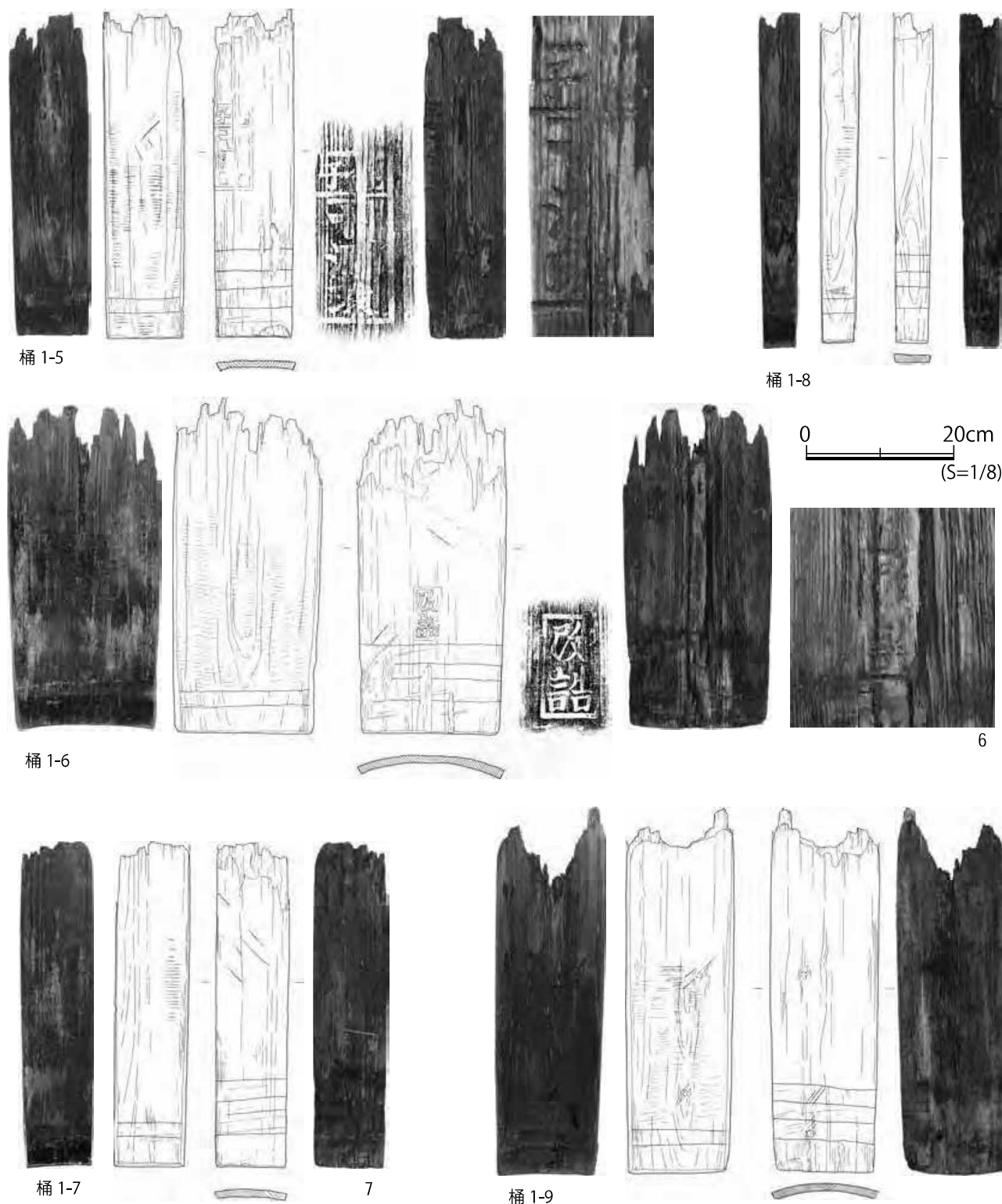


図15 桶1部材(2)

底板は完全に残っており、3枚の板を木釘で組み合わせることによって1枚としている。

出土遺物（図19）：1～5は磁器。1と2はセットで蓋付碗。3は蓋のみ。4は筒型湯呑。5は小杯。6は陶器で挿鉢。7は縄文土器を円盤状に加工したもの。8～10は箸か。8番は漆塗りか

桶 2（図13）

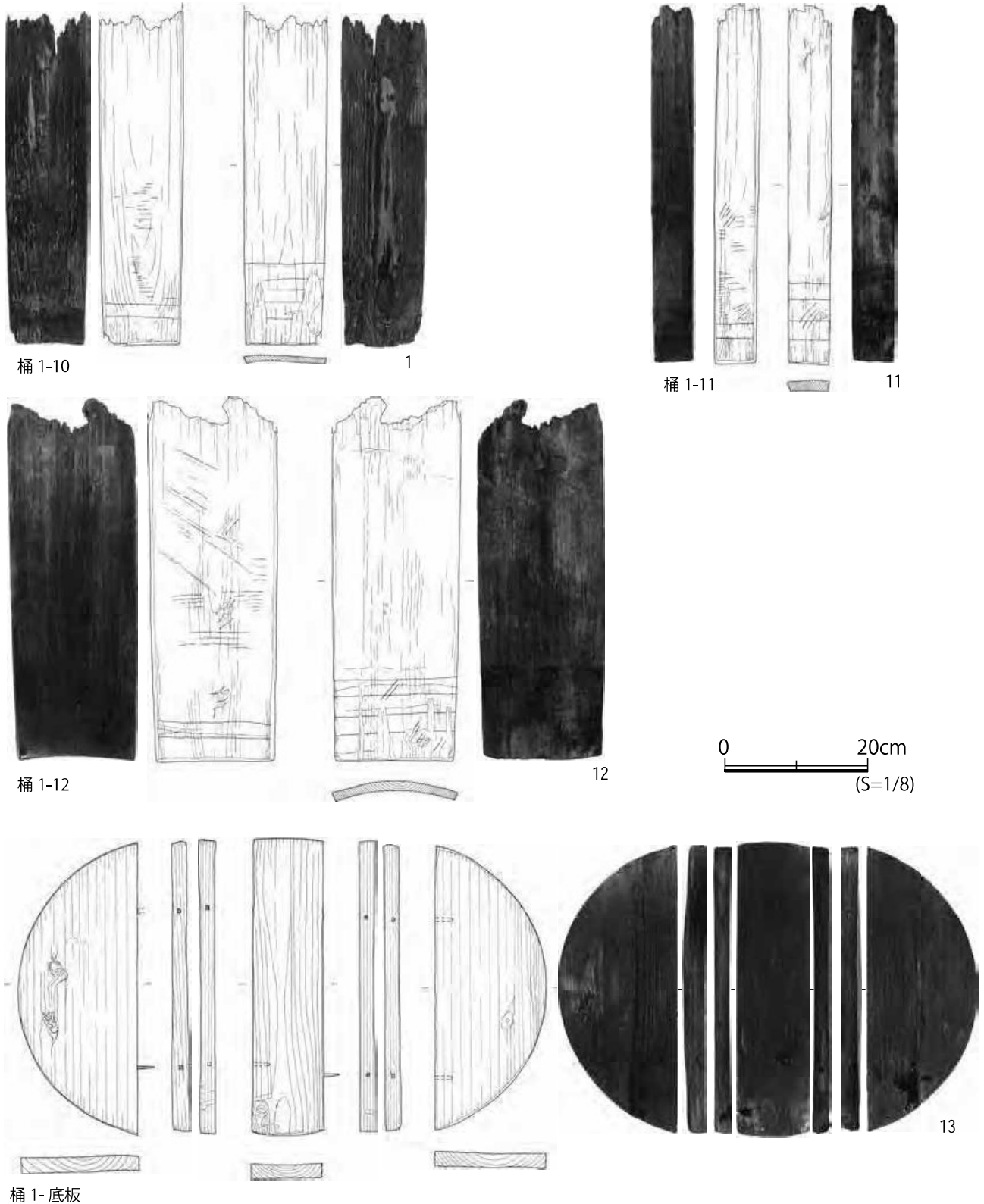


図16 桶1部材(3)

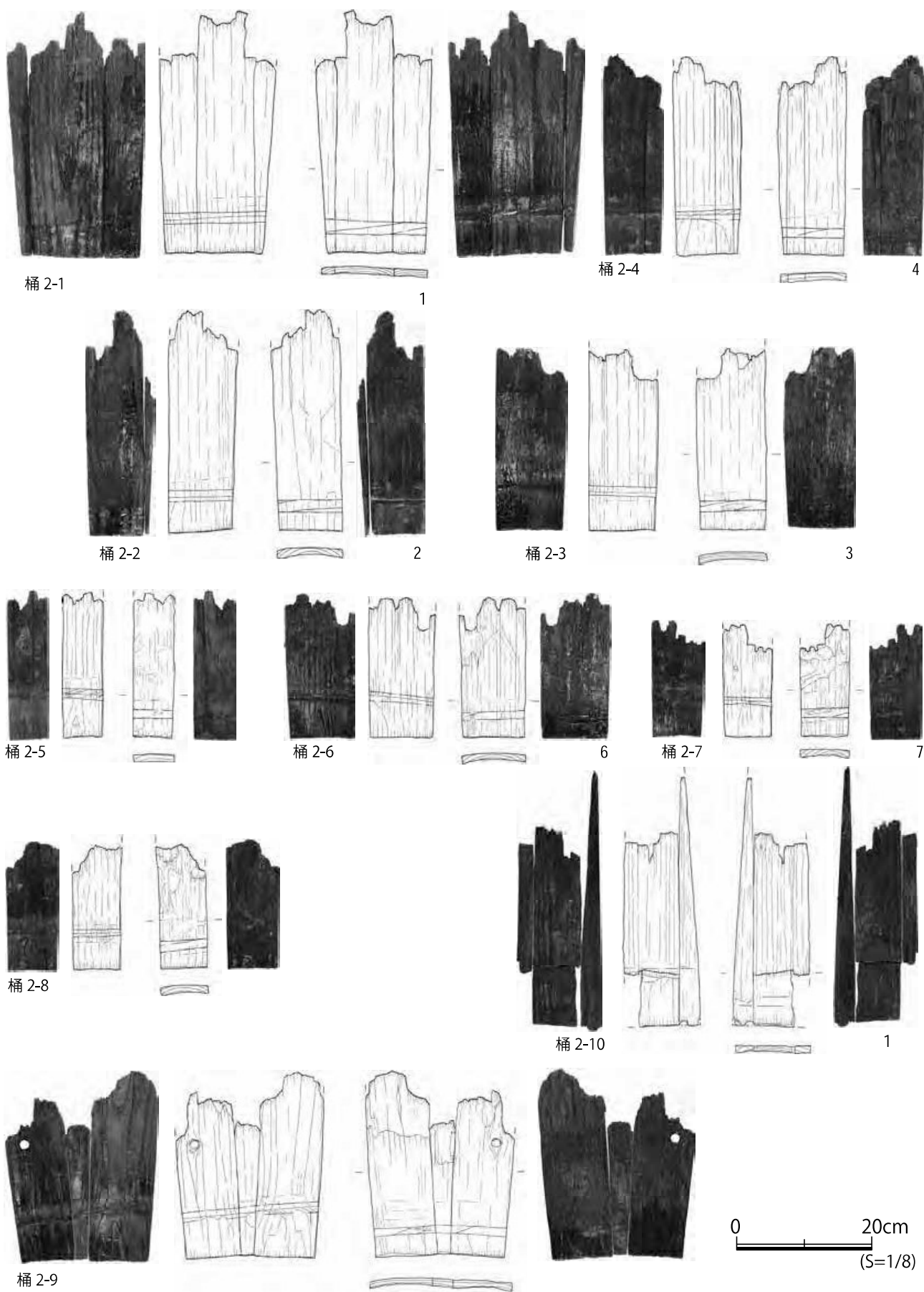


图 17 桶 2 部材 (1)

桶 1 よりやや小ぶりか。ただし上方は削られてしまっている可能性がある。13 枚の厚い板と 4 枚の薄い板を組み合わせて作られていた (図 17 ~ 18)。焼き印などは確認できていない。底板は完全に

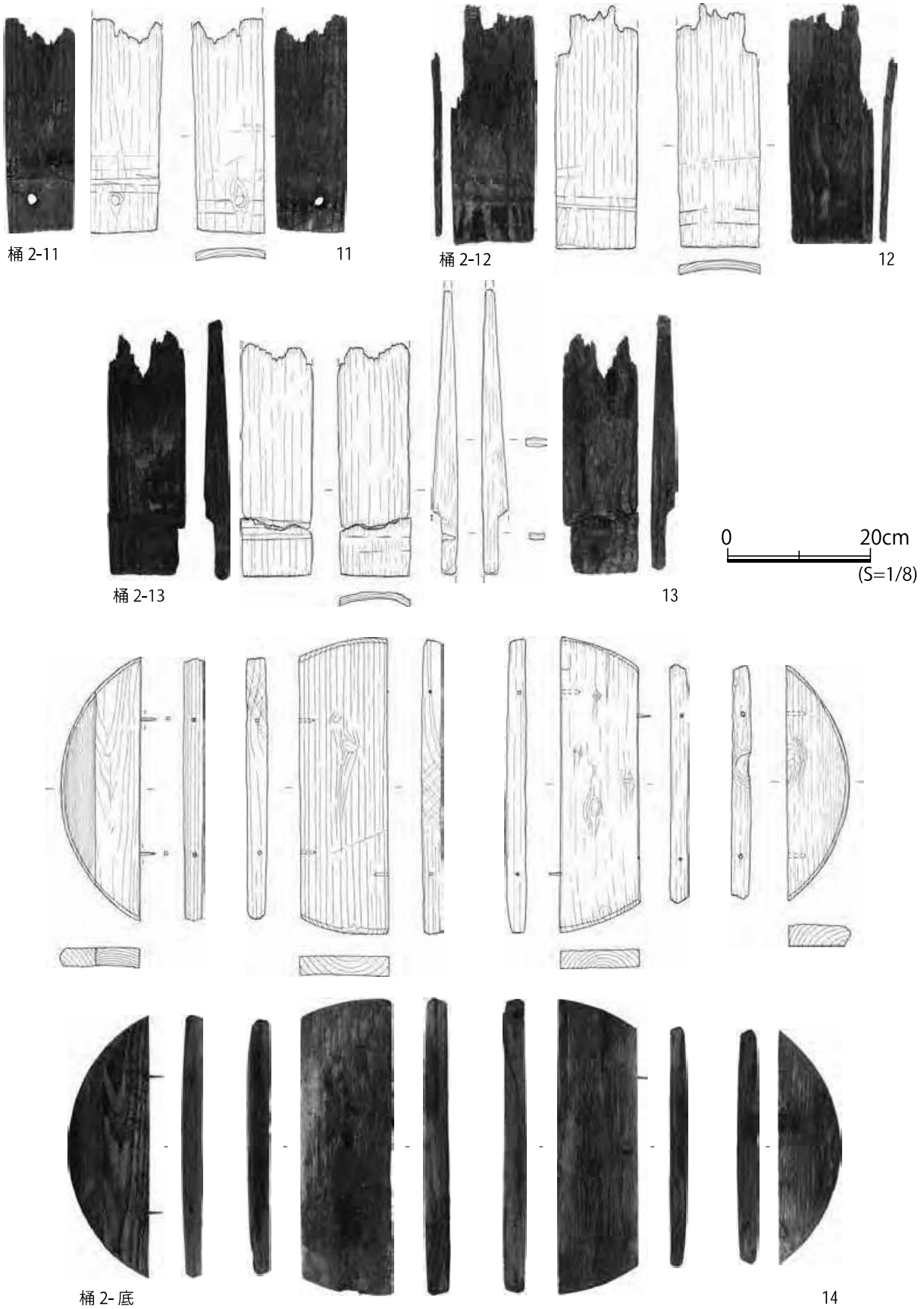
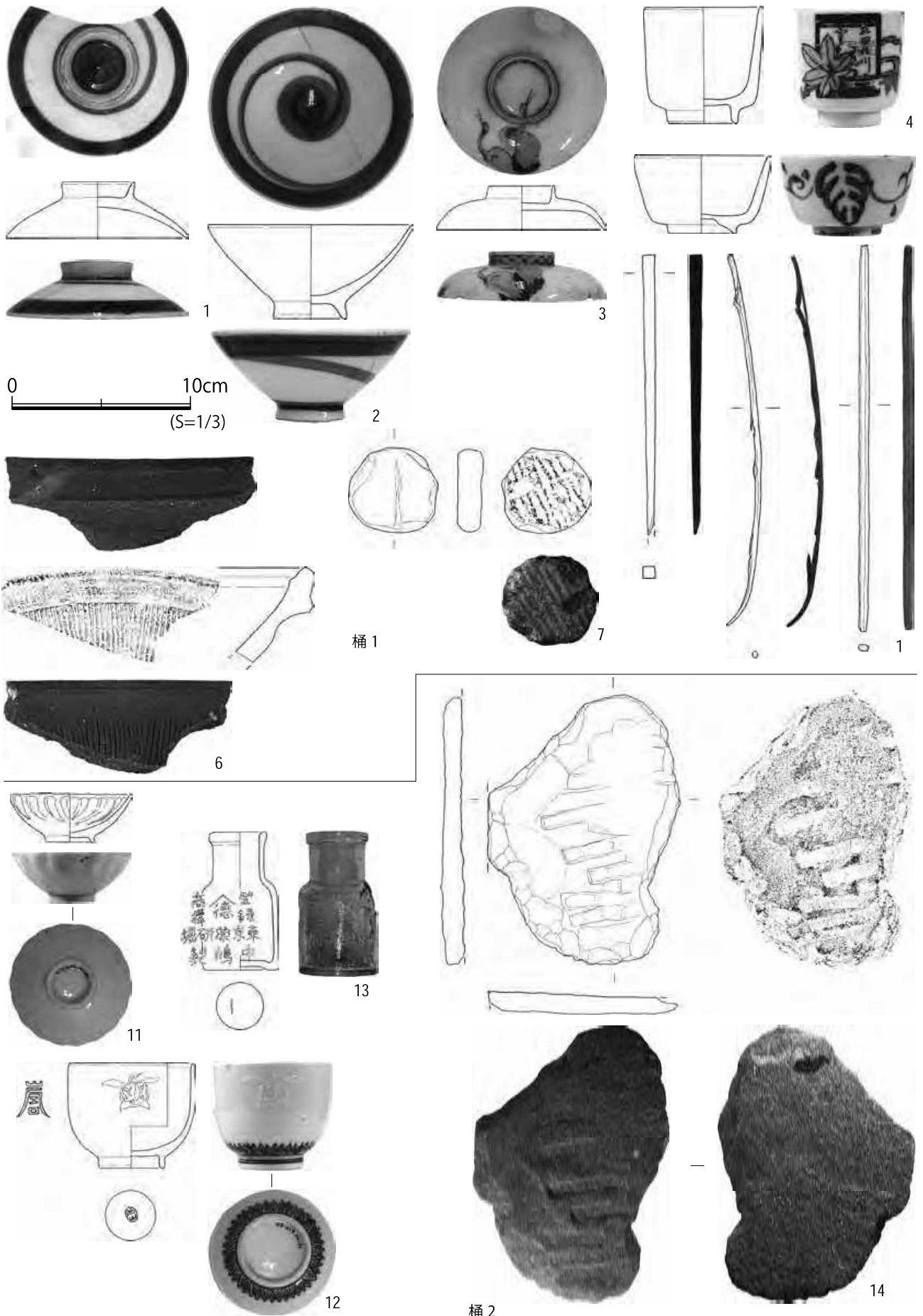


図 18 桶 2 部材 (2)



桶 2
 図 19 近代遺物 1

残っており、4枚の板を木釘によって組み合わせて1枚としている。

出土遺物（図19）：11～12は磁器。11は盃、12は小杯である。13はガラス瓶で、「登録（徳）商標

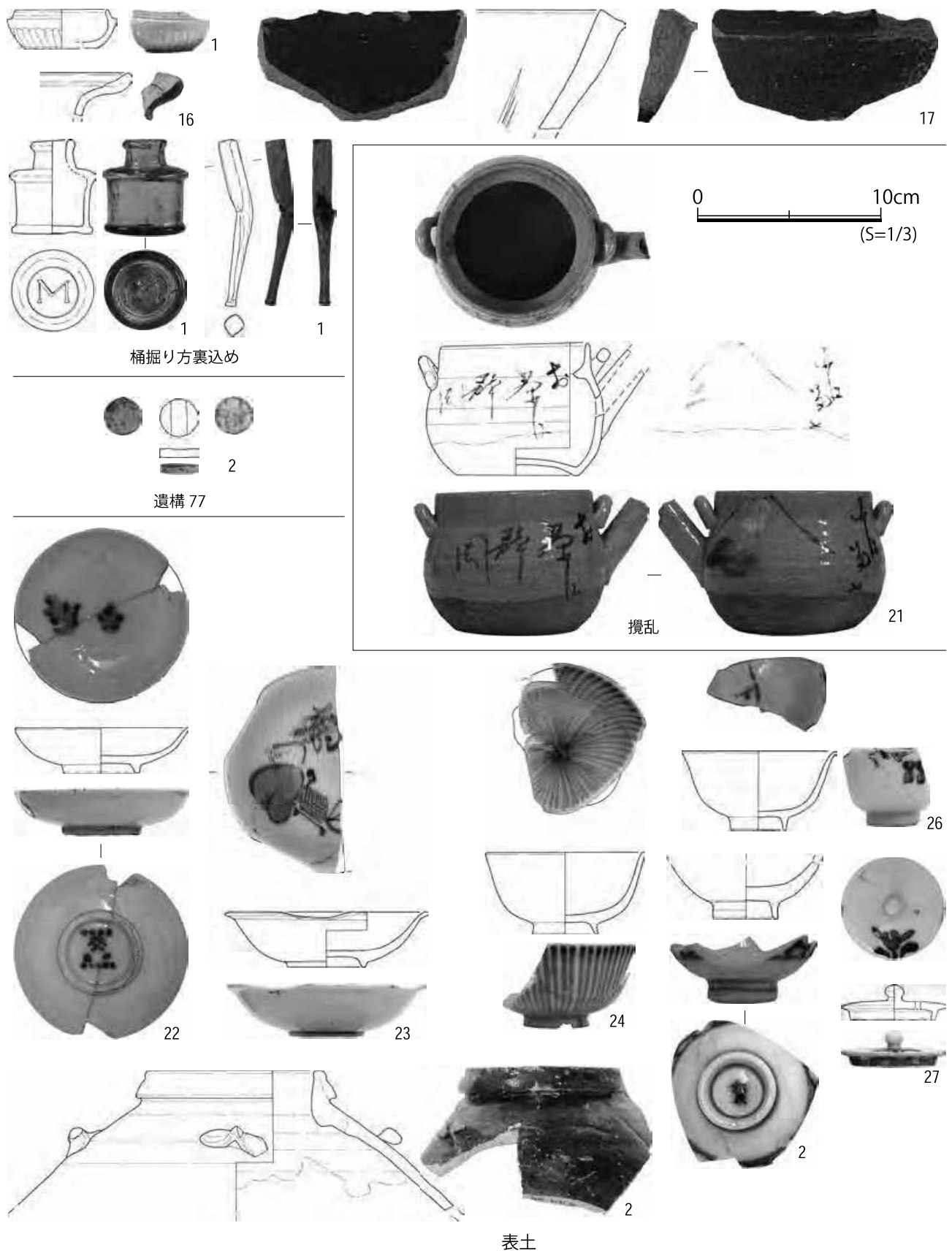


図20 近代遺物2

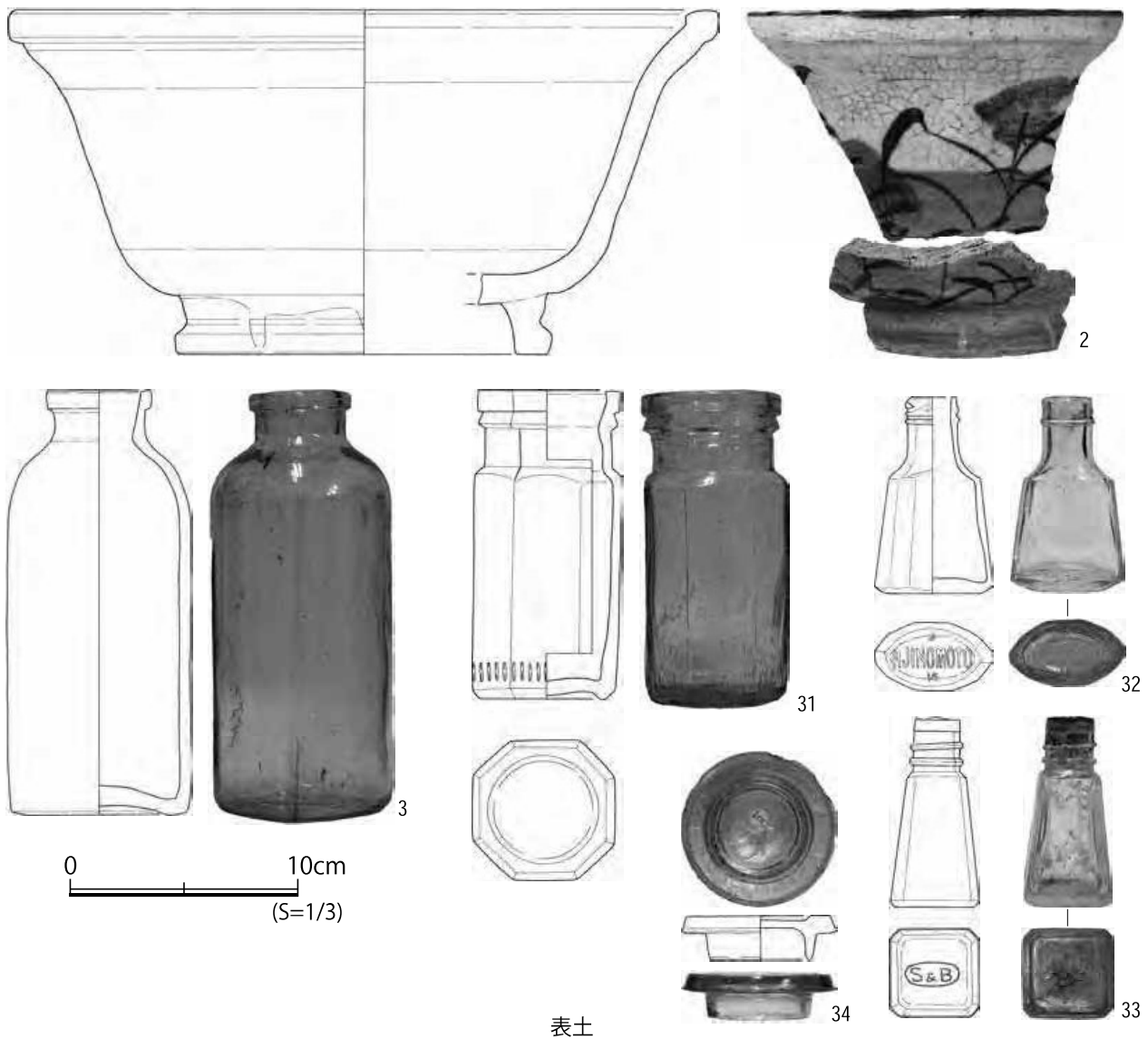


図 21 近代遺物 3

東京薬研堀 中嶋製」とある。薬瓶。14は緑泥片岩の板碑で、明瞭に加工痕が見られる。中世の板碑を桶の蓋に転用したものか。ほかに亀の子束子が1点出土。

ほかに桶を据えた土坑の裏込めからも近代の遺物が出土している(図20):15は青白磁の合子、16は伊勢系土鍋の口縁でいずれも中世のもの。17は陶器の播鉢。18はガラス瓶で底部にMのエンボスあり。丸善製インク瓶。19は金銅製でキセルの吸い口。

桶以外から出土した近代遺物で残存状況の良好なものを掲げておく(図20、21)。20は磁器で円形の製品。用途不明。遺構77より出土。21は攪乱坑より出土した陶製の汽車土瓶。胴部に「御茶静岡」の文字が見える。

以下は表土層より出土。22～27は磁器。22～23は小皿。24～26は小杯。27は急須の蓋。28～29は陶器。28は大型の壺か。29は植木鉢。30～33はガラス製品で、30、31は容器の瓶。32～33は調味料瓶で、33は底部に「AJINOMOTO」のエンボスあり。味の素の瓶。34は底部に「S&B」のエンボスあり。

コシヨウ瓶と思われる。34は容器の蓋のみ。

第三章 考察とまとめ

中世の遺構面が3面検出され、それぞれに建造物が確認された。第1面は泥岩粒を混入した整地層で、第2面、3面はほぼ泥岩粒を含まなくなる。第3面以下は基本的に自然堆積であると思われ、この面を中世基盤層と判断した。

第1面

第1面は残存状況が不良で、一部ピットは確認できたもののどのような土地利用であったかなどを類推することも困難である。検出レベルはおおよそ海拔7.55～7.61m。泥岩を比較的多く含んだ整地層となっている。遺構の切りあいより2時期の時間差が想定される。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・白磁・常滑・瀬戸・銅銭が出土している。1面の時期は13世紀中頃以降に属すると考えられる。

第2面

やはり残存状況は不良で、上部が削平されている箇所が多いが、それでも全域的にピット、土坑が確認された。検出レベルは海拔は7.39～7.50mである。ピットの数比較的多く、掘立柱建物址の存在が推定できるが明確なプランは復元できなかった。遺構の切りあいから第2面で発見した遺構は、少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・青磁・白磁・常滑・渥美・瓦器・銅銭・石製品・自然遺物が出土している。2面の時期は出土遺物より13世紀前半と考えられる。

第3面

第3面はしまりのある黒褐色粘質土で白色粒を含む整地層である。検出レベルは海拔は7.27～7.3mである。遺構はピット45穴・土坑3基、溝1条を検出した。掘立柱建物址のプランなどは不明瞭である。遺構の切りあいより少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

溝は比較的規模が大きい。東西とも調査区外に伸びている。

遺物は、かわらけ・手づくねかわらけ・白かわらけ・青磁・白磁・青白磁・常滑・渥美・土製品・木製品・自然遺物が出土している。

3面の時期は出土遺物より13世紀前半と考えられる。

第3b面

白色の砂がまだら状に微量に混じり、締まりのない黒色粘着土の面である。検出レベルは海拔7.25m。明瞭な遺構は確認できなかったが、わずかにかわらけ・常滑など中世に属する時期の遺物が含まれている。また中世以前の遺物も混入している。第3b面の下は砂が基本の層となる。

第4面

茶褐色の砂を主体として筋状に多数黒色粘質土が混入する。検出レベルは海拔7.01～7.12 mである。遺物の混入も見られなくなるため、中世時点での地山と推定される。

第4a面は やや赤みの強い茶褐色の砂が主体で、4面と同様黒色粘質土が筋状に混入している。海拔6.9～7.09 mである。

第4b面は 青みがかかった褐色砂が主体で、以前として多数の筋状の黒色粘質土の混入が見られる。海拔6.8～7.06 mである。

第4面は主に砂の色調によって区別したが、基本的な構成は大きな差はないといえる。遺物、遺構ともに確認できなかったため、人の活動が見られない時期の自然堆積か。

第5面

緑灰色の砂が主体となり、かなり均質で黒色粘質土などの混入もほぼ見られない点で4面の各層とは差がある。検出レベルは海拔6.8～6.95 mである。北側の調査区壁付近では砂が橙色に変化し、不均質な堆積をしているようであるが、何に起因しているのかは不明である。傾向としては南に向かって下がる緩やかな傾斜が見られるが、東西方向については大きな差は認められない。やはり遺構、遺物は確認されず。

第6面

本調査における最下層の検出面である。基本は緑灰色の砂を主体とするが、拳大の泥岩塊が散見される。泥岩は摩耗が激しく、角の鋭利さは消失している。海拔は約6.60～6.80 mで、現地表より1.3～1.4 m以下に当たる。

西北から東南方向にかけて、調査区のほぼ半分を占めて貝殻が面的に5～10cmほどの厚さで堆積しており、東西と南には調査区を超えて広がっているのが確実である。

貝や砂の間から数点の縄文土器を検出した。いずれも小破片で、激しい摩耗が見られる。貝層自体も人為的なものとはみなし難く、その他の遺構の痕跡なども見られないため、これらの土器はおそらく周囲から流れ込んできたものと考えられる。土器は縄文時代中期のものが主体となっているようである。貝層はおそらく縄文海進期に形成されたもので、当時この地点は海中に沈んでいたことが想定できる。

なお、古墳～古代に属する須恵器などの遺物が2～3面の構成土や溝の覆土から出土しているが、いずれも明確に当時の遺構に伴うものではない。中世以前と思われる遺構も確認できていないため、これらの遺物も縄文土器と同様、他の地点からの混入である可能性が高い。

第2節 周囲の調査例との比較

本調査地点では明確な土地利用の性格を示すような遺構は確認できなかった。掘立柱建物の存在は確実で、屋敷地であったことは想定されるが、隣接するような調査例が少なく、不明な点が多い。

なお、3面ではやや大型の溝が存在している。この溝は目前を走る道路と並行し、現在の逆川に直行するような軸方向となっている。地点18(図1)では河川とその護岸跡が検出されており、おそらく中世においてもその一帯では逆川の流路は大きな変化はないと想定される。この溝が逆川に流れ込むも

のかどうかまでは断定できないが、その方向は逆川の流路と関連があると推定され、この一帯の区画軸にも影響している可能性が高い。

周辺には寺院が多く、また地点2などはかなりの規模の武家屋敷地であったと推定される。しかし、建物や溝の方向などは、本調査地点とは異なり、現行の道路とかなり共通性があるため、現行道路は古い時期の区画をとどめている可能性がある。

一方で逆川の西側では方形竪穴建物が地点19などで確認されており、東側とはまた違った土地利用がされていたことも考えられる。ただしまだ調査例が十分ではないため、確定できることは多くない。今後の資料の増加が期待される。

第四章 名越ヶ谷遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

神奈川県鎌倉市に所在する名越ヶ谷遺跡において、遺跡周辺の古環境を検討するために土壌試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、古植生を検討した。

2. 試料と方法

分析試料は、2区東壁から採取された計6点である(表4)。これらの試料について、次の手順で分析を実施した。

表1 分析試料一覧表

地区	試料 No.	時期	土相
2区東壁	1	中世	暗赤褐色粘質土
	2		黒褐色粘質土
	3		黒色粘質土
	4		黒色粘質土
	5		青色砂層
	6	縄文海進期	貝層

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約4g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放

置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200を超えるまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。十分な量の花粉化石が含まれていない試料については、プレパラート1枚の全面を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本(PLC.2387~2397)を作製し、写真を図24に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールピーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体に由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図25に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

検鏡の結果、十分な量の花粉化石が得られたのはNo.3とNo.4の2試料のみで、その他の試料には十分な量の花粉化石が含まれていなかった。6試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉24、草本花粉22、形態分類を含むシダ植物胞子3の、総計49である。これらの花粉・胞子の一覧表を表5に、花粉分布図を図22に示す。花粉分布図では、樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分

率、草本花粉・胞子の産出

表2 産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 6
樹木							
Abies	モミ属	-	-	2	3	-	-
Tsuga	ツガ属	-	-	2	1	-	-
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複雑管束亜属	1	-	6	1	2	-
Sciadopitys	コウヤマキ属	1	-	-	3	-	-
Cryptomeria	スギ属	-	-	32	78	-	-
Taxaceae - Cephalotaxaceae -	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科	-	-	-	5	-	-
Cupressaceae							
Pterocarya - Juglans	サワグルミ属-クルミ属	-	-	5	2	-	1
Carpinus - Ostrya	クマシデ属-アサダ属	-	-	1	6	-	-
Alnus	ハンノキ属	-	-	2	1	-	-
Fagus	ブナ属	-	-	1	4	-	-
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	1	-	27	12	-	-
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	-	-	22	31	-	-
Castanea	クリ属	-	-	25	19	-	-
Castanopsis - Paspalia	シイノキ属-マテバシイ属	-	-	46	5	-	-
Ulmus - Zelkova	ニレ属-ケヤキ属	-	-	20	18	-	-
Celtis - Aphananthe	エノキ属-ムクノキ属	-	-	1	1	-	-
Prunus	サクランボ属	-	-	-	1	-	-
Mallotus	アカメガシワ属	-	-	1	-	-	-
Rhus - Toxicodendron	ヌルデ属-ウルシ属	-	-	1	1	-	-
Aesculus	トチノキ属	-	-	4	-	-	-
Araliaceae	ウコギ科	-	-	2	-	-	-
Ligustrum	イボタノキ属	-	-	-	3	-	-
Fraxinus	トネリコ属	-	-	-	6	-	-
Clerodendron	クサギ属	-	-	-	1	-	-
草本							
Typha	ガマ属	-	-	5	5	-	-
Alisma	サジメモダカ属	-	-	2	-	-	-
Gramineae	イネ科	1	-	73	252	-	-
Cyperaceae	カヤツリグサ科	-	-	4	28	-	-
Moraceae	クワ科	-	-	-	3	-	-
Rumex	ギンギン属	-	-	-	1	-	-
Polygonum sect. Persicaria -	サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	-	7	-	-
Echinocaulon							
Fagopyrum	ソバ属	-	-	1	-	-	-
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	-	-	12	81	-	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	-	-	-	5	-	-
Thalictrum	カラマツソウ属	-	-	-	1	-	-
Ranunculaceae	キンボウゲ科	-	-	-	3	-	-
Brassicaceae	アブラナ科	-	-	6	18	-	-
Rosaceae	バラ科	-	-	-	1	-	-
Leguminosae	マメ科	-	-	-	2	-	-
Apiaceae	セリ科	-	-	4	11	-	-
Solanum	ナス属	-	-	1	5	-	-
Plantago	オオバコ属	-	-	-	2	-	-
Ambrosia - Xanthium	ブタクサ属-オナモミ属	-	-	-	17	-	-
Artemisia	ヨモギ属	-	-	55	114	-	-
Tubuliflorae	キク亜科	2	-	5	6	-	-
Liguliflorae	タンポポ科	2	-	4	10	-	-
シダ植物							
Ceratopteris	ミズワラビ属	-	-	-	1	-	-
monolete type spore	単条溝胞子	1	-	9	17	-	1
trilete type spore	三条溝胞子	-	-	1	7	1	-
Arboreal pollen	樹木花粉	3	-	200	202	2	1
Nonarboreal pollen	草本花粉	5	-	172	572	-	-
Spores	シダ植物胞子	1	-	10	25	1	1
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	9	-	382	799	3	2
unknown	不明	-	-	1	21	-	-

検鏡の結果、6試料からは

イネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、シバ属、キビ族、ウシクサ族、ジュズダマ属

表3 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個/g)	ネザサ節型 (個/g)	ササ属型 (個/g)	他のタケ亜科 (個/g)	ヨシ属 (個/g)	シバ属 (個/g)	キビ族 (個/g)	ウシクサ族 (個/g)	ジュズダマ属 (個/g)	ポイント型珪酸体 (個/g)
No. 1	32,800	77,900	6,800	16,400	0	1,400	110,700	114,800	0	2,700
No. 2	7,000	43,500	0	12,200	24,400	0	85,300	127,100	0	1,700
No. 3	4,600	31,000	5,700	12,600	16,100	1,100	82,800	128,800	0	4,600
No. 4	3,900	62,200	9,100	27,200	3,900	0	71,300	119,200	1,300	6,500
No. 5	0	0	1,300	0	0	0	1,300	2,500	0	0
No. 6	0	1,000	9,100	0	0	0	0	11,100	0	0

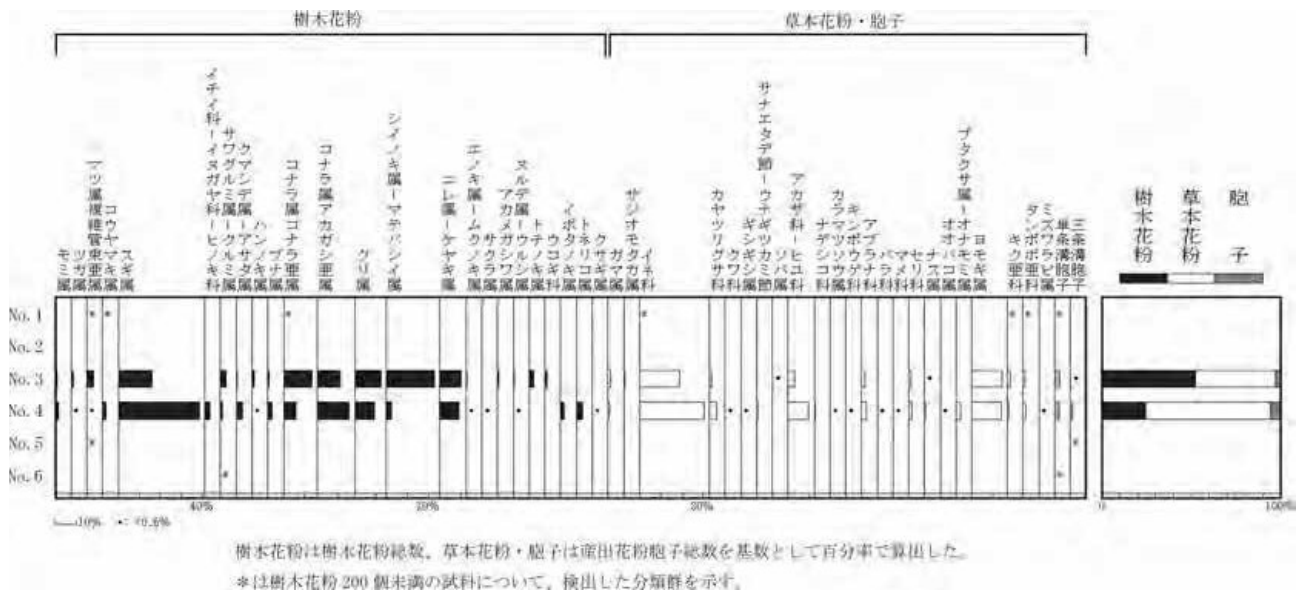


図 22 名越ヶ谷遺跡における花粉分布図

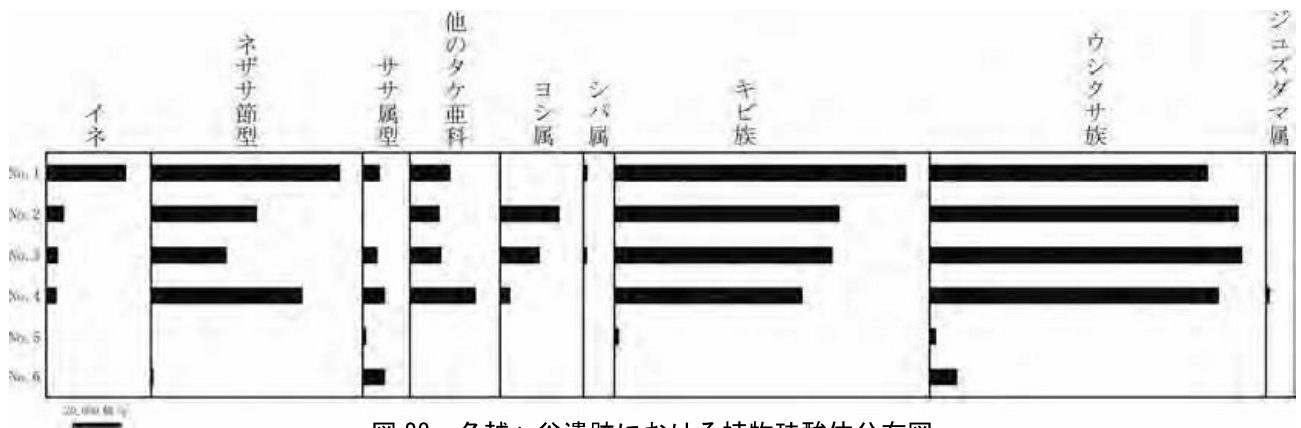


図 23 名越ヶ谷遺跡における植物珪酸体分布図

の9種類の機動細胞珪酸体が確認できた。No.5とNo.6では、含まれる機動細胞珪酸体は少量であるが、No.4以上の層準には多くの植物珪酸体が含まれていた。

4. 考察

検鏡の結果、No.5とNo.6には十分な量の花粉と植物珪酸体が含まれていなかった。花粉や植物珪酸体は、一般的に泥（粘土、シルト）の大きさとほぼ同じである。よって、花粉や植物珪酸体は、陸域や水域に落下した場合、泥などの細粒子と同じような挙動を示すと考えられる。No.5は砂であり、No.6は貝層である。これらの堆積物と花粉、植物珪酸体は堆積環境における挙動が異なるため、No.5やNo.6には花粉や植物珪酸体がとどまりにくかったと思われる。

一方で、No.1とNo.2では花粉の産出は見られないものの、植物珪酸体は産出している。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石の残りが残りにくい。おそらく、No.1とNo.2の堆積物は、乾燥的環境に晒されるなどしたために、花粉化石の残りが悪かったと考えられる。植物珪酸体はガラス質であるため、乾燥状態でも良好な状態で保存される。そのため、花粉は出ないが植物珪酸体は産出するという状況が生じていると思われる。なお、No.2では抽水植物

のヨシ属の機動細胞珪酸体が産出しており、遺跡周辺に湿潤な環境が存在したと推測されるため、堆積物が乾燥状態に晒されたのは、堆積物の堆積後であった可能性も考えられる。以下では、得られた花粉化石や植物珪酸体の群集に基づいて、遺跡周辺の古植生について検討した。

十分な量の花粉化石が得られた No. 3 と No. 4 では、スギ属やコナラ属アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属の産出が目立つ。よって、遺跡周辺にはスギ林や、カシ類、シイ類からなる照葉樹林が分布を広げていたと考えられる。また、二次林要素の植物を含むコナラ属コナラ亜属やクリ属の産出も目立ち、遺跡周辺の明るい開けた場所にはコナラやクリなども分布を広げていたと考えられる。こうした場所には、ネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族といったイネ科植物も生育していたであろう。その他にもアカザ科-ヒユ科、ヨモギ属などの草本類も生育していたと思われる。栽培植物としてはイネ機動細胞珪酸体の産出が見られるため、周辺にはイネが存在していた。イネ機動細胞珪酸体の産出量については、試料 1g 当り 5,000 個以上検出された地点の分布範囲と、実際の発掘調査で検出された水田址の分布がよく対応する結果が得られており（藤原, 1984）、試料 1g 当り 5,000 個が水田土壌か否かを判断する目安とされている。この目安に照らし合わせると、No. 3 と No. 4 のイネ機動細胞珪酸体は水田土壌の水準には及ばず、イネ機動細胞珪酸体は試料採取地点の近辺からもたらされたなどの可能性が考えられる。また、No. 3 ではソバ属花粉の産出も見られ、周辺でソバ栽培が行われていたと思われる。

なお、鎌倉市の花粉分析では、12 世紀末～13 世紀末の期間はスギ属やコナラ属アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属が優勢で、13 世紀末にマツ属維管束亜属が増加する傾向が知られている（鈴木・吉川, 1994）。今回の No. 3 と No. 4 では、マツ属複維管束亜属の産出は目立たず、スギ属やコナラ属アカガシ亜属、シイノキ属-マテバシイ属の産出が目立つため、No. 3 と No. 4 は 12 世紀末～13 世紀末の堆積物である可能性が高い。

No. 2 では花粉が産出していないため、詳細な植生は不明であるが、植物珪酸体を見ると、ヨシ属の産出が特徴的である。ヨシ属は No. 3 と No. 4 においても産出が認められるが、上位層に向かって増加しており、No. 2 で最も産出量が多くなる。この時期はヨシ属が生育できるような湿地的環境が遺跡周辺に広がっていたと考えられる。

その上位の No. 1 では、イネ機動細胞珪酸体の産出が突出しており、水田土壌の目安を大幅に上回る密度で検出された。一方、No. 2 で多く産出していたヨシ属は、No. 1 では産出していない。この 2 つの分類群の産出状況から判断すると、遺跡周辺でヨシ属が分布を広げていた湿地的環境の場所を水田として開拓した可能性が考えられる。また、No. 1 では、ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出量も増加しており、水田の開拓に伴い、明るい開けた場所が広がり、そうした場所にネザサ節のササ類も分布を広げていた可能性がある。

引用文献

藤原宏志（1984）プラント・オパール分析法とその応用—先史時代の水田址探査—。考古学ジャーナル, 227, 2-7.

鈴木 茂・吉川昌伸（1994）鎌倉市永福寺跡における鎌倉時代の植生変遷。植生史研究, 2, 45-51.

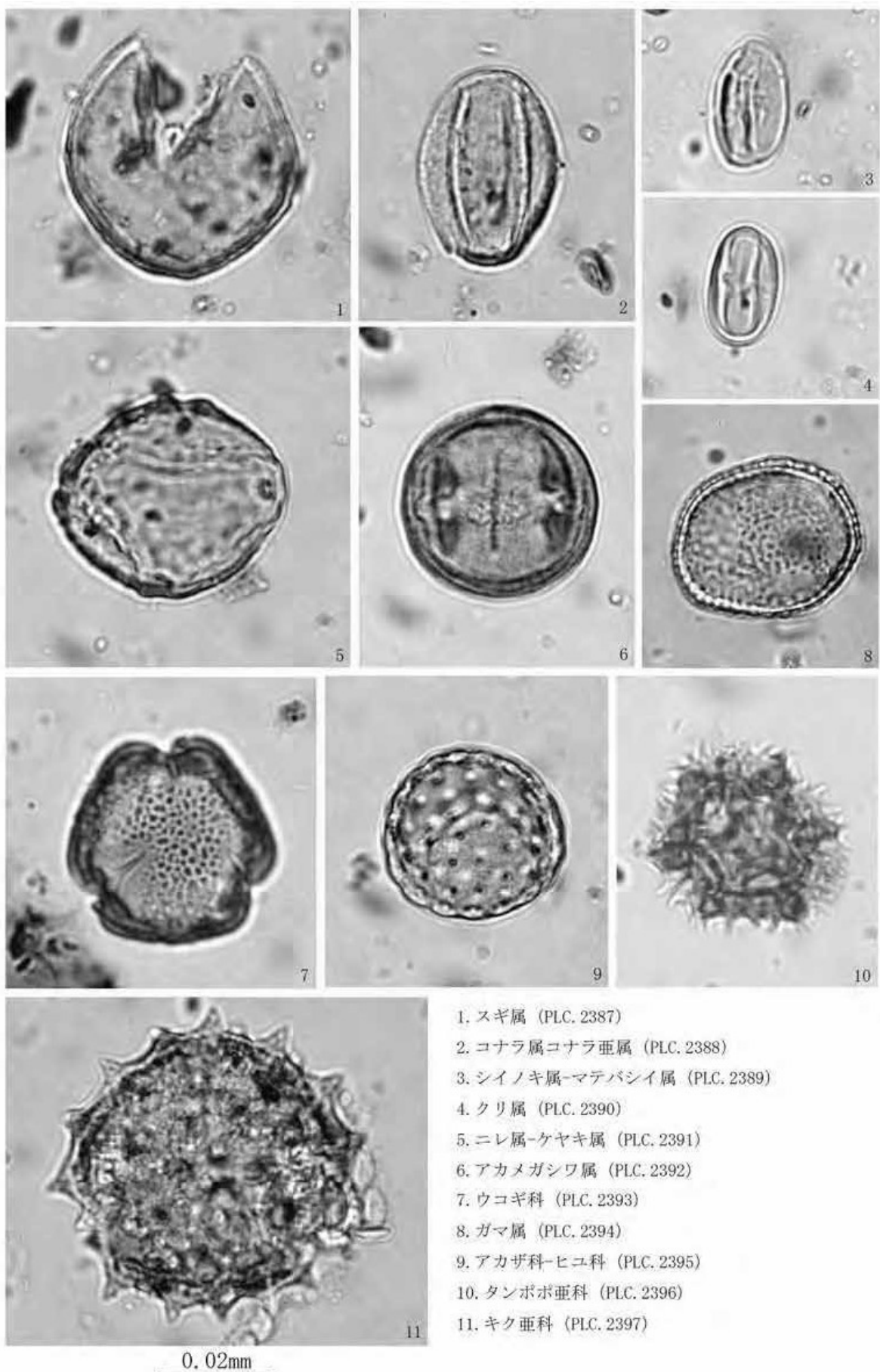
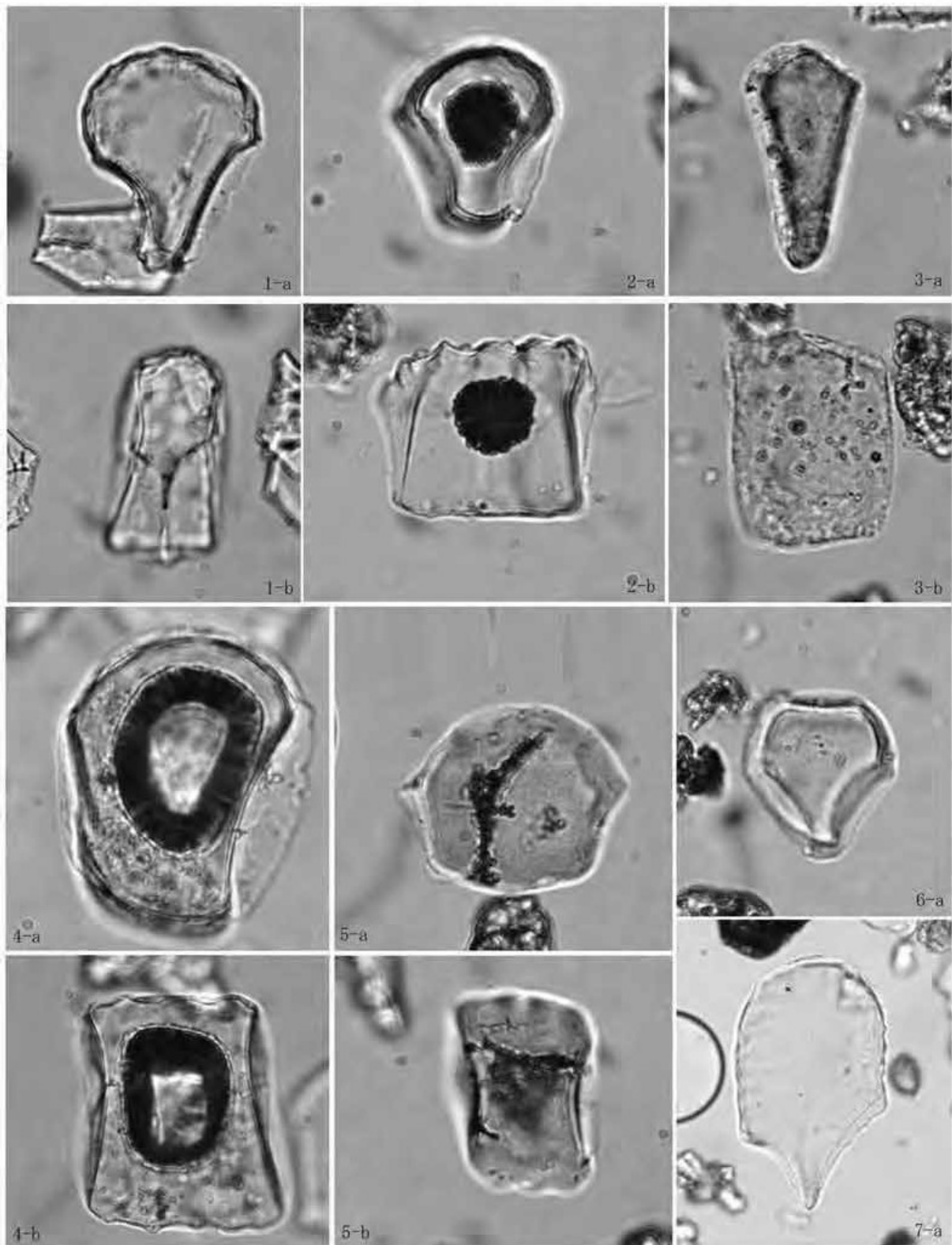


図 24 名越ヶ谷遺跡から産出した花粉化石



1~6:0.02mm 8:0.05mm

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| 1. イネ機動細胞珪酸体 (No. 1) | 2. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (No. 1) |
| 3. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (No. 1) | 4. キビ族機動細胞珪酸体 (No. 1) |
| 5. ジュズダマ属機動細胞珪酸体 (No. 4) | 6. シバ属機動細胞珪酸体 (No. 1) |
| 7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (No. 2) | a:断面 b:側面 |

図 25 名越ヶ谷遺跡から産出した植物珪酸体

表4 中世出土遺物観察表

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目	
						口径	底径	器高	重		
7-1	2面	11	土製品	手づくねかわらけ	4/5	14.3	-	3.1		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 外底指頭痕 一段ナデ b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 ○ c: 淡橙色 e: 良好 f: 内底面ナデ	
7-2			磁器	青磁劃花文碗	口縁部小片	-	-	[5.1]		a: ロクロ成形 b: 灰色 黒色粒 精良緻密土 c: d: 灰緑色半透明釉 釉層薄い e: 堅緻 f: 内面に劃花文	
7-3		14	土製品	手づくねかわらけ	2/3	(13.5)	-	3.2		a: 外底指頭痕 一段ナデ b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 土丹粒 ○ c: 灰黄~黄灰色 e: やや甘い	
7-4		26	土製品	手づくねかわらけ	1/5	(8.0)	(6.8)	1.8		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c: 淡黄灰色 e: やや甘い	
7-5			石製品	石白(下白)	小片	推定径 27.0	-	厚 11.4		f: 凝灰岩?	
7-6		41	銅製品	銭		直径 2.3	内孔 0.6 × 0.7	厚 ○	2.4	f: 聖宋元寶(篆書) 北宋 1101年	
7-7		49	磁器	青磁蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[2.4]		a: ロクロ成形 b: 灰白色 黒色粒 白色粒わずか 精良堅緻 c: d: 暗緑色半透明釉 釉層外体部厚め	
7-8		72	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(8.4)	(6.6)	1.8		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕(ナデにより不明瞭) b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い	
7-9		77	磁器	白磁壺	胴部片	-	-	[11.5]		b: 灰白色 黒色粒 精良緻密土 c: d: 青味を帯びた灰白色不透明釉 釉層薄い e: 堅緻 f: 気泡あり	
7-10			銅製品	銭		直径 2.7	内孔 0.7			f: 銭種不明	
7-11		79	土製品	手づくねかわらけ	1/4	(15.6)	(12.5)	3.4		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡黄灰色 e: やや甘い	
7-12			磁器	青磁劃花文碗	高台~体部	-	高台径 6.6	[2.0]		a: ロクロ成形 b: 暗灰白色 砂粒 精良堅緻 c: d: 明灰緑色透明釉 釉層高台畳付までやや厚め e: f: 同安窯 内底1条の条線	
7-13			磁器	青磁櫛椀文皿	底部片	-	5.4	[1.2]		b: 灰白色 砂粒 精良堅緻 c: d: 暗灰緑色透明釉 釉層底部を除きごく薄い e: f: 同安窯 気孔あり	
7-14		82	銅製品	銭		直径 2.5	内孔 0.6 × 0.6		2.7	f: 寛永通寶 寛文8年(1668年) 背面「文」 亀戸銭 文銭 寛永通寶は寛永13年(1636年)に創鑄。書体・背文等により新寛永と思われる	
7-15		遺構外	土製品	手づくねかわらけ	1/4	(10.0)	(7.6)	1.7		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 明黄橙色 e: 良好	
7-16			土製品	手づくねかわらけ	ほぼ完形	9.5	8.2	2.0		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄灰色 e: やや甘い	
7-17		構成土	土製品	手づくねかわらけ	1/5	(14.3)	-	3.5		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄褐色	
7-18			土製品	手づくねかわらけ	1/6	(13.3)	-	[3.8]		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 淡黄灰色 e: やや甘い	
7-19			土製品	ロクロかわらけ(小)	ほぼ完形	9.0	7.8	1.8		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 砂質土気味 c: 淡橙色 e: 良好	
7-20			磁器	青磁劃花文碗	口縁部小片	-	-	[5.2]		b: 灰色 黒色粒 緻密土 c: d: 淡灰緑色半透明釉 釉層薄い	
7-21			陶器	須恵器 坏	口縁部小片	-	-	[4.5]		a: ロクロ成形 b: 微砂 白色粒 赤色粒 c: 灰色 d: e: 良好	
7-22			陶器	須恵器 坏	蓋受け部片	-	-	[3.3]		a: ロクロ成形 b: 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 良土 c: 灰褐色 e: 良好	
10-1			3面	88	土製品	手づくねかわらけ	完形	14.3	-	3.0	
10-2		99		土製品	手づくねかわらけ	1/4	(15.4)	-	3.2		a: 外底指頭痕 一段ナデ 面取り b: 微砂 雲母 黒色粒 泥岩粒 ○ c: 黄灰色 e: やや甘い
10-3		131		土製品	手づくね内折白かわらけ(極小)	口縁部小片	-	-	[1.2]		b: 微砂 赤色粒 ○ c: 赤味を帯びた灰白色 e: 良好
10-4		134		土製品	手づくねかわらけ	ほぼ完形	13.4	12.0	3.7		a: 外底指頭痕 強いナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 良土 c: 黄褐色 e: 良好
10-5	土製品			ロクロかわらけ(大)	2/3	13.2	8.7	3.4		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c: 明黄灰色 e: やや甘い	
10-6	土製品	ロクロかわらけ(小)		1/4	(9.8)	(8.1)	1.9		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙灰色 e: 良好		
10-7	土製品	縄文器種不明		口縁部小片	-	-	[4.0]		b: 砂粒 雲母 海綿骨針多い c: 胎土黒灰色 器表橙色		
10-8	土製品	手づくねかわらけ		完形	14.3	-	3.2		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡黄褐色 e: 良好 f: 口縁・外面部に半周の溝が刻まれる		
10-9	土製品	ロクロかわらけ(小)		1/5	(9.7)	(8.0)	1.4		a: 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 粉質土 c: 暗黄灰~黄灰色 e: 良好		
10-10	木製品	板状木製品		-	長 11.3	幅 3.1 ~ 3.5	厚 0.2 ~ 0.3		f: 周縁を丸く仕上げている事から曲物の底板か		
10-11	木製品	板状木製品		-	長 13.0	幅 3.0	厚 0.1 ~ 0.4		f: 刃物等で加工したような痕跡数ヶ所見られる。形代の様な物か		
10-12	木製品	用途不明		-	長 4.5	幅 4.8	厚 1.2		f: 板目取り 建築部材か		
10-13	土製品	手づくねかわらけ		ほぼ完形	9.1	-	1.6		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡橙色 e: 良好		
10-14	土製品	山茶碗		底部片	-	(6.8)	[1.7]		a: 貼り付け高台 b: 灰白色 白色粒 黒色粒わずか c: 灰白色 e: 硬質 f: 南部系 畳付粗敷痕		
10-15	陶器	常滑壺		胴部小片	-	-	[7.6]		a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 黒色粒 長石 石英 小石粒 c: 褐色 e: 硬質 f: スタンプ文あり		
10-16	陶器	常滑壺		胴部小片	-	-	[5.6]		a: 粘土紐輪積み技法 b: 褐色 砂粒 白色粒 石英 c: 暗赤褐色 d: e: 硬質 f: スタンプ文あり		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
10-17	3面	134	陶器	須恵器 坏	口縁部 1/4	(12.0)	-	[3.5]		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 b: 灰色 砂粒 雲母 海綿骨針 c: 灰色 d: e: 硬質 f:
10-18			木製品	折敷	-	長 (16.2)	幅 (4.4)	厚 0.2~0.3		f: 表面(1面のみ)に刃物痕数ヶ所あり
10-19			木製品	用途不明	-	長 10.9	幅 3.6~4.4	厚 0.6~0.8		f: 周縁数ヶ所に刃物痕あり
10-20			木製品	用途不明	-	長 (9.0)	幅 6.7	厚 0.4~0.8		
10-21			木製品	黒漆碗	底部 1/2	-	(8.0)	[2.2]		f: 内外面に黒漆あり 底面なし 外面破損あり
10-22			土製品	手づくね かわらけ	ほぼ完形	13.5	11.4	2.6		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 良土 c: 明黄灰色 e: やや甘い
10-23			木製品	織具 紡輪 or 紡錘車?	-	直径 6.4	高さ 0.8	孔径 0.5×0.6		
10-24	3b面	構成土	土製品	手づくね かわらけ	完形	14.9	13.2	3.5		a: 外底指頭痕 ナデ b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡黄灰色 e: やや甘い
10-25			土製品	手づくね かわらけ	完形	9.2	-	1.8		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 明黄 色 e: やや甘い
10-26			土製品	手づくね かわらけ	11/12	8.9	-	2.0		a: 外底指頭痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 西岸粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 内面 1/4 が二次焼成で黒色化
10-27			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.6)	(5.4)	2.0		a: 内底ナデ不鮮明 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
10-28			陶器	常滑 片口鉢 I 類	口縁部小 片	-	-			a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 白色粒 黒色粒 c: 灰色 e: 硬質
10-29			陶器	須恵器 坏	口縁部小 片	-	-	[2.8]		a: ロクロ成形 b: 砂粒 白色粒 c: 青灰色 e: 良好・硬質
11-1			貝殻層		土製品	縄文土器 浅鉢か?	口縁部小 片	-	-	[7.3]
11-2	土製品	縄文土器 深鉢			口縁部小 片	-	-	[5.2]		a: 粘土紐 b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 雲母非常に多い c: 暗灰褐色 f: 沈線による文様 縄文は不明瞭 内外面共にコグ跡あり 中期
11-3	土製品	縄文土器 器種不明			胴部小片	-	-	[5.2]		a: 粘土紐 b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 雲母 c: 暗灰褐色 f: 加曾利 E3 磨消し縄文 単節 LR 内外面共にコグ跡あり
11-4	土製品	縄文土器 深鉢			胴部小片	-	-	[5.6]		a: 粘土紐 b: 暗灰色 砂粒 雲母多量 c: 褐色~暗褐色 f: 曾利 3 沈線 による文様 内面沸騰によるコグ跡?見られる
11-5	土製品	縄文土器 深鉢			胴部小片	-	-	[3.9]		a: 粘土紐 b: 暗褐色~黒褐色 砂粒 白色粒 雲母やや多い c: 内面黒 褐色 外面暗赤褐色 d: e: f: 加曾利 E2 単節縄文 RL 内面コグ跡あり
11-6	土製品	縄文土器 器種不明			胴部小片	-	-	[3.1]		a: 粘土紐 b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 雲母やや多い c: 内面暗褐色 外面暗灰褐色 f: 外面コグ跡あり 後期堀之内か
11-7	土製品	縄文土器 器種不明			胴部小片	-	-	[2.1]		a: 粘土紐 b: 暗灰色 砂粒 白色粒 雲母 c: 暗灰褐色 f: 内外面共に コグ跡あり
11-8	土製品	縄文土器 器種不明			口縁部小 片	-	-	[2.5]		a: 粘土紐 b: 暗褐色 砂粒 白色粒 雲母多量 c: 内面暗灰褐色 外面 暗褐色 f: 沈線による文様 中期後半
12-1	攪乱等		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.4)	(6.0)	1.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 黒 色粒 海綿骨針 砂質気味 c: 灰黄色 e: やや甘い
12-2			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(8.4)	(5.8)	1.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海 綿骨針 赤色粒 泥岩粒 やや粗土 c: 明橙灰色 e: 良好
12-3			陶器	常滑 片口鉢○類	口縁部小 片	-	-	[4.0]		a: 粘土紐輪積み技法 b: 灰色 砂粒 石英粒 長石粒 c: 暗赤褐色 e: 灰緑色釉降灰 f: 編年 4~5
12-4			石製品	滑石鍋転用品	-	長 (4.6)	幅 (3.6)	厚 1.3~1.8		f: 鍋だった物をスタンプ等にする加工途中と思われる
14-1	桶 1		木製品	桶		長 50.2	幅 5.8~5.1	厚 1.9~0.7		
14-1			木製品	桶		長 70.4	幅 5.2~4.3	厚 1.9~0.9		
14-2			木製品	桶		長 52.1	幅 13.4~12.3	厚 1.9~0.9		
14-3			木製品	桶		長 51.8	幅 17.3~16.2	厚 2.0~0.5		
14-4			木製品	桶		長 48.2	幅 6.8~6.0	厚 1.7~0.3		
14-4			木製品	桶		長 44.5	幅 4.9~4.5	厚 1.7~0.3		
15-5			木製品	桶		長 44.3	幅 10.7~10.0	厚 1.8~0.8		f: 表面焼印あり 砂鉄状の付着物あり
15-6			木製品	桶		長 45.0	幅 20.0~18.5	厚 2.0~1.0		f: 表面焼印あり
15-6			木製品	桶		-	-	-		
15-7			木製品	桶		長 43.9	幅 9.8~9.4	厚 1.8~0.9		
15-8			木製品	桶		長 44.7	幅 5.2~4.3	厚 1.7~1.1		
15-9			木製品	桶		長 48.8	幅 14.5~13.2	厚 1.7~0.7		
16-10			木製品	桶		長 47.5	幅 11.6~10.5	厚 1.7~0.7		
16-11			木製品	桶		長 50.0	幅 6.0~5.7	厚 1.8~0.9		
16-12			木製品	桶		長 50.5	幅 17.8~16.6	厚 1.8~1.1		
16-12			木製品	桶		-	-	-		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目	
						口径	底径	器高	重		
16-13		桶 1	木製品	桶		長 40.4	幅 16.4	厚 2.1~2.3		f: 底辺 0.4 × 0.5 cm 長さ 2.3 cm以上の四角錐の木釘	
16-13			木製品	桶		長 41.6	幅 9.7	厚 1.8~2.0		f: 底辺 0.3 × 0.4 cm 長さ 2.1 cm以上の四角錐の木釘 釘穴深さ 2.4 cm	
16-13			木製品	桶		長 39.7	幅 15.3	厚 1.9~2.1		f: 釘穴 0.4 × 0.4 cm 深さ 2.3 cm	
17-1		桶 2	木製品	桶		長 35.5	幅 14.5~17.0	厚 0.8~1.2		f: 内側下方に底板の痕(ほとんど凹みなし)あり 1ヶ所貫通しない孔あり 外側下方に箍の痕(ほとんど凹みなし)見られる	
17-2			木製品	桶		長 32.2	幅 9.4~10.0	厚 1.0~1.3		f: 内側下方に底板の痕?(ほとんど凹みなし) 外面下方に箍の痕?	
17-3			木製品	桶		長 26.7	幅 9.6~10.1	厚 1.0~1.2		f: 内側下方に底板の痕?(ほとんど凹みなし) 外面下方に箍の痕?	
17-4			木製品	桶		長 29.2	幅 9.0~10.0	厚 1.0~1.2		f: 内側下方に底板の痕?(ほとんど凹みなし) 外面下方に箍の痕?	
17-5			木製品	桶		長 21.0	幅 5.8	厚 1.1		f: 内側下方に底板の痕?(ほとんど凹みなし) 外面下方に箍の痕?	
17-6			木製品	桶		長 20.5	幅 9.5	厚 0.9~1.1		f: 内側下方に底板の痕? 外面下方に箍の痕?	
17-7			木製品	桶		長 16.5	幅 6.8~7.0	厚 0.9~1.0		f: 内側下方に底板の痕? 外面下方に箍の痕?	
17-8			木製品	桶		長 18.2	幅 6.9	厚 1.0~1.1		f: 内側下方に底板の痕? 外面下方に箍の痕?	
17-9			木製品	桶		長 27.2	幅 19.0~21.2	厚 1.0~1.2		f: 内側下方に底板の痕? 外面下方に箍の痕?	
17-10			木製品	桶		長 37.5	幅 10.8	厚 0.8~1.1			
18-11			木製品	桶		長 29.7	幅 9.5	厚 1.0~1.2		f: 内側下方に底板の痕あり 外面下方に箍の痕あり	
18-12			木製品	桶		長 33.5	幅 11.3	厚 1.2		f: 内側下方に底板の痕あり 外面下方に箍の痕あり	
18-13			木製品	桶		長 32.2	幅 9.8	厚 0.8~1.1		f: 内側下方に底板の痕あり 外面下方に箍の痕あり	
18-13			木製品	桶		長 39.6	幅 2.0~3.0	厚 0.9~1.2			
18-14			木製品	桶		長 41.2	幅 10.9	厚 2.6		f: 底辺 0.4 × 0.4 cm 長さ 1.7~1.9 cm以上の四角錐の木釘 釘穴深さ 2.7 cm	
18-14			木製品	桶		長 32.8	幅 8.5	厚 2.5~2.8		f: 釘穴 0.4 × 0.4 cm 深さ 2.3~2.5 cm	
18-14			木製品	桶		長 36.3	幅 10.8	厚 2.6~2.8		f: 底辺 0.4 × 0.4 cm 長さ 2.0~2.5 cm以上の四角錐の木釘 2本	
18-14			木製品	桶		長 41.2	幅 12.3	厚 2.6~2.8		f: 釘穴 0.4 × 0.4 cm 深さ 1.7~1.9 cm	
19-1			桶 1	磁器	碗蓋	ほぼ完形					
19-2				磁器	碗	完形					
19-3		磁器		碗蓋	完形						
19-4		磁器		筒形湯呑	1/2						
19-5		磁器		小杯	1/2						
19-6		陶器		擂鉢	口縁部小片						
19-7		土製品		縄文土器加工品	○	長 4.7	幅 5.0	厚 1.4		a: 粘土紐 b: 黒灰色 雲母 白色粒 c: 表淡橙色 裏黄灰色 e: やや甘い f: 縁は全体に研磨され裏面には1条の溝が刻まれている	
19-8		木製品		箸	完形						
19-9		木製品		箸か	ほぼ完形						
19-10		木製品		箸	ほぼ完形	長 21.5	幅 0.5	厚 0.3	1.2		
19-11		桶 2	ガラス製品	薬瓶	完形					「登録(徳)商標 東京薬研堀 中嶋製」のエンボスあり	
19-12			磁器	杯	完形						
19-13			磁器	筒形湯呑	完形					口縁下部に植物のエンボス、底面に「越山」の銘あり	
19-14			木製品	板碑		長 30.1	幅 21.3	厚 2.6			
20-15		桶掘方	磁器	青白磁合子身	1/5	(5.0)	(4.0)	2.1		b: 白色 黒色粒 精良土 c: d: 淡水青色半透明釉 釉層薄い 内面と外面の一部に施釉 e: f: 貫入あり	
20-16			土製品	伊勢系土鍋	口縁部小片	-	-	[2.3]		b: 灰色 砂粒 小石粒 c: 淡橙色 e: 良好	
20-17			陶器	擂鉢	口縁部小片						
20-18			ガラス瓶	インク瓶	完形					底面に「M」のエンボスあり。丸善。	
20-19			金属製品	キセル吸い口	完形					真鍮製。	
20-20	2面		77	磁器	円形製品	完形					
20-21		表土	陶器	汽車土瓶	完形					胴部に「お茶静岡」の文字と富士山の絵あり	
20-22			磁器	醤油皿	ほぼ完形					底部に「醤油味噌 (三) 伊藤 電話九七番」とあり。鎌倉の店舗か	
20-23			磁器	皿	1/2						
20-24			磁器	小杯	1/3						
20-25			磁器	小杯	1/5						
20-26			磁器	小杯	1/2						
20-27			磁器	急須蓋	完形						

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目	
						口径	底径	器高	重		
20-28	表土		陶器	黒褐釉双(四)耳壺	口縁~体部	(10.1)	-	[7.6]		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 b: 淡黄灰色 砂粒 白色粒やや多い やや粗土 硬質 c: d: 黒褐釉 f: 産地不明 内面釉ムラ	
21-29			陶器	植木鉢	8/1						
21-30			ガラス瓶	瓶	完形						
21-31			ガラス瓶	瓶	完形						
21-32			ガラス瓶	調味料瓶	完形						底部に「AJINOMOTO」のエンボスあり。味の素。
21-33			ガラス瓶	調味料瓶	完形						底部に「S&B」のエンボスあり。胡椒瓶。
21-34			ガラス瓶	蓋	完形						

表5 出土遺物集計表

出土面		第1面										第2面																												
種別		ピット										ピット																												
遺構名		2	3	4	5	6	7	8	9	遺構外	構成土	10	11	12	13	14	16	18	19	20	22	23	24	25	26	32	33	41	42	44	46	47	49	50	55	56	59	60		
かわらけ	ロクロ	大	1	9	1	2	6	5	16	19	11	7	1	2	4	1	1	3	2	2						2	1		1	2										3
		中								1																														
		小							2	2	1	2	2				3	1					1		1	1									3	1				
		小片	3							4	8																													
手捏ね	大				3	1	5		2	12	2	7		3	1	3	2	3	1		2		1											1					2	
	小				2			13			1				1							1		1																
国産陶磁器	常滑	壺				1	2		17	6						1				1			1																	
		I類							1																														2	
		瀬戸								3	1																													
舶載	青磁											1																									1		1	
	白磁								1																															
	不明										1																													
	銭	1																																						
	木製部材																																						1	
	貝																																							
	近代遺物								6															1	1														2	
	合計	1	13	1	4	10	7	36	2	53	41	12	10	3	5	6	8	4	3	3	4	1	6	2	7	2	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	2	7		

出土面		第2面										第3面																											
種別		土坑										ピット																			土坑								
遺構名		61	68	70	72	74	77	78	79	82	83	84	遺構外	構成土	86	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	109	117	122	131						
かわらけ	ロクロ	大	1		1	2	1	3	7		6	4	39	1	1	2	5	3	1	1	4	2	2					1					1						
		中				1																																	
		小						2			2			10	1			3		1		1																	
		小片								1			1		1										3														
手捏ね	大									1	2		1	32	1	1			1		1	2					1	1		1	1								
	小						1					4	14															2											
	白かわらけ																																					1	
国産陶磁器	常滑	壺			1			1		1	1	5																	1										
		I類								1																													
		II類	1																																				
	瀬美									1				1																									
	不明													1																									
舶載	青磁							2				1		3						1																			
	白磁						1																																
	青白磁													1																									
	不明土製品											1	1																										
	瓦器													1																									
	銭					1						1																											
	滑石																						1																
	不明石製品						1																																
	礎板																																				3		
	箸																																				1		
	木片																																				2	8	1
	獣骨																																				1		
	近代遺物											1		6																									
	古代			1										1																									
	合計	2	1	1	4	1	9	8	3	4	10	3	12	115	2	3	3	9	3	4	2	6	5	13	1	2	5	4	1	1	1	1	1	1	1				



1. 第1面全景 (1区東から)



2. 第2面全景 (1区東から)



4. 第3面全景 (1区東から)



3. 第2面全景 (2区西から)



5. 第3面全景 (2区西から)



6. 第3面遺構 134 (2区西から)



8. 第3b面全景 (1区東から)



7. 第3面遺構 134 セクション (西から)



9. 第3b面全景 (2区西から)

写真図版 2



1. 第4面全景 (1区東から)



3. 第4a面全景 (1区東から)



2. 第4面全景 (2区西から)



4. 第4a面全景 (2区西から)



5. 第4b面全景 (1区東から)



7. 第5面全景 (1区東から)



6. 第4b面全景 (2区西から)



8. 第5面全景 (2区西から)



1. 第6面全景 (1区西から)



2. 第6面遺構 33 (2区東から)



3. 2区6面縄文土器出土状況 (東から)



4. 2区6面縄文土器出土状況 (東から)



5. 近代桶遺構 (南から)



6. 桶上層遺物出土状態 (北から)



7. 桶下層遺物出土状態 (南から)



8. 桶内完掘状態 (南から)

写真図版4



1. 1区北セクション (南から)



2. 2区北セクション (南から)



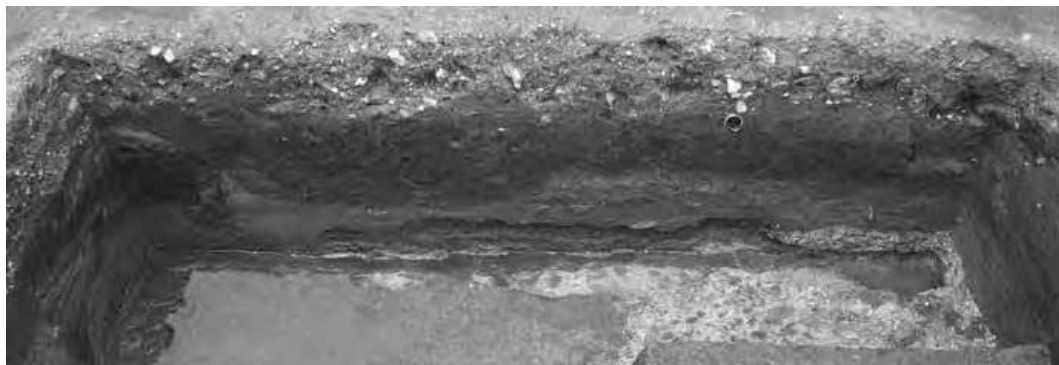
3. 2区南セクション (北から)



4. 1区南セクション (北から)



5. 1区西セクション (東から)



6. 2区東セクション (西から)

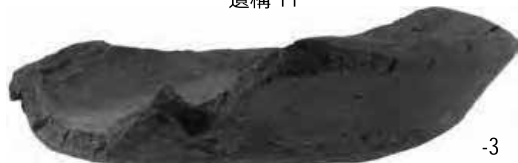


-1



-2

遺構 11



-3

遺構 14



-6

遺構 41



-7

遺構 49



-1

遺構 77



-11



-12



遺構 79

-13



-14

遺構 82



遺構 26



-16

面遺構外



遺構 79

-13



-1



-21



-1

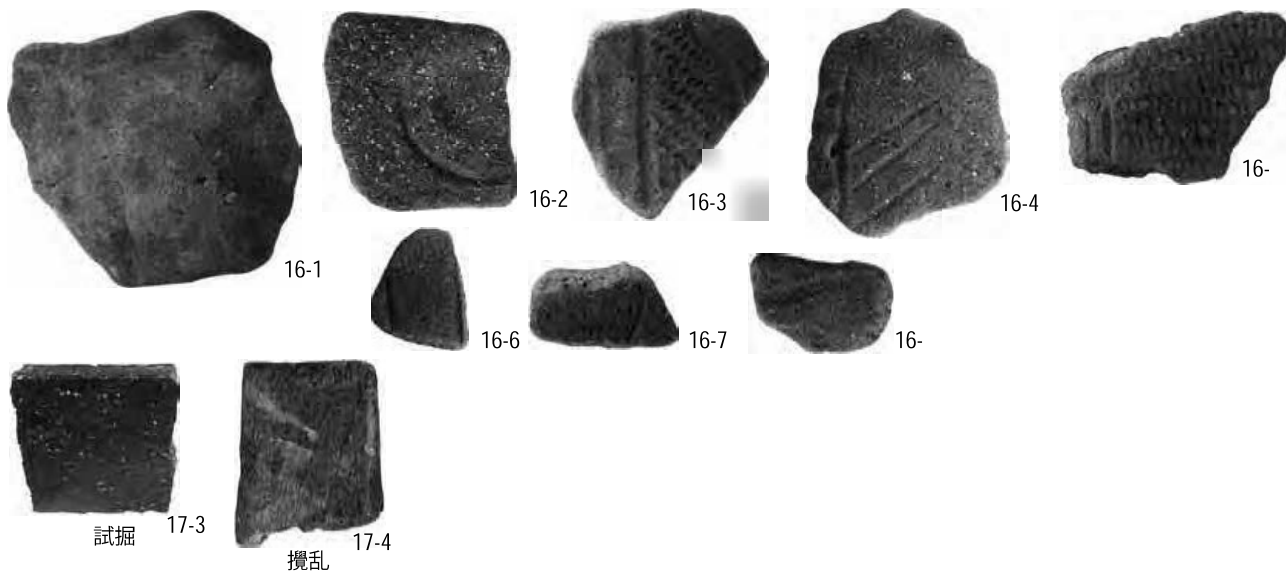


-2

面構成土



-22



材木座町屋遺跡 (No. 261)

鎌倉市材木座六丁目 647 番 3 の一部

例 言

1. 本報は鎌倉市材木座六丁目 647 番 3 の一部地点に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人住宅建築にかかる建築範囲約 44.2 m²を対象とし、平成 29 年 7 月 3 日から 9 月 13 日にかけて実施した。
3. 現地における調査体制は以下の通りである。

調査担当者：後藤 健

調査員：神田倫子・松吉里永子・渡辺美佐子・岡田慶子

作業員：大滝信治・小口照男・小松原一郎・吉澤 功

4. 本報告作成は以下の分担により行った。

遺物実測：菊川 泉・鍋島昌代

遺物図版作成：後藤 健・岡田慶子・岡本夏菜

遺構図版作成：後藤 健

観察表：岡本夏菜・清水由香里・田畑衣理

遺構写真：後藤 健

遺物写真：須佐仁和

写真図版作成：後藤 健・岡田慶子・岡本夏菜・清水由香里

執筆：後藤 健

5. 発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。

6. 本報告の遺物図版の縮尺は以下の通りである。

遺物実測図 1/3 (一部 1/4) 銭 1/1 各挿図にはスケールを表示してある。

7. 遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。

- ・復元実測の遺物に関しては、計測値に () を付して表記している。
- ・木製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。
- ・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
- ・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所計測している。
- ・陶磁器に関しては、常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。

8. 発掘調査及び報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

伊丹まどか、汐見一夫

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	227
第1節 歴史的環境	227
第2節 調査の方法と経緯	229
第3節 堆積土層	230
第二章 発見された遺構と遺物	233
第1節 第1面の遺構・遺物	233
第2節 第1a面の遺構・遺物	237
第3節 第2面の遺構・遺物	242
第4節 第3面の遺構・遺物	246
第5節 第4面の遺構・遺物	250
第6節 第5面の遺構・遺物	252
第7節 第6面の遺構・遺物	254
第8節 第7面の遺構・遺物	255
第9節 第7面以下	256
第10節 その他の遺物	257
第三章 考察とまとめ	259
第四章 材木座町家遺跡の花粉分析とプラントオパール分析	271

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	227	図17 第4面出土遺物	251
図2 調査位置とグリッド配置図	229	図18 第5面全測図 (S=1/60)	252
図3 調査区中央堆積土層図	230	図19 第5面遺構 326、328	253
図4 調査区壁面堆積土層図	231	図20 第5面出土遺物	253
図5 第1面全体図 (S=1/60)	235	図21 第6面全測図 (S=1/60)	254
図6 第1面出土遺物	236	図22 第7面全測図 (S=1/60)	255
図7 第1a面全体図 (S=1/60)	239	図23 第8面全測図 (S=1/60)	256
図8 第1a面出土遺物	240	図24 遺構外の出土遺物	257
図9 第2面全測図 (S=1/60)	243	図25 近代遺物遺構出土遺物	258
図10 礎板建物 (S=1/20)	244	図26 材木座町家における 植物珪酸体分布図	273
図11 第2面出土遺物	245	図27 材木座町家 (E4) から産出した 花粉化石	274
図12 第3面全測図 (S=1/60)	247	図28 材木座町家遺跡から産出した 植物珪酸体	275
図13 3面遺構 293 (S=1/20)	248		
図14 3面、3a面出土遺物	248		
図15 第3a面全測図 (S=1/60)	249		
図16 第4面全測図 (S=1/60)	250		

表目次

表 1	中世出土遺物観察表	262	表 5	産出花粉孢子一覧表	272
表 2	近代遺物観察表	266	表 6	史料 1g 当たりのプラントオパール個数	273
表 3	遺物集計表	267			
表 4	分析サンプル	271			

図版目次

写真図版 1	276	写真図版 7	282
写真図版 2	277	写真図版 8	283
写真図版 3	278	写真図版 9	284
写真図版 4	279	写真図版 10	285
写真図版 5	280	写真図版 11	286
写真図版 6	281		

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境（図1）

本調査地点は JR 鎌倉駅から東南へ約 1.8km の鎌倉市材木座六丁目 647 番 3 の一部に位置する。

鎌倉東南部に位置し、標高約 5.5m の西南へなだらかに傾斜して下がる平野部に立地する。現在の海岸線までは約 280m 離れている。調査地点は北は弁ヶ谷の開口部にあたり、衣張山から延びる丘陵の崖線が東側に迫っている。また道路を挟んですぐ東には豆腐川が流れている。

弁ヶ谷は開口部幅約 120m、奥行き約 450m の規模の比較的大きな谷戸で、谷戸北側はさらに 3 方向の



図1 調査地点と周辺の遺跡

No.	名称	住所	調査者	調査	刊行	文献
1	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 647 番 3 の一部	後藤	2017	2020	本報告
2	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 647 番 15	斉木	2002	2005	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21- 第 1 分冊 -2
2	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 647 番 8 外	斉木	2002	2005	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21- 第 1 分冊 -2
2	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 647 番 9	斉木	2002	2005	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21- 第 1 分冊 -2
2	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 670 番 10	斉木	2002	2005	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21- 第 1 分冊 -2
3	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 653-1 外	香川	2008	2009	玉川文化財研究所 材木座町屋遺跡 材木座 6 丁目 653-1 外発掘調査報告書
4	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 760 番 1	大河内・伊丹	2000	2001	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17- 第 2 分冊 -13
5	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 742 番 4 外	宮田・滝沢	2009	2019	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 35- 第 4 分冊 -27
6	材木座町屋遺跡	材木座六丁目 725 番 11	斉木	2010	2013	鎌倉遺跡調査会調査報告書 第 86 集 材木座町屋遺跡発掘調査報告書
7	弁ヶ谷遺跡	材木座六丁目 643 番 5	馬淵	2003	2009	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25- 第 1 分冊 -2
8	弁ヶ谷遺跡	材木座六丁目 643 番 4	馬淵	2003	2009	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25- 第 1 分冊 -3
9	弁ヶ谷遺跡	材木座六丁目 643 番 3	斉木	2004	2009	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25- 第 2 分冊 -11
10	弁ヶ谷遺跡	材木座四丁目 336 番 7	宮田・諸星	1999	2001	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17- 第 1 分冊 -1
11	弁ヶ谷遺跡	材木座四丁目 332 番 1 の一部外	宮田・森	2006	2007	株式会社博通 弁ヶ谷遺跡発掘調査報告書
12	弁ヶ谷遺跡	材木座六丁目 640 番 2・3 地点	馬淵	2009	2015	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31- 第 2 分冊 -9
13	感応寺跡	材木座六丁目 722 番 1	汐見	2002	2005	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 21- 第 2 分冊 -8
14	光明寺旧境内遺跡	材木座六丁目 855 番 21 外	福田	2003	2006	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22- 第 2 分冊 -9
15	光明寺旧境内遺跡	材木座六丁目 846 番 1	齋木	1984	1986	浄土宗大本山天照山蓮華院光明寺
16	光明裏遺跡	材木座六丁目 846 番 1	齋木	1978	1980	光明寺裏遺跡

支谷に開析する。中世期には新善光寺・崇寿寺・最宝寺の 3 寺院が谷戸内に建立される宗教空間であったことが推定される。現在はいずれも廃寺となっており、その正確な所在地はなお明らかではない。その中で調査地点東北の谷戸は最宝寺の跡地に比定されている。寺伝では源頼朝がまず扇ヶ谷に創建し、建久六年（1195）にこの地に移ったとある。現在横須賀市野比にある最宝寺の前身であり、同寺の古文書の記載から享徳元年（1452）まで高御蔵にあったことが確認できる。

豆腐川沿いの道は高御倉小路と推定されており、文献に見える「浜庫倉」・「浜御倉」・「浜高御倉」・「高御蔵」は同一の地点を示している可能性が高く、弁ヶ谷付近に、幕府の管理する高床式庫倉の立ち並ぶ場所があったと想定され、海岸から調査地点一帯までがその区画にあたるとも考えられている。

周囲での発掘調査の件数はさほど多くないが、調査地点の北側ではややまとまって調査が行われている。

第 2 地点では、13 世紀前半から 15 世紀にかけての遺構面が確認されている。遺構としてはピット、土坑が主体で、井戸も比較的多く検出されている

第 3 地点では、15 世紀に属する遺構面が検出され、井戸、溝状遺構、胞衣皿埋納遺構などが検出されている。

第 4 地点では、14～15 世紀に属する遺構面が 4 面確認されている。遺構は溝、木組み遺構、土坑、ピットが検出された。

第 7、8 地点では 13 世紀前半～14 世紀前半に属する遺構面が 4 面確認されている。遺構としてはピット、方形土坑、礎石などが検出され、火災跡と推定される炭化物層が多量に検出されている。

第 9 地点は 13 世紀中頃～15 世紀にかけての遺構面が 5 面確認されている。遺構は土坑、ピット、礎石建物跡が検出され、15 世紀には寺院の一面に含まれたのではないかと推定されている。

参考文献

貫達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂

鎌倉市教育員会 1959『鎌倉市史 社寺編』

馬淵和雄 2009「弁ヶ谷遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書』25

第2節 調査の方法と経緯

本発掘調査は個人住宅の建築に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事として鋼管杭工事を施すため、平成29年3月22日～23日に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財の確認調査を実施した。

2mまで掘削した結果、地表下82cmで遺物包含層が検出され、地表下146cm、200cmで中世遺構面と推定される堆積層の確認がなされた。さらに下層にも中世遺構の存在が予測される結果を得た。近隣の既存の調査結果とも合わせて、遺構への影響が確実に予測されたため、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要ありとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成29年7月3日～9月13日の約2ヶ月をかけて現地での調査を実施した。

調査は重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から、44.2㎡の調査範囲を二分して調査を進めた(図2)。地表下約1.8mにて黒褐色粘質土となり、遺物・遺構などが確認できなくなったため、これを基盤層と判断し、そこまでの掘削で留めた。

今回の調査では大きく7面の遺構面を確認することができた。

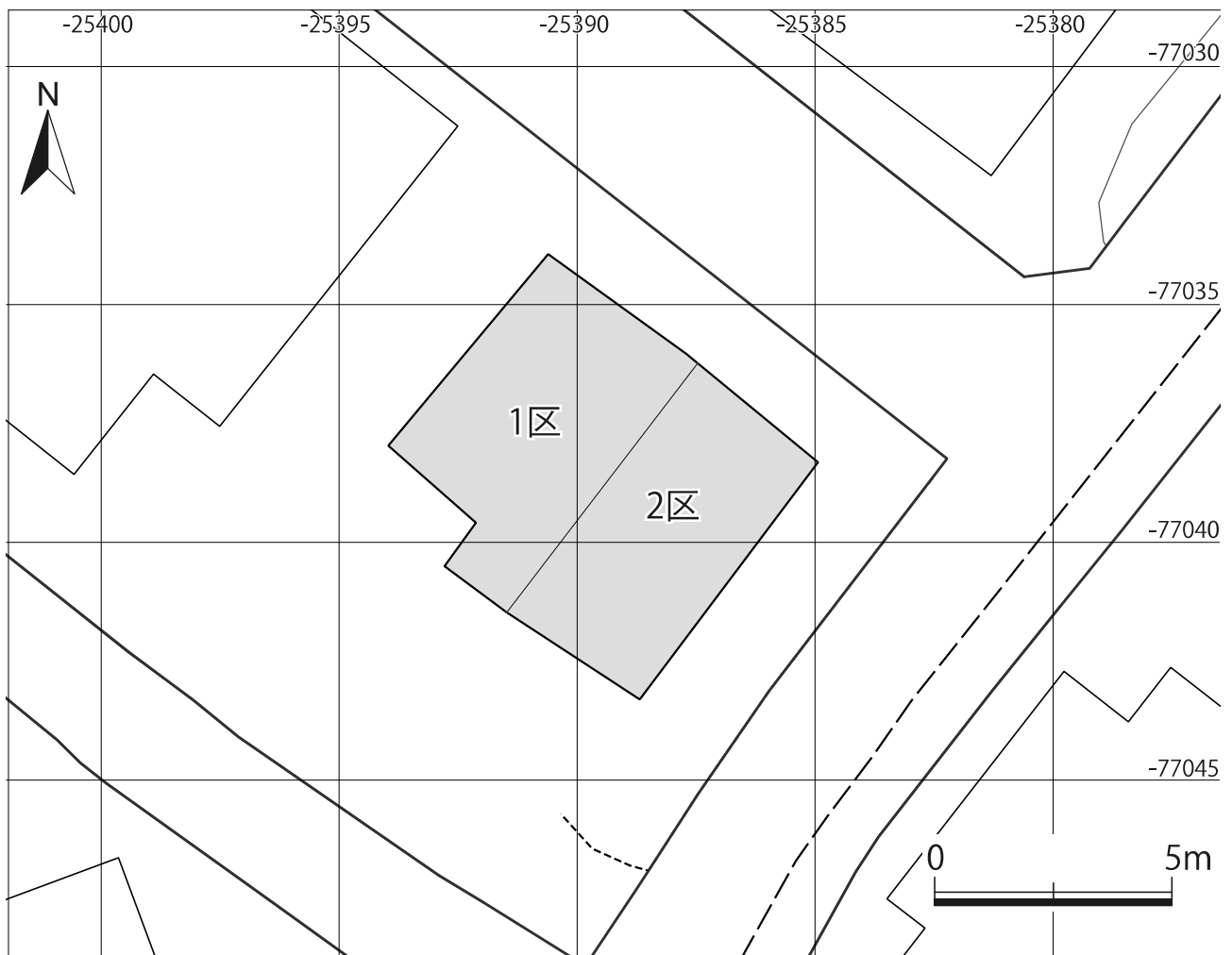


図2 調査位置とグリッド配置図

第3節 基本土層 (図3)

本調査では上述通り7面および中世の遺構面を確認した。基本となる土層の堆積状況を述べておく。現地表面はおよそ海標高5.51～5.60mを測る。表土は70～80cmほどで南側は近代の溝状の掘りこみが120cmほどまで達する。

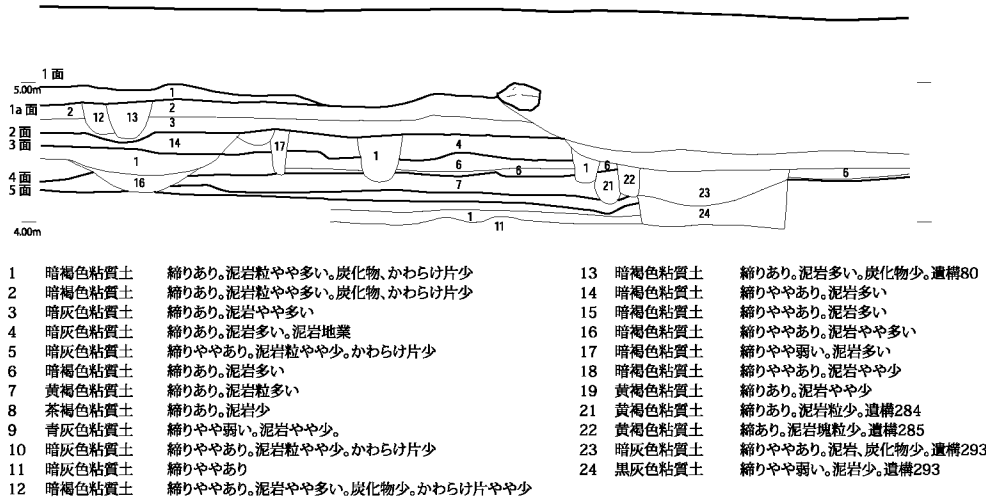
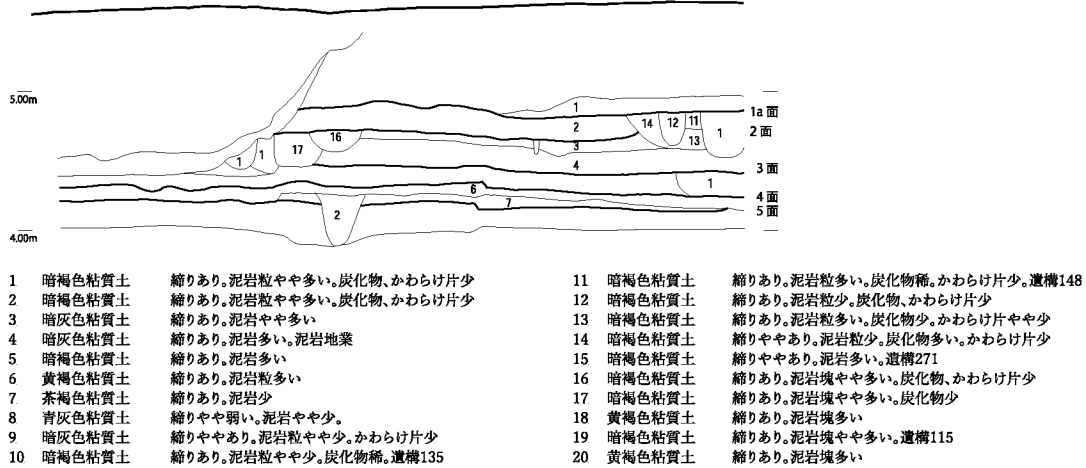
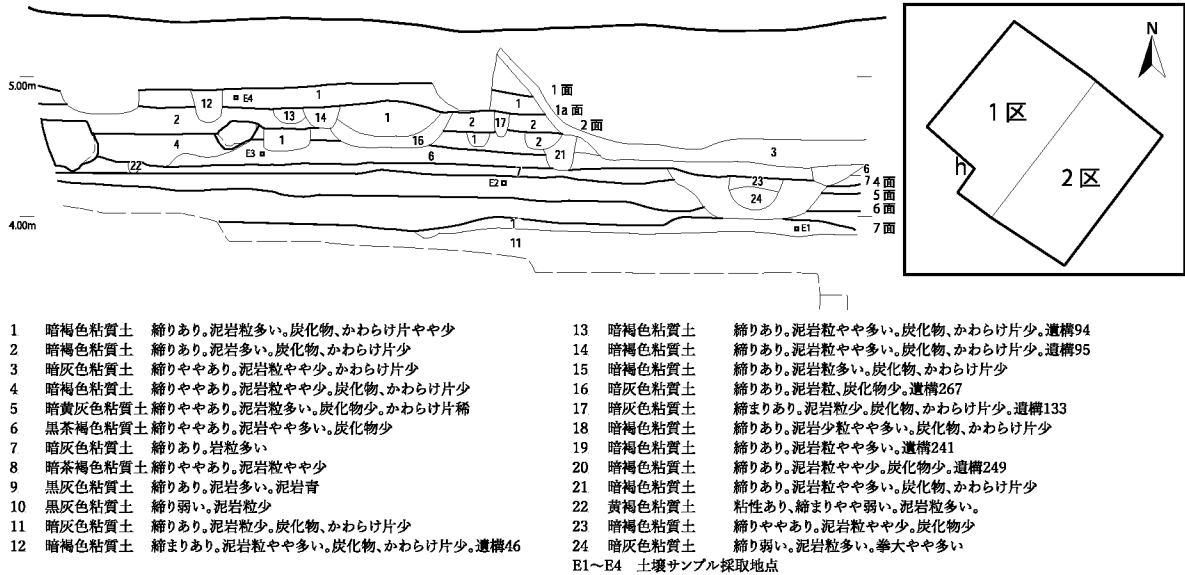


図3 調査区壁面堆積土層図1

第1面は検出面の標高は4.90～4.96mである。層はやや大型の泥岩ブロックを混入した暗褐色土による整地層である。

第1a面は第1面とさほど構成土が変わらないなか、すぐ直下で検出されたため、1a面とした。検出面の標高は4.76～4.85mである。整地層は泥岩ブロックを混入した暗褐色土によるが1面よりも泥岩ブロックの混入がやや少ない。

第2面は検出面の標高は4.52～4.68mである。整地層はやや大型の泥岩ブロックを比較的多く混入した暗褐色土によるものである。

第3面は西側および北側は破碎した泥岩塊を密に敷き詰めて整地した地業による。調査区ほぼ全域に見られ、検出面の標高は4.35～4.37mである。整地層は中央は暗茶褐色土が混入し、泥岩があまり見られない箇所もある。間に暗褐色土の泥層を挟んでさらに破碎した泥岩を緻密に混入した整地層が検出された。標高は4.22～4.31mであり、多くは5cm程度しか比高差がなく、これを第3a面とした。

第4面はほぼ全面に破碎した泥岩によって強固な地業を施した整地面である。調査区ほぼ全域にわたるが北側は薄く、東側も密に泥岩を敷き詰めていない箇所が散見される。

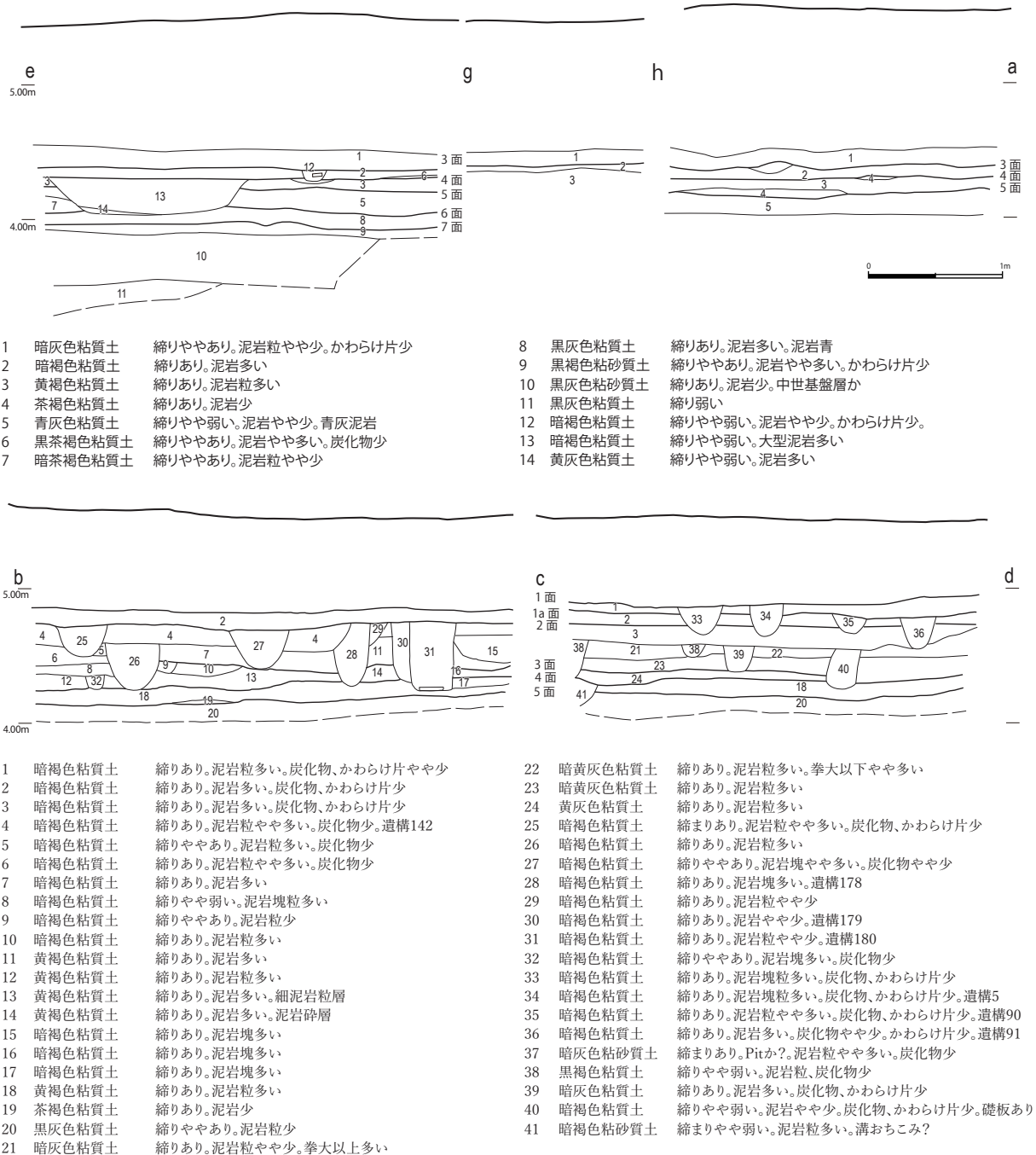


図4 調査区壁面堆積土層図2

第5面は第4面の泥岩による整地層の下部にあたる。黒褐色粘質土によって構成され、破碎した泥岩粒をやや含む。確認面の標高は4.13～4.23 mを測る。

第6面は黒褐色土に破碎した泥岩粒が多く混じる整地層である。泥岩の混入は場所によってまばらである。確認面の標高は4.09～4.11 mを測る。

第7面以下は東側（2区）のみでの検出である。黒褐色粘質土にわずかに泥岩粒が混入する整地層であり、第6面よりも混入の度合は少ない。確認面の標高は3.92～4.00 mを測る。

第7面以下は、約10cm下げると遺物も遺構も確認できなくなり、標高3.80m程度で黒褐色土主体の堆積となり、それ以外に相当程度の深さで同様の堆積があると考えられる。これを中世基盤層と判断した。なお、土壌をサンプリングして花粉分析を行った。サンプルはいずれも調査区東側から採取している。

資料E 1 調査区東側10層（第7面構成土）

資料E 2 調査区東側8層（第5面構成土）

資料E 3 調査区東側6層（第3面構成土）

資料E 4 調査区東側1層（第1面構成土）

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物

第1面(図5)は1区では残存状況が不良なためか確認できていない。近現代に属する大型の溝により南約1/3は削平されており、北側も近現代の掘り込みによって一部が破壊されてしまっている。残存部も上方は削平されている可能性がある。

検出面の標高は4.90～4.96mである。層はやや大型の泥岩ブロックを混入した暗褐色土による整地層であり、この層を掘り込んだ遺構としてピット15穴、土坑5基を検出した。西側壁面には礎石と思われる凝灰質砂岩が1基確認されたが、他には確認されず、礎石建物の存在は不明瞭である。多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあつたと推定されるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも4時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、伊勢系土鍋、瓦質土器、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

ピット

円形、隅丸方形を呈する。礎板などは確認できていない。覆土について、暗褐色粘質土を覆土とするピットは締まりは基本的にあり。泥岩粒はやや多く、炭化物を少量含む。かわらけ片は僅かに含む。

遺構1(図5)

円形を呈するピットで礎石を据えたと思われる。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩塊やや少粒を含む。出土遺物(図6):1はかわらけ。

遺構5(図5)

円形を呈するピットで北半分は調査区外にあたる。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩塊やや少粒。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図6):2は鉄釘。

遺構6(図5)

円形を呈するピットで北半分は調査区外にあたる。覆土は暗褐色粘質土で締りやや弱い。泥岩塊、炭化物、かわらけ片を少量含む。柱痕が確認されたが、柱自体は残存せず。出土遺物(図6):3は瀬戸天目茶碗、4は土器製の小壺。

遺構12(図5)

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩粒やや少。炭化物多く、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図6):5はかわらけ。

遺構14(図5)

円形を呈するピットで遺構57に切られ、全体は残存せず。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩粒多く、炭化物やや多い。かわらけ片を少量含む。出土遺物(図6):6はかわらけ。

遺構15(図5)

円形を呈するピットで遺構57に切られ、全体は残存せず。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩粒多い。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図6):7は青磁鎬蓮弁文碗。

遺構 16 (図 5)

円形を呈するピット。西側は調査区外にあたる。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩塊多い。炭化物少。かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 8 は瀬戸平碗。

遺構 18 (図 5)

隅丸方形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩、炭化物多く、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 9 は常滑片口鉢 I 類。

遺構 31 (図 5)

円形を呈するピット。遺構 30 によって切られ、半分は残存せず。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや少量含む。出土遺物 (6) : 10 は鉄釘。

遺構 34 (図 5)

円形を呈するピット。遺構 33 に切られ、全体は残存せず。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 11 はかわらけ、12 は鉄釘。

遺構 35 (図 5)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多い。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 13 は常滑甕。

遺構 42 (図 5)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 14 は常滑片口鉢 II 類。

遺構 43 (図 5)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 15 は平瓦。

遺構 45 (図 5)

円形を呈するピット。東側は調査区外にあたる。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多く含む。出土遺物 (図 6) : 16 は鉄釘、17 は銅銭。

遺構 49 (図 5)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや少。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 6) : 18 は釘。

遺構 51 (図 5)

円形を呈するピット。遺構 52 と 56 に切られ、大半は残存していない。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
1	4.89	0.5			4.76	
2	4.9	0.36			4.7	
3	4.84	0.24			4.67	
4	4.85	0.4			4.45	
5	4.87	0.32			4.65	
6	4.9	0.4			4.76	
7	4.88	0.22			4.81	
8	4.87	0.1			4.78	
9	4.9	0.34			4.7	
10	4.89	0.31			4.84	
11	4.9	0.15			4.59	
12	4.91	0.41			4.74	
13	4.9	0.27			4.78	
14	4.89	0.24			4.71	
15	4.94	0.37			4.81	
16	4.95	0.35			4.83	
17	4.96	0.44			4.63	
18	4.94	0.5			4.79	
19	4.93	0.35			4.77	
20	4.96	0.43			4.79	
21	4.95	0.21			4.8	
22	4.95	0.31			4.78	
23	4.89	0.28			4.85	
24	4.97	0.37			4.84	
25	4.96	0.27			4.88	
26	4.96	0.32			4.79	
27	4.9	0.42			4.78	
28	4.88	0.4			4.69	
29	4.92	0.32			4.82	
30	4.9	0.44			4.67	
31	4.9	0.14			4.64	
32	4.9	0.22			4.79	
33	4.89	0.39			4.79	
34	4.9	0.38			4.81	
35	4.87	0.38			4.71	
36	4.83	0.24			4.63	
37	4.84	0.32			4.77	
38	4.85	0.37			4.8	
39	4.86	0.24			4.84	
40	4.87	0.18			4.85	
41	4.9	0.39			4.78	
42	4.89	0.3			4.78	
43	4.9	0.26			4.77	
44	4.91	0.28			4.66	
45	4.91	0.19			4.78	
46	4.91	0.24			4.68	
47	4.91	0.35			4.73	
48	4.94	0.32			4.75	
49	4.98	0.31			4.76	
50	4.96	0.22			4.8	
51	4.96	0.12			4.81	
52	4.97	0.3			4.88	
53	4.97	0.39			4.78	
54	4.97	0.29			4.73	
55	4.96	0.21			4.84	
56	4.97	0.49			4.76	
57	4.93	0.73			4.75	
58	4.93	0.69			4.72	
59	7.95	0.52			4.68	
60	4.9	0.44			4.78	

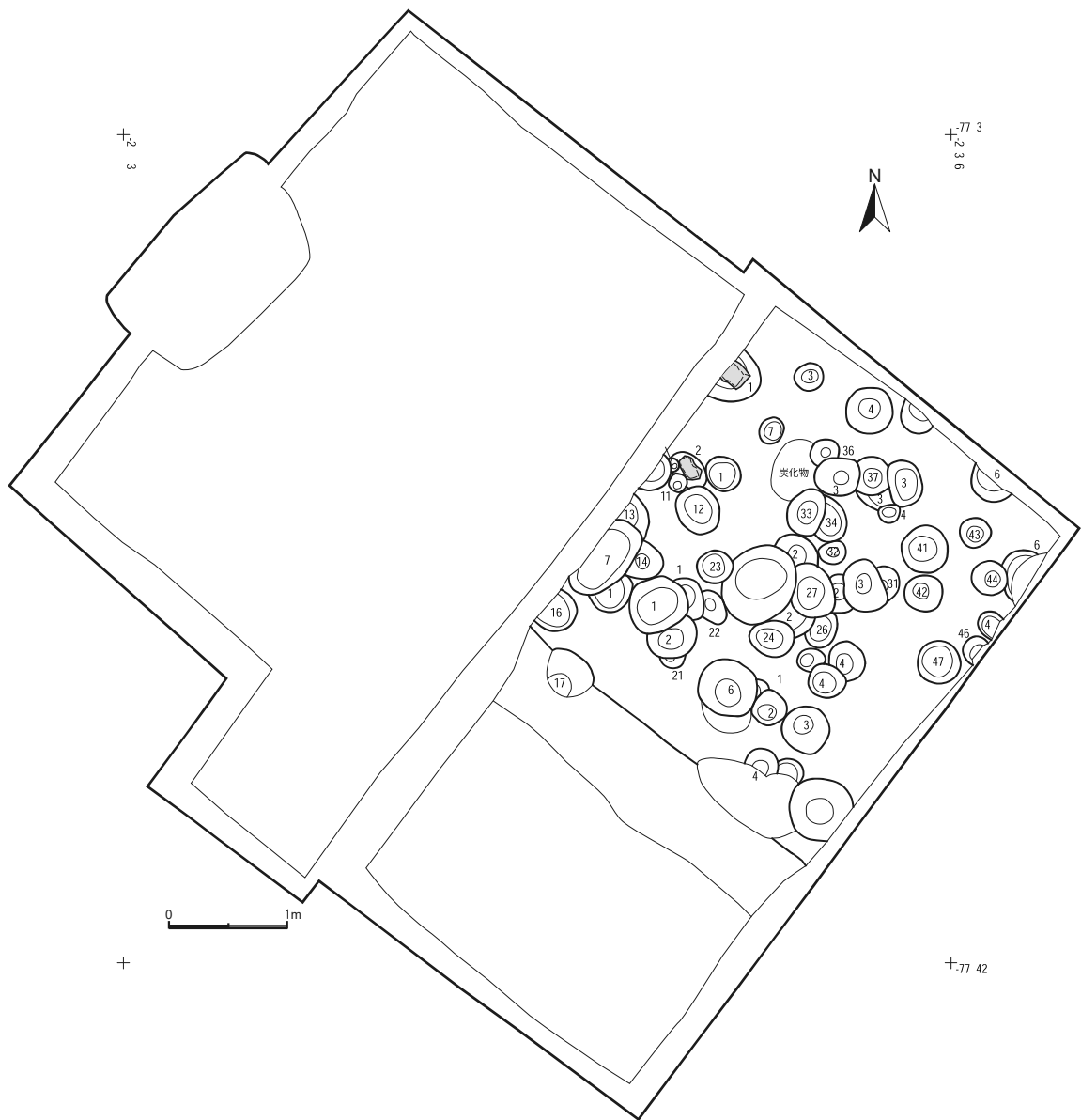


図5 第1面全体図 (S=1/60)

泥岩塊、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図6) : 22 は白磁口元皿、23 は鉄釘。

遺構 54 (図5)

円形を呈するピット。近代の掘り込みに切られ半分は残存せず。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図6) : 24 はかわらけ。

土坑

数は少なく、ピットを壊すように構築されている例が多い。覆土は暗褐色粘質土が主体で泥岩を多く含む。

遺構 56 (図5)

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図6) : 19 はかわらけ、20 は磨り常滑、21 は鉄釘。

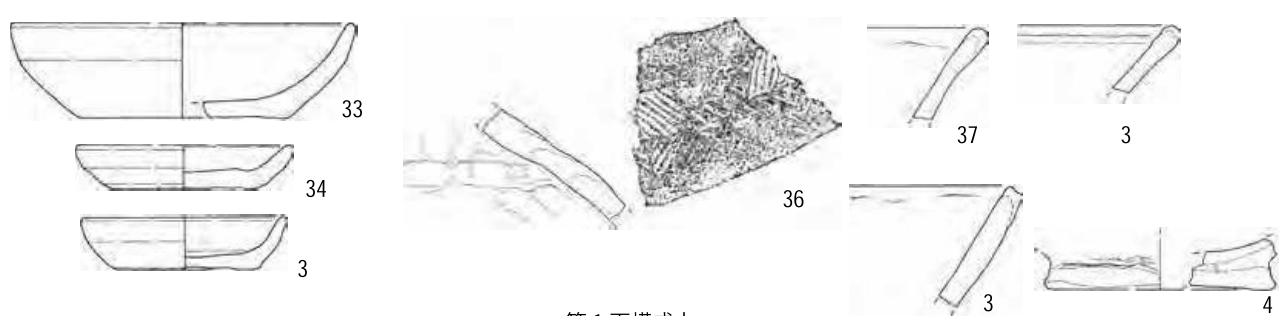
遺構 57 (図5)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩塊やや多く、炭化物、かわらけ片を少量



第1面遺構外

0 10cm
(S=1/3)



第1面構成土

图6 第1面出土遺物

含む。出土遺物（図6）：25は滑石加工品。

遺構58（図5）

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物（図6）：26はかわらけ、27～28は鉄釘。

遺構59（図5）

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩やや多い。かわらけ片を少量含む。出土遺物（図6）：29は青磁鎚蓮弁文碗。

1面遺構外土出土遺物

遺構面精査時に面上で検出した遺物（図6）。30は青白磁合子、31は常滑甕、32は瀬戸碗

1面構成土出土遺物

1面より1a面検出までの間の堆積より出土した遺物（図6）。33は大型かわらけ、34～35は小型かわらけ。36は常滑甕、37は常滑片口鉢Ⅰ類、38～39は常滑片口鉢Ⅱ類、40は不明土製品。

第2節 第1a面の遺構・遺物

第1a面（図7）は第1面とさほど構成土が変わらないなか、すぐ直下で検出されたため、1a面とした。近現代に属する大型の溝により南約1/3は消失している。検出面の標高は4.76～4.85mである。整地層は泥岩ブロックを混入した暗褐色土によるが1面よりも泥岩ブロックの混入がやや少ない。この層を掘り込んで遺構としてピット74穴、土坑13基を検出した。東側（2区）ではピットが混在して集中し、西側（1区）はピットがやや少なく、大型の土坑がある程度まとまって見られ、東西でやや土地の利用が異なるようである。多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあつたと推定されるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも5時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、白磁、高麗青磁、伊勢系土鍋、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、鉄滓、滑石製品などが出土している。

ピット

かなり密集し、複数回の立て直しが想定されるが、掘立柱建物のプランは明確にはし得ない。覆土は基本的に暗褐色粘質土であり、泥岩粒を少量含むものが基本となる。礎板などは確認されていない。

遺構65（図7）

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。遺構69と136に切られる。出土遺物（図8）：1は鉄釘。

遺構66（図7）

円形を呈するピット。複数の遺構に切られ全体の形態は不明。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物（図8）：2は瀬戸仏餉具か。

遺構67（図7）

円形を呈するピット。複数の遺構に切られ全体の形態は不明。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物（図8）：3は常滑片口鉢Ⅰ類か。

遺構 73 (図 7)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物 (図 8) : 4 は須恵器の坏か。

遺構 75 (図 7)

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物 (図 8) : 5 はかわらけ。

遺構 76 (図 7)

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物 (図 8) : 6 はかわらけ。

遺構 91 (図 7)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩粒多く、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 7 は鉄釘。

遺構 95 (図 7)

円形を呈するピット。東側は調査区外にあたる。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 8 はかわらけ。

遺構 98 (図 7)

1 面の遺構と遺構 97 に切られ、形は不明。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 9 はかわらけ。

遺構 99 (図 7)

隅丸方形を呈するピット。遺構 100、102 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 10 ~ 11 はかわらけ、12 は鉄釘。

遺構 104 (図 7)

円形を呈するピット。遺構 143 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩は少量で、炭化物やや多い。かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 13 は砥石の中砥。

遺構 115 (図 7)

北側は試掘坑で削平され、西側は調査区外にあたる。おそらく円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩は少量含む。出土遺物 (図 8) : 14 は白磁口元碗。

遺構 125 (図 7)

遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面				
61	4.76	0.36	4.64				79	4.83	0.4	4.55				97	4.76	0.27	4.51				115	4.63	0.3	4.43				133	4.81	0.2	4.65
62	4.79	0.32	4.65				80	4.82	0.36	4.56				98	4.76	0.13	-				116	4.76	0.33	4.22				134	4.8	0.5	4.62
63	4.82	0.41	7.64				81	4.78	0.3	4.61				99	4.78	0.41	4.58				117	4.81	0.48	4.41				135	4.85	0.87	4.48
64	4.81	0.4	4.65				82	4.79	0.38	4.58				100	4.76	0.32	4.67				118	4.87	0.44	4.6				136	4.76	0.69	4.34
65	4.73	0.38	4.32				83	4.8	0.39	4.52				101	4.75	0.3	4.6				119	4.79	0.29	4.6				137	4.74	0.65	4.3
66	4.68	0.32	4.38				84	4.79	0.39	4.6				102	4.79	0.34	4.64				120	4.79	0.19	4.69				138	4.78	0.62	4.44
67	4.69	0.43	4.38				85	4.75	0.43	4.59				103	4.78	0.32	4.58				121	4.8	0.3	4.66				139	4.76	0.78	4.56
68	4.74	0.48	4.32				86	4.76	0.35	4.64				104	4.78	0.36	4.55				122	4.81	0.35	4.61				140	4.85	0.83	4.33
69	4.74	0.26	4.4				87	4.76	0.33	4.57				105	4.78	0.29	4.56				123	4.84	0.29	4.69				141	4.77	0.82	4.57
70	4.79	0.15	4.67				88	4.79	0.4	4.6				106	4.79	0.44	4.49				124	4.84	0.2	4.75				142	4.76	0.8	4.38
71	4.82	0.15	4.73				89	4.78	0.24	4.64				107	4.81	0.36	4.6				125	4.85	0.22	4.71				143	4.8	0.54	4.49
72	4.79	0.15	4.69				90	4.79	0.27	4.56				108	4.83	0.32	4.63				126	4.85	0.36	4.68				144	4.77	0.62	4.58
73	4.78	0.32	4.67				91	4.79	0.41	4.47				109	4.81	0.39	4.73				127	4.85	0.43	4.7				145	4.79	0.56	4.6
74	4.76	0.31	4.6				92	4.8	0.24	4.59				110	4.82	0.15	4.56				128	4.85	0.43	4.64				146	4.78	0.66	4.6
75	4.81	0.33	4.65				93	4.76	0.37	4.58				111	4.83	0.16	4.65				129	4.83	0.28	4.71				147	4.84	0.83	4.78
76	4.82	0.33	4.63				94	4.77	0.23	4.59				112	4.75	0.23	4.59				130	4.84	0.22	4.75							
77	4.84	0.41	4.34				95	4.78	0.35	4.61				113	4.67	0.11	4.54				131	4.83	0.19	4.76							
78	4.84	0.41	4.48				96	4.78	0.19	4.74				114	4.72	0.21	4.64				132	4.81	0.45	4.66							

円形を呈するピット。遺構 123 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 15 は高麗青磁で器種不明。

遺構 129 (図 7)

円形を呈するピット。遺構 128 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩やや少なく、炭化物多い。かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 8) : 16 ~ 17 はかわらけ。

土坑

西側の 1 区中央付近にやや大型の土坑が集中し、一部は底部が開口部に比して狭く、甕を据えるための穴であった可能性があるが、甕自体が残存していたわけではなく、断定は出来ない。

遺構 135 (図 7)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物 (図 8) : 18 はかわらけ、19 は瀬戸卸皿。

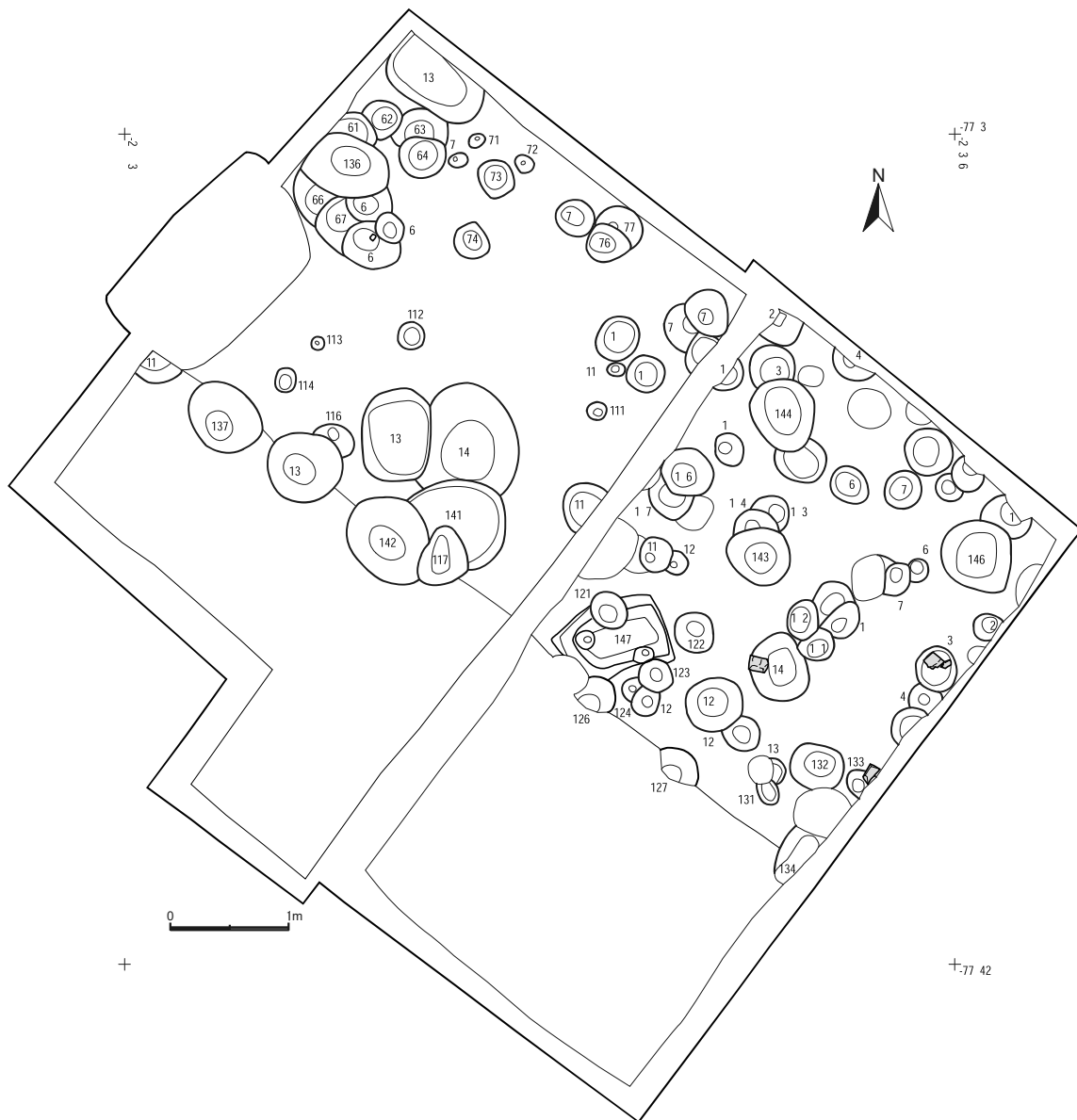


図 7 第 1a 面全体図 (S=1/60)

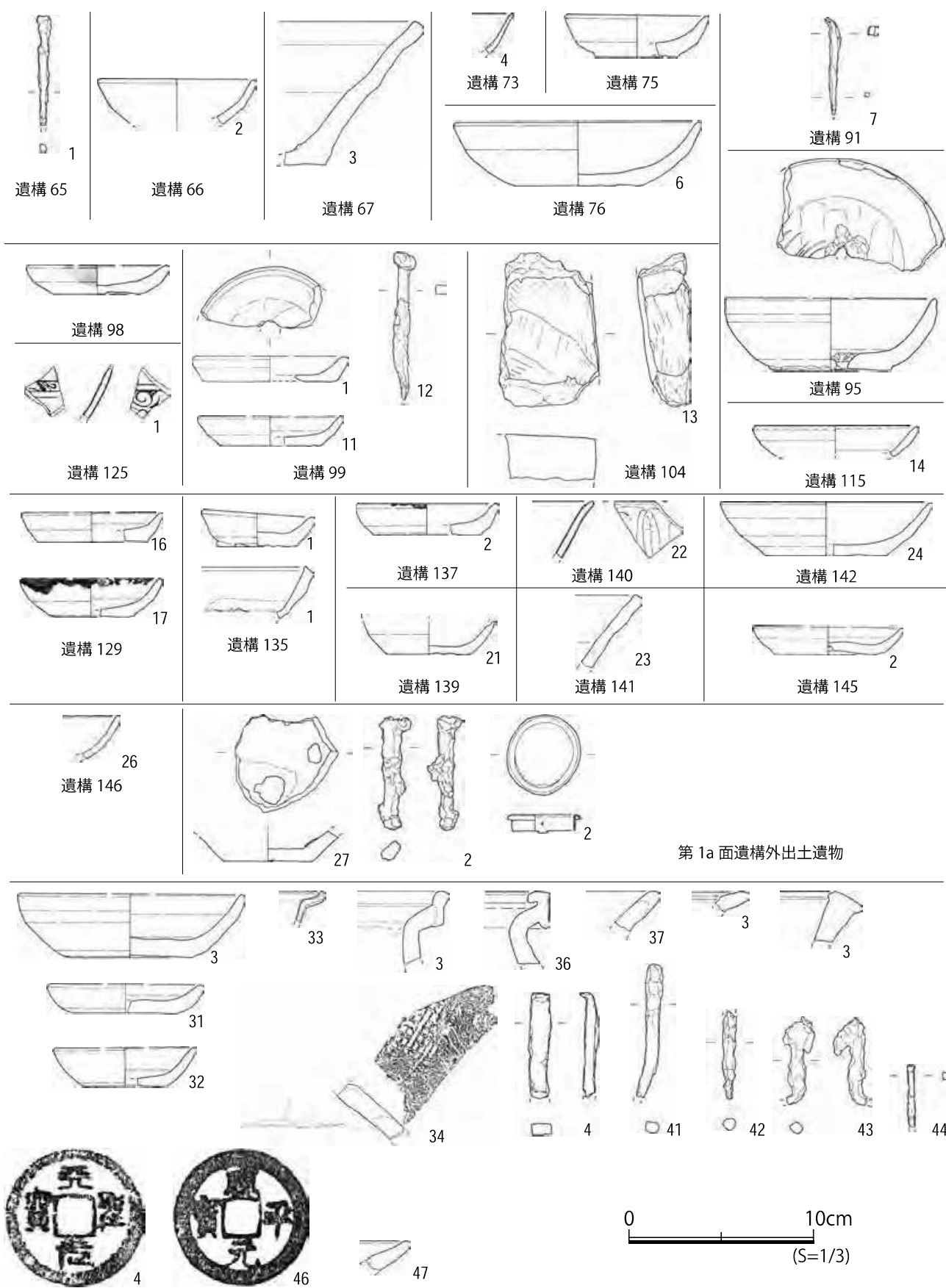


圖 8 第 1a 面土出土遺物

遺構 137 (図 7)

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物(図 8):20 はかわらけ。

遺構 139 (図 7)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物(図 8):21 はかわらけ。

遺構 140 (図 7)

円形を呈する土坑。遺構 139、141 に切られる。甕を据えた土坑か。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物(図 8):22 は青磁蓮弁文碗。

遺構 141 (図 7)

円形を呈する土坑。遺構 117、142 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物(図 8):23 は常滑片口鉢 I 類。

遺構 142 (図 7)

楕円形を呈する土坑。遺構 117 に切られる。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩を含む。出土遺物(図 8):24 はかわらけ。

遺構 145 (図 7)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りややあり。泥岩多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図 8):25 はかわらけ。

遺構 146 (図 7)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図 8):26 は手づくねの白かわらけ。

遺構 147 (図 7)

方形を呈する土坑。内部には炭化物層が薄く堆積し、底部は被熱を受けて焼土と化しており、なんらかの作業を行った遺構と考えられる。図示可能な遺物は出土せず。

1 a 面遺構外土出土遺物

遺構面精査時に面上で検出した遺物(図 7)。27 は瀬戸皿か。28 は鉄釘。29 は銅製品で覆輪か。

1 a 面構成土出土遺物

1 a 面より 2 面検出までの間の堆積より出土した遺物(図 7)。30 は大型かわらけ、31～32 は小型かわらけ、33 は青磁折縁皿、34 は常滑甕、35～36 は常滑壺、37 は常滑片口鉢 I 類、38 は瀬戸折縁深皿、39 は土器質火鉢、40～44 は鉄釘。45～46 は銅銭。47 は中世以前の遺物で土師器甕。

第3節 第2面の遺構・遺物

第2面(図9)は南側1/3程度はやはり近現代の遺構の掘り込みより消失している。検出面の標高は4.52～4.68mである。整地層はやや大型の泥岩ブロックを比較的多く混入した暗褐色土によるものである。この層を掘り込んだ遺構としてピット102穴、土坑20基、溝状の土坑1基を検出し、本調査地点では最も遺構の多い時期の面となる。東側(2区)ではやはりピットが混在して集中し、西側(1区)ではピットがやや少なく、大型の土坑がある程度まとまって見られる状況は第1a面の傾向に類似している。東側では北側に大型泥岩が敷き詰められ、ピットが密集して構築されており、礎板も複数検出した。しかし掘立柱建物としては1間×1間が1軒推定できたのみで、その他の正確なプランは不明瞭である。東南部では植栽痕のような小さなピットが複数検出され列をなすようにも見えるが、その性格は判別し難い。西側では北側の一部は細かい破碎泥岩による地業面が構築されており、その西方に土坑が目立つ。場の利用が東西で明確に異なっている様相が見てとれる。

多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあったと推定される。少なくとも5時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、青白磁、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

ピット

やや小型のピットが多い。覆土は基本的には暗褐色粘質土で締まりがあり、泥岩や炭化物を含む。遺構の数に比して、遺物の出土数は非常に少ない。遺物を出土したピットについて述べる。

遺構149(図9)

隅丸方形を呈するピット。南側は上面の遺構によって破壊されている。覆土は暗褐色粘質土で締りややあり。泥岩、炭化物を少量含む。出土遺物(図11):1は渥美甕。

遺構151(図9)

円形を呈するピット。覆土は黒褐色粘質土で締りあり。泥岩やや少量、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図11):2～3はかわらけ、4～6は小型かわらけ。7は仕上砥。

遺構155(図9)

楕円形を呈するピット。遺構154に切られる。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図11):8は木製品で箸か。

遺構163(図9)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物(図11):9は手づくねかわらけ。

遺構202(図9)

円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘着土で締りあり。泥岩を少量含む。出土遺物(図11):10は平瓦。

遺構180、210、220、260(図10)

それぞれ礎板と思われる板材が検出され、中心距離がほぼ2mであることから掘立柱建物を構成していたピットと判断した。他に同様の間隔で繋がるようなピットは確認できておらず、調査区北側には延びる可能性があるが、全体の構造は正確には不明である。また図示できるような遺物は出土していない。

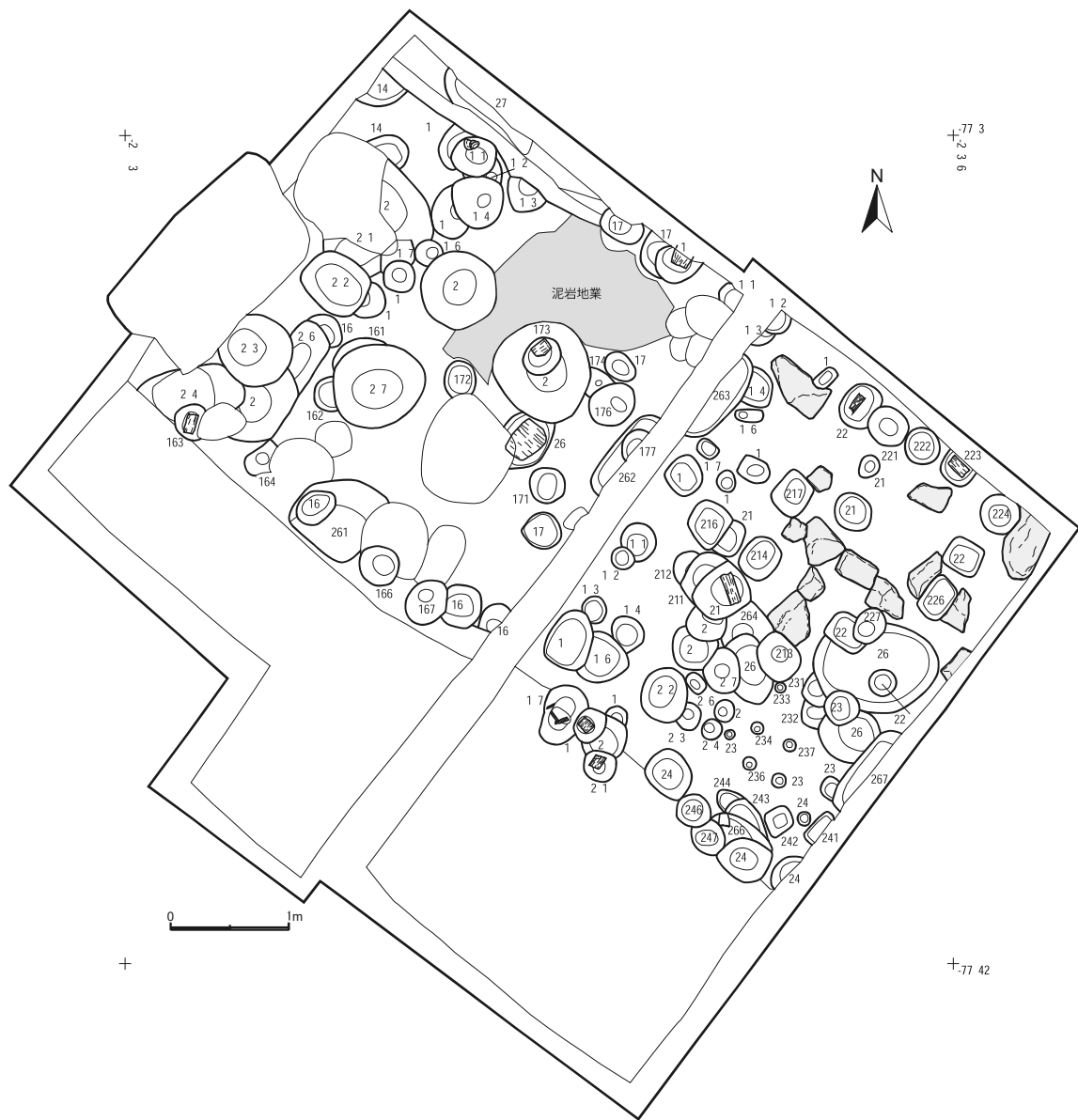


図9 第2面全測図 (S = 1/60)

土坑

土坑は多くが西側に集中している。覆土は暗褐色粘質土を基調とし、締りはある。泥岩、かわらけ片、炭化物を含む。土坑も切り合いが多く見られる。

遺構 252 (図 9)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りややあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 11) : 11 は瀬戸で器種不明。

遺構 254 (図 9)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩やや多く、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 11) : 12 ~ 13 は滑石製鍋転用加工品。14 は銅銭。

遺構 257 (図 9)

円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩多く、炭化物はやや多い。かわらけ片を少量

遺構	上端	最大	上端	レベ	底面	遺構	上端	最大	上端	レベ	底面	遺構	上端	最大	上端	レベ	底面	遺構	上端	最大	上端	レベ	底面						
レベル	径	径	径	ル	レベル	レベル	径	径	径	ル	レベル	レベル	径	径	径	ル	レベル	レベル	径	径	径	ル	レベル						
148	4.67	0.3	4.5			173	4.69	0.33	4.41			198	4.62	0.29	4.3			223	4.56	0.31	4.23			248	4.59	0.43	4.26		
149	4.65	0.34	4.57			174	4.64	0.24	4.52			199	4.62	0.19	4.48			224	4.55	0.33	4.38			249	4.61	0.36	4.5		
150	4.65	0.34	4.58			175	4.62	0.28	4.57			200	4.61	0.35	4.25			225	4.53	0.31	4.31			250	4.7	0.73	4.39		
151	4.65	0.36	4.36			176	4.64	0.4	4.47			201	4.48	0.3	4.26			226	4.54	0.33	4.21			251	4.62	0.54	4.35		
152	4.68	0.33	4.35			177	4.59	0.29	4.51			202	4.62	0.44	4.49			227	4.58	0.3	4.25			252	4.66	0.56	4.25		
153	4.68	0.35	4.55			178	4.65	0.38	4.27			203	4.63	0.23	4.45			228	4.57	0.36	4.44			253	4.61	0.56	4.3		
154	4.68	0.46	4.24			179	4.63	0.38	4.28			204	4.61	0.18	4.57			229	4.45	0.22	4.39			254	4.67	0.83	4.29		
155	4.69	0.44	4.32			180	4.64	0.35	4.26			205	4.61	0.18	4.5			230	4.52	0.28	4.22			255	4.62	0.74	4.33		
156	4.62	0.22	4.56			181	4.69	0.25	4.63			206	4.6	0.18	4.5			231	4.6	0.29	4.5			256	4.64	0.45	4.38		
157	4.64	0.33	4.3			182	4.58	0.21	4.44			207	4.63	0.3	4.4			232	4.61	0.27	4.54			257	4.66	0.77	4.33		
158	4.66	0.27	4.54			183	4.58	0.26	4.41			208	4.61	0.37	4.36			233	4.61	0.08	4.59			258	4.67	0.65	4.27		
159	4.66	0.3	4.27			184	4.57	0.31	4.39			209	4.6	0.32	4.33			234	4.61	0.09	4.52			259	4.71	0.85	4.33		
160	4.67	0.3	4.39			185	4.56	0.21	4.46			210	4.6	0.46	4.36			235	4.61	0.08	4.56			260	4.63	0.56	4.33		
161	4.66	0.49	-			186	4.57	0.24	4.37			211	4.58	0.44	4.35			236	4.61	0.1	4.52			261	4.65	0.69	4.41		
162	4.65	0.28	4.29			187	4.57	0.18	4.46			212	4.58	0.3	4.34			237	4.61	0.95	4.57			262	4.64	0.83	4.58		
163	4.32	0.3	4.48			188	4.57	0.3	4.4			213	4.61	0.39	4.21			238	4.62	0.12	4.51			263	4.59	0.84	4.43		
164	4.62	0.32	4.48			189	4.58	0.26	4.34			214	4.59	0.37	4.48			239	4.6	0.18	4.56			264	4.6	0.45	4.33		
165	4.47	0.36	4.33			190	4.57	0.17	4.5			215	4.59	0.33	4.43			240	4.61	0.11	4.58			265	4.62	0.61	4.38		
166	4.44	0.33	4.14			191	4.56	0.31	4.3			216	4.59	0.4	4.42			241	4.61	0.31	4.45			266	4.61	0.54	4.36		
167	4.65	0.41	4.13			192	4.57	0.19	4.49			217	4.55	0.34	4.39			242	4.55	0.38	4.42			267	4.61	0.51	4.43		
168	4.64	0.35	4.45			193	4.59	0.21	4.55			218	4.56	0.34	4.47			243	4.61	0.13	4.57			268	4.62	0.84	4.46		
169	4.69	0.26	4.58			194	4.6	0.25	4.49			219	4.55	0.21	4.44			244	4.6	0.41	4.48			269	4.62	1.03	4.45		
170	4.65	0.6	4.46			195	4.57	0.5	4.44			220	4.55	0.39	4.42			245	4.59	0.41	4.51			270	4.64	-	4.48		
171	4.65	0.28	4.23			196	4.61	0.39	4.51			221	4.52	0.31	4.21			246	4.62	0.28	4.51								
172	4.64	0.28	4.57			197	4.61	0.52	4.17			222	4.54	0.3	4.41			247	4.47	0.26	4.24								

含む。出土遺物（図 11）：15 はかわらけ。

遺構 259（図 9）

円形を呈する土坑。遺構 173 に切られる。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩多く、炭化物やや少。かわらけ片も少量含む。出土遺物（図 11）：16 は常滑片口鉢Ⅱ類、17 は銅銭。

遺構 261（図 9）

近代遺構によって南側は削平される。おそらく円形を呈すると思われる土坑。覆土は下層は黒灰粘質土

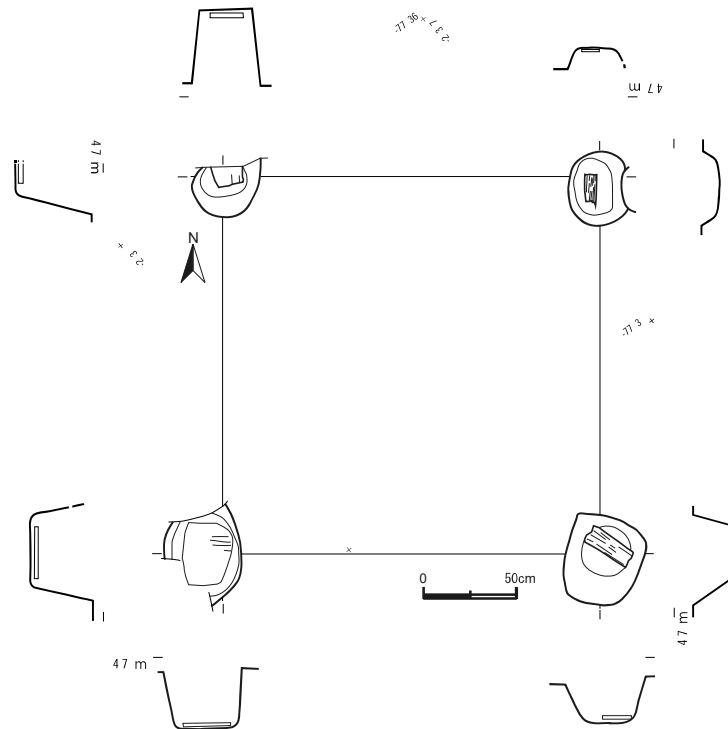


図 10 礎板建物 (S=1/20)

で締りやや弱い。泥岩は少量で、炭化物多い。かわらけ片を少量含む。上層は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物（図 11）：18 はかわらけ。

遺構 270（図 9）

溝状を呈する大型の土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りあり。泥岩が多く含まれる。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物（図 11）：19 はかわらけ。

2 面構成土出土遺物

2 面より 3 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 11）。20 は瀬戸で平碗か。21～22 は渥美甕。23 は平瓦。

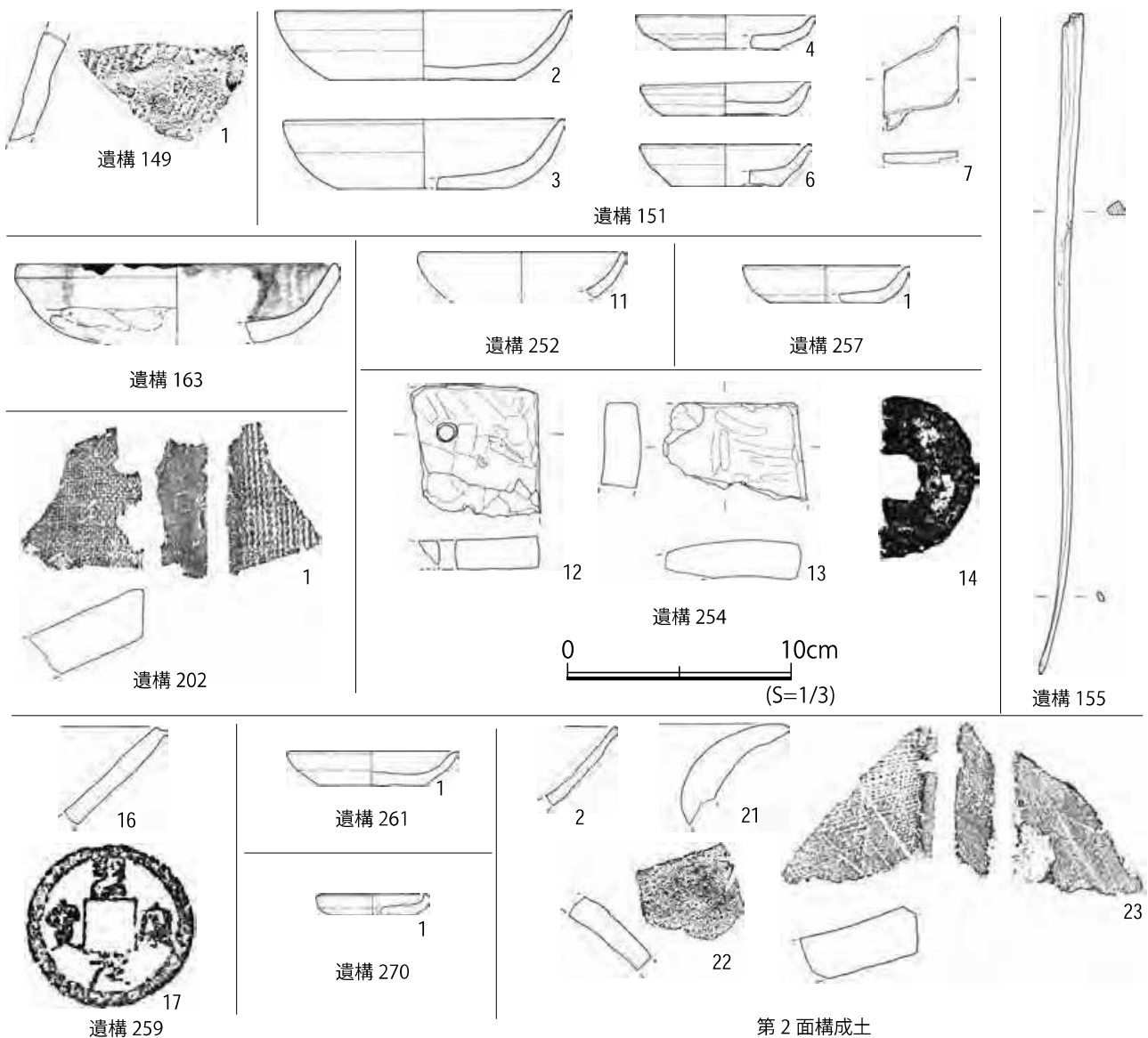


図 11 第 2 面出土遺物

第4節 第3面の遺構・遺物

第3面（図12）は西側および北側は破碎した泥岩塊を密に敷き詰めて整地した地業による。近現代に属する大型の溝により東南の一部は削平されている。検出面の標高は4.35～4.37mである。整地層は中央は暗茶褐色土が混入し、泥岩があまり見られない箇所もある。また東北隅は大型の泥岩を密に敷き詰めている。この層を掘り込んだ遺構としてピット19穴、土坑4基を検出した。遺構は基本的に泥岩の整地の薄い西側と南側に見られる。東側では明確な遺構がほとんど確認できなかった。南部では礎板が検出されているが、近現代の掘り込みで上部が削平されており、どの面からの掘り込みかは不明である。ピットにも切り合いが見られるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

第2面までとは遺構の数や整地の仕方に大きな差異が見られる。

また間に暗褐色土の泥層を挟んでさらに破碎した泥岩を緻密に混入した整地層が検出された。標高は4.22～4.31mであり、多くは5cm程度しか比高差がなく、これを第3a面とした。検出遺構はピット20穴、土坑2基、溝状遺構1基である。

遺物はかわらけ、手づくねかわらけ、白かわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、白磁、瓦、石製品などが少量出土している。図示できるような遺物がほとんどなく、遺構も少ない。時期差もあまりないと考えられ、第3面、3a面については一括して述べる。

3面遺構

ピット

覆土は黒褐色粘質土、黒褐色粘質土、暗茶褐色粘質土など、やや差が見られる。総じて締りはややあり、泥岩を少量含む。遺構278や282など、礎板が検出されたピットもあるが、ピット自体が少数で、建物の構造などは不明瞭である。

遺構291（図12）

暗褐色粘質土 締り弱い。泥岩やや少。炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物（図14）：1はかわらけ加工品。

土坑

少数検出。

遺構293（図12、13）

方形を呈しやや深い土坑。覆土は図13参照。東側は1区と2区の間位置していると考えられ、未検出。図示できるような遺物は出土せず。

遺構	レベル	上端	最大上端	レ	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	レ	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	レ	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	レ	底面
271	4.37	0.49	4.25		276	4.4	0.39	4.3		281	4.39	0.17	4.32		286	4.35	0.35	4.28		291	4.37	0.56	4.13
272	4.35	0.38	4.3		277	4.35	0.28	4.09		282	4.36	0.36	4.27		287	4.35	0.16	4.3		292	4.37	0.67	4.27
273	4.33	0.35	4.24		278	4.36	0.24	4.31		283	4.35	0.88	4.22		288	4.35	0.43	4.25		293	4.35	1.18	3.95
274	4.34	0.43	4.26		279	4.36	0.2	4.29		284	4.35	0.2	4.23		289	4.35	0.3	4.27					
275	4.38	0.36	4.27		280	4.38	0.13	4.29		285	4.35	0.23	4.17		290	4.36	0.58	4.28					

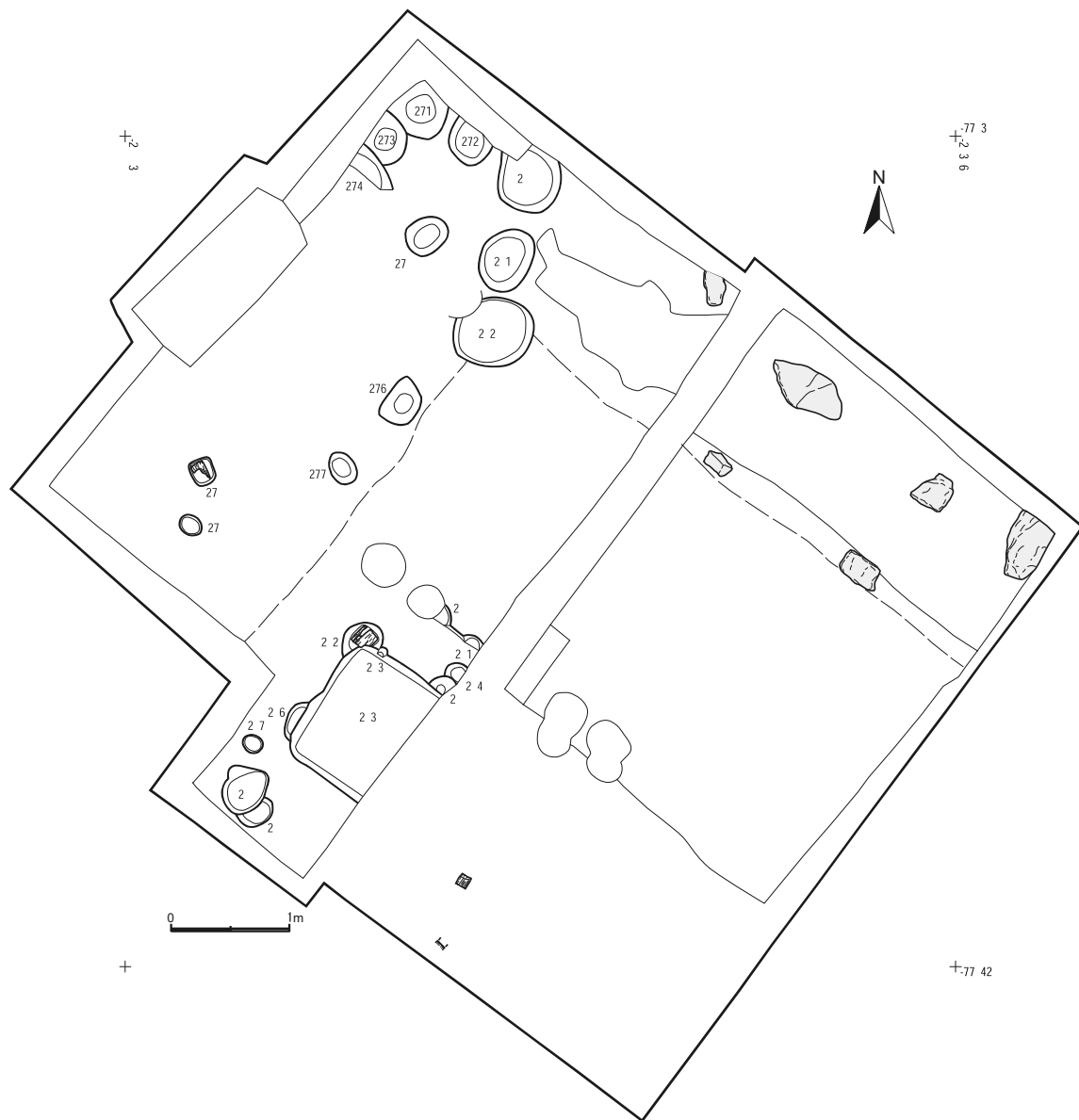


図12 第3面全測図 (S=1/60)

3a 面遺構

ピット

遺構 294、遺構 305 では礎板と思われる板材が検出されたが建物のプランなどは不明。

土坑

少数検出。

遺構 315 (図 15)

隅丸長方形をなす土坑。覆土は暗褐色粘質土で締り弱い。泥岩、炭化物、かわらけ片を少量含む。出土遺物 (図 14) : 2 は常滑片口鉢 I 類。

溝状遺構

調査区の中央やや西よりに、方形の区画をするような状態で溝状の落ち込みが見られた。非常に浅く、溝と断定するのは難しいところであるが、泥岩の地業が無く、何かの区画のような構造物ではないかと思われる。東側では上部に大型の泥岩塊が多数あり、それを取り除くと南側よりは低く段状に落ち込み

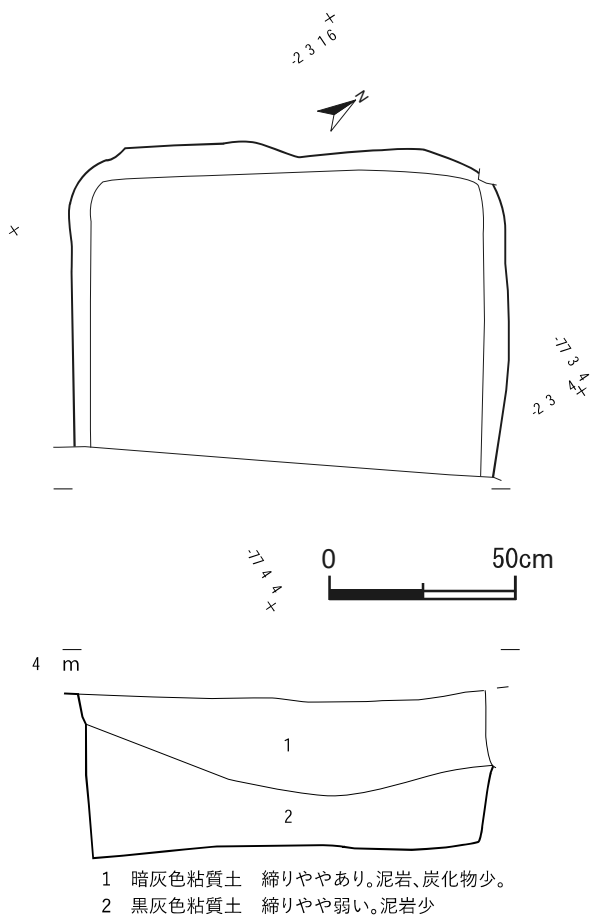


図13 3面遺構 293 (S=1/20)

が見られた。西側のような細い溝状の落ち込みとは構造が異なっているが、南側の稜線は一致しており、南北を区画するような意図があったのではないかと想定される。

遺構 316 (図 15)

覆土は暗茶褐色粘質土で締りややあり。泥岩塊やや多い粒少。炭化物少。かわらけ片を少量含む。図示できるような遺物は出土せず。

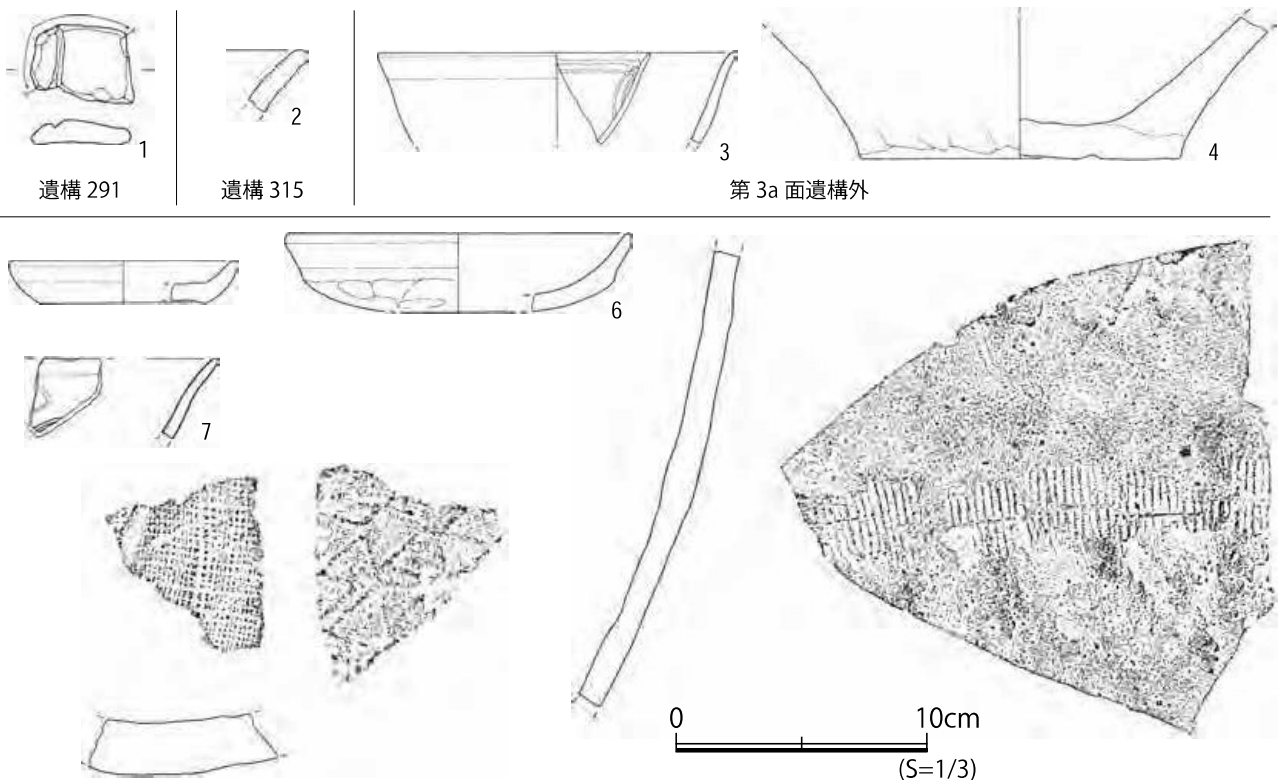
他にこの溝状遺構の西北隅に隣接して炭層の広がりが見られた。性格は不明。

3a 面遺構外土出土遺物

遺構面精査時に面上で検出した遺物 (図 14)。3 は青磁劃花文碗、4 は常滑片口鉢Ⅱ類。

3a 面構成土出土遺物

3b 面より 4 面検出までの間の堆積より出土した遺物 (図 14)。5 は小型かわらけ、6 は手づくね大型かわらけ。7 は青磁劃花文碗、8 は常滑甕、9 は平瓦。



3a 面構成土

図14 3面、3a面出土遺物

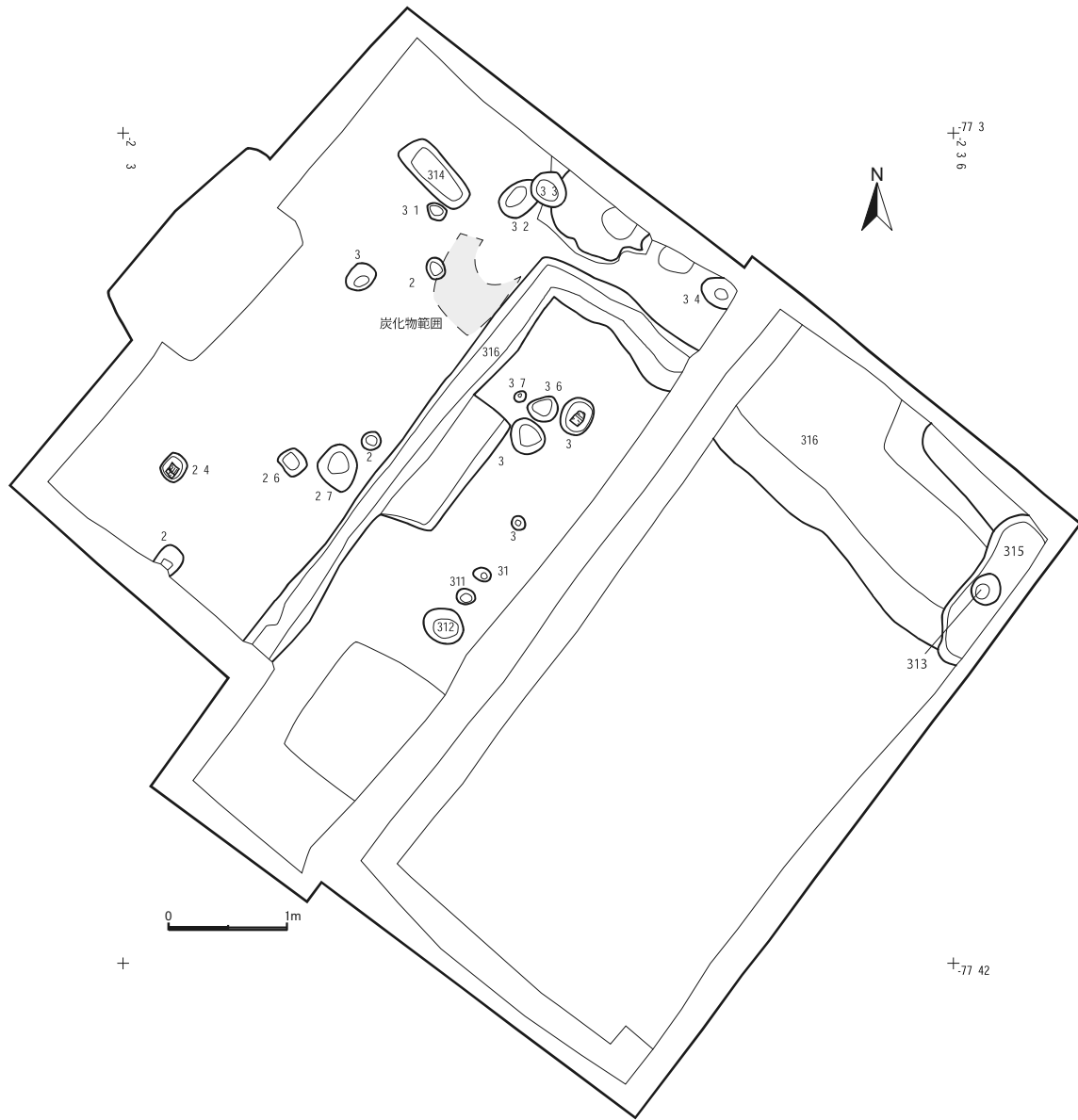


図 15 第 3a 面全測図 (S=1/60)

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
294	4.3	0.24			4.25	
295	4.28	0.26			4.15	
296	4.28	0.25			4.18	
297	4.3	0.39			4.09	
298	4.29	0.15			4.24	

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
299	4.28	0.18			4.26	
300	4.27	0.25			4.17	
301	4.28	0.17			4.24	
302	4.26	0.36			4.16	
303	4.3	0.3			4.2	

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
304	4.31	0.28			4.25	
305	4.36	0.32			4.28	
306	4.31	0.26			4.27	
307	4.29	0.1			4.16	
308	4.3	0.3			4.25	

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
309	4.32	0.12			4.29	
310	4.31	0.16			4.27	
311	4.3	0.16			4.25	
312	4.29	0.35			4.22	
313	4.22	0.26			4.16	

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
314	4.27	0.68			4.17	
315	4.37	1.38			4.18	
316	4.3	-			4.25	

第5節 第4面の遺構・遺物

第4面はほぼ全面に破砕した泥岩によって強固な地業を施した整地面である。ただし北側は薄く、東側も密に泥岩を敷き詰めていない箇所が散見される（図16点線部）。遺構はこの整地層を掘りこんでいるが非常に少なく、検出した遺構はピット6基、土坑2基、溝状遺構1条である（図16）。

遺物は遺構からの出土は確認されず、構成土からかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、石製品がわずかに出土。

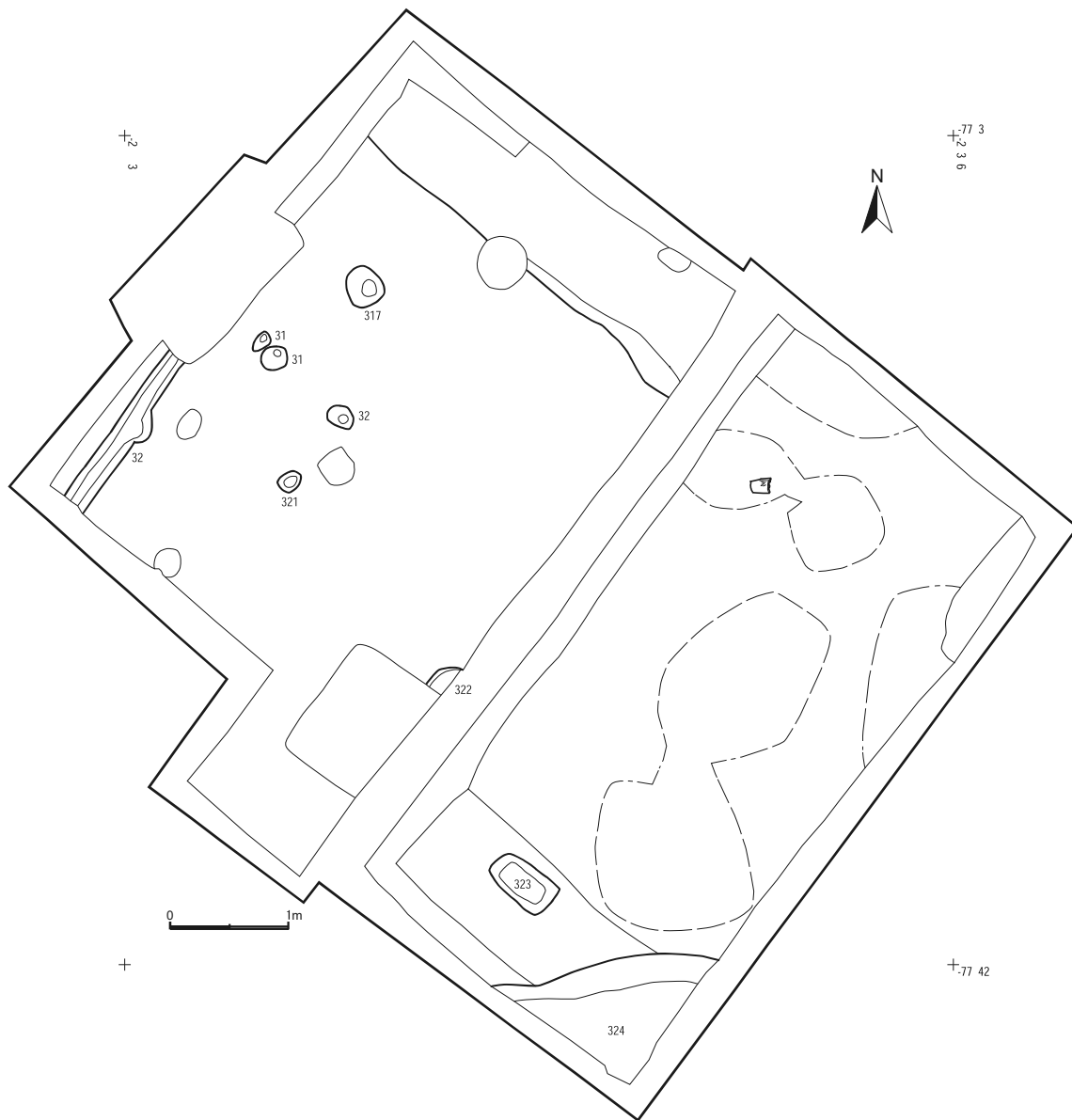


図16 第4面全測図 (S=1/60)

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
317		4.27	0.33			4.1
318		4.23	0.18			4.17
遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
319		4.23	0.23			4.08
320		4.24	0.23			4.05
遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
321		4.21	0.2			4.08
322		4.28	0.28			4.18
遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
323		4.26	0.58			4.14
324		4.18	0.6			3.98
遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
325		4.28	-			4.22

ピット

切り合いもなく、建物構造も不明瞭。黒茶褐色粘質土を覆土とし、締りはややある。泥岩粒、炭化物が少量混じるのみ

土坑

遺構 324 はやや大型であるが、調査区東南端で区外に延び、正確な規模や形態は不明である。

溝状遺構

細い溝状の遺構が調査区西端で検出。一部のみ検出で、詳細は不明。

遺構 325 (図 16)

出土遺物 (図 17) : 1 は手づくねの小型かわらけ。

4 面構成土出土遺物

泥岩地業に混入するような状況で 1 点出土 (図 17)。2 は丸瓦。

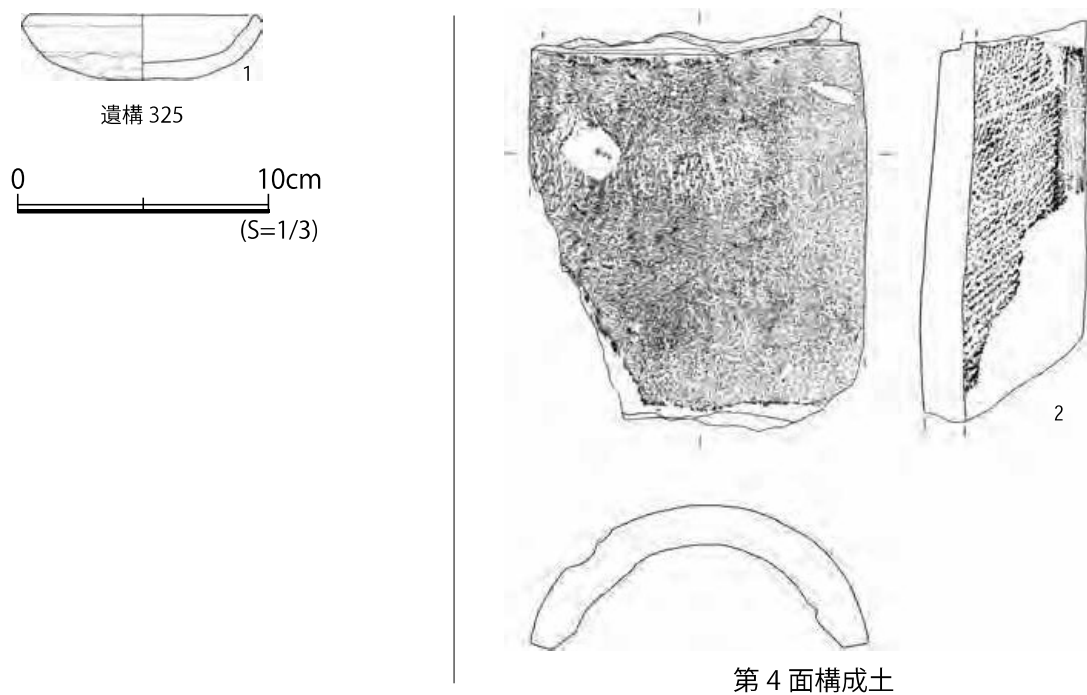


図 17 第 4 面出土遺物

第6節 第5面の遺構・遺物

第5面は第4面の泥岩による整地層の下部にあたる。黒褐色粘質土によって構成され、破碎した泥岩粒をやや含む。確認面の標高は4.13～4.23 mを測る。検出した遺構は、ピット34基、土坑1基である(図18)。西側では明確な遺構の検出が少ない。北側には杭がやや直線的に並んで検出されたが、その機能は不明である。東側ではピットがやや密集するが、建物のプランなどは明らかにし得ない。遺構の切り合いから少なくとも3時期の時期差が想定される。

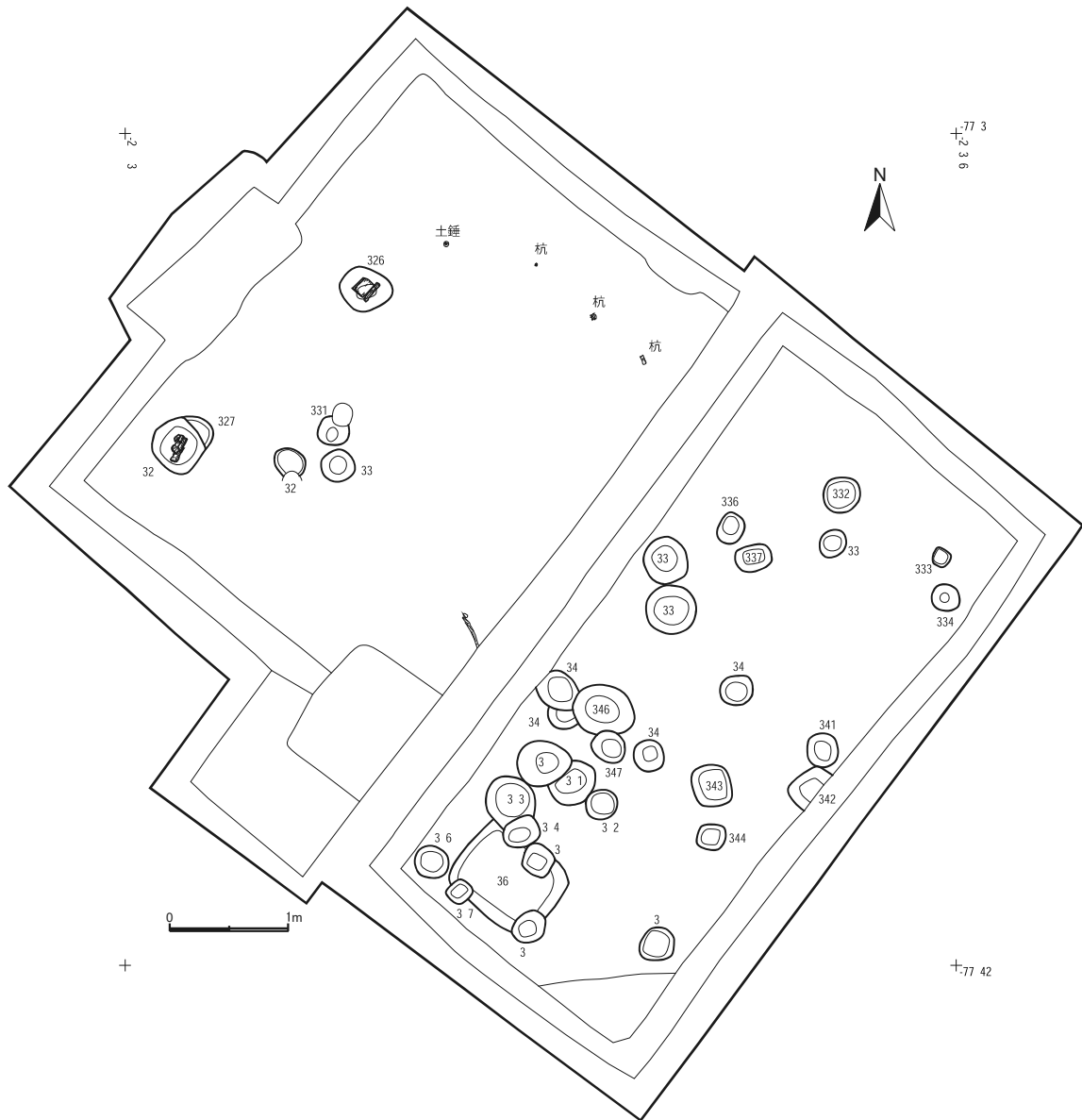


図18 第5面全測図 (S=1/60)

遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面	遺構	レベル	上端	最大上端	上端	レベル	底面
326	4.15	0.44	3.84				333	4.21	0.16	4.14				340	4.18	0.29	4.08				347	4.23	0.29	4.12			
327	4.13	0.32	4.03				334	4.23	0.24	4.16				341	4.2	0.28	4.13				348	4.2	0.37	4.08			
328	4.13	0.47	3.93				335	4.22	0.25	4.13				342	4.25	0.38	4.12				349	4.2	0.28	4.14			
329	4.15	0.27	4.1				336	4.21	0.25	4.15				343	4.17	0.37	4.12				350	4.23	0.44	4.07			
330	4.16	0.29	3.88				337	4.2	0.3	4.15				344	4.19	0.26	4.11				351	4.23	0.41	4.12			
331	4.15	0.27	3.98				338	4.21	0.38	4.12				345	4.2	0.28	4.14				352	4.22	0.26	4.15			
332	4.22	0.31	4.19				339	4.2	0.43	4.12				346	4.22	0.53	4.1				353	4.21	0.36	4.13			
																					354	4.22	0.31	4.15			
																					355	4.23	0.27	4.12			
																					356	4.2	0.28	4.11			
																					357	4.2	0.2	4.09			
																					358	4.21	0.28	4.1			
																					359	4.22	0.31	4.16			
																					360	4.22	1	4.13			

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、土錘、石製品、木製品、自然遺物が少量出土している。

ピット

遺構 326、328 では礎板が検出された。特に 328 では 6 枚の板材が重ねられた状態で検出されている（図 19）。その状態から、第 4 面構築の際に上部が削平されている可能性もある。

西側に比べて東側はかなりピットが密集するが、礎板などは検出されていない。図示可能な遺物は遺構からは出土せず、

5 面遺構外土出土遺物

遺構面精査時に面上で検出した遺物。出土遺物（図 20）：1 は土錘。

5 面構成土出土遺物

5 面より 6 面検出までの間の堆積より出土した遺物（図 20）。2 は小型かわらけ、3～6 は手づくね大型かわらけ。7 は常滑片口鉢 I 類、8 は平瓦、9～11 は木製品で、9 は箸、10 は草履芯、11 は不明木製品。

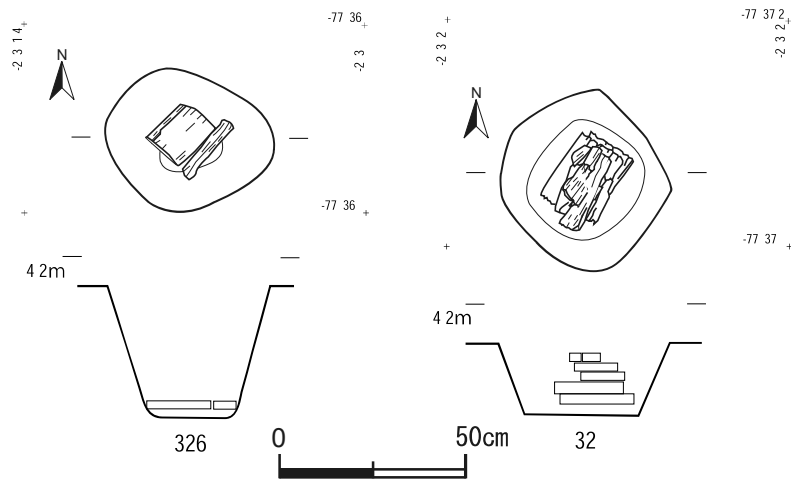


図 19 第 5 面遺構 326、328

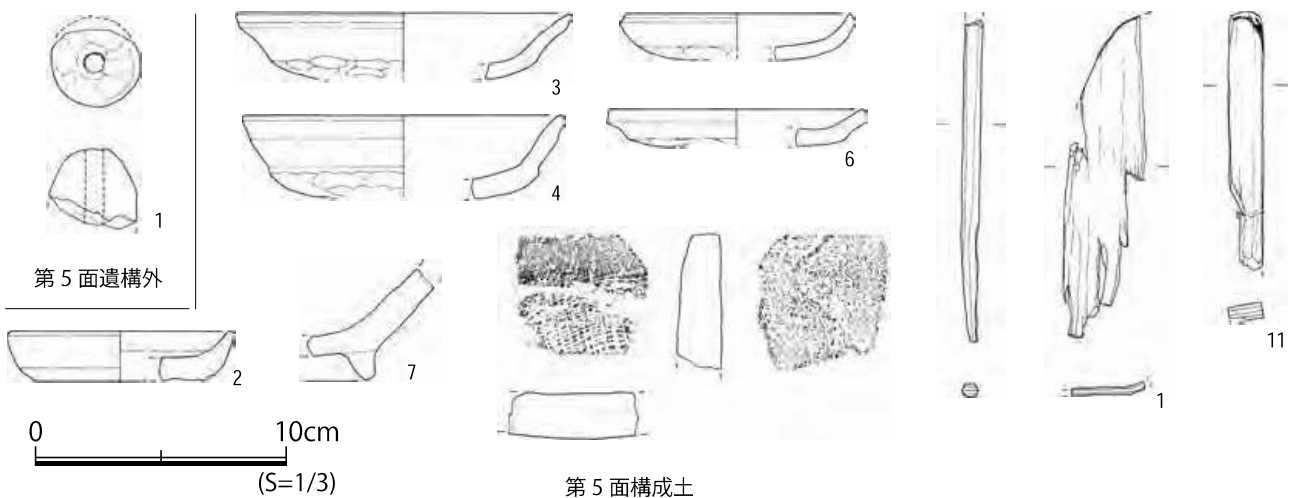


図 20 第 5 面出土遺物

第7節 第6面の遺構・遺物

1区（西側）の調査時点では5面以下は中世基盤層の可能性があると判断したため、一部の掘り下げにとどまった。明確な遺構も確認できなかったが、2区（東側）では大部分を掘り下げたところわずかにピットと考えられる遺構を検出したため、これを6面とした（図21）。6面は黒褐色土に破碎した泥岩粒が多く混じる整地層である。泥岩の混入は場所によってまばらである。確認面の標高は4.09～4.11mを測る。検出した遺構はピットのみで24基である。切り合いから少なくとも2期の時期差が想定される。建物のプランなどは明らかにし得ない。

遺構	レベル	上端	最大径	上端レベル	底面レベル
361	4.09	0.16		4	
362	4.09	0.19		3.96	
363	4.1	0.16		4.05	
364	4.08	0.2		3.9	
365	4.14	0.31		3.95	

遺構	レベル	上端	最大径	上端レベル	底面レベル
366	4.1	0.15		4.09	
367	4.07	0.17		3.94	
368	4.09	0.15		4.04	
369	4.1	0.29		4.04	
370	4.1	0.24		4.06	

遺構	レベル	上端	最大径	上端レベル	底面レベル
371	4.07	0.3		3.94	
372	4.13	0.26		3.97	
373	4.09	0.39		4.03	
374	4.09	0.31		3.95	
375	4.08	0.25		3.9	

遺構	レベル	上端	最大径	上端レベル	底面レベル
376	4.07	0.29		4.02	
377	4.08	0.2		4.04	
378	4.06	0.22		3.92	
379	4.08	0.33		3.93	
380	4.08	0.25		4.05	

遺構	レベル	上端	最大径	上端レベル	底面レベル
381	4.09	0.36		3.94	
382	4.11	0.37		3.95	
383	4.09	0.29		3.92	
384	4.09	0.42		4.05	

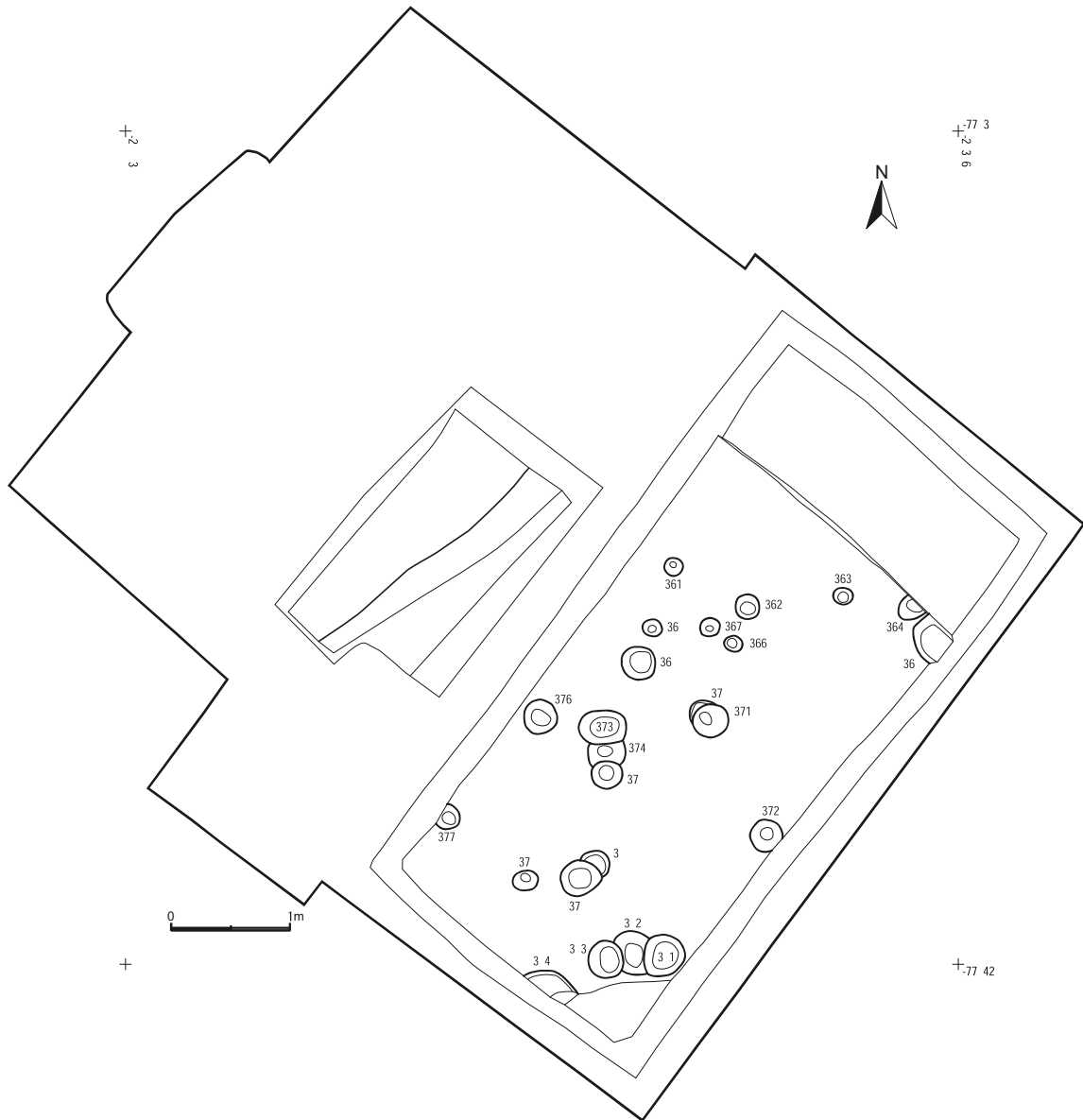


図21 第6面全測図（S=1/60）

遺物は遺構からは検出されず、構成土からの出土のみであり、かわらけ、手づくねかわらけ、木製品、自然遺物が少量出土している。図示可能な遺物はない。6面から7面への掘り下げ中に人の顎骨が検出された（写真図版4-4）。

第8節 第7面の遺構・遺物

第7面は東側（2区）のみでの検出である。黒褐色粘質土にわずかに泥岩粒が混入する整地層であり、第6面よりも混入の度合は少ない。確認面の標高は3.2～4.00mを測る。検出した遺構は、ピット21基である（図22）。いずれも小型で浅く、切り合いがわずかに見られることから、2時期の時期差があると思われる。建物のプランなどは不明瞭である。

遺物のごくわずかで、木製品、かわらけが検出されているが、図示可能な遺物は出土していない。

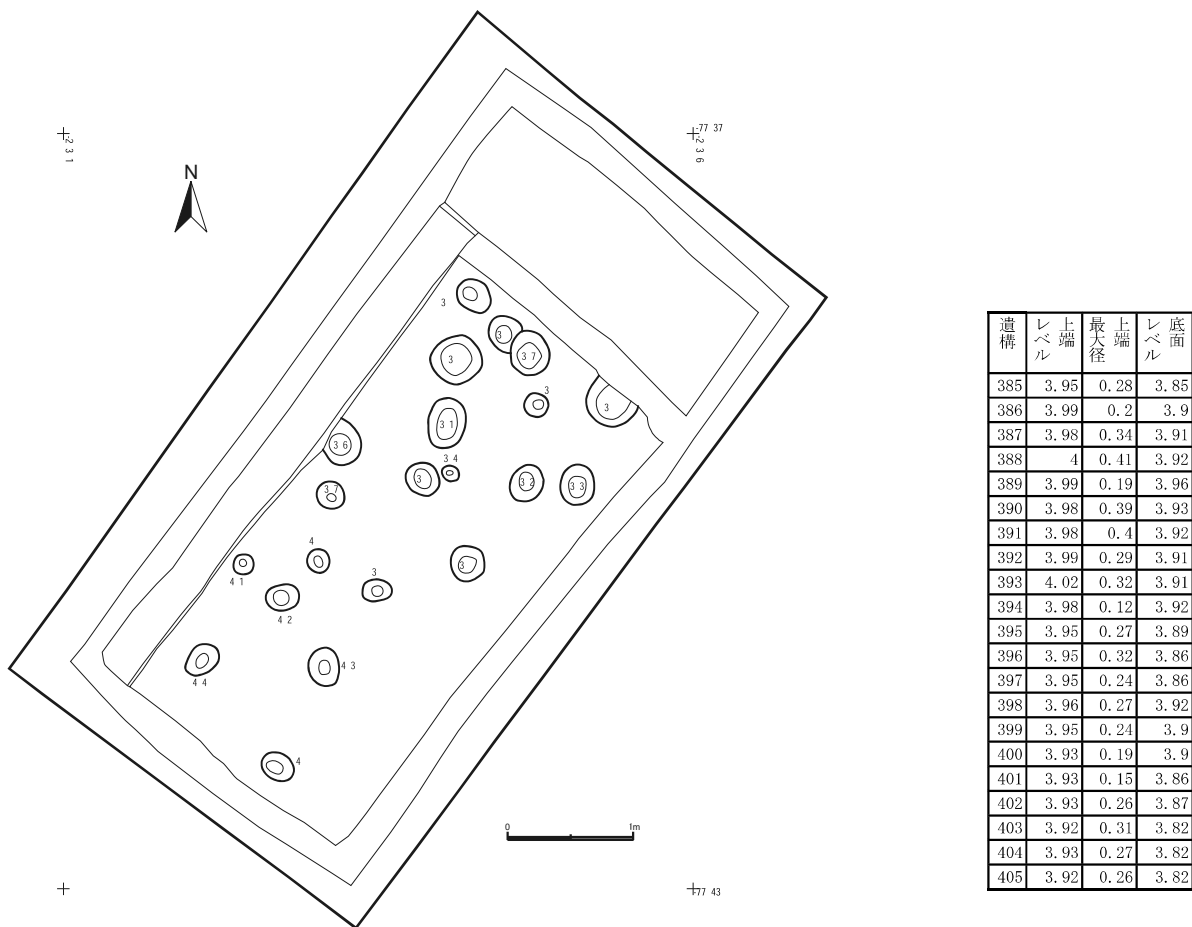


図22 第7面全測図 (S=1/60)

第9節 第7面以下

第7面以下において下の状況を確認するため、南側を一部を掘り下げた。標高約3.8mで黒褐色の粘質土となり、泥岩粒がほぼ含まれなくなる(図23、8面)。遺構も遺物も検出することが出来なかった。南側をさらに標高約3.4mまでトレンチを入れて掘り下げたが、あまり状況に変化は見られず、遺物も出土していない。したがって、標高約3.8m程度の面を中世基盤層ととらえ調査を終了した。

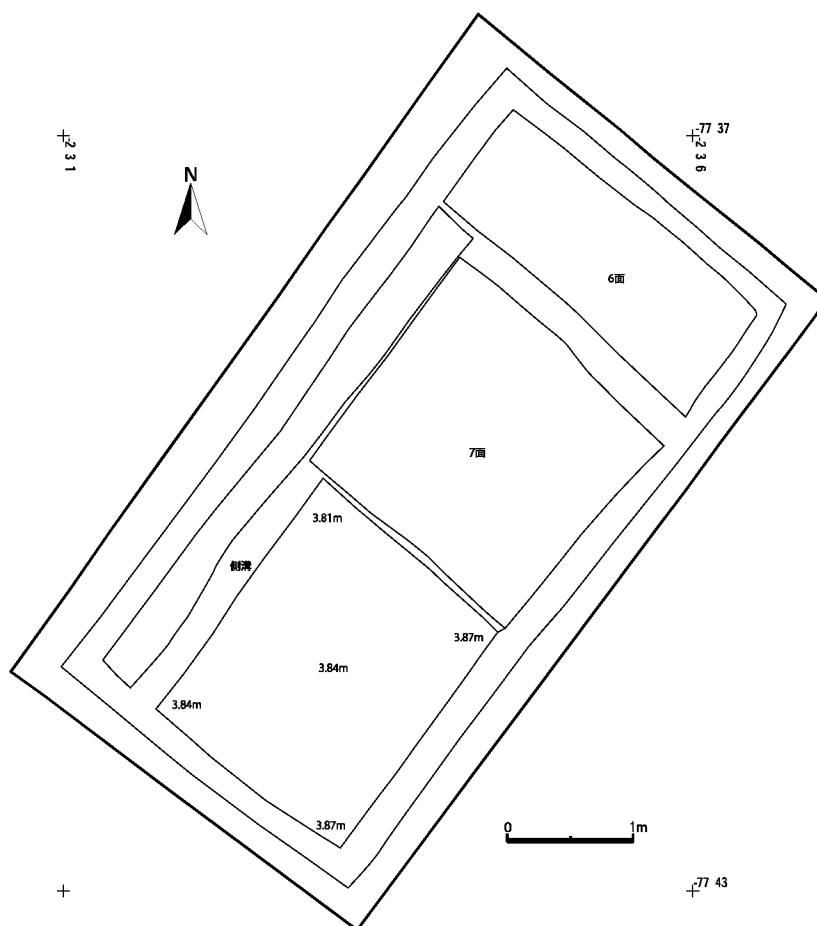


図23 第7面以下 (S=1/60)

第10節 その他の遺物

試掘時、また廃土から検出した遺物のうち状態のよい資料を掲載しておく(図24)。1は小型かわらけ、2は青磁双魚文皿、3は瀬戸の仏餉具か。4は瀬戸浅碗、5は丸瓦、6は風炉、7は銅銭。

また近現代の大型の溝状の遺構から遺物が出土しており、それいについても掲載しておく(図25)：。1～3は中世遺物で混入と思われる。1は小型かわらけ、2は常滑玉縁壺、3は銅銭。4～9は磁器で、4は碗、5は皿、6は人形、7は鴨の浮人形、8～9は花器か。10はガラス製のビール瓶。11は瓦。12～14は鉄釘。

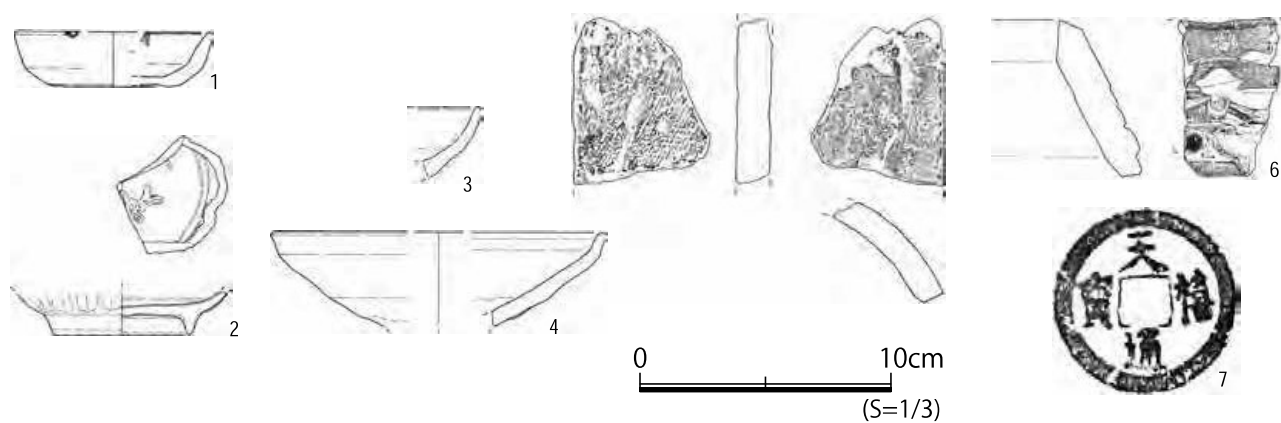


図24 遺構外の出土遺物

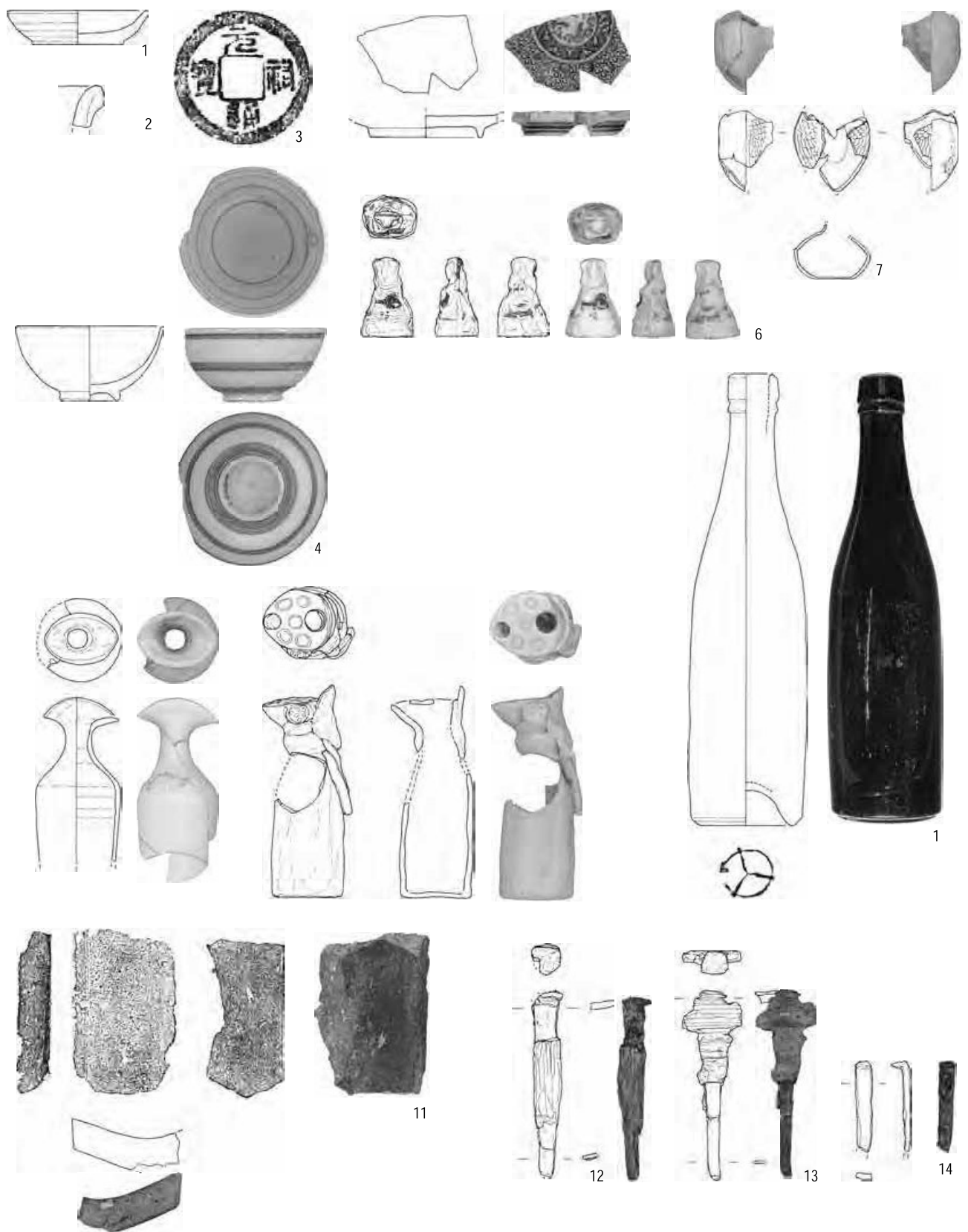


图 25 近代遺物遺構出土遺物

第三章 考察とまとめ

調査によって、7面におよび生活面を検出しそれぞれに建造物が確認された。

第1面は1区では確認できていない。近現代に属する大型の溝により南約1/3は削平されており、北側も近現代の掘り込みによって一部が破壊されてしまっている。残存部も上方は削平されている可能性がある。

検出面の標高は4.90～4.96mである。層はやや大型の泥岩ブロックを混入した暗褐色土による整地層であり、この層を掘り込んだ遺構としてピット15穴、土坑5基を検出した。西側壁面には礎石と思われる凝灰質砂岩が1基確認されたが、他には確認されず、礎石建物の存在は不明瞭である。多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあつたと推定されるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも4時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、伊勢系土鍋、瓦質土器、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

出土遺物から、第1面の遺構は14世紀中葉～後葉に属すると考えられる。

第1a面は第1面とさほど構成土が変わらないなか、すぐ直下で検出されたため、1a面とした。近現代に属する大型の溝により南約1/3は消失している。検出面の標高は4.76～4.85mである。整地層は泥岩ブロックを混入した暗褐色土によるが1面よりも泥岩ブロックの混入がやや少ない。この層を掘り込んで遺構としてピット74穴、土坑13基を検出した。東側(2区)ではピットが混在して集中し、西側(1区)はピットがやや少なく、大型の土坑がある程度まとまって見られ、東西でやや土地の利用が異なるようである。多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあつたと推定されるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも5時期の時間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、白磁、高麗青磁、伊勢系土鍋、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、鉄滓、滑石製品などが出土している。

出土遺物から推定すると、本面の遺構群は14世紀前半～中葉に属すると考えられる。

第2面は南側1/3程度はやはり近現代の遺構の掘り込みより消失している。検出面の標高は4.52～4.68mである。整地層はやや大型の泥岩ブロックを比較的多く混入した暗褐色土によるものである。この層を掘り込んだ遺構としてピット102穴、土坑20基、溝状の土坑1基を検出し、本調査地点では最も遺構の多い時期の面となる。東側(2区)ではやはりピットが混在して集中し、西側(1区)ではピットがやや少なく、大型の土坑がある程度まとまって見られる状況は第1a面の傾向に類似している。東側では北側に大型泥岩が敷き詰められ、ピットが密集して構築されており、礎板も複数検出した。しかし掘立柱建物としては1間×1間の規模で1軒推定できたのみで、その他の正確なプランは不明瞭である。東南部では植栽痕のような小さなピットが複数検出され列をなすようにも見えるが、その性格は判別し難い。西側では北側の一部は細かい破碎泥岩による地業面が構築されており、その西方に土坑が目立つ。場の利用が東西で明確に異なっている様相が見てとれる。

多数の切り合いが見られ、狭い範囲で何度も立て直しがあつたと推定される。少なくとも5時期の時

間差があると考えられる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、青白磁、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘、滑石製品などが出土している。

出土遺物から推定すると、本面の遺構群は14世紀前半に属すると考えられる。

第3面は西側および北側は破碎した泥岩塊を密に敷き詰めて整地した地業による。近現代に属する大型の溝により東南の一部は削平されている。検出面の標高は4.35～4.37mである。整地層は中央は暗茶褐色土が混入し、泥岩があまり見られない箇所もある。また東北隅は大型の泥岩を密に敷き詰めている。この層を掘り込んだ遺構としてピット19穴、土坑4基を検出した。遺構は基本的に泥岩の整地の薄い西側と南側に見られる。東側では明確な遺構がほとんど確認できなかった。ピットにも切り合いが見られるが、建物のプランは明確にはし得ない。少なくとも3時期の時間差があると考えられる。

また間に暗褐色土の泥層を挟んでさらに破碎した泥岩を緻密に混入した整地層が検出された。標高は4.22～4.31mであり、多くは5cm程度しか比高差がなく、これを第3a面とした。検出遺構はピット20穴、土坑2基、溝状遺構1基である。

遺物はかわらけ、手づくねかわらけ、白かわらけ、常滑、瀬戸、渥美、青磁、白磁、瓦、石製品などが少量出土している。

出土遺物から推定すると、本面の遺構群は13世紀後半に属すると考えられる。

第4面はほぼ全面に破碎した泥岩によって強固な地業を施した整地面である。ただし北側は薄く、東側も密に泥岩を敷き詰めていない箇所が散見される。遺構はこの整地層を掘りこんでいるが非常に少なく、検出した遺構はピット6基、土坑2基、溝状遺構1条である。

遺物は遺構からの出土は確認されず、構成土からかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、石製品がわずかに出土。

出土遺物から推定すると、本面の遺構群は13世紀中葉に属すると考えられる。

第5面は第4面の泥岩による整地層の下部にあたる。黒褐色粘質土によって構成され、破碎した泥岩粒をやや含む。確認面の標高は4.13～4.23mを測る。検出した遺構は、ピット34基、土坑1基である。西側では明確な遺構の検出が少ない。北側には杭がやや直線的に並んで検出されたが、その機能は不明である。東側ではピットがやや密集するが、建物のプランなどは明らかにし得ない。遺構の切り合いから少なくとも3時期の時期差が想定される。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、土錘、石製品、木製品、自然遺物が少量出土している。

出土遺物から推定すると、本面の遺構群は13世紀前半に属すると考えられる。

第6面は1区（西側）の調査時点では5面以下は中世基盤層の可能性があると判断したため、一部の掘り下げにとどまった。明確な遺構も確認できなかったが、2区（東側）では大部分を掘り下げたところわずかにピットと考えられる遺構を検出したため、これを6面とした。6面は黒褐色土に破碎した泥岩粒が多く混じる整地層である。泥岩の混入は場所によってまばらである。確認面の標高は4.09～4.11mを測る。検出した遺構はピットのみで24基である。切り合いから少なくとも2期の時期差が想定される。建物のプランなどは明らかにし得ない。

遺物は遺構からは検出されず、構成土からの出土のみであり、かわらけ、手づくねかわらけ、木製品、自然遺物が少量出土。

出土遺物は十分に判断できるほどの量がないが、13世紀前半に属すると考えられる。

第7面は東側(2区)のみでの検出である。黒褐色粘質土にわずかに泥岩粒が混入する整地層であり、第6面よりも混入の度合は少ない。確認面の標高は3.2～4.00mを測る。検出した遺構は、ピット21基である(図22)。いずれも小型で浅く、切り合いがわずかに見られることから、2時期の時期差があると思われる。建物のプランなどは不明瞭である。

遺物のごくわずかで、木製品、かわらけが検出されている。

出土遺物は十分に判断できるほどの量がないが、13世紀前半に属すると考えられる。

7面より下10cm程度で遺物も遺構も確認できなくなり、中世基盤層と判断した。東側には丘陵が迫り、またすぐに豆腐川が流れているという環境であるが、岩盤や河川流路、あるいはそれに関わるような遺構は検出されなかった。

周囲には高御倉小路が存在していたと推定されるが、それに類するような遺構も確認されていない。面の堆積状況は北側に隣接する過去の調査成果とほぼ同様であった。5面の段階で大規模な泥岩地業が行われ、4面、3面と複数回にわたって整地が行われている。そこでは遺構自体が少なく、遺物も数的に多いとは言えない。通常の屋敷地などとはまた異なる土地利用の姿が想定される。

2面から1面にいたり、遺構の様相はまた大きく変化する。非常に多くのピットが構築されており、頻繁に建物の建て替えが行われたと考えられる。しかし、遺構の数に比して遺物の出土数はやはり少ないと言える。

浜御倉、高御倉などと呼ばれるこの一帯の土地の性格と何か関わる状況があるのかもしれないが、断定できるほどの資料は不足している。今後の調査事例の増加によって、当該地域の性格をさらに検討する必要がある。

表1 中世出土遺物観察表

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目	
						口径	底径	器高	重		
6-1	1	1	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(7.5)	(5.8)	1.6		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 底部に煤付着	
6-2		5	鉄製品	釘	頂部欠損	長 [4.5]	幅 0.6	厚 0.3		f: 四角状鍛造	
6-3		6	陶器	瀬戸天目茶碗	口縁部小片	-	-	[5.6]		b: 明灰色 砂粒 良土 d: 鉄釉 e: 良好 f: 藤澤編年中期後半～後期前半	
6-4		6	土製品	小壺	1/4	(4.5)	-	[2.0]		a: ロクロ成形 b: 微砂 雲母 海綿骨針 赤色粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: かわらけ質	
6-5		12	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.0)	(6.0)	1.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
6-6		14	土製品	ロクロかわらけ(小)	2/3	(8.2)	5.6	1.65		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
6-7		15	磁器	青磁 鏝蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[3.4]		b: 灰色 精良堅緻 d: 灰緑色 透明釉 釉層うすい 貫入あり f: 大宰府-龍泉窯系Ⅱ～Ⅲ類	
6-8		16	陶器	瀬戸平碗	口縁部片	-	-	[2.0]		b: 黄灰色 良土 d: 灰釉ツケガケ e: 良好 f: 藤澤編年後期前半	
6-9		18	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	底部小片	-	-	[4.3]		a: 粘土紐輪積技法 b: 灰色 砂粒 長石 小石粒 c: 灰色 e: 良好 f: 内面磨滅 高台貼付 中野編年 6a 型式か	
6-10		31	鉄製品	釘	先端欠損	長 [3.1]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造	
6-11		34	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/2	(13.2)	(7.5)	3.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
6-12		34	鉄製品	釘	先端欠損	長 [13.1]	幅 0.9	厚 0.5		f: 四角状鍛造	
6-13		35	陶器	常滑壺	口縁部小片	-	-	[4.1]	縁帯幅 2.8	a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 外面: 横ナデ b: 灰褐色 長石 石英 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
6-14		42	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[2.8]		a: 粘土紐輪積技法 b: 灰褐色 砂粒 白色粒 c: 茶褐色 e: 良好 f: 6a 型式	
6-15		43	土製品	平瓦	-	[7.1]	[7.7]	2.4		a: 凸面: 斜格子叩き目 凹面: 布目痕 離れ砂 b: 灰白色 砂粒 白色粒 粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 永福寺女瓦Ⅰ類	
6-16		45	鉄製品	釘	先端欠損	長 [4.7]	幅 0.3	厚 0.4		f: 四角状鍛造	
6-17			銅製品	銭	完形	外径 2.5	内孔 0.6	-	重 2.9	f: 元符通寶 行書 北宋 1098 年	
6-18		49	鉄製品	釘	一部欠損	長 [6.0]	幅 0.4	厚 0.5		f: 四角状鍛造	
6-19		51	磁器	白磁 口元皿	口縁部小片	(10.8)	-	[2.1]		b: 灰白色 精良堅緻 d: 灰白色 半透明釉 釉層薄い f: 口唇部油煤痕 大宰府-白磁ⅢⅨ類	
6-20			鉄製品	釘	先端欠損	長 [4.0]	幅 0.4	厚 0.4		f: 四角状鍛造	
6-21		54	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/2	(12.7)	-	[3.6]		a: ロクロ成形 内底ナデ b: 砂粒多量 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 口縁部、黒色に変色 口唇部、油煤痕あり	
6-22		56	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/6	(8.0)	(5.8)	2.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 口唇部に油煤痕	
6-23			陶器	磨り常滑	-	最大長 4.0	最大幅 2.8	厚 0.7~1.2		f: 側面磨耗か? 片口鉢Ⅱ類の口縁部片を転用	
6-24		56	鉄製品	釘	頂部欠損	長 [5.4]	幅 0.7	厚 0.4		f: 四角状鍛造	
6-25		57	石製品	滑石加工品	-	長 [10.9]	幅 [6.0]	厚 1.5		f: 埼玉県秩父市小川町周辺の滑石 側面 2ヶ所切り出し痕 温石に加工途中か?	
6-26		58	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.7)	(6.0)	1.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄～黄橙色 e: 良好	
6-27			鉄製品	釘	先端欠損	長 [4.6]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造	
6-28			鉄製品	釘	頂部欠損	長 [6.4]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造	
6-29		59	磁器	青磁 鏝蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[3.0]		b: 灰色 精良堅緻 d: 灰緑色 透明釉 釉層うすい 気泡あり f: 大宰府-龍泉窯系青磁Ⅱ類	
6-30		遺構外	磁器	青白磁 合子(身)	小片	-	-	[1.3]		a: 型押し b: 淡灰白色 精良堅緻 d: 水青色 透明釉 釉層薄い f: 外面蓮弁文 下部露胎	
6-31			陶器	常滑壺	体部小片	-	-	[4.3]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 橙色～灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 格子状押印文	
6-32			陶器	瀬戸碗か	口縁部片	(14.4)	-	[3.6]		b: 灰色 精良土 d: 灰釉 内面無釉 e: 良好	
6-33			構成土	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/4	(13.7)	(8.5)	3.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
6-34				土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.5)	(5.9)	1.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
6-35				土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.0)	(6.0)	2.1		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
6-36		陶器		常滑壺	肩部小片	-	-	[4.5]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ 押印文 b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 斜格子又は矢羽根状の押印文	
6-37		陶器		常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[3.7]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 淡灰褐色 砂粒 白色粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年 5～6a 型式か	
6-38		陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[2.7]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 5～6a 型式か		

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
6-39	1	構成土	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[4.8]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年7~8類型式か	
6-40	1		土製品	土製品器種不明	底部1/3	(9.4)	-	[2.1]	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: かわらけ質	
8-1	1a	65	鉄製品	釘	先端欠損	長 [6.0]	幅 0.5	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
8-2		66	陶器	瀬戸仏胸貝か	口縁部小片	-	-	[2.9]	a: ロクロ成形 b: 灰白色 精良土 c: 黄灰色 d: 灰釉ハケ塗りか e: 良好	
8-3		67	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類か?	小片	-	-	7.9	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰白色 砂粒 長石 c: 灰色 e: 良好 f: 底部無調整 高台欠損か 中野編年6a型式か	
8-4		73	土製品	須恵器? 坏	口縁部小片	-	-	[2.2]	b: 灰色 砂粒 白色粒 良土 c: 灰色 e: 良好	
8-5		75	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.7)	(4.6)	2.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 精良土 c: 黄橙色 e: やや甘い	
8-6		76	土製品	ロクロかわらけ(大)	4/5	(13.4)	7.0	3.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c: 黄橙色 e: 良好	
8-7		91	鉄製品	釘	先端欠損	長 [5.4]	幅 0.5	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
8-8		95	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/3	(11.4)	(6.7)	4.0	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好 f: 穿孔あり	
8-9		98	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/2	(7.5)	(4.8)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
8-10		99	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.2)	(7.2)	1.4	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(回転速度遅い?) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 穿孔あり	
8-11		99	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/5	(7.7)	(5.6)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
8-12		99	鉄製品	釘	先端欠損	長 [5.1]	幅 0.5	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
8-13		104	石製品	砥石中砥	小片	長 [8.5]	幅 5.5	厚 2.9	c: 灰白色 f: 砥面 2面 伊予産	
8-14		115	磁器	白磁口元碗	口縁部小片	(8.8)	-	[1.7]	b: 白色 精良堅緻 d: 灰白色 半透明釉 釉層薄い f: 大宰府-白磁皿Ⅱ類	
8-15		125	磁器	高麗青磁器種不明	小片	-	-	[2.8]	b: 灰色 精良堅緻 d: 暗灰緑色 半透明釉 釉層厚い f: 象嵌の文様	
8-16		129	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.6)	(6.0)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 e: 良好 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
8-17		129	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(7.6)	(4.7)	2.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好 f: 口縁部に油煤痕 灯芯痕あり 灯明皿	
8-18		135	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/2	(6.0)	4.4	[1.6~2.15]	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c: 赤褐色 e: 良好	
8-19		135	陶器	瀬戸皿	口縁部小片	-	-	[2.9]	a: ロクロ成形 卸し目 b: 灰色 やや粗土 c: 灰緑色 d: 灰釉ツケガケ 施釉: 薄い e: 良好 f: 藤澤編年中Ⅱ~Ⅲ期	
8-20		137	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/5	(7.6)	(6.0)	1.7	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 口唇部に煤痕	
8-21		139	土製品	ロクロかわらけ(小)	3/4	-	4.7	[1.9]	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 精良土 c: 灰黄色 e: やや甘い	
8-22		140	磁器	青磁蓮弁文碗	口縁部小片	-	-	[3.1]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 緑灰色 透明釉 釉層うすい 気泡あり f: 大宰府-龍泉窯系青磁碗Ⅱ類か	
8-23		141	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[4.0]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰白色 砂粒 白色粒 c: 灰白色 e: 良好 f: 中野編年6a型式か	
8-24		142	土製品	ロクロかわらけ	1/3	(11.5)	(6.6)	2.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好	
8-25		145	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.0)	(5.8)	1.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
8-26		146	土製品	手づくね白かわらけ(小)	口縁部小片	-	-	[2.3]	a: 内外面口縁部横ナデ 外面下半指頭痕 b: 微砂 雲母 良土 c: 灰白色 e: やや甘い	
8-27	遺構外	陶器	瀬戸皿か	底部片	-	-	(4.8)	a: ロクロ成形 b: 灰白色 やや粗土 d: 内面灰釉ツケガケ、部分的に鉄釉あり e: 良好 f: 内底見込みに重ね焼き痕あり(トチン)		
8-28		鉄製品	釘	完形	長 [6.2]	幅 1.2	厚 0.7	f: 四角状鍛造		
8-29		銅製品	覆輪?	長径 4.4	短径 4.0	高 1.0				
8-30		土製品	ロクロかわらけ(大)	3/4	(12.2)	7.1	3.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好		
8-31	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(8.3)	(5.8)	1.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好			
8-32	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/2	(7.7)	(4.7)	2.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好			
8-33	磁器	青磁折縁皿	口縁部小片	-	-	[1.7]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 灰緑色 半透明釉 f: 大宰府-龍泉窯系青磁坏Ⅱ類			
8-34	陶器	常滑壺	肩部片	-	-	[3.0]	a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 外面: 横ナデ b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 格子文押印			
8-35	陶器	常滑壺	口縁部小片	-	-	[4.0]	a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 外面: 横ナデ b: 暗灰褐色 砂粒 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年5型式か			
8-36	陶器	常滑広口壺	口縁部小片	-	-	[3.9]	緑帯幅 2.0 a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 長石 石英 c: 暗褐色 e: 良好 f: 縁部~肩部自然釉 中野編年6a~6b型式			

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
8-37	1a	構成土	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[2.3]		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 粘土紐輪積技法 b: 灰白色 砂粒 白色粒 c: 灰白色 e: 良好 f: 中野編年5~6a型式?
8-38			陶器	瀬戸折線深皿	口縁部小片	-	-	[1.1]		b: 淡黄色 砂粒 粗土 d: 灰粉ツケガケ? e: 良好 f: 藤澤編年中後期後半
8-39			土製品	土器質火鉢	口縁部小片	-	-	[2.7]		a: 内外面: 横ナデ b: にぶい黄褐色 砂粒 雲母 赤色粒 良土 c: にぶい黄褐色 e: 良好 f: 河野分類ⅠC類か
8-40			鉄製品	釘	先端欠損	長 [5.8]	幅 1.2	厚 0.8		f: 四角状鍛造
8-41			鉄製品	釘	先端欠損	長 [7.4]	幅 0.9	厚 0.6		f: 四角状鍛造
8-42			鉄製品	釘	頂部欠損	長 [4.9]	幅 0.7	厚 0.6		f: 四角状鍛造
8-43			鉄製品	釘	先端欠損	長 [4.8]	幅 0.6	厚 0.5		f: 四角状鍛造
8-44			鉄製品	釘	先端欠損	長 [3.4]	幅 0.3	厚 0.4		f: 四角状鍛造
8-45			銅製品	銭	完形	外径 2.5	内孔 0.6	-	重 3.2	f: 天聖元寶 篆書 北宋 1023年
8-46			銅製品	銭	完形	外径 2.4	内孔 0.6	-	重 3.1	f: 咸平元寶 北宋 998年
8-47	土製品	土師器甕	口縁部小片	-	-	[1.5]		a: 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 雲母 赤色粒 海綿骨針 c: 内面: 橙色 e: 良好 f: 相模型		
11-1	2	149	陶器	瀬美甕	体部小片	-	-	[4.9]		a: 粘土紐輪積技法 内面 横ナデ 外面: 叩き目 横ナデ b: 灰色 砂粒 黒色粒 c: 灰色 e: 良好 f: 外面叩き目痕
11-2			土製品	ロクロかわらけ(大)	1/2	(13.3)	(8.2)	3.1		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c: 黄褐色 e: 良好
11-3			土製品	ロクロかわらけ(大)	1/3	(12.5)	(8.0)	3.1		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
11-4			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/5	(7.9)	(4.8)	1.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄色 e: やや甘い
11-5			土製品	ロクロかわらけ(小)	完形	7.5	5.6	1.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
11-6			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/3	(7.6)	(4.9)	1.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-7			石製品	砥石 仕上砥	小片	長 [4.7]	幅 3.3	厚 0.5		b: 頁岩 c: 黄褐色 f: 砥面2面 裏面は自然剝離後に砥面として使用か 鳴滝産中山
11-8			木製品	器種不明		[30.0]	0.2~0.8	0.4~0.6		f: 断面四角状 上部先端は溝状の削りに別の部材がはめ込まれている
11-9			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/5	(7.9)	(4.8)	1.5		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 口縁部油煤痕 内外面: 一部黒色に変色
11-10			土製品	平瓦	-	[7.1]	[5.8]	2.2		a: 凸面: 綱目叩き目 凹面: 布目痕 ナデ b: 灰色 砂粒 白色粒 やや粗土 c: 灰色 e: 良好 f: 永福寺女瓦A類
11-11	2	252	陶器	瀬戸器種不明	口縁部小片	-	-	[2.1]		a: ロクロ成形 b: 灰白色 精良土 c: 灰白色 d: 自然釉 e: 良好
11-12			石製品	滑石製銅転用加工品	-	長 [5.9]	幅 [5.7]	厚 1.4	穿孔径 0.7	f: 温石か?
11-13			石製品	滑石製銅転用加工品	-	長 [4.4]	幅 [6.3]	厚 1.6		f: 温石か?
11-14			銅製品	銭	1/2	外径 2.4	内孔 0.6	-	重 1.0	f: 銭種不明
11-15			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.4)	(5.2)	1.6		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
11-16			陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[4.4]		a: 粘土紐輪積技法 b: 灰色 砂粒 長石 c: にぶい橙色 e: 良好 f: 中野編年7型式
11-17			銅製品	銭	完形	外径 2.5	内孔 0.7	-	重 3.1	f: 熙寧元寶 篆書 北宋 1068年
11-18			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/2	7.7	5.0	1.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 精良土 c: 灰黄色 e: やや甘い
11-19			土製品	ロクロかわらけ(極小)	1/3	(4.8)	(3.8)	0.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好
11-20			構成土	291	陶器	瀬戸平碗?	口縁部小片	-	-	[3.6]
11-21	陶器	瀬美甕			口縁部小片	-	-	[4.5]		a: 内面 横ナデ 外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 白色粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年2b型式
11-22	陶器	瀬美甕			肩部小片	-	-	[3.2]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ 線刻 b: 灰色 砂粒 黒色粒 白色粒 c: 外面 褐色 内面 灰色 e: 良好
11-23	土製品	平瓦			-	[7.0]	[6.6]	2.1		a: 凸面: 叩き目ナデ消し 凹面: 糸切り痕 布目痕 b: 灰白色 砂粒 白色粒 粗土 c: 灰白色 e: 甘い f: 永福寺女瓦D類
14-1	3a	遺構外	土製品	かわらけ加工品	-	3.1	3.9	0.9		b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色 e: 良好
14-2			陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[2.5]		a: 粘土紐輪積技法 b: 灰白色 砂粒 白色粒 c: 灰白色 e: 良好
14-3			磁器	青磁劃花文碗	口縁部小片	-	-	[3.7]		b: 灰白色 精良堅緻 d: 緑灰色 透明釉 釉層うすい f: 大宰府・龍泉窯系青磁Ⅰ類
14-4			陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	底部 1/3	-	(12.8)	[5.7]		a: 粘土紐輪積技法 b: 灰白色 砂粒 白色粒 石英 c: 灰白色 e: 良好 f: 内面回転ナデ・胎土はⅠ類だが外面下部はヘラによる縦位の整形でⅡ類に近似

図番号	出土面	番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
14-5	3a	構成土	土製品	ロクロかわらけ(小)	1/6	(9.1)	(6.7)	1.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
14-6			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/8	(13.7)	-	3.1		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄色 e: やや甘い
14-7			磁器	青磁劃花文碗	口縁部小片	-	-	[3.2]		b: 灰色 精良堅緻 d: 灰緑色 透明釉 釉層うすい 気泡有り f: 大宰府-龍泉窯系青磁碗I-2類
14-8			陶器	常滑壺	体部片	-	-	[18.5]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 白色粒 c: 暗褐色~褐色 e: 良好 f: 格子の押印文
14-9			土製品	平瓦	-	[8.8]	[7.7]	2.1		a: 凸面: 斜格子叩き目 離れ砂 凹面: 布目痕 離れ砂 b: 灰白色 砂粒 白色粒 粗土 c: 灰白色 e: 甘い f
17-1	4	構成土	土製品	手づくねかわらけ(小)	1/2	(9.0)	-	2.6		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好
17-2			土製品	丸瓦	玉縁~筒部片	[16.8]	13.7	5.8		a: 凸面: 網目叩き ナデ消し 凹面: 布目痕 b: 浅黄色 砂粒 小石粒 長石良土 c: 浅黄色 e: 良好 f: 東海系
20-1	5	構成外	土製品	土鏝	1/2	長 [3.2]	幅 [3.6]	孔径 0.7		b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄色
20-2			土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(8.8)	(6.8)	2.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
20-3			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/6	(13.4)	-	2.7		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄色 e: やや甘い
20-4			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/6	(12.8)	-	3.4		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色 e: 良好
20-5			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/7	(9.0)	-	1.9		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色~灰色 e: 良好
20-6			土製品	手づくねかわらけ(大)	1/8	(10.0)	-	1.5		a: 内底ナデ 外底下半指頭痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 赤褐色 e: 良好 f: 歪みあり
20-7			陶器	常滑片口鉢I類	底部小片	-	-	[4.5]		a: 粘土紐輪積技法 高台貼付 内面摩滅 外面横位のヘラ調整 b: 灰色 砂粒 小石粒 長石 c: 灰色 e: 良好
20-8			土製品	平瓦	-	[5.9]	[5.3]	1.8		a: 凸面: 斜格子叩き目 離れ砂 凹面: 布目痕 b: 灰黄色 砂粒 粗土 c: 灰黄色 e: 甘い f: 永福寺女瓦D類
20-9			木製品	箸	-	長 [13.0]	幅 [0.7]	厚 [0.5]		f: 柃目材
20-10			木製品	草履芯	-	最大長 [13.1]	最大幅 [3.0]	最大厚 [0.3]		f: 柃目材
20-11			木製品	不明木製品	-	長 [10.5]	幅 [1.4]	厚 [0.6]		f: 柃目材
24-1	表土		土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.7)	(5.3)	2.2		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 口唇部に炭痕
24-2			磁器	青磁双魚文皿	1/5	-	(5.6)	[1.7]		b: 灰白色 精良堅緻 d: 灰緑色 半透明釉 f: 大宰府-龍泉窯系青磁坏III-4b類
24-3			陶器	瀬戸仏龕具か	口縁部小片	-	-	[2.8]		b: 灰色 精良土 c: 黄灰色 d: 灰釉薄くハケ塗りか e: 良好 f: 藤澤編年後期か
24-4			陶器	瀬戸浅碗	1/6	(13.2)	-	[3.8]		b: 灰黄白色 良土 c: 灰白色 d: 灰釉ツケガケ 外面下位、露胎 e: 良好 f: 藤澤編年後期か
24-5			土製品	丸瓦	小片	[6.6]	[5.4]	1.1		a: 凸面: 叩き目 凹面: 布目痕 b: 黄灰色 砂粒 小石粒 c: 黄灰色 e: 良好
24-6			土製品	風炉	体部小片	-	-	6.2		a: 粘土紐輪積技法 b: にぶい橙色 砂粒 白色粒 赤色粒 c: にぶい橙色 e: 良好 f: 外面に殊あり
24-7			銅製品	銭	完形	外径 2.4	内孔 0.7	-	重 3.0	f: 天禧通寶 北宋 1017年
25-1			土製品	ロクロかわらけ(小)	2/3	(7.5)	(5.0)	1.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い
25-2			陶器	常滑玉縁壺	口縁部小片	-	-	[2.3]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 褐色 砂粒 白色粒 c: 灰褐色 e: 良好
25-3			銅製品	銭	完形	外径 2.41	内孔 0.74	厚 0.12	重 3.2	f: 元祐通寶 篆書 北宋 1086年

表2 近代遺物観察表

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高		
25-4	近代遺構	碗	磁器	手描き	5/6	7.8	3.0	4.0	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内外面：圏線 畳付、高台内：露胎
25-5		皿	磁器	型紙摺絵	1/3		(5.8)	[1.3]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面：植物文 高台脇 高台：圏線 畳付：露胎
25-6		人形	磁器		2/5	(13.9)	(8.8)	3.1	顔料：朱色 緑色 胎土：白色 釉薬：透明	色絵
25-7		浮人形	磁器	鴨		長 [4.3]	4.1	高 [3.0]	胎土：白色 釉薬：透明	内面露胎 底部：露胎
25-8		花器	磁器			口径 4.0	肩部径 4.5	器高 [8.9]	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	
25-9		花器	磁器			3.2～ 3.5	3.4～3.7	11.6	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	蓮の器形
25-10		ビール瓶	ガラス製品			2.1	5.0	24.6	褐色透明	上げ底
25-11		瓦	土製品		側面小片			厚 1.8	胎土：灰色 白色粒 砂 小石粒 粗土	
25-12		釘	鉄製品			長 [10.0]	幅 0.8～1.3	厚 0.2～0.3		f: 四角状鍛造
25-13		釘	鉄製品			長 10.3	幅 0.6～1.1	厚 0.15～0.4		f: 四角状鍛造
25-14		釘	鉄製品			長 [4.9]	幅 0.9	厚 0.4		f: 四角状鍛造

出土面		第1a面																									遺構外	構成土				
種別		ピット													土坑																	
遺構名		112	113	115	116	118	119	121	122	123	125	126	128	131	132	133	134	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147			
かわらけ	ロクロ	大			1	3			3	1	1	5	1	1			3		2	2	3	20	4	8	1		1	8	1	2	95	
		中																			1											
		小				1	1		3	1		2	3								1						2					17
		極小																														
	手捏ね	小片	2			3		2	1	2			1			2	1				1	1	8			2		4			36	
		大						1				2									1		2			1					3	
国産陶磁器	常滑	小									1																				2	
		白かわらけ																			1							1			1	
	瀬戸	甕										1					1				1	6			1		3				1	
		壺										2																			1	
	山茶碗	I類																						1							1	
		瀬戸										1									1										2	
	青磁	瀬美																									2				2	
		北部																			1										1	
	舶載陶磁器	青磁	南部																													1
			白磁			1																		1	1							1
高麗青磁										1																						
褐釉																													1			
その他																															1	
土製品	織の羽口	伊勢系土鍋																				1									2	
		不明																													1	
	不明																														1	
瓦質	火鉢																														4	
	風炉																														1	
	瓦																														1	
金属製品	銭																														1	
	釘										2																				4	
	鉄滓																														2	
	不明																												1	1	1	
滑石																															1	
その他																						1									3	
不明																															1	
獣骨																															1	
近代遺物																															4	
古代									1														1								1	
合計	0	2	1	1	7	1	3	8	4	2	16	5	1	0	2	5	1	2	10	9	38	5	8	3	2	5	19	3	9	241		

出土面		第2面																														
種別		ピット													土坑																	
遺構名		149	151	153	155	161	166	167	168	170	171	173	177	180	182	197	200	202	208	209	225	226	231	248	250	252	254	256	257	258	259	
かわらけ	ロクロ	大	12	1	1		2	4				2			2	1			5		1	3		5		1		1	15	4	8	
		中																														
		小	5		1			2		1	1						1	1			1								1	4	2	2
		極小																														
	手捏ね	小片	2		2			1	1					1		1	3			1										1		
		大	2		1						1																			2		1
国産陶磁器	常滑	小																													1	
		甕										2	1				1								1	2			14		11	
	II類																														1	
瀬戸	瀬戸										1																					
	瀬美	1																														
舶載陶磁器	青磁	青磁												1																	1	
		青白磁																														
	褐釉					1								1																		
瓦質	火鉢																														1	
	瓦																		1													
金属	銭																											1				
	釘											1																				
石製品	砥石	1																														
	滑石																												2			
	その他										1						1															
獣骨																															1	
近代遺物																											1					
古代					1		2	7	1	1	3	5	4	1	4	6	2	1	7		1	1								2		
合計	3	20	2	5	1	2	7	1	1	3	5	4	1	4	6	2	1	7	2	1	4	0	6	2	2	3	2	39	6	25		

出土面		第2面							第3面			第3a面		第5面						第7面		近 代 土 坑	磨 土	表 土	総 計						
種別		土坑							ピット			構 成 土	315	構 成 土	ピット						399					構 成 土					
遺構名		260	261	264	267	268	269	270	構 成 土	282	291				293	構 成 土	315	構 成 土	328	341		350	352	353	355		遺 構 外	構 成 土	第 6 面 構 成 土	399	構 成 土
かわらけ	ロクロ	大	1	1	1		1	5	13	4					3								3				32	11	16	470	
		中																													1
		小		1	1			1		2						3							1	3				7	2	2	126
		極小																													2
	小片	1			2	1	1	5			1				14	6								1	1		1	4	6	217	
	手捏ね	大		1							3	1		2	1	12	7		1		1	1			29	5		1	2	10	102
小								2			1	1	1		3	2							5	4			2	5	34		
国産陶磁器	白かわらけ														1															4	
	常滑	甕			1		1	3	3	3		2			2													18	1	9	162
		壺																										1			5
		I類						1						1	1	1							1					1	1		24
		II類																													6
		磨り常滑																													1
	瀬戸							1	1																	3		2	23		
	渥美							1	2						1															11	
	山茶碗	北部																													1
		南部																										1		1	3
不明																														1	
舶載陶磁器	青磁													3														1	2	13	
	白磁					1						1		1																5	
	青白磁	1																												3	
	高麗青磁																													1	
	褐釉								1			2																		6	
	天目																									1				1	
	その他																													1	
	鞆の羽口																													1	
土製品	伊勢系土鍋																									1	0			8	
	磨りかわらけ									1																				1	
	土鉢																					1	0							1	
	不明																													4	
瓦質	火鉢																													1	8
	風炉																													1	
	瓦							1						1	1							1							1	8	
金属製品	銭																										1			10	
	釘																										1	4		23	
	鉄滓																											1		3	
	不明																													7	
石製品	砥石																													2	
	滑石																													3	
	その他													1	1								3						22		
木製品	形代																													1	
	箸																						1							1	
	草履芯																						1							1	
	その他																						4	1			1			6	
	不明																						6			2		1		10	
自然遺物	骨	加工品							1																					1	
		獣骨																						12	4		1	1		42	
		人骨																						1	1					2	
	貝																						2							2	
	種																													7	
近代遺物																											19			25	
古代							1	1	1				5	5	1								8	12	1			5	1	55	
合計		2	4	3	2	5	11	29	17	2	2	3	11	2	52	19	0	1	1	1	1	1	1	82	28	1	4	95	53	40	1477

第四章 材木座町屋遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析

森 将志 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

神奈川県鎌倉市に所在する材木座町屋遺跡において、遺跡周辺の古環境を検討するために土壌試料が採取された。以下では、試料について行った花粉分析とプラント・オパール分析の結果を示し、考察を行った。

2. 試料と方法

分析試料は、2区東壁から採取された計4点である(表1)。2区東壁では、下位からE1、E2が堆積しており、その上位に人工造成とされるE3、E4が重なる。時期は、いずれの試料も中世と考えられている。これらの試料について、次の手順で分析を実施した。

表4 分析サンプル

地区	試料 No.	時期	土相	備考
2区東壁	E4	中世	暗褐色粘質土	人工造成
	E3		暗黄褐色粘質土	
	E2		暗茶褐色粘質土	
	E1		黒色粘質土	

2-1. 花粉分析

試料(湿重量約3g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え1時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続いてアセトリシス処理(無水酢酸9:濃硫酸1の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは全面を検鏡し、その間に現れる花粉・胞子を全て数えた。また、保存状態の良好な花粉化石を選んで単体標本(PLC.2383~2386)を作製し、写真を図版1に載せた。

2-2. プラント・オパール分析

秤量した試料を乾燥後、再び秤量する(絶対乾燥重量測定)。別に試料約1g(秤量)をトールビーカーにとり、約0.02gのガラスビーズ(直径約0.04mm)を加える。これに30%の過酸化水素水を約20~30cc加え、脱有機物処理を行う。処理後、水を加え、超音波洗浄機による試料の分散後、沈降法により0.01mm以下の粒子を除去する。この残渣よりグリセリンを用いて適宜プレパラートを作製し、検鏡した。同定および計数は、機動細胞珪酸体由来するプラント・オパールについてガラスビーズが300個に達するまで行った。また、保存状態の良好な植物珪酸体を選んで写真を撮り、図版2に載せた。

3. 結果

3-1. 花粉分析

表5 産出花粉孢子一覧表

学名	和名	E4	E3	E2	E1
樹木					
Abies	モミ属	-	1	2	-
Tsuga	ツガ属	1	1	-	1
Picea	トウヒ属	1	1	-	-
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属(不明)	2	4	1	4
Cryptomeria	スギ属	-	-	-	1
Pterocarya - Juglans	サワグルミ属-クルミ属	-	-	1	-
Carpinus - Ostrya	クマシデ属-アサダ属	1	-	-	-
Alnus	ハンノキ属	1	-	-	1
Fagus	ブナ属	1	-	-	-
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	1	-	-	-
Castanea	クリ属	-	-	-	1
草本					
Gramineae	イネ科	4	5	6	7
Polygonum sect. Persicaria - Echinocaulon	サナエタデ節-ウナギツカミ節	-	-	1	-
Chenopodiaceae - Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科	-	-	3	-
Caryophyllaceae	ナデシコ科	-	-	1	-
Tubuliflorae	キク亜科	1	-	-	-
Liguliflorae	タンポポ亜科	-	1	1	1
シダ植物					
monolete type spore	単条溝孢子	-	1	1	-
trilete type spore	三条溝孢子	-	1	1	1
Arboreal pollen	樹木花粉	8	7	4	8
Nonarboreal pollen	草本花粉	5	6	12	8
Spores	シダ植物孢子	-	2	2	1
Total Pollen & Spores	花粉・孢子総数	13	15	18	17
unknown	不明	-	2	-	-

検鏡の結果、4 試料からは十分な量の花粉化石が得られなかった。4 試料から検出された花粉・孢子の分類群数は、樹木花粉 11、草本花粉 6、形態分類のシダ植物孢子 2 の、総計 19 である。これらの花粉・孢子の一覧表を表 2 に示す。表においてハイフン (-) で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。なお、花粉分布図を作成するに足る量の花粉化石が得られていないため、花粉分布図は示していない。

3-2. プラント・オパール分析

同定・計数された各植物のプラント・オパール個数とガラスビーズ個数の比率から、試料 1g 当りの各プラント・オパール個数を求め (表 3)、分布図に示した (図 1)。なお、以下に記す各分類群のプラント・オパール個数は、試料 1g 当りの検出個数である。

検鏡の結果、4 試料からはイネとネザサ節型、ササ属型、他のタケ亜科、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族の 7 種類の機動細胞珪酸体が確認できた。これらの分類群はいずれの試料においても産出が確認できるが、2 つの産出傾向が見られた。すなわち、E1 と E2 ではイネ機動細胞珪酸体が少なく、その他の分類群の産出量が多い傾向があり、E3 と E4 ではイネ機動細胞珪酸体が多く、他の分類群の産出量が少ない傾向である。また、E2 と E4 ではイネの籾殻に形成される珪酸体、イネ穎破片の産出も見られた。

表6 試料1g当りのプラント・オパール個数

	イネ (個 / g)	イネ穎破片 (個 / g)	ネザサ節型 (個 / g)	ササ属型 (個 / g)	他のタケ亜科 (個 / g)	ヨシ属 (個 / g)	キビ族 (個 / g)	ウシクサ族 (個 / g)	ポイント型珪酸体 (個 / g)
E4	21,900	1,200	58,700	43,800	15,000	0	32,300	76,000	2,300
E3	21,200	0	86,200	72,900	11,900	0	50,400	130,000	0
E2	5,100	1,300	171,900	54,400	51,800	1,300	75,800	140,300	0

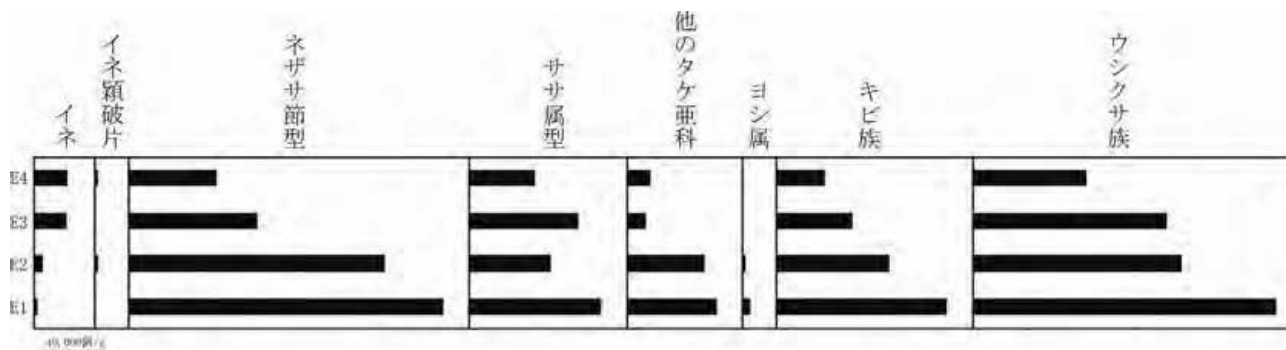


図26 材木座町家遺跡における植物珪酸体分布図

4. 考察

今回の分析試料には十分な量の花粉化石が含まれていなかった。一般的に花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。そのため、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では花粉化石が残りにくい。おそらく、材木座町屋遺跡の堆積物は、乾燥的環境に晒されるなどしたために、花粉化石の残りが悪かったと思われる。なお、プラント・オパール分析では抽水植物のヨシ属の機動細胞珪酸体が産出する層準もあり、遺跡周辺に湿潤な環境の場所が存在したと推測されるため、堆積物が乾燥状態に晒されたのは、堆積物の堆積後であった可能性も考えられる。

十分な量の花粉化石が得られていないため、花粉化石から古植生について言及するのが難しいが、植物珪酸体はガラス質であるため、乾燥状態でも良好な状態で保存される。E4とE3では、ネザサ節型やササ属型、ヨシ属、キビ族、ウシクサ族などの機動細胞珪酸体の産出が見られる。これらの分類群から古植生を推測すると、遺跡周辺の開けた明るい場所にはネザサ節のササ類やキビ族、ウシクサ族などが分布しており、遺跡周辺に広がる林の林床などにはササ属のササ類も生育していたと思われる。また、低地などの湿潤な場所には抽水植物のヨシ属も生育していたであろう。

人工造成の層準とされるE3とE4では、各分類群の産出量が全体的に減少する。造成土ということで堆積速度が速く、機動細胞珪酸体が含まれるイネ科植物の葉身や植物珪酸体が多く取り込まれないような状況であったと推測される。ただし、イネ機動細胞珪酸体については産出量が増加しており、造成土には、下位層に比べるとイネの葉身やイネ機動細胞珪酸体が多く含まれていたと思われる。

、珪酸体は少量であるが、No. 4以上の層準には多くの植物珪酸体が含まれていた。

、広げていた湿地的環境の場所を水田として開拓した可能性が考えられる。また、No. 1では、ネザサ節型機動細胞珪酸体の産出量も増加しており、水田の開拓に伴い、明るい開けた場所が広がり、そうした場所にネザサ節のササ類も分布を広げていた可能性がある。

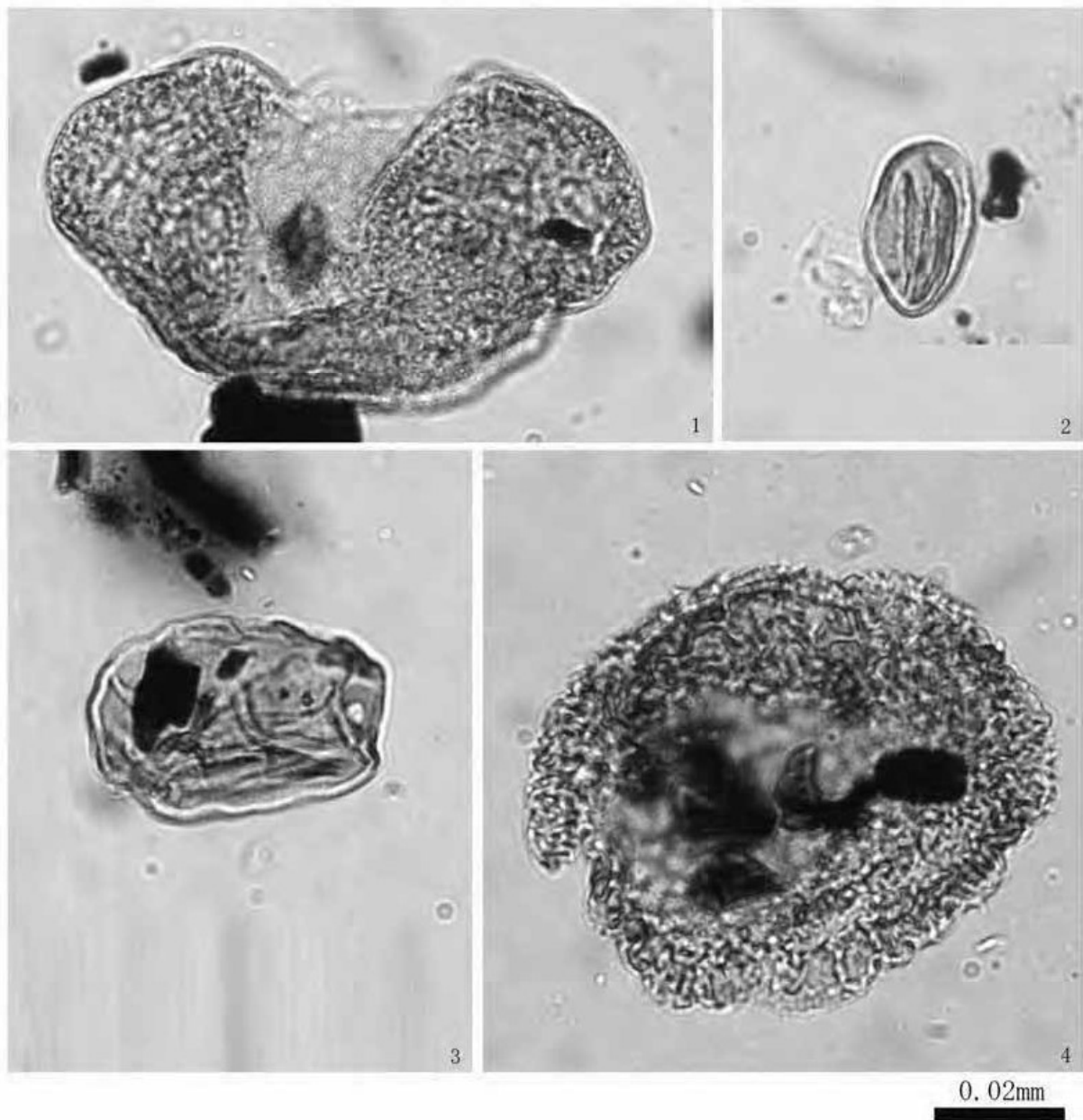


図 27 材木座町屋遺跡から (E 4) から産出した花粉化石

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1. マツ群 (PLC. 2383) | 2. コナラ属コナラ亜属 (PLC. 2384) |
| 3. イネ科 (PLC. 2385) | 4. ツガ属 (PLC. 2386) |

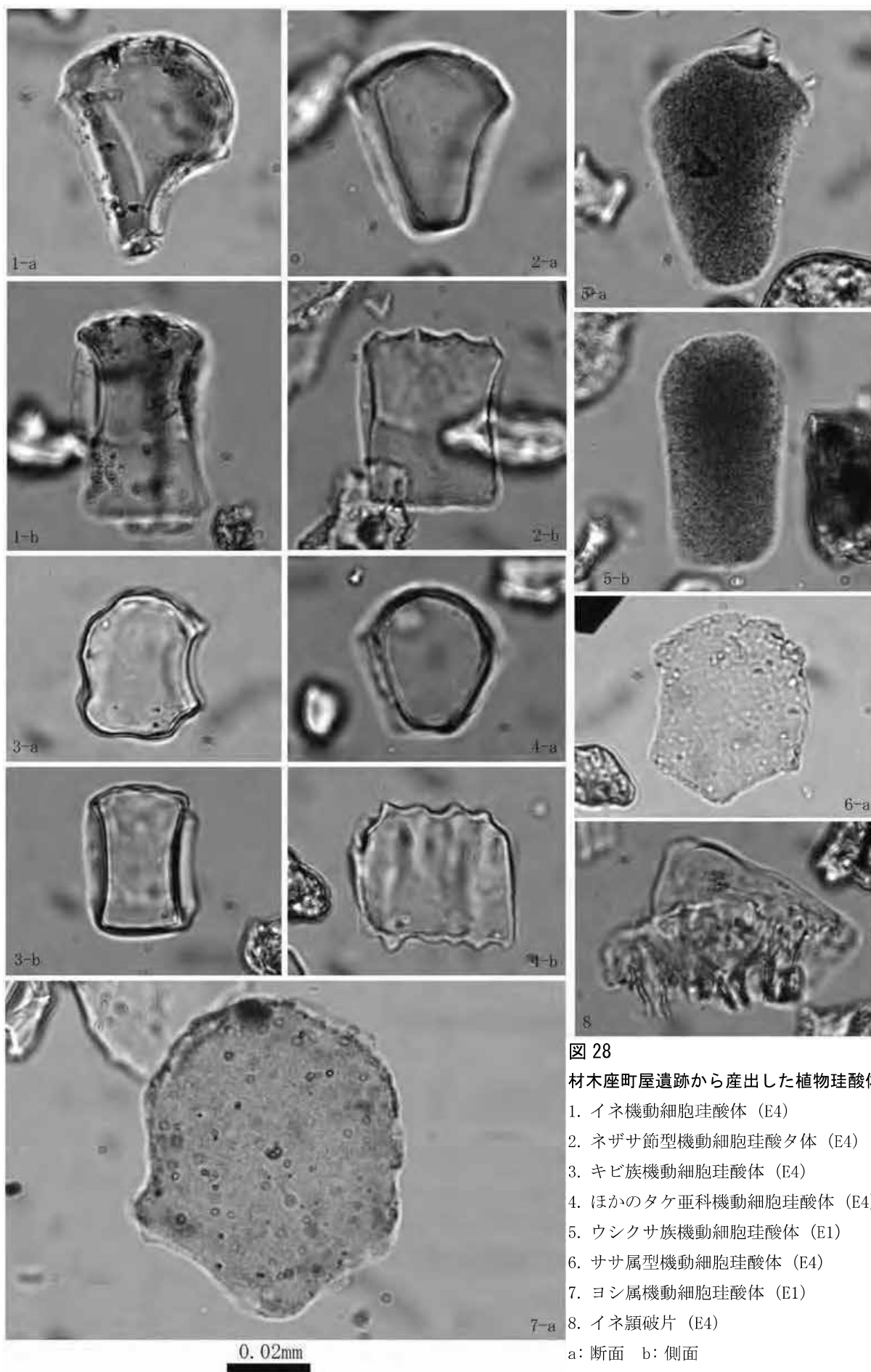


図 28

材木座町屋遺跡から産出した植物珪酸体

1. イネ機動細胞珪酸体 (E4)
2. ネザサ節型機動細胞珪酸体 (E4)
3. キビ族機動細胞珪酸体 (E4)
4. ほかのタケ亜科機動細胞珪酸体 (E4)
5. ウシクサ族機動細胞珪酸体 (E1)
6. ササ属型機動細胞珪酸体 (E4)
7. ヨシ属機動細胞珪酸体 (E1)
8. イネ穎破片 (E4)

a: 断面 b: 側面



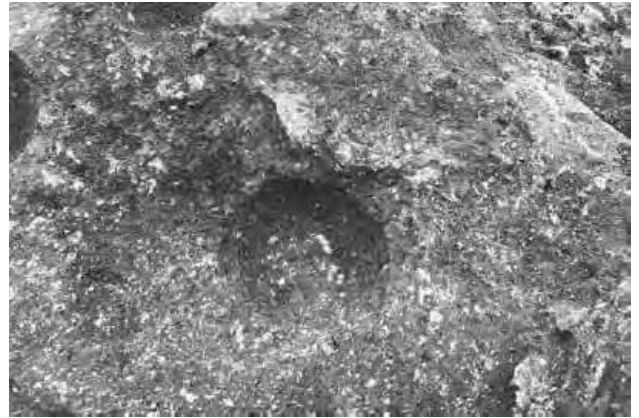
1. 2区1面全景（北から）



2. 1区1a面全景（北から）



3. 2区1a面全景（北から）



4. 2区2面遺構147（西から）



5. 2区2面全景（北から）



6. 1区2面全景（北から）



7. 1区2面泥岩敷（北から）



8. 2区2面遺構260（西から）



1. 2区3面全景（北から）



2. 1区3面全景（北から）



3. 2区3面北泥岩敷（北から）



4. 1区3遺構293（西から）



5. 2区3a面全景（西から）



6. 1区3a面全景（北から）



7. 2区4面全景（北から）



8. 1区4面全景（北から）



1. 2区5面全景（北から）



2. 1区5面全景（西から）



3. 2区4面瓦出土状態（西から）



4. 1区5面遺構 328（北から）



5. 1区5面土錘出土状態（南から）



6. 1区5面獣骨出土状態（西から）



7. 2区6面全景（北から）



8. 2区6面下顎骨出土状況（南から）



1. 2区7面全景（北から）



2. 2区8面全景（北から）



1. 1区北壁セクション（南から）



2. 2区北壁セクション（南から）



3. 2区西壁セクション（東から）



4. 2区2面全景（西から）



5. 1区西壁セクション（東から）



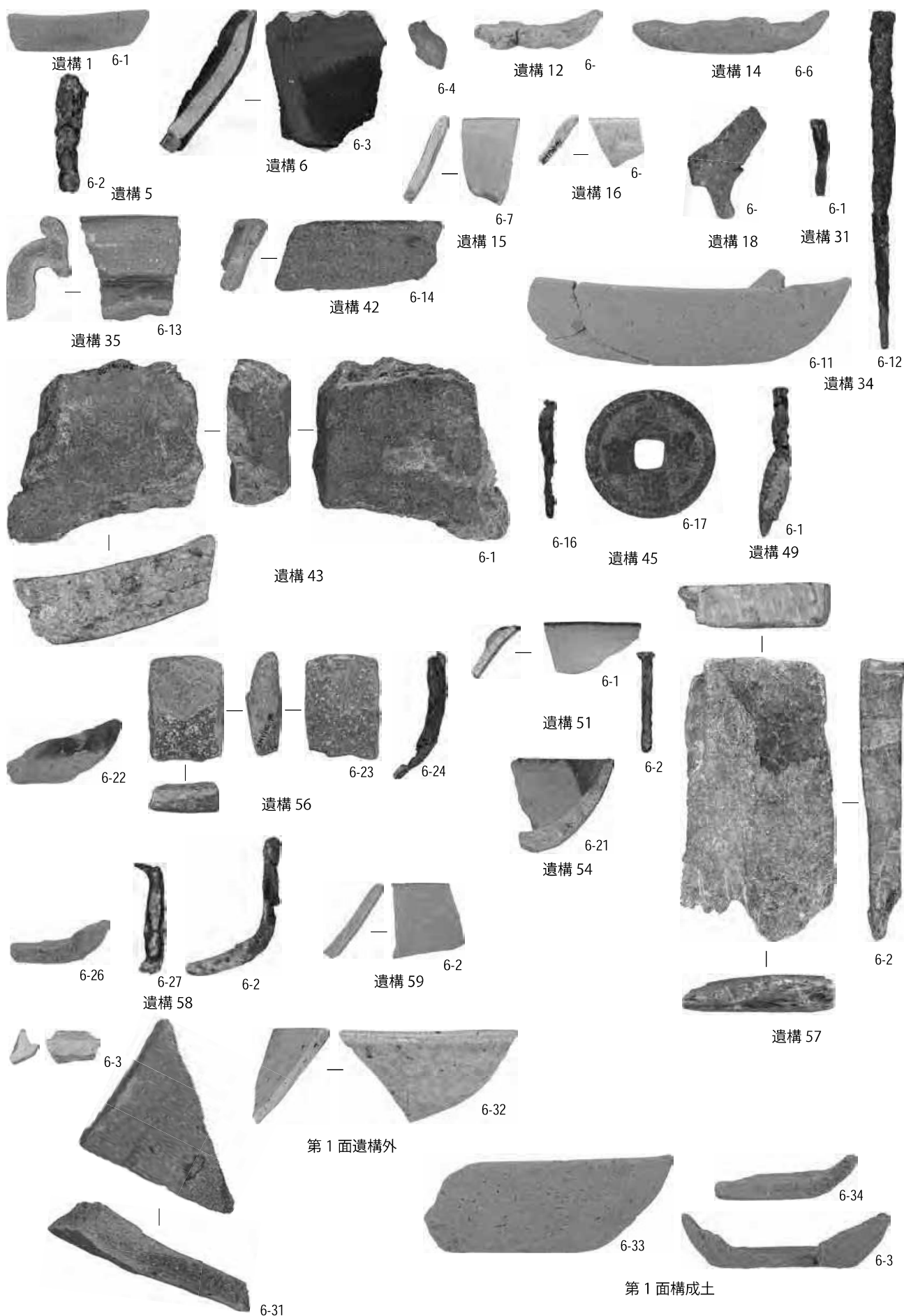
6. 2区東壁セクション（西から）

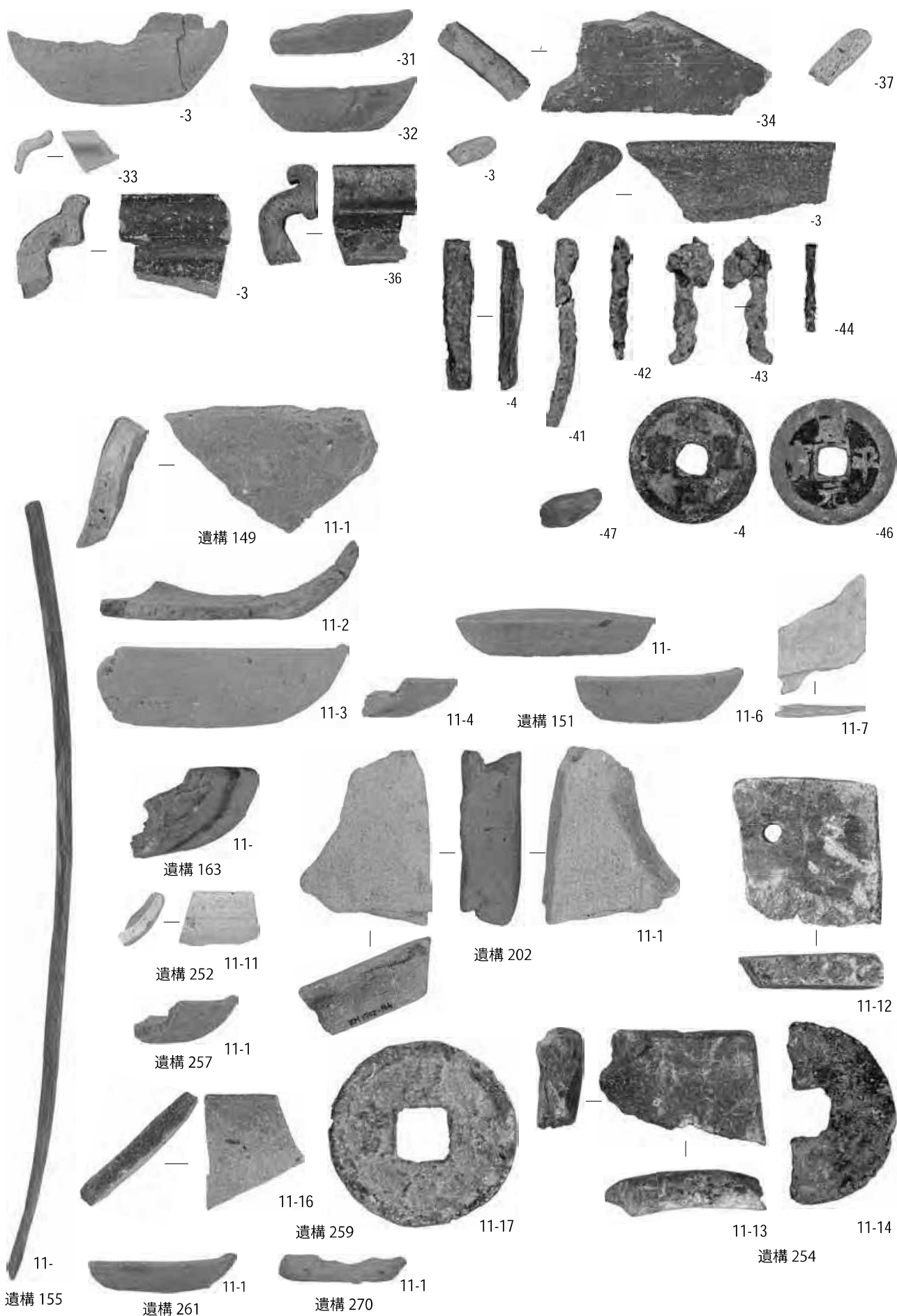


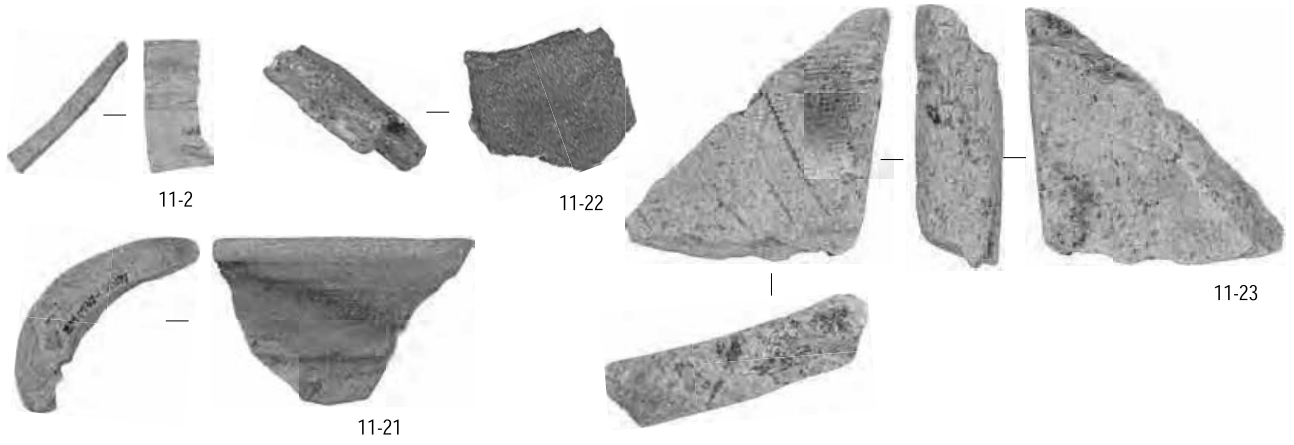
7. 2区南壁セクション（北から）



8. 1区南壁セクション（北から）





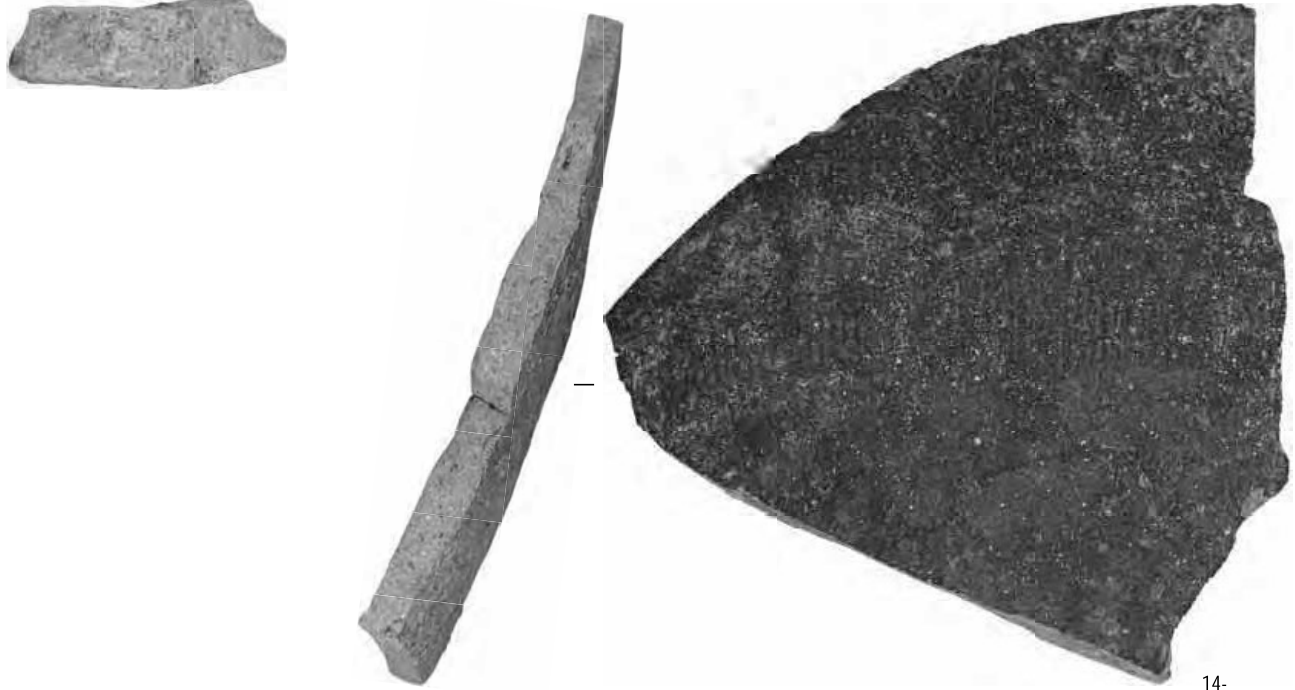
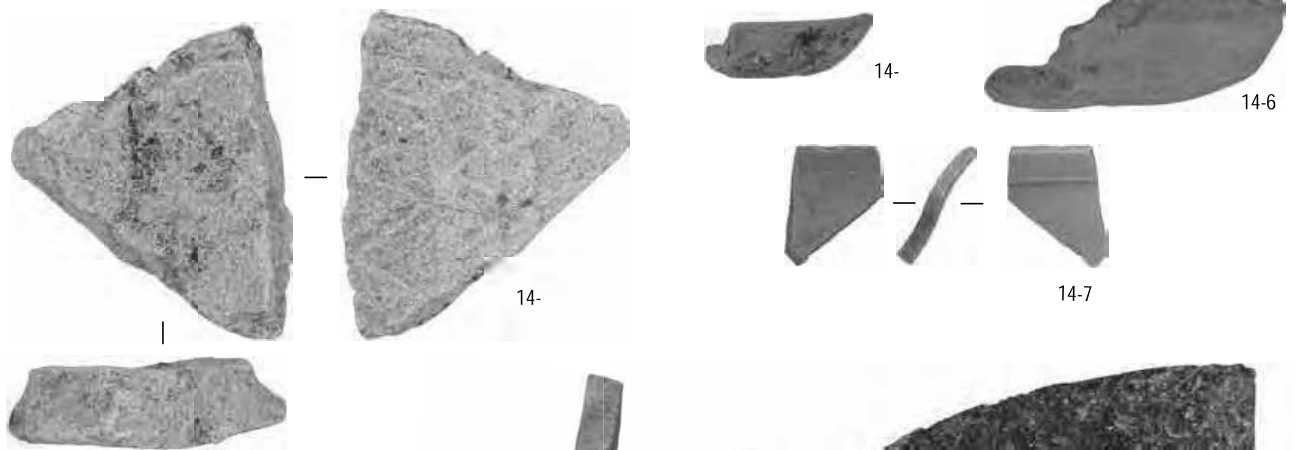


第 2 面構成土出土遺物

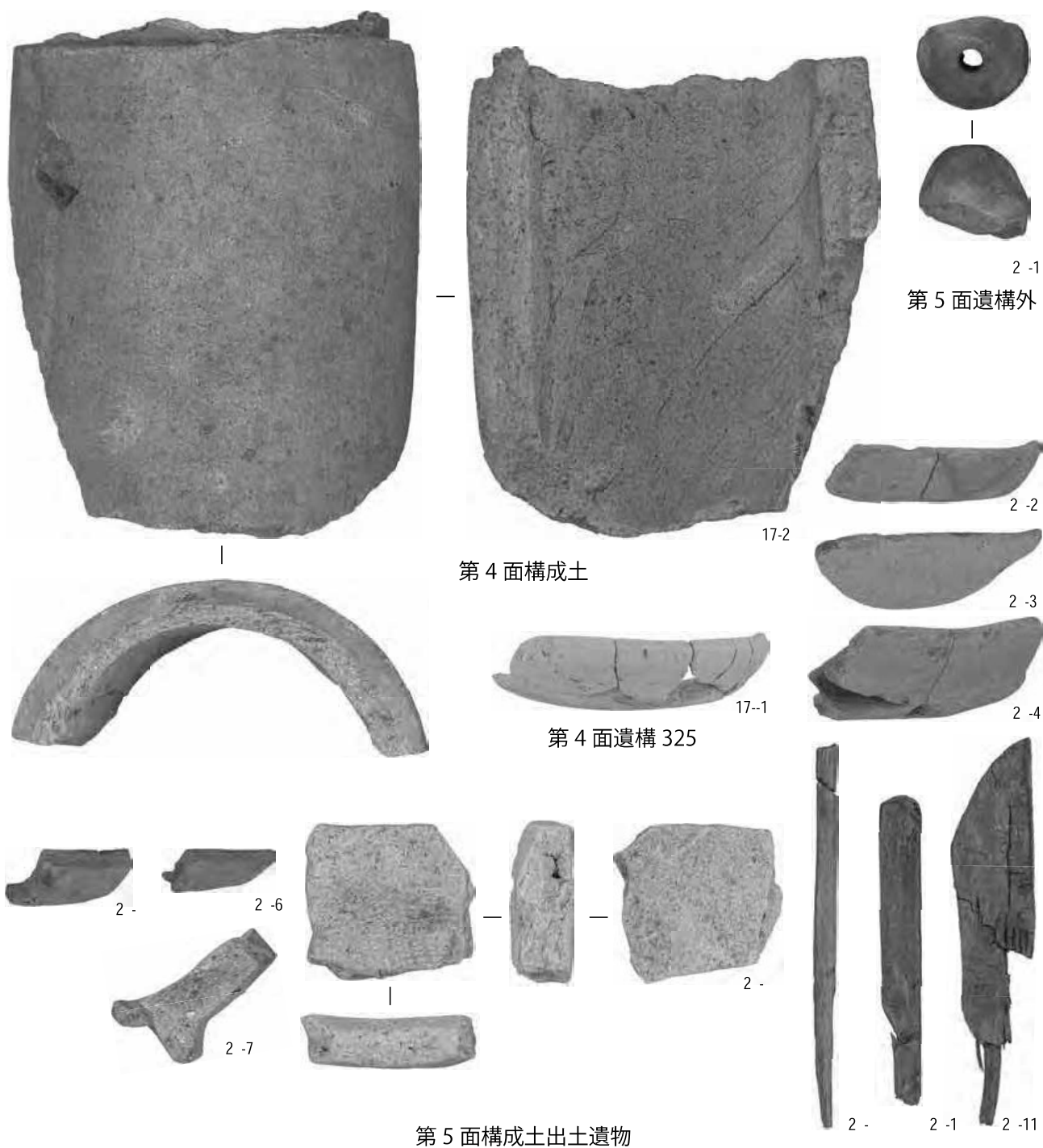


第 3 面・3b 面遺構出土遺物

第 3b 面遺構外出土遺物



3b 面構成土出土遺物

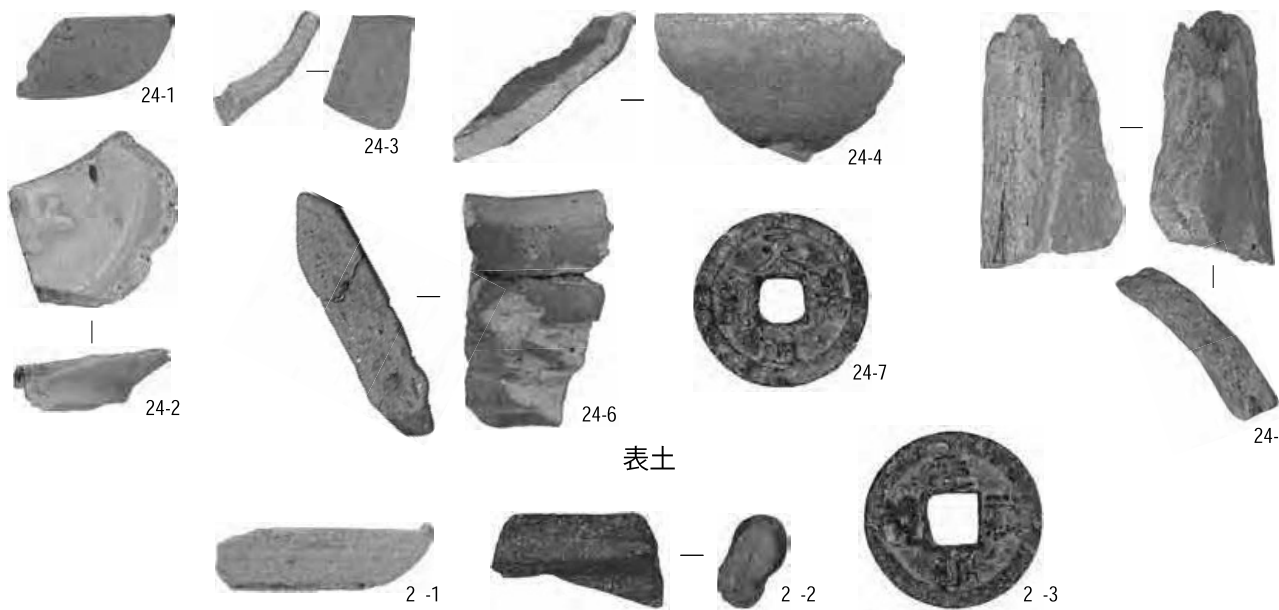


第5面遺構外

第4面構成土

第4面遺構 325

第5面構成土出土遺物



表土

近代遺構出土遺物

若宮大路周辺遺跡群 (No. 242)

大町一丁目 1083 番 1 地点

例 言

1. 本報告は、鎌倉市大町一丁目 1083 番 1 において実施した、若宮大路周辺遺跡群（鎌倉市 No. 242）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成 30 年 7 月 9 日から同年 9 月 14 日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う記録保存調査として鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査の対象面積は、94.56 m²である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。
調査担当者 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
調査員 梅岡ケイト、松吉里永子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
作業員 鯉沼 稔、吉澤 功、星 栄人、岡 利文、西澤靖明、小林貞明
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター 文化財班）
整理作業参加者 押木、梅岡、松吉、岡田慶子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の作成は、以下の分担で行った。
本文執筆 押木、竹原弘展（パレオ・ラボ）
編集 押木
遺構挿図作成 押木
遺物実測・挿図作成 松吉、岡田
遺物観察表・カウント表作成 松吉、岡田
写真撮影・写真図版作成 押木
5. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「WA1802」とし、出土品への注記などに使用した。

凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第IX系：東日本大震災後の補正後）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより 0° 09' 25" ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
 - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗基秀明 2019「鎌倉出土かわらけの系譜と編年—東国社会の変質と中世の成立（後）：かわらけの編年と中世社会」『鶴見大学紀要 第56号 第4部 人文・社会・自然科学編』鶴見大学
 - ◆瓦質土器：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢神奈河 第2集』神奈川県考古学会
 - ◆輸入陶磁器：『大宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』太宰府市教育委員会 2000
 - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
 - ◆常滑・渥美窯製品：『愛知県史 別編窯業3 中世・近世常滑系』愛知県 2012

本文目次

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果	290
第二章 調査の方法と経過	
第1節 調査の経緯と経過	293
第2節 調査の方法	294
第三章 基本土層	295
第四章 発見された遺構と遺物	
第1節 検出遺構	297
第2節 出土遺物	300
第五章 若宮大路周辺遺跡群出土石材の蛍光X線分析	320
第六章 調査成果のまとめ	322

挿図目次

図1 調査地点の位置	291	図10 出土遺物(3)	303
図2 近隣の調査地点	293	図11 出土遺物(4)	304
図3 調査区配置図	294	図12 出土遺物(5)	305
図4 土層断面図	296	図13 出土遺物(6)	306
図5 表土除去後 全体図	297	図14 出土遺物(7)	307
図6 ①面全体図	298	図15 出土遺物(8)	308
図7 ②面・トレンチ配置図	299	図16 石英片の重量分布(表4より)	325
図8 出土遺物(1)	301	図17 石英製火打ち石の事例(実寸大)	326
図9 出土遺物(2)	302		

表目次

表1 周辺の主な調査地点	290	表3 出土遺物観察表	314～319
表2 出土遺物カウント・計量表	309～313	表4 石英片計量表	323～325

写真図版目次

図版1	327	図版2	328
1. I区 表土掘削(南から)		1. I区①面 竪穴建物1下層トレンチ	
2. I区①面 竪穴建物1(南東から)			(南西から)
3. I区②面 遺構検出状況(北西から)		2. II区 表土掘削(東から)	
4. I区②面 遺構検出状況(南西から)		3. II区①面 全景(北東から)	
5. I区②面 遺構検出状況(東から)		4. II区①面 竪穴建物3(南から)	
6. I区②面 ピット3完掘状況(北東から)		5. II区①面 竪穴建物4・西側斜面(北東から)	
7. I区南壁 断面(北東から)		図版3～5 出土遺物	329～331
8. I区東壁 断面(西から)		図版6 自然堆積・錫杖復元イメージ	332

第一章 遺跡の位置と周辺の発掘調査成果

本調査地は鎌倉市大町一丁目 1083 番 1 に所在する。若宮大路と小町大路の 2 本の南北道に挟まれ、滑川の東岸（左岸）に所在する。

若宮大路周辺遺跡群は鎌倉低地の中心部を占め、史跡若宮大路を挟んで東西に展開している。現在の鎌倉でも最も賑わう市街地に占地することから開発行為にともなう発掘調査の件数も多く、現在までに約 190 件が実施されている。それぞれの調査面積は小さなものだが、その積み重ねによって遺跡範囲における地区ごとの土地利用の傾向も掴めるようになってきている。

本地点が所在する若宮大路の東側でも、「二の鳥居」の以南は 13 世紀中頃以降に竪穴建物が繰り返し構築された地区で、特に小町大路に近い地点で良好な検出・報告事例が多い。竪穴建物は居住用よりも収蔵施設としての用途が主体であったと考えられ、小町大路 + 滑川という陸・水運機能も組み合わさることで、本地区が中世都市鎌倉における物資流通・集積の中心的役割を果たしていたと想定されている。

近隣では、東に程近い図 1- 地点②で 16 m²の調査が実施されている。表土直下の 1 面で 3 時期の遺構が確認され、13 世紀前葉～ 15 世紀前葉の中で変遷したと考えられている。竪穴状遺構（建物）を主体とした遺構展開で、井戸や土坑なども検出されている。地点③では 96 m²の調査で新旧 2 時期の遺構群が確認されている。新段階では 6 棟の竪穴建物が検出され、このうちの 1 基では、底面に凝灰質砂岩の切石（鎌倉石）が敷き詰められていた。長さ 80 cm × 幅 50 cm 前後の規格品が多用され、建物の所有者がかなりの財力を保有していたことを窺わせる。本地点では最も新しい段階とされ、14 世紀前半の所産と考えられている。古段階では、竪穴建物 3 棟と井戸 1 基などが検出された。井戸は上述の切石敷きを

表 1 周辺の主な調査地点（番号は図 1 に対応）

No.	地番	調査年度 (開始年度)	面積 (m ²)	所収文献
①	大町一丁目 1083 番 1	2018 年度	95	本報告
②	大町一丁目 1084 番 4	2007 年度	16	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 34 (第 5 分冊)』鎌倉市教育委員会 永田史子・齋藤修佑 2018
③	大町一丁目 1084 番 1、 1085 番 1	2016 年度	96	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 滝澤晶子 2020
④	小町一丁目 276 番 18・22・38	2010 年度	803	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』(株)博通 宮田 眞・滝澤晶子・安藤龍馬 2006
⑤	小町一丁目 1028 番 1	1990 年度	164	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 大河内 勉 1997
⑥	大町一丁目 1034 番 9	2010 年度	80	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 32 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2016
⑦	小町一丁目 333 番 2	2006 年度	180	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 36 (第 1 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2020
⑧	小町一丁目 302 番	1977 年度	不明	『鎌倉市埋蔵文化財調査年報 I』鎌倉市教育委員会 松尾宣方 1983
⑨	小町一丁目 333 番 15	2010 年度	23	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 31 (第 2 分冊)』鎌倉市教育委員会 押木弘己 2015
⑩	小町一丁目 325 番イ外	1992 年度	400	『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 10 (第 3 分冊)』鎌倉市教育委員会 佐藤仁彦・小林重子 1994
⑪	小町一丁目 329 番 1・10	2010 年度ほか	213	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)博通 宮田 眞・滝澤晶子・安藤龍馬 2014
⑫	小町一丁目 322 番	1992 年度	685	『若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書』若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 宮田 眞・森 孝子 1997
⑬	小町一丁目 319 番 1 外	2017 年度	706	『若宮大路周辺遺跡群 (No. 242) 発掘調査報告書』(株)斉藤建設 三ッ橋 勝・三ッ橋 正夫 2018

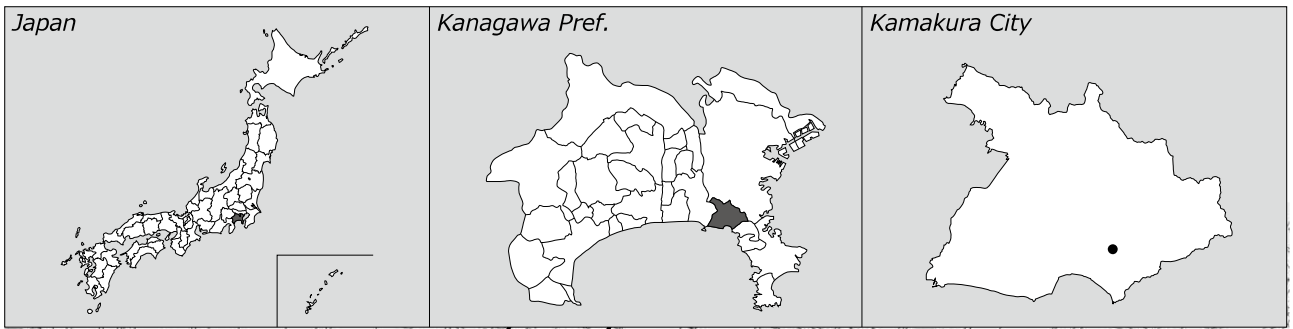


図1 調査地点の位置 (鎌倉市発行 1:2,500 都市計画基本図を使用・改変)

取り外したところで確認され、井戸枠は角材が寝かせた状態で積み上げられた、他に類を見ない特殊な構造を呈していた。本地点で最も古い遺構で、13世紀前半の所産と考えられている。地点④は803㎡とまとまった面積の調査が実施され、同一面で12世紀末～14世紀にわたる遺構群が検出されている。その中でも、中心となるのは13世紀中頃～後半と考えられている。ここでは調査区を東西に二分する南北溝→柱穴列の変遷が確認され、これを挟んだ東西に竪穴建物や井戸が分布していた。竪穴建物は10棟ほど確認され、このうち西側区画に位置する3棟では、竪穴の底面や壁面に泥岩ブロック（土丹）を貼り付けたものであった。こうした事例は珍しく、切石敷き・切石積み建物の先行形態とする見方もある。地点⑤は80㎡の調査で幅2m程の南北道路の東側に竪穴建物が繰り返し構築され、13世紀後半～14世紀代の遺構群と考えられている。地点⑥は本覚寺境内の北側に位置し、約180㎡の調査で上・下層2枚の遺構面が検出された。このうち下層遺構群は竪穴建物が主体で、建物間では通路状の空間も確認された。竪穴建物は13世紀中葉～14世紀前葉に盛行し、建物の本体構造は掘立柱から土台組みへ変化する状況が見て取れた。掘立柱構造の建物21では、倒れ込んだ壁板の下から完形に近い青磁碗や山茶碗がまとめて出土しており、商品として保管していた製品が破損したため廃棄された痕跡と推測されている。地点⑦以北～二ノ鳥居の若宮大路東側では竪穴建物が繰り返し構築され、切石を多用した事例も散見される（地点⑩・⑪）。地点⑧では、瓦敷きという、他に類を見ない事例が確認されている。二ノ鳥居以北では竪穴建物の濃密な展開は確認されておらず、こうした状況から、二ノ鳥居以南の一面は「倉町」的機能を有していたことが想定され、一方での宇津宮辻子への幕府の移転（1225年）以降は政権の中枢域にも近接していたことから、得宗家など幕府有力者が関与したエリアであったとも推測されている。

地点⑧は本覚寺夷堂の建設に先立って行われた調査で、小町大路に並行する石垣が検出されている。写真が掲載されているのみなので具体的な様相は明らかでないが、夷堂以北の幾つかの調査地点では、小町大路の前身と思われる中世の南北道路やこの西側溝が検出されており、側溝は素掘り→木組み護岸→切石積み護岸へと変化することが確認されている（地点⑨・⑩・⑪など）。

滑川に接する地点⑤では、明確な遺構は発見されなかったが、当地点が中世にも滑川の河原であったことを窺わせる土層の堆積状況が確認されている。

第二章 調査の方法と経過

第1節 調査の経緯と経過

本発掘調査は個人専用住宅の建設工事に先立つ埋蔵文化財の記録保存調査として、鎌倉市教育委員会文化財課（市教委）が実施した。建設計画では基礎工事として最大5.7mの深さまで鋼管杭を打ち込む設計であったことから、市教委では平成30年1月17・18日に確認調査を行い、地表下190cmまで掘り下げた。その結果、地表下80cm以下は中世遺物包含層が遺存しているものと判断され、地表下120cm以下で遺物の出土量が多くなる状況が確認された。こうした所見を受け、建設計画の実施に当たっては事前に本格的な発掘調査を行う必要があるという判断に至った。

発掘調査は平成30年7月9日に工事範囲北半部（Ⅰ区）から着手し、8月20日から南半部（Ⅱ区）に移行した後、9月14日には調査用具の撤収を行って現地での全作業工程を終えた。出土品・記録類の整理作業と報告書の作成業務は文化財課分室で断続的に行った。

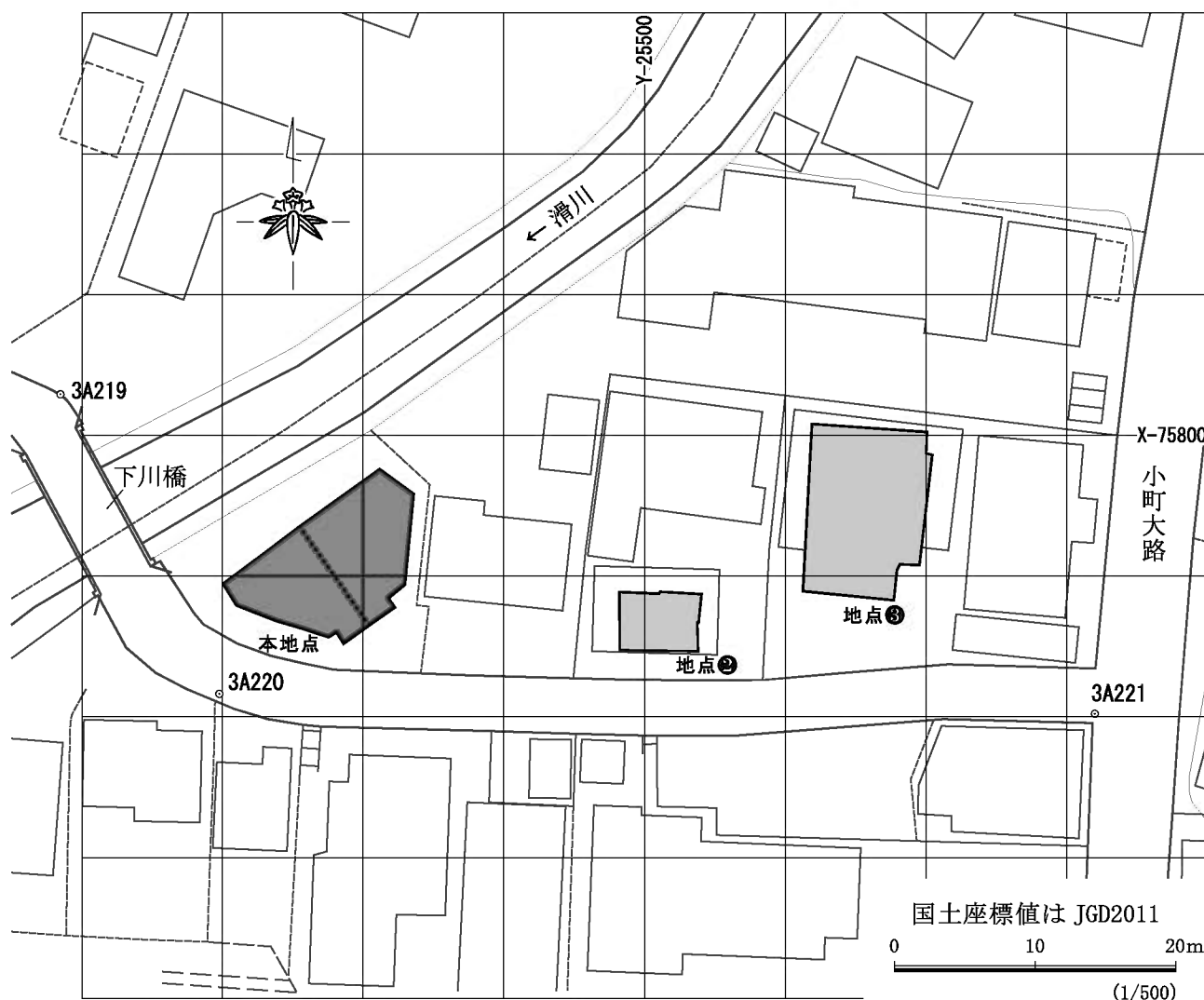


図2 近隣の調査地点

第2節 調査の方法

今回の発掘調査は鋼管杭の施工範囲を対象としたが、安全面を配慮して、隣地や道路・滑川護岸との境界から十分な距離を取って掘削に当たった。調査面積は当初の予定では95.6㎡であったが、最終的な実測値は94.56㎡となった。

掘削にともなう発生土置き場を確保するため調査区は2分割し、I区（北半部）→II区（南半部）の順に着手した(図3)。I・II区とも地表下80cmまでは重機で掘り下げ、以下は人力による掘削に移行した。両調査区とも、滑川に近い側では現代攪乱が深くまで入り込んでおり、部分的な掘り抜きにより中世層に達するまでに2mの深さまで掘り下げなければならないことが判明した。現況の滑川護岸工事にともなう埋め立て土と判断され、安全面への配慮もあり、この部分については幅2mほどの犬走として残すこととした。調査区全体については、地表下2mに達したところで掘削を終え、写真・測量図など記録の作成に移行した。測量には国家座標系（JGD2011）基準軸を用いることとし、市道上に打たれた都市再生街区多角点3A219・3A220の2点間関係から、開放トラバース測量により調査地内に基準点を移設した（図2）。標高は、節点2A091（5.476m）から調査地内に移設した。

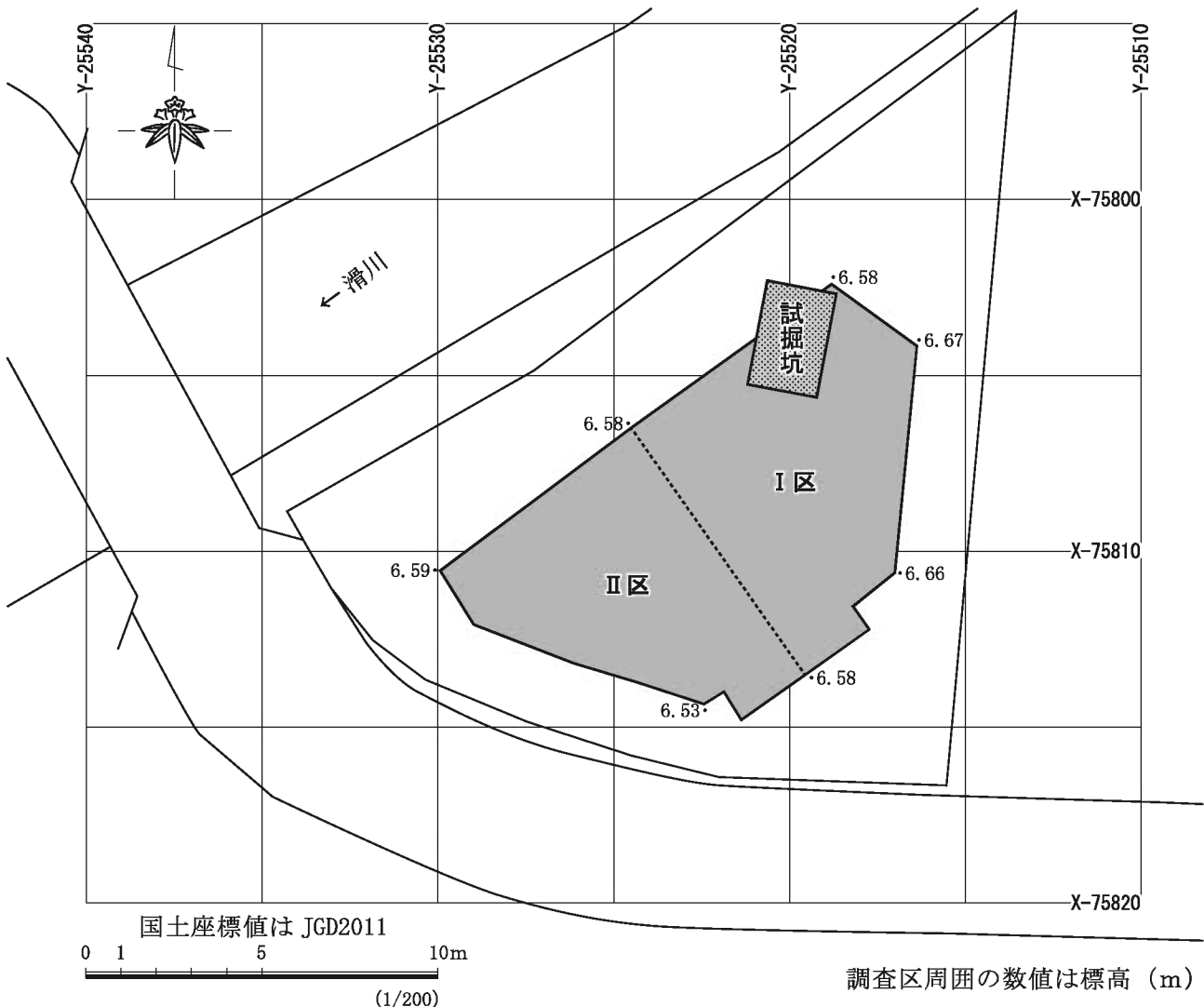


図3 調査区配置図

第三章 基本土層

図4には、調査区壁の土層断面図を掲げた。基本土層のⅠ～Ⅴ'層までは近代以降の堆積土で、北西の滑川方向に行くほど厚く堆積していることが確認された。前章でも述べたように、現況の滑川護岸となっているコンクリート擁壁を構築する際に、裏込めのために埋め立てられた土と考えられる。

地表下70～80cmで検出されたⅥ層は基盤砂層で、本来はこの上に黒褐色～暗褐色粘質土（ネチャ）が堆積していた筈であるが、削平によって失われていた。Ⅵ層の遺存範囲はごく部分的なものに過ぎなかったが、この検出レベルで堅穴建物や北西に向けた落ち込みなどが確認できた。現地では2面としたが、この上位の1面が近・現代層に帰属することが分かったため、以下、本報告では現地の2面を①面と呼び変えることとした。①面では調査区の大部分が遺構の埋土であり、特にⅠ区では調査区の大半が北へ向けた落ち込みとなっており、Ⅵ層を確認できる場所は皆無であった。

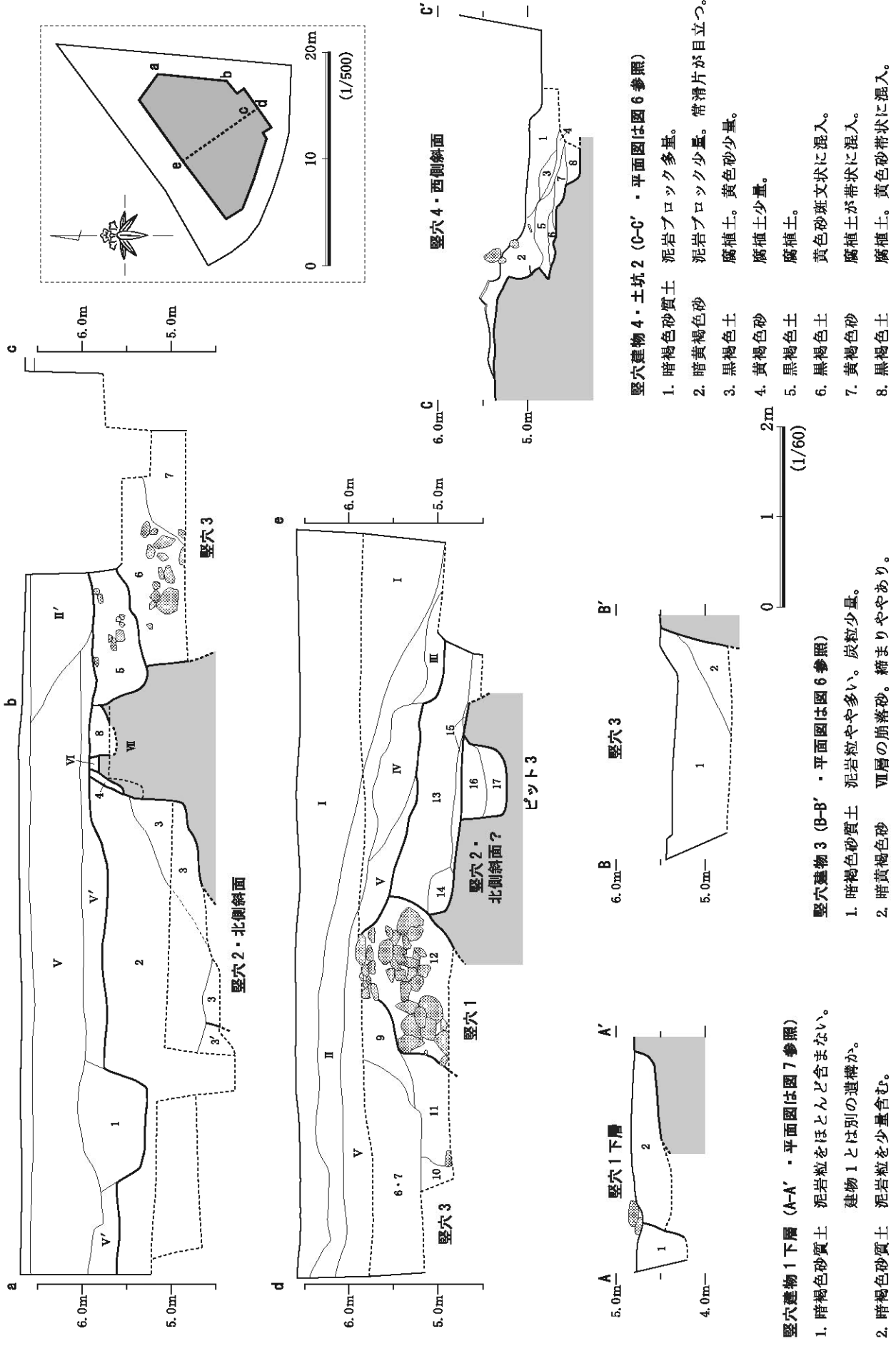
Ⅰ区では、北向きの落ち込み埋土を取り除くと部分的に基盤砂層であるⅦ層を確認でき、この上面でピットが検出された。現地ではここを3面としたが、既述の理由により、本報告では②面と呼び変える。②面の検出レベルは地表下190cmであり、北向きの落ち込みはさらに深く続くことが確認された。湧水が始まったこともあり、検出できたピットのみを掘削・記録して調査を終了した。

Ⅱ区では南東半部でⅥ～Ⅶ層を確認できたが、北西に向けた落ち込みは地表下2mを超えることから、安全面を考慮して、これ以下の掘り下げは行わなかった。

なお、現地表面の標高は、図3に示した。

調査区壁 土層説明（図4に対応・a-b-c-d-e）

- | | | | |
|-----------|-----------------|-------------|---------------------|
| Ⅰ．黄褐色土 | 現代埋め土。泥岩ブロック多量。 | 5. 暗褐色砂質土 | 泥岩粒少量。 |
| Ⅱ．黒色土 | 腐植土。 | 6. 暗褐色砂質土 | 泥岩粒少量。 |
| Ⅱ' 黒色砂 | 灰粒？ | 7. 暗褐色砂質土 | 6層より砂質感強まる。泥岩粒ごく少量。 |
| Ⅲ．暗褐色砂質土 | 泥岩粒多量。 | 8. 暗褐色砂 | |
| Ⅳ．黄褐色土 | 泥岩粒主体。 | 9. 暗褐色砂質土 | 泥岩粒少量。 |
| Ⅴ．暗褐色砂質土 | 泥岩粒少量。 | 10. 暗褐色砂質土 | |
| Ⅴ' 暗褐色砂質土 | 泥岩粒ごく少量。 | 11. 暗褐色砂質土 | 砂質感強い。 |
| Ⅵ．暗黄褐色砂 | Ⅶ層＋腐植土。 | 12. 暗褐色砂質土 | |
| Ⅶ．黄褐色砂 | 基盤砂層。 | 13. 暗褐色砂質土 | |
| | | 14. 暗黄褐色砂 | 泥岩粒少量。 |
| 1. 暗褐色砂質土 | 泥岩粒多量。 | 15. 暗黄褐色砂質土 | |
| 2. 暗褐色砂 | 泥岩粒少量。 | 16. 黒色砂 | |
| 3. 暗褐色砂 | | 17. 黒色砂 | Ⅶ層の黄色砂混入。 |
| 4. 暗褐色砂 | | | |



第四章 発見された遺構と遺物

第1節 検出遺構

(1) 表土除去後 (図5)

I～V'層を取り除いたレベルで、遺構の確認を試みた。地表下70～80cm、標高は5.7～5.8mである。北西に向けた近代埋土の落ち込み以外は中世遺構の埋土で、部分的に基盤砂層であるVI・VII層を確認できたものの、この時点では遺構の形状までは把握できなかった。

近代埋土を除去しつつ、精査を繰り返して①面の検出に努めた。

(2) ①面の遺構 (図6)

面上精査やサブトレンチ掘削による堆積状況の確認を進めると、標高5.7～5.8mで泥岩ブロックが帯状に集中する箇所が確認された。土層断面を観察した結果、泥岩ブロックは南へ向けた縦穴状の落ち込みの縁に貼り付くように積み上がっていたことから、これを縦穴建物と判断した(縦穴1)。調査を

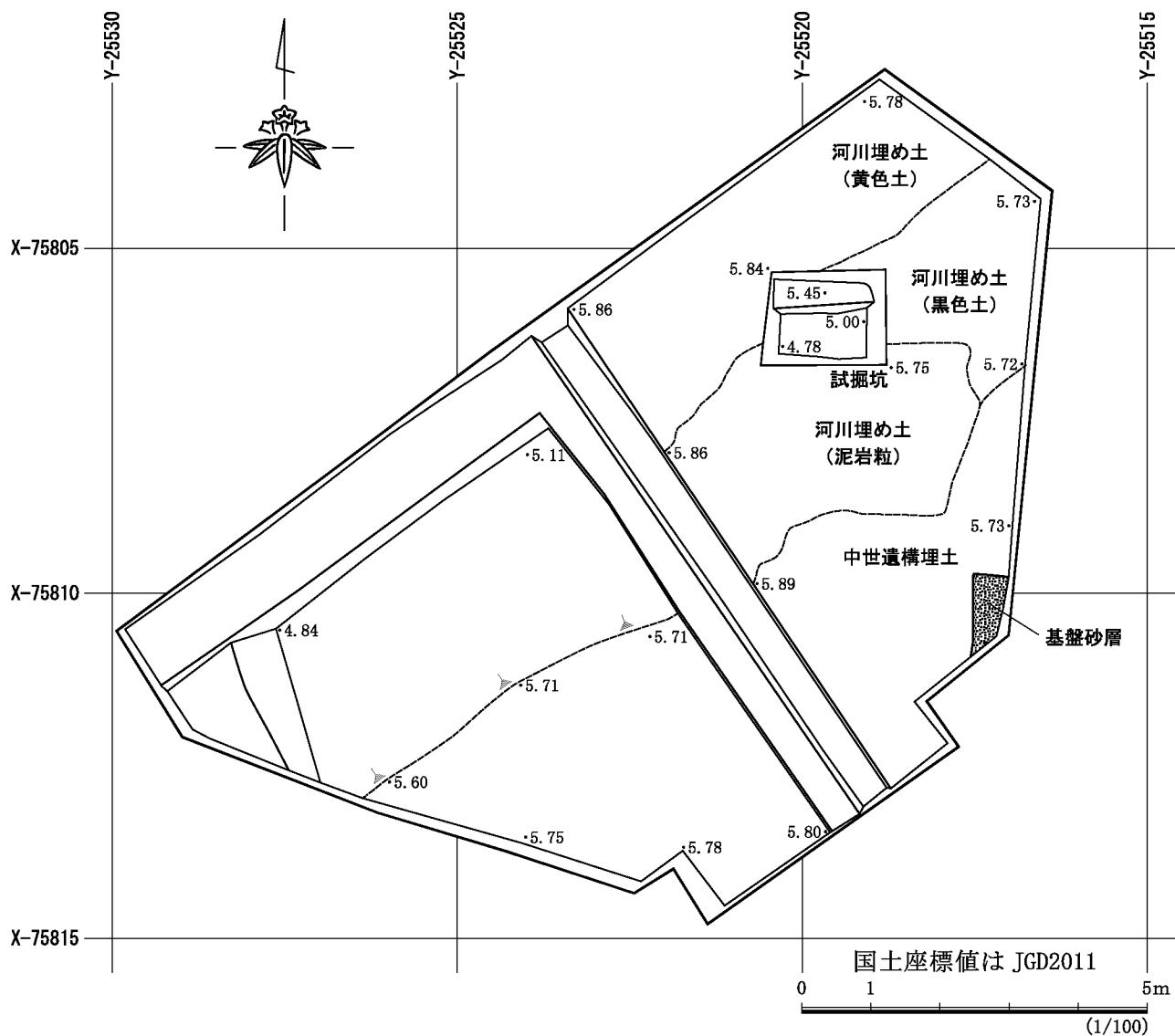


図5 表土除去後 全体図

進めるに従い、泥岩集中部は南側の竪穴3に切られることが判明した。竪穴1・3の北側と西側は滑川に向けた落ち込みとなっていたが、2ヶ所で垂直に落ち込む部分が認められたことから、竪穴2・4の遺構名を付した。ただ、これらの埋土は斜面上の堆積土と一体化していたため、明確な建物範囲を把握することはできなかった。

竪穴1

調査区の南側で検出された。I区とII区を跨ぐ位置にあり、安全性の観点から未掘削部分が残った。検出できたのは竪穴の北辺のみで、南側の大部分を竪穴3によって切られていた。上述のように北壁に沿って泥岩ブロックを積み上げており、東西4.7m、南北1.2mまでを計測できた(図4中段)。北壁のラインは、N83°Eを指す。土層断面の観察から、部分的ながら①面上からの深さが約1.4m、底面標高は4.5m前後であることを確認した。

積み上げた泥岩ブロックは拳～人頭程度の大きさで、表面に稜がなく摩滅したものが主体であった。現在、調査地西隣を流れる滑川の河床は露頭した岩盤であり、大小の摩滅した転石を見ることができる。本遺構に使用された泥岩ブロックも、山肌の岩盤を削り取ったのではなく、至近の河床から転石を拾い上げたものと考えられる。

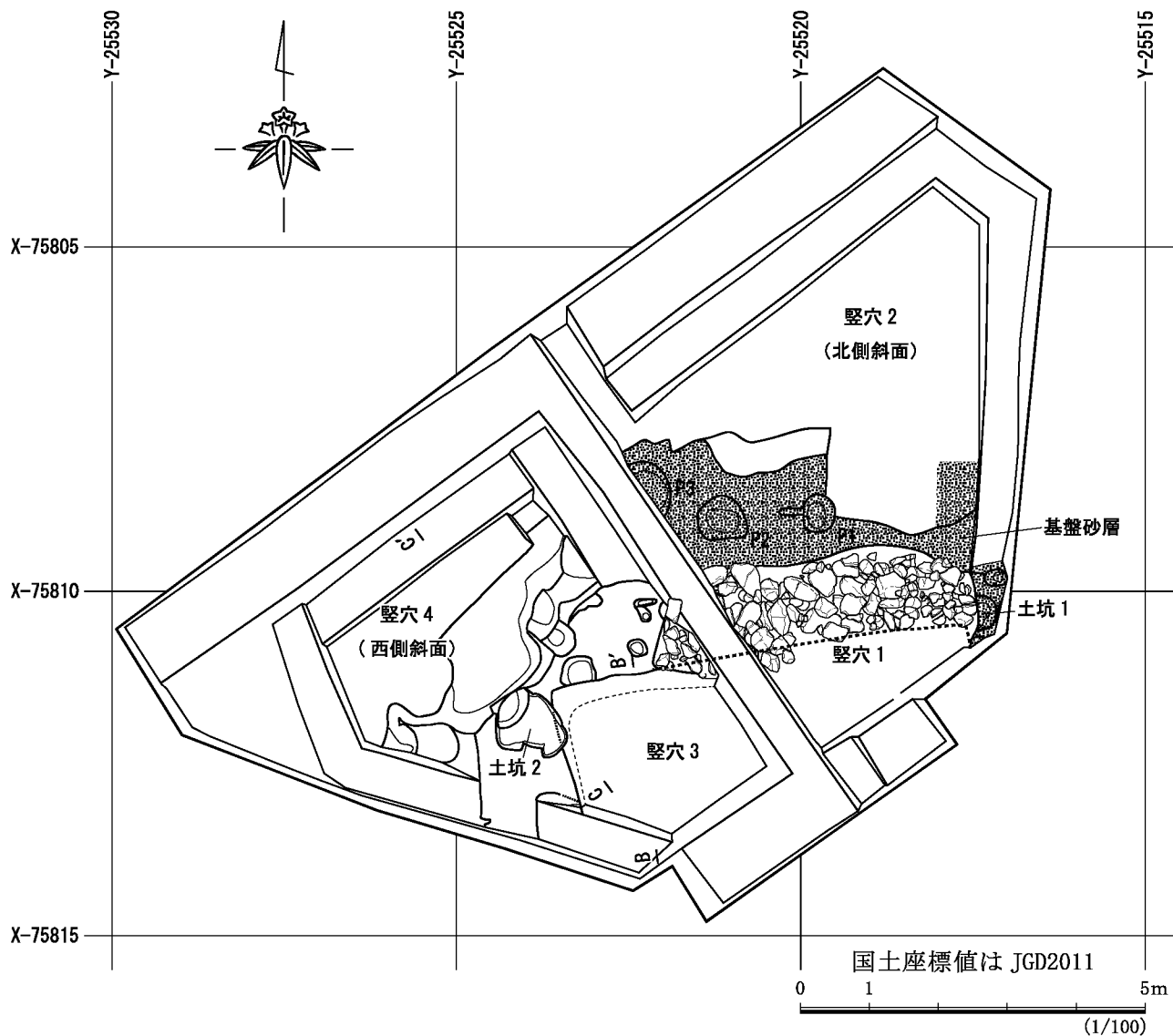


図6 ①面 全体図

竖穴 2

I 区の北側で検出された。上述のように北向きの落ち込みと埋土が一体化していたため、明確な範囲を把握することができなかった。I 区東壁の土層断面には、竖穴の南壁部分が垂直に立ち上がる様子を見て取れる（図 4 上段）。VI 層までは立ち上がることを確認し、底面までの深さは約 130 cm、底面標高は約 4.7 m であった。湧水が始まったため、底面上で根太材などの痕跡を捉えることはできなかったが、腐植質の砂が北側に広がる状況は確認できた。

竖穴 3

調査区の南部に位置し、I・II 区に跨って検出された。安全性を考慮し、一部、未掘削部分を残した。竖穴 1 を切って構築され、東西 6 m 以上、南北 2.4 m 以上の規模となることを確認した。断面観察では竖穴の深さは 1 m までを計測したが、底面の確認には至らなかった。北壁のラインは、N80° E を指す。

竖穴 4

II 区の北西部で検出された。北西向きの斜面埋土と一体化しており、建物と断定するには不確定要素が多い。落ち込みラインも入り乱れ、竖穴 1・3 とは明らかに異なる方向軸を取っている。南壁の立ち上がりも凹凸が顕著である（図 4 中段右）。確認レベルからの深さが 100 cm ほど、標高 4.4 m 付近では

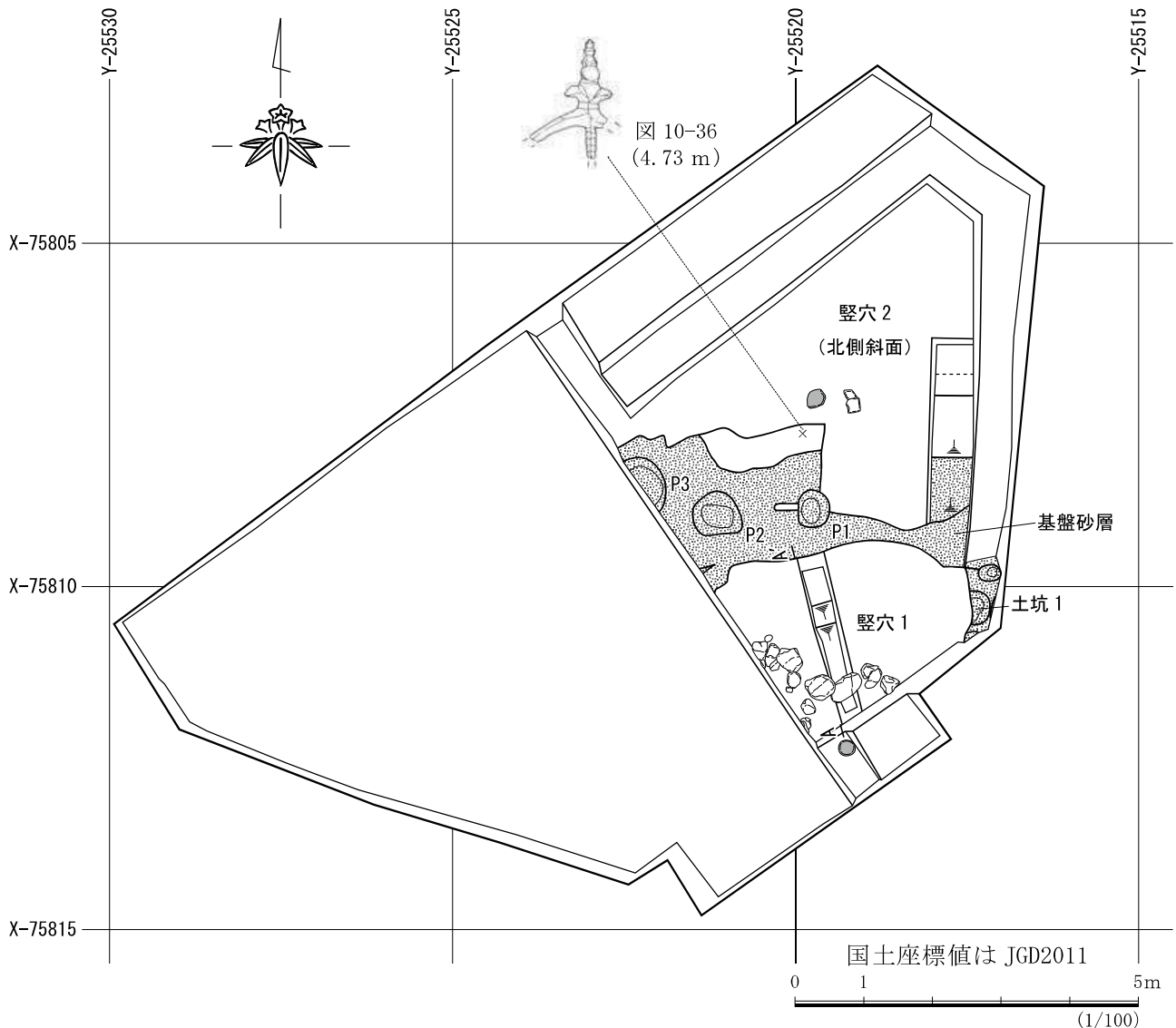
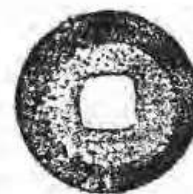
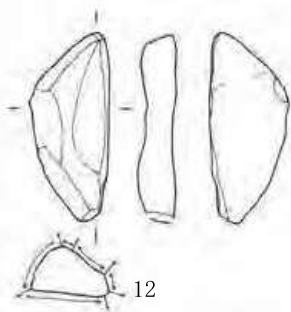
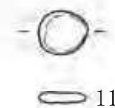
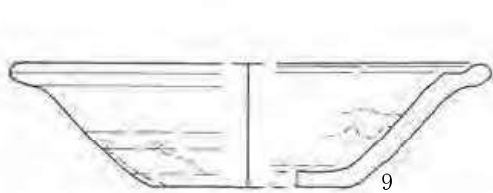


図 7 ②面・トレンチ配置図

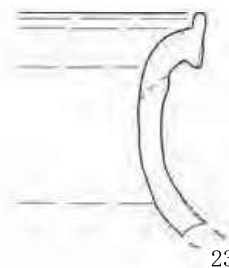
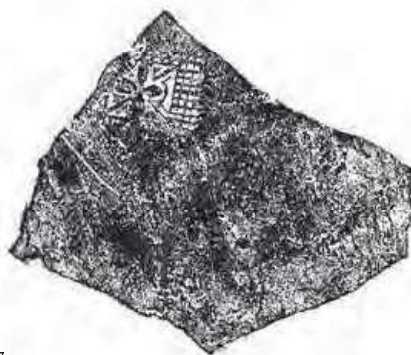
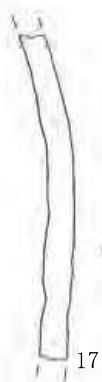
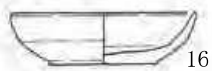


図8 出土遺物(1)

いたことを示す情報でもある。

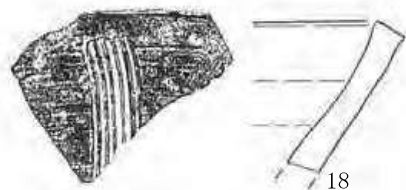


9 ~ 14 I区①面上



23 II区①面
竖穴建物 1 下層下

15 ~ 17 II区①面上



18 ~ 20 II区①面
竖穴建物 1 上層



0 5 10cm

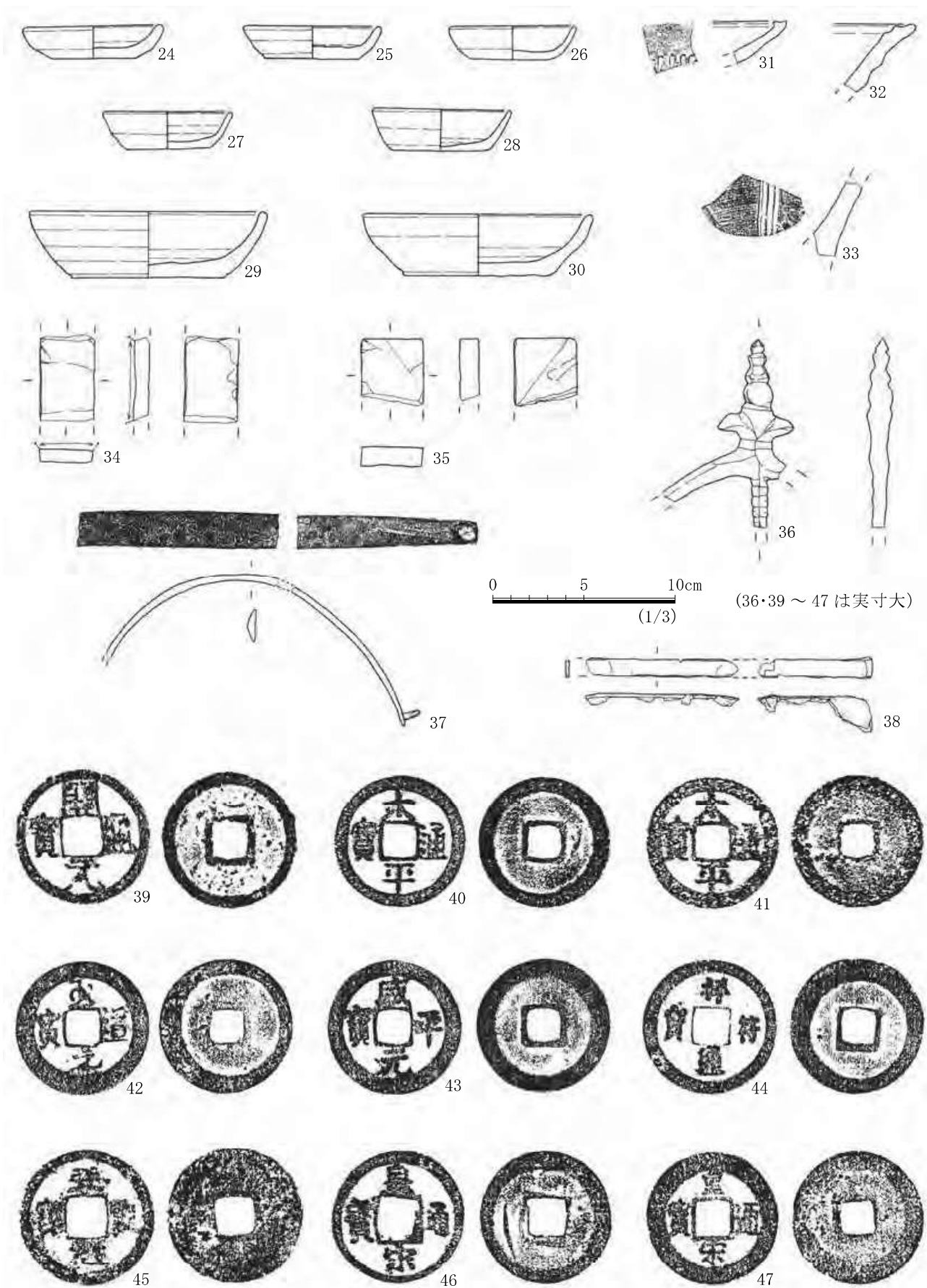
(1/3)

(13·14·22 は実寸大)

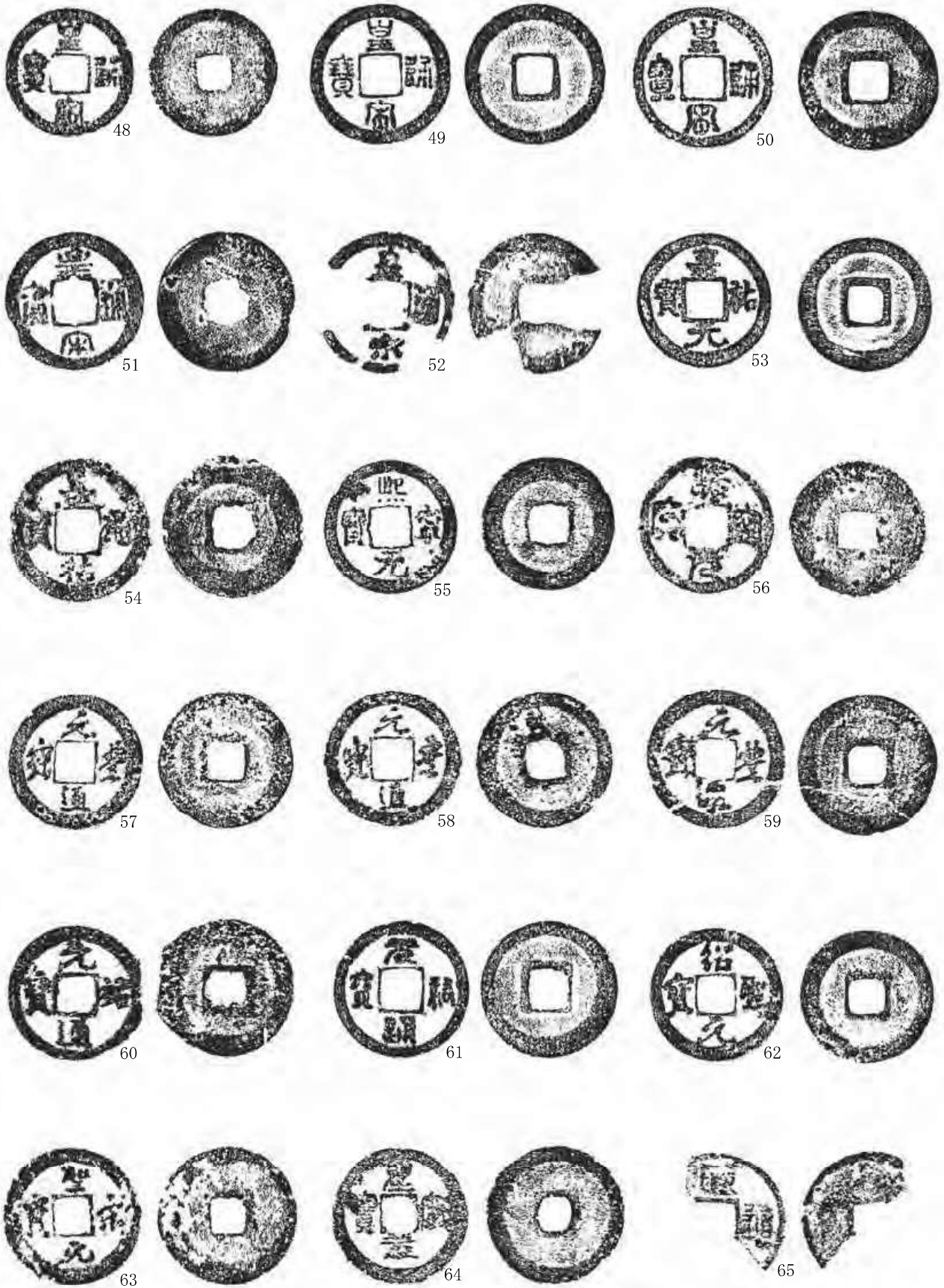
図9 出土遺物 (2)



21 · 22 II区①面
竖穴建物 1 下層

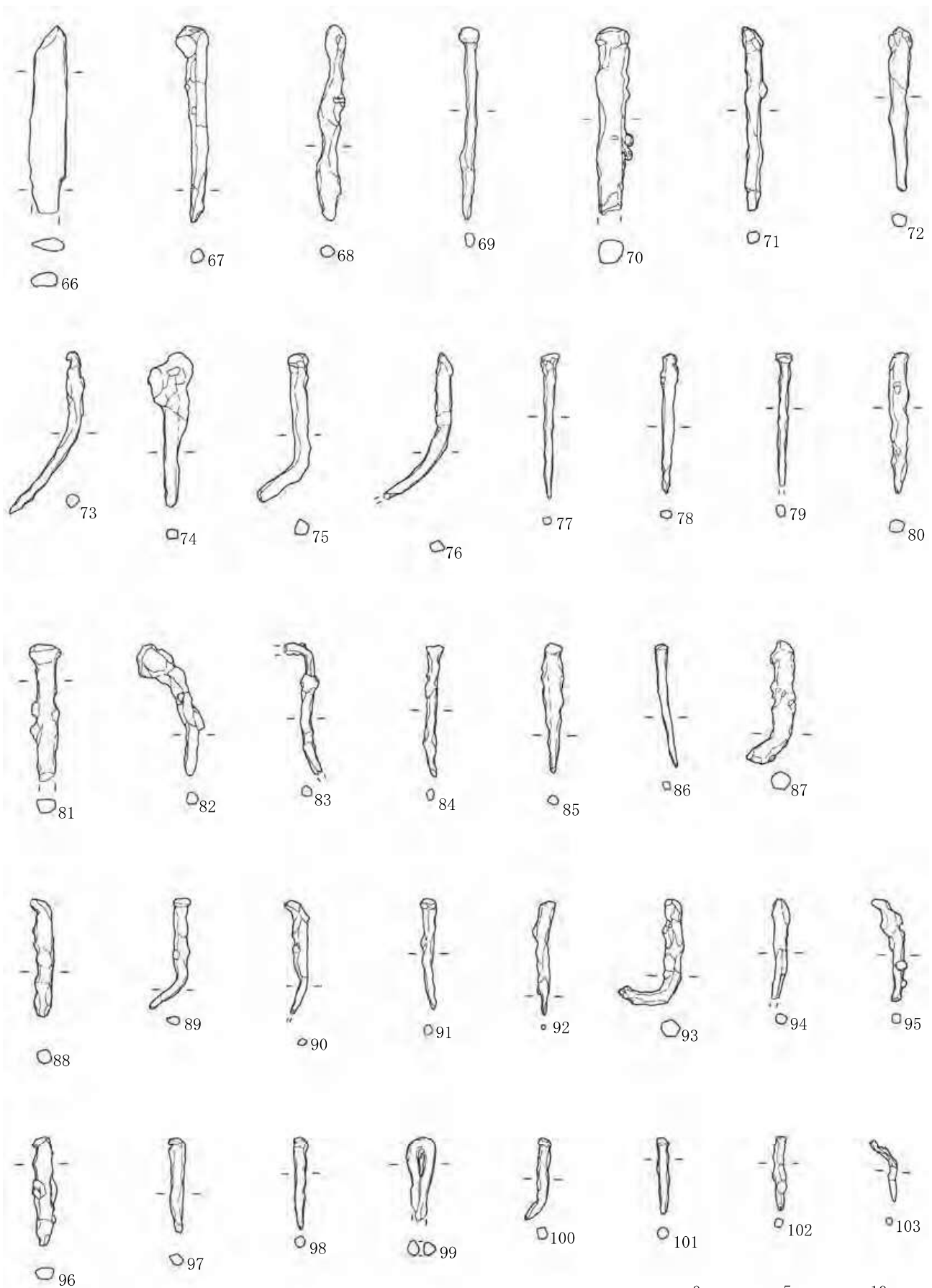


24 ~ 47 I区①面 竪穴建物 2・北側斜面
 図 10 出土遺物 (3)



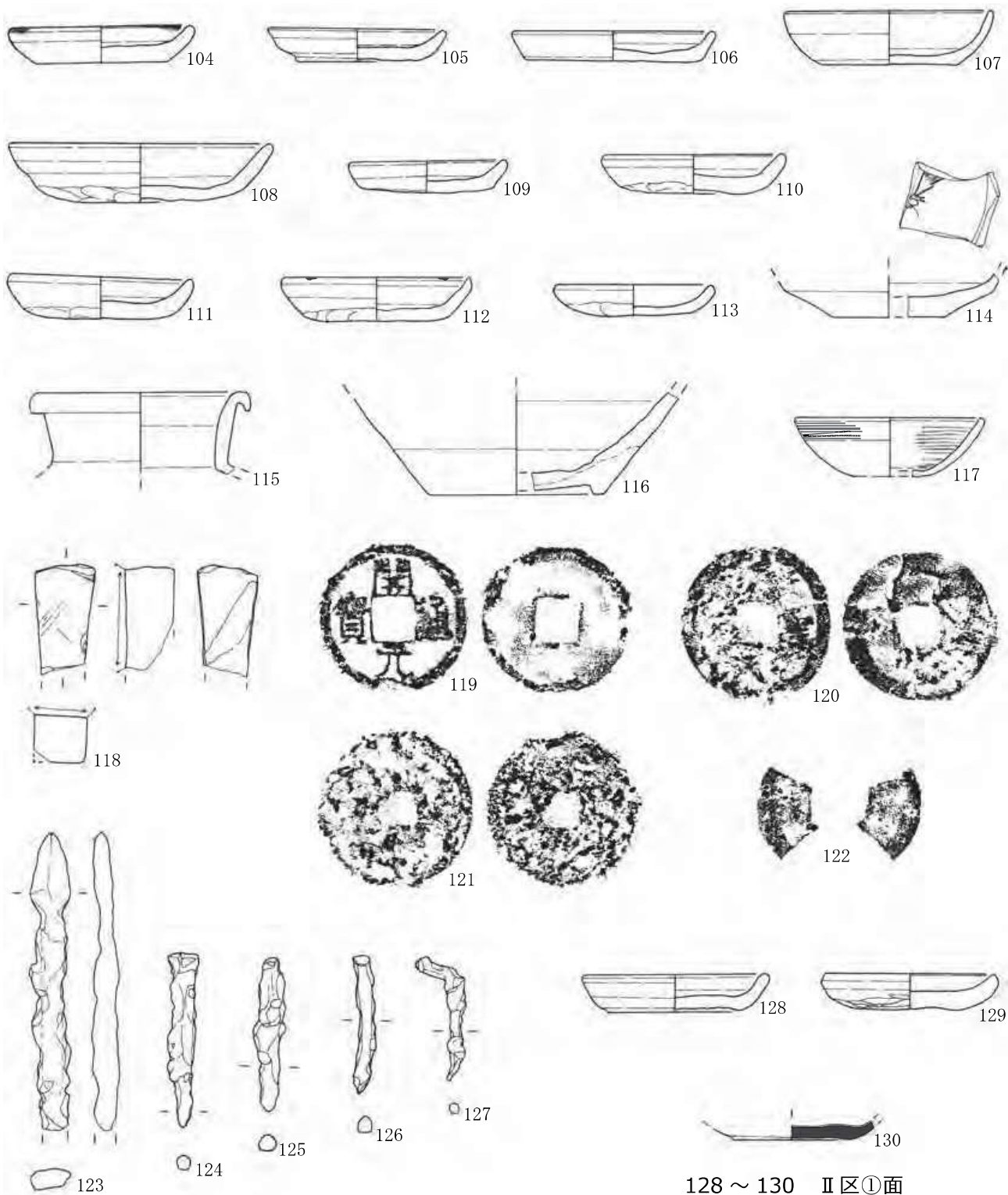
48 ~ 65 I区①面 豎穴建物 2・北側斜面
 图 11 出土遺物 (4)

0 1 2cm
 (1/1)



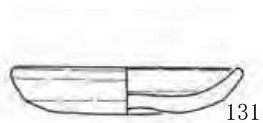
66 ~ 103 I区①面 竖穴建物 2・北側斜面

图 12 出土遺物 (5)

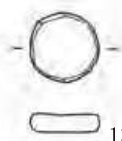


104 ~ 127 II区①面 竪穴建物4・西側斜面

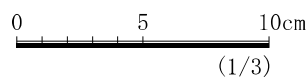
128 ~ 130 II区①面
竪穴建物4・西側斜面下層



II区①面 土坑2



II区①面 遺構外



(119 ~ 122 は実寸大)

図13 出土遺物(6)

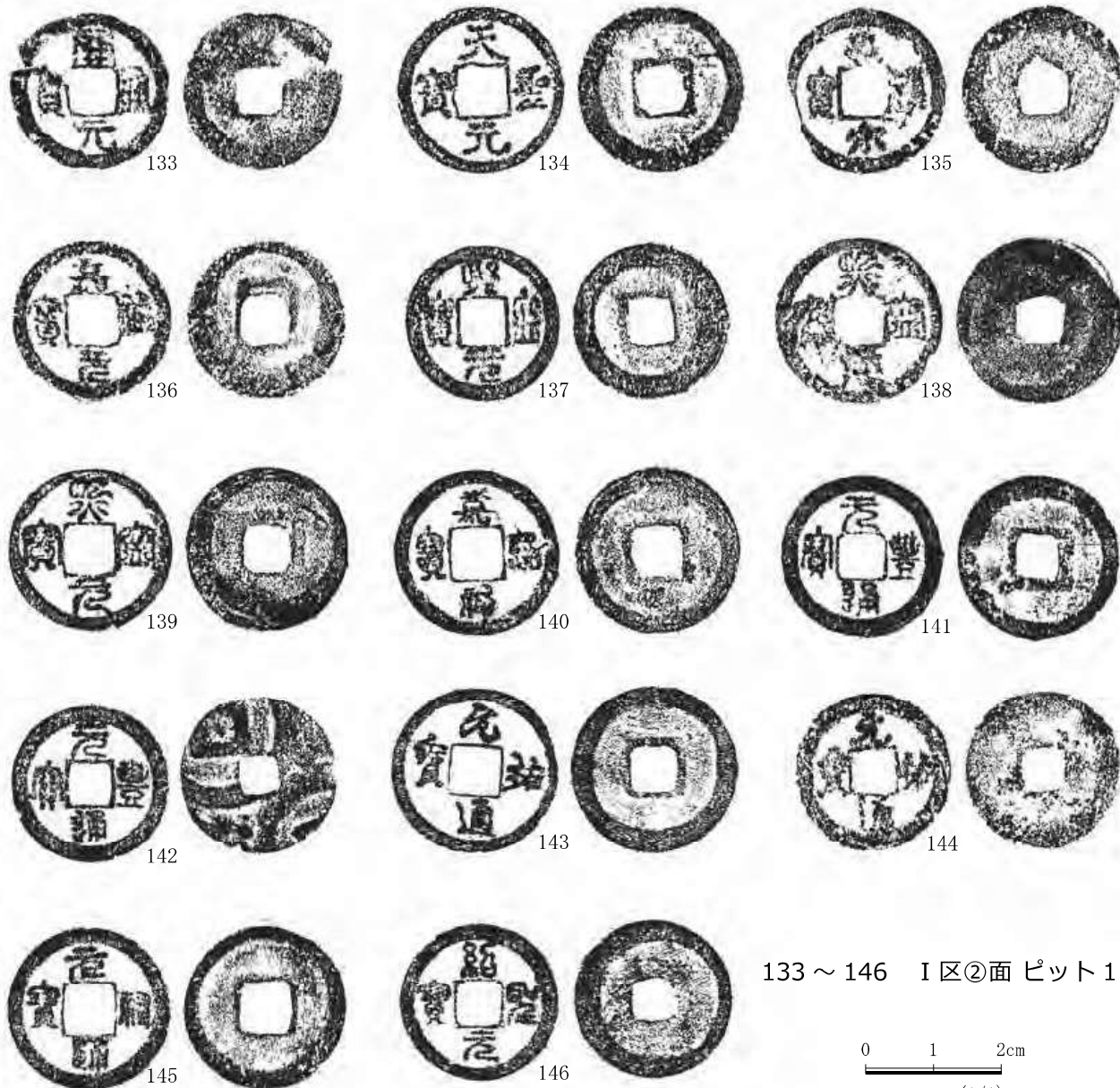
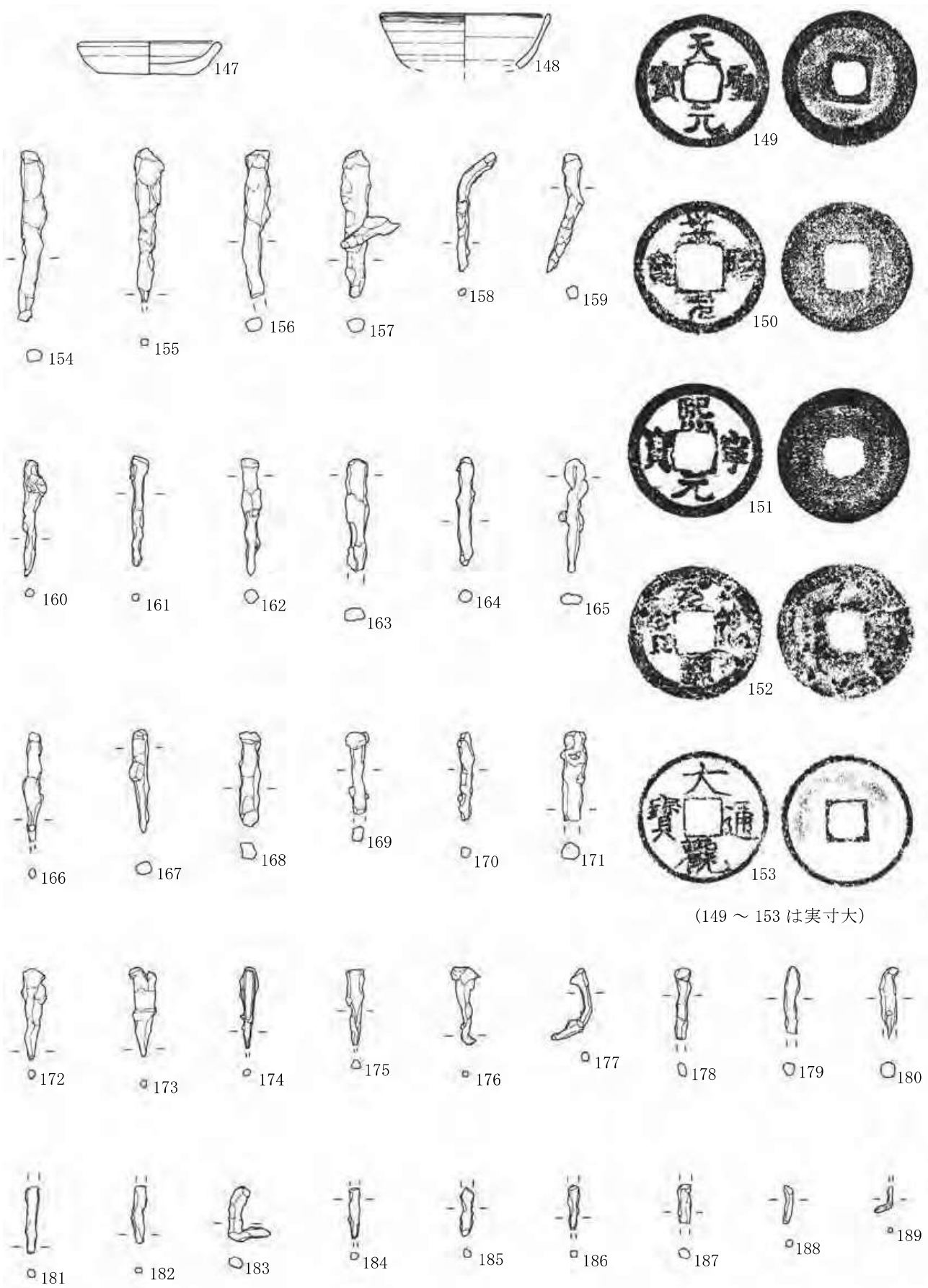


図 14 出土遺物 (7)



147 ~ 187 I区②面ピット2

図15 出土遺物(8)

1 面上
遺物包含層
・遺構外

地区	面	遺構	かわらけ					土器		土師器		白磁																		
			ロクロ	手づくね		小片	銅?	不明	甕 (古式)	甕	口壳碗 IX類	口壳碗 IX類	碗	壺類																
全	1面上	包含層	203	2427	48	355	56	839	15	204	311	1130	1	2	2	27	2	19	1	31	2	7	1	7	1	113	2	15		
地区	面	遺構	青白磁		龍泉窯系青磁		同安窯系青磁		磁器		船載陶器																			
			水滴?	梅瓶	碗?	輪花皿	割花文碗 I類	蓮弁文碗 II or III類	碗	坏 皿類	皿	壺類	不明	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	船載陶器	
全	1面上	包含層	1	1	2	20	1	5	1	2	3	66	4	24	5	18	2	32	1	3	1	6	3	8	1	13				
地区	面	遺構	瀬戸																											
			尾張・湖西														尾張・常滑													
全	1面上	包含層	1	22	1	10	2	146	2	47	1	11	4	33	1	100	17	829	319	1793	1	50	4	127	21	455	6	564	1	51
地区	面	遺構	肥前系磁器														瓦													
			瓦質土器							肥前系磁器							瓦							瓦						
全	1面上	包含層	1	10	1	10	1	384	8	237	1	2	1	8	3	192	1	29	1	197	1	97	1	74	1	6	1	17	2	6
地区	面	遺構	鉄製品														石製品													
			鉄製品							石製品							鉄製品							石製品						
全	1面上	包含層	49	327	1	41	1	188	1	4	4	69	1	2	1	11	1	49	3	8	5	183	1	58	1	20	1	18	4	3
地区	面	遺構	かわらけ														鉄製品													
			かわらけ							鉄製品							かわらけ							鉄製品						
全	1面上	包含層	23	228	6	61	1	6	2	28	2	16	8	37	1	3	19	402	1	5	1	1	1	1	1	1	26	1	5	5

遺構①

地区	面	遺構		かわらけ		かわらけ		青白磁		同安窯系青磁		瀬戸・美濃		尾張・常滑		土製品		鉄製品		石			
		ロクロ	大	手づくね	大	小	小片	梅瓶	皿 I類	卸皿 中I~II	甕	片口鉢 I類	II類	焼け粘土 (スサ入)	釘	土丹 (釘付着)							
I	I面	8	79	2	15	1	6	7	35	1	7	1	14	13	864	3	87	1	19	6	43	1	263

地区	面	遺構		かわらけ		白かわらけ		土器		須恵器		白磁		皿															
		ロクロ	大	手づくね	小	小片	小片	吉備系 碗	坏	碗 (V類)	口禿碗 (IX類)	碗 (IX類)	皿																
I	I面	148	1894	23	226	23	372	12	127	192	869	1	1	1	5	1	15	1	4	1	6	1	34	2	16	2	4	1	2

地区	面	遺構		青白磁		龍泉窯系青磁		瀬戸		渥美・湖西		尾張・常滑		片口鉢		備前											
		皿	合子身	不明	劃花文碗 I類	蓮弁文碗 II or III類	皿 I類	四耳壺	甕	片口鉢	甕	三筋壺	片口鉢 I類	II類	片口鉢 II類												
I	I面	1	2	1	5	1	5	2	9	5	23	1	4	3	147	2	72	133	662	1	19	18	567	3	130	2	106

地区	面	遺構		瓦質土器		土製品		銅製品		鉄製品		石製品		骨・骨製品													
		不明	火鉢 IC類	火鉢	不明	瓦	平瓦	不詳	瓦	平瓦	不詳	瓦	平瓦	不詳	石	莖石	石莖 (剥片)	斧	獣歯	獣骨	魚骨	アガシ					
I	I面	1	7	1	29	6	345	1	71	1	121	1	28	4	11	34	262	1	7	4	24	1	1	11	26	1	1

地区	面	遺構		かわらけ		白かわらけ		須恵器		白磁		龍泉窯系青磁													
		ロクロ	大	手づくね	小	小片	内折れ 小	口禿皿 IX類	坏・蓋	印花文皿 X類	水注	劃花文碗 I類	蓮弁文碗 II or III類												
II	I面	40	459	22	246	9	136	2	24	292	1700	1	5	1	7	2	11	2	3	1	4	5	34	2	8

地区	面	遺構		瀬戸		尾張・常滑		瓦質土器		土製品													
		卸皿	折縁深皿	瓶類	甕	甕	片口鉢 I類	II類	火鉢	瓦	平瓦	A類											
II	I面	1	8	2	25	1	27	2	95	122	6195	3	133	7	158	4	124	1	31	2	118	1	16

地区	面	遺構		銅製品		鉄製品		石製品		骨		貝						
		銭	釘	鉄滓	硯	石莖	獣骨	魚骨	鱗	アガシ	イサ	ユ	不明					
II	I面	1	3	19	110	1	94	1	32	1	2	18	1	9	2	2	2	2

遺構②

地区	面	遺構	かわらけ				白かわらけ				土師器			須恵器																		
			ロクロ	手づくね	手づくね	小片	ロクロ	手づくね	手づくね	小	甗	坏	ロクロ土師器坏?	甗	坏																	
I	1面	竪穴2-北側斜面	788	9402	205	1690	163	2216	36	359	2	25	685	3155	1	19	3	11	1	4	1	7	1	3	1	4	1	5	1	5	1	5
地区	面	遺構	土器	端反碗 V類?	口糸皿 IX類	口糸碗 IX類	印花文皿 X類	皿	碗・皿	四耳壺	水注	梅瓶	合子身	高麗青磁	青白磁	甗	坏 (古墳後期)	ロクロ土師器坏?	甗	坏	須恵器	甗	坏									
I	1面	竪穴2-北側斜面	5	56	1	2	5	41	1	21	1	0.9	1	1	6	24	2	32	1	13	1	6	1	3	2	33						
地区	面	遺構	龍泉窯系青磁														瀬戸					瀬美・湖西										
I	1面	竪穴2-北側斜面	9	99	1	2	22	139	2	16	19	41	1	77	3	41	2	3	1	7	1	32	1	5	5	69	27	813	2	113		
地区	面	遺構	劃花文碗 I類	碗 I or II類	蓮弁文碗 II or III類	坏(盤) 皿類	碗・皿	卸皿 後I~III	折縁皿 後II~III	入子	直縁大皿	鉄蒔拵鉢 後II以降	花瓶	瓶子・水注	甗	坏	須恵器	瓦質土器	瓦	平瓦	瓦	平瓦	C類	D類								
I	1面	竪穴2-北側斜面	468	22008	2	83	1	31	42	970	20	713	4	15	1	4	1	1	3	1266	8	271	1	27	1	204	1	291				
地区	面	遺構	土製品	甗	壺	尾張・常滑 山茶碗 (無高台)	片口鉢	不明陶器	碗	黒縁 瓦器質碗?	火鉢	不明	鉄塊	針塊	鉄製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品	鐵製品								
I	1面	竪穴2-北側斜面	4	64	1	3	8	373	1	4	2	73	1	14	27	83	251	1714	1	36	1	178	1	151	1	7						
地区	面	遺構	石製品	軽石	鳴滝産 仕上げ砥	石英 (剥片)	石英 核・剥片	滑石片	骨	魚骨	骨	貝	錢	板状品	磁	釘	刀子	鉄滓	針塊	鉄塊	鉄塊	鉄塊	鉄塊	鉄塊								
I	1面	竪穴2-北側斜面	1	7	2	49	35	88	多量	607	2	272	52	1	104	1	1	1	1	1	1	1	1	1								
地区	面	遺構	かわらけ	尾張・常滑	手づくね	手づくね	小片	白かわらけ	土師器	須恵器	白磁	白磁	白磁																			
I	1面	土坑1	1	5	1	43																										
地区	面	遺構	かわらけ	尾張・常滑	手づくね	手づくね	小片	白かわらけ	土師器	須恵器	白磁	白磁																				
II	1面	土坑2	18	228	1	5	35	437	6	122	30	147	1	3	1	13	1	7	1	5	2	9	2	20								
地区	面	遺構	龍泉窯系青磁														尾張・常滑					瀬美・湖西										
II	1面	土坑2	6	41	1	124	1	4	2	2	11	605	76	7027	1	145	7	376	1	1	1	174	9	78	2	1						
地区	面	遺構	劃花文碗 I類	蓮弁文碗 II類	蓮弁文碗 II or III類	不明	甗	甗	甗?	片口鉢 I類	瓦器	瓦質土器	鉄製品	骨	貝																	

地区	面	遺構	かわらけ										白かわらけ		土器																			
			ロクロ		手づくね		小片		大		手づくね		小		不明																			
II	I面	竪穴4・西側斜面	50	595	1	40	35	486	160	2375	69	1003	183	720	1	4	1	26	2	12	1	10	4	27.3										
地区	面	遺構	土師器										須恵器		白磁																			
			甗(古式)		坏		坏		甗(古式)		不明		端区碗V類?		碗小片		碗小片		口糸皿IV類		碗		壺											
II	I面	竪穴4・西側斜面	2	22	9	85	1	36	1	6	1	45	1	4	1	60	1	6	5	25	2	7	7	26	3	18								
地区	面	遺構	青白磁										龍泉系青磁																					
			梅瓶		碗・皿		合子蓋?		劃花文碗I類		劃花文碗I類?		進弁文碗II類		進弁文碗III類		碗		皿		碗・皿													
II	I面	竪穴4・西側斜面	2	13	3	4	1	6	1	6	19	191	4	26	1	4	1	6	3	11	1	27	4	4	5									
地区	面	遺構	船載陶器										瀬戸										尾張・常滑											
			緑釉盤		褐釉壺		御皿		緑釉小皿		折縁皿		碗・皿・盤		壺類		甗		片口鉢		山茶碗		甗		壺									
II	I面	竪穴4・西側斜面	1	19	3	173	1	4	1	3	2	25	4	20	1	7	33	2010	3	67	1	11	362	18945	5	274								
地区	面	遺構	東播系										志野										瓦											
			片口鉢		備前		不明陶器		壺など(新)		碗(古)		瓦器		瓦質土器		肥前系磁器		染付		A類		D類		F類		不詳							
II	I面	竪穴4・西側斜面	1	9	1	6	1	3	5	73	2	5	1	10	1	9	1	5	1	5	1	78	1	141	1	320	2	157						
地区	面	遺構	鉄製品										石器・石製品										骨											
			釘		刀子		槍鉋?		碁石(黒)		伊予中低		石英(残欠)核		石片		滑石		銅															
II	I面	竪穴4・西側斜面	31	258	3	114	1	44	1	4	1	54	1	40	2	27	1	47	1	12														
地区	面	遺構	かわらけ										土器										貝											
			ロクロ		小片		南伊勢系銅		甗		片口鉢I類		碗(手づくね)		釘		鉄製品		銅製品		石製品		石製品		石製品		石製品							
I	2面	ピット1	1	5	1	7	1	3	1	7	1	52	1	19	1	5	14	39	1	5	1	22	1	1	1	1	1	1						
地区	面	遺構	かわらけ										白かわらけ										骨											
			ロクロ		手づくね		大		甗		常滑		瓦器質		黒縁瓦器質碗		釘		鉄製品		石製品		石製品		石製品		魚骨・鱗							
I	2面	ピット2	2	11	1	55	1	4	1	6	1	13	1	5	1	16	5	13	35	205	多敷	578	25	25	25	25	25	25						
			大		小		小片		大		手づくね		大		甗		常滑		瓦器質		黒縁瓦器質碗		釘		鉄製品		石製品		石製品		石製品		魚骨・鱗	
I	2面	ピット3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
			大		小		小片		大		手づくね		大		甗		常滑		瓦器質		黒縁瓦器質碗		釘		鉄製品		石製品		石製品		石製品		魚骨・鱗	
I	2面	ピット3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
			大		小		小片		大		手づくね		大		甗		常滑		瓦器質		黒縁瓦器質碗		釘		鉄製品		石製品		石製品		石製品		魚骨・鱗	
I	2面	ピット3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
			大		小		小片		大		手づくね		大		甗		常滑		瓦器質		黒縁瓦器質碗		釘		鉄製品		石製品		石製品		石製品		魚骨・鱗	
I	2面	ピット3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		

表3 出土遺物観察表

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
確認調査時												
図8 1	国産陶器	常滑窯 甕	胴小片	—	—	—		粗	明褐/暗褐			胴部外面に菊花/格子押印
排土山												
図8 2	銅製品	用途不明 板状製品	不明	長さ [2.7]	幅 1.35	厚さ 1.5	[9]					金銅装か(一部残存)
I区 攪乱1												
図8 3	在地土器	ロクロ かわらけ 小	4/5	8.3	5.3	1.6	[52.7]	b 粗	黄橙	ナデ	板状	
図8 4	国産陶器	瀬戸窯 折縁深皿	口小片	—	—	[3.7]		やや密	淡灰黄/ 灰緑			後II~III期 灰釉
図8 5	国産陶器	常滑窯 甕	肩小片	—	—	—			淡褐 ~褐			外面に銭形押印
図8 6	在地土器	瓦質火鉢 IV類	口小片	—	—	[3.7]		やや密	白灰/ 黒			内外面黒色処理+ミガキ 外面貼付け連珠文+雷文押印
図8 7	瓦	丸瓦 永福寺A類	一側面	—	—	[3.7]		密	黄灰			
I区 攪乱2												
図8 8	在地土器	ロクロ かわらけ 小	3/5	(7.6)	4.7	2.0		b 密	橙	ナデ	板状	
I区1面上 中世遺物包含層												
図9 9	国産陶器	瀬戸窯 折縁深皿	1/8	(22.0)	(10.8)	4.9		密	淡黄橙/ 淡灰緑			後I~II期 灰釉
図9 10	国産陶器	常滑窯 転用研磨具	(完形)	長さ 7.2	幅 6.2	厚さ 1.0	51		褐			全面を研磨に使用
図9 11	石製品	碁石	完形	径 1.9	厚さ 0.5		3		黒			
図9 12	石製品	大村? 中砥	略完形	長さ [6.5]	幅 3.1	厚さ 1.5	[49]		黄灰			全面を研磨に使用
図9 13	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.75		2.8					篆書 1038年初鑄
図9 14	銅製品	北宋銭 嘉祐通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		3.4					真書 1056年初鑄
II区1面上 中世遺物包含層												
図9 15	在地土器	ロクロ かわらけ 小	略完形	7.7	5.0	1.7	[49]	b 粗	橙	ナデ	板状	
図9 16	在地土器	ロクロ かわらけ 小	1/4	(7.2)	4.2	2.0		b 密	橙	ナデ	板状	
図9 17	国産陶器	常滑窯 甕	胴小片	—	—	—		やや粗	赤褐			外面花卉/格子押印
I区1面 竪穴建物1												
図9 18	国産陶器	備前窯 すり鉢	口小片	—	—	[5.9]		密	褐灰/ 灰緑			上層 内面6条のスリ目 口外面灰釉(自然釉)
図9 19	舶載磁器	白磁 皿IX類	1/3	(11.1)	(6.2)	3.0		密	灰白/ 灰白			上層 底部外面一部無釉 口唇部うすく油煤付着
図9 20	鉄製品	釘か	先端部 欠損	長さ [13.0]	幅 [1.4]	厚さ 0.4	[25]					上層 錆化顕著(膨張)
図9 21	在地土器	ロクロ かわらけ 小	2/5	(7.4)	4.6	1.9		b 密	橙	ナデ	板状	下層
図9 22	銅製品	唐銭 開元通寶	完形	2.4	方孔径 0.65		2.8					下層 621年初鑄
図9 23	国産陶器	常滑窯 甕	口小片	—	—	[8.7]			灰~ 暗灰			下層下 6a型式
I区1面 竪穴建物2・北側斜面												
図10 24	在地土器	ロクロ かわらけ 小	4/5	7.5	4.5	1.8		b 粗	橙	ナデ	板状	口縁歪む
図10 25	在地土器	ロクロ かわらけ 小	4/5	7.2	5.0	1.8		b 密	黄橙	ナデ	板状	
図10 26	在地土器	ロクロ かわらけ 小	3/4	(6.8)	4.6	1.8		b 密	灰黄 ~橙	ナデ	板状	器形歪む
図10 27	在地土器	ロクロ かわらけ 小	2/3	6.8	4.6	2.1		b 密	橙	ナデ	板状	
図10 28	在地土器	ロクロ かわらけ 小	略完形	7.4	5.1	2.4	[44]	b 粗	黄橙	ナデ	板状	口縁部に油煤付着
図10 29	在地土器	ロクロ かわらけ 大	2/5	(12.6)	(8.1)	3.6		b 粗	黄橙	ナデ	板状	
図10 30	在地土器	ロクロ かわらけ 大	2/3	12.2	8.0	3.5		b 粗	橙	ナデ	板状	
図10 31	国産陶器	瀬戸窯 卸皿	口小片	—	—	[2.2]			黄灰/ 淡緑灰			後II期以降 口縁部灰釉

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
図10 32	国産陶器	瀬戸窯 折縁深皿	口小片	—	—	[3.7]		黄灰/ 緑灰				後Ⅱ～Ⅲ期 灰釉
図10 33	国産陶器	瀬戸窯 すり鉢	体小片	—	—	—		黄灰/ 暗赤褐				後Ⅲ期以降 鉄釉
図10 34	石製品	鳴滝 仕上げ砥	両端欠	長さ [4.7]	幅 2.9	厚さ 0.7	[24]	黄白 ～褐				一面のみ使用
図10 35	石製品	鳴滝菖蒲ヶ谷 仕上げ砥	一端欠	長さ [3.7]	幅 3.4	厚さ 1.1	[25]	淡桃				砥面剥落
図10 36	銅製品	銅杖	先端部	長さ [3.4]	幅 [2.4]	厚さ 0.5	[4]					先端部五輪塔形
図10 37	銅製品	用途不明 弦状製品		半径 [9.1]	幅 1.7	厚さ 0.5	[73]					表面に陰刻の連続円形文
図10 38	銅製品	用途不明 板状製品	全体形 不明	長さ [12.6]	幅 1.0	厚さ 0.2	[14]					
図10 39	銅製品	唐銭 開元通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							真書 621年初鋳 背面背上月
図10 40	銅製品	北宋銭 太平通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							976年初鋳
図10 41	銅製品	北宋銭 太平通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							976年初鋳
図10 42	銅製品	北宋銭 至道元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							行書 995年初鋳
図10 43	銅製品	北宋銭 咸平元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							998年初鋳
図10 44	銅製品	北宋銭 祥符通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							1009年初鋳
図10 45	銅製品	北宋銭 天聖元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							篆書 1023年初鋳
図10 46	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							真書 1038年初鋳 背面に棒状突起
図10 47	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							真書 1038年
図11 48	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.3	方孔径 0.7							真書 1038年
図11 49	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.7							真書 1038年
図11 50	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							真書 1038年
図11 51	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.8							篆書 1038年 方孔の四辺に凹み
図11 52	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	一部欠	径 2.4	方孔径 0.7		[2.1]					篆書 1038年
図11 53	銅製品	北宋銭 嘉祐元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							真書 1056年初鋳
図11 54	銅製品	北宋銭 嘉祐通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.8							真書 1056年初鋳
図11 55	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.3	方孔径 0.7							真書 1068年初鋳
図11 56	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							篆書 1068年初鋳
図11 57	銅製品	北宋銭 元豊通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							行書 1078年初鋳
図11 58	銅製品	北宋銭 元豊通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							行書 1078年初鋳
図11 59	銅製品	北宋銭 元豊通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7							行書 1078年初鋳
図11 60	銅製品	北宋銭 元祐通寶	完形	径 2.3	方孔径 0.6							行書 1086年初鋳 外縁一部直線
図11 61	銅製品	北宋銭 元祐通寶か	完形	径 2.4	方孔径 0.7							篆書 1086年初鋳
図11 62	銅製品	北宋銭 紹聖元寶	完形	径 2.3	方孔径 0.7							行書 1094年初鋳
図11 63	銅製品	北宋銭 聖宋元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							行書 1101年初鋳
図11 64	銅製品	北宋銭 聖宋元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6							篆書 1101年初鋳
図11 65	銅製品	北宋銭 政和通寶か	1/3	(2.4)	(0.7)		[1.7]					篆書 1111年初鋳
図12 66	鉄製品	刀子か	茎欠	[10.3]	2.0	0.9	[36]					錆化顕著(膨張)

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
図12 67	鉄製品	釘	完形	長さ 10.7	幅 1.8	厚さ 0.8	23.4					錆化顕著(膨張)
図12 68	鉄製品	釘	完形	長さ 10.7	幅 1.35	厚さ 0.7	18.3					錆化顕著(膨張)
図12 69	鉄製品	釘	完形	長さ 10.1	幅 1.0	厚さ 0.8	11.8					錆化顕著(膨張)
図12 70	鉄製品	釘	先端欠	長さ [10.3]	幅 1.9	厚さ 1.3	[49.9]					錆化顕著(膨張)
図12 71	鉄製品	釘	完形	長さ 10.1	幅 0.6	厚さ 0.6	14.8					錆化顕著(膨張)
図12 72	鉄製品	釘	完形	長さ 8.9	幅 0.8	厚さ 0.6	12.4					錆化顕著(膨張)
図12 73	鉄製品	釘	完形	長さ 9.9	幅 1.0	厚さ 0.7	10.2					錆化顕著(膨張)
図12 74	鉄製品	釘	完形?	長さ 9.0	幅 0.6	厚さ 0.5	23.9					錆化顕著(膨張)
図12 75	鉄製品	釘	完形	長さ 10.1	幅 1.1	厚さ 0.8	22.6					錆化顕著(膨張)
図12 76	鉄製品	釘	先端欠	長さ [9.0]	幅 0.7	厚さ 0.6	[9.7]					錆化顕著(膨張)
図12 77	鉄製品	釘	完形	長さ 8.0	幅 1.0	厚さ 0.4	6.6					錆化顕著(膨張)
図12 78	鉄製品	釘	完形	長さ 7.6	幅 0.9	厚さ 2.5	5.4					錆化顕著(膨張)
図12 79	鉄製品	釘	先端欠	長さ [7.2]	幅 0.8	厚さ 0.7	[6.0]					錆化顕著(膨張)
図12 80	鉄製品	釘	完形	長さ 7.6	幅 1.2	厚さ 0.7	11.3					錆化顕著(膨張)
図12 81	鉄製品	釘	先端欠	長さ [7.6]	幅 1.7	厚さ 2.8	[20.1]					錆化顕著(膨張)
図12 82	鉄製品	釘	完形	長さ 7.8	幅 2.0	厚さ 0.7	17.2					錆化顕著(膨張)
図12 83	鉄製品	釘	両端欠	長さ [7.6]	幅 1.0	厚さ 0.6	[7.0]					錆化顕著(膨張)
図12 84	鉄製品	釘	完形	長さ 7.1	幅 0.4	厚さ 0.6	8.0					錆化顕著(膨張)
図12 85	鉄製品	釘	完形	長さ 7.0	幅 1.2	厚さ 0.6	8.7					錆化顕著(膨張)
図12 86	鉄製品	釘	完形	長さ 6.7	幅 0.8	厚さ 0.4	4.1					錆化顕著(膨張)
図12 87	鉄製品	釘	完形	長さ 7.3	幅 1.1	厚さ 1.0	13.6					錆化顕著(膨張)
図12 88	鉄製品	釘	完形	長さ 6.5	幅 1.1	厚さ 0.7	9.9					錆化顕著(膨張)
図12 89	鉄製品	釘	完形	長さ 7.7	幅 1.0	厚さ 0.4	5.7					錆化顕著(膨張)
図12 90	鉄製品	釘	先端欠	長さ [6.2]	幅 0.9	厚さ 0.4	[5.3]					錆化顕著(膨張)
図12 91	鉄製品	釘	完形	長さ 6.0	幅 0.8	厚さ 0.5	4.4					錆化顕著(膨張)
図12 92	鉄製品	釘	完形	長さ 5.3	幅 0.9	厚さ 0.3	4.8					錆化顕著(膨張)
図12 93	鉄製品	釘	完形	長さ 7.6	幅 1.0	厚さ 1.0	12.8					錆化顕著(膨張)
図12 94	鉄製品	釘	先端欠	長さ [5.4]	幅 0.7	厚さ 0.6	[5.7]					錆化顕著(膨張)
図12 95	鉄製品	釘	完形	長さ 5.9	幅 1.1	厚さ 0.6	6.4					錆化顕著(膨張)
図12 96	鉄製品	釘	完形	長さ 5.9	幅 1.3	厚さ 0.7	8.7					錆化顕著(膨張)
図12 97	鉄製品	釘	完形	長さ 5.2	幅 0.8	厚さ 0.7	4.8					錆化顕著(膨張)
図12 98	鉄製品	釘	完形	長さ 5.0	幅 0.8	厚さ 0.6	3.7					錆化顕著(膨張)
図12 99	鉄製品	釘か	端部欠	長さ [9.9]	幅 1.5	厚さ 0.8	[6.0]					錆化顕著(膨張)
図12 100	鉄製品	釘	完形	長さ 4.8	幅 0.7	厚さ 0.6	3.7					錆化顕著(膨張)
図12 101	鉄製品	釘	完形	長さ 4.1	幅 0.6	厚さ 0.6	2.4					錆化顕著(膨張)

() = 復元値 [] = 残存値

遺物番号	種別	器種	残存率	法量(cm)			重量(g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
図12 102	鉄製品	釘	完形	長さ 4.1	幅 0.8	厚さ 0.5	2.8					錆化顕著(膨張)
図12 103	鉄製品	釘	完形	長さ 3.7	幅 0.4	厚さ 0.4	1.1					錆化顕著(膨張)
II区1面 竪穴建物4・西側斜面												
図13 104	在地土器	ロクロ かわらけ 小	2/5	(9.0)	(6.6)	1.8		b 密	黄橙	ナデ	板状	
図13 105	在地土器	ロクロ かわらけ 小	略完形	8.8	6.0	1.8	[60]	b 密	灰黄	ナデ	板状	
図13 106	在地土器	ロクロ かわらけ 小	1/3	(10.0)	(8.9)	1.6		b粗	黄橙	ナデ	板状	
図13 107	在地土器	ロクロ かわらけ 中	1/3	(10.3)	6.8	2.7		b 密	橙	ナデ	板状	
図13 108	在地土器	手づくね かわらけ 大	略完形	13.1	—	3.0	[156]	d	黄灰	ナデ (先)		
図13 111	在地土器	手づくね かわらけ 小	4/5	9.0	—	2.3		d	灰黄	ナデ (先)		
図13 109	在地土器	手づくね かわらけ 小	完形	7.8	—	1.8		b 密	橙	ナデ		
図13 110	在地土器	手づくね かわらけ 小	完形	9.0	—	2.1		d	黄橙	ナデ (先)		
図13 112	在地土器	手づくね かわらけ 小	4/5	(9.3)	—	2.2		d	黄橙	ナデ		
図13 113	土器 (在地か)	手づくね 白かわらけ 小	1/3	(7.8)	—	1.6		密	淡桃白 ~黄白	ナデ (先)		
図13 114	舶載磁器	龍泉窯系青磁 皿Ⅰ類	底1/6	—	(5.6)	[2.1]		密 気泡	白灰 /灰緑			外底面無釉
図13 115	舶載磁器	白磁 壺(四耳壺か)	口1/4	(10.5)	—	[4.1]		密 気泡	灰白 /灰白			大宰府Ⅲ類か
図13 116	舶載陶器	褐釉壺	胴下 底1/3	—	(8.8)	[5.1]		黒色粒	褐/ 暗褐			外底面中央無釉、内面自然釉 高台接地面に粗澱痕か
図13 117	搬入土器	瓦器 坏	1/5	(9.4)	(3.6)	2.9		密	灰白 /黒			口外面~内全面ヨコミガキ
図13 118	石製品	伊予 中砥	1/2弱	長さ [5.6]	3.0	2.5	[55]		黄白			砥面1面
図13 119	銅製品	唐銭 開元通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.7		3.3					小字か 621年初鑄
図13 120	銅製品	銭 口聖口口	完形	径 2.5	方孔径 0.7		2.7					錆固着のため銭銘不明
図13 121	銅製品	銭 銭銘不明	完形	径 2.6	方孔径 0.5		3.2					錆固着のため銭銘不明
図13 122	銅製品	銭 銭銘不明	1/4	径 —	方孔径 —		[0.6]					
図13 124	鉄製品	釘	完形	長さ 8.8	幅 1.4	厚さ 0.7	23.3					錆化顕著(膨張)
図13 125	鉄製品	釘	完形	長さ 7.7	幅 1.6	厚さ 0.8	15.9					錆化顕著(膨張)
図13 127	鉄製品	釘	完形	長さ 7.2	幅 1.0	厚さ 0.5	5.3					錆化顕著(膨張)
図13 126	鉄製品	釘	完形	長さ 7.0	幅 0.9	厚さ 0.8	10.4					錆化顕著(膨張)
図13 123	鉄製品	槍鉋?	基端欠	長さ [15.0]	幅 2.1	厚さ 1.4	[43.6]					錆化顕著(膨張) 基に獣骨付着(柄の残存か)
II区1面 竪穴建物4・西側斜面下層												
図13 128	在地土器	ロクロ かわらけ 小	4/5	9.1	6.8	1.9		b 密	橙黄	ナデ	板状	
図13 129	在地土器	手づくね かわらけ 小	2/5	(8.6)	—	1.8		d 粗	灰黄	ナデ (先)		
図13 130	古代須恵 器	南比企窯 坏	底完存	—	6.0	[1.0]		密 白針	暗褐			外底面回転糸切り痕+火襷痕
II区1面 土坑2												
図13 131	在地土器	手づくね かわらけ 小	略完形	8.9	—	2.0	[80.5]	d	黄橙	ナデ	板状	
II区1面 遺構外												
図13 132	在地土器	かわらけ 転用円盤	(完形)	径 2.7	厚さ 0.7		5.7	b 粗				底部片を摩擦で整形
I区2面 ピット1												
図14 133	銅製品	唐銭 開元通寶	完形	径 2.3	方孔径 0.7		2.4					小字か 621年初鑄

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
図14 134	銅製品	北宋銭 天聖元寶	完形	径 2.5	方孔径 0.7		3.1					真書 1023年初鑄
図14 135	銅製品	北宋銭 皇宋通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.8		2.6					真書 1038年初鑄
図14 136	銅製品	北宋銭 嘉祐元寶	完形	径 2.3	方孔径 0.7		2.5					篆書 1056年初鑄
図14 137	銅製品	北宋銭 嘉祐元寶	完形	径 2.3	方孔径 0.6		3.3					篆書 1056年初鑄
図14 138	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.5	方孔径 0.7		2.5					篆書 1068年初鑄
図14 139	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		2.9					篆書 1068年初鑄
図14 140	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		3.4					篆書 1068年初鑄
図14 141	銅製品	北宋銭 元豐通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		2.5					篆書 1078年初鑄
図14 142	銅製品	北宋銭 元豐通寶	完形	径 2.3	方孔径 0.6		3.3					篆書 1078年初鑄
図14 143	銅製品	北宋銭 元祐通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.7		2.8					行書 1086年初鑄
図14 144	銅製品	北宋銭 元祐通寶か	完形	径 2.3	方孔径 0.7		2.2					行書 1086年初鑄
図14 145	銅製品	北宋銭 元祐通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.8		2.6					篆書 1086年初鑄
図14 146	銅製品	北宋銭 紹聖元寶	完形	径 2.3	方孔径 0.6		2.6					篆書 1094年初鑄
I 区2面 ピット2												
図15 147	在土土器	ロクロ かわらけ 小	完形	7.5	5.4	1.8	55	b 粗	暗橙	ナデ	板状	
図15 148	搬入土器	黒縁瓦器質碗	1/8 底欠	(9.1)	—	[3.0]		密	灰白/ 口のみ黒			
図15 149	銅製品	北宋銭 天聖通寶	完形	径 2.5	方孔径 0.6		3.2					真書 1023年初鑄
図15 150	銅製品	銭 嘉口元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.8		1.8					嘉祐元寶(篆書)か 北宋代1056年初鑄か
図15 151	銅製品	北宋銭 熙寧元寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		3.1					真書 1068年初鑄 方孔の四辺に凹み
図15 152	銅製品	北宋銭 元符通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.7		2.7					篆書 1098年初鑄
図15 153	銅製品	北宋銭 大觀通寶	完形	径 2.4	方孔径 0.6		2.6					1107年初鑄
図15 154	鉄製品	釘	完形	長さ 9.5	幅 1.4	厚さ 0.7	17.2					錆化顕著(膨張)
図15 155	鉄製品	釘	先端欠	長さ [8.4]	幅 1.6	厚さ 0.4	[12.6]					錆化顕著(膨張)
図15 156	鉄製品	釘	先端欠	長さ [8.1]	幅 1.4	厚さ 0.7	[16.5]					錆化顕著(膨張)
図15 157	鉄製品	釘	完形	長さ 8.0	幅 1.6	厚さ 0.8	22.2					錆化顕著(膨張)、石英固着
図15 158	鉄製品	釘	完形	長さ 7.0	幅 0.7	厚さ 0.4	4.8					錆化顕著(膨張)
図15 159	鉄製品	釘	完形	長さ 6.6	幅 1.1	厚さ 0.7	5.8					錆化顕著(膨張)
図15 160	鉄製品	釘	完形	長さ 6.3	幅 1.3	厚さ 0.5	4.2					錆化顕著(膨張)
図15 161	鉄製品	釘	完形	長さ 5.9	幅 0.4	厚さ 0.4	3.0					錆化顕著(膨張)
図15 162	鉄製品	釘	完形	長さ 6.4	幅 1.1	厚さ 0.7	6.1					錆化顕著(膨張)
図15 163	鉄製品	釘	下端欠	長さ [6.2]	幅 1.3	厚さ 0.7	[9.6]					錆化顕著(膨張)
図15 164	鉄製品	釘	完形	長さ 5.9	幅 0.9	厚さ 0.6	6.6					錆化顕著(膨張)
図15 165	鉄製品	釘	完形	長さ 8.0	幅 1.1	厚さ 0.6	5.9					錆化顕著(膨張) 頭部折り曲げ
図15 166	鉄製品	釘	先端欠	長さ [6.0]	幅 1.2	厚さ 0.6	[5.9]					錆化顕著(膨張)
図15 167	鉄製品	釘	完形	長さ 5.7	幅 0.9	厚さ 0.7	4.8					錆化顕著(膨張)

() = 復元値 [] = 残存値

遺物 番号	種別	器種	残存率	法量 (cm)			重量 (g)	胎土	色調 素材/表面	内底 調整	外底 圧痕	出土遺構・ その他の特徴
				口径	底径	器高						
図15 168	鉄製品	釘	完形	長さ 5.1	幅 1.2	厚さ 0.9	11.8					銹化顕著(膨張)
図15 169	鉄製品	釘	下端欠	長さ [4.5]	幅 1.3	厚さ 0.8	[5.3]					銹化顕著(膨張)
図15 170	鉄製品	釘	完形	長さ 4.9	幅 0.8	厚さ 0.5	3.0					銹化顕著(膨張)
図15 171	鉄製品	釘	先端欠	長さ [4.9]	幅 1.2	厚さ 0.9	[9.9]					銹化顕著(膨張)
図15 172	鉄製品	釘	完形	長さ 4.9	幅 1.4	厚さ 0.5	4.6					銹化顕著(膨張)
図15 173	鉄製品	釘	完形	長さ 4.9	幅 1.5	厚さ 0.4	5.2					銹化顕著(膨張)、2本が固着
図15 174	鉄製品	釘	先端欠	長さ [4.4]	幅 1.0	厚さ 0.4	[3.1]					銹化顕著(膨張)
図15 175	鉄製品	釘	先端欠	長さ [4.1]	幅 1.0	厚さ 0.5	[3.5]					銹化顕著(膨張)
図15 176	鉄製品	釘	完形	長さ 4.3	幅 1.5	厚さ 0.3	4.0					銹化顕著(膨張)
図15 177	鉄製品	釘	完形	長さ 4.6	幅 1.0	厚さ 0.5	2.5					銹化顕著(膨張)
図15 178	鉄製品	釘	下端欠	長さ [4.0]	幅 0.9	厚さ 0.7	[4.5]					銹化顕著(膨張)
図15 179	鉄製品	釘	下端欠	長さ [3.7]	幅 0.8	厚さ 0.7	[3.3]					銹化顕著(膨張)
図15 180	鉄製品	釘	下端欠	長さ [4.0]	幅 0.9	厚さ 0.8	4.4					銹化顕著(膨張)
図15 181	鉄製品	釘	頭部欠	長さ [3.7]	幅 0.8	厚さ 0.4	[2.6]					銹化顕著(膨張)
図15 182	鉄製品	釘	頭部欠	長さ [3.2]	幅 0.6	厚さ 0.3	[1.4]					銹化顕著(膨張)
図15 183	鉄製品	釘	完形	長さ 4.8	幅 0.8	厚さ 0.6	4.0					銹化顕著(膨張)
図15 184	鉄製品	釘	両端欠	長さ [2.7]	幅 0.6	厚さ 0.5	[1.3]					銹化顕著(膨張)
図15 185	鉄製品	釘	頭部欠	長さ [2.7]	幅 0.7	厚さ 0.5	[1.1]					銹化顕著(膨張)
図15 186	鉄製品	釘	両端欠	長さ [2.4]	幅 0.6	厚さ 0.4	[1.1]					銹化顕著(膨張)
図15 187	鉄製品	釘	両端欠	長さ [2.1]	幅 0.7	厚さ 0.5	[1.5]					銹化顕著(膨張)
図15 188	鉄製品	釘	下端欠	長さ [2.1]	幅 0.5	厚さ 2.4	[0.7]					銹化顕著(膨張)
図15 189	鉄製品	釘	頭部欠	長さ [2.0]	幅 0.3	厚さ 0.3	[0.3]					銹化顕著(膨張)

凡例：在地産かわらけの胎土分類

a：粉質 b：泥質 c：精良・硬質 d：泥質・精良 e：砂質・硬質

いずれの胎土も白針（骨針化石）や雲母粒・泥岩粒を含む例が主体となる（多寡や欠落もあり）。

大よそ e・d→b・c→a という順で新しくなり、cは「薄手丸深」タイプに、aは「戦国タイプ」に使用。

第五章 若宮大路周辺遺跡群出土石材の蛍光 X 線分析

竹原弘展 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

若宮大路周辺遺跡群 (鎌倉市大町一丁目 1083 番 1 地点) より出土した石器について、蛍光 X 線分析を行い、石材を検討した。

2. 試料と方法

分析対象は、②面ピット 2 より出土した白色～半透明白色の石器 5 点である (No. 1～5、図版 1)。

分析装置は、エスアイアイ・ナノテクノロジー株式会社製のエネルギー分散型蛍光 X 線分析計 SEA1200VX を使用した。装置の仕様は、X 線管が最大 50kV、1000 μ A のロジウム (Rh) ターゲット、X 線照射径が 8mm または 1mm、X 線検出器は SDD 検出器である。また、複数の一次フィルタが内蔵されており、適宜選択、挿入することで S/N 比の改善が図れる。検出可能元素はナトリウム (Na) ～ウラン (U) であるが、ナトリウム、マグネシウム (Mg)、アルミニウム (Al) といった軽元素は、蛍光 X 線分析装置の性質上、検出感が悪い。

測定条件は、管電圧・一次フィルタの組み合わせが 15kV (一次フィルタ無し)・50kV (一次フィルタ Pb 測定用・Cd 測定用) の計 3 条件で、測定時間は各条件 500～1000s、管電流自動設定、照射径 8mm、試料室内雰囲気真空に設定した。定量分析は、酸化物の形で算出し、ノンスタンダード FP 法による半定量分析を行った。

また、電子天秤 (株式会社エー・アンド・デイ製 GR-60 に同比重測定キット AD-1653 を使用) で測定可能な No. 2～5 について、空気中重量と水中重量を測定し、比重を算出した。

3. 分析結果および考察

表 1 に、半定量分析結果および比重を示す。

蛍光 X 線分析の結果、5 点いずれもケイ素 (SiO₂) が全体の約 99% を占め、ほかに微量のアルミニウム (Al₂O₃)、リン (P₂O₅)、硫黄 (S₂)、カリウム (K₂O)、カルシウム (CaO)、チタン (TiO₂)、鉄 (Fe₂O₃) 等が検出された。また、比重測定では 2.5～2.6 の値を示した。

5 点いずれも、ほぼケイ素 (SiO₂) のみからなり、石英製と確認された。火山ガラスや黒曜石のような火山岩と異なり、石英の産地の特定は困難と考えられる。

参考文献

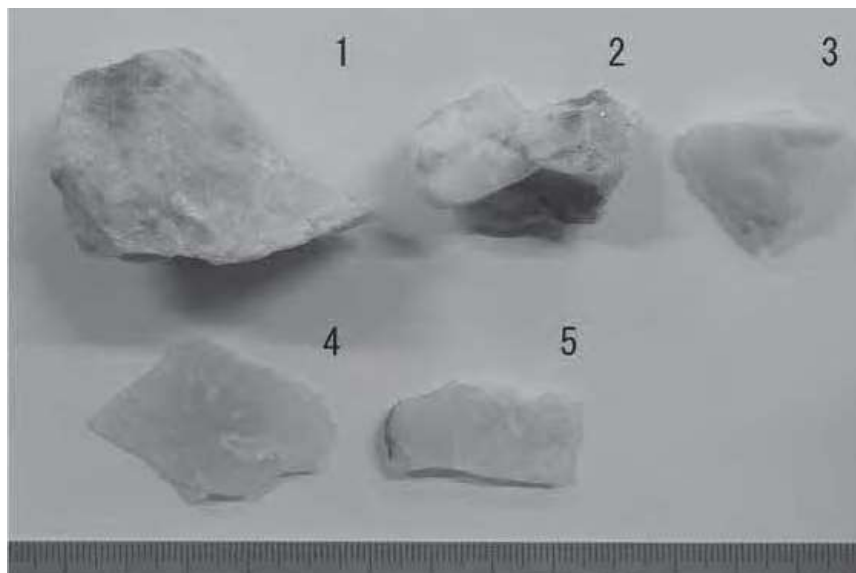
地学団体研究会編 (1996) 新版地学事典. 1443p, 平凡社.

黒田吉益・諏訪勲徳 (1983) 偏光顕微鏡と岩石鉱物 [第 2 版]. 343p, 共立出版.

中井 泉編 (2005) 蛍光 X 線分析の実際. 242p, 朝倉書店.

表 1 分析結果

No.	比重	Al ₂ O ₃	SiO ₂	P ₂ O ₅	SO ₃	K ₂ O	CaO	TiO ₂	Fe ₂ O ₃
1	—	0.64	99.04	0.08	—	0.04	0.16	0.01	0.03
2	2.5	0.36	99.42	—	—	—	0.13	0.01	0.08
3	2.5	0.37	98.81	0.62	0.04	—	0.08	0.06	0.02
4	2.6	0.47	98.87	0.49	0.04	0.03	0.08	—	0.02
5	2.6	0.36	99.43	0.12	—	—	0.08	—	0.01



試料1 = 40.2g
 2 = 11.4g
 3 = 3.2g
 4 = 3.0g
 5 = 2.1g

図版 1 分析対象遺物 (数字は分析 No.)

第六章 調査成果のまとめ

(1) 遺跡の年代と性格について

今回は約 95 m²の調査面積のうち、その半分以上が近接する滑川に向けた落ち込みの埋土で、明確に把握できた遺構は少なかった。重複する竪穴 1・3 は建物と考えると良さそうだが、竪穴 2・4 は斜面埋土と一体化しており、建物と断定するには根拠が弱い。それでも近隣における調査成果と同様、竪穴建物を主体とする中世土地利用の一端が明らかにできたかと思う。竪穴 1・3 は年代推定の根拠が少ないが、周辺で竪穴建物が盛行する鎌倉時代後半の事例と考えておきたい。この他、手づくねかわらけ～古瀬戸後期様式の製品がわずかながら見られ、13 世紀前半～15 世紀前半まで営みがあったことの傍証となる。

今回の調査で特筆すべきは、②面ピット 2 における多量の石英片の出土であろう。現地調査時に埋土を全て水洗したので 2 mm 以上のものは遺漏なく採集できたかと思う。こうした事例は鎌倉では初めてで、火打ち石の製作に関する貴重な情報を得ることができた。伴出したかわらけ (図 15-147) から 13 世紀後半の遺構と考えられ、竪穴建物が展開したのと同じ頃、手工業生産が行われる場所でもあったことを示していよう。

また、本地点は滑川の現流路に接していることから、中世における滑川関連施設の発見を期待したが、安全面の問題から地表下 2 m 以上は掘り下げることができず、川側に向けて落ちる斜面地形を部分的に確認したにとどまった。倉庫機能が想定される竪穴建物が河畔近くまで展開していたとすると、河川を行き交う物資運搬の風景が想起されるが、船着きや荷揚げに直接関わるような痕跡は見出せなかった。今後、都市鎌倉における物資の流通・集積や諸生産など、経済活動に関する考古学的情報が一層豊富になることを期待したい。

(2) 石英片の重量分布について

表 4 には、I 区の「②面ピット 2」・「②面上清掃時」・「①面下 (北側斜面埋土)」で出土した石英片の重量を掲載し、この数値をもとに、図 16 では各出土地における石英片の重量分布をグラフ化した。

②面ピット 2 では最も軽い 0.5 g 以下の剥片が圧倒的に多く、重い破片ほど数が少ないことが明確に見て取れる。②面上清掃時の資料も 5 g 以下の小片が大部分を占め、①面下 (北側斜面埋土) でも同じ傾向が見て取れるものの、10 g 超の資料が一定比率 (12%弱) 認められる点は異なる。

石英は流紋岩などの原材から割り取ったものと考えられ、火打ち石として適度な大きさに叩き割った結果、多量の剥片が生じたのであろう。若宮大路周辺遺跡群の小町二丁目 333 番 2 地点 (図 1- 地点 ⑦) では竪穴建物の床面上で 23.8 kg の原材が出土しており、石英の鉱脈が帯状に見て取れた。火打ち石の平均的な重量について、これまで特段注目されることもなかったため十分な情報はないが、筆者が近年調査・報告に携わった例では、上記の地点 ⑦と今小路西遺跡の由比ガ浜一丁目 163 番 1 地点 (本書第 1 分冊掲載) で出土した資料各 1 点を挙げるができる (図 17)。ともに敲打のため稜が潰れており、火打ち石として使った痕を明瞭に残している。地点 ⑦の資料は長さ 3.2 × 幅 2.1 × 厚さ 0.8 cm で 8.3 g、今小路西遺跡の資料は長さ 4.6 × 幅 4.1 × 厚さ 2.4 cm で 61.3 g であった。後者は全体に敲打痕が残るため完形であろう。火打ち石の一般的なサイズ・重量を知るには今少し情報を積み重ねる必要があるが、本地点では上記 2 例より小さい 5 g 以下の剥片が大多数を占め、また敲打痕を残す例も見られないことから、やはり消費の場ではなく生産との関連で理解すべき事例と考える。

管見では同様の事例を知らないため、基礎データと併せて所見を述べた。

表4 石英片計量表

I区②面ピット2 0001～0390

No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)
0001	11.9	0066	3.7	0131	1.2	0196	1.7	0261	1.8	0326	0.7
0002	3.5	0067	1.9	0132	1.6	0197	0.6	0262	0.4	0327	0.4
0003	2.8	0068	2.6	0133	1.0	0198	0.8	0263	1.0	0328	0.8
0004	4.9	0069	1.9	0134	1.7	0199	0.8	0264	0.7	0329	0.5
0005	3.8	0070	1.1	0135	2.1	0200	1.2	0265	0.9	0330	0.3
0006	3.6	0071	2.9	0136	1.9	0201	1.1	0266	0.6	0331	0.9
0007	4.5	0072	2.2	0137	2.1	0202	0.5	0267	0.7	0332	0.3
0008	2.0	0073	3.3	0138	2.4	0203	1.1	0268	1.3	0333	0.5
0009	4.7	0074	3.5	0139	1.3	0204	1.2	0269	0.5	0334	0.4
0010	3.8	0075	5.5	0140	1.0	0205	1.1	0270	1.0	0335	0.6
0011	5.5	0076	2.8	0141	2.1	0206	0.8	0271	1.0	0336	0.5
0012	1.3	0077	2.5	0142	1.6	0207	1.0	0272	0.5	0337	0.6
0013	7.7	0078	3.1	0143	1.8	0208	0.3	0273	0.7	0338	0.3
0014	2.8	0079	1.6	0144	1.1	0209	0.9	0274	0.9	0339	0.7
0015	4.2	0080	4.3	0145	1.5	0210	0.8	0275	2.3	0340	0.4
0016	2.2	0081	2.8	0146	0.6	0211	0.6	0276	2.2	0341	0.4
0017	2.0	0082	1.6	0147	1.5	0212	1.2	0277	0.8	0342	0.4
0018	4.7	0083	1.6	0148	0.8	0213	0.7	0278	1.0	0343	0.4
0019	2.0	0084	2.3	0149	1.6	0214	2.1	0279	0.8	0344	0.3
0020	1.6	0085	2.0	0150	0.9	0215	1.3	0280	1.3	0345	0.4
0021	2.0	0086	2.6	0151	1.3	0216	0.8	0281	0.9	0346	0.4
0022	2.4	0087	2.4	0152	1.9	0217	0.3	0282	0.8	0347	0.2
0023	2.9	0088	1.4	0153	1.2	0218	1.1	0283	1.3	0348	0.4
0024	1.4	0089	1.7	0154	0.6	0219	1.0	0284	1.0	0349	0.5
0025	6.6	0090	2.4	0155	0.8	0220	0.5	0285	1.1	0350	0.4
0026	5.0	0091	0.7	0156	1.4	0221	0.6	0286	1.0	0351	0.6
0027	7.7	0092	1.3	0157	0.8	0222	0.3	0287	0.6	0352	0.9
0028	3.0	0093	1.5	0158	1.1	0223	1.0	0288	1.1	0353	0.6
0029	4.7	0094	2.0	0159	1.8	0224	0.7	0289	1.0	0354	0.7
0030	6.8	0095	1.3	0160	2.3	0225	1.2	0290	0.8	0355	0.5
0031	10.5	0096	1.0	0161	1.5	0226	1.1	0291	0.8	0356	0.9
0032	4.1	0097	1.5	0162	2.2	0227	0.9	0292	0.8	0357	0.4
0033	15.3	0098	1.9	0163	1.3	0228	1.0	0293	1.0	0358	0.4
0034	11.6	0099	1.1	0164	1.4	0229	1.0	0294	0.6	0359	0.5
0035	11.3	0100	1.5	0165	0.8	0230	0.8	0295	0.8	0360	0.5
0036	4.7	0101	1.8	0166	0.7	0231	1.2	0296	0.6	0361	1.1
0037	7.6	0102	1.3	0167	1.2	0232	0.5	0297	0.7	0362	0.5
0038	5.9	0103	0.9	0168	0.5	0233	1.2	0298	0.6	0363	0.5
0039	10.8	0104	0.9	0169	0.9	0234	0.6	0299	0.3	0364	0.6
0040	5.0	0105	1.6	0170	1.5	0235	1.2	0300	0.5	0365	0.6
0041	7.8	0106	1.0	0171	1.2	0236	1.6	0301	0.4	0366	0.3
0042	5.4	0107	2.7	0172	1.0	0237	0.9	0302	0.6	0367	0.4
0043	4.1	0108	2.5	0173	0.6	0238	0.5	0303	0.9	0368	0.2
0044	3.4	0109	2.6	0174	1.1	0239	1.0	0304	0.9	0369	0.4
0045	2.6	0110	1.9	0175	1.2	0240	1.0	0305	0.6	0370	0.4
0046	5.9	0111	1.2	0176	1.3	0241	0.5	0306	0.7	0371	0.6
0047	4.1	0112	2.0	0177	1.2	0242	0.8	0307	0.7	0372	0.2
0048	4.8	0113	1.6	0178	3.3	0243	0.8	0308	0.7	0373	0.2
0049	3.2	0114	1.7	0179	1.4	0244	1.0	0309	1.1	0374	0.4
0050	3.4	0115	1.8	0180	1.3	0245	0.5	0310	0.7	0375	0.3
0051	4.1	0116	1.4	0181	1.3	0246	0.4	0311	0.6	0376	0.7
0052	4.7	0117	1.5	0182	0.9	0247	0.4	0312	0.9	0377	0.3
0053	4.5	0118	1.6	0183	1.6	0248	1.2	0313	0.5	0378	0.5
0054	3.5	0119	1.6	0184	0.8	0249	1.0	0314	0.7	0379	0.2
0055	3.9	0120	3.5	0185	1.8	0250	0.4	0315	0.4	0380	0.2
0056	2.9	0121	1.5	0186	0.9	0251	0.6	0316	0.5	0381	0.3
0057	3.1	0122	1.8	0187	0.7	0252	0.8	0317	0.3	0382	0.7
0058	3.8	0123	1.3	0188	1.2	0253	0.6	0318	0.4	0383	0.3
0059	6.1	0124	1.7	0189	0.5	0254	0.7	0319	0.4	0384	0.4
0060	5.1	0125	1.6	0190	0.5	0255	0.6	0320	0.4	0385	0.3
0061	3.2	0126	0.6	0191	0.5	0256	1.0	0321	0.5	0386	0.7
0062	1.0	0127	3.1	0192	1.1	0257	0.3	0322	0.5	0387	0.3
0063	2.3	0128	2.4	0193	0.7	0258	0.6	0323	0.4	0388	0.2
0064	2.4	0129	2.2	0194	1.2	0259	0.5	0324	0.5	0389	0.4
0065	3.8	0130	1.0	0195	0.5	0260	1.2	0325	0.5	0390	0.3

I区②面ピット2 0391～0780

No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)	No.	重量 (g)
0391	0.7	0456	0.5	0521	0.3	0586	0.3	0651	0.1	0716	0.1-
0392	0.3	0457	0.2	0522	0.2	0587	0.1-	0652	0.2	0717	0.1-
0393	0.4	0458	0.4	0523	0.2	0588	0.2	0653	0.1	0718	0.2
0394	0.3	0459	0.3	0524	0.2	0589	0.2	0654	0.1	0719	0.2
0395	0.4	0460	0.3	0525	0.2	0590	0.1	0655	0.1-	0720	0.2
0396	0.1	0461	0.2	0526	0.2	0591	0.1	0656	0.2	0721	0.2
0397	0.6	0462	0.4	0527	0.2	0592	0.1	0657	0.2	0722	0.1
0398	0.4	0463	0.1	0528	0.2	0593	0.2	0658	0.2	0723	0.2
0399	0.4	0464	0.3	0529	0.4	0594	0.2	0659	0.1	0724	0.1
0400	0.3	0465	0.3	0530	0.1-	0595	0.1	0660	0.2	0725	0.2
0401	0.3	0466	0.1	0531	0.3	0596	0.1	0661	0.2	0726	0.1
0402	0.3	0467	0.5	0532	0.1	0597	0.2	0662	0.1	0727	0.1
0403	0.2	0468	0.4	0533	0.2	0598	0.2	0663	0.3	0728	0.2
0404	0.4	0469	0.2	0534	0.1	0599	0.4	0664	0.2	0729	0.1
0405	0.4	0470	0.3	0535	0.2	0600	0.1	0665	0.3	0730	0.1
0406	0.4	0471	0.2	0536	0.2	0601	0.1-	0666	0.1-	0731	0.2
0407	0.3	0472	0.3	0537	0.2	0602	0.5	0667	0.2	0732	0.1
0408	0.7	0473	0.1	0538	0.1	0603	0.1-	0668	0.1	0733	0.1
0409	0.3	0474	0.2	0539	0.2	0604	0.3	0669	0.1	0734	0.3
0410	0.2	0475	0.4	0540	0.2	0605	0.1-	0670	0.3	0735	0.2
0411	0.4	0476	0.3	0541	0.1-	0606	0.1	0671	0.1	0736	0.2
0412	0.6	0477	0.2	0542	0.1-	0607	0.1-	0672	0.1	0737	0.1
0413	0.2	0478	0.2	0543	0.2	0608	0.1-	0673	0.1	0738	0.1
0414	0.2	0479	0.1	0544	0.2	0609	0.1	0674	0.3	0739	0.1-
0415	0.5	0480	0.1	0545	0.1-	0610	0.1	0675	0.3	0740	0.1
0416	0.4	0481	0.4	0546	0.1-	0611	0.2	0676	0.1	0741	0.2
0417	0.4	0482	0.4	0547	0.1-	0612	0.2	0677	0.2	0742	0.1
0418	0.8	0483	0.1	0548	0.4	0613	0.2	0678	0.1	0743	0.2
0419	0.4	0484	0.3	0549	0.1	0614	0.2	0679	0.2	0744	0.1-
0420	0.2	0485	0.2	0550	0.3	0615	0.1	0680	0.1	0745	0.2
0421	0.2	0486	0.4	0551	0.2	0616	0.2	0681	0.3	0746	0.2
0422	0.6	0487	0.2	0552	0.2	0617	0.1	0682	0.2	0747	0.2
0423	0.4	0488	0.3	0553	0.2	0618	0.2	0683	0.1-	0748	0.1
0424	0.6	0489	0.1-	0554	0.5	0619	0.1	0684	0.1	0749	0.1-
0425	1.2	0490	0.1	0555	0.3	0620	0.1	0685	0.1	0750	0.2
0426	0.4	0491	0.1	0556	0.2	0621	0.1	0686	0.1-	0751	0.2
0427	0.3	0492	0.1	0557	0.1	0622	0.1	0687	0.3	0752	0.1-
0428	0.4	0493	0.2	0558	0.2	0623	0.2	0688	0.1	0753	0.1-
0429	0.7	0494	0.2	0559	0.3	0624	0.3	0689	0.1	0754	0.2
0430	0.4	0495	0.1	0560	0.2	0625	0.2	0690	0.2	0755	0.1-
0431	0.3	0496	0.2	0561	0.1	0626	0.1	0691	0.2	0756	0.1-
0432	0.3	0497	0.1	0562	0.1	0627	0.1-	0692	0.1	0757	0.1-
0433	0.3	0498	0.2	0563	0.1	0628	0.3	0693	0.2	0758	0.1-
0434	0.3	0499	0.3	0564	0.1	0629	0.3	0694	0.1	0759	0.1-
0435	0.7	0500	0.1	0565	0.2	0630	0.2	0695	0.3	0760	0.1-
0436	0.5	0501	0.2	0566	0.2	0631	0.2	0696	0.2	0761	0.1
0437	0.4	0502	0.1-	0567	0.3	0632	0.1	0697	0.1	0762	0.1
0438	0.3	0503	0.1	0568	0.2	0633	0.2	0698	0.1	0763	0.1
0439	0.4	0504	0.2	0569	0.4	0634	0.3	0699	0.1-	0764	0.2
0440	0.5	0505	0.1-	0570	0.2	0635	0.2	0700	0.2	0765	0.3
0441	0.5	0506	0.3	0571	0.1	0636	0.2	0701	0.1-	0766	0.1
0442	0.4	0507	0.2	0572	0.3	0637	0.1	0702	0.1-	0767	0.2
0443	0.4	0508	0.1	0573	0.3	0638	0.3	0703	0.1-	0768	0.1
0444	0.3	0509	0.2	0574	0.2	0639	0.2	0704	0.1-	0769	0.1
0445	0.4	0510	0.3	0575	0.2	0640	0.3	0705	0.1-	0770	0.1
0446	0.2	0511	0.3	0576	0.2	0641	0.2	0706	0.1-	0771	0.1
0447	0.3	0512	0.2	0577	0.1-	0642	0.2	0707	0.1-	0772	0.1
0448	0.3	0513	0.4	0578	0.1	0643	0.2	0708	0.1-	0773	0.3
0449	0.3	0514	0.1-	0579	0.4	0644	0.4	0709	0.1-	0774	0.1
0450	0.3	0515	0.2	0580	0.2	0645	0.2	0710	0.2	0775	0.1
0451	0.1	0516	0.2	0581	0.2	0646	0.3	0711	0.1	0776	0.1
0452	0.4	0517	0.4	0582	0.2	0647	0.1	0712	0.1-	0777	0.1
0453	0.1	0518	0.2	0583	0.1	0648	0.1	0713	0.1	0778	0.1
0454	0.1	0519	0.1	0584	0.1-	0649	0.1	0714	0.1	0779	0.1
0455	0.2	0520	0.3	0585	0.1-	0650	0.1	0715	0.3	0780	0.2

No.	重量 (g)
0781	0.1
0782	0.3
0783	0.4
0784	0.3
0785	0.2
0786	0.1
0787	0.2
0788	0.2
0789	0.1
0790	0.2
0791	0.1
0792	0.1
0793	0.1
0794	0.1
0795	0.1
0796	0.2
0797	0.2
0798	0.1
0799	0.2
0800	0.1
0801	4.6
0851~0900	4.9
0901~0950	3.6
0951~1000	2.6
1001 (試料1)	40.2
1002 (試料2)	11.4
1003 (試料3)	3.2
1004 (試料4)	3.0
1005 (試料5)	2.1
1006~1094	2.7

↑ I区②面ピット2 0781 ~ 1094

No.	重量 (g)
0001	218.3
0002	34.2
0003	46.9
0004	36.7
0005	30.8
0006	33.7
0007	24.4
0008	22.3
0009	21.2
0010	20.7
0011	15.6
0012	7.8
0013	5.9
0014	4.2
0015	6.1
0016	10.3
0017	8.3
0018	9.6
0019	5.4
0020	6.6
0021	4.5
0022	5.2
0023	4.9
0024	4.2
0025	9.3
0026	3.5
0027	10.4
0028	2.7
0029	4.4
0030	5.0
0031	3.2
0032	1.6
0033	3.8
0034	1.8
0035	4.4
0036	2.9
0037	2.4
0038	3.1
0039	4.7
0040	2.3
0041	4.7
0042	4.6
0043	2.1
0044	3.4
0045	0.9
0046	2.0
0047	3.3
0048	1.9
0049	1.2
0050	2.8
0051	1.5
0052	1.4
0053	2.0
0054	2.4
0055	1.4
0056	1.4
0057	2.2
0058	1.4
0059	2.6
0060	2.1
0061	1.5
0062	2.2
0063	2.5
0064	0.9
0065	2.6

No.	重量 (g)
0066	2.5
0067	1.9
0068	1.3
0069	0.8
0070	0.5
0071	0.7
0072	1.0
0073	0.9
0074	0.9
0075	1.3
0076	0.6
0077	0.6
0078	0.4
0079	0.4
0080	0.7
0081	0.9
0082	2.5
0083	0.8
0084	0.5
0085	0.5
0086	1.3
0087	0.8
0088	2.7
0089	1.2
0090	1.1
0091	0.5
0092	0.9
0093	1.5
0094	0.8
0095	1.0
0096	0.7
0097	0.8
0098	0.7
0099	0.7
0100	0.4
0101	0.5
0102	0.2
0103	0.5
0104	0.2
0105	0.6
0106	0.6
0107	0.3
0108	0.5
0109	1.2
0110	0.9
0111	0.4
0112	0.2

↑ I区①面下 (北側斜面埋土) 0001 ~ 0112

No.	重量 (g)
0001	8.3
0002	10.8
0003	6.0
0004	3.8
0005	2.8
0006	1.3
0007	1.7
0008	3.1
0009	2.8
0010	0.7
0011	0.8
0012	1.0
0013	2.1
0014	3.4
0015	0.6
0016	0.6
0017	2.5
0018	3.1
0019	1.8
0020	2.4
0021	0.9
0022	1.9
0023	0.2
0024	1.4
0025	0.9
0026	1.0
0027	0.2
0028	0.1
0029	0.5

↑ I区②面上 清掃時 0001 ~ 0029

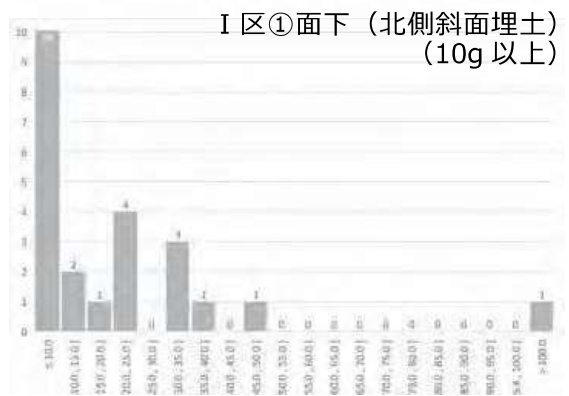
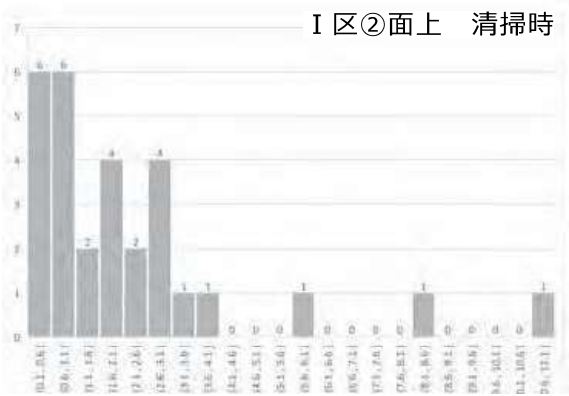
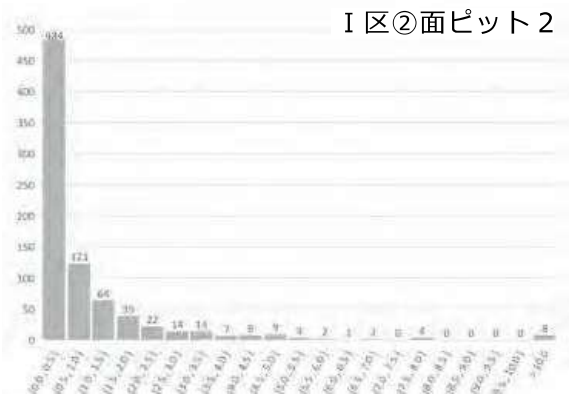
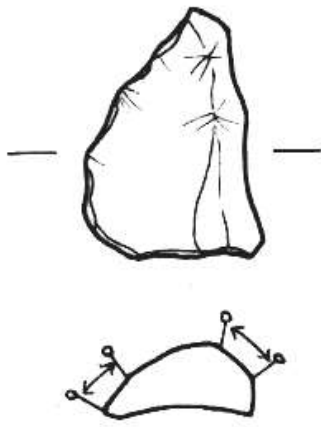


図 16 石英片の重量分布 (表 4 より)

凡例 : 「0.1-」 = 0.1g 以下

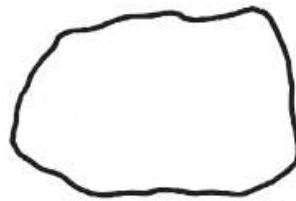
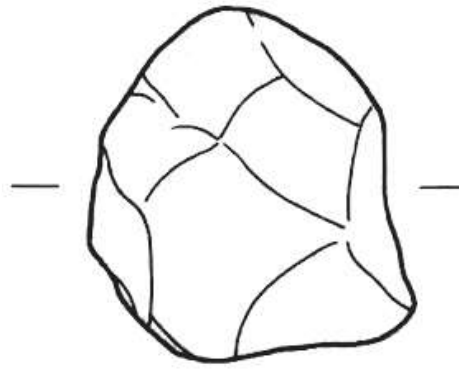


長さ 3.2 × 幅 2.1 × 厚さ 0.8cm

重量 8.3 g

↑ 若宮大路周辺遺跡群

(小町二丁目 333 番 2 地点)

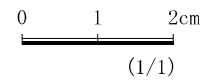


長さ 4.6 × 幅 4.1 × 厚さ 2.4cm

重量 61.3 g

← ↑ 今小路西遺跡

(由比ヶ浜一丁目 163 番 1 地点)



- ・ 若宮大路周辺遺跡群 (小町二丁目 333 番 2 地点)

鎌倉市教育委員会 2020 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 36 (第 1 分冊)』 所収

- ・ 今小路西遺跡 (由比ヶ浜一丁目 163 番 1 地点)

鎌倉市教育委員会 2021 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37 (第 1 分冊)』 所収

図 17 石英製火打ち石の事例 (実寸大)



1. I区 表土掘削 (南から)



2. I区①面 竪穴建物1 (南東から)



3. I区②面 遺構検出状況 (北西から)



4. I区②面 遺構検出状況 (南西から)



5. I区②面 遺構検出状況 (東から)



6. I区②面 ピット3完掘状況 (北東から)



7. I区南壁 断面 (北東から)



8. I区東壁 断面 (西から)

図版 2



1. I区①面 竪穴建物1
下層トレンチ (南西から)



2. II区 表土掘削 (東から)



3. II区①面 全景 (北東から)



4. II区①面 竪穴建物3 (南から)



5. II区①面 竪穴建物4・西側斜面 (北東から)

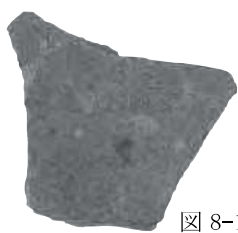


図 8-1

1 確認調査時



2

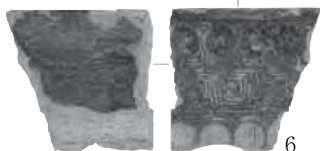
2 排土山



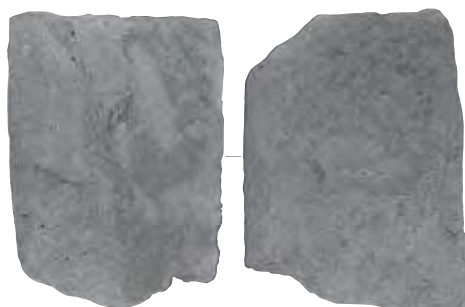
3



4



6



7

3 ~ 7 I区攪乱

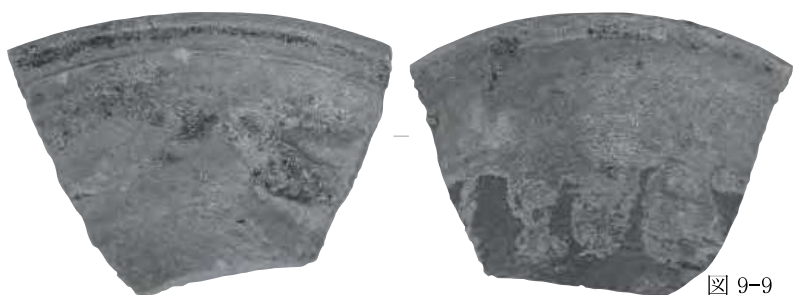


図 9-9



15

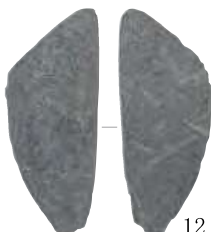
15 II区①面上



10

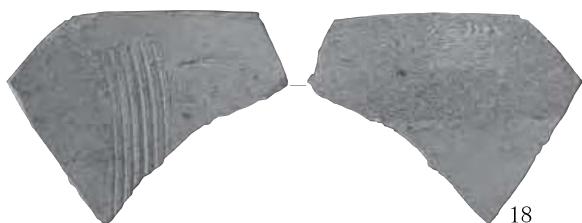


11



12

9 ~ 12 I区①面上



18



21

21 II区①面
竪穴建物1下層



19



20

18 ~ 20 II区①面 竪穴建物1上層

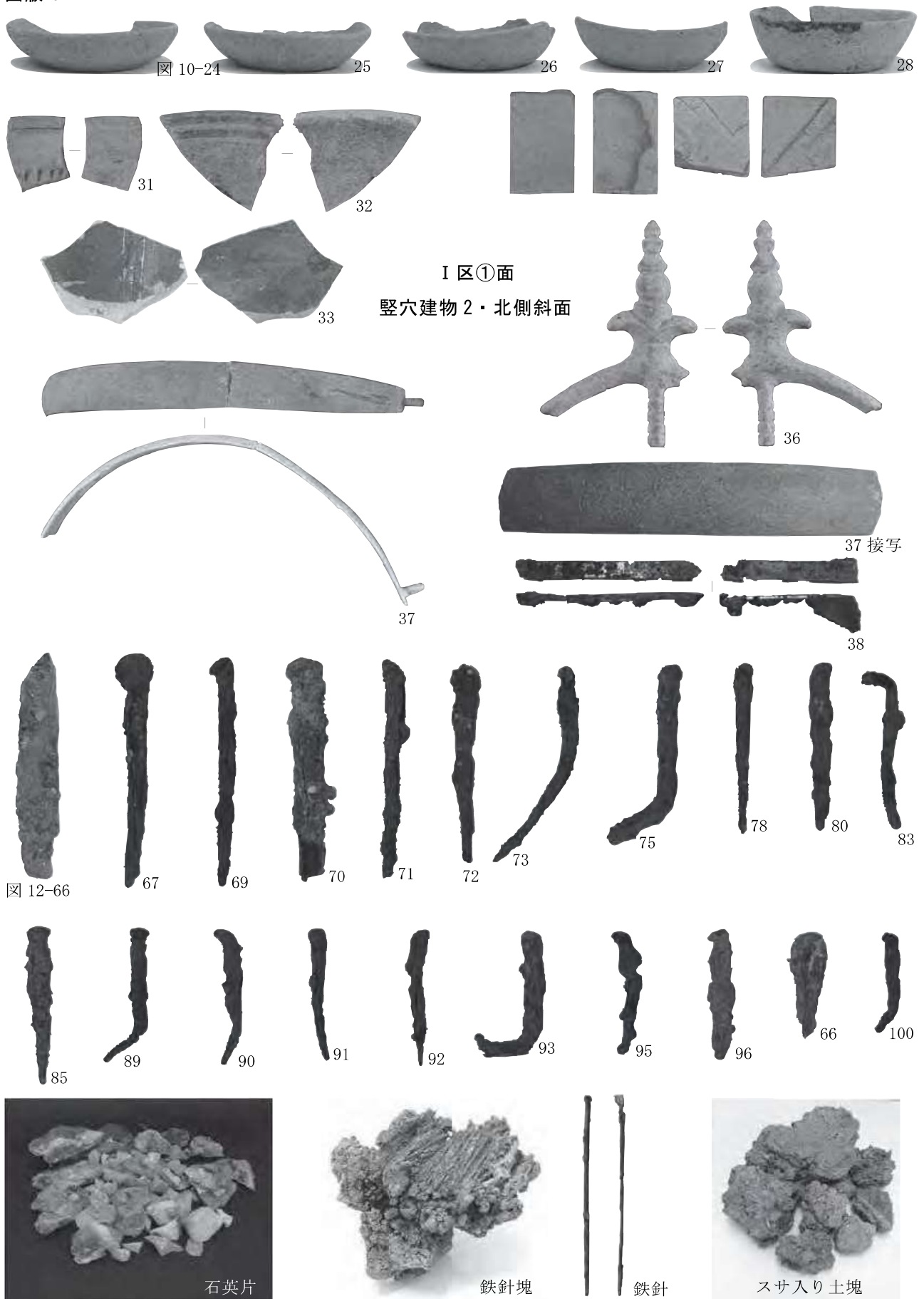


23

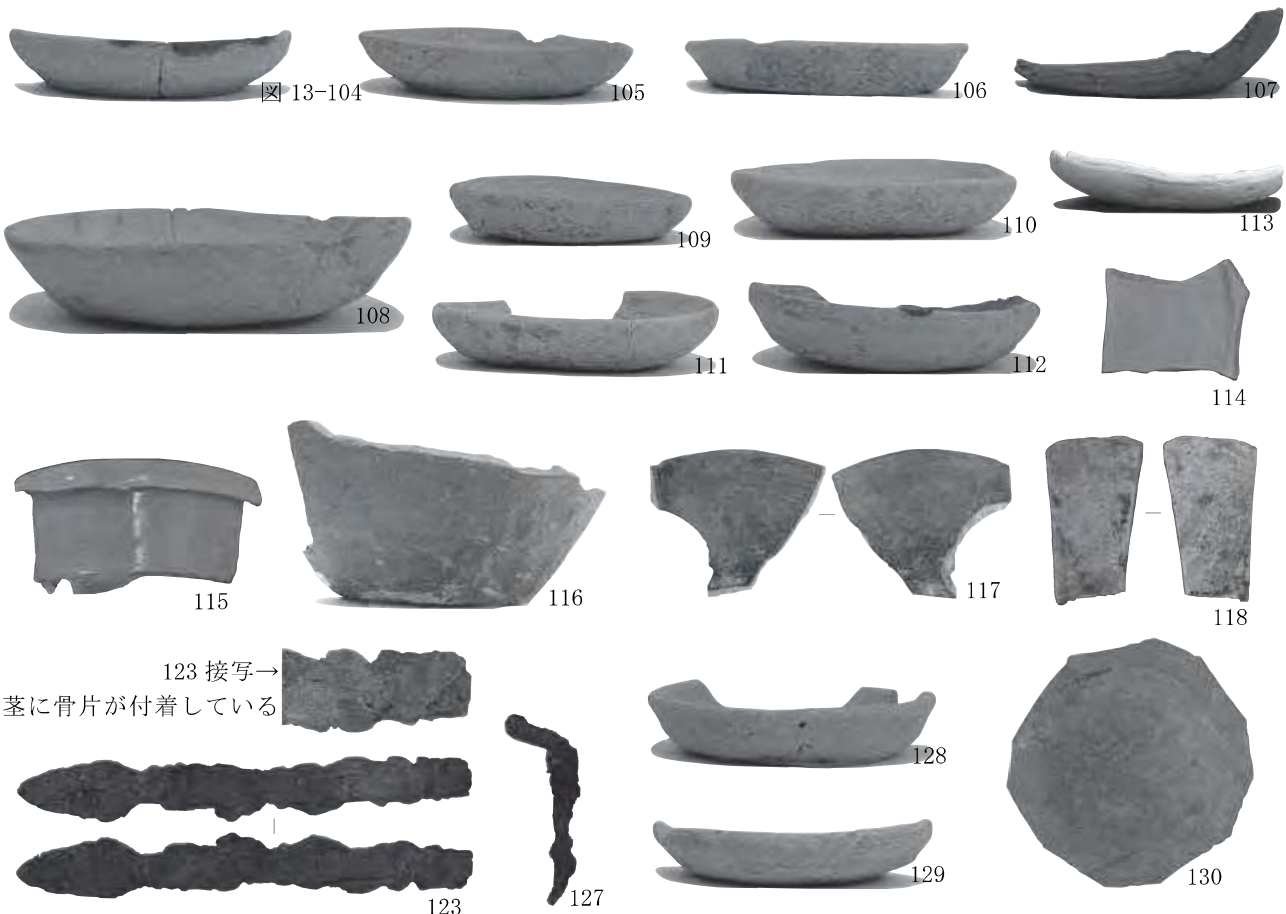
23 II区①面竪穴建物1下層下

出土遺物① (縮尺=約 2/5)

図版 4



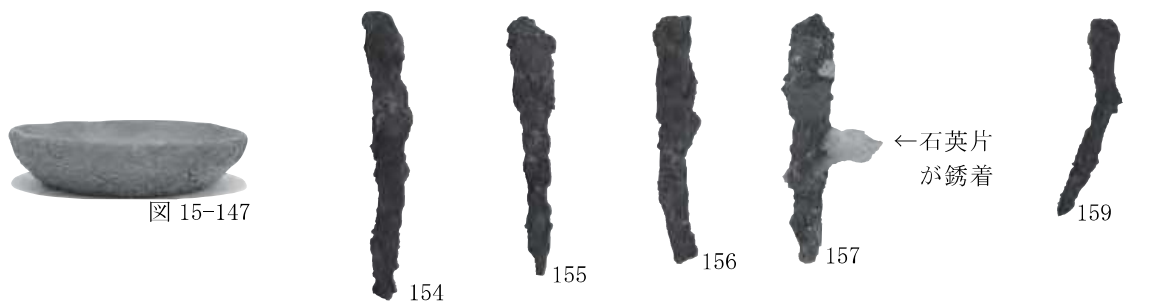
出土遺物② (縮尺=約 2/5、36 と単体の鉄針 2 点は実寸大)



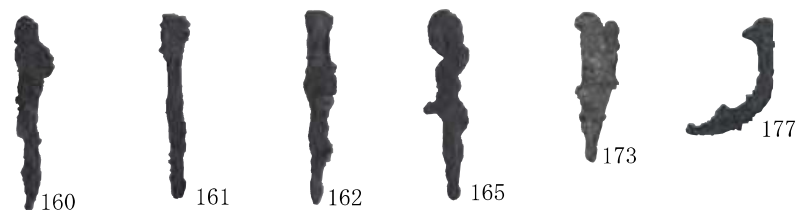
104 ~ 127 II区①面 竪穴建物 4・西側斜面



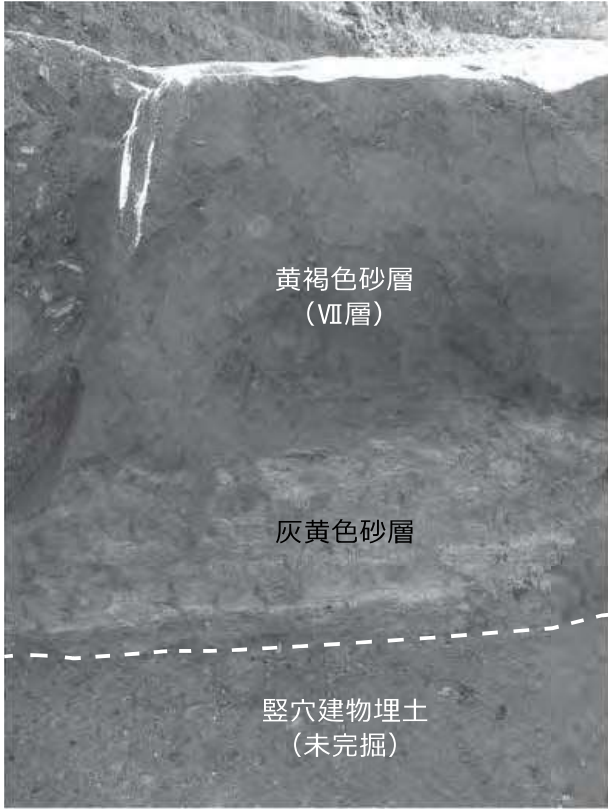
石英片 I区②面 清掃時



147 ~ 175 I区②面 ピット 2



出土遺物③ (縮尺=約 2/5)



◀ II 区①面 竪穴建物 3 の壁面に見る自然堆積砂層



I 区①面 竪穴建物 2・北側斜面出土
錫杖頭の全体イメージ▶
(図 10 - 36、写真は原寸大)

長谷小路周辺遺跡 (No. 236)

鎌倉市長谷二丁目 274 番 1 の一部、274 番 2, 275 番 6 地点

例 言

1. 本報は鎌倉市長谷二丁目 274 番 1 の一部、274 番 2、275 番 6 に所在する遺跡の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は個人住宅建築にかかる建築範囲約 69 m²を対象とし、平成 30 年 12 月 17 日から平成 31 年 1 月 25 日にかけて実施した。
3. 現地における調査体制は以下の通りである。

調査担当者：後藤 健

調査員：神田倫子・菊川泉

作業員：小林貞明・寺尾征夫・松澤和通・吉澤功

4. 本報告作成は以下の分担により行った。

遺物実測：岩崎卓治・須佐直子

遺物図版作成：後藤 健・岡本夏菜・清水由加里・田畑衣理

遺構図版作成：後藤 健

観察表：岡本夏菜・田畑衣理

遺構写真：後藤 健

遺物写真：須佐仁和

写真図版作成：後藤 健・岡田慶子・岡本夏菜

執筆：後藤 健

5. 発掘に関わる出土品などの資料は鎌倉市教育委員会が管理・保管している。

6. 本報告の遺物図版の縮尺は以下の通りである。

遺物実測図 1/3 (一部 1/4) 銭 1/1 各挿図にはスケールを表示してある。

7. 遺物は可能な限り復元して実測した。紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。遺物に関する詳細は観察表にまとめて記載。

- ・復元実測の遺物に関しては、計測値に () を付して表記している。
- ・木製品のうち器形から用途を確実に判別できないものは「…状」として提示してある。
- ・文章中の「かわらけ」はロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
- ・ロクロ成形かわらけの底径は回転糸切りの外径部分で、手づくね成形かわらけの底径は、器面が接地した箇所で計測している。
- ・陶磁器に関しては、常滑は中野晴久氏、瀬戸製品に関しては藤澤良祐氏、磁器は山本信夫氏の編年に基づいて分類した。破片のため不明なものについては割愛した。

8. 発掘調査及び報告書作成に関しては次の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。(敬称略・五十音順)

伊丹まどか、押木弘巳、汐見一夫

本文目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	
第1節 歴史的環境	337
第2節 調査の方法と経緯	340
第3節 堆積土層	341
第二章 発見された遺構と遺物	343
第1節 第1面の遺構・遺物	343
第2節 第2面の遺構・遺物	345
第3節 近代の遺構と出土遺物	354
第三章 考察とまとめ	370

挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	338	図16 近代遺構出土遺物(3)	357
図2 調査位置とグリッド配置図	340	図17 近代遺構出土遺物(4)	358
図3 調査区中央堆積土層図	341	図18 近代遺構出土遺物(4)	359
図4 調査区壁面堆積土層図	342	図19 近代遺構出土遺物(6)	360
図5 第1面全体図(S=1/60)	343	図20 近代遺構出土遺物(7)	361
図6 第1面出土遺物	345	図21 近代遺構出土遺物(8)	362
図7 第2面全体図(S=1/60)	346	図22 近代遺構出土遺物(9)	363
図8 第2面遺構	347	図23 近代遺構出土遺物(10)	364
図9 第2面出土遺物(1)	348	図24 近代遺構出土遺物(11)	365
図10 第2面出土遺物(2)	359	図25 近代遺構出土遺物(12)	366
図11 第2面出土遺物(3)	350	図26 近代遺構出土遺物(13)	367
図12 第2面出土遺物(4)	351	図27 近代遺物(1)	368
図13 近代遺構全測図(S=1/60)	354	図28 近代遺物(2)	369
図14 近代遺構出土遺物(1)	355		
図15 近代遺構出土遺物(2)	356		

表目次

表1 中世出土遺物観察表	372	表3 遺物集計表	385
表2 近代出土遺物観察表	379		

图版目次

写真图版 1 ······	· 387	写真图版 7 ······	· 393
写真图版 2 ······	· 388	写真图版 8 ······	· 394
写真图版 3 ······	· 389	写真图版 9 ······	· 395
写真图版 4 ······	· 390	写真图版 10 ······	· 396
写真图版 5 ······	· 391	写真图版 11 ······	· 397
写真图版 6 ······	· 392		

第一章 調査地点の位置と歴史的環境

第1節 歴史的環境（図1）

本調査地点は JR 横須賀線鎌倉駅から直線距離で南東約 1.5km、鎌倉市長谷二丁目 274 番 1 の一部、274 番 2、275 番 6 地点に所在する。

長谷小路周辺遺跡は東西約 1km、南北約 300m の広大な範囲にわたり、調査地点は遺跡範囲内でも西北部に位置している。

地形的には稲村より北に連なる丘陵によって形成される、南に向いて大きく開口する谷戸の開口部に位置すると言える。調査地点周辺は北側の丘陵からは 180 m ほど離れ、現在はやや平坦な地となっている。

由比ガ浜の海岸線までは約 380 m で、現在の海岸線からはやや離れた箇所にあたる。西約 60 m は稲瀬川が流れる。稲瀬川は北に延びる長谷大谷を源流として、高德院の東を通り、長谷寺前の交差点一帯では暗渠となっているが、その南では現在でも流路が見られ、由比ガ浜に注ぐ。

南方へ約 170m には江ノ島電鉄長谷駅がある。北側には県道鎌倉葉山線が東西に通っている。六地藏に至るまでの区間が一般には長谷小路と呼ばれている。この交通路は遺構としては確認されているわけではないが、古東海道とも推定されている。また極楽寺切通を抜けてくる交通路と大仏坂切通を抜けてくる交通路が交差する地点にもあたり、古くからの交通の要所であったと考えられる。

西へ約 280 m には浄土宗梅光山長谷寺がある。長谷寺は海光山慈照院と号す。開山は徳道、開基藤原房前で天平 8 年（736）創建と伝わる。実際の創建年代は不詳だが、鎌倉時代に存在していたことは鐘銘より確実とされる。

北東約 200 m には甘縄神明社がある。甘縄神明社は縁起によれば和銅 3 年（710）に行基による創建で染谷時忠が山上に神明宮を、麓に円徳寺を建立したのがその始まりとされる。

鎌倉時代以前創建と考えられる宗教施設が比較的多い地域でもある。

甘縄神明社の南方には、安達盛長の屋敷をはじめ千葉胤綱の屋敷も存在していたと推定されており、調査地の北方は武家の屋敷が数多く立ち並んでいた地域である可能性もある。

周辺地域では幾つかの地点で考古学的調査が行われている。

第 2 地点では 14 世紀中葉の遺構面が確認されている。鉄滓や輔の羽口が出土し、生産に関わる遺跡の存在が推定される。

第 4 地点では 14 世紀前半～中葉と推定される遺構面が 2 面確認されている。方形竪穴建物 2 棟、大量にかわらけが廃棄された土坑などが検出されている。また 7～9 世紀に属すると考えられる古代遺物が出土している。

第 5 地点では 14 世紀前半と想定される井戸、土坑、溝、ピットが検出中世の井戸と溝が検出されている。

第 7 地点では、中世以前に属するとされる落ち込み、あるいは自然流路の氾濫源が東側で確認されている。

第 9 地点では、中世の河川跡が検出されている。河川は旧稲瀬川本流か支流に相当すると推定される。他に 2 基の井戸が検出されている。

第 10 地点では 14 世紀代の柱穴列が検出され、河川流路の方向に規制された区画が推定されている。中世以前の遺構も検出。

第11地点では丘陵裾部の段上と、その段下の平坦地から検出された遺構群から、13世紀末～14世紀前半の葬送の場を備えた寺院跡の存在がと推定されている。

第15地点では13世紀末～14世紀後半において2面の遺構面を検出。稲瀬川旧下流と推定される河川跡、それを埋め立てた道路面が確認されている。古代に属するカマド跡も検出。

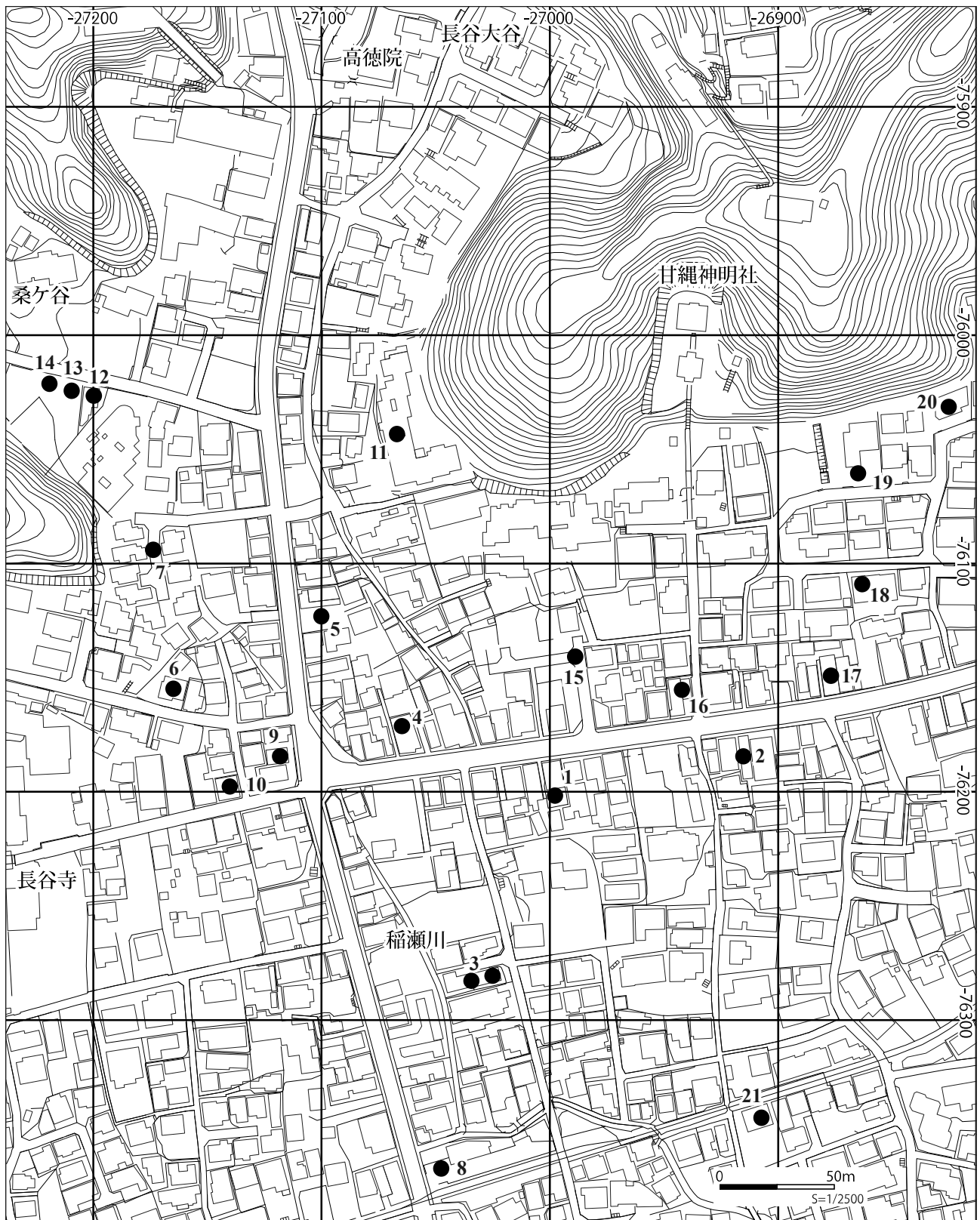


図1 調査地点と周辺の遺跡

No.	名称	住所	調査者	調査	刊行	文献
1	長谷小路周辺遺跡	長谷二丁目274番1の一部、274番2、275番6	後藤	2018	2020	本報告
2	長谷小路周辺遺跡	長谷二丁目252番1	菊川	1989	1991	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7-1
3	長谷小路周辺遺跡	長谷二丁目115番25	宮田・滝澤	2014	2015	長谷小路周辺遺跡 (No. 236) 発掘調査報告書
4	長谷小路周辺遺跡	長谷一丁目33番3	斉木・伊丹	1997	1992	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書15-第2分冊-12
					1998	鎌倉遺跡調査会調査報告6 長谷小路周辺遺跡13
5	長谷小路周辺遺跡	長谷一丁目284番1	玉林・田代	1987	1988	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書4-5
6	長谷小路周辺遺跡	長谷三丁目641番	福田	2004	2008	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24-11
7	長谷小路周辺遺跡	長谷三丁目633番2の一部外	瀬田哲夫	2006	2007	長谷小路周辺遺跡 (No. 236) 発掘調査報告書 ー長谷三丁目633-2の一部他7筆地点ー
8	長谷小路周辺遺跡	長谷二丁目229番1、114番7地点	宮田・滝澤	2019	2020	長谷小路周辺遺跡 (No. 236) 発掘調査報告書
9	長谷観音堂周辺遺跡	長谷三丁目39番4	宗臺	1993	1995	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 平成6年度発掘調査報告(第2分冊) ー8
10	長谷観音堂周辺遺跡	長谷三丁目41番イ	瀬田	1992	1994	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10 平成5年度発掘調査報告(第2分冊) ー6
11	高德院周辺遺跡	長谷一丁目290番1	宗臺	1988	1989	長谷一丁目190-1地点遺跡 高德院周辺遺跡群内、グランフォルム鎌倉建設に伴う中世遺跡の発掘調査報告書
12	桑ヶ谷療病院跡	長谷三丁目630番17	木村	1990	1991	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7-11
13	桑ヶ谷療病院跡	長谷三丁目630番1	田代	1990	1991	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7-10
14	桑ヶ谷療病院跡	長谷三丁目630番1	伊丹(原)	2011	2019	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書35-第1分冊-5
15	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目271番1他4筆		2008	2008	甘縄神社遺跡群 (No. 177) 発掘調査報告書
16	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目271番10	木村	1992	1995	甘縄神社遺跡群発掘調査報告書
17	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目238番10	宮田・滝澤	2015	2019	甘縄神社遺跡群 (No. 177) 発掘調査報告書
18	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目236番1	福田	1991	1992	神奈川県埋蔵文化財調査報告34
19	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目227番	大三輪	1978	1983	鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報 I-43
20	甘縄神社遺跡群	長谷一丁目227番25	馬淵	2003	2007	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23-第1分冊-3
21	由比ガ浜南遺跡	長谷二丁目122番9,10	斉木・汐見	1989	1990	神奈川県埋蔵文化財調査報告32

第16地点では14世紀初頭～14世紀後半にかけて3面の遺構面を検出。方形竪穴建物、木組、溝などが検出され、掘立柱建物が20棟が確認されている。

第17地点では13世紀後半～14世紀前半にかけて3期の遺構面が検出されている。掘立柱建物、井戸、土止め遺構、溝と思しき段差が検出。

調査地点北側では中世の稲瀬川にかかわる流路が検出されており、流路が頻繁に流れを変えていたことが想定される。この周辺の建物はその流路に合わせるような配置を取っている可能性が指摘されており、尾根と河川に沿った区画がなされていた可能性も考えられる。

参考文献

貫達人・川副武胤 1980『鎌倉廃寺事典』有隣堂

鎌倉市史編纂委員会 1972『鎌倉市史 総説編』吉川弘文館

鎌倉市史編纂委員会 1972『鎌倉市史 社寺編』吉川弘文館

第2節 調査の方法と経緯

当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地である長谷小路周辺遺跡群の範囲内にあたり、当該地周辺の調査状況から、地下に中世の遺構が存在することは確実に考えられた。

本発掘調査は個人住宅の建築に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が実施した。建築計画では基礎工事により地下107cmまで掘削が行われることになり、地下遺跡への影響が考えられるため、平成30年5月18日に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財の確認調査を実施した。

地表下110cmまで掘削した結果、地表下68cmで砂層が露出し、砂層を掘り込んでいる遺構が確認された。遺構が比較的地表下の浅い地点に存在することが推測され、基礎工事によりこれらの遺構に影響を及ぼすことが確実に予測されたため、建築計画実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断がなされた。

以上の手続きより、平成30年12月17日～平成31年1月25日の約1ヶ月半をかけて現地での調査を実施した。

調査は重機による表土除去後、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から、41.56㎡の調査範囲を二分割して調査を進めた(図2)。基礎工事の深度は107cmであり、掘削深度はその高さまでの制限によって一部の遺構を除き、その高さより下には発掘を行わずに終了した。結果2面におよぶ生活面を確認し、第2面においては全面的に砂層となったため、これを中世基盤層と判断した。



図2 調査位置とグリッド配置図

第3節 堆積土層 (図3)

本調査地点では上述のとおり2面におよぶ中世の遺構面を確認した。基本となる土層の堆積状況を比べておく。現地表面はおよそ海拔6.72m～6.74mを測る。表土は50～60cmほど堆積しており、近現代の攪乱土である。第1面は遺構検出面の標高が6.26～6.30mであるが、ほぼ全体が近代の掘り込みより削平されてしまっており、僅かに北部(2区)で中世の遺構と考えられるピット等が確認されたのみである。整地層はやや大型の泥岩を比較的多く混入した暗褐色土によるものと考えられる。

第2面も一部は近代の遺構の掘り込みにより削平されてしまっている。検出面の標高は6.05～6.20mである。第1面を構成する暗褐色土を取り去った茶褐色砂層および灰白色の砂層で構築されている。風成砂層と考えられ、この砂層が中世基盤層に相当すると考えられる。

第2面以下は掘削深度制限により、細かな状況は確認できていない。基本的には灰白色砂層の下は砂が続くのではないかと考えられる。それぞれの細かい堆積状況については図3、4に提示しておく。

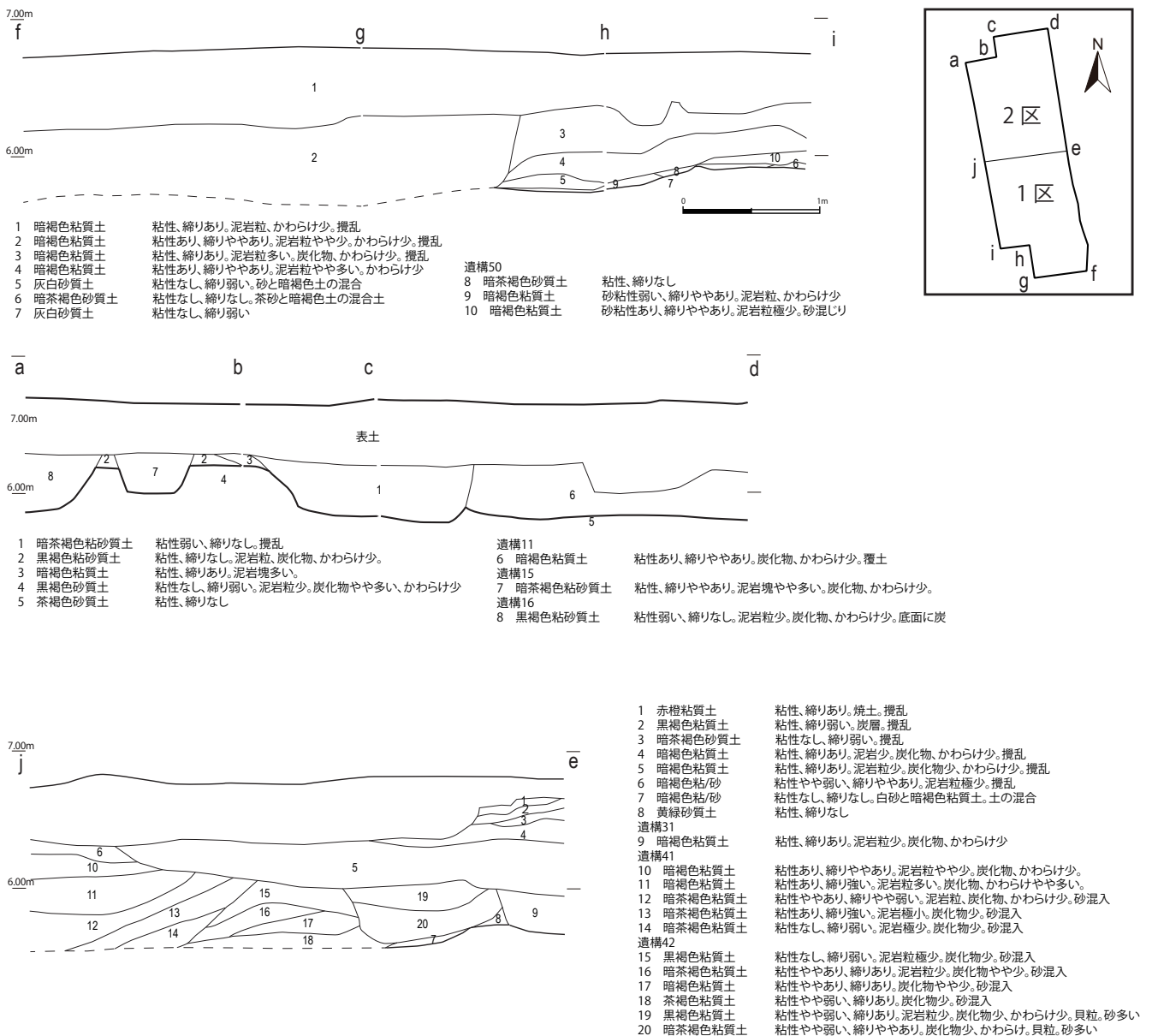


図3 調査区壁面堆積土層図1

第二章 発見された遺構と遺物

第1節 第1面の遺構・遺物

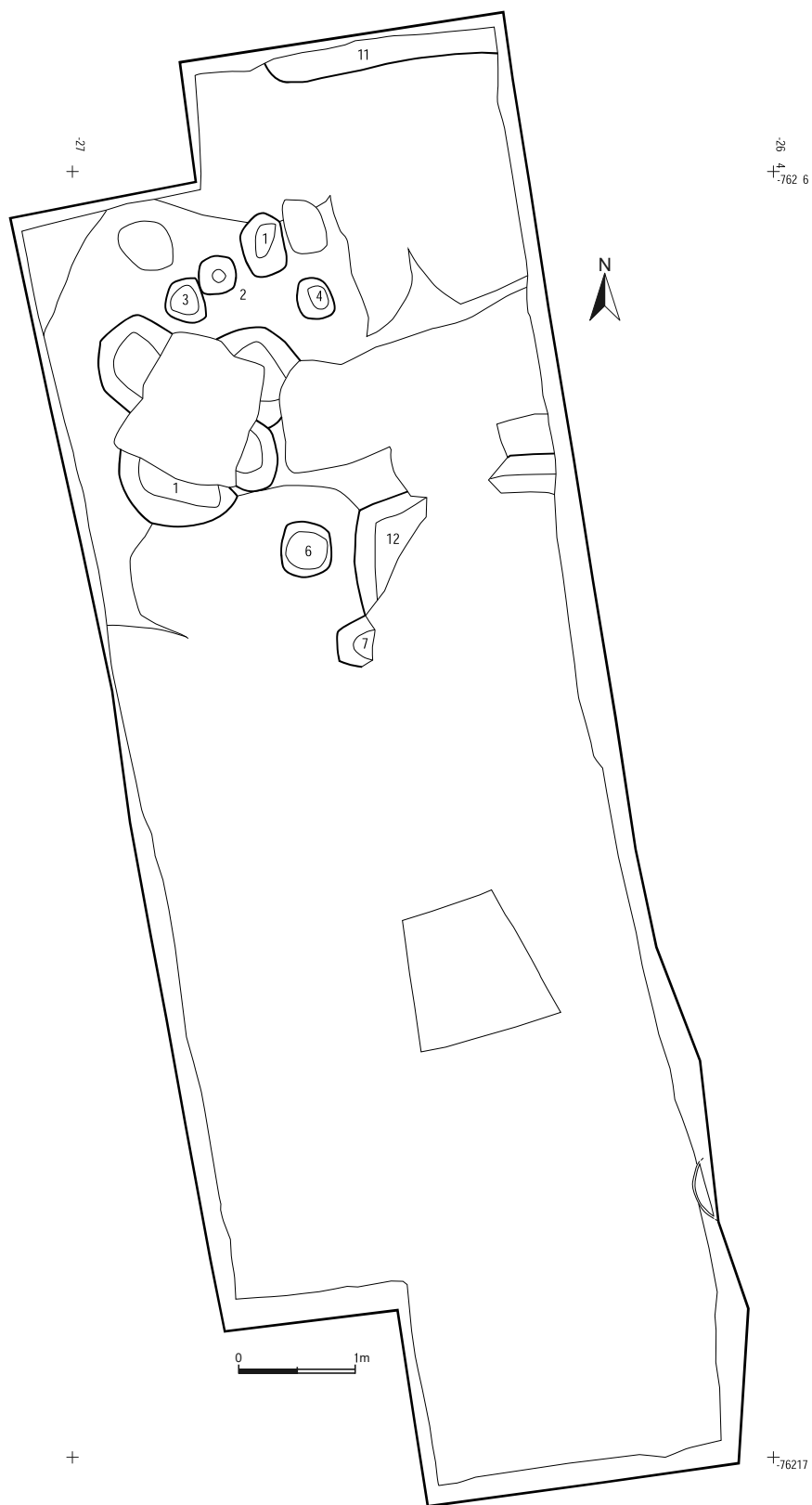


図5 第1面全体図 (S=1/60)

遺構	レベル	上端	最大上端	レベル	底面
1	6.26	0.52	6.04		
2	6.27	0.35	6.11		
3	6.26	0.37	6.09		

遺構	レベル	上端	最大上端	レベル	底面
4	6.28	0.37	6.17		
5	6.30	0.58	6.08		
6	6.18	0.50	6.06		

遺構	レベル	上端	最大上端	レベル	底面
7	6.22	0.43	6.02		
8	6.29	0.72	6.13		
9	6.30	0.68	6.17		

遺構	レベル	上端	最大上端	レベル	底面
10	6.32	1.03	6.09		
11	6.17	-	5.78		
12	6.21	1.18	5.92		

第1面(図5)ほぼ全体が近代の掘り込みより削平されてしまっており、僅かに北部(2区)で中世の遺構と考えられるピット等が確認されたため、中世面として取り扱っておく。遺構検出面の標高は6.26～6.30mであるが上方は近代の掘り込み等で相当削平されてしまっていると考えられる。整地層はやや大型の泥岩を比較的多く混入した暗褐色土によるものである。遺構としてピット6穴、土坑4基を検出した。全体が残っており平面形を推定できるのはごく一部のピットのみである。建物の明瞭なプランなどは不明であり、切り合い関係もうかがうことはできない。

遺物は主にかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、土質火鉢、瓦器、鉄釘、滑石製品、自然遺物などが出土している。

遺構

ピット

平面形は円形、楕円形を呈する。覆土は遺構1、6、7は黒褐色粘質土でやや類似。締まりはやや弱い。泥岩をやや多く含み、炭化物やかわらけ片は少量のみ。

それ以外のピットは暗褐色粘質土で、締まりはあり。泥岩はやや多く、炭化物やかわらけ片は少量のみである。いずれの遺構からも図示できるような遺物は出土していない。

土坑

西北部にまとまって検出。切り合って可能性もあるが、近代の掘り込みで削平され不明。

遺構9(図5)

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒やや多く、炭化物、かわらけ片少。出土遺物(図6):1はかわらけ

遺構10(図5)

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒やや多く、炭化物、かわらけ片やや少。出土遺物(図6):2はかわらけ

遺構12(図5)

やや大型の方形を呈すると考えられる土坑。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒、炭化物、かわらけ片少。削平が激しく、規模や正確な形態は不明。図示可能な出土遺物はない。

1面構成土出土遺物(図6)

1面より2面検出までの間の堆積より出土した遺物。3～15はかわらけ。16は常滑甕、17は常滑片口鉢Ⅰ類、18は常滑片口鉢Ⅱ類、19は瀬戸器種不明、20は磨り常滑、21は土製の鍔釜、22は円形の土製品、23は筭。24～27は中世以前。24、25は須恵器甕類、26、27は土師器甕。

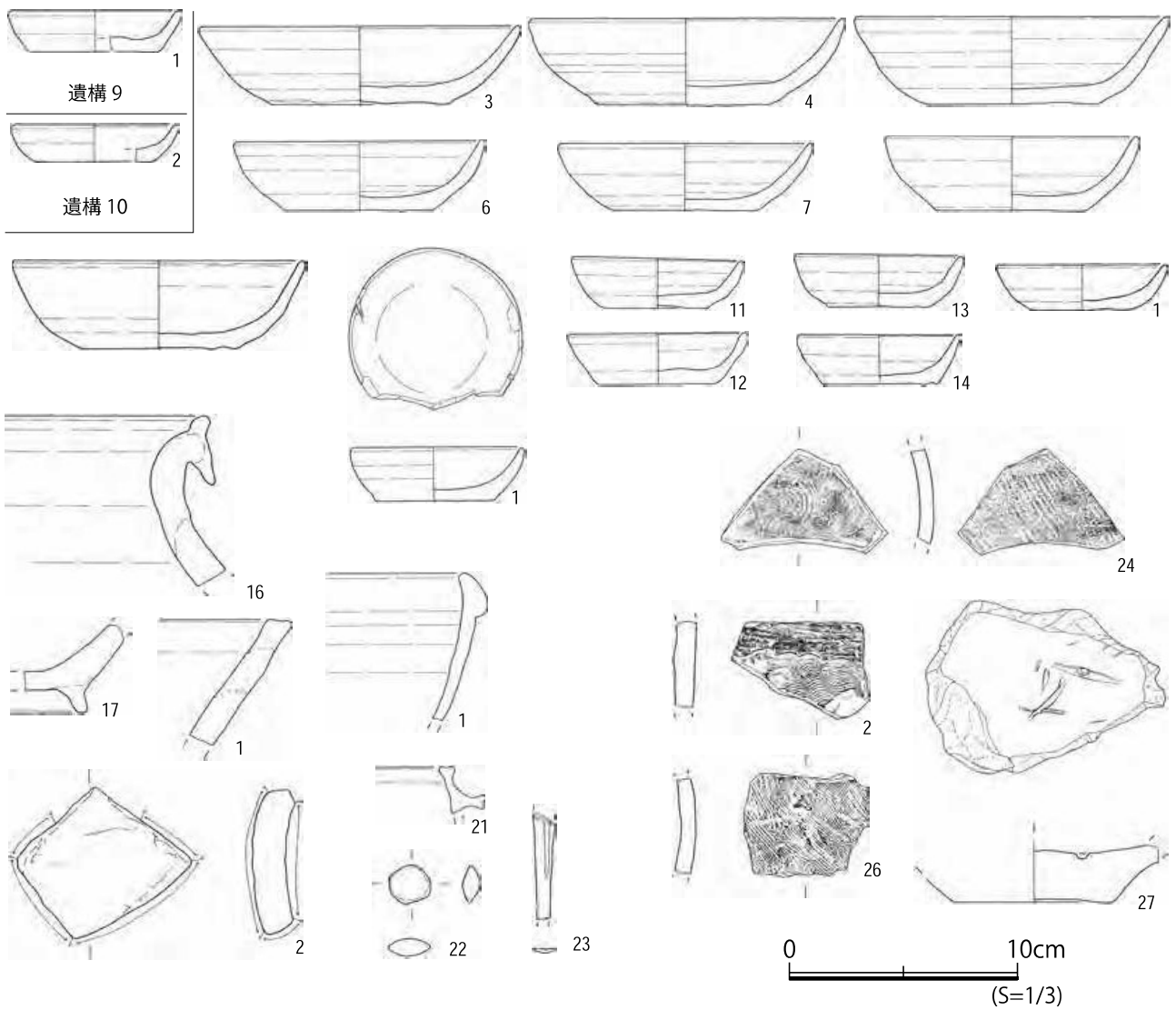


図6 第1面出土遺物

第2節 第2面の遺構・遺物

第2面(図7)も一部は近代の遺構の掘り込みより削平されてしまっている。検出面の標高は6.05～6.20mである。第1面を構成する暗褐色土を取り去ると茶褐色砂層となりまたすぐに灰白色の砂層となる。遺構としてはピット15穴、土坑9基、方形土坑18基を検出した。調査区全体で大小の方形土坑が基本的に分布し、重複して切り合っており、同じような場所になんども構築されていることが伺える。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、備前、亀山、青磁、白磁、青白磁、土質火鉢、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘などの金属製品、滑石製品などの石製品、自然遺物が出土している。

ピット

方形土坑の合間に幾つかピットが検出されている。これらによって構築される建物のプランは見出し難い。

遺構 13 (図 7)

楕円形を呈するピット。覆土は黒褐色砂質土で締まりなし。出土遺物 (図 9) : 1 は土師器坏。

遺構 33 (図 7)

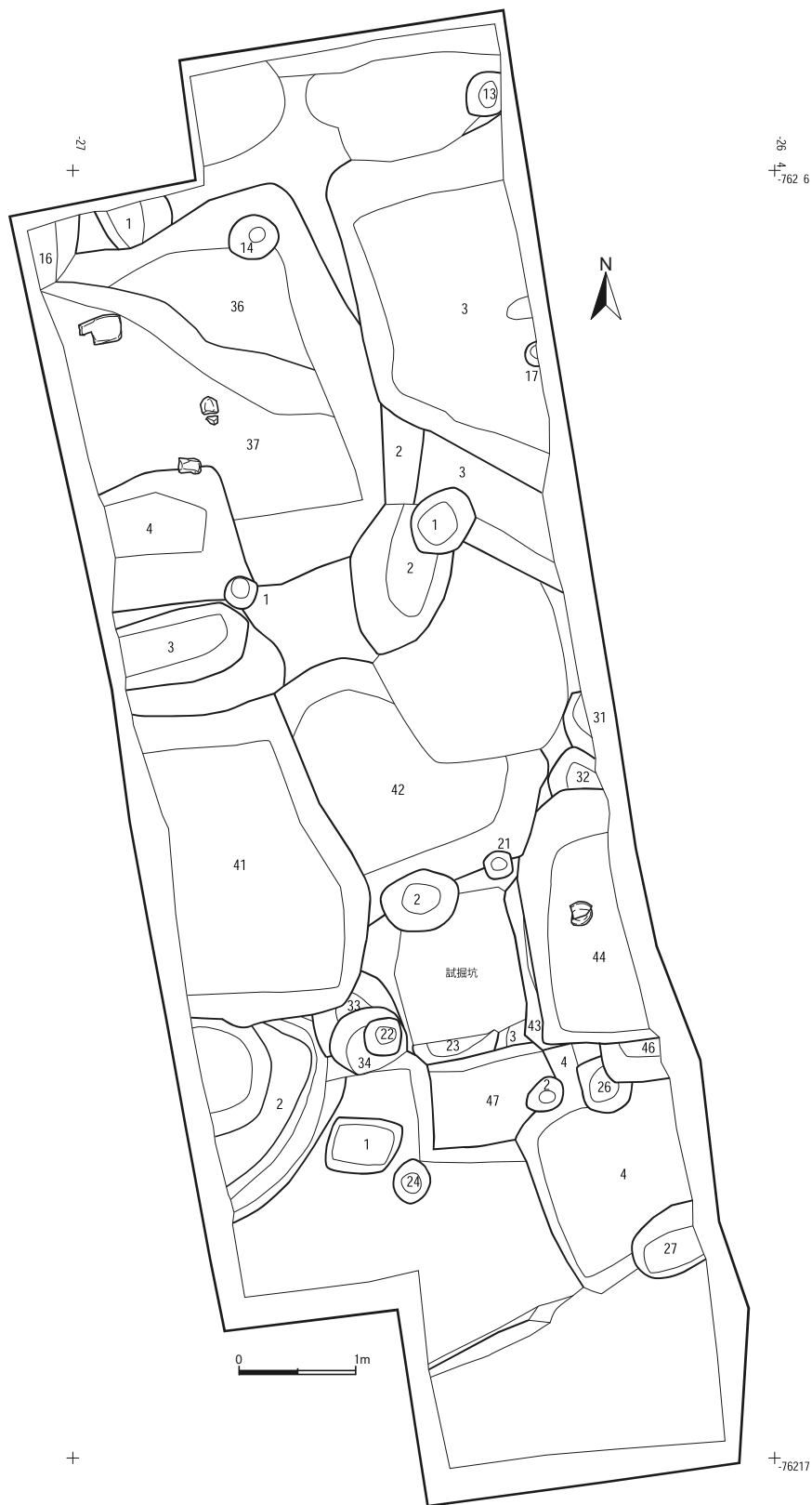


図 7 第 2 面全体図 (S=1/60)

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
13	5.89	0.38	5.78			
14	5.86	0.42	5.60			
15	6.20	0.59	5.94			
16	6.19	0.68	5.84			
17	5.52	0.19	5.32			
18	5.56	0.59	5.27			
19	6.05	0.26	5.8			
20	6.00	0.66	5.65			
21	5.99	0.24	5.83			

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
22	6.03	0.35	5.64			
23	6.05	0.71	6.02			
24	5.82	0.36	5.72			
25	5.92	0.34	5.78			
26	5.77	0.50	5.63			
27	5.77	0.56	5.44			
28	5.52	0.73	5.38			
29	6.13	1.31	5.57			
30	6.18	1.37	5.90			

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
31	5.73	0.6	5.68			
32	5.75	0.64	5.65			
33	6.02	0.72	5.95			
34	6.12	0.63	5.93			
35	5.97	0.32	5.93			
36	6.19	2.80	5.79			
37	5.81	-	5.53			
38	6.13	3.28	5.48			
39	5.53	1.01	5.42			

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
40	5.90	1.81	5.52			
41	6.10	2.67	5.45			
42	6.16	2.14	5.60			
43	5.75	1.70	5.39			
44	5.75	2.23	5.61			
45	5.93	0.45	5.76			
46	5.82	0.48	5.47			
47	6.04	-	5.85			
48	-	-	-			

遺構	レベル	上端	最大径	上端	レベル	底面
49	5.92	1.52	5.67			
50	6.03	-	5.81			
51	5.86	0.60	5.80			
52	5.81	0.58	5.76			
53	6.02	1.86	5.63			

楕円形を呈するピット。覆土は暗褐色粘砂質土で締まりややあり。泥岩粒稀。かわらけ片少。出土遺物(図9)：10は灰釉陶器の碗。

土坑

泥岩粒を含む暗褐色粘質土が覆土となるものが多い。楕円形、隅丸方形を呈し、規模はさほど大きくはない。

遺構 28 (図 7)

他の遺構に切られ、性格なプランは不明。覆土は暗褐色粘質土で泥岩を少量含む。出土遺物(図9)：2はかわらけ。3は白磁口禿皿、4は青白磁で水注の可能性あり。5～6は鉄釘。

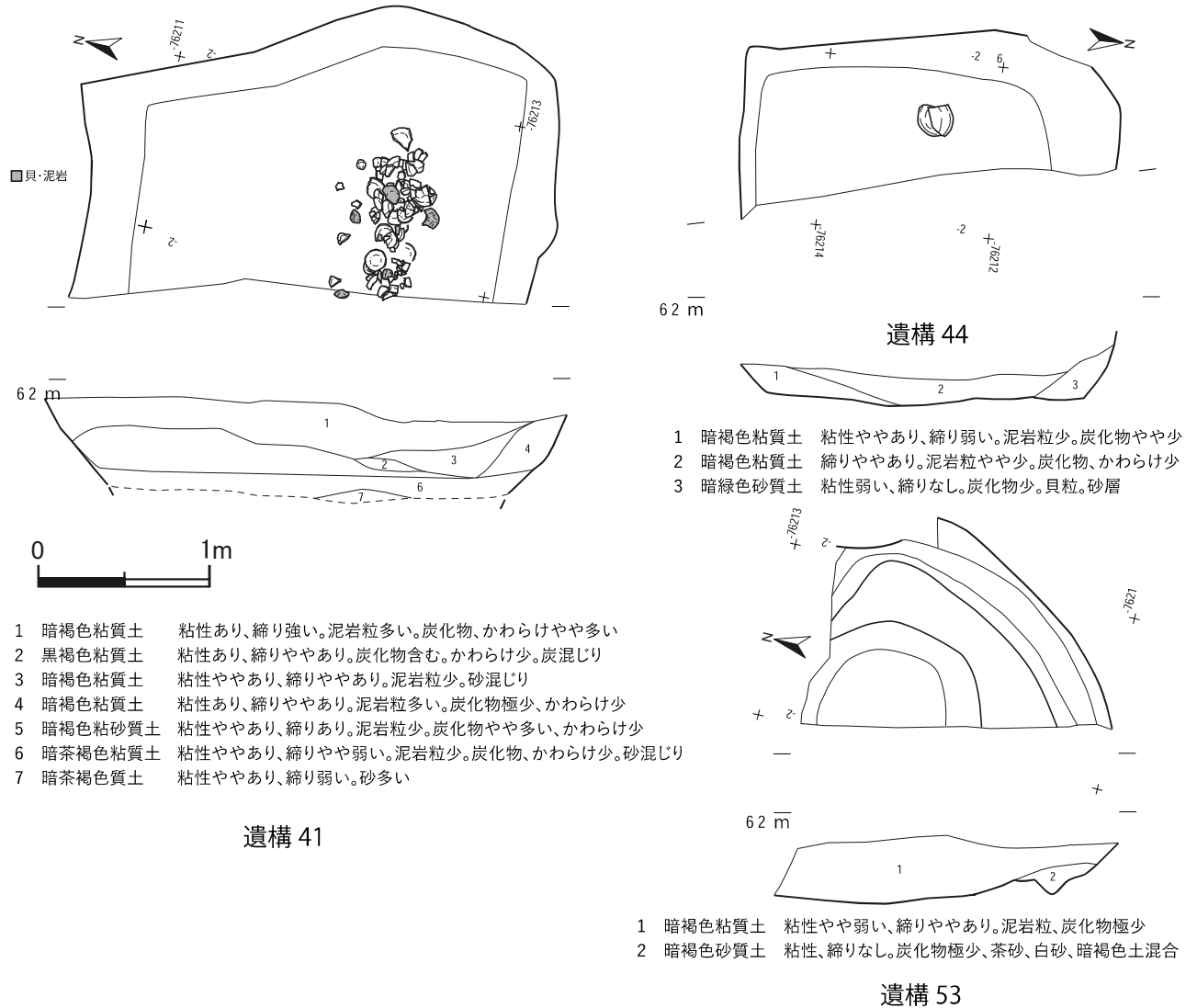


図 8 第 2 面遺構

遺構 29 (図 7)

楕円形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘砂質土で締まりあり。泥岩粒、炭化物少。出土遺物 (図 9) : 7 ~ 8 はかわらけ。

遺構 32 (図 7)

覆土は暗褐色粘砂質土で締まりあり。泥岩粒、炭化物少。砂を含む。出土遺物 (図 9) : 9 はかわらけで底部に穿孔が見られる。

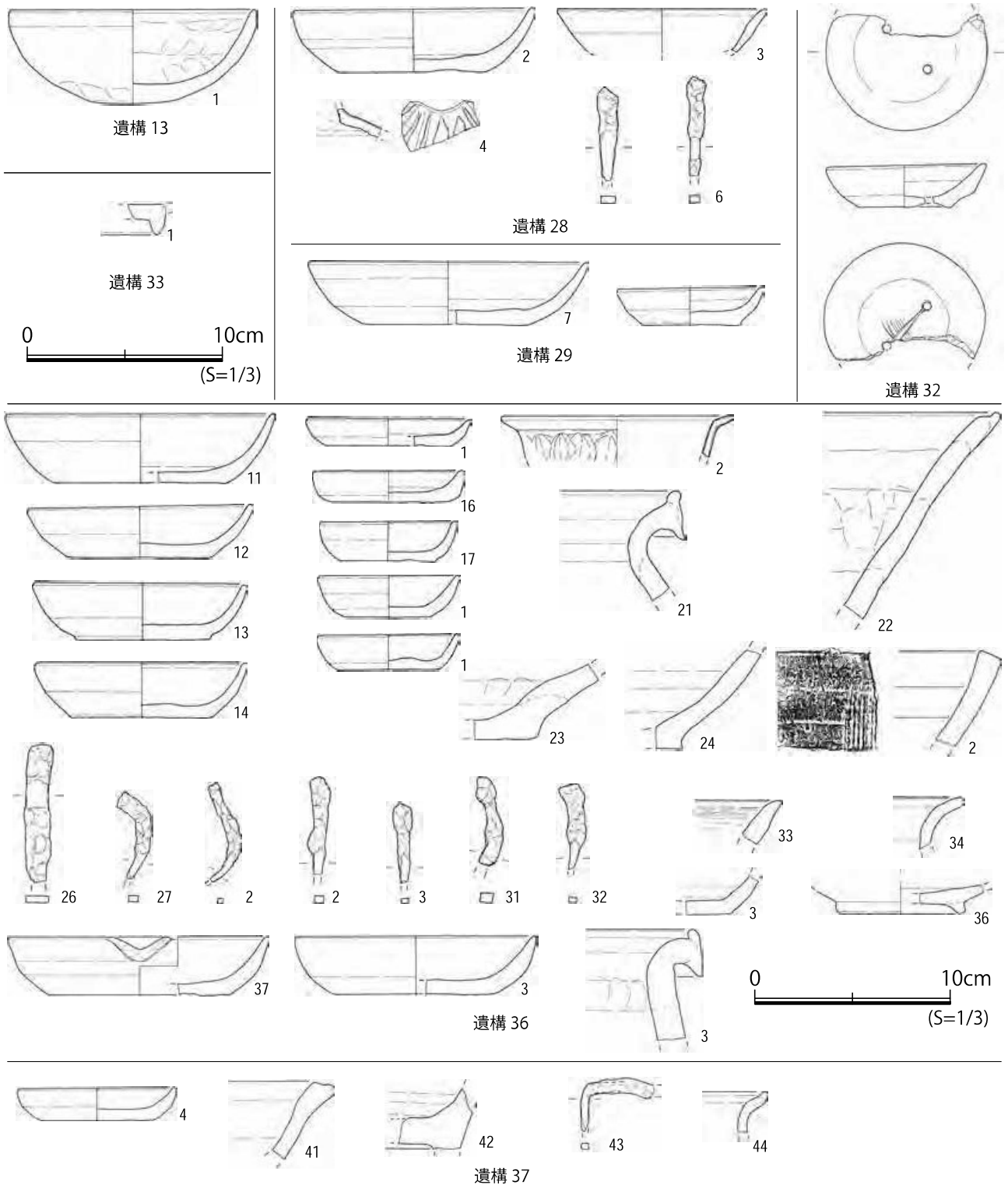


図 9 第 2 面出土遺物 (1)

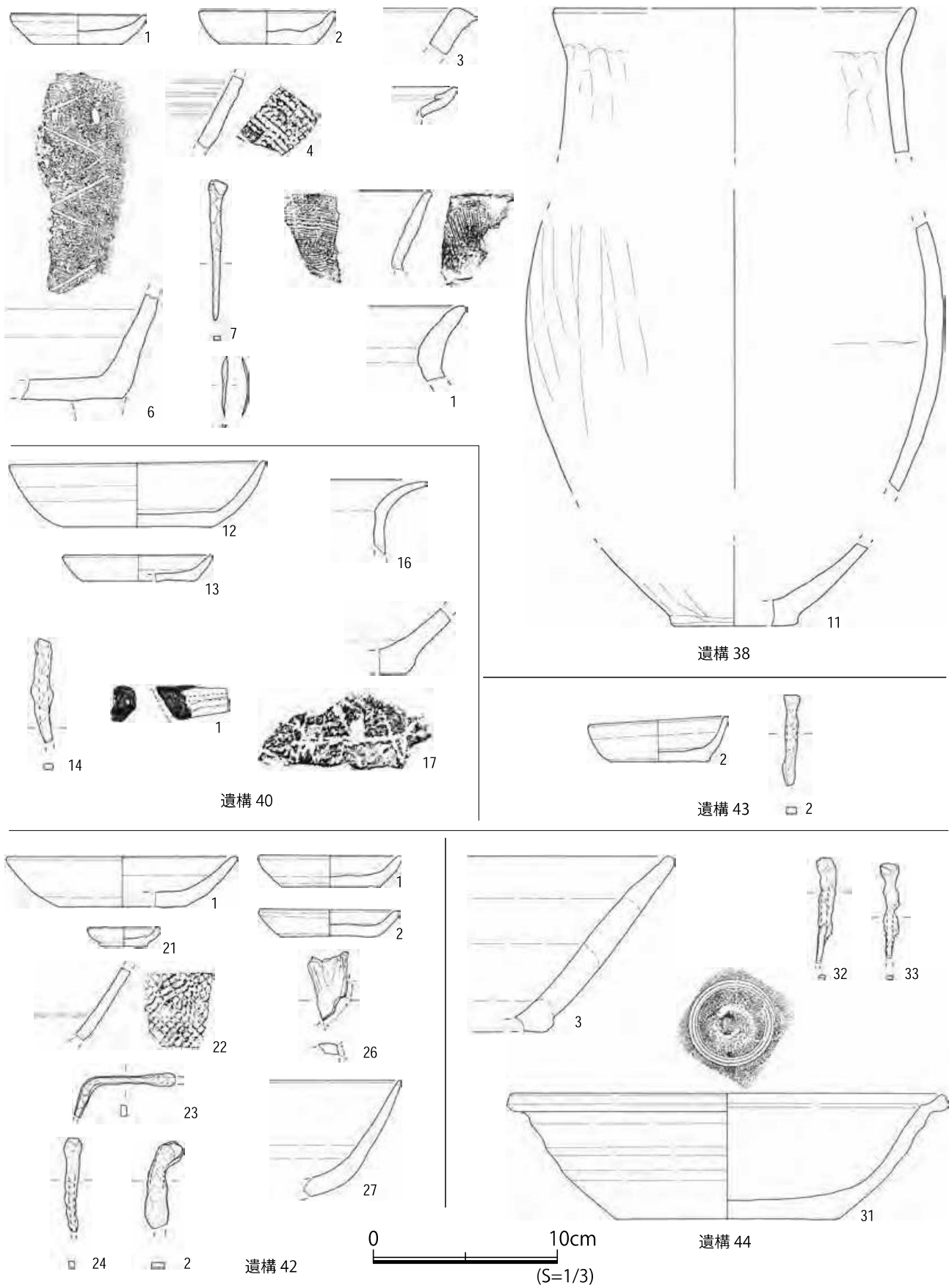
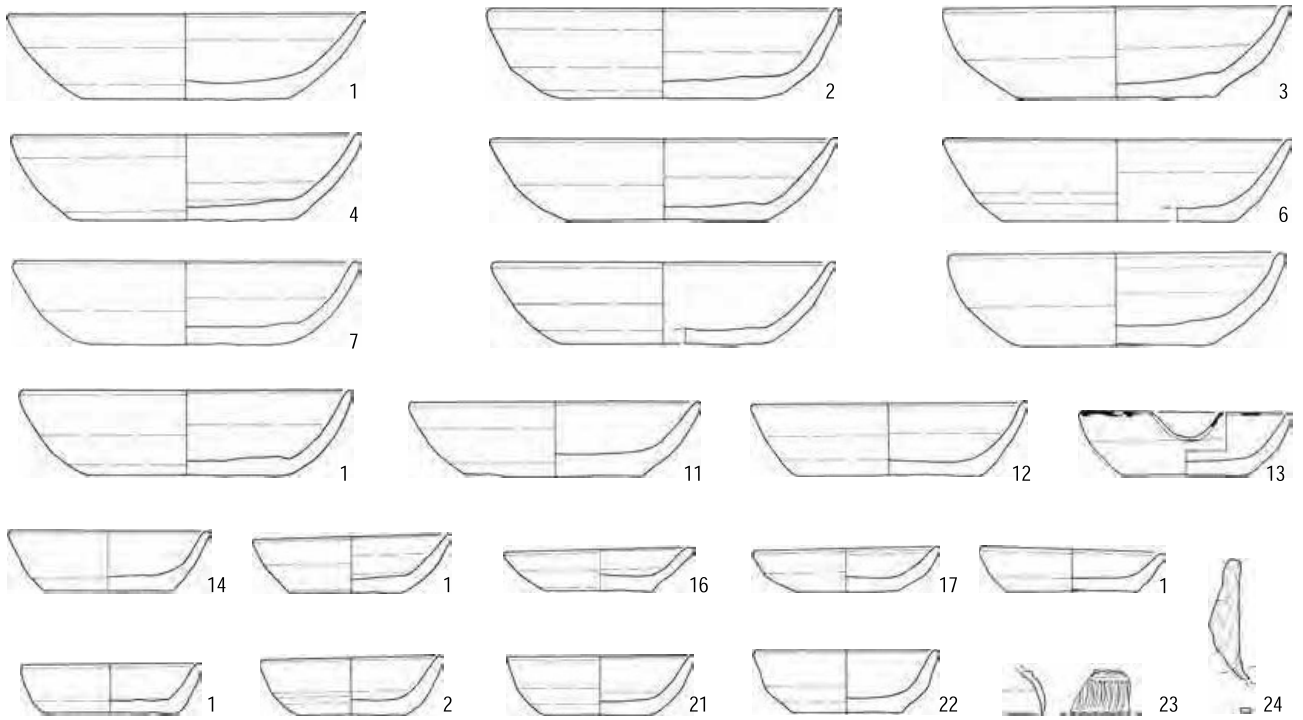
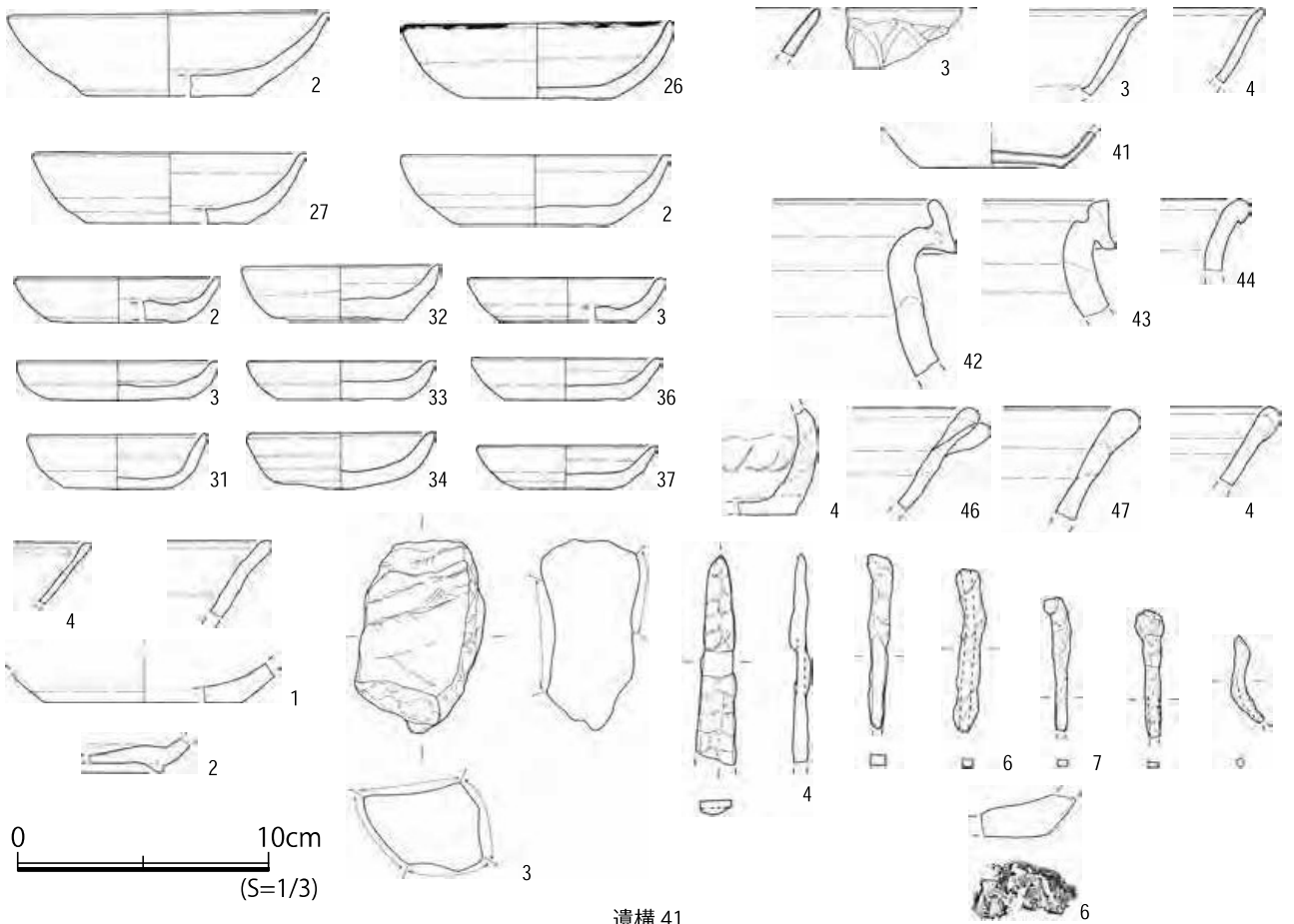


图 10 第 2 面出土遺物 (2)



遺構 41 中層



遺構 41

图 11 第 2 面出土遺物 (3)

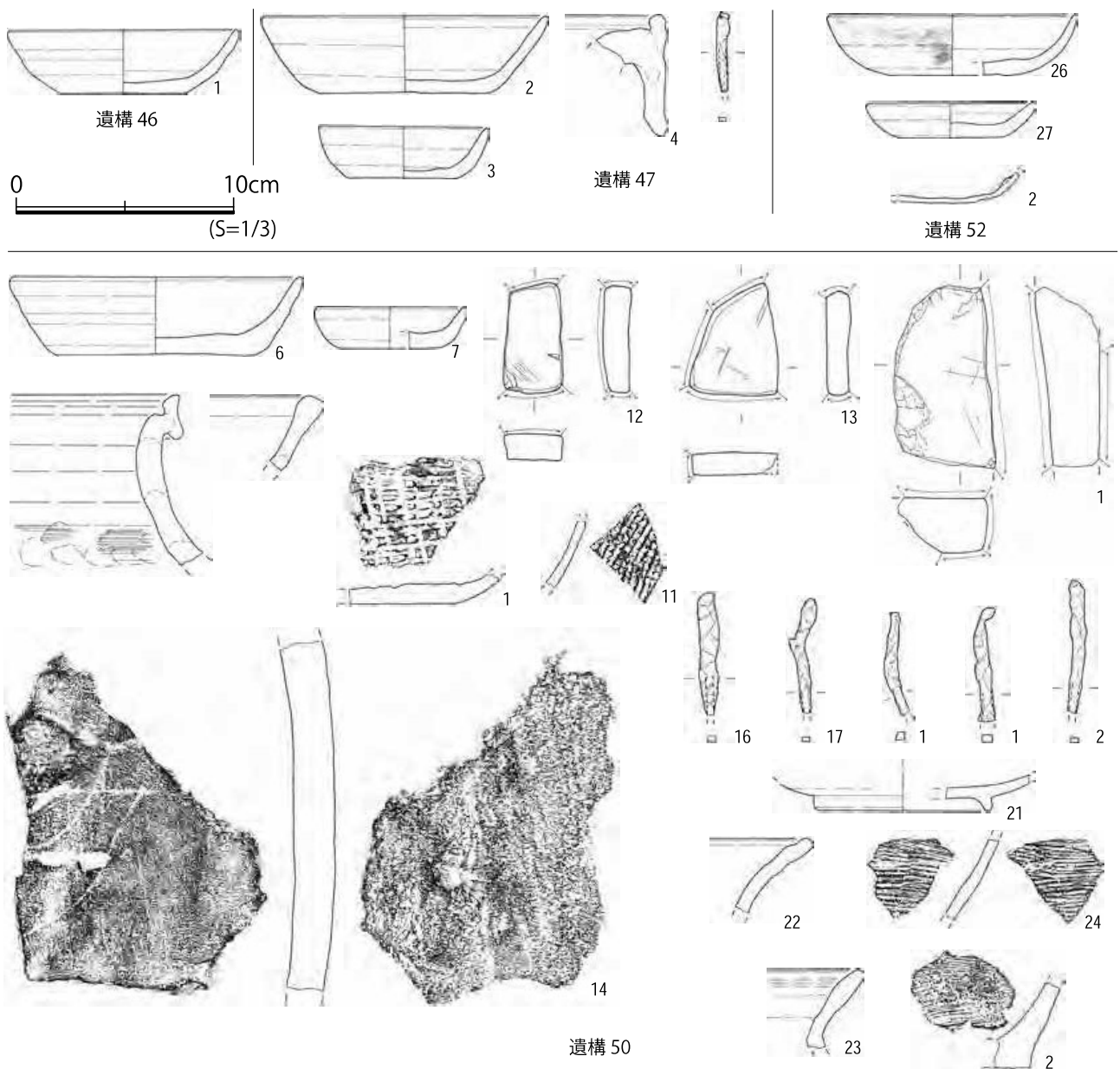


図 12 第 2 面出土遺物 (4)

方形土坑

2 面では最も検出数が多い。激しく切り合っており、規模や形態が完全には不明なものも多い。円形の土坑に比して規模がやや大きいのが特徴である。

遺構 36 (図 7)

方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締りややあり、泥岩、砂を少量含む。出土遺物 (図 9) : 11 ~ 14 はかわらけ、15 ~ 19 はロクロかわらけ。20 は青磁碗、21 は常滑甕、22、24 は常滑片口鉢Ⅱ類、23 は常滑甕の底部か。25 は備前の播鉢。26 は鉄製刀子。27 ~ 32 は鉄釘。33 ~ 36 は中世以前の遺物。33 ~ 34 は土師器甕、35 は土師器坏、36 は須恵器坏。37 ~ 39 は遺構の下層出土遺物。37 ~ 38 はロクロかわらけ。39 は常滑甕。

遺構 37 (図 7)

方形を呈する土坑。遺構 36 に切られる。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒多く、炭化物、か

わらけ片少。出土遺物（図9）：40はかわらけ、41は常滑片口鉢Ⅰ類、42は東遠の壺か。43は鉄釘。44は土師器甕。

遺構38（図7）

ややびつな方形を呈する土坑。覆土は上層は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒多く、炭化物、かわらけ片少。下層は暗茶茶褐色砂質土で泥岩を少量含む。出土遺物（図10）：1～2は小型かわらけ。3は常滑片口鉢Ⅰ類、4は亀山焼の甕、5は土製鍋、6は瓦質火鉢、7は鉄釘、8は鉄製の針状製品。9～10は中世以前の遺物でいずれも土師器甕。11は完全に接合しないが同一個体と思われる。

遺構40（図7）

方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘質土で締まりあり。泥岩粒多く、炭化物少。出土遺物（図10）：12は大型かわらけ、13は小型かわらけ、14は鉄釘、15は加工骨で端部が炭化している。16～17は中世以前の遺物でいずれも土師器甕。

遺構41（図7、8）

方形を呈する大型の土坑。覆土は図8参照。土坑中央にはかわらけを集中して廃棄した痕跡が確認された。覆土のやや中央であり、底部からはかなり高い位置から検出されたため、土坑を埋める途中で廃棄したか。遺構はさらに下まで続くが、掘削深度制限にあたるため底部は完全に検出していない。出土遺物（図11）：1～24はかわらけの集中廃棄とともに検出した遺物。1～10は大型かわらけ、11～13は中型かわらけ、14～22は小型かわらけ。23は白磁合子の蓋、24は鉄釘。

それ以外の出土遺物は25～60。25～28は中型かわらけ、29～37は小型かわらけ。28は青磁鎗蓮弁文碗、39～41は白磁碗。42、43は常滑甕、44は常滑の三耳壺か。46～48は常滑片口鉢Ⅰ類、49は東濃型山茶碗、50は尾張型山茶碗、51～52も尾張型山茶碗と思われる。53は軽石で全体的に摩耗が激しい。54は鉄製の刀子か。55～59は鉄釘。60は中世以前の遺物で土師器甕。

遺構42（図7）

方形を呈すると思われるが、近代の削平が激しい。覆土は暗褐色粘質土を主体とするが砂が混入し、下部ではほぼ砂となる。出土遺物（図10）：18は中型かわらけ、19～20は小型かわらけ、21が極小のかわらけ。22は亀山焼の甕、23は鉄製の楔か。24は鉄釘、25は不明鉄製品。26は加工骨で切割痕がある。27は中世以前の遺物で土師器の高坏の坏部か。

遺構43（図7）

方形を呈すると思われるが、削平が激しく不明。覆土は暗褐色粘砂質土。締まり弱い。白色砂粒を含む。出土遺物（図10）：28は小型かわらけ、29は鉄釘。

遺構44（図7、8）

方形を呈する土坑。覆土は図8参照。出土遺物（図10）：30は常滑片口鉢Ⅱ類、31は瀬戸灰釉折縁皿で下部より出土。32～33は鉄釘。

遺構46（図7）

隅丸方形を呈する土坑。覆土は暗褐色粘砂質土で締まりやや弱い。白砂含む。下層は砂混じりの暗褐色土。出土遺物（図12）：1は中型かわらけ。

遺構47（図7）

方形を呈する土坑と思われるが削平が激しい。覆土は暗褐色粘砂質土で締まりやや弱い。出土遺物（図12）：2はかわらけ。3は小型かわらけ。4は常滑甕、5は鉄釘。

遺構50（図7）

隅丸方形を呈すると考えられるやや大型の土坑。覆土は砂を多く含む暗褐色粘質土で、泥岩を少量含む。出土遺物(図 12):6 はかわらけ。7 は小型かわらけ。8 は常滑甕、9 は常滑片口鉢 I 類、10 は瀬戸灰釉卸皿、11 は亀山焼の甕、12～13 は磨り常滑、14 は平瓦、15 は中砥の砥石。16～20 は鉄釘。21～25 は中世以前の遺物で 21 は灰釉陶器の皿、22～23 は土師器甕類の口縁、24 は胴部、25 は底部である。

特殊土坑

遺構 52 (図 7、8)

円形を呈する土坑。壁際に沿ってやや浅い溝状の落ち込みが巡り、中央部も円形に深く掘り下げているやや特異な形態をした土坑。西側は調査区外にあり、北側も遺構 41 に破壊されているため、全体の形状は正確には分からないが、調査区内では他に見られない特殊な形態である。その用途は不明。覆土は図 8 参照。出土遺物 (図 12): 26 はかわらけ。27 は小型かわらけ。28 は鉄製の皿か。

2 面遺構外出土遺物

2 面の面上からは数点の遺物が検出されたが、図示可能なほど復元できる個体はない。

第3節 近代の遺構と出土遺物

1面のほとんどは近現代の掘り込みによって破壊されていた。円形、方形の土坑が多いが、中からは

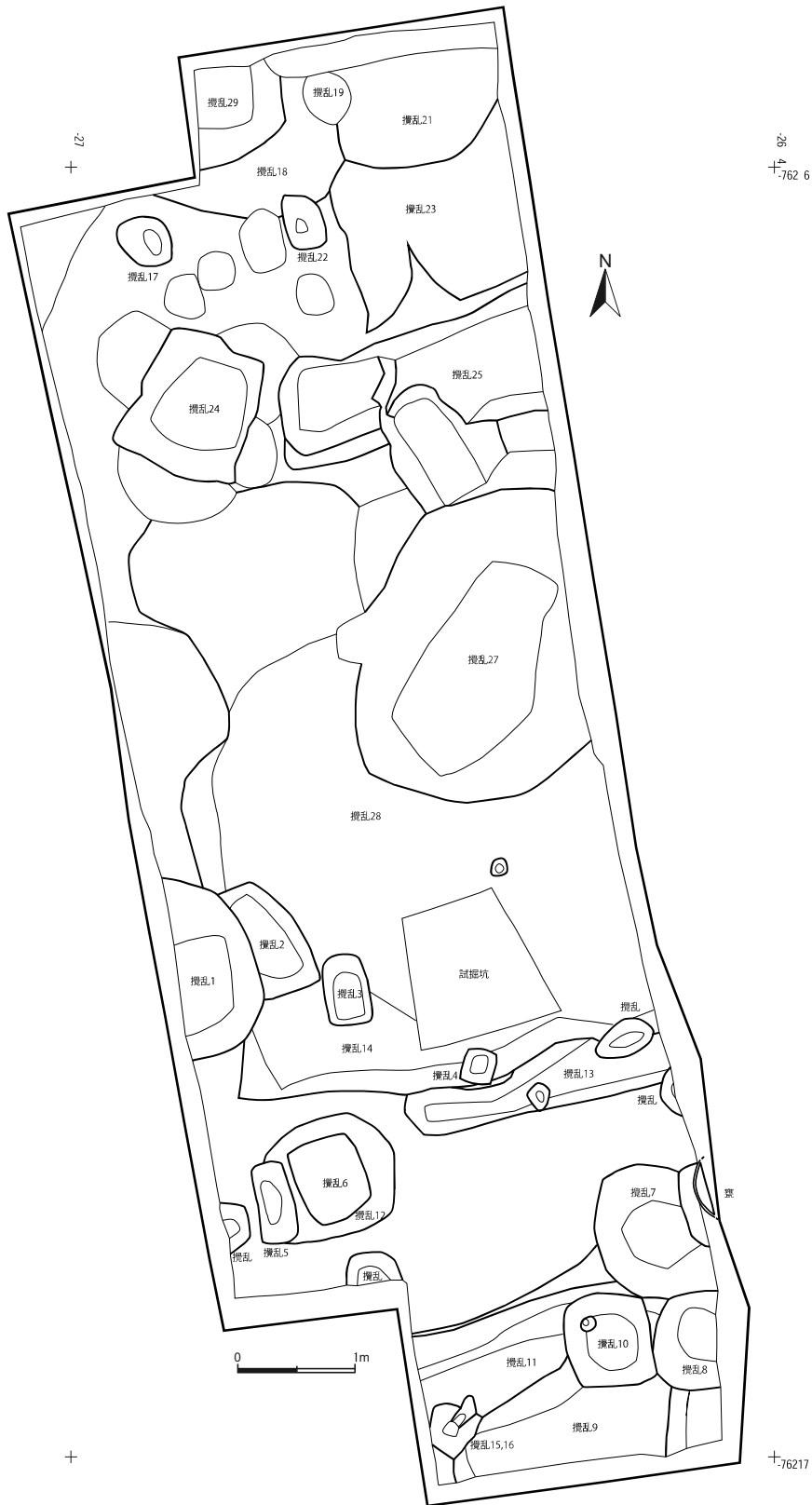


図13 近代遺構全測図 (S=1/60)

それぞれ近代の遺物が出土し、近代の廃棄坑と考えられる。また地表下 20 cm 程度で、炭層と焼土層が広がり、関東大震災によるものと考えられる。面的には確認していないが、この震災による層の下に埋まるもの、火災層を掘りこんだもの双方あると思われる。近隣の方のお話では、震災前にはこの場所に倉が立っていたそうで、震災で崩壊したようである。

これら近代遺物の多くは震災後の後片付けによるものも含まれていよう。さらに近現代の遺物が複数出土している。遺構からは中世の遺物が混入して出土しているため、それも合わせて掲載する。

攪乱 1 (図 13)

隅丸方形の土坑を呈する。出土遺物 (図 14) : 1 はかわらけ。

攪乱 2 (図 13)

隅丸方形の土坑を呈する。出土遺物 (図 14) : 2 はかわらけ。3 は磁器で土瓶、4 ~ 5 は陶器で 4 は灯明皿、5 は挿鉢。6 はガラスの薬瓶。7 は鉄輪。

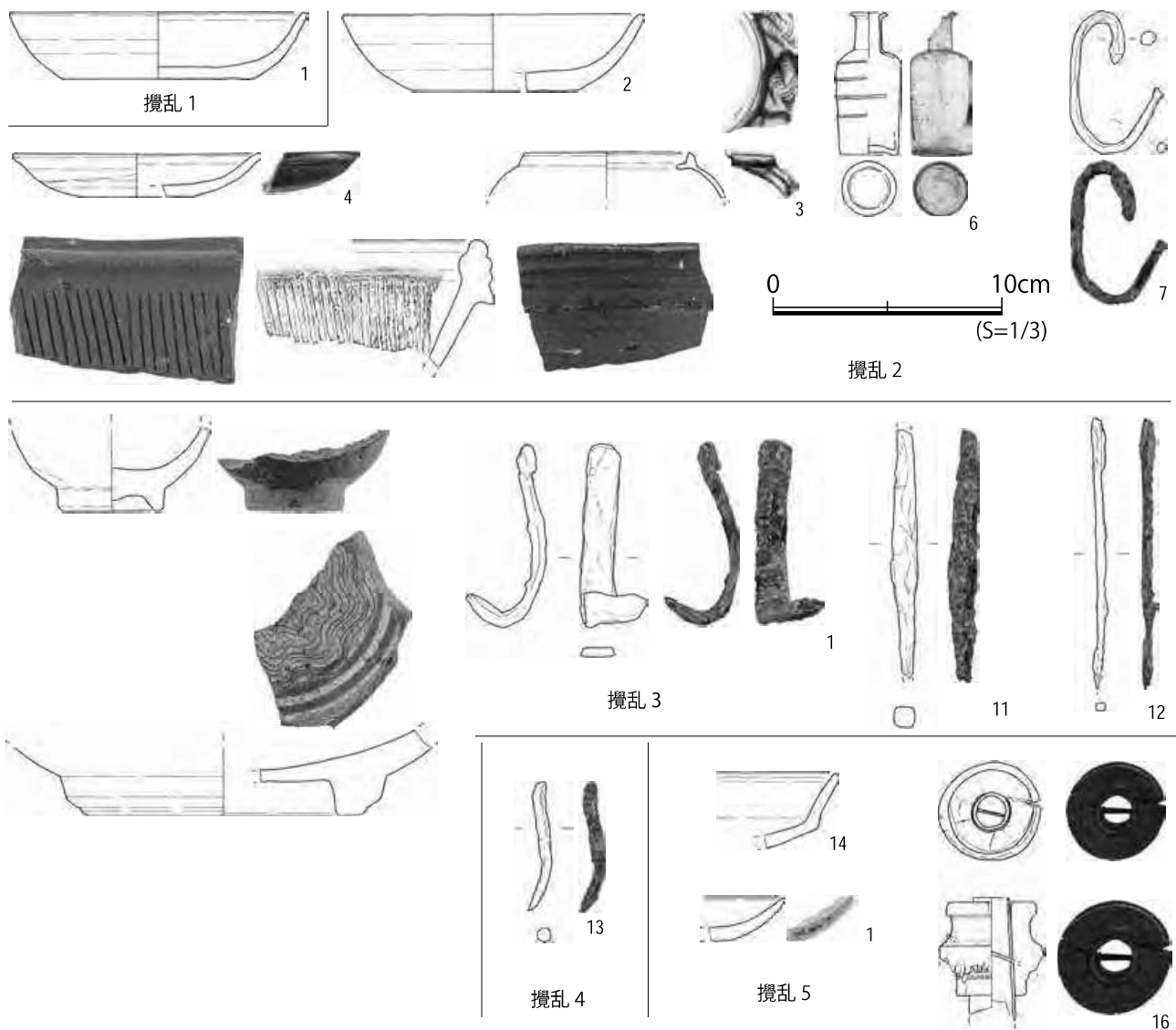


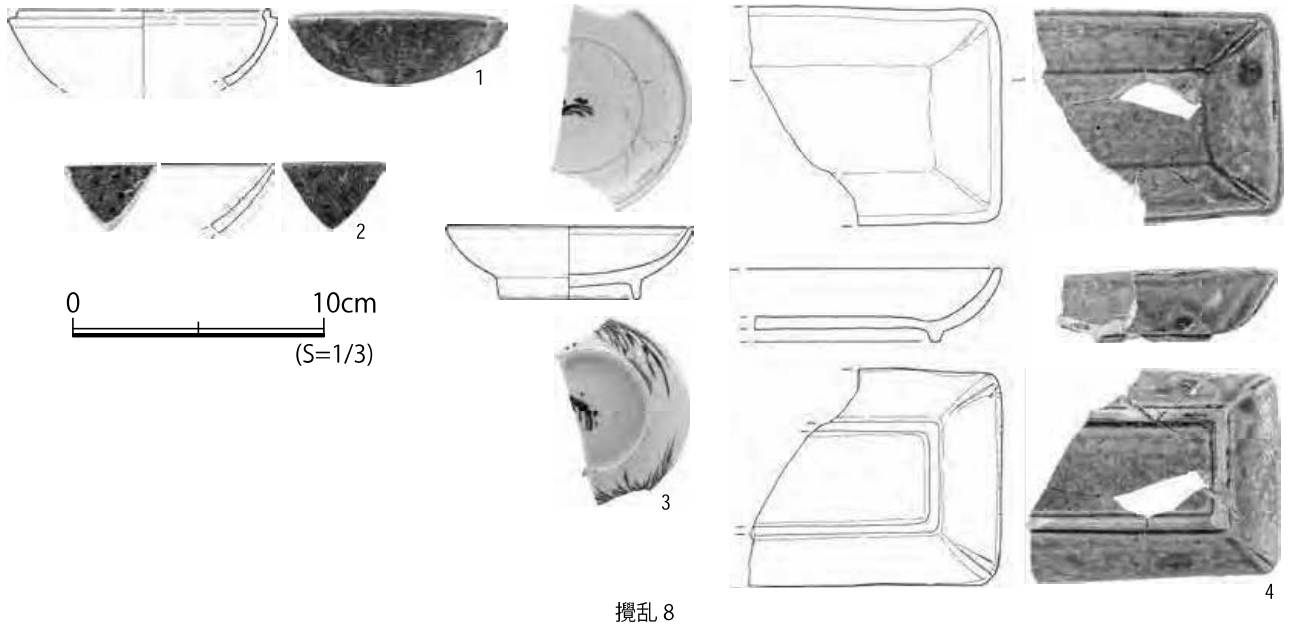
図 14 近代遺構出土遺物 (1)

攪乱 3 (図 13)

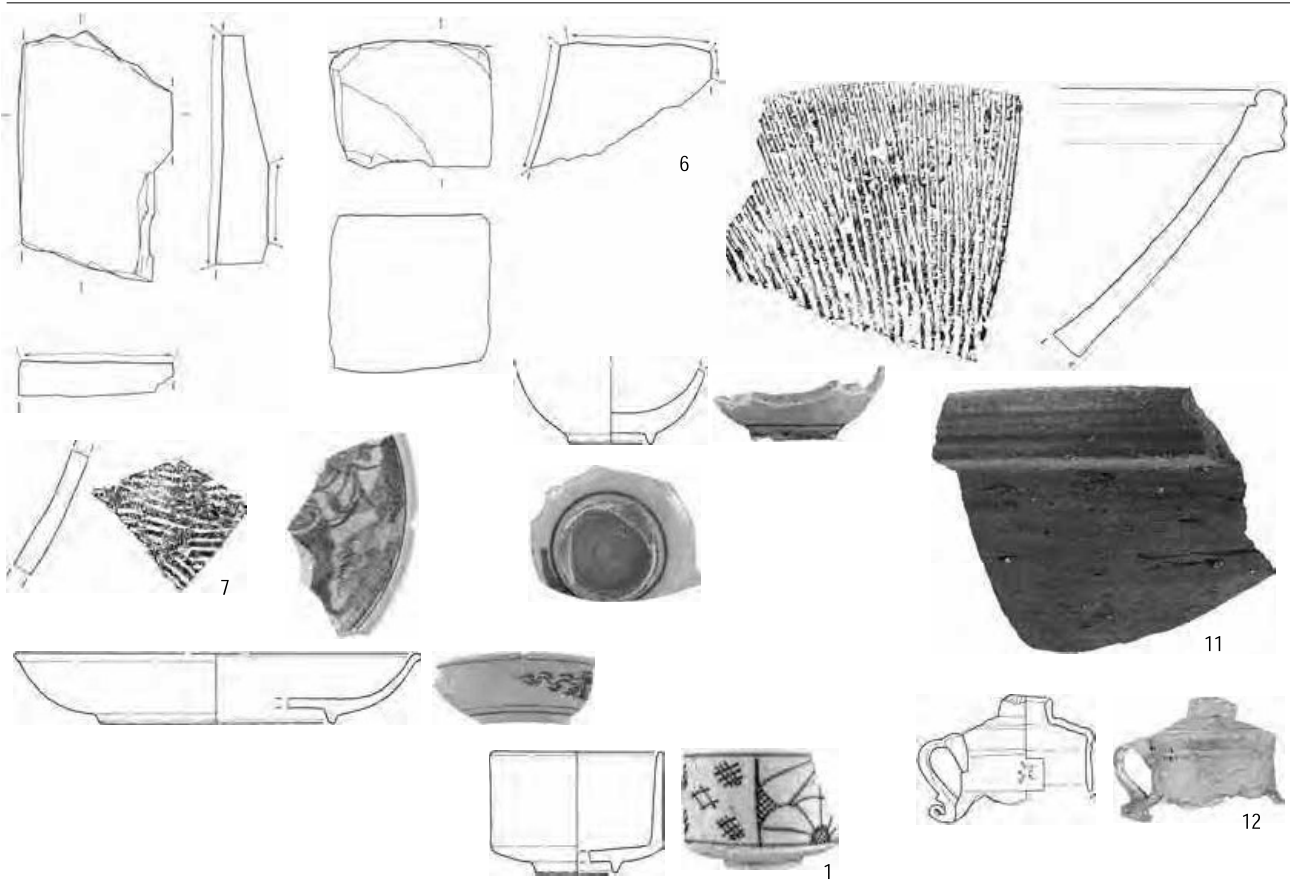
隅丸方形の土坑を呈する。出土遺物 (図 14) : 8 は陶器の碗。9 は陶器の皿、10 ~ 12 は不明鉄製品。

攪乱 4 (図 13)

隅丸方形のピット状を呈する。出土遺物 (図 14) : 13 は鉄釘。



攪乱 8



攪乱 9

図 16 近代遺構出土遺物 (3)

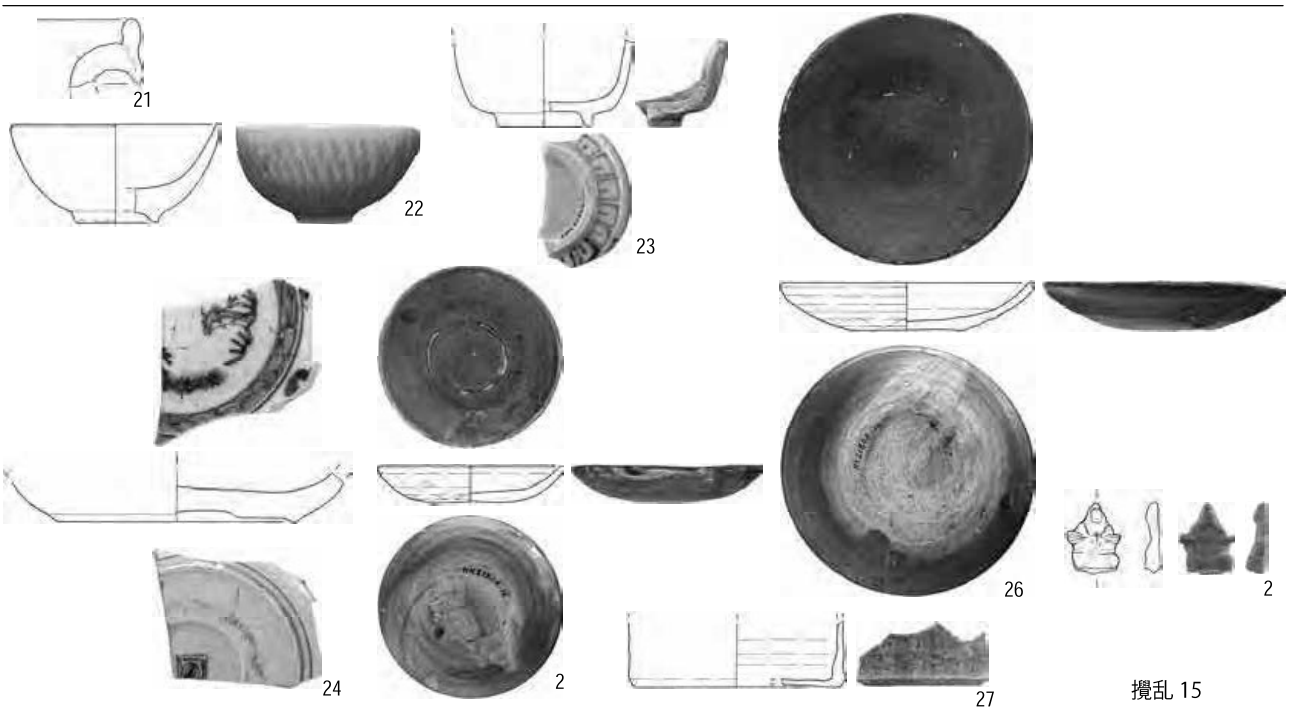
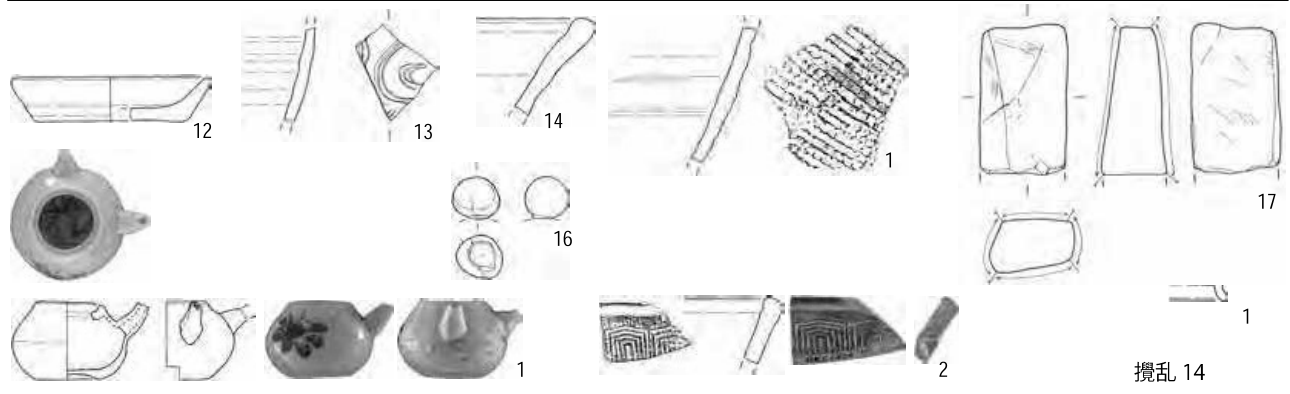
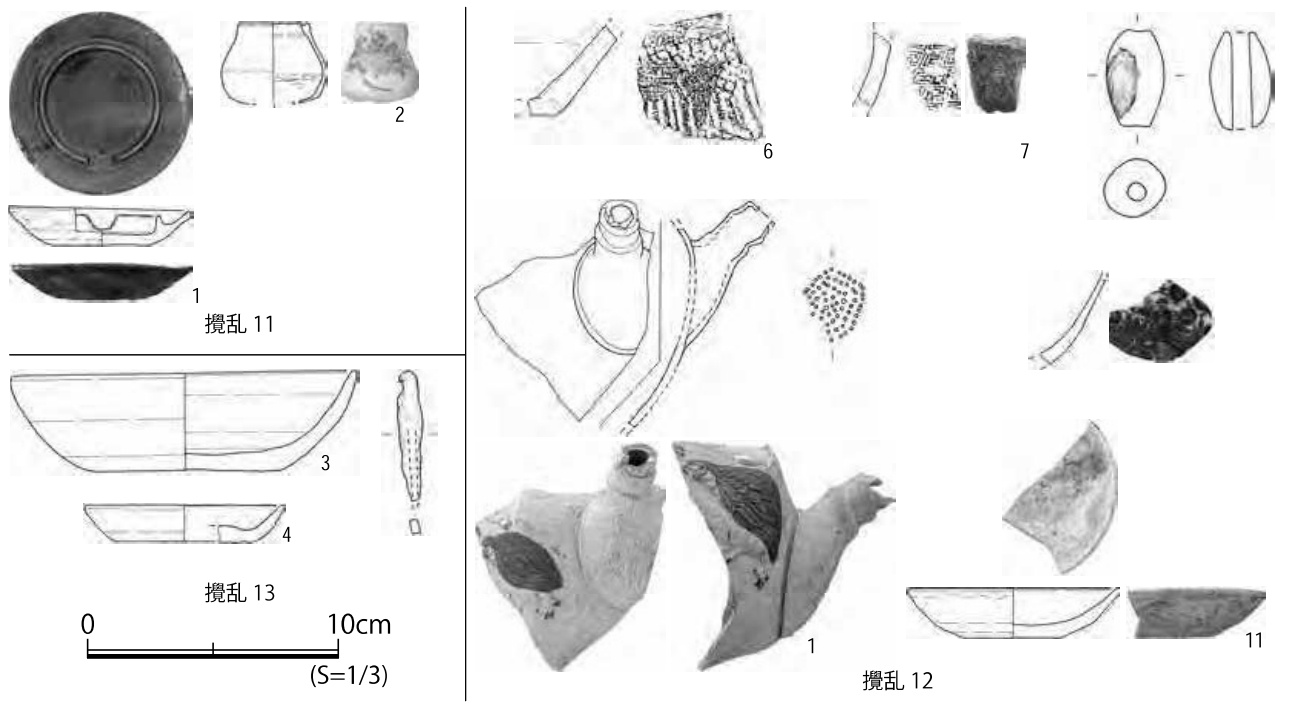


图 17 近代遺構出土遺物 (4)

攪乱 5 (図 13)

隅丸方形の土坑を呈する。出土遺物 (図 14) : 14 は中世以前の遺物で土師器の坏。15 は陶器で灯明皿、16 は木製品で傘轆轤。

攪乱 7 (図 13)

円形の土坑を呈する。出土遺物 (図 15) : 1 ~ 2 は中世遺物。1 は東播系の片口鉢。2 は銅銭。3 ~ 9 は磁器。3 は湯呑、4 は小杯、5 ~ 6 は皿、7 は急須の蓋、8 ~ 9 も急須の蓋か。10 ~ 13 は陶器。10 は湯呑、11 ~ 12 は灯明皿、13 は台付灯明皿。14 ~ 19 はガラス製品で、14 ~ 15 は飲料水瓶、16 は薬品瓶、

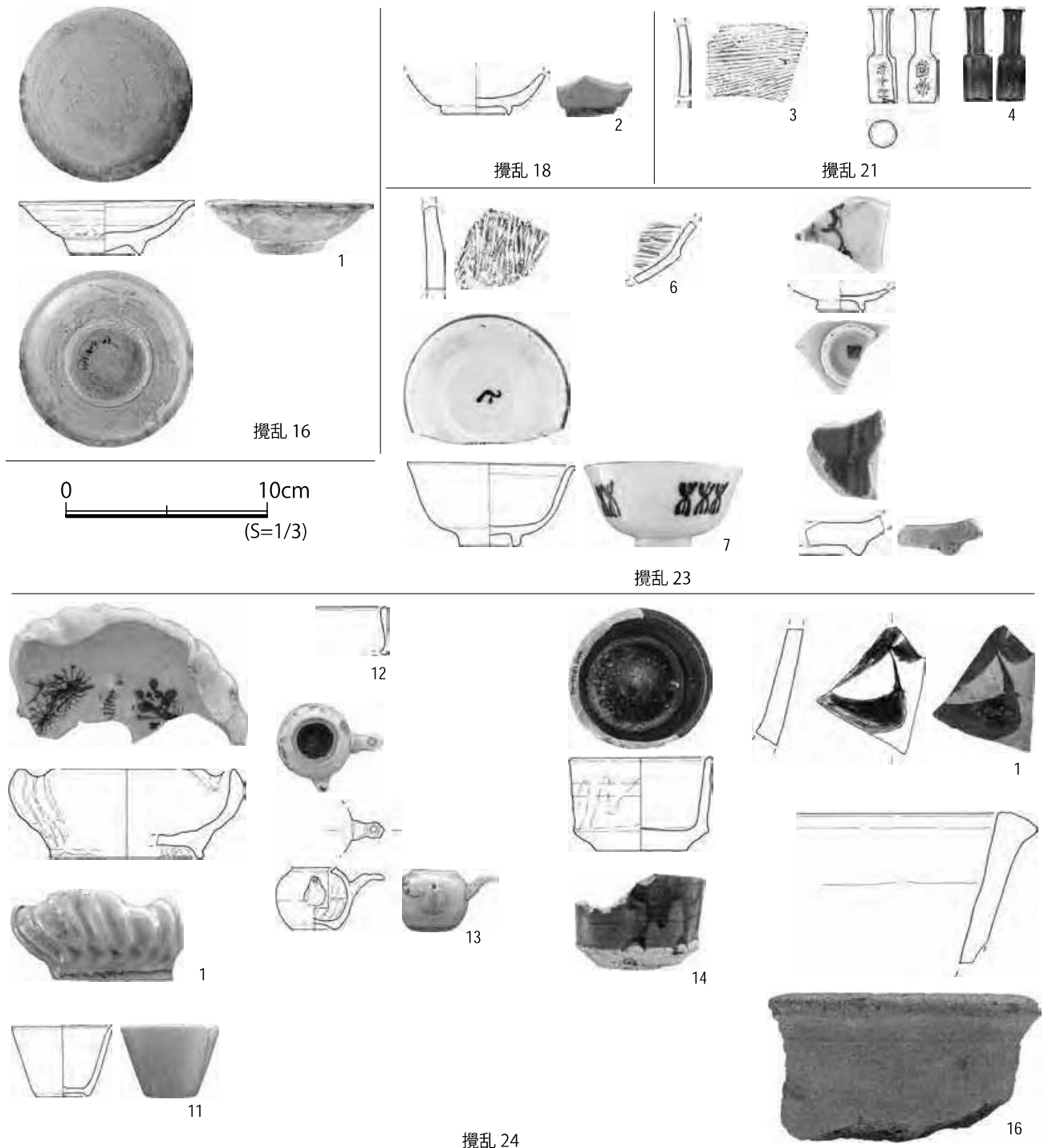


図 18 近代遺構出土遺物 (5)

17～18は染料瓶、19は飲料水瓶かと思われる。20は石製硯。

攪乱8 (図13)

円形の土坑を呈する。出土遺物 (図16) : 1～3は磁器碗。4は陶器の皿。

攪乱9 (図13)

方形の土坑を呈する。出土遺物 (図16) : 5は仕上げ砥、6は中砥、7は中世以前の遺物で須恵器甕。8～10は磁器で、8は碗、9は皿、10は湯呑。11は陶器の播鉢、12はガラス製のランプ容器。

攪乱11 (図13)

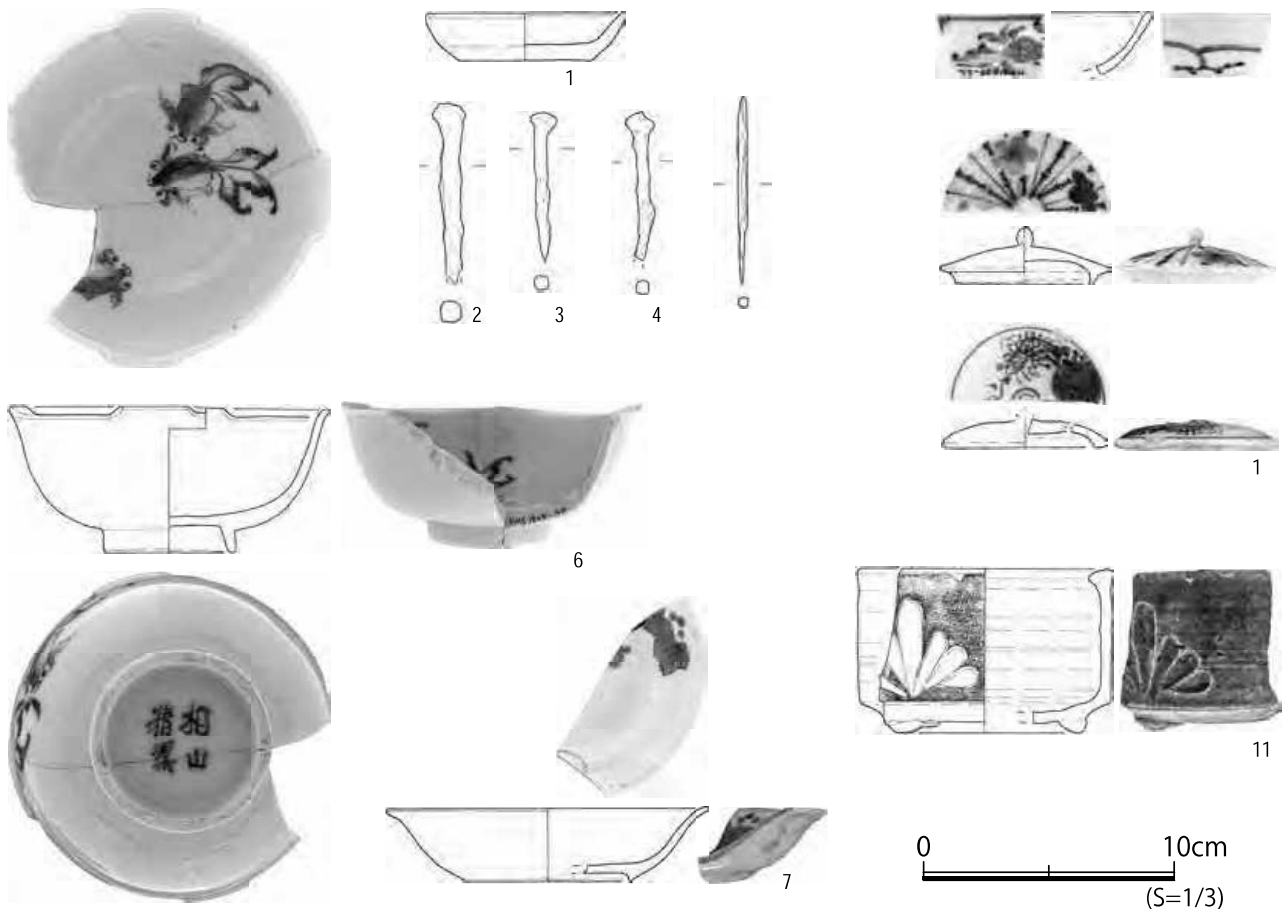
方形の土坑状か。出土遺物 (図17) : 1は磁器碗、2は陶器のミニチュア壺。

攪乱12 (図13)

円形の土坑を呈する。出土遺物 (図17) : 6は中世遺物で亀山焼の甕。7は土製品で器種不明。8は土錘。9は磁器碗。10は陶器の土瓶。11は陶器の灯明皿。

攪乱13 (図13)

溝状を呈する。出土遺物 (図17) : いずれも中世遺物。3はかわらけ、4は小型かわらけ。5は鉄釘。



攪乱25

図19 近代遺構出土遺物(6)

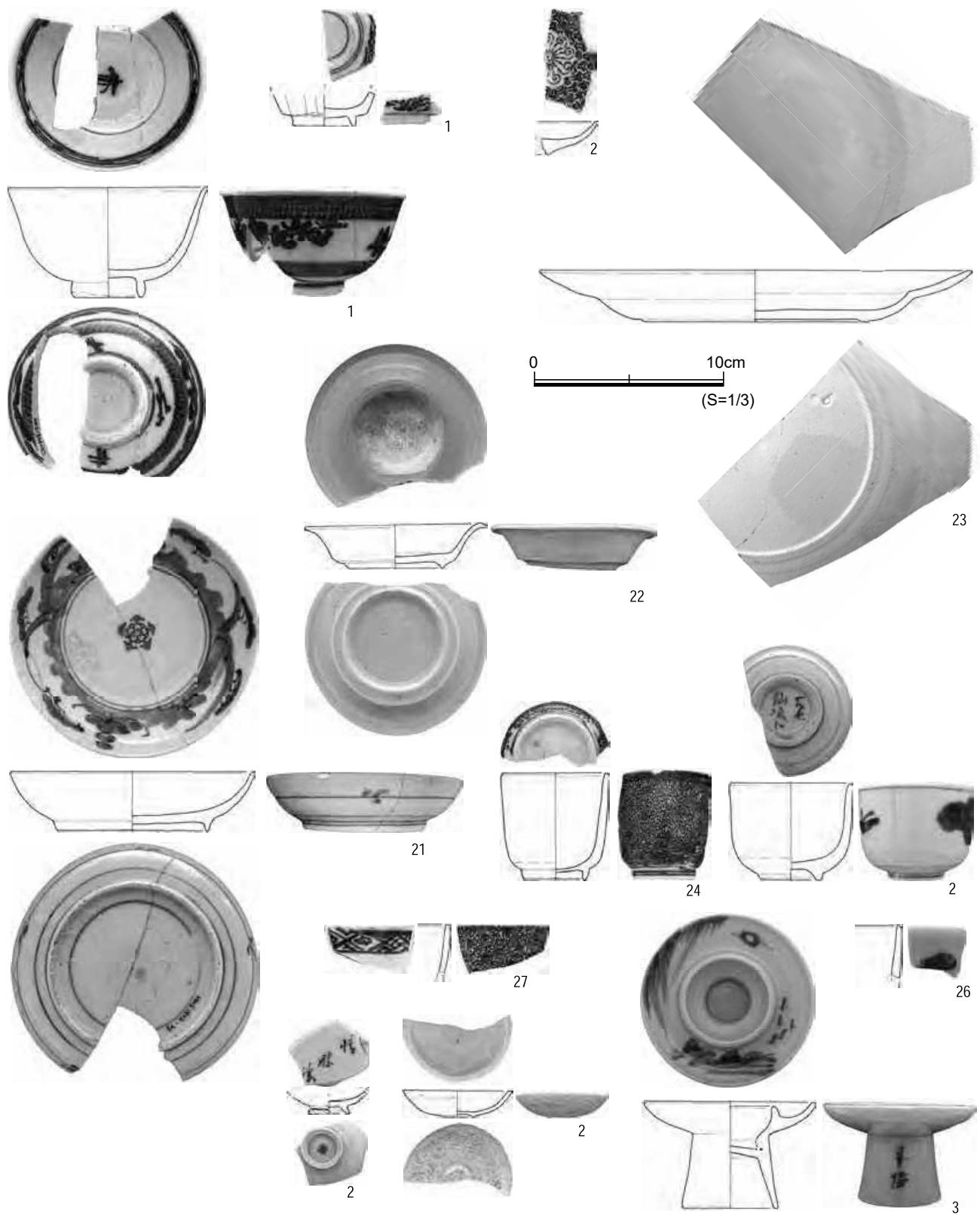
攪乱 14 (図 13)

方形の土坑状か。出土遺物 (図 17) : 12 ~ 18 は中世遺物。12 は小型かわらけ、13 は青白磁の梅瓶、14



図 20 近代遺構出土遺物 (7)

は常滑片口鉢 I 類、15 は亀山焼の甕、16 はかわらけ質の球形土製品。17 は中砥。18 は中世以前の遺物で須恵器の蓋。19 は磁器のミニチュアの急須、20 は器種不明の陶器。



攪乱 27

図 21 近代遺構出土遺物 (8)

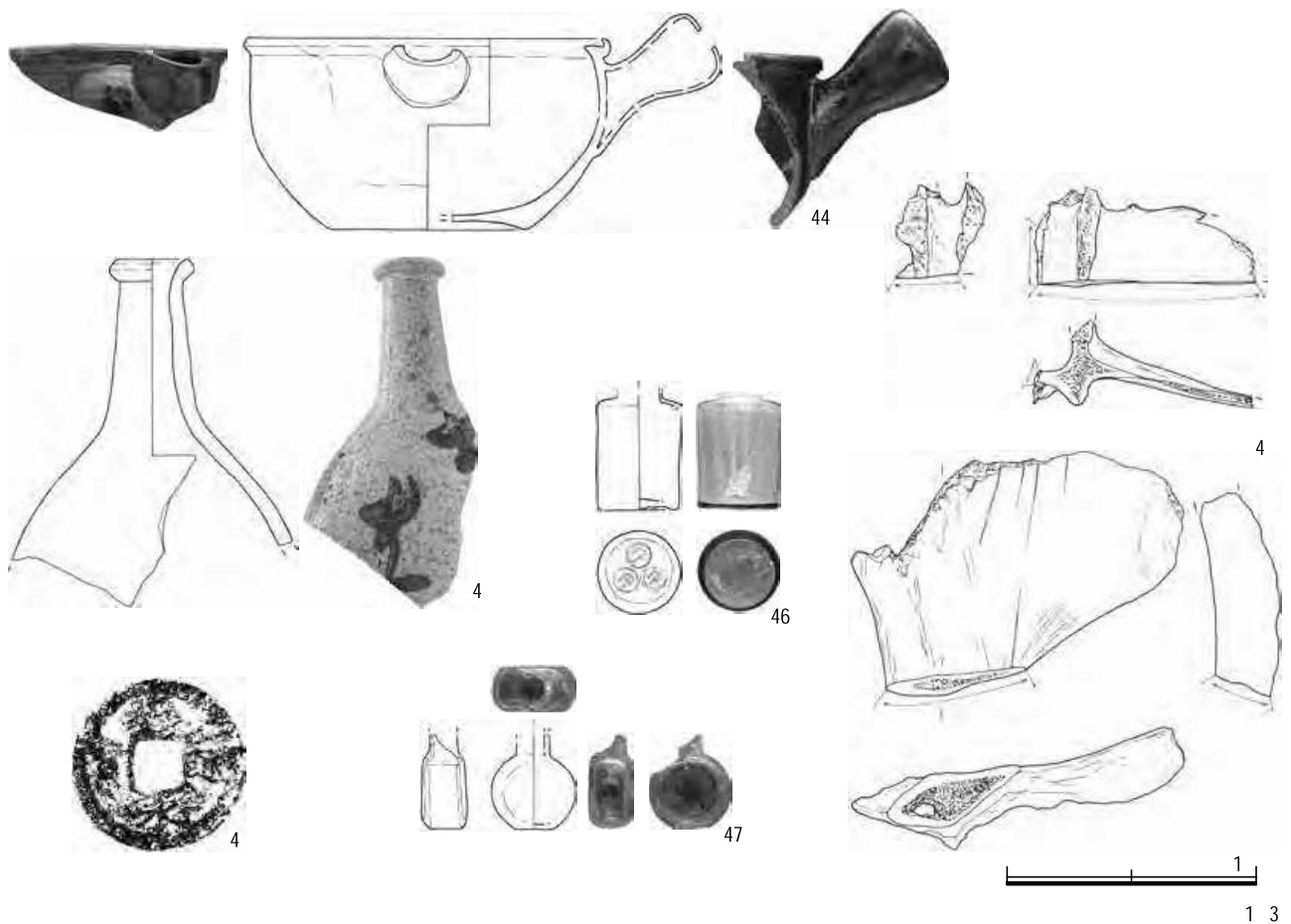
攪乱 15 (図 13)

形態不詳。出土遺物(図 17):21 は中世遺物で常滑甕。22 ~ 24 は磁器で 22 は小杯、23 は筒型湯呑、24 は皿。25 ~ 27 は陶器で 25 ~ 26 は灯明皿、27 は器種不明。28 はかわらけ質で人形か。



攪乱 27

図 22 近代遺構出土遺物 (9)



攪乱 27

図 23 近代遺構出土遺物 (10)

攪乱 16 (図 13)

形態不詳。出土遺物 (図 18) : 1 は陶器の皿。

攪乱 18 (図 13)

円形の土坑状を呈する。出土遺物 (図 18) : 2 は陶器の皿。

攪乱 21 (図 13)

円形の土坑状を呈する。出土遺物 (図 18) : 3 は中世以前の遺物で土師器の甕。4 はガラス製の薬瓶。

攪乱 23 (図 13)

形態不詳。出土遺物 (図 18) : 5 ~ 6 は中世以前の遺物で土師器甕。7 ~ 9 は磁器で 7 は碗、8 は小鉢、9 は鉢。

攪乱 24 (図 13)

方形の土坑状を呈する。出土遺物 (図 18) : 10 ~ 14 は磁器で、10 は鉢、11 は蕎麦猪口、12 は器種不明、13 はミニチュアの急須。14 ~ 15 は陶器で 14 は湯呑、15 は貧乏徳利。16 は土製の火鉢。

攪乱 25 (図 13)

溝状を呈する。出土遺物 (図 19) : 1 ~ 5 は中世遺物。1 は小型かわらけ、2 ~ 4 は鉄釘。5 は骨製の釣錘か。

6～10は磁器で、6は鉢、7～8は皿、9～10は急須の蓋。11は陶器の香炉。

攪乱 27 (図 13)

楕円形の大型土坑状を呈する。出土遺物 (図 20～23) : 1～2は中世遺物。1は小型かわらけ、2は常滑片口鉢 I 類。3は不明土製品で中世のものか。4～32は磁器で、4～13は碗、14～17は小坏、18は鉢、19は小鉢、20～21は皿、22～23は洋皿、24～26は湯呑、27は蕎麦猪口 28～29は盃、30は台付灯明皿、31～32は徳利、33～45は陶器で、33は小坏、34は小鉢、35～36は蓋、37～41は灯明皿、42は台付灯明皿、43は乗燭、44は急須、45は徳利。46～47はガラス製品で46は瓶、47は化粧品瓶。48は銅銭で寛永通宝。49～50は加工骨で切割痕が見られる。

攪乱 28 (図 13)

形態不詳。出土遺物 (図 24) : 1～8は中世遺物。1～3は小型かわらけ、4は備前の挿鉢、5は鞆の羽口。6は中砥。7～8は鉄釘。9～11は磁器で、9は皿、10～11は碗。12は陶器碗。13は不明製品。

攪乱 29 (図 13)

方形の土坑状を呈する。出土遺物 (図 24) : 14は磁器の急須の蓋、15は磁器の徳利。16は加工骨で切割痕が確認できる。

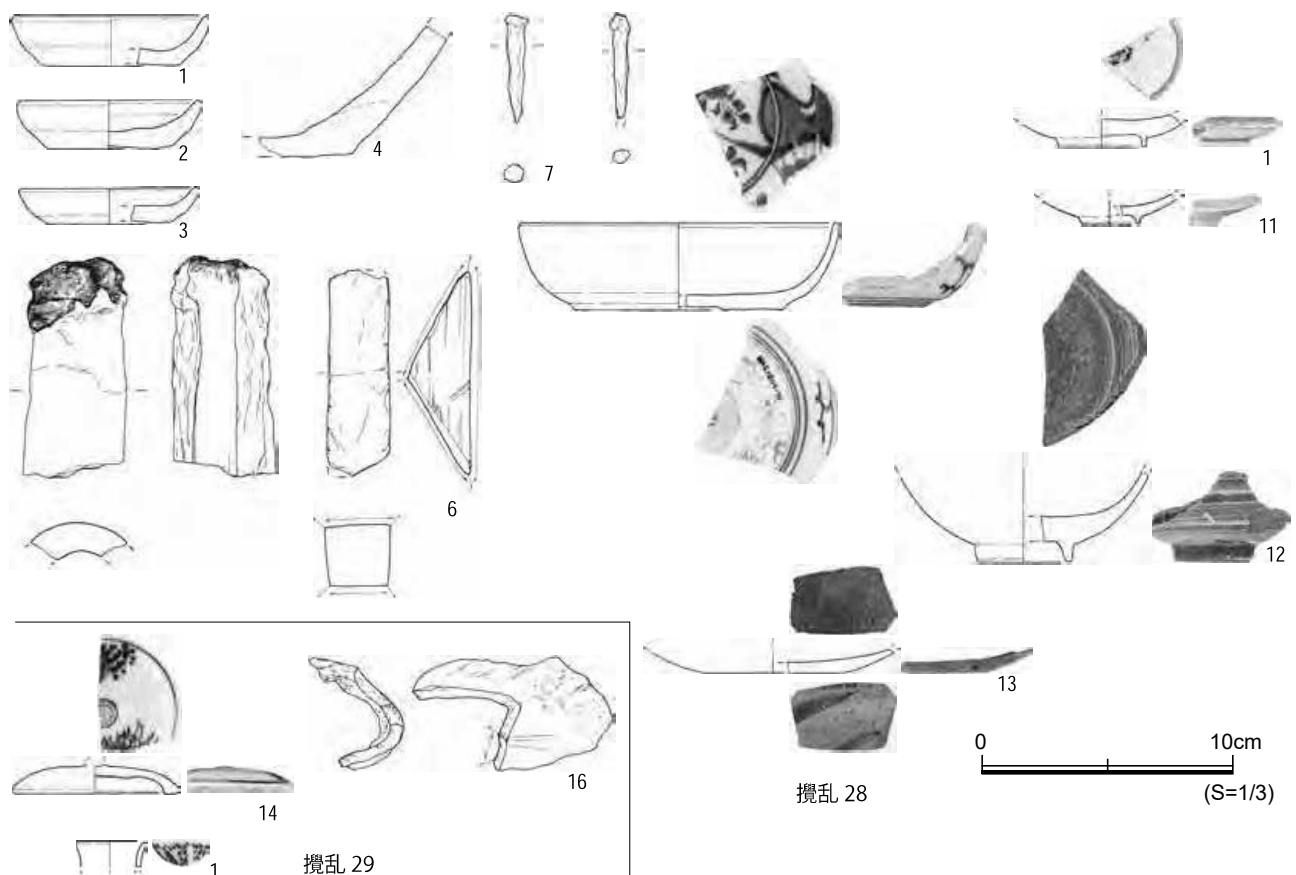


図 24 近代遺構出土遺物 (11)



图 26 近代遺構出土遺物 (13)

遺構外出土遺物

覆土や廃土などから検出した状態の良い近代遺物を掲載しておく（図 25～28）：1～17 は磁器で、1～5 は碗、6 は皿、7 は碗、8～9 は蓋、10 は小鉢、11～15 は皿、16 は香炉か。17 は御神酒徳利である。18～23 は陶器で、18 は碗、19 は小皿、20～21 は灯明皿、22 は台付灯明皿、23 は播鉢。24～34 はガ

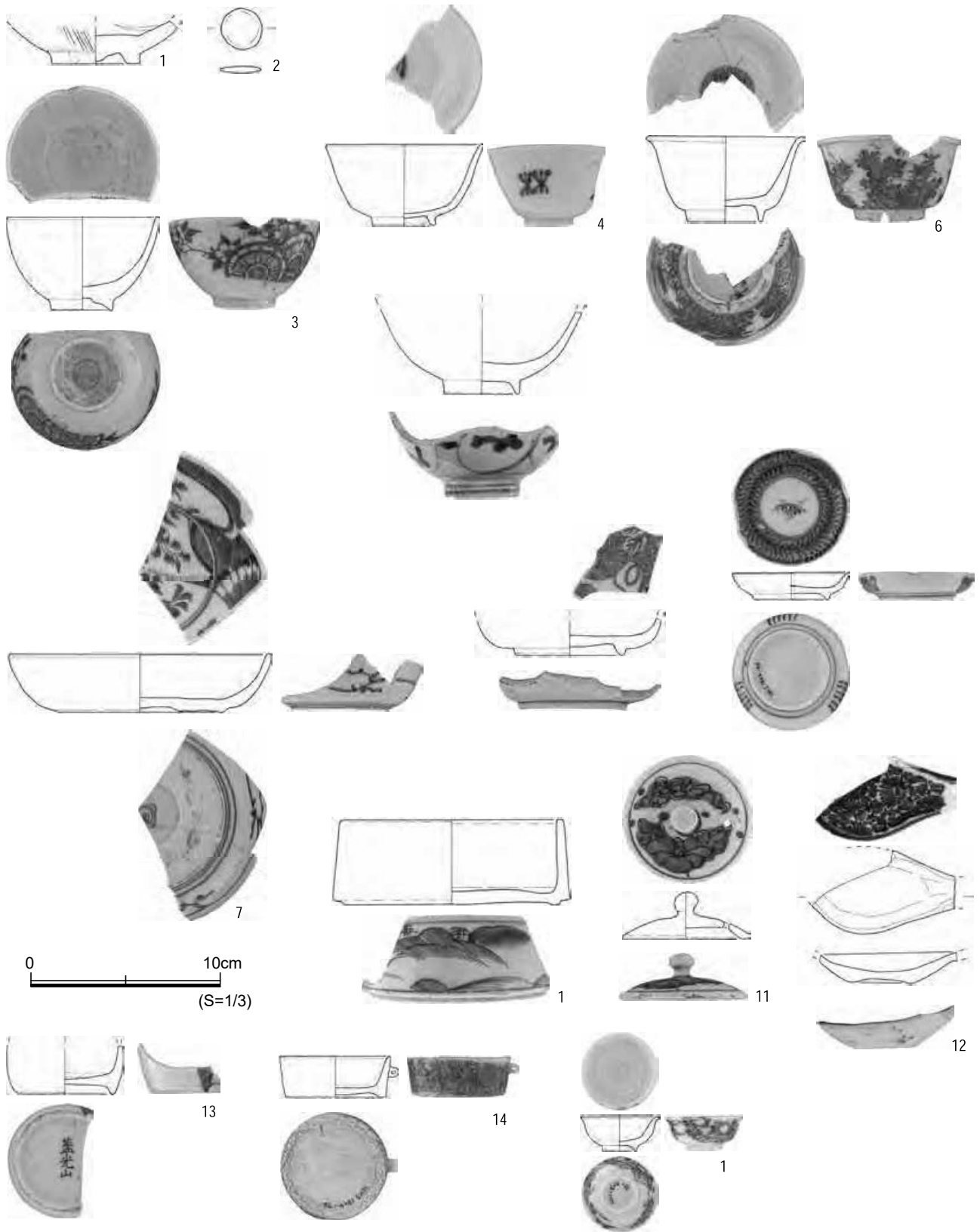


図 27 近代遺物 (1)

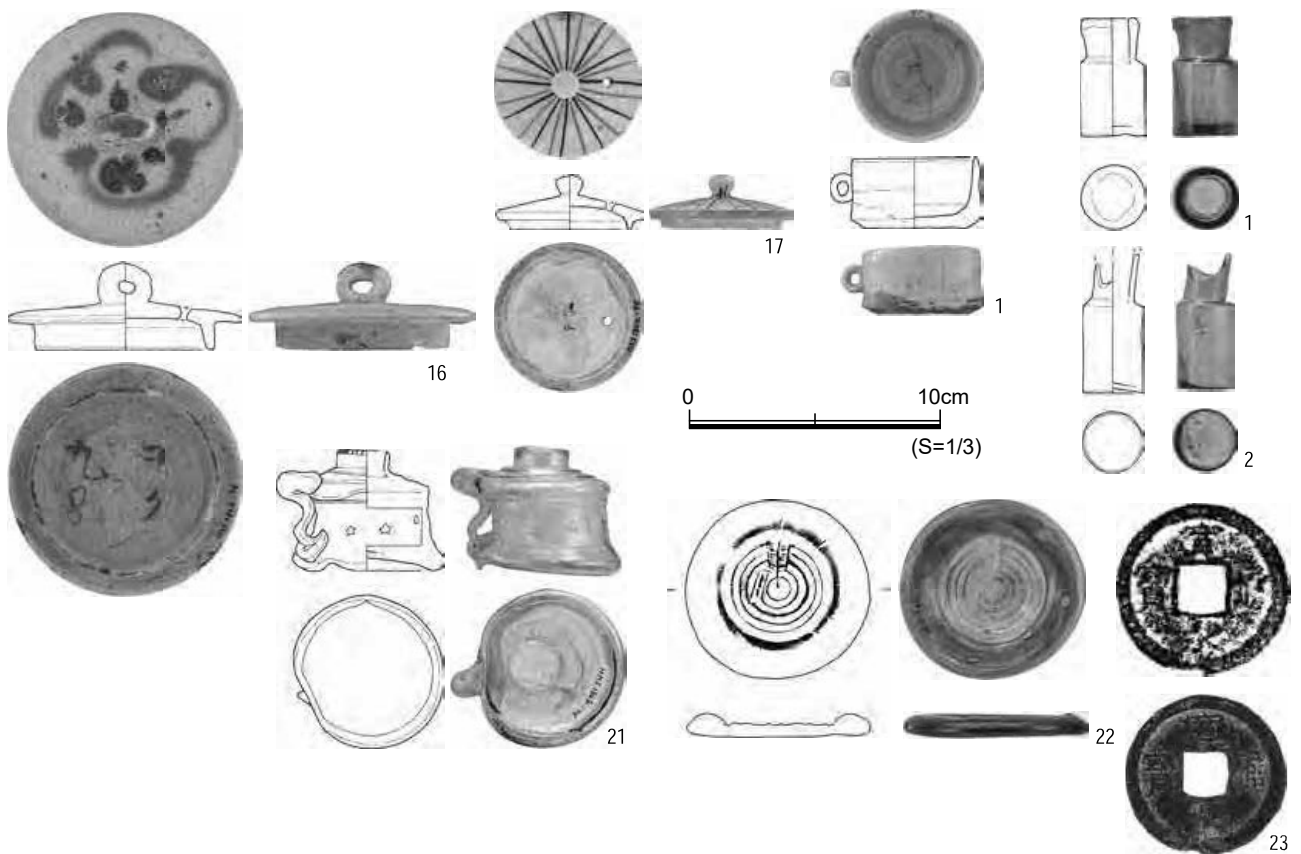


図 28 近代遺物 (2)

ラス製品で 24 はコーラ瓶、25 ～ 26 はカゴメのケチャップ瓶、27 は薬品容器、28 は瓶、29 は薬瓶、30 は瓶、31 は化粧品クリーム瓶、32 も化粧品瓶。33 はビー玉、34 は飲料水瓶である。35 は金属製品で用途不明。36 は鉄釘、37 は鉄製の楔である。

図 27 ～ 28 は廃土より検出。1 ～ 2 は中世遺物で、1 は青磁櫛搔文碗、2 は基石である。3 ～ 15 は磁器で、3 ～ 6 は碗、7 ～ 9 は皿、10 は鉢、11 は蓋、12 は蓮華、13 は徳利、14 は器種不明、15 は小坏。16 ～ 18 は陶器で、16 ～ 17 は蓋、18 は鉢。19 ～ 22 はガラス製品で、19 ～ 20 は薬瓶、21 はランプ燃料瓶、22 は石蹴りである。23 は銅銭で寛永通宝。

第三章 考察とまとめ

中世の遺構面を2面検出し、それぞれに建造物が確認された。第1面は泥岩粒を混入した整地層で、第2面はほぼ砂層となる。第2面は基本的に自然堆積であると思われ、この面を中世基盤層と判断した。なお掘削深度制限が設定されていたため、第2面の大型の遺構は底部を検出できていない遺構が多い。

第1面

第1面ほぼ全体が近代の掘り込みより削平されてしまっており、僅かに北部(2区)で中世の遺構と考えられるピット等が確認されたのみである。遺構検出面の標高は6.26～6.30mであるが上方は近代の掘り込み等で相当削平されてしまっていると考えられる。整地層はやや大型の泥岩を比較的多く混入した暗褐色土によるものである。遺構としてピット6穴、土坑4基を検出した。全体が残っており平面形を推定できるのはごく一部のピットのみである。建物の明瞭なプランなどは不明であり、切り合い関係もうかがうことはできない。

遺物は主にかわらけ、常滑、瀬戸、青磁、白磁、青白磁、土質火鉢、瓦器、鉄釘、滑石製品、自然遺物などが出土している。1面の時期は14世紀後半に属すると考えられる。

第2面

第2面も一部は近代の遺構の掘り込みにより削平されてしまっている。検出面の標高は6.05～6.20mである。第1面を構成する暗褐色土を取り去った茶褐色砂層および灰白色の砂層に構築されている。遺構としてはピット15穴、土坑9基、方形土坑18基を検出した。調査区全体で大小の方形土坑が基本的に分布し、重複して切り合っており、同じような場所になんども構築されていることが伺える。覆土は上方が硬くしまっている場合が多く、これらの大型の方形土坑を埋めるときにかなりしっかりと廃絶したのではないかと思われる。

遺物は主にかわらけ、手づくねかわらけ、常滑、瀬戸、備前、亀山、青磁、白磁、青白磁、土質火鉢、瓦質製品、瓦、銅銭、鉄釘などの金属製品、滑石製品などの石製品、自然遺物などが出土している。

出土遺物から所属時期は13世紀末～14世紀前半に属すると考えられる

なお、遺構からは相当数の土師器や須恵器が出土している。土師器は相模型が主流だが、古墳時代後期の系譜をひくへラケズリの甕や有稜坏が僅かに混じる。須恵器や灰釉陶器も含め、8世紀後半～9世紀代の古代遺物が混入している。

古代以前と思われる遺構は検出していないが、混入の度合からみても下層に古代の遺構が存在している可能性が高いのではないかと考えられる。今回の調査においては、それを確認することはできなかったが、当地が中世以前から積極的に活用されていた地域であることを示しているのではないかとと思われる。

第1面はほぼ砂層を覆い隠すような形で構築されたのではないかと考えられ、構築される遺構の状況もおそらく変化したのではないかと推測されるが、削平が激しいため、正確なところは明らかにし得なかった。

第2面は大半が方形土坑であり、周囲の調査例の結果から職能に関わる人々の活動域である可能性が高い。遺構の軸はおよそ現在の県道に一致しているようであり、他の地域で見られるような稲瀬川や交通路の関係において、建物の方向の区割が決められていた可能性が高いと想定される。

近代の遺物が出土した遺構についてはほとんどが関東大震災前後の時期に不要物を廃棄したものと考えられる。やや時間幅があると思われるが、主体は明治・大正期に属するであろう。寛永通宝など、一部近世に遡るものも見られる。近代の鎌倉に関する物質文化としては比較的まとまって出土した良好な一群の資料足りうると言えよう

表1 中世出土遺物観察表

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
6-1	1	構成土	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.5)	(5.8)	1.8	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: やや甘い	
6-2			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.3)	(5.3)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: やや甘い	
6-3			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(14.0)	7.8	3.45	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-4			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.7)	7.8	3.8	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
6-5			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.8)	(7.4)	3.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 赤色 粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-6			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(11.0)	6.6	3.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-7			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(11.0)	(6.4)	2.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨 針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
6-8			土製品	ロクロ かわらけ(大)	完形	11.0	6.5	3.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 赤色 粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-9			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/4	(12.7)	(6.8)	3.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-10			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.5	5.2	2.4	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 口縁 部 数ヶ所、打ち欠く	
6-11			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.5	4.5	2.2	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-12			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.7	5.0	2.25	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-13			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.4	4.4	2.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
6-14			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.1	5.1	2.15	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
6-15			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	(7.4)	4.5	2.0	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好	
6-16			陶器	常滑 甕	口縁部小 片	-	-	[7.5]	縁帯幅 3.0 a: 粘土紐輪積技法 内外面:横ナデ b: 黄灰色 砂粒 長石 石英 小 石粒 c: 黄褐色 e: 良好 f: 中野編年 6b~7 型式	
6-17			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部小片	-	-	[3.9]	a: 粘土紐輪積技法 貼付け高台 内面:横ナデ 内底部:磨滅 外面:横 ナデ・底部脛へラケズリ b: 灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 灰色 e: 良好	
6-18			陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小 片	-	-	[5.5]	a: 粘土紐輪積技法 内面:横ナデ 外面:口縁部横ナデ・体部縦位へラナ デ b: 橙灰色 長石 石英 小石粒 c: 橙灰色 e: 良好 f: 中野編年 8 型式	
6-19			陶器	瀬戸? 鉢	口縁部~ 体部	-	-	[6.5]	b: 灰色 砂粒 精良土 c: 灰黄色 e: 良好	
6-20			陶器	磨り常滑		最大長 6.5	最大幅 7.7	厚 1.4	f:4 側面・内外面共に全体的に磨耗	
6-21			土製品	鍔金	口縁部小 片	-	-	[2.1]	a: 内外面 横ナデ b: 灰白色 微砂 雲母 c: 灰白色 e: 良好	
6-22			土製品	かわらけ質 円板状		-	-	径 1.8×1.7	厚 0.8 b: 微砂 白色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 用途不明	
6-23			骨製品	加工品 筭		長 [4.7]	幅 0.5~0.9	厚 0.2		
6-24			土製品	須恵器 甕類	体部片	-	-	[4.2]	a: 内面:同心円おさえ 外面:平行叩き 共に後、弱いへラナデ b: 赤灰 色 白色粒 良土 c: 灰色 e: 良好	
6-25			土製品	須恵器 甕類	体部片	-	-	[3.8]	a: 内面横ナデ 外面:櫛掻波状文 b: 灰色 白色粒 やや良土 c: 内面: 灰褐色 自然釉 外面:黒色 自然釉 e: 良好 f: 傾き不明	
6-26			土製品	土師器 甕	体部片	-	-	[4.3]	a: 内面:横位のハケメ・へラナデ 外面:ハケメ b: 黄灰色 黒色粒 雲 母 白色粒 やや粗土 c: 内面:黄褐色 外面:黒褐色 e: 良好 f: 傾き 不明	
6-27			土製品	土師器 甕	底部片	-	7.0	[2.5]	a: 内面:横ナデ 外面:へラケズリ b: 橙灰褐色 砂粒 雲母 白色粒 良土 c: 橙灰褐色 e: 良好 f: 内底部に数ヶ所、刃物痕	
9-1			2	28	土製品	土師器 坏	1/3	(12.6)	-	4.9
9-2	土製品	ロクロ かわらけ(大)			完形	12.5	7.5	3.25	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 粗土 c: 橙色 e: 良好	
9-3	磁器	白磁 口元皿			口縁部片	(10.8)	-	[2.2]	b: 灰白色 砂粒 精良堅緻 気孔あり d: 灰白色 半透明釉 釉層薄 い f: 大宰府・白磁ⅢⅩ類	
9-4	磁器	青白磁 袋物			体部片	-	-	[1.5]	b: 白色 砂粒 精良堅緻 d: 水青色 半透明釉 釉層厚い 内面:露胎 f: 口縁下より蓮弁状の文様 瓜型の水注か	
9-5	鉄製品	釘				長 [4.8]	幅 0.8	厚 0.4	f: 四角状鍛造	
9-6	鉄製品	釘				長 [5.1]	幅 0.5	厚 0.4	f: 四角状鍛造	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
9-7	2	29	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(14.3)	(8.0)	3.2	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 粗土 c: 淡褐色 e: 良好	
9-8			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.4	5.2	1.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 良土 c: 褐色 e: 良好	
9-9		32	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	8.2	4.7	2.1	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: やや甘い f: 底部2ヶ所穿孔有り 外底部2本切り込み有り	
9-10		33	陶器	灰釉陶器 碗	底部小片	-	-	[1.6]	a: ロクロ成形 b: 灰色 微砂 精良土 c: 灰色 e: 良好 f: 内底面摩耗	
9-11		36	36	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.8)	(8.9)	3.5	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
9-12				土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	11.4	7.4	2.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
9-13				土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	10.9	7.0	2.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好
9-14				土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(10.8)	(7.2)	2.8	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好
9-15				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.4)	(6.4)	1.4	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
9-16				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(7.6)	(6.2)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
9-17				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.0	4.9	2.0	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 良土 c: 褐色 e: 良好
9-18				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.2	4.4	2.15	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 淡黄灰色 e: 良好
9-19				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.2)	5.2	1.8	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 良土 c: 褐色 e: 良好
9-20				磁器	青磁 蓮弁折縁皿	1/6	(11.8)	-	[2.1]	b: 灰白色 精良堅緻 d: 淡灰緑色 半透明釉 釉層厚い 貫入あり f: 大宰府・坏皿類
9-21				陶器	常滑 甕	口縁部小片	-	-	[5.6]	縁帯幅 2.5 a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 砂粒 長石 石英 c: 暗茶褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a~6b 型式
9-22				陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[9.6]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ヘラナデ b: 暗灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 内面: 暗茶褐色 外面: 暗褐色 e: 良好 f: 中野編年 6b 型式
9-23				陶器	常滑 甕	底部小片	-	-	[3.9]	a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 指頭痕 外面: ヘラナデ 底部: 砂目底 b: 暗灰色 砂粒 長石 石英 c: 内面: 茶褐色 外面: 淡褐色 e: 良好
9-24				陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	底部小片	-	-	[5.2]	a: 内面: 横ナデ 磨滅 外面: 縦ヘラナデ b: 暗灰色 砂粒 白色粒 長石 c: 暗褐色 e: 良好
9-25				陶器	備前 播鉢	口縁部片	-	-	[5.0]	a: 内外面: 横ナデ b: 淡褐色、芯部 暗灰色 砂粒 白色粒 c: 暗灰色 e: 良好 f: 条線 7条以上
9-26				鉄製品	刀子か?		長 [7.1]	幅 1.1	厚 0.3	f: 四角状鍛造
9-27				鉄製品	釘		長 [4.5]	幅 0.5	厚 0.3	f: 四角状鍛造
9-28				鉄製品	釘		長 [5.2]	幅 0.3	厚 0.3	f: 四角状鍛造
9-29				鉄製品	釘		長 [5.1]	幅 0.5	厚 0.35	f: 四角状鍛造
9-30		鉄製品	釘		長 [4.2]	幅 0.4	厚 0.2	f: 四角状鍛造		
9-31		鉄製品	釘		長 [4.6]	幅 0.6	厚 0.5	f: 四角状鍛造		
9-32		鉄製品	釘		長 [4.3]	幅 0.4	厚 0.25	f: 四角状鍛造		
9-33		土製品	土師器 甕	口縁部小片	-	-	[2.3]	a: 内面ハケナデ 外面横ナデ b: 橙灰色 砂粒 雲母 白色粒 小石粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好		
9-34		土製品	土師器 甕	口縁部小片	-	-	[2.7]	a: 内外面横ナデ b: 灰黒色 砂粒 雲母 白色粒 小石粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好		
9-35		土製品	土師器 坏	底部小片	-	-	[2.0]	a: ロクロ成形 内外面横ナデ b: 暗褐色 砂粒 雲母 白色粒 良土 c: 暗褐色~暗灰色 e: 良好		
9-36		土製品	須恵器 坏	1/3	(6.6)	-	[1.4]	a: ロクロ成形 内外面横ナデ 内面見込み研磨 貼付高台 b: 暗灰色 砂粒 白色粒 良土 c: 暗褐色 e: 良好		
9-37		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/7	(13.3)	(9.3)	3.0	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		
9-38		土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/7	(12.4)	(8.0)	3.0	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		
9-39		陶器	常滑 甕	口縁部小片	-	-	[6.0]	縁帯幅 2.5 a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 指頭痕 外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 長石 石英 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式		
9-40		土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(8.0)	(5.8)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好		
9-41		陶器	瀬戸? 片口鉢Ⅰ類	口縁部片	-	-	[4.3]	a: 内面 横ナデ b: 灰白色 砂粒 雲母 白色粒 やや粗土 c: 灰白色 e: 良好		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目			
						口径	底径	器高	重				
9-42	2	37	土製品	東遠壺か?	底部小片	-	-	[3.2]		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: 内面横ナデ b: 暗赤褐色 砂粒 白色粒 良土 c: 暗灰色 e: 良好 f: 貼付高台? 欠損			
9-43			鉄製品	釘		長 [5.5]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造			
9-44			土製品	土師器壺	口縁部小片	-	-	[2.0]		a: 内外面横ナデ b: 淡橙灰色 砂粒 雲母 白色粒 良土 c: 淡橙灰色 e: 良好			
10-1		38	38	土製品	ロクロかわらけ (小)	1/4	(7.4)	(4.8)	1.6		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-2				土製品	ロクロかわらけ (小)	1/3	(7.3)	5.2	1.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-3				陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	口縁部小片	-	-	[2.5]		a: 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 長石 石英 小石粒 c: 暗灰色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式?		
10-4				陶器	亀山壺	体部小片	-	-	[4.0]		a: 内面 横ナデ 外面: 叩き目 b: 灰白色 砂粒 白色粒 c: 内面: 灰白色 外面: 暗灰色		
10-5				土製品	南伊勢系土鍋	口縁部小片	-	-	[1.7]		a: 内外面横ナデ b: 暗灰色 砂粒 雲母 白色粒 やや粗土 c: 内面: 暗灰色 外面: 灰白色 e: 良好		
10-6				土製品	輪花型火鉢	底部小片	-	-	[5.8]		a: 内面横ナデ 外面横ナデ 縦ヘラナデ→ミガキ 内底面斜格子暗文 外底面砂底 脚剥離 b: 橙灰色 砂粒 赤色粒 白色粒 やや粗土 c: 内面: 灰黒色 外面: 橙灰色 e: 良好 f: 河野編年火鉢Ⅲ類		
10-7				鉄製品	釘		長 [4.6]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造		
10-8				鉄製品	針状製品		長 3.2	幅 0.2	厚 0.1		f: 四角状鍛造		
10-9				土製品	土師器壺	口縁部小片	-	-	[4.3]		a: 内面横位連続ハケ目 外面縦位連続ハケ目 b: 橙色 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-10				土製品	土師器壺	口縁部小片	-	-	[4.2]		a: 内外面横ナデ b: 橙色 微砂 雲母 白色粒 小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-11				土製品	土師器壺	口縁部片 体部片 底部片	(19.8)	(6.8)	-		a: 内面ヘラナデ・磨耗 外面縦位ヘラケズリ 外底部木葉痕 b: 橙灰色 砂粒 雲母 白色粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 外底部 火を受け黒色に変色 内底部 白色物付着		
10-12				40	40	土製品	ロクロかわらけ (大)	完形	14.0	8.0	3.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 (右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
10-13						土製品	ロクロかわらけ (小)	1/4	(8.0)	(6.0)	1.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 (右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
10-14						鉄製品	釘		長 [5.7]	幅 0.4	厚 0.3		f: 四角状鍛造
10-15						骨製品	加工骨		長 [1.9]	幅 [4.0]	厚 [1.1]		f: 穴が穿たれているか。一端黒く変色 (炭化か)
10-16						土製品	土師器壺	口縁部小片	-	-	[4.5]		a: 内外面横ナデ b: 暗灰色 砂粒 雲母 白色粒 良土 c: 橙色 e: 良好
10-17						土製品	土師器壺	底部小片	-	-	[3.6]		a: 内外面横ナデ 底部: 木葉痕 b: 橙灰色 砂粒 雲母 やや良土 c: 暗橙褐色 e: 良好
10-18		土製品	ロクロかわらけ (大)			1/4	(12.6)	(7.0)	2.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-19		土製品	ロクロかわらけ (小)			1/3	(7.7)	(5.4)	1.6		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 (右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 暗橙褐色 e: 良好		
10-20		土製品	ロクロかわらけ (小)			ほぼ完形	7.6	5.4	1.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 (右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 粗土 c: 橙色 e: 良好		
10-21		土製品	ロクロかわらけ (極小)			1/6	(3.8)	(2.6)	1.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好		
10-22		42	42			陶器	亀山壺	体部小片	-	-	[4.1]		a: 内面 横ナデ 外面: 叩き目 b: 灰色 砂粒 白色粒 c: 内面: 灰色 外面: 暗灰色
10-23						鉄製品	鋸?	-	長 [6.3]	幅 0.6	厚 0.3		f: 形状的に鋸か
10-24						鉄製品	釘		長 [5.3]	幅 0.3	厚 0.3		f: 四角状鍛造
10-25						鉄製品	用途不明		長 [4.8]	幅 0.7	厚 0.3		f: 四角状鍛造
10-26						骨製品	加工骨		長 [3.5]	幅 [1.7]	厚 [0.5]		
10-27						土製品	土師器高坏?	口縁部片	(18.2)	-	[6.3]		a: 内外面 横ナデ・ミガキ b: 橙灰色 微砂 雲母 白色粒 泥岩粒 良土 c: 橙色 e: 良好
10-28	43					43	土製品	ロクロかわらけ (小)	完形	7.6	5.5	2.2	
10-29		鉄製品	釘		長 4.9		幅 0.55	厚 0.4		f: 四角状鍛造			
10-30	44	44	陶器	常滑片口鉢Ⅱ類	底部小片	-	-	[9.4]		a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ナデ 摩耗 外面: 横ナデ 底部脇ヘラケズリ 外底: 砂目底 b: 暗灰色 長石 石英 小石粒 c: 内面: 暗赤褐色 外面: 橙褐色 e: 良好			

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目
						口径	底径	器高	重	
10-31	44		陶器	瀬戸 灰釉折縁皿	ほぼ完形	23.4	12.0	6.9		a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 外面: 体部下位回転ヘラケズリ 内底部: 曲線の描文 b: 灰色 良土 c: 灰緑色 d: 灰緑色ツケガケ 施釉: 薄い 底部: 露胎 e: 良好 f: 外底部、故意に打ち欠いている 藤澤編年中Ⅲ期
10-32			鉄製品	釘		長 [5.3]	幅 0.3	厚 0.2		f: 四角状鍛造
10-33			鉄製品	釘		長 [5.2]	幅 0.3	厚 0.2		f: 四角状鍛造
11-1	2	41	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(14.3)	8.0	3.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
11-2			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(14.0)	(8.0)	3.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-3			土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	13.9	8.0	3.6		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-4			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	14.0	8.9	3.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-5			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(13.9)	(8.0)	3.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-6			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.4)	(9.3)	3.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 白色 粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色 e: 良好
11-7			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.8)	8.4	3.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-8			土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/3	(13.6)	(7.8)	3.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-9			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.3	7.5	3.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好
11-10			土製品	ロクロ かわらけ(大)	3/4	13.2	8.0	3.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-11			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	11.3	7.0	3.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 良土 c: 褐色 e: 良好
11-12			土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	11.0	7.5	2.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-13			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	8.4	5.0	2.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 褐色 e: 良好 f: 口縁部1ヶ所打 ち欠いている 口唇部 油煤痕
11-14			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.9	5.2	2.45		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-15			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.9	4.2	2.2		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好
11-16			土製品	ロクロ かわらけ(小)	2/3	7.5	4.3	1.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-17			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.4	4.2	1.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色 e: 良好
11-18			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.3	5.3	1.7		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
11-19			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.1	5.4	1.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 赤色 粒 海綿骨針 良土 c: 褐色 e: 良好
11-20			土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.2	4.2	2.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 赤色 粒 白色粒 海綿骨針 良土 c: 褐色 e: 良好
11-21			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.3	4.2	2.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) b: 微砂 雲母 白色 粒 海綿骨針 良土 c: 黄灰色 e: 良好
11-22			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(4.4)	2.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 海綿骨針 小石粒 泥岩粒 やや粗土 c: 黄灰色 e: 良好
11-23			磁器	白磁 合子蓋	口縁部小 片	-	-	[1.8]		a: 型押し b: 白色 砂粒 精良堅緻 d: 白色 半透明釉 釉層薄い
11-24			鉄製品	釘		長 [4.9]	幅 0.4	厚 0.2		f: 四角状鍛造
11-25	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(12.9)	(6.5)	3.3		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		
11-26	土製品	ロクロ かわらけ(大)	2/3	10.6	6.2	3.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色 e: 良好 f: 内外面口唇部に油 煤痕 灯明皿として使用か?		
11-27	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/6	(11.0)	(6.5)	2.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: 良好		
11-28	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/5	(10.8)	5.9	2.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好		
11-29	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/5	(8.2)	(5.4)	1.8		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色 粒 海綿骨針 良土 c: 灰黄色 e: 良好		
11-30	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(8.0)	(5.6)	1.5		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		
11-31	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	7.2	4.2	2.2		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		
11-32	土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.8	5.3	2.2		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好		

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)			観察項目	
						口径	底径	器高		
11-33		2	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(4.8)	1.5	a: 成形・整形 b: 胎土・素地・材質 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 粗土 c: 暗褐色 e: 良好	
11-34			土製品	ロクロ かわらけ(小)	ほぼ完形	7.4	4.9	2.2	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕強 b: 微砂 雲母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 赤褐色 e: 良好	
11-35			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.9)	(5.4)	1.7	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好	
11-36			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.6)	(5.0)	1.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 暗褐色 e: 良好	
11-37			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/6	(7.2)	(4.0)	1.7	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤 色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好	
11-38			磁器	青磁 蓮弁文碗	口縁部小 片	-	-	[2.0]	b: 灰色 精良堅緻 d: 灰緑色 半透明釉 釉層やや厚い f: 大宰府 - 龍泉 窯Ⅱ類	
11-39			磁器	白磁 口元皿	口縁部小 片	-	-	[3.5]	b: 灰白色 黒色粒 精良堅緻 d: 灰緑色 透明釉 釉層薄い f: 大宰府 - 白磁ⅢIX類	
11-40			磁器	白磁 口元碗	口縁部小 片	-	-	[3.0]	b: 灰白色 精良堅緻 気孔あり d: 灰白色 半透明釉 釉層薄い f: 大宰 府 - 白磁ⅢIX類	
11-41			磁器	白磁 口元皿	底部片	-	5.8	[1.4]	b: 灰白色 黒色微砂 精良堅緻 d: 緑味灰白色 半透明釉を全面施釉 底部釉は板状工具で伸ばす 釉層やや厚め f: 大宰府 - 白磁ⅢIX類	
11-42			陶器	常滑 壺	口縁部小 片	-	-	[7.2]	縁帯幅 2.3 a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 砂粒 長石 石英 c: 暗灰色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
11-43			陶器	常滑 壺	口縁部小 片	-	-	[4.6]	縁帯幅 2.0 a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 砂粒 長石 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
11-44			陶器	常滑 三耳壺?	口縁部小 片	-	-	[2.8]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 砂粒 長石 石英 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a ~ 6b 型式	
11-45			陶器	常滑 壺	底部小片	-	-	[4.3]	a: 粘土紐輪積技法 内面: 指頭痕 内外面: 横ヘラナデ b: 灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 内面: 灰褐色 外面: 明褐色 e: 良好 f: 蒿口の 壺か	
11-46			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小 片	-	-	[4.1] ~ [3.5]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年 7 型式か	
11-47			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小 片	-	-	[4.5]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
11-48			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小 片	-	-	[3.2]	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ 磨滅 b: 灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
11-49			陶器	山茶碗 東濃型	口縁部小 片	-	-	[2.4]	a: 内外面: 横ナデ b: 灰白色 黒色粒 精良土 c: 灰白色 e: 良好	
11-50			陶器	山茶碗 尾張型	口縁部小 片	-	-	[3.1]	a: 内外面: 横ナデ b: 暗灰色 黒色粒 石英 c: 暗褐色 e: 良好	
11-51			陶器	山茶碗 尾張型?	1/5	-	(7.8)	[1.4]	a: 内底部 横ナデ 磨滅 外底回転糸切 b: 灰色 砂粒 白色粒 良土 c: 灰 色 e: 良好 f: 貼付高台欠損か	
11-52			陶器	山茶碗 尾張型?	底部小片	-	-	[1.4]	a: 外底回転糸切 貼付高台 靱殻痕 b: 灰色 白色粒 良土 c: 灰色 e: 良好	
11-53			石製品	軽石		最大長 7.7	幅 3.0 ~ 4.0	厚 3.0 ~ 3.8	c: 灰白色 f: 上下以外全面磨滅	
11-54			鉄製品	刀子か?		長 [8.3]	幅 0.6 ~ 1.4	厚 0.2 ~ 0.4	f: 末端部欠損	
11-55			鉄製品	釘		長 [7.0]	幅 0.6	厚 0.4	f: 四角状鍛造	
11-56			鉄製品	釘	-	長 6.6	幅 0.4	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
11-57			鉄製品	釘		長 [5.3]	幅 0.4	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
11-58			鉄製品	釘		長 [5.0]	幅 0.5	厚 0.2	f: 四角状鍛造	
11-59			鉄製品	釘	-	長 [3.6]	幅 0.2	厚 0.3	f: 四角状鍛造	
11-60			土製品	土師器 壺	底部小片	-	-	[1.7]	a: 内面: 横ナデ 外面: 縦位ヘラケズリ b: 暗褐色 砂粒 白色粒 良土 c: 暗褐色 e: 良好 f: 内外底部、刃物痕	
12-1			46	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/2	(10.6)	5.8	2.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 粗土 c: 暗褐色 e: 良好
12-2			47	土製品	ロクロ かわらけ(大)	ほぼ完形	13.2	8.0	3.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好
12-3				土製品	ロクロ かわらけ(小)	完形	7.8	5.0	2.3	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好
12-4		陶器		常滑 壺	縁部小 片	-	-	-	縁帯幅 5.6 b: 暗褐色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 内面: 褐色 外面: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 8 型式	
12-5		鉄製品	釘		長 3.6	幅 0.3	厚 0.2	f: 四角状鍛造		
12-6		50	土製品	ロクロ かわらけ(大)	1/6	(13.5)	(8.8)	3.6	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 板状圧痕 b: 微砂 雲母 赤色 粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 黄褐色 e: 良好	
12-7			土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/7	(6.9)	(4.7)	1.9	a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b: 微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 小石粒 やや粗土 c: 褐色 e: 良好	
12-8			陶器	常滑 壺	口縁部小 片	-	-	[7.9]	縁帯幅 2.0 a: 粘土紐輪積技法 内面: 横ヘラナデ 指頭痕 外面: 横ナデ b: 暗褐色 砂粒 長石 石英 小石粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目		
						口径	底径	器高	重			
12-9	2	50	陶器	常滑片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[3.6]		a:成形・整形 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:備考 a:粘土紐輪積技法 内外面:横ナデ b:灰色 砂粒 長石 石英 小石粒 c:灰色～暗灰色 e:良好 f:中野編年 6b 型式		
12-10			陶器	瀬戸灰釉御皿	底部小片	-	-	[1.4]		a:ロクロ成形 内底 卸し目 外底部糸切り痕 底部脇 横ナデ b:淡黄色 砂粒 白色粒 小石粒 やや粗土 c:淡黄色 d:ツケガケ e:良好 f:藤澤編年中期か		
12-11			陶器	亀山甕	体部小片	-	-	[3.1]		a:内面 横ナデ 外面:叩き目 b:灰白色 砂粒 白色粒 c:内面:灰白色 外面:暗灰色		
12-12			陶器	磨り常滑		最大長 4.9	最大幅 2.7	厚 1.3		f:側面 2面 外面磨耗		
12-13			陶器	磨り常滑		最大長 5.1	最大幅 3.9	厚 1.1		f:側面 3面磨耗		
12-14			土製品	平瓦	-	[11.6]	-	1.9		a:凸面:斜格子叩き目 縦位ナデ 離れ砂 凹面:布目痕 紐抜き痕 離れ砂 b:灰白色 砂粒 白色粒 赤色粒 小石粒 やや粗土 c:暗灰色 e:良好		
12-15			石製品	砥石中砥		長 [8.4]	幅 4.3	厚 2.7		c:黄灰色 f:砥面 3面 伊予産		
12-16			鉄製品	釘		長 [5.7]	幅 0.4	厚 0.3		f:四角状鍛造		
12-17			鉄製品	釘		長 [5.3]	幅 0.3	厚 0.2		f:四角状鍛造		
12-18			鉄製品	釘		長 [4.8]	幅 0.3	厚 0.4		f:四角状鍛造		
12-19			鉄製品	釘		長 [5.3]	幅 0.5	厚 0.3		f:四角状鍛造		
12-20			鉄製品	釘		長 [6.0]	幅 0.4	厚 0.2		f:四角状鍛造		
12-21			陶器	灰釉陶器皿?	底部小片	-	(7.8)	[1.5]		a:ロクロ成形 貼付高台 b:灰色 微砂 精良土 c:灰色 d:灰緑色ハケズリ e:良好 f:内底面:重ね焼きの痕跡あり		
12-22			土製品	土師器甕	口縁部片	-	-	[3.5]		a:内外面:横ナデ b:微砂 雲母 白色粒 良土 c:淡橙色 e:良好		
12-23			土製品	土師器甕	口縁部小片	-	-	[3.6]		a:横ナデ b:微砂 雲母 白色粒 やや粗土 c:淡黄橙色 e:良好		
12-24			土製品	土師器甕	体部小片	-	-	[3.7]		a:内外面:横位連続ハケ目 b:微砂 雲母 白色粒 良土 c:暗橙色 e:良好		
12-25			土製品	土師器甕	底部片 1/6	-	-	[4.0]		a:内面:横位連続ハケ目 外面:横ナデ b:微砂 雲母 白色粒 良土 c:暗橙色 e:良好		
12-26			52	土製品	ロクロかわらけ(大)	1/6	(11.5)	(6.0)	2.8		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 海綿骨針 良土 c:黄灰色 e:良好 f:内外面、火を受け黒色に変色	
12-27				土製品	ロクロかわらけ(小)	1/5	(7.7)	(4.8)	1.6		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c:暗橙色 e:良好	
12-28				鉄製品	不明		長 [6.3]	幅 [4.0]	厚 2.9～3.7		f:用途不明	
14-1			近代	攪乱	土製品	ロクロかわらけ(大)	4/5	(13.0)	8.5	2.9		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-2					土製品	ロクロかわらけ(大)	1/3	(13.2)	7.6	3.4		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 黒色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好
14-14					土製品	土師器坏	口縁部小片	-	-	[3.3]		a:内外面:横ナデ 外面底部ヘラケズリ b:にぶい橙色 黒色粒 雲母 白色粒 やや粗土 c:にぶい橙色 e:良好
15-1					陶器	東播系片口鉢	口縁部片	-	-	[4.3]		a:内面 横ナデ b:灰色 砂粒 黒色粒 白色粒 c:灰色 d:口縁部 自然釉(黒褐色) e:良好
15-2					銅製品	銭		外径 2.4	内孔 0.6	-	重 3.4	
16-5	石製品	砥石 仕上砥				長 [9.5]	幅 6.2	厚 [2.0]		c:黄白色 f:砥面 2面 鳴滝産 年代 16c 以降		
16-6	石製品	砥石 中砥				長 [5.1]	幅 [6.4]	厚 [6.4]		c:黄灰色と赤色のマール状 f:砥面 2面 天草産		
16-7	土製品	須恵器甕			体部片	-	-	[5.1]		a:内面:横ナデ 外面:平行叩き目 b:灰色 砂粒 良土 c:内面:灰色降灰 外面:灰色 e:良好		
17-3	攪乱	土製品			ロクロかわらけ(大)	ほぼ完形	13.8	7.4	4.0		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切(右回転) 板状圧痕 b:微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好	
17-4		土製品			ロクロかわらけ(小)	1/3	(8.0)	(5.5)	1.4		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡黄褐色 e:良好	
17-5		鉄製品			釘	-	長 [5.2]	幅 [0.3]	厚 [0.6]		f:四角状鍛造	
17-6	攪乱	陶器			亀山甕	底部	-	-	[3.2]		a:内面 横ナデ 外面:格子叩き目 b:灰白色 砂粒 白色粒 小石粒少 c:内面:灰白色 外面:暗灰色	
17-7		土製品			器種不明	体部小片	-	-	[3.1]		a:内面:ミガキ 外面:幾何学文様陰刻 b:灰白色 砂粒 白色粒 c:明橙色 e:良好 f:香炉か	
17-8		土製品			土錘	体部小片	最大長 3.9	最大幅 2.4	径 1.0～1.1	内孔 0.7	b:微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:淡黄灰色 f:表面に若干焦げ痕あり	
17-12		土製品	ロクロかわらけ(小)	1/4	(7.8)	(6.0)	1.8		a:ロクロ成形 内底ナデ 外底回転糸切 b:微砂 雲母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c:橙色 e:良好			

図番号	出土面	遺構番号	材質	種別	遺存度	法量 (cm)				観察項目	
						口径	底径	器高	重		
17-13	近代	攪乱14	磁器	青白磁 梅瓶	体部小片	-	-	[3.8]		a: 成形・整形 b: 胎土・素地 c: 色調 d: 釉調 e: 焼成 f: 備考 b: 淡灰白色 精良堅緻 d: 水青色 透明釉 釉層薄い f: 渦巻き文	
17-14			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	口縁部小片	-	-	[3.9]		a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 長石 白色粒 c: 灰色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式	
17-15			陶器	龜山 壺	体部小片	-	-	[5.4]		a: 内面 横ナデ 外面: 格子叩き目 b: 灰白色 砂粒 白色粒 c: 内面: 灰色 外面: 暗灰色	
17-16			土製品	かわらけ 球体			-	-	径 1.7~1.8		b: 微砂 雲母 白色粒 海綿骨針 良土 c: 橙色 e: 良好 f: 球体の一部 剝離、蓋のつまみか?
17-17			土製品	須恵器 蓋	口縁部小片	-	-	[1.0]			a: ロクロ成形 内外面回転ナデ b: 灰色 砂粒 白色粒多 c: 暗灰色 e: 良好 f: 東海地方産
17-18			石製品	砥石 中砥			長 [5.9]	幅 2.6~3.4	厚 1.3~2.6		c: 淡灰緑色 f: 砥面 4面 上野産 (砥沢) 16c 以降
17-19			攪乱15	陶器	常滑 壺	口縁部小片	-	-	[2.7]	縁帯幅 2.6	a: 粘土紐輪積技法 内外面: 横ナデ b: 灰色 砂粒 長石 白色粒 c: 暗赤褐色 e: 良好 f: 中野編年 6a 型式
18-3			攪乱21	土製品	土師器 壺	体部片	-	-	[3.7]		a: 内面: 横位ハケメ・ナデ 外面: 横位ハケメ b: 赤灰色 白色粒 赤色 粒 海綿骨針 やや良土 c: 内面: 赤灰色 外面: 橙色 e: 良好
18-5			攪乱23	土製品	土師器 壺	体部片	-	-	[4.2]		a: 内面: 横位ハケメ・ナデ 外面: 縦位ハケ目 b: 灰褐色 黒色粒 海綿 骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
18-6			攪乱23	土製品	土師器 杯	体部片	-	-	[3.1]		a: 内面: 横ナデ・棒状ヘラミガキ 外面: 横ナデ・ヘラケズリ b: 灰褐色 黒色粒 赤色粒 海綿骨針 良土 c: 黄褐色~黒褐色 e: 良好
19-1			攪乱25	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.4)	(5.4)	1.9		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲 母 赤色粒 黒色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
19-2				鉄製品	釘		長 [7.4]	幅 0.8	厚 0.8		f: 四角状鍛造
19-3				鉄製品	釘		長 6.1	幅 0.5	厚 0.6		f: 四角状鍛造
19-4				鉄製品	釘		長 [6.0]	幅 0.5	厚 0.5		f: 四角状鍛造
19-5		骨製品		針状製品		長 7.5	幅 0.4	厚 0.4		f: 針状に加工	
20-1		攪乱27	土製品	ロクロ かわらけ(小)	3/4	7.3	4.9	1.85		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切 右回転 板状圧痕 b: 微砂 雲 母 赤色粒 黒色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 橙色 e: 良好 f: 口唇部に ケズリあり	
20-2			陶器	常滑 片口鉢Ⅰ類	底部小片	-	-	[5.2]		a: 粘土紐輪積技法 内面: 磨滅 外面: 回転ヘラケズリ 高台貼付 b: 灰 色 砂粒 長石 石英 c: 灰色 e: 良好 f: 表面にケズリあり、二次加工 品か	
20-3			土製品	器種不明			長 [7.1]	幅 3.5	内径 0.7	a: 外面 棒状ヘラミガキ痕 b: 微砂 雲母 黒色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好	
23-48			銅製品	銭			外径 2.3	内孔 0.6	-	重 2.7	f: ■永通寶
23-49			骨製品	加工骨			長 [8.8]	幅 [3.9]	厚 [0.5~ 2.8]		
23-50			骨製品	加工骨			長 [9.6]	幅 [13.5]	厚 [0.3~ 2.8]		
24-1			攪乱28	土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/3	(7.7)	(5.6)	2.0		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲 母 赤色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 橙色 e: 良好
24-2				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/2	(7.2)	5.0	2.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲 母 赤色粒 白色粒 海綿骨針 やや粗土 c: 黄橙色 e: 良好
24-3				土製品	ロクロ かわらけ(小)	1/4	(7.1)	(5.0)	1.4		a: ロクロ成形 内底ナデ 外底回転系切(右回転) 板状圧痕 b: 微砂 雲 母 白色粒 海綿骨針 泥岩粒 やや粗土 c: 灰黄色 e: やや甘い
24-4				陶器	備前 措鉢	底部小片	-	-	[5.8]		
24-5		土製品		轆の羽口			残長 [8.7]	幅 [4.0]	厚 1.1		b: 砂粒 白色粒 粗土 c: 灰黄褐色~赤褐色
24-6		石製品		砥石 中砥	ほぼ完形		長 8.3	幅 2.4	厚 2.5		c: 灰緑色 f: 砥面 3面 切り出し痕あり 上野産 16c 以降~18c
24-7	鉄製品	釘				長 4.4	幅 0.7	厚 0.7			
24-8	鉄製品	釘				長 [4.2]	幅 0.6	厚 0.5			
24-16	攪乱29	骨製品		加工骨		長 [4.6]	幅 [8.1]	厚 [0.1~ 0.6.]			
27-1		磁器		同安窯 青磁梅瓶文碗	底部片	-	(4.8)	[2.3]		b: 暗灰色 精良堅緻 気孔あり d: 灰緑色 透明釉 釉層厚い 気泡あ り	
27-2		石製品	碁石		径 2.2		厚 0.1~0.3		c: 黒色		

表2 近代出土遺物観察表

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他	
						口径	底径	器高			
14-3	攪乱 2	土瓶	磁器	手描き	口縁部小片	(7.7)	-	[2.0]	顔料：酸化コバルト 胎土：灰白色 釉薬：透明	外面：文様あり 内面上部：露胎	
14-4		灯明皿	陶器		1/5	(10.7)	(4.8)	1.9	胎土：橙色 釉薬：錆釉	外面：一部施釉 内面：施釉	
14-5		摺鉢	陶器		口縁部片	-	-	[5.6]	胎土：赤橙色 白色粒 泥岩粒 小石粒 やや粗土	色調：赤褐色 焼成：良好	
14-6		薬瓶	ガラス製品		ほぼ完形	10.3	2.5	6.3	最大幅 2.7	透明	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：目盛り
14-7		用途不明	鉄製品			長 6.3	幅 0.8～0.5	厚 0.6～0.4			断面丸状 鍛造
14-8	攪乱 3	碗	陶器		底部片		4.5	[3.7]	胎土：橙色 砂粒 雲母 海綿骨針 釉薬：褐釉黒褐色～灰黄褐色	施釉：ツゲガケ 外面：一部施釉 内面：施釉	
14-9		皿	陶器		底部 1/8	(12.0)	-	[3.8]	胎土：赤褐色	内面：波状文	
14-10		器種不明	鉄製品			長 8.0	幅	厚			
14-11		器種不明	鉄製品			長 [10.8]	幅 0.8	厚 0.8			f: 四角状鍛造
14-12		器種不明	鉄製品			長 [12.0]	幅 0.4	厚 0.4			f: 四角状鍛造
14-13	攪乱 4	釘	鉄製品			長 5.6	幅 0.6	厚 0.6			f: 四角状鍛造
14-14	攪乱 5	灯明皿	陶器		口縁部小片	-	-	[1.9]	胎土：灰白色 白色粒 釉薬：灰釉	外面口縁部：施釉 外面：露胎 内面：施釉	
14-15		傘轆轤	木製品			長 [5.5]	最大幅 4.5				中心の支柱に竹材使用、炭化
15-3	攪乱 7	筒型湯呑	磁器	銅板転写	1/3	(6.0)	(3.7)	6.5	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：鶴文 暈付：露胎	
15-4		小坏	磁器	銅板転写	1/5	(7.9)	(3.7)	4.5	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：菊、草文 見込み：植物文 高台：圏線	
15-5		皿	磁器	手描き	小片	-	-	[2.7]	顔料：紺色 胎土：白色粘質土 釉薬：淡緑色	内面：圏線、文様あり 内底部：蛇目釉剥ぎ	
15-6		皿	磁器	銅板転写	1/4	(11.0)	-	1.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内外面：みじん唐草、人物文 高台：圏線	
15-7		急須蓋	磁器	手描き	完形	6.8	-	1.8	孔径 0.1	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物、波文
15-8		蓋	磁器	手描き	1/3	(6.8)	-	[1.4]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文	
15-9		蓋	磁器	銅板転写	小片	-	-	[2.7]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物、唐草文	
15-10		湯呑	陶器		ほぼ完形	5.3	4.4	6.7	胎土：白色 釉薬：灰白色不透明	内外面：貫入 暈付：露胎 外面：八角形	
15-11		灯明皿	陶器		5/6	7.4	3.3	1.9	胎土：灰白色 釉薬：灰釉	施釉：ツゲガケ 外面：一部施釉 内面：施釉	
15-12		灯明皿	陶器		1/3	(10.4)	5.0	2.0	内径 (7.5)	胎土：灰色 釉薬：錆釉	外面：一部施釉 内面：施釉
15-13		台付灯明皿	陶器		ほぼ完形	7.5	5.7	5.2	内径 4.4	胎土：灰白色 釉薬：灰釉	内底部・外底部：露胎
15-14		飲料瓶	ガラス製品		ほぼ完形	[1.8]	4.0	[15.3]		緑色透明 気泡あり	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：「みかん」 「良品」 底部エンボス：変形した◎
15-15		飲料瓶	ガラス製品			-	4.0	[11.0]		緑色透明 気泡あり	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：「みかん」 「良品」 底部エンボス：変形した○
15-16		広口薬品瓶	ガラス製品		ほぼ完形	3.0	3.4	5.4		無色透明 内側上部：擦りガラス加工全体に気泡	型合わせ目(口縁～底部)
15-17		染料瓶	ガラス製品			[2.1]	2.6	[4.9]		淡緑色 透明全体に気泡	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：「増井製」 底部エンボス：「■上」
15-18		染料瓶	ガラス製品			[2.0]	2.6	[4.8]		淡緑色 透明全体に気泡	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：「谷利製」 底部エンボス：「■上」
15-19		瓶	ガラス製品			-	3.8	[7.7]		緑色透明 気泡あり	型合わせ目(肩部～底部)
15-20		硯	石製品			長 [5.0]	幅 8.5	厚 1.9			産地 宮城雄勝硯 江戸後期～明治?
16-1		攪乱 8	碗身	磁器	銅板転写	口縁部小片	(10.2)	-	[3.1]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：唐草、蝶文
16-2	碗		磁器	銅板転写	口縁部小片	-	-	[2.8]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文 内面 口縁部：圏線 見込み：圏線、植物文 高台内：植物文 暈付：露胎	
16-3	碗		磁器	手描き	1/3	(10.0)	5.8	2.9	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：文様あり 高台：圏線 暈付：露胎	
16-4	角皿		陶器		1/2	[10.1]	8.7	2.9	胎土：灰白色粘質土 釉薬：灰釉	暈付：露胎	
16-8	攪乱 9	碗	磁器	手描き	底部片	-	(3.5)	[3.0]	顔料：酸化コバルト 胎土：明灰白色粘質土 釉薬：透明	外面：花、植物文 内面：花、青海波、その他 内外面口縁部：圏線 高台：圏線 暈付：露胎	

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高		
16-9	攪乱 9	皿	磁器	銅板転写	1/5	(16.0)	(9.2)	2.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花、幾何学文、圏線 内面口縁部：圏線 見込み：圏線 中央部に文様 高台：圏線 畳付：露胎
16-10		筒型湯呑	磁器	手描き	1/3	(8.0)	(3.7)	4.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	色調：赤橙色 焼成：良好
16-11		播鉢	陶器		口縁部片	-	-	[11.0]	胎土：赤橙色 砂粒 白色粒 小石粒 やや粗土	型合わせ目(口縁～胴部) 側面エンボス：☆ 等間隔に6個並ぶ 被熱
16-12		ランプ燃料瓶	ガラス製品			2.0	-	[4.7]	淡緑色透明	外面：露胎 内面：施釉
17-1	攪乱 11	灯明皿	陶器		完形	7.3	3.6	1.4	胎土：灰色粘着土 釉薬：茶色	外面：花文 内面：露胎
17-2		小壺	磁器	手描き	1/3	(2.7)	-	-	顔料：金彩・朱 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：草花? 内面：人物、草花文
17-9	攪乱 12	碗	磁器	型紙描絵	体部小片	-	-	[3.5]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色土 釉薬：透明	内外面：露胎 外面肩部：鳥、花、貼りつけ 注口口縁部：金色に施釉
17-10		土瓶	陶器		体部片	注口径(1.4)	-	[9.1]	胎土：灰色	外面：施釉 内面：露胎
17-11		灯明皿	陶器		1/4	(8.4)	(3.5)	2.0	胎土：白色粘質土 釉薬：淡黄色	外面：植物文
17-19	攪乱 14	急須小	磁器	手描き	ほぼ完形	2.6	2.5	3.1	顔料：橙・黄・緑 胎土：白色 釉薬：透明	内面：幾何学模様陰刻
17-20		器種不明	陶器		口縁部～体部片	-	-	[2.6]	胎土：橙色 砂粒 良土色 釉薬：淡茶褐色～暗茶褐色 釉薬：淡茶褐色	削りだし高台 外面：とびカンナ 畳付：露胎
17-22	攪乱 15	小坏	磁器		1/2	(8.2)	(3.2)	4.0	胎土：白色粘質土 釉薬：クロム	外面：幾何学文 高台外面：圏線 畳付：露胎
17-23		筒型湯呑	磁器	手描き	1/2		(3.8)	[3.5]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面：松竹(梅)文 外面：圏線 高台内：角銘
17-24		皿	磁器	手描き	1/4		(9.6)	[2.0]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内外面：施釉 外面ふき取り 内底：釉剥ぎ痕 外底：露胎
17-25		灯明皿	陶器		完形	7.3	3.0	1.5	胎土：灰色粘着土 釉薬：茶色	内外面：施釉 外面ふき取り 内底：釉剥ぎ痕 外底：露胎
17-26		灯明皿	陶器		完形	10.1	4.4	1.9	胎土：灰色粘着土 釉薬：茶色	無文
17-27		器種不明	陶器		1/4		(8.2)	[2.0]	胎土：黄白色粘質土 釉薬：透明	人が座っている様子を型取り
17-28		かわらけ 質人形?	土製品			長 2.8	幅 0.3～2.1	厚 0.3～0.6	胎土：微砂 良土色調：橙色	外面体部下位：施釉 内面：施釉 ツケガケ
18-1	攪乱 16	瀬戸? 皿	陶器		完形	8.8	3.5	2.6	胎土：淡黄色粘質土 釉薬：淡黄色 不透明	外面：施釉 内面：施釉 高台：露胎
18-2	攪乱 18	碗	陶器		1/4	-	[3.5]	[1.9]	胎土：灰白色 白色粒 黒色粒 釉薬：灰黄色	型合わせ目(口縁～底部) 側面エンボス：「赤十字」「歯薬」
18-4	攪乱 21	薬瓶	ガラス製品		完形	1.0	1.4	4.7	藍色	外面：文様あり 見込み：文様あり
18-7	攪乱 23	碗	磁器	手描き	3/5	8.2	3.1	4.2	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	見込み：植物文 高台：幾何学文 高台内：角銘
18-8		小鉢	磁器	手描き	小片	-	2.7	[1.1]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：施釉 内面：施釉 削りで波状文 高台内：蛇目釉剥ぎ後、茶褐色釉を施釉
18-9		鉢	磁器		底部小片	-	-	[2.0]	胎土：灰白色粘質土 釉薬：緑色 不透明	外面：施釉 内面：施釉 緑、淡紅色による植物文、イッチン 高台：露胎 高台内：陰刻の文様あり
18-10	攪乱 24	鉢	磁器	手描き	1/4	(12.0)	(7.7)	4.5	胎土：白色粘質土 釉薬：淡緑色	無文
18-11		蕎麦猪口	磁器		9/10	5.0	2.7	3.5	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：幾何学文 底部：露胎
18-12		不明	磁器	手描き	小片	-	-	[2.3]	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：青緑、黄、橙色による花文 底部：露胎
18-13		ミニチュア急須	磁器	手描き	ほぼ完形	2.2	2.2	3.1	胎土：白色粘質土 釉薬：灰色不透明	施釉：ツケガケ 外側面下部～底部：露胎
18-14		小杯	陶器		4/5	(6.8)	4.6	4.6	胎土：灰白色粘質土 釉薬：鉄釉	外面：文字
18-15		貧乏徳利	陶器	手描き	胴部小片	-	-	[6.0]	胎土：灰白色粘質土 釉薬：灰釉 鉄釉	内外面：横ナデ 口唇部：ナデ
18-16		火鉢	土製器		口縁部片	-	-	[7.5]	胎土：黒灰色 微砂 雲母 海綿骨針小石粒 やや粗土 黄灰色～黒灰色	f: 四角状鍛造
19-6	攪乱 25	鉢	磁器	手描き	9/10	12.8	5.4	5.9	顔料：酸化コバルト 墨黒 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	f: 四角状鍛造
19-7		皿	磁器	手描き	1/4	(12.3)	(6.8)	2.9	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	f: 四角状鍛造

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高		
19-8	攪乱 25	皿	磁器	手描き	口縁部小片	-	-	[2.2]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面：金魚文 高台内：銘「■■■■」 量付：露胎
19-9		蓋	磁器	手描き	1/2	(6.6)	-	2.3	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面：植物文 量付：露胎
19-10		蓋	磁器	手描き	1/2	(7.4)	-	[1.6]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：唐草文 内面：花、植物文
19-11		筒型香炉	陶器			1/5	(10.0)	(7.5)	6.6	胎土：灰黄色粘質土 釉薬：黄釉
20-4	攪乱 27	碗	磁器	型紙描絵	口縁部小片	-	-	[4.9]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花、菖、圏線
20-5		碗	磁器	手描き	ほぼ完形	7.6	3.4	4.2	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	口縁部外面：施釉 内面：露胎 外面下部～底部：露胎 外面：胴部に花卉の陰刻
20-6		碗	磁器	手描き	完形	10.7	4.2	6.1	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物、器、その他 内面：環珞文
20-7		碗	磁器	手描き	1/2	9.0	4.3	4.4	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：動物、幾何学文 口縁部：圏線 高台：圏線、銘 量付：露胎
20-8		碗	磁器	手描き	1/3	(8.8)	(3.0)	4.2	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：草花文、圏線 見込み：圏線、文様 口縁部：圏線 高台：圏線 量付：露胎
20-9		碗	磁器	手描き	口縁部小片	-	-	[4.8]	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：燕、植物文 口縁部：圏線 量付：露胎
20-10		碗	磁器	手描き	胴部小片	-	-	[4.8]	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：文様あり 口唇部：明茶色で着色 内面見込み：文様 量付：露胎
20-11		碗	磁器	手描き	ほぼ完形	8.6	3.5	4.2	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花文 その他文様 内面見込み：圏線 口縁部：圏線
20-12		碗	磁器	手描き	1/4	(9.0)	(4.0)	4.7	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：淡青色	外面：文様あり 内面：圏線
20-13		碗	磁器	手描き	1/4	(9.1)	(4.5)	5.0	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花文 見込み：文様 量付：露胎
20-14		小坏	磁器	手描き	1/2	(8.8)	3.2	3.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文 見込み：文様 高台内：朱色の銘 量付：露胎
20-15		小坏	磁器	手描き	2/3	(6.8)	2.6	4.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文 見込み：圏線、その他 内面口唇部：圏線 高台：圏線 量付：露胎
20-16		小坏	磁器	手描き	ほぼ完形	7.0	2.6	4.2	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文 内面：植物 見込み中央：渦巻き高台脇 高台内：圏線 量付：露胎
20-17		小坏	磁器	手描き	口縁部小片	-	-	[1.6]	顔料：暗い青 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花文 口縁部：圏線 高台脇：圏線 量付：露胎
21-18		鉢	磁器	手描き	3/5	10.6	4.2	5.9	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：草木文 口縁部：圏線 高台脇：圏線 量付：露胎
21-19		小鉢	磁器	手描き	底部片	-	(3.4)	[1.8]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：幾何学文 内面：雷文
21-20		皿	磁器	型紙描絵	底部小片	-	-	[1.5]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物、带状文 内面口縁部：带状文 見込み：圏線 見込み中央：文様あり 高台：圏線 量付：露胎
21-21		皿	磁器	手描き	9/10	13.2	8.5	3.3	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文 高台：圏線 量付：露胎 胴部面取り 八角形か？
21-22		皿	磁器		4/5	9.8	5.2	2.3	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：文様あり 内面：花、網代文 高台脇：圏線 量付：露胎
21-23		皿	磁器		1/5	(23.0)	(12.0)	2.7	胎土：灰白色粘質土 釉薬：白	外面：圏線、葉文 内面：松、風景 見込み：圏線 見込み中央：花文 高台：圏線 量付：露胎 破損部を継いで修復
21-24		湯呑	磁器	型紙描絵	1/3	(5.8)	(3.5)	5.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面見込み：雷文、その他文様
21-25		湯呑	磁器	手描き	1/2	(6.6)	3.4	5.2	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外底部：5と陰刻
21-26		湯呑	磁器	手描き	口縁部片	-	-	[2.9]	顔料：緑 胎土：白色粘質土 釉薬：内面、透明 外面、淡緑色	外面：ミジンコ小文 内面口唇部：圏線 高台：圏線 量付：露胎
21-27		蕎麦猪口	磁器	型紙描絵	口縁部片	-	-	[2.6]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内外口唇部：圏線 外面：植物文 高台：圏線 高台内：銘 量付：露胎
21-28		盃	磁器		底部	-	2.2	1.1	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：文様あり
21-29		盃	磁器		1/2	(5.8)	(1.8)	1.4	胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：ミジンコ小文 内面：手描き雷文
21-30		台付灯明皿	磁器	手描き	完形	9.0	5.2	5.7	受け部径 5.0 顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	見込み：文字 高台：波形文 高台内：角銘
22-31	徳利	磁器	型紙刷絵	小片	-	-	[5.7]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：型押し 蜻蛉草風文 内面：無文 施釉：内面～口縁部 高台内：陰刻	
22-32	徳利	磁器	手描き	胴部片	-	-	[13.3]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	内面受け部：風景、その他 台部外面：「■福」 量付：露胎	
22-33	小坏	陶器		3/5	(5.8)	3.0	4.0	胎土：灰白色粘質土 釉薬：灰釉	外面：環珞文、点描の雲	
22-34	小鉢	陶器		3/5	-	6.0	[5.1]	胎土：灰白色粘質土 釉薬：灰釉	外面：波文 角銘	

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高		
22-35	攪乱	蓋	陶器		1/5	(8.0)	-	[2.3]	胎土：灰色粘質土 釉薬：黒褐色 緑 茶	施釉：ハケ塗り外面：施釉 内面：施釉 高台：露胎
22-36		蓋	陶器		小片	-	-	[2.2]	ツマミ径 (4.4) 胎土：灰色粘質土 釉薬：茶褐色	施釉：ハケ塗り外面：施釉 内面：施釉 見込み中央：露胎 高台：露胎
22-37		灯明皿	陶器		3/5	(10.3)	4.3	2.4	胎土：黄灰色粘質土 釉薬：錆釉	外面：施釉 内面：露胎
22-38		灯明皿	陶器		ほぼ完形	10.0	5.1	2.1	胎土：灰色粘質土 釉薬：錆釉	外面：一部ハケ塗り、櫛歯状工具による縦位の目 ツマミ部：露胎 内面：施釉
22-39		灯明皿	陶器		ほぼ完形	10.0	5.1	2.1	胎土：黄灰色粘質土 釉薬：錆釉	施釉：ツケガケ 外面：一部施釉 内面：施釉
22-40		灯明皿	陶器		3/5	10.2	4.7	2.2	胎土：灰色粘質土 釉薬：錆釉	施釉：ツケガケ 外面：一部施釉 内面：施釉
22-41		灯明皿	陶器		1/2	(8.4)	(4.0)	1.8	胎土：灰色粘質土 釉薬：灰釉	施釉：ツケガケ 外面：一部施釉 内面：施釉
22-42		台付灯明皿	陶器		4/5	8.0	5.6	6.1	内径 4.6 胎土：灰白色 釉薬：灰釉	施釉：ツケガケ 外面：一部施釉 内面：施釉
22-43		秉燭	陶器		9/10	(3.7)	5.1	12.4	胎土：赤灰色粘質土 釉薬：鉄釉	施釉：ツケガケ 外面：一部施釉 内面：施釉
23-44		急須	陶器			(14.9)	(8.0)	7.8	胎土：灰色粘質土 釉薬：茶褐色	内底部、外底部：露胎
23-45		徳利	陶器	手描き	口縁部～胴部	(3.4)	-	[14.2]	胎土：灰色	外面：施釉 口唇部：露胎 受け皿内面中央：施釉 壘付：露胎
23-46		瓶	ガラス製品		4/5	-	3.3	[4.8]	透明首部に擦り加工	外面：一部ハケ塗り 櫛歯状工具による縦位の目 内面：施釉 口唇部、底部：露胎
23-47		化粧品瓶	ガラス製品		4/5	-	1.4	[4.8]	透明首部に擦り加工	鉄絵 文字あり
24-9		攪乱	皿	磁器	手描き	1/5	(13.0)	(8.0)	3.5	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明
24-10	碗		磁器	手描き	底部小片	-	(3.6)	1.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	型合わせ目(胴部)
24-11	碗		磁器		底部小片	-	(2.4)	1.1	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	f: 四角状鍛造
24-12	碗		陶器		底部片		(4.0)	[3.8]	胎土：灰黄色 精良土 釉薬：黄茶色	f: 四角状鍛造
24-13	器種不明		不明		底部片	(6.0)	-	[0.9]	胎土：赤褐色 白色粒 雲母 精良土	外面：唐草文 圏線 内面：花、扇、圏線、その他 蛇目凹型高台 高台底部：一部露胎 高台内：角銘
24-14	攪乱	蓋	磁器	手描き	1/4	(6.6)	-	[1.2]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：圏線 見込み：花文 高台：圏線 壘付：露胎
24-15		徳利	磁器	型紙刷絵	口縁部小片	(2.6)	-	[1.0]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	無文 壘付：露胎
25-1	表土	碗	磁器	スタンプ	2/3	(9.6)	3.5	5.8	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：透明	内外面：刷毛目(黄茶色～白色) 壘付：露胎
25-2		碗	磁器	手描き	1/4	(10.6)	(4.2)	6.1	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：透明	外面：および高台底部：墨書痕?
25-3		碗	磁器	型紙描絵	1/3	(11.8)	(4.3)	4.2	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：植物文、圏線 身との接触部 露胎
25-4		碗	磁器		ほぼ完形	7.8	2.9	1.9	胎土：白色 釉薬：クロム青磁	外面：ミジンコ文
25-5		碗	磁器	手描き	口縁部小片	(9.8)	-	[3.9]	顔料：酸化コバルト 胎土：灰白色 釉薬：透明	外面：菊、井桁文 高台：圏線 高台裏：銘 壘付：露胎
25-6		皿	磁器	銅板転写	口縁部小片	-	-	[5.2]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：淡緑色	内外面：鳳凰、植物文
25-7		碗	磁器	銅板転写	口縁部小片	(11.8)	-	[3.1]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：透明	外面：花菱、千鳥、青海波 内面：千鳥
25-8		蓋	磁器	手描き	完形	7.3	-	2.4	ツマミ径 1.3 顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：花、植物文
25-9		蓋	磁器	手描き	ツマミ部 3/4	(5.6)	-	[1.4]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：淡緑色	外面：植物文 ツマミ内：角銘 見込み：銘、圏線
25-10		小鉢	磁器	手描き	1/4	(8.4)	-	[3.5]	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：透明	外面：羽根文、圏線 内面口縁部：圏線 見込み：植物、圏線
25-11		皿	磁器	手描き	1/4	(14.8)	(8.0)	3.3	顔料：暗い青 胎土：白色 釉薬：淡緑色	内面：植物、圏線 見込み：無釉部分あり 内底部：文様
25-12		皿	磁器	手描き	1/2	(14.0)	(6.2)	3.3	顔料：酸化コバルト 胎土：白色 釉薬：淡緑色	口縁部：茶金色 内面：植物、圏線 見込み：建物、植物文 蛇目凹型高台 高台底部：一部露胎
25-13		皿	磁器	手描き	8/10	13.2	8.5	3.3	顔料：酸化コバルト 胎土：白色粘質土 釉薬：透明	外面：圏線、葉文 内面：松、風景 見込み：圏線 見込み中央：花文 高台：圏線 壘付：露胎

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量			顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高		
25-14	表土	皿	磁器	内：銅板 転写 外：手描	1/2	11.3	6.2	2.5	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色粘質土 釉薬：透明	外面口縁部：圏線 内面：道具文 高台：圏線 畳付：露胎
25-15		皿	磁器	内：銅板 転写 外：手描	小片	-	-	[2.5]	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色粘質土 釉薬：透明	
25-16		香炉？	磁器		口縁部小 片	(10.8)	-	[3.8]	胎土：灰白色 釉薬：淡緑色	
25-17		御神酒徳 利	磁器	手描き	首部片	(1.7)	-	8.9	顔料：暗い青 胎土：白色 釉薬：淡緑色	
25-18		碗	陶器		2/3	(8.6)	3.6	5.6	胎土：灰白色 釉薬：透明～ 茶褐色	
25-19		小皿	陶器		完形	6.4	2.9	1.0	胎土：灰黄色 釉薬：灰釉 灰色～灰黄色	
26-20		灯明皿	陶器		1/3	(9.8)	(5.7)	2.0	胎土：灰白色 釉薬：灰釉	
26-21		灯明皿	陶器		1/3	(11.7)	6.0	2.2	胎土：灰白色 釉薬：錆釉	
26-22		台付灯明 皿	陶器		9/10	(8.6)	6.3	5.9	内径 5.4 胎土：灰白色粘質土 釉薬： 灰釉 灰白色～黄灰色	
26-23		播鉢	陶器		1/8	(27.8)	(15.0)	13.0	胎土：橙色 釉薬：茶色	
26-24		コーラ	ガラス 製品							
26-25		調味料瓶	ガラス 製品		完形	2.6	4.6	15.5	透明 気泡有り	
26-26		調味料瓶	ガラス 製品		9/10	(2.7)	4.6	15.2	透明 気泡有り	
26-27		薬品容器	ガラス 製品		完形	器 0.8 栓 最 大幅 0.85	器胴幅 1.25 栓 最 小幅 0.2	器高 6.6 栓長 6.5	透明 気泡有り 首部：擦り ガラス加工	
26-28		瓶	ガラス 製品		完形	1.3	2.2	5.3	透明	
26-29		薬瓶	ガラス 製品		完形	0.9	2.5	7.1	最大幅 2.6 無色透明	
26-30		瓶	ガラス 製品		完形	0.8	1.6	5.9	透明	
26-31		化粧品 瓶	ガラス 製品		完形	4.0	4.1	3.9	最大径 6.1 黒褐色不透明	クリーム瓶
26-32		化粧品瓶	ガラス 製品		完形	1.2	6.4	14.0	緑色透明	
26-33		ビー玉	ガラス 製品		完形	径 1.7	厚 1.7		淡緑色 透明全体に気泡	
26-34	飲料瓶	ガラス 製品		完形	2.3	5.6	19.5	最大幅 6.0		
26-35	用途不明	金属製 品			最大長 3.8	最大幅 2.8	厚 0.1～ 0.2	孔径 0.3		
26-36	釘	鉄製品			長 8.7	幅 0.35	厚 0.4			
26-37	楔	鉄製品			長 9.2	幅 2.1～ 2.3	厚 0.5～ 1.5			
27-3	廃土	碗	磁器	手描き	3/4	8.0	3.2	4.9	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：淡灰緑色 透明	
27-4		碗	磁器	手描き	1/3	(8.0)	(3.5)	4.3	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-5		碗	磁器	手描き	3/4	-	4.0	[4.4]	顔料：酸化コバルト 胎土： 灰白色 釉薬：透明	
27-6		碗	磁器	銅板転写	1/2	8.2	4.0	4.6	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-7		皿	磁器	手描き	2/5	(13.9)	(8.8)	3.1	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-8		皿	磁器	銅板転写	1/2	-	(5.8)	[1.9]	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-9		極小皿	磁器	手描き	ほぼ完形	6.2	4.0	1.4	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-10		鉢	磁器	手描き	1/3	(11.8)	11.4	4.5	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	

図番号	出土遺構	項目	器種	絵付け方法	遺存度	法量				顔料：釉色調：胎土	技法 / 文様 / その他
						口径	底径	器高			
27-11	廃土	蓋	磁器	手描き	完形	6.8	-	2.4	ツマミ径 1.4	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色粘質土 釉薬：透明	
27-12		蓮華	磁器	銅板転写		長 [7.5]	幅 (4.1)	高 1.6	底部長 径 3.3	顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-13		徳利	磁器	手描き	底部 1/3	-	5.0	[2.5]		顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-14		器種不明	磁器	銅板転写	ほぼ完形	5.8	5.2	2.2		顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
27-15		小坏	磁器	銅板転写	完形	4.0	1.8	1.8		顔料：酸化コバルト 胎土： 白色 釉薬：透明	
28-16		蓋	陶器		完形	9.3	-	3.6		胎土：淡黄橙色粘質土 色 調：淡黄橙色 釉薬：透明	
28-17		蓋	陶器	手描き	完形	5.0	-	2.2	ツマミ 径 1.1	胎土：灰白色粘質土 色調： 灰白色 釉薬：白	
28-18		鉢	陶器		ほぼ完形	5.0	4.1	2.7		胎土：灰白色 釉薬：灰白緑 色 不透明	
28-19		薬瓶	ガラス 製品		完形	2.5	2.5	4.7		茶透明 気泡有り	
28-20		薬瓶	ガラス 製品		5/6	-	2.4	[5.6]		茶透明 気泡有り	
28-21		ランプ 燃料瓶	ガラス 製品			2.2	6.3	4.9		淡緑色透明 気泡有り	外面：圏線 内面：花菱、唐草、植物文 墨付： 鷹胎
28-22		石蹴り	ガラス 製品			7.4	-	厚 0.9		コバルト青 透明	
28-23		銭	銅製品			外径 2.35	内孔 0.7	-	重 2.0		

表3 遺物集計表

出土面		第1面							構成土
種別		ピット		土坑					
遺構		4	6	8	10	11	12		
かわらけ	ロクロ	大	4	3	5	10	1	8	177
		小			2	5			33
		小片			5	6			49
国産陶磁器	常滑	甕	1	1			4	2	120
		I類							7
		II類							4
	磨り常滑							1	
	瀬戸							7	
	南部系山茶碗								2
舶載	青磁								3
	白磁								1
	青白磁								1
土製	火鉢								1
	鍔釜								1
金属	瓦器								1
	釘			1					1
	鉄滓		1						
石	不明								3
	硯								1
自然	滑石								1
	骨加工品								1
近代遺物	獣骨								20
									16
	磁器	1							34
	陶器								24
ガラス									11
中世以前					2	3			10
合計		6	5	13	23	8	10		534

出土面		第2面																										
種別		土坑																							遺構外			
遺構		27	28	29	32	33	34	36	36下層	37	38	39	40	40	41	41	42	43	44	46	47	49	50	52				
かわらけ	ロクロ	大	2	38	49	1	1	250	12	88	49	1	55	14	254	100	33	25	62	2	22			106	46	1		
		中																								1		
		小	1	3	8	1		34	5	9	5	2	7	3	88	106	7	3	8		4			21	5			
		小片	14	10			55	3	6	7				140	106				25		7	2	13					
手捏ね	大	3																										
	小													1														
国産陶磁器	常滑	甕		5	10	1	1	34	3	6	10	3		42		11	1	8		9				46	2			
		壺									3			5		1								3				
		I類		4				5	1			1	4					2	2		1			7				
	II類						5			1			6						1	2			3					
	磨り常滑																							2				
	瀬戸		1	1										1		1		2		1			5					
舶載陶磁器	備前						1																					
	龜山									1							1											
	山茶碗										1			1	1									2				
土製品	青磁						3		2					5														
	白磁		1											2							1							
	青白磁		1												1				1									
	不明									1																		
瓦質	火鉢						3			2					1									2				
	瓦							1		1				1										1				
	錢									4				1							1			9				
金属製品	釘		2				7		2			2	8	1	7	1	5								2			
	鉄滓												1															
	不明						1						1								1			1				
石	砥石													3									1	3				
	不明																											
近代	獣骨		3	2			6			1			1	7		2								3				
	魚骨・鱗							1						2														
磁器							2													1				1				
中世以前		1	12		1	1	26	5	13	37		10	2	33	1	48	8	2		10			30	4	2			
合計		4	87	80	4	2	1	433	31	127	125	3	78	20	520	317	112	40	119	2	61	3	262	61	3			



1. 調査地点周辺



2. 1区全景



3. 2区全景



1. 2区1面全景（西から）



2. 1区1面全景（西から）



3. 2区2面全景（西から）



4. 2区2面全景（西から）



5. 2面遺構 41 かわらけ出土状況（西から）



6. 2面遺構 44（東から）



1. 1区西壁セクション（東から）



2. 2区西壁セクション（東から）



3. 2区東壁セクション（西から）



4. 1区東壁セクション（西から）



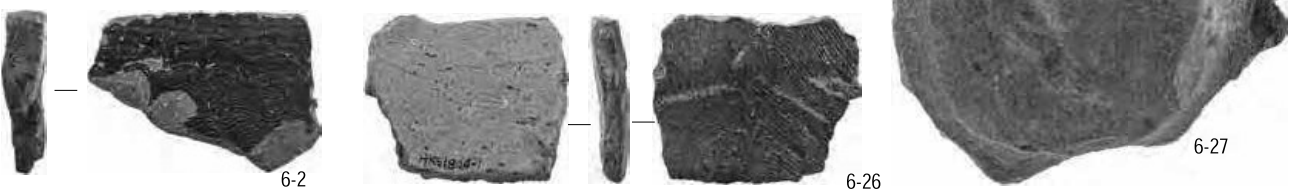
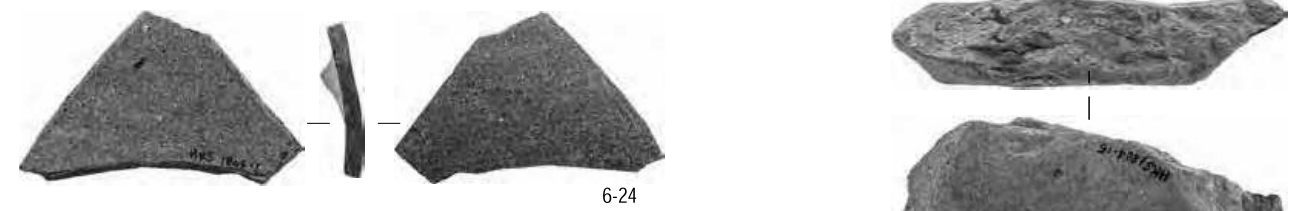
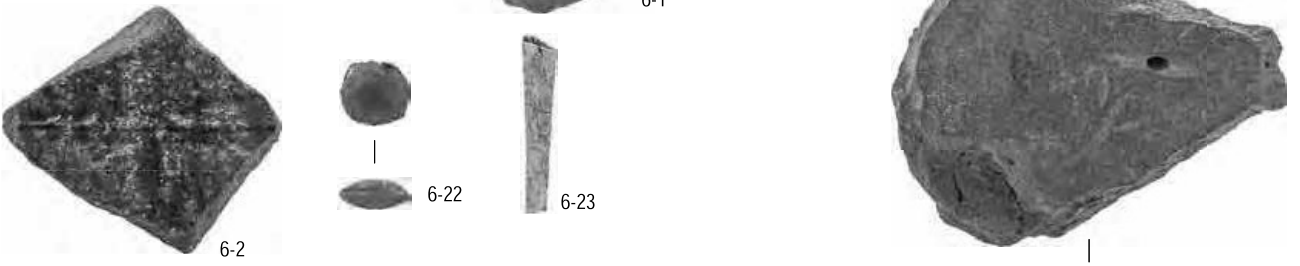
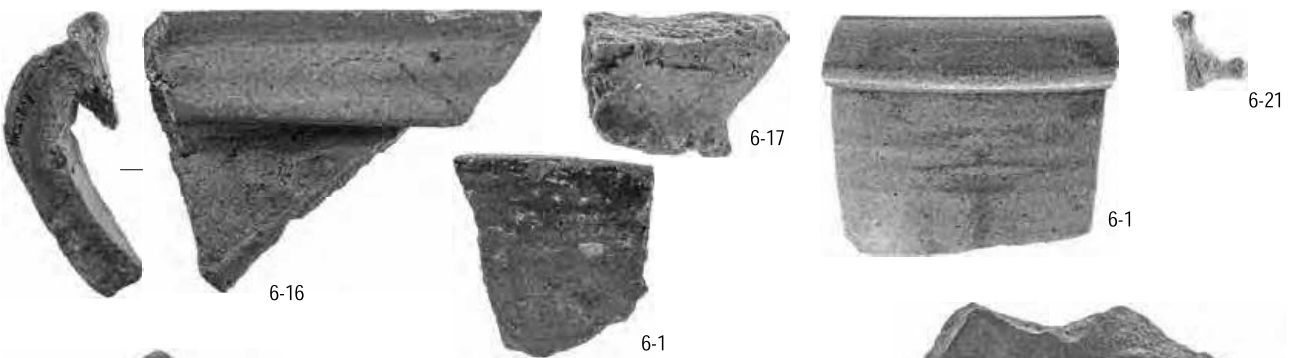
5. 1区南壁セクション（北から）



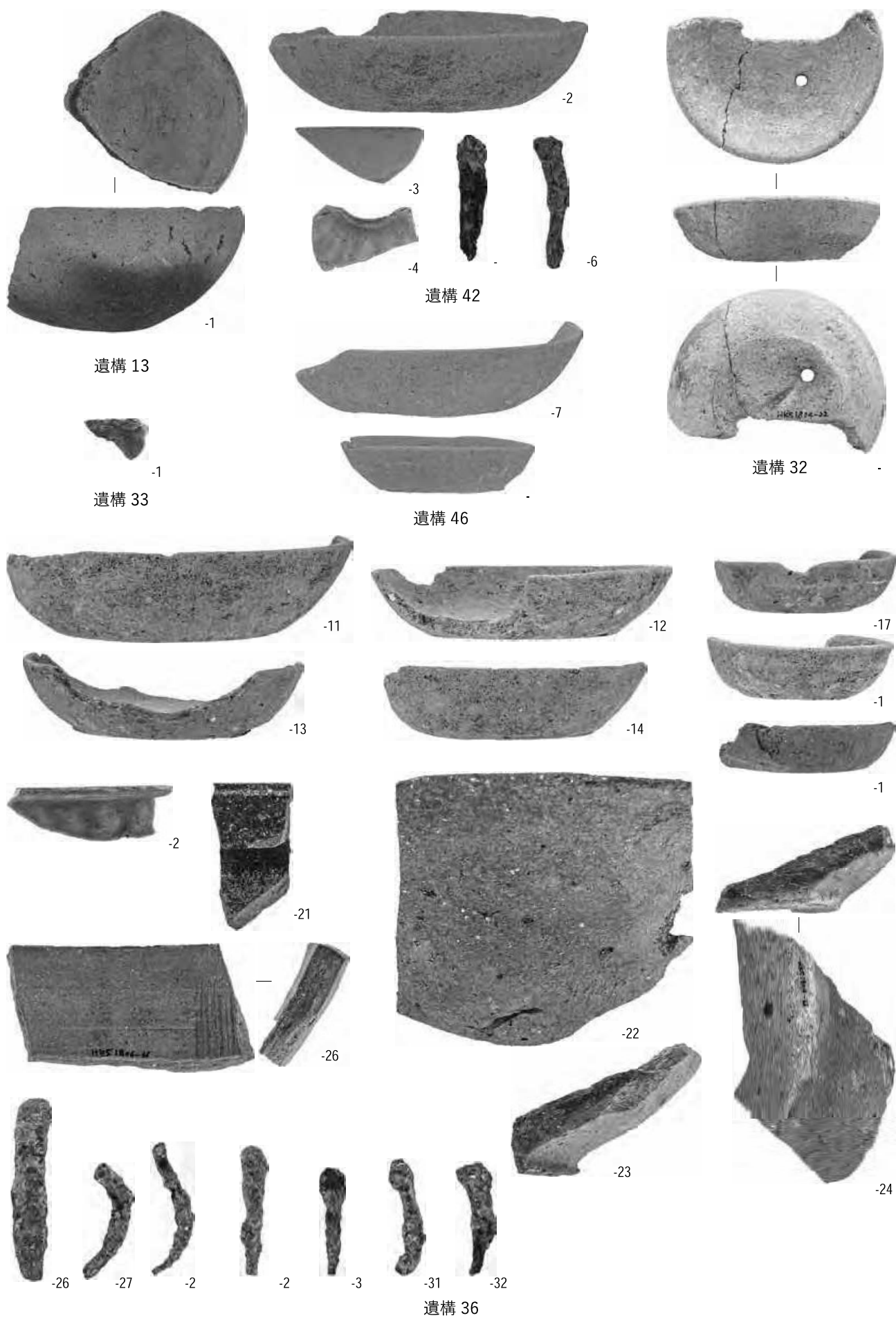
6. 1区北壁セクション（南から）

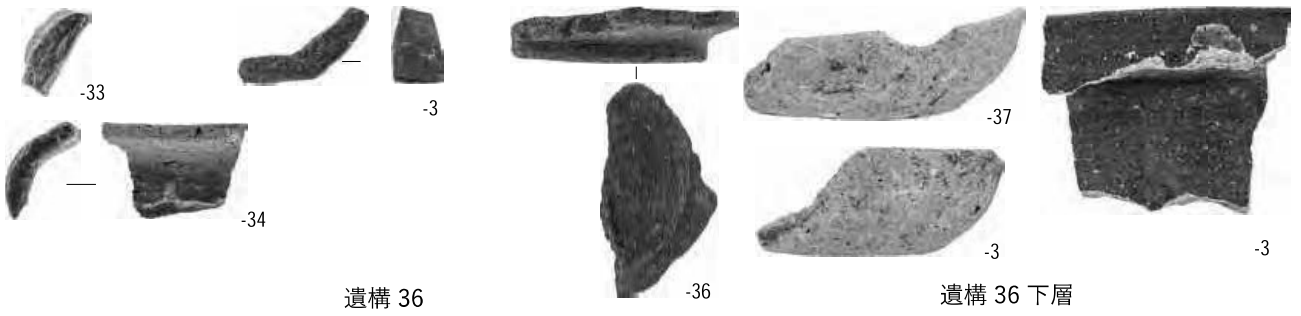


第 1 面遺構出土遺物



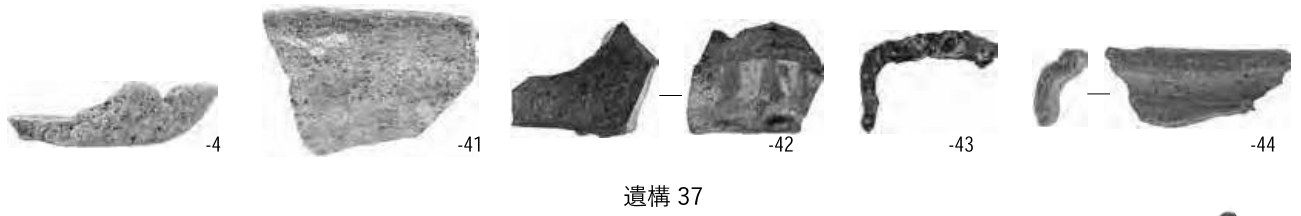
第 1 面構成土出土遺物



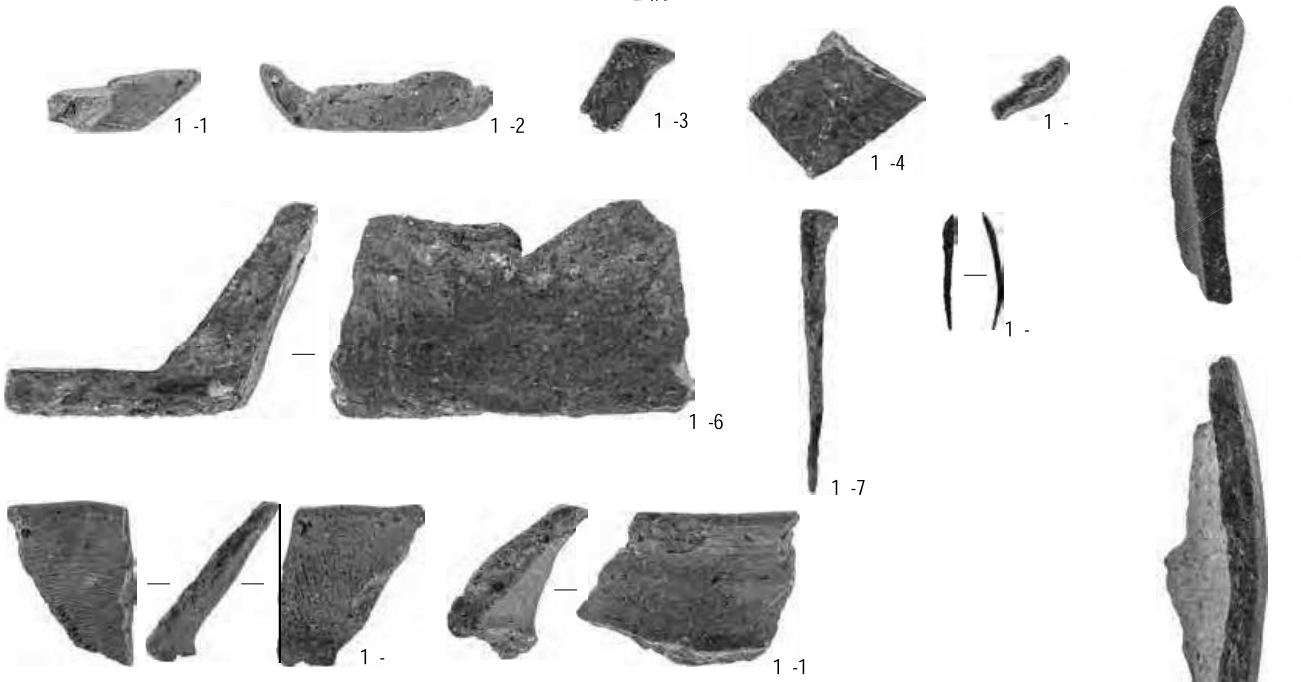


遺構 36

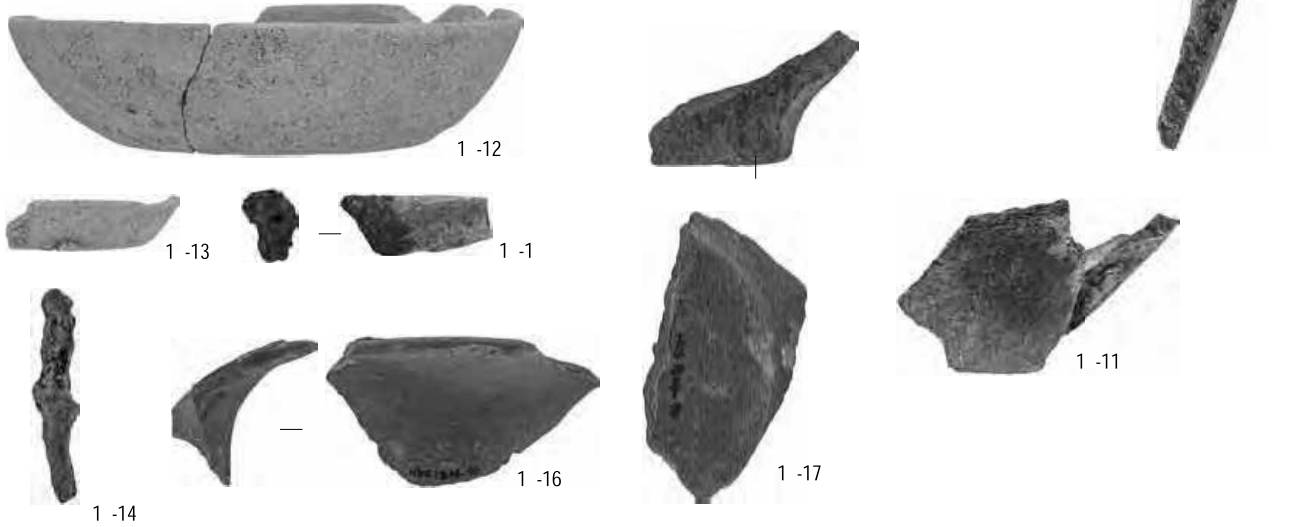
遺構 36 下層



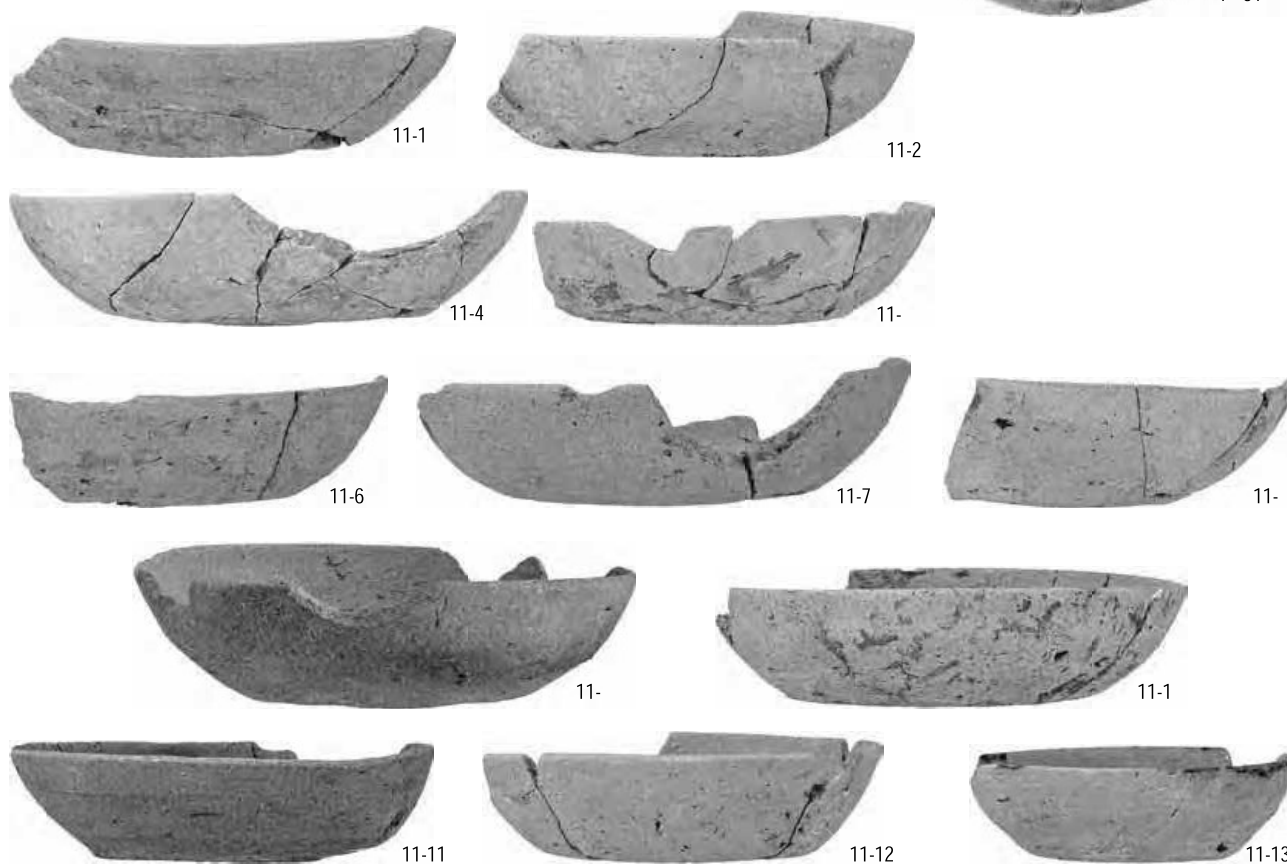
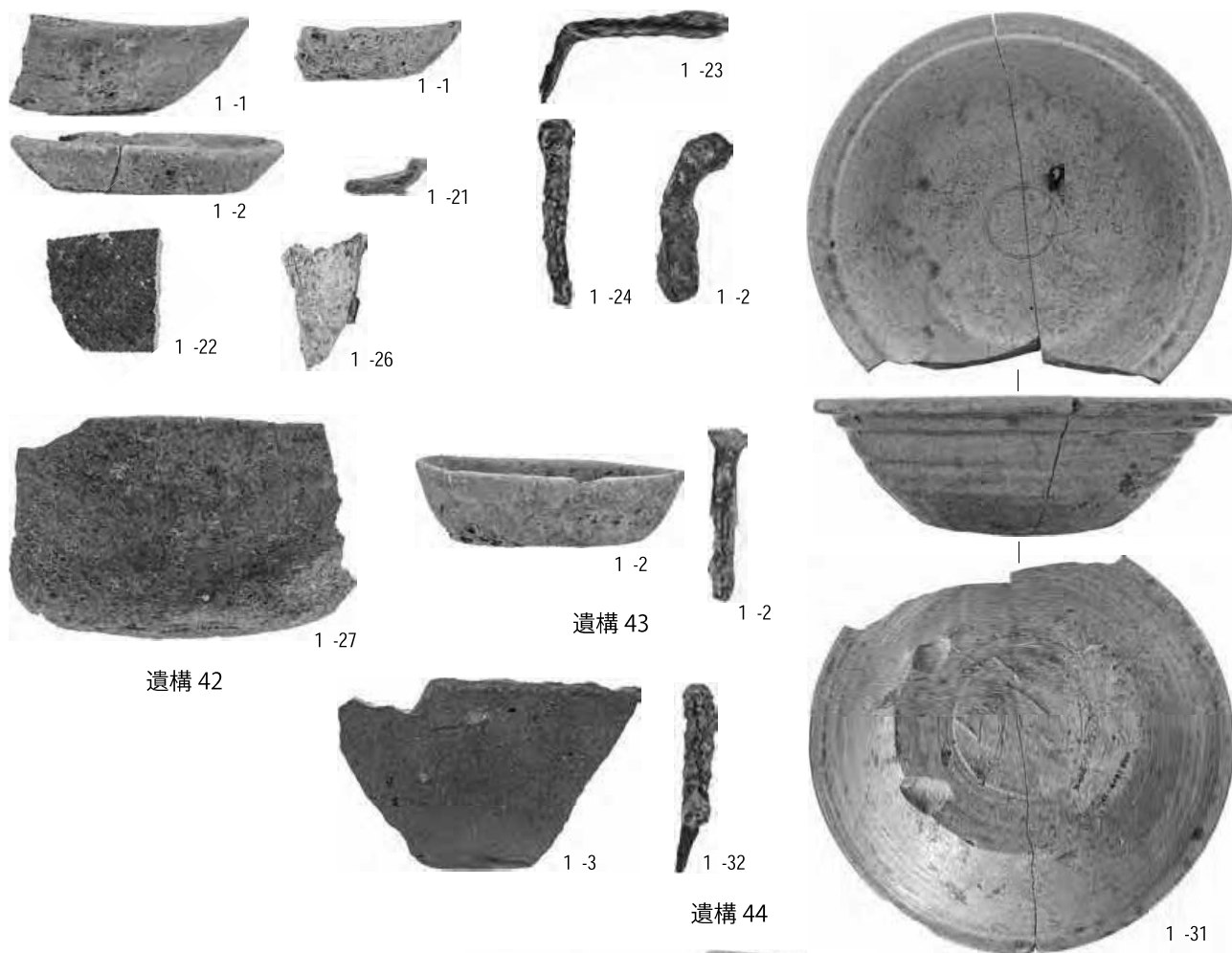
遺構 37

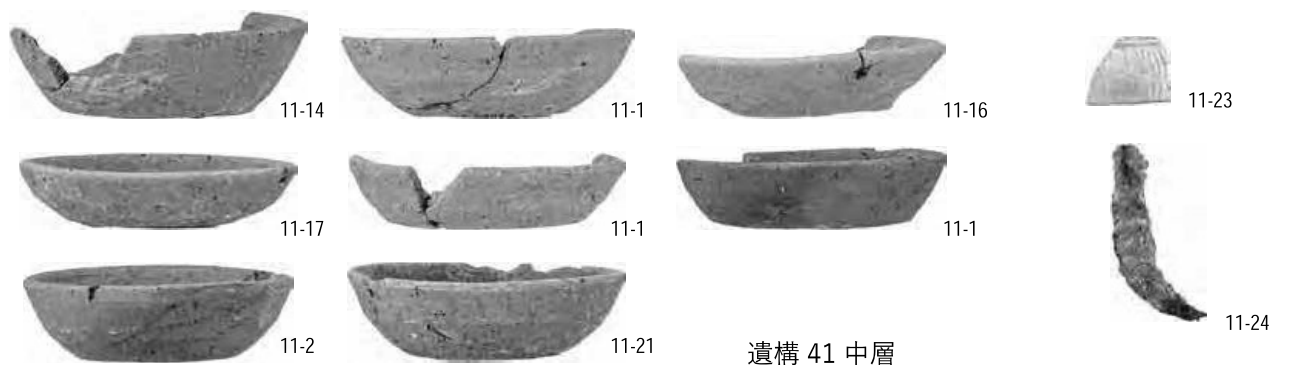


遺構 38

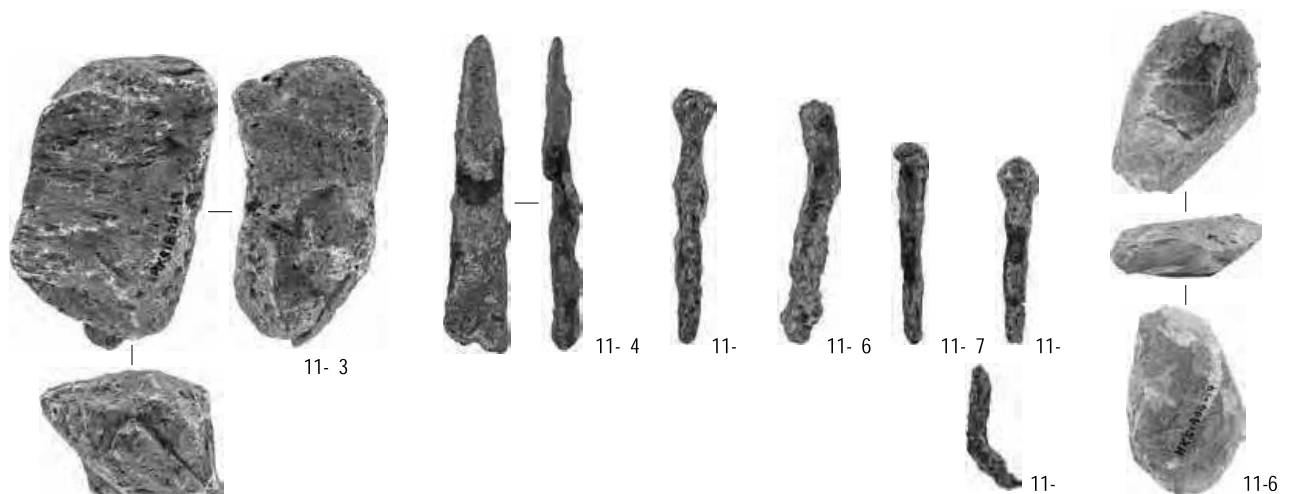
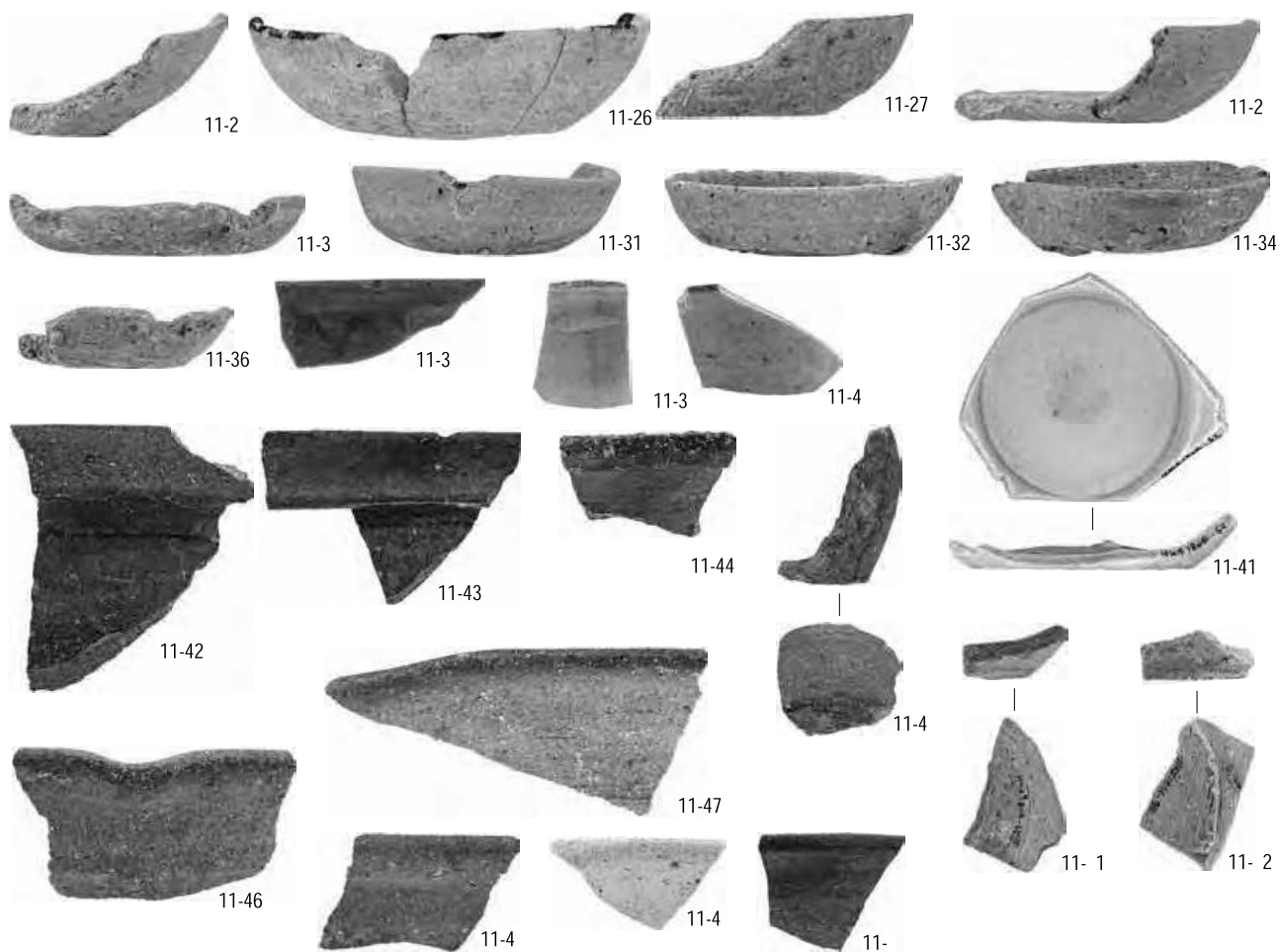


遺構 40

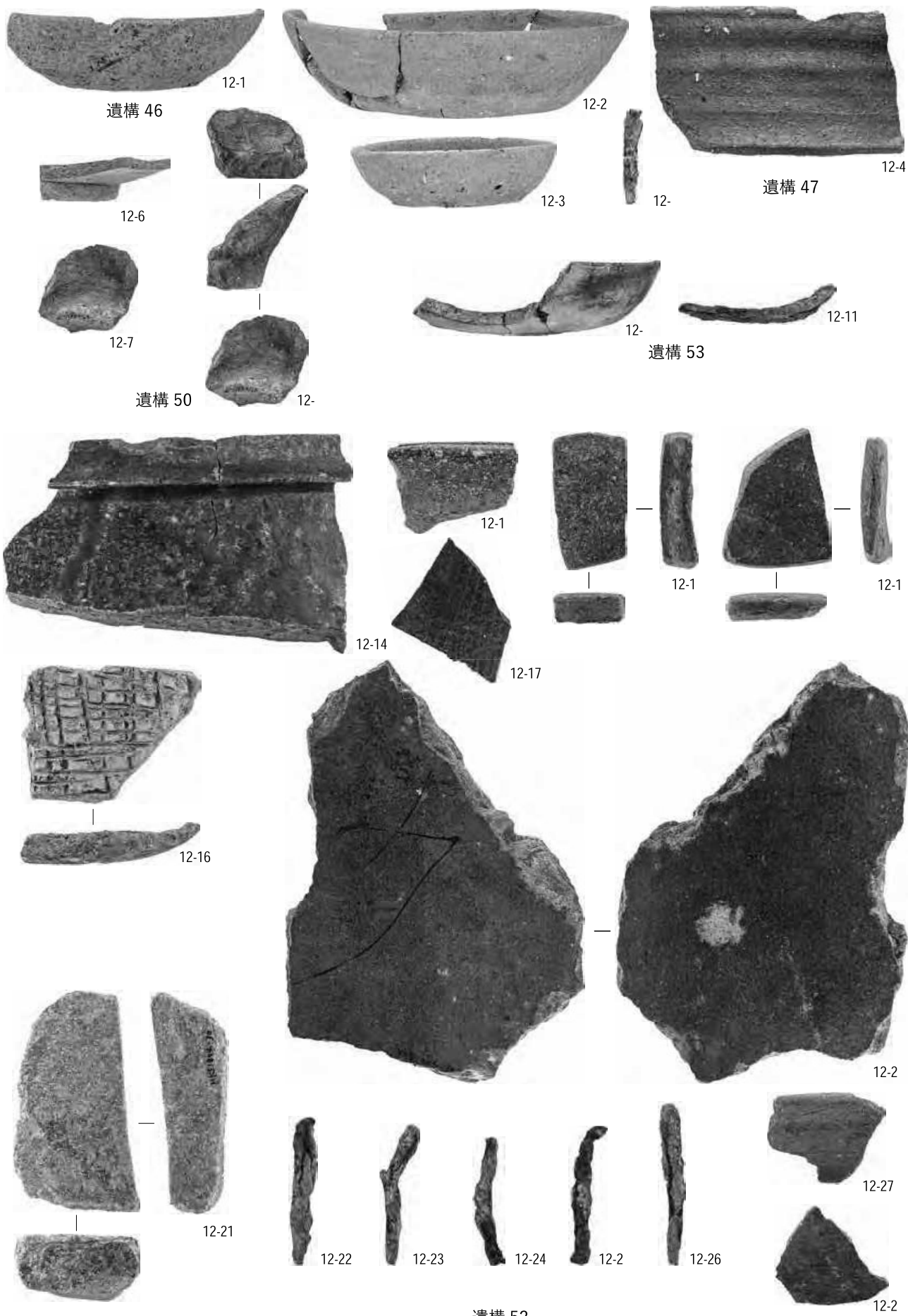




遺構 41 中層



遺構 41





14-1

攪乱 1



14-2

攪乱 2



16-



1-1

攪乱 7



17-6

攪乱 12



17-



17-3

攪乱 13



17-



16-6

攪乱 9



17-12



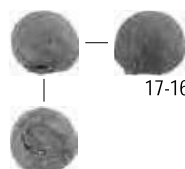
17-13



17-14



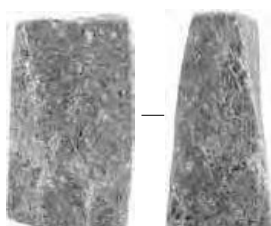
17-1



17-16



17-17



17-1

攪乱 14



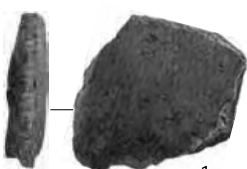
17-21

攪乱 15



1-3

攪乱 21



1-

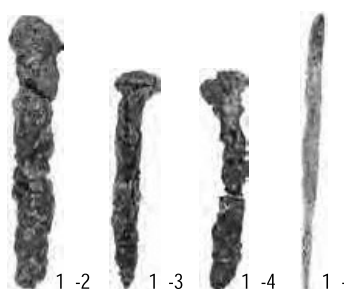


1-6

攪乱 23



1-1



1-2

1-3

1-4

1-

攪乱 25



23-4



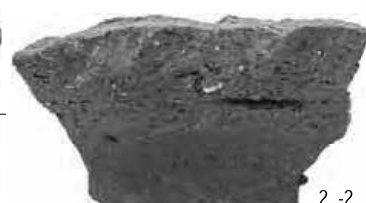
23-



2-1

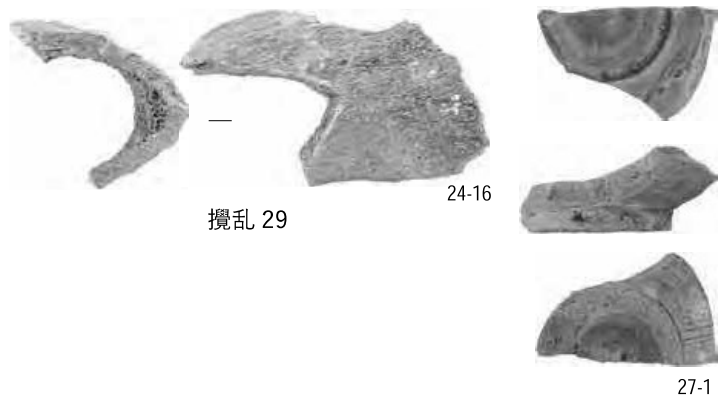
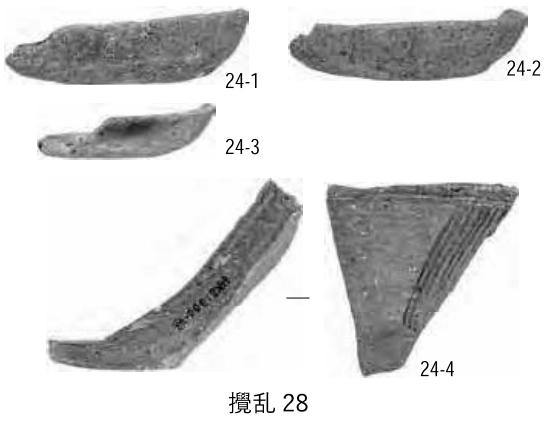


2-3



2-2

攪乱 27



報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	令和2年度発掘調査報告							
巻次	37 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	押木弘己/伊丹まどか/後藤 健/後藤 健/押木弘己/後藤 健							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2021年3月26日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(m ²)	
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 小町一丁目 331番1	14204	242	35° 19' 5"	139° 33' 12"	20120321 ～ 20120531	61.50	個人専用住宅 (柱状改良工事)
くぼうやしきあと 公方屋敷跡	神奈川県鎌倉市 浄明寺四丁目 292番1	14204	268	35° 20' 8"	139° 34' 27"	20130301 ～ 20130524	86.00	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	神奈川県鎌倉市 大町四丁目 2370番2の一部	14204	231	35° 18' 44"	139° 33' 26"	20170111 ～ 20170308	29.66	個人専用住宅 (表層改良工事)
ざいもくざまちやいせき 材木座町屋遺跡	神奈川県鎌倉市 材木座六丁目 647番3の一部	14204	261	35° 18' 18"	139° 33' 14"	20170703 ～ 20170913	44.20	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	神奈川県鎌倉市 大町一丁目 1083番1	14204	242	35° 18' 59"	139° 33' 10"	20180709 ～ 20180914	94.56	個人専用住宅 (鋼管杭工事)
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 長谷二丁目 247番2、275番6	14204	236	35° 18' 45"	139° 32' 11"	20181217 ～ 20190125	69.00	個人専用住宅 (基礎工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市 城館跡	中世	道路・側溝	土器・陶磁器・木製品・漆器	「小町大路」の前身道路とみられる大規模な南北道路と西側溝が連続と構築されていた。
くぼうやしきあと 公方屋敷跡	城館跡	中世	土坑・ピット	土器・国産陶器・舶載磁器・貝バレット・金属製品・銭	かわらけ破棄遺構を多く検出。
なごえがやついせき 名越ヶ谷遺跡	城館跡	中世	溝状遺構・土坑・ピット	かわらけ・舶載磁器・国産陶器・縄文土器・須恵器・土師質・瓦質土器・土製品・石製品・金属製品・木製品・骨角製品	逆川に直行するような溝状遺構、縄文海進期の砂層を確認。
ざいもくざまちやいせき 材木座町屋遺跡	都市	中世	溝状遺構・掘立柱建物・土坑・ピット	かわらけ・舶載陶磁器・国産陶器・須恵器・土師質・瓦質土器・瓦・土製品・石製品・金属製品・木製品	複数期にわたる強固な泥岩地業を確認。
わかみやおおじしゅうへんいせきぐん 若宮大路周辺遺跡群	都市 城館跡	中世	竪穴建物・斜面(河川東岸か)・ピット	土器・陶磁器・石製品	ピット内から多量の石英片が出土。火打石製作時の残滓か。
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	都市 城館跡	中世	方形土坑・土坑・ピット	かわらけ・舶載磁器・国産陶器・土師器・須恵器・土師質・瓦質土器・瓦・土製品・石製品・金属製品・骨角製品	多数の方形土坑を確認。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 37

令和3年度発掘調査報告

(第1分冊)

発行日 令和3年(2021年)3月26日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 文一堂印刷株式会社

第1分冊 正誤表

箇所	誤	正
90頁 13行目	清水由香里	清水由 <u>加</u> 里
181頁 14、15行目	サンプル5 調査区東壁19層 サンプル5 調査区東壁31層	サンプル5 調査区東壁 <u>29</u> 層 サンプル <u>6</u> 調査区東壁31層
185頁 7行目	出土遺物（図8）：7は	出土遺物（図 <u>7</u> ）：7は
200頁 12行目	33は底部に「AJINOMOTO」の～ 34は底部に「S&B」の～	<u>32</u> は底部に「AJINOMOTO」の～ <u>33</u> は底部に「S&B」の～
219頁 キャプション	8-○ ※○はそれぞれ番号です	8-○となっている遺物写真は全て7-○
220頁 キャプション	11-○ ※○はそれぞれ番号です	11-○となっている遺物写真は全て10-○
221頁 キャプション	16-○ 17-○ ※○はそれぞれ番号です	16-○となっている遺物写真は全て11-○ 17-○となっている遺物写真は全て12-○
224頁 12、15行目	清水由香里	清水由 <u>加</u> 里
230頁 節名称	第3節 基本土層	第3節 <u>堆積</u> 土層
257頁 4行目	それいについて	それ <u>に</u> ついて
284頁 キャプション	3b面構成土出土遺物	3 <u>a</u> 面構成土出土遺物
335頁 17、18行目	図3 調査区中央堆積土層図 図4 調査区壁面堆積土層図	図3 調査区 <u>壁面</u> 堆積土層図 <u>1</u> 図4 調査区壁面堆積土層図 <u>2</u>
347頁 表	遺構52 遺構53	削除 遺構 <u>52</u>
395頁 キャプション	12-6 12-7 12-8 12-9 12-11 遺構53 12-14～12-26 12-27 12-28 遺構52	12- <u>21</u> 削除 12- <u>25</u> 12- <u>26</u> 12- <u>28</u> 遺構 <u>52</u> 12- <u>8</u> ～12- <u>20</u> 12- <u>22</u> 12- <u>24</u> 遺構 <u>50</u>
奥付	令和3年度発掘調査報告	令和 <u>2</u> 年度発掘調査報告